2026年度
政治経済学部　シラバス 2

School of Political Science and Economics

授業概要

明治大学

科目ナンバー：(PE)PHL111J

哲学概論	2単位
	1年次

教授　柴　崎　文　一

授業の概要・到達目標

ソクラテス以前の古代ギリシア哲学から説き起こし、ヘラクレイトスを経てアリストテレスへと受け継がれて行く「ロゴスの探求」を、今日の学問体系との関連性を視野に入れつつ概説することがこの授業における一つの目的です。伝統的な哲学では、「相対と絶対」「内在と超越」「主観と客観」「意識と存在」等の概念が、極めて厳格な規定の下に使用されます。しかし私たちの日常的言語使用において、これらの概念は必ずしも明確な規定の下に使用されているとは言えません。言い換えれば、これらの概念を明確に理解した上で使用している人は、それほど多くはないのです。一般に、哲学的文献が難しいとされることの原因は、哲学的議論において極めて重要な役割をはたしているこれらの概念に対する理解が不十分なことにある場合が多いと言えます。この授業では、哲学を理解する上で欠くことのできないこれらの概念に関し、上述の内容に則しつつ解説して行くことによって、哲学ばかりでなく、政治学や経済学の古典を読解するための基礎知識の形成にも資するものとしたいと考えています。

また、古代ギリシアに始まる世界の原理としてのロゴスの探求は、19世紀ドイツの哲学者ヘーゲルによって一つの完成形が示されることになります。ヘーゲル以降、現代へとつながる哲学的探求の潮流は、ヘーゲル的な思弁の哲学を踏襲するにしても、またはヘーゲル的な観念論を否定するにしても、ヘーゲル哲学を強く意識した上に展開されています。この意味で、ヘーゲル哲学の理解は、西洋哲学の本質的特徴を理解する上で、欠くことのできない課題だと言えます。このような意味から、この授業では、ヘーゲル哲学の解説も重要なテーマの一つとしています。

授業内容

下記の各テーマに則して、哲学的概念の概説を行います。
第1回　イントロダクション：古代ギリシアの文明と哲学
第2回　「万物の原理」をめぐる思索
第3回　タレスと自然の原理
第4回　アナクシマンドロスと「無限」
第5回　アナクシメネスと霊性的原理
第6回　ロゴスの哲学：ヘラクレイトスとアリストテレス
第7回　「見る」こと：自然科学の本質
第8回　倫理と宗教の本質的差異
第9回　存在と認識
第10回　自己意識と精神：ヘーゲル哲学1
第11回　精神の概念：ヘーゲル哲学2
第12回　精神における否定：ヘーゲル哲学3
第13回　存在と無：パルメニデス
第14回　現存在と実存：ハイデガー
（講義内容は、授業の進行状況等により変更する場合があります。）

履修の注意点

準備学習の内容

哲学的な概念は、日常的な意味とは必ずしも一致しないものが多いため、毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。

教科書

『哲学・倫理学資料集 第4版』柴崎文一編著（デザインエッグ社）

参考書

『アメリカ自然思想の源流』柴崎文一著（明治大学出版会）

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート又は試験の評価内容については、Oh-o! Meijiを通じて配信するので、確認すること。

成績評価の方法

毎回授業中に、クラスウェッブ上でリアクションフォームの提出が課されます。リアクションフォームの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポート又は試験が60%の評価となって、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションフォームによる出席確認及び期末レポートの提出に1度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。

その他

【欠席届について】
「病気、怪我、忌引き、教育実習、裁判員の選任」による欠席があった場合は、「欠席届」を学期末の指定期間内に一括して受け付けます。詳細は初回のガイダンスで説明します。

科目ナンバー：(PE)PHL111J

哲学概論	2単位
	1年次

兼任講師　宇田川　尚　人

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
この授業は、「哲学概論」と名付けられているが、哲学の全般的な概論や入門のための授業ではなく、実質的にはむしろ「現代思想」あるいは「現代哲学」の部分的紹介とその有効射程距離の検証を目的とした授業である。
＊　時系列的には、秋学期の私の講義「哲学史」（古代～近代 ドイツ観念論まで）の後にくるべき思想の紹介となるが、こちらを先にあるいは単独で聴講してもかまわない。
以下内容
「哲学史」全般ではなく、あえて「現代思想」あるいは「現代哲学」を「哲学」そのものへの入門として取り上げる理由は、現代社会が人間の人格形成にもたらす影響を我々が考える際に、（産業革命以降の人間の道具化と画一化や個人のアイデンティティ・クライシスの問題を扱った）戦後の一連の思想が極めて有益であり、さらには我々が今の情報化社会（とくにネット社会）の持つマイナス面を考察する際にそれらの思想が容易に応用可能な視座を開いてくれるからである。
例えば、そうした「現代思想」が我々に気づかせてくれるのは、
1）　情報に翻弄され、自己のアイデンティティを見失い、それでも（いや、それだからこそ？）ネット上や他者に自らの評価を求め、必死に「皆」と＜繋がっている＞ことを絶えず確認せざるを得ない人々（の心の弱さ）や、
2）　そもそも自己のアイデンティティの消失に気づかず、他者向けの「バーチャルな私（＝盛った私）」を演じ続けるうちに、無意識レベルで（少しずつ、だが確実に）「他者の欲望」によって侵食され「空洞化」してゆく「私」の在り方と、それと並行して起こる「真の他者」の「喪失」という「交叉現象」更には、
3）　それらの背後にある現代社会の構造的矛盾が、ネット社会を形成する膨大な「欲望」というエネルギーによってさらなる矛盾（＝個の「承認欲求」と没個性的な"皆"への「同調圧力」、「同一化」と「排除（または分断）」の論理が跋扈するネット社会等）を生み出し、増幅＝先鋭化してゆく様の分析等である。この授業では、これらの問題を「人格形成」をめぐる「心」の哲学の問題として、「自我論」「他者論」そして「欲望論」という切り口から紹介し解説する予定である。
《到達目標》
目標は、1）受講者一人一人が、氾濫する情報と多様化する価値観の中で、（単なるトレンドに終わることのない）真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解く能力を獲得すること、2）いかなる状況においても、自己と世界との関係を冷徹に分析する論理能力を習得することにある。
ただし半期という時間制約もあるので、実質的な目標は、現代思想の有効射程距離を検証するという＜思考訓練＞を通して、各自がそれぞれの具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を論理的に分析し考察する、いわば思索の〈コツ〉を身につけることとする。

授業内容

第1回目　哲学とは何か？　---　現代思想の問題提起
Heideggerの自我論
第2回目　交換可能な私？（私なんて、いてもいなくても世界は変わらない？）
第3回目　私　―その非本来的自己と本来的自己―
第4回目　私の「唯一性」を保障するのは時間性か？
Binswangerと精神分析
第5回目　時間性と心の病（うつ病の時間性と双極性障害の時間性）
第6回目　「自明性」の喪失（当たり前ってどういうこと、なぜ当たり前なの？）
Levinasの他者論
第7回目　「同」の暴力（皆と同じ、皆に合わせなくっちゃ！って、息ができない！）
第8回目　感情移入と同型性に基づく他者理解の限界
第9回目　自一他の「非対称性」と真の他者への責任
Lacanの欲望論
第10回目　欲望とは他者の欲望である？（私はみんなが欲しいものが欲しい！）
第11回目　言葉は「もの」の殺害者である。「もの」の喪失と欲望における「対象a」の発生
第12回目　心の在処を求めて…（すべては脳から始まるが、心は脳に還元できない？）
第13回目　無意識の欲望、欲望の「プロトタイプ」と文化（まだ足りない、もっと、もっと、もっと！）
まとめ
第14回目　世界は欲望で動いている。でも誰の欲望？―「他者の欲望」と「私」と「世界」

履修の注意点

毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるので、その旨注意すること。
＊　特に J.Lacan の思想は超難解の故、事前に配布資料を読み講義に臨んでも理解できない箇所や聞き漏らしの箇所が出てくる可能性がある。その為、サポート手段として、 J.Lacan の思想に関しては講義の解説動画を復習用にPanoptoにUPする予定。
その他の注意点は初回に述べる。

準備学習の内容

配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、
1）自分の理解が正しいか自信のない箇所や、
2）理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェクしておくこと。また、
3）配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、
4）それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。

教科書

教科書は使用しない。
必要に応じて、プリントおよび解説用動画をWeb（Oh-o! Meiji または Panopto）上にUPする。
ごく稀に紙媒体で授業中に資料を配布する場合もある。

参考書

千葉雅也　著「現代思想入門」　講談社現代新書
竹田青嗣　著「ハイデガー入門」講談社選書メチエ
熊野純彦　著「レヴィナス入門」ちくま新書
片岡一竹　著「疾風怒濤　精神分析入門」誠信書房
斎藤　環　著「生き延びるためのラカン」ちくま文庫
新宮一成　書「ラカンの精神分析」講談社現代新書
その他の参考文献は授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。

成績評価の方法

毎回の課題（Oh-Meiji上へ提出）（40%）と2）学期末のレポートか試験（60%）で成績を評価する。
試験かレポートかは学生の希望を考慮するが、受講者人数が80人以上になった場合は試験となる可能性が高い。
3分の2以上の授業への参加と課題の提出を学期末レポート提出または学期末試験受験の最低条件とする。
＊　課題は単なる出席表ではないので、書かれた内容の理解度、質問の適切さに応じて、-2～＋2点の間で平常点として加点してゆく。
＊　レポートまたは試験いずれでも50点以下は不可とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)PHL111J

哲学史	2単位
	1年次

教授　柴　崎　文　一

授業の概要・到達目標

古代ギリシアから現代に至る哲学の歴史を概観します。とりわけ中世以降の西洋哲学における精神的基盤としてのキリスト教について詳解します。

中世以後の西洋哲学を理解する上で、キリスト教の理解は不可欠です。しかしキリスト教文化圏ではない日本において、キリスト教の内容を正確に理解している人は多くはありません。この授業では、特に『聖書』の内容を詳しく検討することによって、キリスト教の理解を深めることを重要な目的としています。

加えて、中世から近・現代に至る哲学の歴史を概観します。 17世紀のデカルトから始まる近代合理主義の哲学は、「我思う、故に我あり」という立言によって、神の実在によらない近代的自我の確立を高らかに宣言しました。しかし、デカルトに始まる近代的自我の探究は、その後、カントの認識論やフィヒテの自我論を経て、ヘーゲルによる自己意識の展開へと受け継がれ、その本質を絶対精神（絶対者）として捉える、言わば「近代化したキリスト教神学」の様相を呈するものになって行きました。これに真っ向から異を唱えたのが、ニーチェのニヒリズムに他なりません。

この授業では、こうした哲学の歴史を概観するとともに、その現代的意義についても言及したいと考えています。また抽象的な解説に終始することなく、哲学や宗教に関連する様々な芸術や映画なども紹介し、文化論的な要素を多く取り入れた講義にしていくつもりです。

授業内容

以下の各テーマに則して、西洋哲学における思索の歴史を概説します。

第１回　イントロダクション：「哲学」のルーツ
第２回　ソクラテス以前の哲学
第３回　ギリシア盛期の哲学
第４回　『旧約聖書』の世界I：言葉と創造
第５回　『旧約聖書』の世界II：宗教と倫理
第６回　『旧約聖書』の世界III：インマヌエル預言
第７回　『新約聖書』の世界I：受胎告知
第８回　『新約聖書』の世界II：洗礼者ヨハネとイエス
第９回　『新約聖書』の世界III：ロゴスの邂逅
第10回　ヘレニズム思想と新プラントン主義
第11回　キリスト教神学と中世哲学
第12回　近代理性の哲学
第13回　観念論の系譜
第14回　ニーチェとニヒリズム
（講義内容は、授業の進行状況等により変更する場合があります。）

履修の注意点

準備学習の内容

哲学的な概念は、日常的な意味とは必ずしも一致しないものが多いため、毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。

教科書

『哲学・倫理学資料集 第４版』柴崎文一編著（デザインエッグ社）

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート又は試験の評価内容については、Oh-o! Meijiを通じて配信するので、確認すること。

成績評価の方法

毎回授業中に、クラスウェッブ上でリアクションフォームの提出が課されます。リアクションフォームの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポート又は試験が60%の評価となって、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションフォームによる出席確認及び期末レポートの提出に１度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。

その他

【欠席届について】
「病気、怪我、忌引き、教育実習、裁判員の選任」による欠席があった場合は、「欠席届」を学期末の指定期間内に一括して受け付けます。詳細は初回のガイダンスで説明します。

科目ナンバー：(PE)PHL111J

哲学史	2単位
	1年次

兼任講師　宇田川　尚　人

授業の概要・到達目標

≪授業の概要≫
現代社会において思想史を学ぶことは、多様化する情報と価値の海のただ中で、自らの来し方・行く先を指し示す〈羅針盤〉のひとつを手に入れることを意味する。テクノロジーのフラット化や世界のグローバリズム志向、それらに対置され孤立化する個人のアイデンティ・ティクライシス、リアリティなき自分探しゲーム等。現代日本および世界が抱える様々な社会現象の光と影、それらすべてを貫いて、あらゆる時代から、哲学は常に「人間とは何か」という問いを発し続ける。

〈到達目標〉
最終目標は、１）受講者一人一人が、氾濫する情報と多様化する価値観の中で、（単なるトレンドに終わることのない）真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解く能力を獲得すること、および２）いかなる状況においても、自己と世界との関係を冷徹に分析する論理能力を習得することにある。ただし、半期という時間制約もあるので、実質的な目標は、講義で紹介される思想の論理構造の解明やその有効射程距離を検証するという＜思考訓練＞を通して、各自が現実の具体的な状況の中で、「自己」と「社会」との関係を論理的に分析し考察する、いわば思索の〈コツ〉を身につけることとしたい。

授業内容

以下の内容は暫定案の為変更することもあり得る。詳細は講義初回に説明する。

第１回目　古代　イデア論　原理への問い　（Platon～Aristoteles）
第２回目　中世　真・善・美　超越への問い　（Augustinus～Occam）
第３回目　近代　人間による自己と世界の基礎づけ
第４回目　自己意識の確立と懐疑への問い　（Descartes）
第５回目　心身二元論と人間機械論　（Descartes）
第６回目　大陸合理論の思想　（Spinoza～Leibniz）
第７回目　イギリス経験論の思想　（Locke～Hume）
第８回目　（**まとめ**）合理論 vs 経験論
心はどこに存在するのか？悪とは何か？自由意志は幻想か？
第９回目　Kantの超越論哲学　（Kant）『純粋理性批判』
第10回目　自己意識と世界の基礎づけ　（Kant）『純粋理性批判』（難解）
第11回目　根源悪と人格形成論のゆくえ　（Kant）『実践理性批判』
第12回目　ドイツ観念論　知の深淵への問い　（Fichte ～ Shelling）（難解）
第13回目　ドイツ観念論　交叉する個と普遍　（Hegel）
第14回目　ニヒリズム　絶対的な価値の崩壊　（Nietzsche）

＊　毎回の課題に対するFeedbackに時間を要する場合や学生の理解度が不足していると思われた場合は、
近代のDescartesからKantまでの解説を増やし、ドイツ観念論以降の解説を減らす可能性がある。
＊　現代哲学に関しては、政経学部　拙講「哲学概論」の方で集中的に解説する

履修の注意点

毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるので、その旨注意すること。
＊　特にKantとドイツ観念論は超難解!の為、配布資料を事前によく読み込んでから受講しないと全く理解できない可能性がある。
＊　履修の参考に事実を述べるが、毎年履修登録者の２割以上が、途中放棄するか最後まで授業に出ながらも棄権している。
これに加えて、試験またはレポート提出後に「不可」となる学生も相当数存在する。
どうか安場な気持ちで履修することなく、真剣に授業に臨んでほしい。
その他の注意点は初回に述べる。

準備学習の内容

配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、
１）自分の理解が正しいか自信のない箇所や、
２）理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、
３）配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、
４）それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。

教科書

教科書は使用しない。
プリントを必要に応じて、Web（Oh-o! Meiji）上にUPする。
紙媒体で授業中に配布する場合もある。

参考書

参考文献は授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。

成績評価の方法

毎回の（Oh-Meiji上への）課題の提出（40%）と学期末のレポートか試験（60%）の合計で成績を評価する。
試験かレポートかは学生の希望を考慮に入れるが、実質受講者人数が80人以上になった場合は試験となる可能性が高い。
３分の２以上の授業への参加と課題の提出をレポート提出および期末試験受験の**最低条件**とする。
＊　毎回の課題は単なる出席調査ではない。
書かれた内容の理解度、適切な質問等の度合いに応じて、－２～＋２点の間で平常点として加点または減点してゆく。
＊　レポートまたは試験はいずれでも50点以下は不可とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)PHL191J

基礎論理学	2単位
	1年次

教授　柴　崎　文　一

授業の概要・到達目標

今、ポケットの中に十円玉が五枚あって、そこから一枚を取り出せば、それは十円玉に決まっています。このようにあらかじめ定められた前提から、矛盾なく結論を導き出す考え方を演繹法と言います。この一見、極めて単純な演繹法の論理こそ、あらゆる学問的な営みの基盤なのです。ここには間違いや例外の余地がありません。つまりこの論理には一貫性と必然性が保障されているのです。

いかなる学問においても、「説明」や「論証」という要素を含まないものは存在しません。そして、ある事柄についての「説明」の中で、ある時の説明と別の時の説明が異なっていたら、それは妥当な説明とはみなされません。また、ある「論証」の中で、ある前提から、その度ごとに異なった結論を出していたら、それも妥当な論証とはみなされません。このように、学問的な説明や論証には、つねに一貫性や必然性という論理的な性質が要求されるのですが、このような性質をもった典型的な論理形式こそが、演繹法というものに他ならないのです。この授業では、以下のようなスケジュールで、演繹法の様々な性質について解説を行い、学生諸君の基礎的な論理能力の向上に資したいと考えています。

授業内容

第１回　イントロダクション：演繹法と帰納法
第２回　論証と推論
第３回　妥当性
第４回　条件的立言と条件的論証
第５回　背理法
第６回　ジレンマ
第７回　真理値表と妥当性
第８回　論理的等値
第９回　トートロジー
第10回　パラドックス
第11回　定言的三段論法
第12回　ヴェンの図式とクラス論理学
第13回　関係の論理学
第14回　限量記号
（講義内容は、授業の進行状況等に応じて変更する場合があります。）

履修の注意点

準備学習の内容

論理学は、特殊な用語によって多くの規則が規定されているため、独習が難しい分野です。毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。

教科書

『演繹法の論理ノート～サモン論理学準拠～ 第３版』柴崎文一著（デザインエッグ社）

参考書

『論理学』W. C.サモン著（培風館）

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート又は試験の評価内容については、Oh-o! Meijiを通じて配信するので、確認すること。

成績評価の方法

毎回授業中に、クラスウェッブ上でリアクションフォームの提出が課されます。リアクションフォームの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポート又は試験が60%の評価となって、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションフォームによる出席確認及び期末レポートの提出に１度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。

その他

【欠席届について】
「病気、怪我、忌引き、教育実習、裁判員の選任」による欠席があった場合は、「欠席届」を学期末の指定期間内に一括して受け付けます。詳細は初回のガイダンスで説明します。

科目ナンバー：(PE)PHL191J

基礎論理学	2単位
	1年次

兼任講師　金　子　裕　介

授業の概要・到達目標

現代における演繹の形式化である記号論理学を、基本からゆっくり学んでいきます。
ゲンツェンという数学者の考えた自然演繹を習得します。これは優れた（唯一無二の）論理学の体系で、これを学ぶことが論理学を学ぶことだと受け止めてくれて構いません。
記号を煩雑に感じるかもしれませんが、知識ゼロからでもわかるようにお伝えするので安心してください。
エキササイズをたくさんやって、問題が解けるようになってもらいたいです。
些末な（高度な）論理学の話題は脇に置きたいと思います。
数学が苦手でも問題ないので、どんなレベルの質問でも、自由に持って来てください。

授業内容

第１回：講義の進め方。教科書の使い方。命題論理の記号を学ぶ。
第２回：命題論理の文法：記号の読み方、使い方。
第３回：命題論理の証明：連言
第４回：命題論理の証明：選言
第５回：命題論理の証明：条件法
第６回：命題論理の証明：否定
第７回：述語論理の文法：一項述語と量化子
第８回：述語論理の文法：二項述語と多重量化
第９回：述語論理の証明：全称例化
第10回：述語論理の証明：存在汎化
第11回：述語論理の証明：全称汎化
第12回：述語論理の証明：存在例化
第13回：述語論理の証明：総合問題
第14回：テスト（厳密には「変則的レポート」）
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります（テスト14回目は決定事項）。

履修の注意点

教科書を２冊×２＝４冊使います（申し訳ないですが、購入必須となります）。
「冊」といってもアプリを使って読む電子的なもので、スマートフォンにダウンロードしてくれれば結構です（タブレットやPCでも可）。
詳しくは講義１回目に説明します。

準備学習の内容

教科書の「どこに」「何が書いてあるのか」を把握してください。
テストは持ち込み可にしますので、知識の引き出しにアクセスできるようにしておくことが、そのまま論理学の習得につながります。

教科書

以下４冊の教科書を使います（「冊」といってもアプリを使って読む電子的なものです）。
『記号論理入門【命題論理】編』
前編、後編
各710円（合計1420円）
楽天Koboで出版（出版の際は連絡メールを送ります）
『記号論理入門【述語論理】編』前編, 後編
各710円（合計1420円）
楽天Koboで出版（出版の際は連絡メールを送ります）
出版後などの連絡の詳細はOh-o!Meijiを通じて連絡させていただきます（早めに「質問コーナー」もOh-o!Meji内に立ち上げます）。
共に電子的なものです。アプリをスマートフォン等にダウンロードして、そこでご購読お願いします（下記「楽天Koboの使い方」リンク先参照）。
私設サイトでの下記記事もご参照ください（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください）。
『記号論理入門【命題論理】編』前編、の質問先https://cogefra.work/guidepropositional/
『記号論理入門【命題論理】編』後編、の質問先https://cogefra.work/2guidepropositional/
『記号論理入門【述語論理】編』前編、の質問先https://cogefra.work/predicatelogic-2/
『記号論理入門【述語論理】編』後編、の質問先https://cogefra.work/iipredicatelogic/
楽天Koboの使い方 https:// cogefra.work/ category/ %e9%9b%bb%e5%ad%90%e6%9b%b8%e7%b1%8d/%e6%a5%bd%e5%a4%a9-kobo/

参考書

以下２冊が問題集になります（教科書ではありませんので、購入必須ではありません）。
『記号論理精選問題集【命題論理】編』 1250円
楽天Koboで出版（出版の際は連絡メールを送ります）
本書についての質問先（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください）https://cogefra.work/logic/

『記号論理精選問題集【述語論理】編』 1250円
楽天Koboで出版（出版の際は連絡メールを送ります）
本書についての質問先（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください）https://cogefra.work/predicatelogic/

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiに質問コーナーを立ち上げますので、学務的な質問（出席できないetc）はそこにしてください。
講義内容についての質問は私設サイトでの下記記事に書き込んでください（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください）。
『記号論理入門【命題論理】編』前編、の質問先https://cogefra.work/guidepropositional/
『記号論理入門【命題論理】編』後編、の質問先https://cogefra.work/2guidepropositional/
『記号論理入門【述語論理】編』前編、の質問先https://cogefra.work/predicatelogic-2/
『記号論理入門【述語論理】編』後編、の質問先https://cogefra.work/iipredicatelogic/
楽天Koboの使い方 https:// cogefra.work/ category/ %e9%9b%bb%e5%ad%90%e6%9b%b8%e7%b1%8d/%e6%a5%bd%e5%a4%a9-kobo/
質問は匿名でできるようになっていますし、私の方からも誰かわからないようになっています。
講義前後の質問でもOKです。

成績評価の方法

期末試験（講義期間中なので厳密には「変則的レポート」）で評価決定します。
試験は授業最終回（第14回目）に行います。試験「期間」中ではないので注意してください。
テストは、教科書は必須、その他全部持ち込み可にしますので、知識の引き出しにアクセスできるようにしておいてください。
テスト内容は「腕試し、チャレンジ」という趣旨のものですが、決して高いハードルを設けるものではありません。
出席は取りません。
しかし、もちろん「来なくてよい」「勉強しないでよい」という意味でありません。

その他

耳学問でもよいので、毎回自分で講義に出て話を聞いておくことが、最終的には近道になります。

科目ナンバー：(PE)HIS171J

応用論理学概論【2022年度以降入学者】 論理学概論【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

教授　柴　崎　文　一

授業の概要・到達目標

この授業の目的は、政治学や経済学などの社会科学を含めた、全ての科学的な学問の営みにおいて、論理的な思考がどのように応用されているのかを解説することです。論理的問題の高度な応用領域を扱うものではありません。

与えられた前提から、一歩も外に踏み出すことなく結論を出す論理形式を演繹法と言います。演繹法は、説明や論証の論理形式としては重要ですが、このような考え方から科学は生まれません。科学は、実験や観察といった人間の不完全な経験の上に成立しています。有限で不完全な経験から、一般的な原理や法則性を導き出す考え方を帰納法と言います。だから帰納法はいつでも間違える可能性をもっているのです。しかし、間違える可能性があるからこそ、科学の世界には、新しい発見や進歩の可能性があるとも言えます。逆に、間違いのない世界は、完成した世界であって、そこにはさらに進歩する余地など残されてはいないのです。ここに言う科学は、自然科学のことばかりではありません。社会科学も、社会的事象についての科学的研究の営みであって、学問としての基本的形式は、自然科学と同じです。それゆえ帰納法は、経済学や政治学といった社会科学においても、根本的な論理形式に他ならないのです。この授業では、以下のようなスケジュールで帰納法の様々な性質について解説し、社会科学を研究する学生諸君に、各自の研究領域に関する根本的な認識を深めてもらうことを目指しています。

授業内容

第１回　イントロダクション：科学の論理
第２回　演繹と帰納
第３回　枚挙による帰納と不十分な統計
第４回　少数例の問題：脳死と臓器移植
第５回　かたよった統計
第６回　権威に基づく論証と人身攻撃に基づく論証
第７回　類推
第８回　因果関係に基づく論証
第９回　ミルの方法
第10回　因果関係に関する虚偽
第11回　仮説
第12回　帰納法の根本問題
第13回　科学的説明の論理
第14回　科学的実在論と反実在論
（講義内容は、授業の進行状況等に応じて変更することがあります。）

履修の注意点

準備学習の内容

論理学は、特殊な用語によって多くの規則が規定されているため、独習が難しい分野です。毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。

教科書

『帰納法と科学の論理ノート ～サモン論理学準拠～ 第２版 』柴﨑文一著（デザインエッグ社）

参考書

『論理学』W. C.サモン著（培風館）
『科学哲学の冒険』戸田山和久著（NHK ブックス）

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート又は試験の評価内容については、Oh-o! Meijiを通じて配信するので、確認すること。

成績評価の方法

毎回授業中に、クラスウェッブ上でリアクションフォームの提出が課されます。リアクションフォームの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポート又は試験が60%の評価となって、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションフォームによる出席確認及び期末レポートの提出に１度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。

その他

【欠席届について】
「病気、怪我、忌引き、教育実習、裁判員の選任」による欠席があった場合は、「欠席届」を学期末の指定期間内に一括して受け付けます。詳細は初回のガイダンスで説明します。

科目ナンバー：(PE)HIS171J

応用論理学概論【2022年度以降入学者】 論理学概論【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　金　子　裕　介

授業の概要・到達目標

高校数学で習った確率論（集合論と組合せ論を使ったもの）を、記号論理の力を使い、新たに考え直してゆきます。
これは、論理派というアプローチと名づけられます。
確率論はラプラスによって始められましたが、これを「古典確率論」といいます。
その語コルモゴロフという数学者によって「測度論」という純粋に数学的な理論に修正されました。
本講のねらいは、この古典確率論→測度論のはざまで失われた諸概念を深く考え、再生させることです。
高校数学で素通り的に残して来た問題「根元事象とはなにか」「条件付き確率とはなにか」「独立事象とはなにか」・・・といった問題を一緒に考えて行きましょう。
記号論理は春学期に履修して頂くのに越したことはありませんが、初歩的な道具立てしか使いませんので、予備知識はなくても結構です。最初の数回をきちんと聞いてもらえば理解できます。
扱う確率の問題は、高校数学中～上級になります。問題も、一度は見たようなものです。
高校の時、集合の考え方ではイマイチしっくり来なかったところを、もう一度考えてもらいたいと思います。
【教室定員を超えた際には履修者の公平性に配慮した上で授業を実施します】

授業内容

第１回：古典確率論の概要（中学高校で習った確率論とはなんだったか）
第２回：集合論的確率論の批判的考察（中学高校で習った確率論とはなんだったか）
第３回：事態の表記法（記号論理によって確率論を定式化する）
第４回：根元事象への問い（等しく確からしいとはなにか）
第５回：状況の三種類（非復元抽出、復元抽出、反復試行）
第６回：根元事象を完全事態記述で表す（樹形図を活かす）
第７回：論理派による解法（高校レベルの問題）
第８回：条件付き確率とはなにか
第９回：偽装した条件付き確率
第10回：ベイズの定理
第11回：独立事象
第12回：発展問題①
第13回：発展問題②
第14回：テスト
※講義内容は流れによって前後することがありますが上記内容をカバーするものとなります。

履修の注意点

数学的な図や式を多用するので、手書きの板書ではフォローし切れないところがあります。
正書されたものとして教科書と問題集（下記参照）を用います。
必ず手元に置いて受講してください。
問題は、当然解説しますが、なによりも自分の力で解くことが重要だと思ってください。
確率についての新たな見方が獲得できると思ってください。

準備学習の内容

教科書を必ず読んでください。また講義に持ってきてください。
私設サイトで講義内容について（学術的な内容に限る）いつでも質問を受け付けます。
https://cogefra.work/carnap/
上記リンク先で記事最後のコメント欄に、自由にコメントを書いて下さい。但し、学術的な内容に限ります。

教科書

講義開始前までに、下記教科書を出版しますので、そちらを準備してください（出版時にOh-o!Meiji経由でお知らせメールを送ります）。
『論理記による確率論の展開』電子書籍、楽天Koboで出版．以下第２巻～第５巻を使います。
第２巻『事態の表記法』720円
第３巻『根元事象への問い』720円
第４巻『偽装した条件付き確率』720円
第５巻『世界線の論理』720円
注１）旧版を修正して再出版しますので、必ず楽天Kobo版をご購入下さい。
注２）楽天Koboへのリンクは開講時期が迫ったら「お知らせメール」を送ります。
楽天Kobo経由で購入する電子書籍になります。
アプリをスマートフォン等にインストールして、そこでご購読お願いします。
講義中も、それを使って参照します。
楽天Koboについては私設サイトの下記初記事を参照してください。講義でも説明します。
https://cogefra.work/category/%e9%9b%bb%e5%ad%90%e6%9b%b8%e7%b1%8d/%e6%a5%bd%e5%a4%a9-kobo/

参考書

問題集として次が用意されています。
確率問題集Ⅰ：基礎編 『確率の哲学』補填 楽天Kobo, 1250円
私設サイト（下記リンク先）に販売先などを説明しています。
https://cogefra.work/probabilityworkbook/
確率問題集Ⅱ：応用編 『確率の哲学』補填 楽天Kobo、1250円
私設サイト（下記リンク先）に販売先などを説明しています。
https://cogefra.work/iiprobabilityworkbook/
下記は「参考書」としてご利用ください。必須ではないです。
条件付き確率とはなにか 『確率の哲学』補填 楽天Kobo, 420円
https://cogefra.work/conditionalprobability/
樹形図の描き方・考え方 『確率の哲学』補填 楽天Kobo, 420円
https://cogefra.work/jyukeizu/
独立事象と帰納法 『確率の哲学』補填 楽天Kobo, 420円
https://cogefra.work/independent/
注）楽天Koboへのリンクは開講時期が迫ったら「お知らせメール」を送ります。

課題に対するフィードバックの方法

私設サイトで講義内容について（学術的な内容に限る）いつでも質問を受け付けます。
https://cogefra.work/carnap/
但し出席うんぬんといった学事的内容については、Oh-o!Meijiのディスカッション「質問コーナー」に書き込んでください。

成績評価の方法

授業最終回のテストで成績を決定します。
テストは試験「期間」中ではないので注意してください。
試験内容は「腕試し、チャンレンジ」を趣旨とするものですが、決して「落とす」ためのものではありません。
しっかし準備して、がんばってくれれば大乗です（お情けをかける、という意味とは少し違いますので誤解しないで下さい）。
教科書必須、ほか全部持ち込み可です。
出席は取りません。

その他

科目ナンバー：(PE)HIS171J

歴史学	4単位
	1年次

兼任講師　山　崎　信　一

授業の概要・到達目標

ヨーロッパにおける「辺境」と位置付けられ、また20世紀末に紛争に見舞われたバルカン地域の諸事例を中心に取り上げる。紛争の背景、紛争後の社会の再構築の試みなどを材料に、比較の視点を交えながら、ヨーロッパの現代史を多様な視角から分析することを試みる。また、音楽、映画、スポーツなどの大衆文化を題材にしながら、バルカン地域はじめヨーロッパに暮らす人々の生活や意識がどのように変容してきたのかにも焦点を当てる。
現代における国民国家の変容と動揺と、我々の生きる現代世界の成り立ちの一端を理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回　イントロダクション：講義の全体像の提示
第2回　西ヨーロッパと東ヨーロッパ
第3回　バルカンとはいかなる地域か
第4回　多民族社会の典型としてのボスニア
第5回　バルカン地域とそこに暮らす人々（1）
第6回　バルカン地域とそこに暮らす人々（2）
第7回　バルカン地域とそこに暮らす人々（3）
第8回　バルカン地域とそこに暮らす人々（4）
第9回　ユーゴスラヴィア紛争とその背景
第10回　ユーゴスラヴィア紛争の過程（1）
第11回　ユーゴスラヴィア紛争の過程（2）
第12回　「民族浄化」をめぐって
第13回　紛争の責任追及とその限界（1）
第14回　紛争の責任追及とその限界（2）
第15回　紛争後社会の再構築に向けて
第16回　バルカン諸国の歴史教育と「国民史」（1）
第17回　バルカン諸国の歴史教育と「国民史」（2）
第18回　「国民史」を超える歴史教育の試み（1）
第19回　「国民史」を超える歴史教育の試み（2）
第20回　現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（1）
第21回　現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（2）
第22回　現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（3）
第23回　現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（4）
第24回　「紛争」とその表象:映画とユーゴスラヴィア紛争（1）
第25回　「紛争」とその表象:映画とユーゴスラヴィア紛争（2）
第26回　スポーツとナショナリズム
第27回　近現代バルカンにおける人の移動
第28回　講義のまとめ

履修の注意点

講義で取り上げる事例が、現代に生きる我々と繋っているという意識を持ち、日々のニュースなどにも関心を払うことが望ましい。

準備学習の内容

各回の授業内容を振り返り、関心を持ったテーマに関しては参考文献などにあたること。また、次回の授業内容について簡単に調べておくことが望ましい。

教科書

指定しない。

参考書

柴宜弘編『バルカン史』（山川出版社、1998年）
佐原徹哉『ボスニア内戦』（有志舎、2008年）
柴宜弘他編『東欧地域研究の現在』（山川出版社、2012年）
小澤卓也他編著『教養のための現代史入門』（ミネルヴァ書房、2015年）
その他、必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題提出の次の授業の冒頭で説明、質問への回答を行う。

成績評価の方法

毎授業時のコメントシートを中心とする授業への参加度50%、学期末の定期試験50%。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)HIS171J

歴史学	4単位
	1年次

教授　佐　原　徹　哉

授業の概要・到達目標

本講義は近代以降の侵略・植民地主義・強制移住・強制同化・ジェノサイドなどの大規模かつ極端な暴力の諸形態を分析することで、モダニティと暴力の内在的関係を解明することを中心的なテーマとしている。講義は、15世紀末以降のヨーロッパの対外進出を契機とする先住民虐殺に始まって、植民地主義、帝国主義、民族主義の形態をとった組織化された暴力の一般的諸類型、更に、ナチズム、スターリニズム、毛沢東主義といった特殊な政治形態に付随する暴力の特質を分析した後、ルワンダ・ジェノサイド事件などのポスト・モダニズム型暴力を検討する。これによって、近代的暴力についての基本的知識を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回目　モダニティの矛盾に関する数量的分析
第2回目　現代的紛争の傾向と特質
第3回目　植民地主義と先住民虐殺
第4回目　南米における先住民虐殺
第5回目　北米における先住民虐殺
第6回目　アフリカ分割とジェノサイド
第7回目　前近代の反ユダヤ主義
第8回目　ドレフュス事件
第9回目　帝政ロシアのポグロム
第10回目　ポグロムと資本主義
第11回目　人種主義
第12回目　ナチズムと人種主義
第13回目　ナチスと上からの反ユダヤ主義
第14回目　ホロコースト
第15回目　十月革命
第16回目　ボリシェヴィキと権力装置
第17回目　スターリン時代
第18回目　大テロル
第19回目　中国革命と毛沢東
第20回目　文化大革命
第21回目　アメリカ合衆国と新植民地主義
第22回目　ベトナム戦争
第23回目　ポスト・コロニアル国家と政治的暴力
第24回目　ルワンダ・ジェノサイド
第25回目　反植民地主義とイスラム復興
第26回目　サラフィ・ジハード主義
第27回目　新しい戦争の諸類型
第28回目　総括

履修の注意点

授業はパワーポイントを用いて行うため、通常の講義よりも情報量が多くなる。講義の概要はクラス・ウェブ上の「歴史学」の「資料」にワード・ファイルの形式でアップされるので、授業前にハード・コピーを作成しておくとよい。また、授業ではスライド・映像等を用いた説明を加えるが、講義のテーマの性格上、残虐と感じられるものも含まれるので、あらかじめ心の準備をしておくこと。なお、映像資料は、海外のドキュメンタリーをもとにしているので、日本語字幕はない。

準備学習の内容

授業で指示する

教科書

なし

参考書

参考文献を授業中に指示する

課題に対するフィードバックの方法

授業中に質問に答える

成績評価の方法

定期試験の結果で成績評価を行う

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現

4単位

1年次

教授　植　田　　麦

授業の概要・到達目標

この授業では、「読むこと」「書くこと」を実習し、より充実した言語生活を送るための学習を行う。具体的には、語から文、そして文章のレベルでの能力向上をはかる。その上で、文章の読解と要約、資料の読み方・扱い方、論の構成の方法を学ぶ。

授業終了時には、大学生として必要とされる、適切な文章読解・論理構成・文章表現が可能となることを目指す。

授業内容

第01回　イントロダクション
第02回　表現のための準備運動　――メールの書き方について――
第03回　資料の扱い（1）　――引用と剽窃――
第04回　実践・文章作成（1）　――自分の実力を確認する――
第05回　言葉の研究（1）　――日常語とアカデミックワード（基礎編）――
第06回　言葉の研究（2）　――日常語とアカデミックワード（応用編）――
第07回　「悪文」の研究（1）　――ねじれた文を正しく直す――
第08回　「悪文」の研究（2）　――長すぎる文に注意する――
第09回　「悪文」の研究（3）　――多義文を知ってますか?――
第10回　資料の扱い（2）　――インターネット・図書館を活用する――
第11回　効果的な説明（1）　――「意見」と「事実」を混同しない――
第12回　効果的な説明（2）　――全体→部分の順番で説明しよう――
第13回　データを読む（1）　――データの「嘘」を見抜く――
第14回　データを読む（2）　――データに基づいたレポート作成――
第15回　データを読む（3）　――データからみる日本（貯蓄編）――
第16回　データを読む（4）　――データからみる日本（収入編）――
第17回　データを読む（5）　――調査型レポートの作成――
第18回　研究発表　――チームで発表をする――
第19回　論理の構造（1）　――問題点をはっきりさせよう――
第20回　論理の構造（2）　――論理をチャートで整理しよう――
第21回　論理の構造（3）　――論理を文章化しよう――
第22回　実践・文章作成（1）　――アブストラクトを書いてみよう――
第23回　実践・文章作成（2）　――公務員試験を受けてみよう――
第24回　「悪文」の研究（5）　――論理構成を念頭においた、悪文の校正（基礎編）――
第25回　「悪文」の研究（6）　――論理構成を念頭においた、悪文の校正（応用編）――
第26回　実践・文章作成（2）　――続・公務員試験を受けてみよう――
第27回　実践・文章作成（3）　――あなたが試験官？試験をチェックしてみよう――
第28回　実践・文章作成（4）　――続々・公務員試験を受けてみよう――

履修の注意点

・授業における実習に加え、課題を出すことがある。毎回の授業終了時に、次回の予習内容を指示する。
・就職活動に関する欠席を公欠として扱うことはない。
・チームでの発表を含めたグループワークを行う。

準備学習の内容

・予習内容：授業内で指示する。
・復習内容：原則として、授業で出す課題等によって行うこと。

教科書

・毎回の授業で資料を配付する。配布資料は各自で整理し、毎回の授業時に持参すること。
・初回から履修者数が確定するまでは、本システム(Oh-o! Meiji)のクラスウェブ機能を使用して、pdf形式で資料を配付する予定である。指示があるまでは、pdfをプリントアウトして持参すること。詳細は初回授業で説明する。

参考書

・『論文の教室―レポートから卒論まで』、戸田山和久、(NHKブックス)
・その他、授業中に紹介することがある。

課題に対するフィードバックの方法

ミニレポートの内容については、適宜解説を行う。

成績評価の方法

・ミニレポート等による平常点と学期末レポートで評価する。
・学期末レポート……100%
・ミニレポート未提出の場合は減点とする。
・当然ではあるが、一定回数以上の欠席（課題未提出）は単位認定の対象としない。

その他

・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。
・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現	4単位
	1年次

教授　池　田　　功

授業の概要・到達目標

普段何気なく使っている日本語であるが、実は奥が深くて難しい。例えば、「とんでもございません」という言い方は間違いであるのに多くの人が使っているし、「気の置けない友人」と言われたら喜ぶべきなのに怒ってしまう人がいる等々である。こんな誤りやすい日本語の正しい使い方を学ぶと共に、日本語の歴史を学んだり、小論文の添削指導を通して日本語の豊かな表現者になることを目標とする。

授業内容

以下のように、語彙のプリント、講義、作文提出と指導を28回行う予定である。

1　ガイダンス　国語表現を履修するにあたって
2　漢字ドリルと講義の内容。作文ついて
3　（1）漢字ドリルの1、　（2）講義は就職作文対策講座
4　（1）日本語の誤用、　（3）要旨と意見の課題
5　（1）漢字ドリル2、　（2）講義は表現の哲学
6　（1）アナウンサー誤読、（3）課題作文の1の提出
7　（1）漢字ドリル3、　（2）講義は世界の中の日本語
8　（1）語源の楽しみの1、（3）前回の作文指導
9　（1）漢字ドリル4、　（2）講義は日本語の歴史
10　（1）外来語、　（3）課題作文の2の提出
11　（1）漢字ドリル5、　（2）講義は国語国字問題史
12　（1）国語常識問題1、　（3）前回の作文指導
13　（1）漢字ドリル6、　（2）講義は学校文法の誤り
14　（1）国語常識問題2、　（3）手紙文の指導（作文提出の3）
15　（1）漢字ドリル7、　（2）外来語の歴史と現状
16　（1）勘違いの日本語、　（3）課題作文の4の提出
17　（1）漢字ドリル8、　（2）仮名遣い入門
18　（1）国語常識問題3、　（3）前回の作文の指導
19　（1）漢字ドリル9、　（2）敬語の歴史と現状
20　（1）語源の楽しみの2、（3）課題作文の5の提出
21　（1）漢字ドリル10、　（2）方言の歴史と現状
22　（1）就職試験、　（3）前回の作文指導
23　（1）漢字ドリル11、　（2）官僚の日本語
24　（1）漢字ドリル12　（3）課題作文の6の提出
25　（1）漢字1級模試C、　（2）オノマトペ（擬態語・擬声語）
26　（1）漢字1級模試D、　（3）前回の作文指導
27　（1）漢字1級模試A　講義の復習
28　（2）漢字1級模試B　作文の復習、試験の説明

履修の注意点

6～7回ほどの作文（添削指導）があるので、安易な気持ちで履修しないでほしい。
毎回出席をとる。

準備学習の内容

自分から進んで、日本語の新聞を読み、また日本語の書物を読むこと。その時、分からない言葉やことわざ、慣用句、四字熟語が出てきたら必ず辞書でひいて確認すること。さらにできれば音読をし、その要旨をまとめることが望ましい。
復習に関しては、毎回行う語彙等のプリントの確認をすることである。間違ったものをきちんと覚えることが必要である。また、添削指導された作文を自ら読み返し、どこを直したらもっと良くなるかの見直しをすること。

教科書

特に使用しない。

参考書

『岩波　日本語使い方考え方辞典』（岩波書店）、町田健『まちがいだらけの日本語文法』（講談社現代新書）、金谷武洋『日本語に主語はいらない』（講談社選書メチエ）、中村明『悪文ー裏返し文章読本』（ちくま新書）、『日本人の知らない日本語』（株式会社メディアファクトリー）等多数ある。授業の度に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の授業への参加度、また6～7回ほどの提出物の評価、そして学期末の試験によって評価をする。
具体的には、授業への参加点10%、提出物40%、学期末の試験50%である。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現	4単位
	1年次

兼任講師　瀧　口　　翠

授業の概要・到達目標

大学で学ぶ上で必要な国語表現力として、論理的な文章表現の力をつけるための学習を行う。まずその土台として、正しく伝わる文を書くために注意すべきことを押さえ、また、言葉を正確に使う力を鍛える。その上で論説文の基本構造を学び、主張の論理性・妥当性を吟味する力を養う。

自己の考えを論理的に構築する技法を習得することを目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　身近な「おかしな文章」
第3回目　分かりやすい文を書く
第4回目　簡潔に書く
第5回目　正しく書く（1）文のねじれ
第6回目　正しく書く（2）間違えやすい言葉
第7回目　明確に書く（1）語順・構成
第8回目　明確に書く（2）多義文に注意
第9回目　様々な表現
第10回目　違和感を覚える表現
第11回目　悪文校正
第12回目　正しく伝わる文を書く
第13回目　アカデミックワードと日常語　基礎編
第14回目　アカデミックワードと日常語　応用編
第15回目　小論文の実際
第16回目　小論文を書く
第17回目　小論文講評
第18回目　論文・レポートの構成
第19回目　引用の方法
第20回目　要約の方法
第21回目　事実と意見
第22回目　調査型レポート（1）調査型論文を読む
第23回目　調査型レポート（2）データを集める
第24回目　調査型レポート（3）データを分析する
第25回目　調査型レポート（4）データ分析の結果を示す
第26回目　推敲する
第27回目　レポート講評
第28回目　正しく伝わる文章を書くために

履修の注意点

9回（授業回数の1/3)以上欠席した者は単位を認めない。毎回の小課題の提出をもって出席とする。
授業内容は課題の達成状況等を鑑みて変更する場合がある。

準備学習の内容

配布資料を読み、問題点を考える。
復習課題に取り組む。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

特に良いもの、共有すべき問題のあるものを授業内で紹介する。

成績評価の方法

課題などによる平常点50%　期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現	4単位
	1年次

兼任講師　仲　瀬　志保美

授業の概要・到達目標

大学生に求められるレポートとはどのようなものか。ことばの選び方、構成の作り方、テーマの絞り方、資料の扱い方など文章表現の基本的な知識を身につけ、自分の考えがより正確に相手に届く文章を書くことを意識していく。また、そのほか、基礎的な言語知識や手紙・メールの書き方についても基礎を学ぶ。

最終的には授業の内容を踏まえたレポートを作成することを目標とする。

授業内容

第１・２回　イントロダクション・レポートとは何か
第３・４回　論点を決める
第５・６回　資料の選び方・図書館利用
第７・８回　パラグラフライティング・説明文を書く
第９・10回　構成を考える・アウトライン作成
第11・12回　書誌情報の示し方・アウトラインピア
第13・14回　引用のルール（社会科学編）・下書き（１回目）を書く
第15・16回　論証と反論・意見文を書く・下書き（１回目）ピア
第17・18回　引用のルール（人文科学編）・文体を学ぶ
第19・20回　悪文・下書き（２回目）を書く
第21・22回　接続詞・下書き（２回目）ピア
第23・24回　要約・敬語基礎編
第25・26回　敬語応用編・メール
第27・28回　手紙・レポート相互評価
＊履修人数そのほかの状況によりシラバスを変更する場合がある
＊不定期に小テストを実施する場合がある

履修の注意点

・初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。
・２コマ連続の授業なので、１限から出席をすること。
・課題の提出方法及び締め切りは守ること。
・授業で説明したことをもとに課題を作成する。したがって受け身の姿勢ではなく、積極的に授業に取り組むことが求められる。
・それぞれの授業内容を個別の知識としてとらえるのではなく、相互に関係させ、積み上げていくことが必要である。当然、課題もそれまでの学習を踏まえたものであること。
・グループに分かれて課題に取り組む場合や、ペアになってお互いの課題を検討することがある。
・Oh-o! Meijiを通じて授業に関する連絡をすることもあるので、確認する習慣をつけておくこと。

準備学習の内容

・配布プリント及び、返却課題を見直し、次回の課題に生かせるようにすること。
・レポート作成に向けて、テーマに沿った論文を各読んでおくこと。

教科書

プリン配布配布

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。その際、共有したほうが良いものとしてよい例・悪い例を紹介する。また、人数が少ない場合には個別でのFBを行うこともある。

成績評価の方法

課題60%　レポート30%　平常点10%
＊課題の提出状況が悪い場合または最終レポート未提出の場合は単位認定の対象としない。

その他

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現

4単位

1年次

兼任講師　田　中　絵美利

授業の概要・到達目標

レポートや論文など、大学内で書くことが求められる文章には、独特の学術的なルールがある。特に入学したての1年生は論文など読み慣れていないだろう。本授業は、レポートや論文とは何を書くべきものなのか、書くために何をどのように調査し、どのようなフォーマットに基づいて書けばよいのかを学ぶ実践的な授業である。
半期を通してレポートを1本仕上げることを目標とする。

授業内容

授業は2コマ連続で行われるが、2コマ通して行う回（もちろん休憩はとります）と、1コマずつ内容を変える回とがある。詳細は初回のガイダンスで説明する。
第1回　ガイダンス（1）文章表現法に関して
第2回　ガイダンス（2）レポート執筆に関して
第3回　レポートの基本ルール（1）レポートとは何か
第4回　文章を書くための基本姿勢・概論
第5回　文章を書くための基本姿勢・実技
第5回　レポートの基本ルール（2）テーマの立て方
第6回　レポートの基本ルール（3）文献の探し方
第7回　正しい文章の書き方（1）悪文を改める・文法上誤りを含む悪文
第8回　正しい文章の書き方（2）悪文を改める・読みにくい悪文
第9回　レポートの基本ルール（3）引用の仕方
第10回　説明文を書く（1）パラグラフライティングの基本・第1段落の書き方
第11回　レポートの基本ルール（4）参考文献一覧の書き方
第12回　説明文を書く（2）パラグラフライティングの基本・トピックセンテンスとサブセンテンス
第13回　レポートの基本ルール（5）テーマを決め、参考文献を探す
第14回　説明文を書く（3）パラグラフライティングの基本・ 400字でまとめる
第15回　レポートの基本ルール（6）体裁を整える・ Wordの基本設定
第16回　説明文を書く（4） 800字でまとめる
第17回　レポートの基本ルール（7）情報の信憑性・学術的な価値を見極める
第18回　説明文を書く（5）自分で資料を探して書く
第19回　レポートの基本ルール（8）レポート特有の文体・表現
第20回　説明文を書く（6）レポートのテーマに合わせて1の説明文をまとめる
第21回　レポートの基本ルール（9）学術的な問いとは何か
第22回　レポートの執筆（1）全体の流れを決める
第23回　レポートの執筆（2） 1ごとに節／項を立てる
第24回　レポートの執筆（3）中間報告
第25回　レポートの執筆（4）足りない情報を補完する
第26回　レポートの執筆（5）推敲
第27回　レポートを完成させる
第28回　レポートの講評

履修の注意点

パソコンを持参して受講した方が効率よく作業を進められる。
履修人数によっては、端末室に教室変更が可能かもしれないが確約はできないので、
Officeをインストールしたラップトップまたはタブレットを持参することが望ましい。
もちろん、Officeをインストールしたデバイスがなくても履修は可能だが、
情報の収集のためなどに、せめてスマホは持参した方がよい。また、最終的にレポートはWordで作成して提出することになるので、単位取得のためにはOfficeをインストールしたデバイスは必須である。
基本的なパソコン、Wordの知識は必要である。一からパソコンの使い方を教えることはないので、大学が行っているOfficeの基礎講習やメディアサポートサービスなどを活用して基本的には自力で何とかすること。
講義形式の授業ではなく、実技形式の授業である。授業中に課題を作成し、提出することが求められる。
独自のメソッドを用いての講義となるので、受講していなければ課題の作成は難しい。
また、そのメソッドを受け入れられない場合も受講は困難となる（受けていて苦痛であろうという意味で）が、こちらが提示するメソッドを凌駕する“作品”を提出すれば単位が取れる可能性はある。
授業中に発言を求められることもあるので、覚悟の上履修する必要がある。
本授業は「コミュニケーション」を学ぶ授業であるため、教員とも積極的にコミュニケーションを取ることが求められる。
積極的に参加しなければ意味のない授業なので、遅刻や欠席は大きく減点される点を覚悟の上履修して欲しい。
Oh-o! Meijiを通じて授業に関する連絡をすることもあるので、確認する習慣をつけておくこと。
卒論の作成や大学院への進学を考えている学生は、特に受講して欲しい。役に立つことだろう。

準備学習の内容

予習が必要な時もあるが、資料に軽く目を通すだけでそれほどのふたんではない。一方で、返却された課題をよく復習する必要がある。
また、基本的なパソコンの使い方は自分で学んでおく必要がある。パソコン操作上のミスで課題が提出できなくても一切考慮はしないので、Word,Excelの基本的な使い方は学内の講座などを利用してマスターするように。学期末レポートは手書きでは認めない。

教科書

指定予定だが、授業内で説明する。

参考書

その都度紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回授業内で課題を作成し提出することが求められる。提出した課題は基本的に翌週返却する。

成績評価の方法

課題・授業態度・テストを総合的に判断する。評価方法は受講人数によって決まるので、詳細はガイダンスで説明する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現

4単位

1年次

兼任講師　今　野　　哲

授業の概要・到達目標

2回分でひとまとまりとする授業であり、講義（1限目）と文章作成（2限目）の組み合わせが基本的な構成である。1限目に文章を作成し、2限目に講義を行う授業回もある。国語表現の実践的な技能に関する授業であり、表記・語彙の学習から、課題発見や表現史の検討まで、講義内容は多岐にわたる。

書く力・読む力の基礎技術習得を主眼に、聞く力・話す力の涵養も含めて、総合的な国語運用能力の強化と思考力の深化に資することを目指している。書くことに関する具体的な指標は、50～80分ほどの時間内で800～1200字程度の論理的で明快な文章を作成する技能の獲得である。また、レポート・論文作成の基礎的な知識・技能の体得と、言語文化全般への理解・関心の深化も目標とする。

課題の提出は、PCを使って作成して Oh-o! Meijiシステム経由（クラスウェブ経由）で提出するケースと、教室で手書きで作成して授業時間内に提出するケースとがある。

授業内容

第1回目　文章作成の前提　　— わたしたちの言語生活を省みる —
第2回目　文章作成（第1回）　— 800字の文章作成 —
第3回目　文章作成の手順　　— 文章作成の段取りについて復習する —
第4回目　文章作成（第2回）　— 800～1000字程度の文章作成 —
第5回目　段落の視認性　　— 段落の意義について確認する —
第6回目　文章作成（第3回）　— 段落を意識した文章作成 —
第7回目　段落の設定　　— 段落操作の技能を向上させる —
第8回目　文章作成（第4回）　— 段落を意識した文章作成 —
第9回目　文章構成の「型」　— 文章構成の「型」（および「型」一般）についての認識を深める —
第10回目　文章作成（第5回）　— 「型」を意識した文章作成 —
第11回目　構想メモの利用　　— 構想メモの作成方法を習得する —
第12回目　文章作成（第6回）　— 構想メモに基づく文章作成 —
第13回目　要約の技術　　— 要約の方法について学ぶ —
第14回目　文章作成（第7回）　— 文章の要約の練習 —
第15回目　引用の方法　　— 引用のやり方について理解する —
第16回目　文章作成（第8回）　— 引用を含む文章作成 —
第17回目　レポートの構成　　— 標準的なレポートの組み立て方を理解する —
第18回目　文章作成（第9回）　— 「序論」執筆の模擬練習 —
第19回目　読むことをめぐって　　— 読書の意義や技術について考える —
第20回目　文章作成（第10回）　— 「読む」ことをテーマとした文章作成 —
第21回目　発想・着想の技術　　— 発想・着想を拡大させる —
第22回目　文章作成（第11回）　— 論の切り口を意識した文章作成 —
第23回目　聞くことをめぐって　　— 聞く技術について考える —
第24回目　文章作成（第12回）　— 聞き取った内容を要約する練習 —
第25回目　語彙に関する考究　　— 特に接続語句の操作について考える —
第26回目　文章作成（第13回）　— 論理的で明快な意見文の作成 —
第27回目　日本語の表現史　　— 国語問題、および日本語の未来について考える —
第28回目　a：講義全体のまとめ

履修の注意点

文章作成が眼目となるので、主体的・積極的な授業参加が求められる。授業で作成した課題は、提出期間内に提出すること。授業概要欄にも記した通り、本授業は講義（1限目）と文章作成（2限目）の2コマ連続の組み合わせでひとまとまりとなっている。その趣旨に留意し、2限目のみの受講にならないように極力努めること。

準備学習の内容

Oh-o! Meijiシステムで配信する授業テキストを事前に読んで、予習しておくこと。授業範囲に関連する参考文献等を調べておくと、さらに望ましい。授業時の課題以外に予習課題が指示される場合がある。その際は必ず作成の上で授業に臨むこと。また、返却された課題を各自で再検討し、文章作成技能の確実な定着に努めること。

教科書

既成の教科書は使わない。毎回、Oh-o! Meijiシステム（クラスウェブ）を通して授業テキストを配信する。担当者が作成した印刷教材を授業時に配付することもある。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に講評する。また、Oh-o! Meijiシステム経由での提出の場合は、極力コメント欄にコメントを付すように努める。手書き原稿での提出の場合も、極力コメントを付して返却する。

成績評価の方法

平常点（提出課題の評価を中心に、感想票[コメントシート]の内容や授業への貢献度等を加味する。）50%・学期末試験50%。以上の配分によって総合的に評価する。

その他

読書は、文章作成の技能涵養に大いに資する。計画的な読書を勧めたい。

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現

4単位

1年次

教授　嶋　田　直　哉

授業の概要・到達目標

文章作成の基礎、言語表現上のマナーを学ぶ。
「事実」と「意見」の区別、アウトラインの活用、文献の引用方法、文章の要約、メールや手紙文作成上のルールなどを学び、授業時間内で課題（600～800字）を作成し、提出する。
最終的には論理的に構成された課題レポート（4,000字程度）の完成を到達目標とする。

授業内容

第1回　ガイダンス
第2回　ストーリーとプロットを利用した要約
第3回　事実と意見（1）
第4回　事実と意見（2）
第5回　トピック・センテンス
第6回　意見文
第7回　自問自答と反駁
第8回　引用の方法
第9回　資料の活用
第10回　レポートの構成
第11回　図書館の利用方法
第12回　要約（1）
第13回　要約（2）
第14回　要約（3）
第15回　わかりやすい表現（1）
第16回　わかりやすい表現（2）
第17回　正しい言葉遣い
第18回　正しい言い訳
第19回　手紙の書き方（1）
第20回　手紙の書き方（2）
第21回　メールの書き方（1）
第22回　メールの書き方（2）
第23回　インターネット上の情報の利用方法（1）
第24回　インターネット上の情報の利用方法（2）
第25回　新聞の読み方
第26回　フレームワークの利用方法
第27回　総まとめ
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

第1回の授業にて授業内容と評価方法について説明をする。
履修変更期間中の欠席については一切配慮しない。
授業時間内に指定された課題を完成させ提出すること。
授業の性格上、出席と授業時の課題の取り組みを重視する。
いかなる理由があろうとも私語は絶対にしてはならない。
私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。
教員に対して失礼な態度の学生に対しては、こちらも相応の態度で臨む。
授業内容は履修者の状況をみて変更することがある。
★学習意欲が全くない者は絶対に履修してはならない。

準備学習の内容

レポート作成において必要な文献の検索を図書館で行うこと。
課題文作成に備え、日頃から新聞などを読み社会的関心を高めること。

教科書

使用しない。
授業で使用する資料は、Oh-o!Meijiにて事前に配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業中に行う。

成績評価の方法

授業への参加度と授業時提出の課題文（50%）、期末レポート（50%）
なお各評価の基準を満たしていない場合は単位を修得することができない。

その他

出席確認、授業時提出の課題文などにおいて不正を行った者については厳しく対処する。
就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。
体育会活動による欠席は大学の「公式な派遣」による大会出場のみ配慮する。その他の大会や練習は一切配慮しない。
「公欠」の基準については初回授業で説明する。

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現	4単位
	1年次

兼任講師　千　田　　実

授業の概要・到達目標

「政治経済学部から国語を読んで書く」というテーマのもと、坪内逍遥と言文一致運動について考えていく。文学史にその名を残す坪内逍遥は、東京大学文学部政治学及理財学科を卒業している。この文学部で政治経済を学んだと考えられる文学者（文学士）が言文一致運動において「国語」にどう関わっていったのかを見ていくことで、私たちが日常的に使っている「国語」とは何か、そしてそれを「表現」するとはどういうことなのかを「政治学及理財学科」出身者の視点から学んでいきたい。

講義内容の要約の作成、レポートの作成を通して、国語に関する知識や論理的でわかりやすい文章を書く能力を習得することを目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　国語と国家――国家が必要とした国語――
第3回目　国語と大学――研究と教育と学校――
第4回目　要約の作成と課題1
第5回目　国語と科学――有用な学問としての科学――
第6回目　要約の作成と課題2
第7回目　国語と軍隊――軍隊という学校――
第8回目　要約の作成と課題3
第9回目　国語と芸術――有用な芸術と芸術家――
第10回目　要約の作成と課題4
第11回目　国語と言文一致運動1――「現代文」の作成――
第12回目　要約の作成と課題5
第13回目　国語と言文一致運動2――「現代文」の教育――
第14回目　要約の作成と課題6
第15回目　レポート作成について
第16回目　坪内逍遥と国家――国家有用の人材であるということ――
第17回目　坪内逍遥と大学――文学と政治経済――
第18回目　要約の作成と課題7
第19回目　坪内逍遥と政治――自由民権運動と文学――
第20回目　要約の作成と課題8
第21回目　坪内逍遥と経済――卒業と就職と文学――
第22回目　要約の作成と課題9
第23回目　坪内逍遥と教育――教育者と教育勅語――
第24回目　要約の作成と課題10
第25回目　坪内逍遥と国語1―文学者の国語改革――
第26回目　要約の作成と課題11
第27回目　坪内逍遥と国語2――文学士の国語改革――
第28回目　まとめ

履修の注意点

授業では講義と要約作成(課題プリント)が主となる。課題プリントは授業時間内に完成させる。積極的に授業に参加してほしい。

準備学習の内容

授業では毎回いくつかの参考文献を紹介していきたいと思っている。そのほとんどは図書館で閲覧できるものなので、興味をもったものに関しては、実際に図書館で手に取ってみるという習慣をつけてもらいたい（成績評価に関わることではないので、読めとはいわない)。

教科書

毎回プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

配布プリントで紹介する。

成績評価の方法

平常点（70%）、レポート（30%）

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現	4単位
	1年次

教授　富　澤　成　實

授業の概要・到達目標

国語およびことばそれ自体に関する基本的な知識と、論理的で明快な文章表現の技術を獲得することを目的とする。

授業において我々は、ことばや表現と向き合うことになるが、それは単に「技術」的な訓練ということにのみとどまらない。ことばは、コミュニケーションのための道具であるばかりか、まさに認識すること・思考することそのものだからである。この授業が、よりよく考えるための場となることを願う。

「常用漢字表」に基づく漢字の読み書きができるようになることをはじめとして、国語および言葉それ自体に関する基本的な知識を深め、さらに基本的な小論文やレポートを書くことができるようになることを到達目標とする。

授業内容

1　イントロダクション
2　「言葉の乱れ」についての意識
3　世界に言語はいくつあるか
4　日本語という言語――文末決定性をめぐる問題
5　日本語という言語――方言の多様性
6　言文一致運動の歴史＜1＞
7　言文一致運動の歴史＜2＞
8　言文一致運動の歴史＜3＞
9　現代の敬語＜1＞
10　現代の敬語＜2＞
11　文章表現の手順
12　テーマの設定
13　文章構成の型＜1＞
14　文章構成の型＜2＞
15　論証・推論
16　主語と述語の照応
17　修飾語と被修飾語の関係
18　タイトル、書き出しと結び
19　句読点
20　原稿用紙の使い方
21　推敲
22　ことばとはなにか
23　言語学者・ソシュール
24　ことばともの＜1＞
25　ことばともの＜2＞
26　ことばと記号＜1＞
27　ことばと記号＜2＞
28　ことばと文化
また、ほぼ毎回授業のはじめに、漢字の練習問題に取り組んでもらう。

履修の注意点

学生諸君の授業への取り組みの姿勢を、成績評価を行なう際の重要な判断材料とするので、授業への出席は重要である。

準備学習の内容

授業で扱う内容はもとより、日ごろから、国語常識を養うためのさらなる努力を継続し、読書などを通じて文章の要点を正確に読み取る訓練とまた自ら文章を書く訓練を積極的に行ってほしい。また授業時に配布した漢字プリントや練習問題のプリントなどを見直し、復習してほしい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業時に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に学生の書いた小レポートを紹介し、課題に関するポイントや添削例、模範的な解答を示す。

成績評価の方法

平常点（授業への参加度・小レポート・小テスト）約80%、学期末レポート約20%

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現	4単位
	1年次

兼任講師　平　山　真由子

授業の概要・到達目標

本講義は、国語表現力の基礎を学習するためのものである。大学での学習に必要な文章表現や日本語の知識を中心に取り扱う。日本語に関する豊かな知識と、実用的な国語表現力を身に付けることを目標とし、最終的にはレポートや論文を書く力を身に付けることを目指す。講義は1コマの講義の後に、その内容を踏まえた課題に取り組む1コマを設ける形式で進める。様々な形式の文章に触れ実際に作成を行う、実践的な講義内容である。

授業内容

第01回　ガイダンス
第02回　身近な文章と表現　講義
第03回　資料の正しい扱い方　講義
第04回　資料の正しい扱い方　実践
第05回　日本語の知識　講義
第06回　日本語の知識　実践
第07回　実用的文章　講義
第08回　実用的文章　実践
第09回　文章の読み方①実用的文章　講義
第10回　文章の読み方①実用的文章　実践
第11回　文章の読み方②論文やレポート　講義
第12回　文章の読み方②論文やレポート　実践
第13回　要約と引用　講義
第14回　要約と引用　実践
第15回　説明文と意見文　講義
第16回　説明文と意見文　実践
第17回　効果的な文章　講義
第18回　効果的な文章　実践
第19回　論理と文章　講義
第20回　論理と文章　実践
第21回　文章の添削　講義
第22回　文章の添削　実践
第23回　レポートについて　講義
第24回　レポートについて　実践
第25回　論文について　講義
第26回　論文について　実践
第27回　最終レポート　推敲
第28回　最終レポート　講評

履修の注意点

・講義内課題に加えて、予習・復習の課題を出すことがある。
・毎回の講義で出欠の確認を行う。
・ペアワークやグループワークを行う。

準備学習の内容

・毎回の講義内で指示する。

教科書

・プリント資料を配布する。各自ファイル等を用意し、保管・持参すること。
・講義外での課題（予習課題や最終レポート）については、PCを使う場合がある。私物のノートPCか、学内の貸与PCを使用すること。

参考書

・特に使用しないが、参考になる書籍等を講義内にて紹介する場合がある。

課題に対するフィードバックの方法

・提出された課題を講義内で紹介・解説する場合がある。課題によっては個別に添削する場合がある。

成績評価の方法

・最終レポート40%、それ以外の講義内課題や予習課題60%の配分で成績評価を行う。詳細はガイダンス時に説明する。
・一定回数以上の欠席（課題未提出含む）は単位認定の対象としない。

その他

・講義の特性上、課題への取り組みを評価する。主体的で積極的な参加を求める。

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現【和泉開講　1・2年次対象】

4単位

1年次

兼任講師　西連寺　成　子

授業の概要・到達目標

日本語について豊かな知識を持つと共に、実践的な力を磨くことを目標とした授業である。
実際の授業では、〔1〕文章読解〔2〕文章作成〔3〕日本語表現の基礎知識〔4〕日本語の歴史について進める予定である。〔1〕については、様々な文章を読むことを通して読解力を鍛え、〔2〕については、書く作業を繰り返すことで作成能力を高めていく。〔3〕については、講義を踏まえ練習問題に取り組み、知識の定着と蓄積を目指す。また〔4〕については、日本語の文字の歴史を中心とした講義を行う予定である。「国語」の歴史に深く関わる文学や学校教育についても言及することになるだろう。

授業内容

第1回：aタームのみ：イントロダクション
第2回：悪文訂正・表記のルール
第3回：レポート作成の基礎事項
第4回：パラグラフライティング
第5回：敬語の基礎事項（1）
第6回：敬語の基礎事項（2）
第7回：メールの基礎事項
第8回：自己PR文
第9回：手紙の基礎事項
第10回：作文（1）作成のためのポイント
第11回：論理文の基礎事項
第12回：作文（2）レトリック
第13回：縮約文（1）
第14回：作文（3）描写
第15回：論理的文章の読解（1）
第16回：縮約文（2）
第17回：論理的文章の読解（2）
第18回：要点整理・要約文
第19回：論理的文章の読解（3）
第20回：要点整理・要約文・論証
第21回：日本語の歴史（1）文字
第22回：作文講評
第23回：日本語の歴史（2）漢字の影響
第24回：小論文（1）
第25回：日本語の歴史（3）近代以降の国語・その1
第26回：小論文（2）
第27回：日本語の歴史（4）近代以降の国語・その2
第28回：日本語の歴史（5）補足説明とまとめ

履修の注意点

・提出物については授業終了時に必ず出すこと。仮に仕上がっていなくても、時間が来たら提出しなければならない。特別な事情がある場合を除き、提出課題の持ち帰りは認めない。
・オンライン上での課題提出が認められた場合でも、授業時間内で取り組み教室内で送信を終えること。教室不在での提出は一切認めない。
・原則として、授業内課題の後日提出は認めない。
・授業では課題作成の時間が多くなるので、私語を慎み他の受講生の邪魔にならないよう心がけること。目に余る状態の場合は成績評価から大幅に減点する。
・受講生の提出物を他年度の授業に利用することがあるため、丁寧な表記を心がけてもらいたい（良い例としてのみ使用し、氏名は公表しない）。
・作文講評に使用するため、授業内課題以外に、作品（授業で取り組んだ作文を改善し清書したもの）の提出を学期中に1回課す。
・正規理由がある場合を除き、授業開始から30分経過後の遅刻は欠席扱いになる。
・授業では、受講生に考えや解答を述べてもらう機会が多いので、積極的に取り組んでほしい。

準備学習の内容

・授業内容を整理したノートを作成したり、プリントの補足を行ったりしておくこと。特に「日本語の歴史」の講義では肝要である。
・授業で取り組んだ練習問題や課題をふりかえり、理解不十分だった点を確認し、次回以降の演習の際に生かすこと。

教科書

特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。プリントは授業時間内における配布を主とし、必要に応じてオンライン上の配布を併用する。

参考書

文章読解、文章作成の授業内容では特に定めない。
歴史の授業内容では『日本語の歴史』　山口仲美著　（岩波新書）2006年

課題に対するフィードバックの方法

提出課題は採点の上、各自に返却する。
また、返却時には課題内容の振り返りや解説を行う。

成績評価の方法

・授業内で取り組んだ提出物60%、期末試験30%、授業への参加度10%の総合評価。ただし授業態度の悪い者は総合評価から大幅に減点される。
・授業内課題は、各自の得点や仕上がり具合によって評価が異なるので、提出回数を重ねるだけでは成績評価点が伸びない場合もあり得る。内容はもちろん誤字などの表記上のミスにも気をつけること。

その他

・受講人数や進行状況などの都合により、講義の順番や内容を変更する場合がある。
・講義内容によって2コマ分の講義時間を3分割するなど、変則的な時間割で行うことがある。
・初回の授業で履修場の注意点等について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE)LIN191J

国語表現【駿河台開講　3・4年次対象】

4単位

1年次

兼任講師　西連寺　成　子

授業の概要・到達目標

日本語について豊かな知識を持つと共に、実践的な力を磨くことを目標とした授業である。
実際の授業では、〔1〕文章読解〔2〕文章作成〔3〕日本語表現の基礎知識〔4〕日本語の歴史について進める予定である。〔1〕については、様々な文章を読むことを通して読解力を鍛え、〔2〕については、書く作業を繰り返すことで作成能力を高めていく。〔3〕については、講義を踏まえ練習問題に取り組み、知識の定着と蓄積を目指す。また〔4〕については、日本語の文字の歴史を中心とした講義を行う予定である。「国語」の歴史に深く関わる文学や学校教育についても言及することになるだろう。

授業内容

第1回：aタームのみ：イントロダクション
第2回：悪文訂正・表記のルール
第3回：敬語の基礎事項（1）
第4回：自己PR文の作成（1）
第5回：敬語の基礎事項（2）
第6回：自己PR文の作成（2）
第7回：手紙とメールの基礎事項
第8回：作文（1）作成のポイント
第9回：パラグラフライティング
第10回：作文（2）レトリック
第11回：論理文の基礎事項
第12回：作文（3）描写
第13回：論理的な文章の読解（1）
第14回：縮約文（1）
第15回：論理的な文章の読解（2）
第16回：縮約文（2）
第17回：論理的な文章の読解（3）
第18回：要点整理・要約文
第19回：論証
第20回：小論文（1）
第21回：日本語の歴史（1）文字
第22回：小論文（2）
第23回：日本語の歴史（2）漢字の影響
第24回：小論文（3）
第25回：日本語の歴史（3）近代以降の国語・1
第26回：小論文（4）
第27回：日本語の歴史（4）近代以降の国語・2
第28回：日本語の歴史（5）補足説明とまとめ

履修の注意点

・ほぼ毎回、授業内容に基づいた文章作成や練習問題などの提出物を予定している。授業で取り組む提出物については授業終了時に出すこと。仮に仕上がっていなくても、時間が来たら提出しなければならない。例外を除き、提出課題の持ち帰りや教室不在での提出、後日の提出は認めない。
・提出物は文章作成についても全て手書きで行う。
・受講生の提出物を他年度の授業に利用することがあるため、丁寧な表記を心がけてもらいたい（良い例としてのみ使用し、氏名は公表しない）。
・授業では課題作成の時間があるので、私語を慎み他の受講生の邪魔にならないよう心がけること。目に余る状態の場合は成績評価から大幅に減点する。
・正規理由がある場合を除き、授業開始から30分経過後の遅刻は欠席扱いになる。
・受講生には頻繁に発言を求めるので、講義に積極的に参加することを期待する。
・当該授業内容は、3・4年生向けのものが多い。

準備学習の内容

・授業で取り組んだ練習問題や課題をふりかえり、理解不十分だった点を確認し、次回以降の演習の際に生かすこと。

教科書

特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。プリントは授業時間での配布を主とし、場合によってオンライン上の配布を併用する。

参考書

文章読解、文章作成の授業内容では特に定めない。
歴史の授業内容では、『日本語の歴史』 山口仲美著 （岩波新書）2006年

課題に対するフィードバックの方法

提出課題は採点または添削の上、各自に返却する。また、返却時には課題の振り返りや解説を行う。

成績評価の方法

・授業内で取り組んだ提出物70%、レポート20%、授業への貢献度10%の総合評価。ただし授業態度の悪い者は総合評価から大幅に減点する。
・提出物は仕上がり具合によって評価が異なるので、提出回数を重ねるだけでは成績評価点が伸びない場合もあり得る。内容はもちろん誤字などの表記上のミスにも気をつけること。

その他

・受講人数や進行状況などの都合により、講義の順番や内容を多少変更する場合がある。
・講義内容によって2コマ分の講義時間を3分割するなど、変則的な時間割で授業を行うことがある。
・初回の授業で履修上の注意点等について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE)LIT111J

日本文学

4単位

1年次

教授　嶋　田　直　哉

授業の概要・到達目標

明治・大正期の作家と作品を中心に学習する。授業時間内に実際に作品の朗読を聴き、作品に親しむ。
日本近代文学の基礎知識の習得を到達目標とする。

授業内容

第1回　ガイダンス
第2回　中島敦
第3回　物語とは何か（1）
第4回　物語とは何か（2）
第5回　日本近代文学史概論（1）
第6回　日本近代文学史概論（2）
第7回　言文一致（1）
第8回　言文一致（2）
第9回　泉鏡花
第10回　樋口一葉
第11回　自然主義（1）
第12回　自然主義（2）
第13回　島崎藤村
第14回　田山花袋
第15回　私小説
第16回　森鷗外（1）
第17回　森鷗外（2）
第18回　夏目漱石（1）
第19回　夏目漱石（2）
第20回　夏目漱石（3）
第21回　夏目漱石（4）
第22回　芥川龍之介（1）
第23回　芥川龍之介（2）
第24回　永井荷風（1）
第25回　永井荷風（2）
第26回　梶井基次郎
第27回　総まとめ
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

第1回で授業の進め方、成績評価方法などの説明をする。
履修変更期間中の欠席については配慮しない。
随時「読書レポート」を課す。
私語はいかなる理由があろうとも絶対にしてはならない。
私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。
教員に対して失礼な態度をとる学生に対しては、こちらも相応の態度で臨む。
授業内容は履修者の学習状況をみて変更することがある。
★学習意欲が全くない者は履修してはならない。

準備学習の内容

日頃より読書に親しみ、授業で紹介された作品を積極的に読むこと。

教科書

使用しない。授業で使用する資料については事前にOh-o!Meijiで配布する。各自のデバイスで閲覧できるようにすること。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業中に行う。

成績評価の方法

授業への参加度（40%）、学期末試験（40%）、読書レポート（20%）
なお各評価項目の基準を満たしていない場合は単位を修得することができない。

その他

就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。
体育会活動による欠席は大学の「公式な派遣」による大会出場のみ配慮する。その他の大会や練習は一切配慮しない。
「公欠」の基準については初回授業で説明する。
★出席確認時に不正を行った者については厳しく対処する。

科目ナンバー：(PE)LIT111J

日本文学	4単位
	1年次

教授　富　澤　成　實

授業の概要・到達目標

近代日本の恋愛小説を、おもにとりあげる。
恋愛をテーマにした物語はこれまでにも数多く作られ、そしていまなお大量に生産されている。だが、今日の我々にとって普遍的で自明な出来事のように見える「恋愛」は、実は明治期になって出現した新しい概念だったといってよい。
この授業では、近代日本の恋愛小説をそれぞれ鑑賞すると同時に、「恋愛」の発生を、我々の認識と行動のありようを規定する歴史的な事件として捉え、具体的にその成立と展開の諸相を近代の文学作品を通じて検討することをも目的としている。
また近代の日本文学に関する基礎的知識のひとつとして、この時代の代表的な作家や文学思潮について概説する。
「恋愛」概念の成立と展開の諸相はもとより、近代日本を代表する作家それぞれの人と文学や近代日本の文学思潮、日本社会の近代化についての理解を深めることを到達目標とする。

授業内容

1　イントロダクション
2　北村透谷「厭世詩家と女性」＜1＞
3　北村透谷「厭世詩家と女性」＜2＞
4　北村透谷「厭世詩家と女性」＜3＞
5　森鴎外「舞姫」＜1＞
6　森鴎外「舞姫」＜2＞
7　森鴎外「舞姫」＜3＞
8　森鴎外「舞姫」＜4＞
9　樋口一葉「たけくらべ」＜1＞
10　樋口一葉「たけくらべ」＜2＞
11　樋口一葉「たけくらべ」＜3＞
12　樋口一葉「たけくらべ」＜4＞
13　尾崎紅葉「金色夜叉」＜1＞
14　尾崎紅葉「金色夜叉」＜2＞
15　尾崎紅葉「金色夜叉」＜3＞
16　田山花袋「蒲団」＜1＞
17　田山花袋「蒲団」＜2＞
18　田山花袋「蒲団」＜3＞
19　志賀直哉「赤西蠣太」＜1＞
20　志賀直哉「赤西蠣太」＜2＞
21　志賀直哉「赤西蠣太」＜3＞
22　志賀直哉「赤西蠣太」＜4＞
23　武者小路実篤「友情」＜1＞
24　武者小路実篤「友情」＜2＞
25　武者小路実篤「友情」＜3＞
26　谷崎潤一郎「痴人の愛」＜1＞
27　谷崎潤一郎「痴人の愛」＜2＞
28　谷崎潤一郎「痴人の愛」＜3＞
また「舞姫」をはじめ、映画化された作品についてはビデオやDVDなどを通じての鑑賞の機会もとりいれる計画である。

履修の注意点

学生諸君の授業への取り組みの姿勢を、成績評価を行なう際の重要な判断材料とするので、授業への出席は重要である。

準備学習の内容

資料などで扱うのは作品の一部分なので、各自で文庫本等を通じて作品全編を読んでおくのが望ましい。また日ごろから読書を通じて、教養の一環として日本文学についての基本的な知識を身につけてほしい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業時に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に学生の書いた小レポートを紹介し、課題に関するポイントや模範的な解答を示す。

成績評価の方法

定期テスト約80%、授業への参加度約20%

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)LIT111J

日本文学

4単位

1年次

教授　植　田　　麦

授業の概要・到達目標

本授業の名称は「日本」文学である。その「日本」という号自体が初めて文献に現れるのは、およそ西暦700年のことである。その約10年後に『古事記』が成る。つまり、国号「日本」の成立直後に『古事記』も成るのであるが、その『古事記』に「日本」の表記は皆無である。なぜだろうか？

このように、本授業では、文学と社会との関わりを学び、また古典文学に関する受講者の固定観念を打ち払うことを目的とする。

授業内容

1　ガイダンス
2　「日本」について1
3　「日本」について2
4　英雄と神話1
5　英雄と神話2
6　英雄と神話3
7　英雄と神話4
8　「古典文学」について1
9　「古典文学」について2
10　「古典文学」について3
11　『古事記』1
12　『古事記』2
13　『古事記』3
14　神話と歴史1
15　神話と歴史2
16　創られる神話1
17　創られる神話2
18　創られる神話3
19　紫式部と『源氏物語』1
20　紫式部と『源氏物語』2
21　紫式部と『源氏物語』3
22　遁世者の文学としての『徒然草』1
23　遁世者の文学としての『徒然草』2
24　遁世者の文学としての『徒然草』3
25　遁世者の文学としての『徒然草』4
26　仇討ちと忠臣蔵1
27　仇討ちと忠臣蔵2
28　仇討ちと忠臣蔵3

履修の注意点

・毎回の授業終了時に、次回の予習内容を指示する。
・就職活動に関する欠席を公欠として扱うことはない。
・履修にあたっては、高等学校で学習する程度の日本史の知識を有していること。

準備学習の内容

・予習内容：授業内で指示する。
・復習内容：原則として、授業で出す課題等によって行うこと。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業内で紹介することがある。

課題に対するフィードバックの方法

ミニレポートの内容については、適宜解説を行う。

成績評価の方法

・ミニレポート等による平常点と学期末レポートで評価する。
・ミニレポート……20%
・学期末レポート……80%
・ミニレポート未提出の場合は減点とする。
・当然ではあるが、一定回数以上の欠席（ミニレポート未提出）は単位認定の対象としない。

その他

・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。
・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：(PE)LIT111J

日本文学

4単位

1年次

教授　池　田　　功

授業の概要・到達目標

前半の三分の二は「こころの病の文化史」をテーマとする。

気分がすぐれないとか、うつ状態であるということはよくあることである。それは脳内の神経伝達物質のセロトニンやドーパミンの出が悪いために起こっており、抗鬱剤を飲めば改善するという。しかし、そのためには処方箋が必要であり、また薬には必ず副作用がある。ボーダー内にあり、それでもなおかつ気分が悪いときは「言葉」の力に頼るのが一番良いのではないか。つまり、心の病を描いた文学作品に接することである。本講義では、文学作品の講読そして解説により、治療ではなく言葉による治癒を目指す。

後半の三分の一は、まず身体の病と文学との関わりをテーマとする。さらに日本の明治期から現代までの著名な文学者とその作品を対象にし、その生涯や代表作品を具体的に読みながらポイントを解説する。

授業内容

第１回：〈摂食障害〉松本侑子「巨食症の明けない夜明け」。この作品を通して摂食障害とは何か、またその原因や対策などを考える。
第２回：〈引きこもり〉田口ランディ「コンセント」を通して引きこもりの現状と対策などを考えたい。
第３回：〈ED（インポテンツ）〉新井満「尋ね人の時間」を通して、男性のEDを解説する。
第４回：〈不感症（冷感症）〉女性の性機能障害である不感症は、村上春樹「ノルウエイの森」に描かれている。
第５回：〈ヒステリーの世界〉宇野浩二「苦の世界」における、激しい女性のヒステリーを通して、その原因などを分析する。
第６回：〈夫婦の闇としてヒステリー〉島尾敏雄「死の棘」を分析する。
第７回：〈映画鑑賞〉小栗康平監督、松坂慶子、岸辺一徳出演による映画「死の棘」を鑑賞する。
第８回：〈神経を病む若い女性〉川端康成「たんぽぽ」、古井由吉「杳子」には、神経症を病む女子大生が描かれている。
第９回：〈強迫神経症の世界〉手を一日何百回も洗わなければいられないような強迫神経症の問題を、車谷長吉「飢風」により考える。
第10回：〈幻視、幻聴の世界〉芥川龍之介「歯車」には、芥川が自殺する直前の、幻視・幻聴の重い精神障害の状態が描かれている。
第11回：〈精神病院に入院するということ〉色川武大「狂人日記」には、精神病院での一年間と、退院してからの社会復帰の困難さが描かれている。
第12回：〈精神病院前史・座敷牢の世界〉島崎藤村「夜明け前」、そして、映画「夜明け前」のラストシーンにその座敷牢が具体的に描かれている。
第13回：〈母と娘との葛藤〉同性である母と娘との関係は難しいことが多い。笙野頼子「母の発達」をテキストにその問題を考える。
第14回：〈アルコール依存症文学の考察〉若山牧水の短歌、及び中島らも「今夜、すべてのバーで」などをテキストにしながらアルコール依存症の問題、とりわけそこからの回復の問題を考えてみたい。
第15回：〈山の自然による癒し〉志賀直哉「暗夜行路」、南木佳士「阿弥陀堂だより」には、大自然に身も心も癒されてゆく主人公の精神状態が克明に描かれている。ヒーリングとは何かを考えたい。
第16回：〈映画鑑賞〉小泉堯史監督、寺尾聰、樋口可南子出演による「阿弥陀堂だより」の映画を鑑賞することにより、自然による癒しの問題を考える。
第17回：〈海の自然による癒し〉石川啄木「一握の砂」、南木佳士「海へ」には、海により心が癒されて復活する主人公が描かれている。
第18回：〈治療文化〉目取真俊「魂込め」をテキストに、一見非合理的にも思えるシャーマニズムによる癒しの問題を考える。
第19回：前半の「こころの病の文化史」のまとめ
第20回：〈日本文学史〉「万葉集」を古代朝鮮語で読み解くとどうなるか。「とはずがたり」における性の遍歴とは。松尾芭蕉「奥の細道」の虚構性とは。
第21回：〈主義と思潮の日本近代文学史〉浪漫主義、自然主義、反自然主義などをつながりとして考えるとどうなるか。
第22回：〈森鷗外「舞姫」〉鷗外の４年間のドイツ体験とは。「舞姫」におけるベルリンや実際のエリスとの関係を考える。「舞姫」のテーマとは。
第23回：〈映画鑑賞〉篠田正浩監督・郷ひろみ主演の映画『舞姫』の鑑賞。
第24回：〈遠野物語〉柳田国男「遠野物語」の民俗学の世界を、現代の科学的な視点から読み解くとどうなるか。
第25回：〈樋口一葉「たけくらべ」〉24年間の薄幸の人生とは。日記に秘められた妻子ある男性との恋とは。吉原遊郭を舞台にした淡い恋物語の分析。
第26回：〈徳冨蘆花「不如帰」〉小説「不如帰」は日本近代の最大級のベストセラーになった。ここには韓流ドラマにみられるようなテーマがあった。しかし、それは戦後ほとんど読まれなくなるのはどうしてか。
第27回：〈安部公房「砂の女」〉伝統的価値観を否定的にとらえて、国際的な作家になった安部公房。その代表作の「砂の女」を解説する。
第28回：〈映画鑑賞〉勅使河原宏監督、岸田今日子、岡田英次出演の映画「砂の女」を鑑賞する。

履修の注意点

心の病や身体の病などとあまり深刻に考えないで、もっと気楽に日本の近代、現代文学作品を、少しだけ心や身体の病という視点を導入しながら読み解くという気持ちで履修してほしい。

また、テーマによっては、やや性的なことを説明することになるかもしれない。そういうことに敏感である人は、履修しないでほしい。

準備学習の内容

テキストを使用するので、テーマの部分を前もって読んでおくことが望ましい。もし不明な部分等があれば授業中に質問すること。また、次回の内容についてレジュメや参考書に目を通しておくことが望ましい。

教科書

購入する必要はないが、『新版　こころの病の文化史』池田　功著（おうふう）を使用する。

参考書

『神経症と文学ー自分という不自由』大本泉他編（鼎書房）
『日本文学史序説上下』加藤周一（ちくま学芸文庫）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末に行う試験を中心に評価する。授業への参加度10%、学期末の試験90%である。

その他

半期集中の授業であるが、この授業の進め方についてガイダンス時に詳しく説明する。

科目ナンバー：(PE)LIT111J

日本文学

4単位

1年次

兼任講師　田　中　絵美利

授業の概要・到達目標

2026年度のテーマは〈恋愛弱者〉とする。これまでジェンダー論を中心とした社会の差別構造、個々に内在する差別意識の探求から始まり、昨年は〈弱者男性〉をテーマに講義を行った。〈弱者男性〉の問題を考えていく中で、〈弱者〉であるかどうかを決める指標として〈恋愛〉が大きく関わっていることを改めて確認した。しかし、〈恋愛〉は男性だけの問題ではない。女性もまた〈恋愛〉の当事者となるし、時には〈恋愛〉から排除されることもある。異性愛者には異性愛者の苦悩があるが、同性愛者にはまたそれとは異なる苦悩があり、異性愛者も同性愛者もどちらも〈恋愛弱者〉になり得る。したがって、〈弱者男性〉に限定することなく、幅広く〈恋愛〉を起因とした弱者をテーマに明治大正期の文学作品を読み、同時に現在我々が生きる社会の問題について考えるのが本講義の目的である。
昨年度授業を行っていく中で、〈自己との対峙〉について多くの受講生が着目した。本講義は講義スタイルの授業ではあるが、決して受動的な授業ではない。講義の中で得た知識を元に自己と向き合い、自分とは何か、社会の中で自分はどのような存在として見られているのか、哲学的かつ根源的な問いに向き合う授業である。とは言え、難しく考える必要はない。気軽に履修し、真面目に受講していれば自然とその問いに行き着くことだろう。青臭い問いに恥ずかしげもなく本気で向き合う、そんな時間を過ごして欲しい。
世界の終わりがそこで見てるよと紅茶飲み干して静かに待つだけで、これからの世の中で生きていけるだろうか。

授業内容

第１回　ガイダンス・履修上の注意
第２回　明治期のベストセラー本（１）西国立志編
第３回　明治期のベストセラー本（２）学問のすゝめ
第４回　明治期の学校教育制度の確立（１）学制の公務と義務教育制度
第５回　明治期の学校教育制度の確立（２）教育における男女格差
第６回　〈恋愛〉とは何か（１）〈恋愛〉の輸入・令和時代の恋愛模様
第７回　〈恋愛〉とは何か（２）履修者アンケートから見る大学生の恋愛意識
第８回　二葉亭四迷「浮雲」（１）二葉亭四迷基本知識・物語の梗概
第９回　二葉亭四迷「浮雲」（２）立身出世の現実
第10回　二葉亭四迷「浮雲」（３）教育における男女格差が生み出す〈恋愛〉のジレンマ
第11回　森鷗外「舞姫」（１）森鷗外基本知識・問題点の整理
第12回　森鷗外「舞姫」（２）浪漫的〈恋愛〉の憧れと現実
第13回　森鷗外「舞姫」（３）一人称の語りを読み解く
第14回　森鷗外「舞姫」（４）エリスの視点から物語を脱構築する
第15回　浪漫主義から自然主義へ　日清戦争後の社会の様相
第16回　田山花袋「蒲団」（１）日本的自然主義の発展
第17回　田山花袋「蒲団」（２）自らの〈性〉について語るということ
第18回　田山花袋「蒲団」（３）〈告白〉する当事者
第19回　田山花袋「蒲団」（４）日露戦争後の社会と〈自己〉との対峙
第20回　女性作家の〈告白〉・女性解放運動
第21回　夏目漱石「三四郎」（１）夏目漱石基礎知識・問題点の整理
第22回　夏目漱石「三四郎」（２）“当てにならない傍観者”としての三四郎
第23回　映画鑑賞会
第24回　映画の感想の共有
第25回　夏目漱石「三四郎」（３）美禰子の結婚と恋愛
第26回　夏目漱石「三四郎」（４）広田先生の夢の女
第27回　改めて〈恋愛弱者〉について考える
第28回　総括

履修の注意点

資料は基本的にOh-O! Meijiを通してデータで配布する。
プリントアウトしてもデータで持ち込んでも構わない。
授業中にパソコンを使用することも許可する。
が、スマホの小さい画面で資料を見るのは禁止する。撮影も厳禁。撮影している現場を押さえたら以後入室禁止。
また、授業中の私語は一切禁止する。
詳細はガイダンスで説明する。

準備学習の内容

授業内で扱う小説を事前に読んだ上で受講すること。
森鷗外「舞姫」
田山花袋「蒲団」
夏目漱石「三四郎」
の３作品は教科書として指定する。

教科書

森鷗外「舞姫」
田山花袋「蒲団」
夏目漱石「それから」は購入必須。
教科書については、改めて説明します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

個別にフィードバックはしないが、リアクションペーパーに書かれた興味深い意見は匿名で共有する。

成績評価の方法

平常点60％　期末試験40%とする。
平常点は毎回のリアクションペーパーの内容に基づいて算出する。
他人に迷惑を掛けるような言動が目立つ受講生には退出を命じ、単位は与えない。
期末試験の受験は必須とする。

その他

科目ナンバー：(PE)LIT111J

日本文学	4単位
	1年次

兼任講師　瀧　口　　翠

授業の概要・到達目標

和歌において女性の歌は、長い伝統をもって歌い継がれてきた。その「女歌」を時代を追って読み、特質を確かめることは、日本文学史の一面を明らかにすることになるだろう。はじめに、現代の女性歌人が自身の歌をどのように捉えているかをみた後、歌垣に遡る日本のうたの起源を考える。そして、萬葉集の女性歌人や、平安時代の女房文学者などが、自己の人生といかに切り結びながら歌を詠んでいたかをみてゆく。

各作品の芸術的特質や文学的意義をその背景となる歴史や文化との関連において理解すること、歌人と作品の距離を確かめてゆくことを通じて、学生自身が文学との関わりを主体的に考えることを目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　現代の女性歌人
第3回目　折口信夫の女歌論（1）与謝野晶子・山川登美子
第4回目　折口信夫の女歌論（2）「ぽうず」「くちからでまかせ」
第5回目　歌垣
第6回目　中国少数民族の歌垣
第7回目　萬葉集の相聞歌
第8回目　額田王（1）紫草の贈答歌
第9回目　額田王（2）熟田津の歌　近江へ下る歌　春秋競憐歌
第10回目　額田王（3）山科御陵退散歌　弓削皇子との贈答
第11回目　大伴坂上郎女（1）相聞歌
第12回目　大伴坂上郎女（2）家刀自として
第13回目　萬葉集の女性歌人たち
第14回目　萬葉集と古今和歌集
第15回目　小野小町（1）小町集
第16回目　小野小町（2）小町伝説
第17回目　小野小町（3）無名草子の評
第18回目　清少納言（1）無名草子の評
第19回目　清少納言（2）清原元輔の子として
第20回目　紫式部日記
第21回目　小式部内侍（1）無名草子の評
第22回目　小式部内侍（2）小式部内侍の歌
第23回目　和泉式部（1）無名草子の評
第24回目　和泉式部（2）和泉式部集
第25回目　和泉式部（3）日記と和歌
第26回目　和泉式部（4）和泉式部日記
第27回目　女性と漢文
第28回目　歌にみる女性

履修の注意点

9回（授業回数の1/3)以上欠席した者は単位を認めない。毎回の小課題の提出をもって出席とする。

準備学習の内容

予告する歌や配布資料記載の文献について、注釈書などで学習する。
取り上げる歌人の歌集を読む。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

特に良いもの、共有すべき問題のあるものを授業内で紹介する。

成績評価の方法

小レポートなどによる平常点50%　期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(PE)LIT151J

外国文学	2単位
	1年次

准教授　内　田　兆　史

授業の概要・到達目標

≪授業の到達目標及びテーマ≫
　イスパノアメリカと呼ばれる地域、そして広くラテンアメリカが生み出した文学作品を、そこに暮らす人びとの歴史と、その中で生まれた暮らしやメンタリティ、政治との関わりとともに考察する。
　いわゆる「ラテンアメリカ」地域を、それ以外のアメリカやヨーロッパと比較し、またそれぞれの関係をとらえられるようになり、そのうえでイスパノアメリカの代表的作家たちの意識や作品に対する理解を深める。
≪授業の概要≫
　イスパノアメリカについて、まずはその成り立ちや、歴史に基づいたモザイク模様を織りなす文化を概観し、20世紀から今世紀にかけてのこの地域の代表的作家とその作品を取り上げ、それぞれの作家、作品を、地域や時代の特徴をとらえる。また、そうした文学作品をきっかけに制作された映画についても考察する。

授業内容

第1回：オリエンテーション　授業の目的と概要について説明し、中南米、ラテンアメリカおよびイスパノアメリカという語のとらえ方、それぞれが覆う範疇を定義する。
第2回：アメリカが誕生するまで　ラテンアメリカの古代史を概観する。
第3回：アメリカの誕生　ラテンアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、征服・植民地時代までを概観する。
第4回：アメリカの独立　ラテンアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、各国独立以降の歴史を概観する。
第5回：アメリカの現代　ラテンアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、現代史を概観する。
第6回：ラテンアメリカの文学とは
第7回：ラテンアメリカの短篇作品　カルロス・フエンテス「チャック・モール」
第8回：ラテンアメリカの短篇作品　イサベル・アジェンデ「ワリマイ」
第9回：ラテンアメリカの短篇作品　ミゲル・アンヘル・アストゥリアス「大帽子男の伝説」
第10回：ラテンアメリカの短篇作品　エレーナ・ガーロ「トラスカラ人の罪」
第11回：ラテンアメリカの短篇作品　アウグスト・モンテローソ「日蝕」
第12回：ラテンアメリカの短篇作品　オラシオ・キロガ「流れのままに」
第13回：ラテンアメリカの短篇作品　マリオ・バルガス＝リョサ「決闘」
第14回：ラテンアメリカの短篇作品　ガブリエル・ガルシア＝マルケス「フォルベス先生の幸福な夏」
　上記の授業計画は目安であり、じっさいの授業回数や進行にいくぶんの誤差は生じる。

履修の注意点

　早めにテキストを入手しておくこと。

準備学習の内容

　授業前には作品を読み、感想をまとめる。
　授業後には授業で学んだ背景を意識しつつ作品を読み直し、ラテンアメリカ文学のなかでの位置づけをする。

教科書

　野谷文昭編訳『20世紀ラテンアメリカ短篇選』（岩波文庫）1020円
　そのほか、授業内でプリントを配布する。

参考書

　授業中にブックリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

　提出されたリアクションペーパーおよび短篇に関する小レポートは翌授業時に紹介し、その質問に答えたり、考察したりする。

成績評価の方法

　リアクションペーパー（毎回、30%）、短篇の感想を主とした小レポート（計10回、40%）およびレポート（30%）

その他

　特になし。

科目ナンバー：(PE)LIT191J

言語と文化	2単位
	1年次

教授　中　村　幸　一

授業の概要・到達目標

世界の言語の文字を知る。文字の数は多いが、それらを辿ってゆくと、もとの文字の種類はそれほど多くはない。ローマ字はギリシャ文字、さらにフェニキア文字にさかのぼるという具合である。インドの文字、アラビア文字も同起源である。個別の文字に触れ、書いて、読む練習をしつつ、文字の面白さにふれることが目標である。

授業内容

1　イントロダクション、ローマ字
2　ギリシャ文字（1）
3　ギリシャ文字（2）
4　デーヴァナーガリー文字（1）
5　デーヴァナーガリー文字（2）
7　ヒッタイト語楔形文字（1）
8　ヒッタイト語楔形文字（2）
9　ヒッタイト語楔形文字（3）
10　台湾の注音符号（1）
11　台湾の注音符号（2）
12　ひらがな（1）
13　ひらがな（2）
14　まとめ

履修の注意点

文字の学習であるため、その文字の表す言語自体を知っている必要はない。

準備学習の内容

練習問題を必ず毎回解くこと。

教科書

資料をアップロードし、また配布することもある。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

個別にメールなどで行う。

成績評価の方法

学期末の練習問題（70%）と授業への参加度（30%）で行う。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW111J

法学

4単位

1年次

兼任講師　森　本　陽　美

授業の概要・到達目標

私たちが無条件に「法」として思い浮かべているのは、実は西欧法のことである。
何故、当然のようにそう思うのか。そもそも、西欧法を受け入れることになった理由は何か。
それは江戸時代末期に遡る。日本は、江戸時代末期に開国を強いられ、西欧諸国との間に不平等条約を結ばされた。それを改正するためには、西欧と同じ制度の「法」を持つことが国是であったからである。それから150年ほどが過ぎ、日本独特の法文化も形成されている。
この授業では、西欧法継受の歴史的背景、そもそも西欧由来の「法」とは何か、その理念としての目的である正義とは何か、東西文化が「法」に及ぼす影響、理想としての法と法の担い手などを中心に学習する。
また、法の機能的側面としての目的、即ち、国民相互の関係や国家もしくは地方公共団体と国民との関係等において、法が実際的にどのように働いているのかを具体的に学習する。
さらに、第二次世界大戦から現代に至るまで、「法」がどのように私たちの社会生活に影響を及ぼしているのかについて、東京裁判、裁判員制度、自衛隊にまつわる憲法問題、憲法解釈変更の閣議決定、憲法改正草案、安保法制などについても検討する。その他、時事問題についても取り上げる。
この授業を通して、法や社会問題に関心を持ち、社会の動きに敏感であることを望む。

授業内容

第１回：「法学」学習の注意点
第２回：「人間の」規範としての法
第３回：文化的現象としての法
第４回：　〃
第５回：日本と西欧法の出会い（総論）
第６回：　〃
第７回：日本と西欧法の出会い（各論）＼フランス
第８回：　〃　ドイツ
第９回：　〃　アメリカ
第10回：法の担い手とその養成
第11回：　〃
第12回：近代法の系譜および形態
第13回：近代法の諸様相
第14回：　〃
第15回：日本法の今後の課題
第16回：裁判員制度（講義）
第17回：　〃　（動画鑑賞）
第18回：裁判傍聴
第19回：東京裁判（講義）
第20回：　〃　（動画観賞）
第21回：平和主義
第22回：憲法９条の解釈と裁判
第23回：時事問題（１）　森友学園・赤木ファイルなど
第24回：共謀罪
第25回：安保法制
第26回：時事問題（２）　統一教会など
第27回：憲法改正
第28回：討論

履修の注意点

初回に自己紹介を兼ねた課題がひとつあり、学期の最終月に教科書の内容を発展させたレポートが一つあります。
これらの提出がが試験の受験条件となります。
学期の前半は、テキストを中心に授業が行われます。
学期の後半は、戦後の日本がどのように法を運用しているのかを実際的な例から学んでいきます。
裁判傍聴はとても興味深い体験となりますので、事情が許せば積極的に参加してください。
授業は出来る限り双方向授業にして、議論したり、皆と一緒に授業を作り上げるつもりです。
その時々の時事問題を一緒に考える時間も設けますので、世の中の動きに是非とも関心を払って下さい。

準備学習の内容

まずは教科書・新聞を読み、現在の政治の動きを常に把握することが重要です。
西欧法について、または法の支配に関する本がたくさん出版されていますので、それらを読んでおくと授業が分かりやすくなります。

教科書

『法学入門』三ケ月章著（弘文堂）

参考書

『長沼事件 平賀書簡―35年目の証言 自衛隊違憲判決と司法の危機』福島 重雄 ・水島 朝穂 ・大出 良知 共著
『弁護の技術と倫理　弁護の道の七燈』Edward Abbott Parry著、日弁連法務研究財団訳

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業の冒頭で主だった回答を紹介したり、真剣に話し合いたい学生には、全体での議論も行います。
最終回の授業時に、半期を通じたフィードバックを行います。

成績評価の方法

定期試験（70％）、レポート（20％）、授業への貢献度（10％）で評価します。

その他

2コマ連続授業は心身共にきつい時もありますが、一緒に頑張ってまいりましょう。

科目ナンバー：(PE)GEO191J

地理学

4単位

1年次

兼任講師　宮　嶋　祐　一

授業の概要・到達目標

地理学はいわゆる社会の“常識”に役立つ学問であり、自然環境や経済、政治、歴史など多くの学問分野と関連する学際的な面を持つ学問である。皆さんが今後社会に出たときに、今世界や日本ではどのような課題があり、その解決を目指すにはどうすべきか、を一緒に考えていくことをこの授業の目標とする。
授業は２つに分け、系統地理学（いわゆるテーマ学習）と世界地誌を扱うこととする。１限目（第１回～第14回）を系統地理学、２限目（第15回～第28回。ただし第15、16回は系統地理学を実施）を世界地誌とする。
系統地理学を学び、それが実際の地域（地誌）ではどのようになっているのか、２つを関連付けて考えていくこととする。

授業内容

第１回目　地理学とは 地理を学ぶ意義。地理学の歴史と役割。
第２回目　地球環境問題（１）　どのような環境問題が起きているのか。
第３回目　地球環境問題（２）　世界は環境問題解決に向けどのように活動しているか。 SDGs
第４回目　エネルギー問題（１）　化石燃料の使用状況と今後の課題。
第５回目　エネルギー問題（２）　原子力をどう考えるか。自然エネルギーの可能性と課題。
第６回目　世界の宗教　各宗教の特徴と課題。
第７回目　人種・民族問題（１）　人種・民族差別の歴史と構図。人権問題。
第８回目　人種・民族問題（２）　人種・民族問題解決に向けて考える。
第９回目　人口問題（１）　世界と日本の人口問題。
第10回目　人口問題（２）　外国人労働者の問題を考える。
第11回目　都市問題（１）　日本における大都市圏への人口集中と過密化。
第12回目　都市問題（２）　日本における地方の衰退。消滅可能都市。コンパクトシティ。
第13回目　地図と防災　地形図の読み取り。地形図から災害を考える。
第14回目　１限授業の総括と確認テスト
第15回目　国家と領域　国家の機能。領域の役割
第16回目　世界と日本の産業　産業の現状と課題
第17回目　東アジア（１）　朝鮮半島の現状と課題を考える。
第18回目　東アジア（２）　中国の政治経済。中国の抱える課題を考える。
第19回目　東南アジア　ASEANとは 。重要性を増す東南アジアの役割。グローバルサウス。
第20回目　南アジア　インド社会の現状と課題。
第21回目　西アジア・アフリカ　地域内の対立とアメリカとの関係。パレスチナ問題。サブサハラアフリカ地域の現状と課題。
第22回目　ヨーロッパ（１）　EUの目的と特徴。
第23回目　ヨーロッパ（２）　ヨーロッパ内部の対立。移民問題。
第24回目　ロシア　ロシアの現状と課題。ロシアとウクライナの関係。
第25回目　北アメリカ　人種・民族の対立と社会の分断。
第26回目　南アメリカ　現状と課題。協調と対立。
第27回目　オセアニア　オセアニアの現状と課題。マルチカルチャリズムとは。
第28回目　２限授業の総括と確認テスト

履修の注意点

社会に出た時、または教員を希望している場合、欠席や遅刻に対しては厳しいので、理由のない欠席、遅刻はしないこと。特に１限は遅刻に注意すること。また、授業中に許可なくスマホ等を見ることも禁止するので、きちんとルールを守って授業に臨んで欲しい。

準備学習の内容

系統地理、世界地誌とも現代社会の動向を取り扱うので、常に新聞、テレビのニュース等に目を通し、現在の世界の動きに関心を持つこと。地誌については、予習として指定した教科書の該当ページを読んでおき、わからない点については調べておくこと。

教科書

２限の地誌分野において、地理教育研究会編　2025年 『地理で読み解く現代社会－教師のための世界地理－』 古今書院2860円（税込）を指定する。

参考書

中学、高校時代の地図帳をいつでも見ることができるようにしておくこと。地図帳を持参することが望ましい。
竹内　克行編著　2022年 『人文地理学のパースペクティブ』 ミネルヴァ書房　3,300円（税込）
伊藤　達也他編著　2020年 『経済地理学への招待』 ミネルヴァ書房　3,850円（税込）
その他参考書は授業内で紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを授業時に記入してもらうが、そこに質問等がある場合には、次回授業時に回答し、全体で共有していく。

成績評価の方法

1限、２限それぞれについて最後に筆記試験を実施する。また、レポートや小テストも行う。実施前に通知する。筆記試験・レポート・小テストで７割、授業への参加度で３割とする。なお、欠席が３分の１を超えた場合は評価しないので、欠席回数については各自責任を持って管理すること。

その他

出欠状況、遅刻を厳しく見るので注意すること。また、授業中に断りもなく出入りをしないこと。単位は100分間受講して認定されるものである。

科目ナンバー：(PE)GEO191J

地理学	4単位
	1年次

兼任講師　内　藤　芳　宏

授業の概要・到達目標

地理学は、自然科学と人文科学あるいは社会科学にまたがる、いわゆる学際的な学問である。また「場所・地域・空間」にこだわる、いわば空間認識の学問である。世界には見たことも聞いたともない事象だらけである。テキストをもとに世界各地を地誌学的に探り、ヨーロッパとくに北欧におけるフィールドワークについては丁寧に扱う。地理は苦手でも、旅は好きと答える方も少なくない。地理学の有効性・おもしろさ・可能性を探り、理解することを到達目標としたい。

授業内容

第1回　地理学とは何か「歩く」「見る」「考える」
第2回　アジア①「中国の社会と変化」
第3回　アジア②「香港を歩く」
第4回　アジア③「朝鮮半島の課題」
第5回　アジア④「ASEANとグローバルサウス・少数民族」
第6回　アジア⑤「インドの発展」
第7回　アジア⑥「バングラディシュを歩く・ブータンを歩く」
第8回　アジア⑦「西アジア・イスラーム世界と産油国・パレスチナとイスラエル」
第9回　アフリカ①「アフリカを歩く・雄大な自然と環境変化」
第10回　アフリカ②「アフリカの静かな戦い、飢餓と飢饉、終焉から30年」
第11回　ヨーロッパ①「EUに加盟する国・しない国」
第12回　ヨーロッパ②「EU域内を移動する・自由な往来はできる？」
第13回　ヨーロッパ③「スカンディナヴィア半島を歩く」
第14回　ヨーロッパ④「北大西洋の島々を歩く・氷河と火山地形、環境大国とは」
第15回　ヨーロッパ⑥「イベリア半島を歩く」
第16回　ヨーロッパ⑦「自由な往来とEUの付加価値税から考える」
第17回　ヨーロッパ⑧「ウクライナ危機」
第18回　北アメリカ①「世界最大の工業国？農業国？」
第19回　北アメリカ②「ニューヨークを歩く・民族のサラダボウル」
第20回　北アメリカ③「分断と多文化主義」
第21回　中南アメリカ「BRICSに入ったブラジル」
第22回　中南アメリカ「複雑な人種と日系人」
第23回　オセアニア「アボリジニと多文化主義、ニュージーランドを歩く」
第24回　オセアニア「アジアと結びつくオーストラリア」
第25回　南極圏「地球規模の気候変動」
第26回　地理情報をどのように活用するか
第27回　世界の歩き方「旅づくりとリスクマネジメント」
第28回　地理学の愉しみ　まとめ
※講義内容は必要に応じて順番を入れ替えることもある

履修の注意点

資料映像やパワーポイント等を使うため、欠席すると学習が困難になることを意識されたい

準備学習の内容

指定されたテキスト(教科書)を必ず購入し、その都度当該箇所を一読する。また高等学校使っていた地図帳を用意し、授業内容に限らず、日常的な報道(ニュース等)から得られる事象をあわせて確認すること。

教科書

地理教育研究会編『地理で読み解く現代世界』古今書院2,860円（税込）
ISBN978-4-7722-5361-1

参考書

地理学に関わる入門書として以下を紹介する。
大野新・竹内裕一編『世界をつなぐ地理総合の授業』大月書店
今尾恵介『地図帳深読み』帝国書院
上杉和央 小野映介編『みわたす・つなげる地誌学』古今書院

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体講評を必要に応じて行う

成績評価の方法

原則として毎回リアクションペーパーを提出し、平常点として30%、期末試験(100点満点)70%で評価する。なお欠席が3分の1を超えた者は一切評価しない。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ANT111J

文化人類学【2021年度以前入学者】

4単位

1年次

兼任講師　吉　村　　竜

授業の概要・到達目標

≪春学期≫
本講義は、人類学の歴史と理論に関する体系的理解を深めるとともに、事例の分析や解釈を通して人類学的思考を身につけることを目的としている。
＜到達目標＞
事例分析に基づき人類学の歴史と理論について説明することができる。
≪秋学期≫
本講義は、フィールドワークに基づく人類学の理論と方法論を学び、個別の民族誌を分析し解釈するとともに、その成果と展望について理解を深めることを目的としている。
＜到達目標＞
人類学の理論と方法を用いて、さまざまな事象・出来事を解釈し、説明することができる。

授業内容

≪春学期≫
第１回　イントロダクション：人類学から「あたりまえ」を切り崩す
第２回　文化は進化するのか？：人類学の考え方（１）
第３回　文化に優劣はあるのか？：人類学の考え方（２）
第４回　血のつながった人だけが家族なのか？：出自と親族
第５回　だれとでも結婚できるのか？：婚姻とタブー
第６回　母系社会からみる家族と結婚
第７回　子どもと大人はどうちがうのか？：儀礼と文化
第８回　赤ちゃんはどこからやってくるのか？：性と文化（１）
第９回　男らしさや女らしさとはなんであるか？：性と文化（２）
第10回　贈り物をもらったらお返しをするのはなぜか？：贈与と文化
第11回　おカネにはどんな意味があるのか？：貨幣と文化
第12回　人間はなぜ働くのか？：生業と文化
第13回　どうやって文化を知り、書くのか？：フィールドワークと民族誌
第14回　まとめと総括
≪秋学期≫
第１回　イントロダクション：異文化から自文化を捉えなおす
第２回　日本国籍を持つ人だけが日本人なのか？：国家と民族
第３回「人種」とはなにか？：人種に関する批判理論
第４回　ケンカをしたらどうやって仲直りをするのか？：法と文化
第５回　きたないものに触れたくないのはなぜか？：汚穢（ケガレ）と禁忌
第６回「ツイてない」のは自分のせいなのか？：呪術と妖術
第７回　病院に行けば病いは治るのか？：医療と文化
第８回　悪魔はどこにいるのか？：資本主義と人類学
第９回「助ける」とはどういうことか？：開発人類学
第10回　観光地の文化はホンモノ？ニセモノ？：観光人類学
第11回　文化は売り物にしてよいのか？：観光開発と文化
第12回　文化は自然と切り離されているのか？：存在論と多自然主義
第13回　人類学の知識は社会にどのように活かせるのか？
第14回　まとめと総括

履修の注意点

関連する講義を併行して履修することが望ましい。講義課題と資料はOh-o! Meijiで配布する。

準備学習の内容

講義中に指示する次回の論点整理と準備学習、及び振り返りと課題省察を行う（各30分程度）。

教科書

特に使用しない。適宜、講義資料を配布する。

参考書

綾部恒雄・桑山敬己編『はじめての文化人類学』ミネルヴァ書房
梅屋潔・シンジルト共編『新版 文化人類学のレッスン』学陽書房
浜本満・浜本まり子共編『人類学のコモンセンス』学術図書出版社
岸上伸啓『はじめて学ぶ文化人類学』ミネルヴァ書房
箕曲在弘『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』大和書房
その他各講義テーマに基づき適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、Oh-o! Meijiにより、関連資料を付して全体講評を行います。

成績評価の方法

レポート課題（60%）、リアクションペーパー（30%）、授業への参加状況（10%）

その他

科目ナンバー：(PE)ANT111J

文化人類学【2021年度以前入学者】	4単位
	1年次

准教授　比　嘉　理　麻

授業の概要・到達目標

本講義の前半部では、文化人類学の基本的な視点を学び、人類の文化的多様性と普遍性について理解することを目的とする。文化人類学の異文化理解を通じて、我われにとって自明な枠組みを内省し、普遍的な人間理解へと到達することを目標とする。
また本講義の後半部では、アナキズム人類学の基本的な視点を学び、支配されずに生きるための視座を獲得することを目的とする。現代社会は、近代国家や資本主義の論理が複雑に絡んだ支配の網の目の内にある。そうした状況下にあっても、人間らしい連帯を築き、自由に生きるための実践理論を習得することを到達目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　文化相対主義と自文化中心主義
第3回目　日本と欧米の捕鯨論争
第4回目　韓国の犬食ナショナリズムとペット家族論
第5回目　人と動物の共生をめぐる政治人類学
第6回目　アニマル・ファクトリーと動物解放論
第7回目　ベジタリアンという生き方
第8回目　異種間コミュニケーションは可能か？
第9回目　マルチスピーシーズ人類学
第10回目　多文化主義と「多自然主義」
第11回目　ミーアキャットに恋をして
第12回目　ポストヒューマン時代の人類学の幕開け
第13回目　ラインズ論：世界は「線」でできている
第14回目　前半のまとめ
第15回目　イントロダクション
第16回目　文化相対主義と自文化中心主義
第17回目　アナキズム人類学へ
第18回目　国家に抗する社会
第19回目　平地の稲作と国家統治
第20回目　アジア山岳地帯の「ゾミア」という生き方
第21回目　海賊たちの啓蒙：統治されない技術
第22回目　民主主義の非西洋的起源から、私たちの中にある基盤的コミュニズムへ
第23回目　米軍基地反対運動と命の民主主義
第24回目　ブルシット・ジョブから命のケア・ワークへ
第25回目　北海道べてるの家から学ぶ「生のケアのコミュニティ」
第26回目「傷つきやすさ」の交差性
第27回目　人間あらざるものたちとの連帯
第28回目　後半のまとめ

履修の注意点

遅刻・私語禁止

準備学習の内容

配布資料に記載されている参考文献を精読する。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の内容に関する重要な論点は、授業中に解説する。

成績評価の方法

平常点（30点）、期末試験（70点）

その他

Oh-o! Meijiにレジュメを掲載するので、授業の際には印刷・ダウンロードして持参すること。

科目ナンバー：(PE) ANT111J	
文化人類学Ａ【2022年度以降入学者】	2単位
	1年次
兼任講師　吉　村　　竜	

授業の概要・到達目標

本講義は、人類学の歴史と理論に関する体系的理解を深めるとともに、事例の分析や解釈を通して人類学的思考を身につけることを目的としている。
＜到達目標＞
事例分析に基づき人類学の歴史と理論について説明することができる。

授業内容

第１回　イントロダクション：人類学から「あたりまえ」を切り崩す
第２回　文化は進化するのか？：人類学の考え方（１）
第３回　文化に優劣はあるのか？：人類学の考え方（２）
第４回　血のつながった人だけが家族なのか？：出自と親族
第５回　だれとでも結婚できるのか？：婚姻とタブー
第６回　母系社会からみる家族と結婚
第７回　子どもと大人はどうちがうのか？：儀礼と文化
第８回　赤ちゃんはどこからやってくるのか？：性と文化（１）
第９回　男らしさや女らしさとはなんであるか？：性と文化（２）
第10回　贈り物をもらったらお返しをするのはなぜか？：贈与と文化
第11回　おカネにはどんな意味があるのか？：貨幣と文化
第12回　人間はなぜ働くのか？：生業と文化
第13回　どうやって文化を知り、書くのか？：フィールドワークと民族誌
第14回　まとめと総括

履修の注意点

関連する講義を併行して履修することが望ましい。講義課題と資料はOh-o! Meijiで配布する。

準備学習の内容

講義中に指示する次回の論点整理と準備学習、及び振り返りと課題省察を行う（各30分程度）。

教科書

特に使用しない。適宜、講義資料を配布する。

参考書

綾部恒雄・桑山敬己編『はじめての文化人類学』ミネルヴァ書房
梅屋潔・シンジルト共編『新版 文化人類学のレッスン』学陽書房
浜本満・浜本まり子共編『人類学のコモンセンス』学術図書出版社
岸上伸啓『はじめて学ぶ文化人類学』ミネルヴァ書房
箕曲在弘『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』大和書房
その他各講義テーマに基づき適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、Oh-o! Meijiにより、関連資料を付して全体講評を行います。

成績評価の方法

レポート課題（60%）、リアクションペーパー（30%）、授業への参加状況（10%）

その他

科目ナンバー：(PE) ANT111J	
文化人類学Ａ【2022年度以降入学者】	2単位
	1年次
准教授　比　嘉　理　麻	

授業の概要・到達目標

本講義では、文化人類学の基本的な視点を学び、人類の文化的多様性と普遍性について理解することを目的とする。

文化人類学の異文化理解を通じて、我われにとって自明な枠組みを内省し、普遍的な人間理解へと到達することを目標とする。

授業内容

第１回目　イントロダクション
第２回目　文化相対主義と自文化中心主義
第３回目　日本と欧米の捕鯨論争
第４回目　韓国の犬食ナショナリズムとペット家族論
第５回目　人と動物の共生をめぐる政治人類学
第６回目　アニマル・ファクトリーと動物解放論
第７回目　ベジタリアンという生き方
第８回目　異種間コミュニケーションは可能か？
第９回目　マルチスピーシーズ人類学
第10回目　多文化主義と「多自然主義」
第11回目　ミーアキャットに恋をして
第12回目　ポストヒューマン時代の人類学の幕開け
第13回目　ラインズ論：世界は「線」でできている
第14回目　総括

履修の注意点

遅刻・私語禁止。
Oh-o!Meijiにレジュメを掲載するので授業の際には印刷・ダウンロードして持参すること。

準備学習の内容

配布資料に記載されている参考文献を精読する。

教科書

特に指定しない。

参考書

講義中に適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の内容に関する重要な論点は、授業中に解説する。

成績評価の方法

平常点（30点）、期末試験（70点）

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ANT111J	
文化人類学Ｂ【2022年度以降入学者】	2単位
	1年次
兼任講師　吉　村　　竜	

授業の概要・到達目標

本講義は、フィールドワークに基づく人類学の理論と方法論を学び、個別の民族誌を分析し解釈するとともに、その成果と展望について理解を深めることを目的としている。
＜到達目標＞
人類学の理論と方法を用いて、さまざまな事象・出来事を解釈し、説明することができる。

授業内容

第1回　イントロダクション：異文化から自文化を捉えなおす
第2回　日本国籍を持つ人だけが日本人なのか？：国家と民族
第3回　「人種」とはなにか？：人種に関する批判理論
第4回　ケンカをしたらどうやって仲直りをするのか？：法と文化
第5回　きたないものに触れたくないのはなぜか？：汚穢（ケガレ）と禁忌
第6回　「ツイてない」のは自分のせいなのか？：呪術と妖術
第7回　病院に行けば病いは治るのか？：医療と文化
第8回　悪魔はどこにいるのか？：資本主義と人類学
第9回　「助ける」とはどういうことか？：開発人類学
第10回　観光地の文化はホンモノ？ニセモノ？：観光人類学
第11回　文化は売り物にしてよいのか？：観光開発と文化
第12回　文化は自然と切り離されているのか？：存在論と多自然主義
第13回　人類学の知識は社会にどのように活かせるのか？
第14回　まとめと総括

履修の注意点

関連する講義を併行して履修することが望ましい。講義課題と資料はOh-o! Meijiで配布する。

準備学習の内容

講義中に指示する次回の論点整理と準備学習、及び振り返りと課題省察を行う（各30分程度）。

教科書

特に使用しない。適宜、講義資料を配布する。

参考書

綾部恒雄・桑山敬己編『はじめての文化人類学』ミネルヴァ書房
梅屋潔・シンジルト共編『新版 文化人類学のレッスン』学陽書房
浜本満・浜本まり子共編『人類学のコモンセンス』学術図書出版社
岸上伸啓『はじめて学ぶ文化人類学』ミネルヴァ書房
箕曲在弘『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』大和書房
その他各講義テーマに基づき適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、Oh-o! Meijiにより、関連資料を付して全体講評を行います。

成績評価の方法

レポート課題（60%）、リアクションペーパー（30%）、授業への参加状況（10%）

その他

科目ナンバー：(PE)ANT111J	
文化人類学Ｂ【2022年度以降入学者】	2単位
	1年次
准教授　比　嘉　理　麻	

授業の概要・到達目標

本講義では、アナキズム人類学の基本的な視点を学び、支配されずに生きるための視座を獲得することを目的とする。現代社会は、近代国家や資本主義の論理が複雑に絡んだ支配の網の目の内にある。

そうした状況下にあっても、人間らしい連帯を築き、自由に生きるための実践理論を習得することを到達目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　文化相対主義と自文化中心主義
第3回目　アナキズム人類学へ
第4回目　国家に抗する社会
第5回目　平地の稲作と国家統治
第6回目　アジア山岳地帯の「ゾミア」という生き方
第7回目　海賊たちの啓蒙：統治されない技術
第8回目　民主主義の非西洋的起源から、私たちの中にある基盤的コミュニズムへ
第9回目　米軍基地反対運動と命の民主主義
第10回目　ブルシット・ジョブから命のケア・ワークへ
第11回目　北海道べてるの家から学ぶ「生のケアのコミュニティ」
第12回目　「傷つきやすさ」の交差性
第13回目　人間あらざるものたちとの連帯
第14回目　総括

履修の注意点

遅刻・私語禁止。
Oh-o!Meijiにレジュメを掲載するので授業の際には印刷・ダウンロードして持参すること。

準備学習の内容

配布資料に記載されている参考文献を精読する。

教科書

特に指定しない。

参考書

講義中に適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の内容に関する重要な論点は、授業中に解説する。

成績評価の方法

平常点（30点）、期末試験（70点）

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)PSY191J

現代心理学	2単位
	1年次

兼任講師　羽　岡　邦　男

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
心理学は「行動の科学」とも呼ばれています。私たちの日常行動の全てが、心理学の研究対象といっても過言ではないでしょう。本講義では多岐にわたる人間行動の中から、私たちと特に関わりが深い項目、すなわち「性格の形成や変容」、「対人関係の構築」、そして「集団行動」を柱に、それぞれに対する基本的な理論や考え方を解説します。また、抽象的な説明に終始するのではなく、より具体的な説明（事例）を織り交ぜながら、それぞれの特徴、問題点、今後の課題などを考えていきます。
〈到達目標〉
下記の授業スケジュールに沿って、現代社会を生きる私たちが日常経験し、また将来経験・遭遇するであろう様々な「行動」や「現象」に関して、その具体的な仕組みを理解することを到達目標の1つとします。
もう1つの到達目標は、本講義を通じて「自分自身の成長を促すこと」です。すなわち、学生から社会人に向けて歩みを進めている皆さんにとって、「性格」、「発達・キャリア」、「対人」といったテーマから自分の人生を振り返ること、自分自身を知ること、自分の世界・活動範囲を広げること、自分の生き方に対して何らかの方向性を定めること…等は、自分自身の成長を促す上で重要な課題といえましょう。このような「課題」に対して、本講義は様々なヒントを与えるものと考えています。
以上の2点を到達目標とします。

授業内容

第1回　aのみ：イントロダクション（人生と心理学、日々の暮らしと心理学）
第2回　性格（1）：性格に関する俗説と誤解（あなたは、いわゆる「性格診断」を信じますか?）
第3回　性格（2）：性格はどのようにして形成されるのか?（性格形成の基本的なメカニズム）
第4回　性格（3）：性格は変えられるか?　多面性格と多重人格（違いを正しく説明出来ますか?）
第5回　発　達：発達段階と発達課題、青年後期の発達課題とは?
第6回　キャリア：キャリアとは何か?　いつから取り組むのか?
第7回　対人（1）：私たちは相手の何を知ろうとしているのか?（社会的欲求、社会的認知、原因帰属）
第8回　対人（2）：態度とは?　説得とは?　説得の手法
第9回　対人（3）：対人魅力とは何か?
第10回　対人（4）：対人コミュニケーションの基本（相手に何を伝えようとしているのか?）
第11回　集団（1）：集団の概念、集団規範、同調と服従
第12回　集団（2）：リーダーとリーダーシップ
第13回　集合現象：群衆と群集、群集心理とは?　流言とデマ、パニック、情報パニック
第14回　ストレスとメンタルヘルス：ストレスの概念、「思考のクセ」とメンタルヘルス
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

まず、このシラバスの内容をよく読んだ上で、履修するか否かを考えてください。その上で履修・受講される皆さんには、講義に対して積極的に「参加」する姿勢を求めます。この「参加」とは、講義で取り上げる各テーマに対して、「自分の場合はどうだろうか」あるいは「この場合、自分ならどのように対処するだろうか」といった「問題意識」を常に持ちながら受講することを指します。この「問題意識」が無いと、抽象的な概念だけをただ詰め込むような「つまらない」受講になってしまい、先述した「自分自身の成長」が期待できないからです。
繰り返しますが、このシラバスを熟読の上、「本講義は自分にとって、どのような意味を持つのか」を一人ひとりがしっかりと考えた上で、履修についての判断をしてください。

準備学習の内容

毎回、講義の終わりに簡単な課題、もしくはアンケートを実施します。これは次回の講義内容に関するものであり、結果や傾向を次回の講義に反映させますので必ず回答してください。この際に次回講義に関する「要点」を示しますので、参考書や文献、最近の報道(ニュース)などを用いて準備学習を確実に行ってください。
あわせて、毎回の講義内容については、レジュメを用いて復習を怠らないようにしてください。これは例えば「性格」で紹介した内容や理論が、後の「対人」や「集団」で再び登場することがあるからです。そのため、復習が十分でないと、関係性がわからない(曖昧な)まま受講し続けるといった不具合が生じてしまいます。また、理解を確実にするためにも、不明な箇所は遠慮なく質問してください。
さらに、履修・受講を希望する人は、1970年以降の日本の文化や流行(の変遷)、事件・出来事や世相などを大まかに把握しておいてください。講義で説明する諸理論の「実例」や「背景」を紹介する際に、理解の助けとなるはずです。

教科書

特に定めません。毎回、講義の要旨（レジュメ）を配布します。なお、配布されたレジュメは当該講義以外の回でも使うことがありますので、毎回持参するようにしてください。

参考書

『心理学・入門―心理学はこんなに面白い 改訂版』　サトウタツヤ、渡邊芳之（有斐閣）2019年
『人間とコミュニケーション』　原岡一馬編著（ナカニシヤ出版）1990年
『対人関係の社会心理学』　長田雅喜編著（福村出版）1996年
『「承認欲求」の呪縛』　太田肇（新潮社）2019年

課題に対するフィードバックの方法

講義の後に実施する「課題・アンケート」の結果は、次回の講義で紹介し、解説に反映させます。
レポート課題については、講義時間内で「全体講評」を紹介すると共に、詳細をクラスウェブにて解説します。

成績評価の方法

授業への参加度（課題・アンケートへの回答を含む）20%、レポート課題30%、期末試験50%で評価します。

その他

連絡事項、補足説明、質問への回答などでクラスウェブを使用します。こまめに確認して、漏れの無いようにしてください。

科目ナンバー：(PE)PSY191J

心理学概論	2単位
	1年次

准教授　樋　口　　収

授業の概要・到達目標

人の心は、他者や周囲の環境にうまく対応するための重要な働きを担っている。本講義ではそうした人の心の働きについて解説する。
到達目標は（1）心理学の専門用語を理解すること、（2）心理学の研究データを理解できるようになること、（3）その用語を用いて人の心の働きについて説明できるようになること、である。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　心の進化
第3回目　対人関係①: 短期配偶
第4回目　対人関係②: 長期配偶
第5回目　子育て
第6回目　心理学実験の体験①
第7回目　所属欲求
第8回目　同調と服従
第9回目　利他行動
第10回目　心理学実験の体験②
第11回目　心理学研究の最前線
第12回目　文化①
第13回目　文化②
第14回目　まとめ

履修の注意点

講義中の私語は厳禁である。また初回の講義に課外学習などについても説明をするので**「必ず」**参加すること。どうしても出席できない場合には**「事前」に樋口まで「理由を含めて」連絡をする**こと（email: ohgc29[at]meiji.ac.jp: [at]は@にする）。授業の順番は、受講生の理解度に応じて前後することもある。
なお、**春学期は2年生、秋学期は1年生が対象**となっているので、履修をする際には注意すること。

準備学習の内容

各回の最後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読すること。

教科書

使用しない。

参考書

『心理学』無藤隆他（有斐閣）2004年
『心理学ビジュアル百科』越智啓太編2016年

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji のシステムを通じておこなう。

成績評価の方法

授業への参加度（20%）、期末試験（80%）

その他

この講義では、講義内あるいは講義外で心理学の実験を実施する予定である。参加は任意であるが、良い経験になるので、興味をもって参加して欲しい。

科目ナンバー：(PE)ARS191J

文化論概論

4単位

1年次

教授　山　岸　智　子

授業の概要・到達目標

「私たち」という枠組みは、世代間の価値観の違い、異なる民族への違和感、衣食住や家族の在り方にかかわる日常生活で"当然"視されること、などを通して意識される。そしてその枠組みの指標となるものは、しばしば「文化」とよばれる。文化は人々の生活様式や価値体系を作り、規定し、再生産することで、人々にきずなや社会性を持つことを可能にする、と考えられる。そのため、人々のきずなや社会性なしには成立しないし、政治・経済を考えるに際しても、文化を無視することはできない、といえるだろう。

昨今のアメリカやイギリスでは、かつてのようなイデオロギー対立や階級間闘争ではなく、「文化戦争Culture War」が亀裂を表す用語となっていることもしばしばである。そのような状況を意識しつつ、この授業の前半部では、文化研究（カルチュラル・スタディーズ）で分析概念として使われるターム（用語）や概念を整理しつつ紹介する。後半では、文化論として社会科学に関連する論考をとりあげて説明し、授業の前半部で紹介したタームがどのように分析概念として使われているかを例示し、自分たちの「近代」的な世界観や生活様式の存立構造を考察する。

抽象的な概念と具体的な事柄を自分の頭のなかで結びつけるレッスンをすること、そして、「自分」のアイデンティティがどのような文化装置によって成立しているのか、そしてそれがどのような社会を構築することが期待されているのかを考える力を養うことが、この授業の目標である。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　アイデンティティ、ヘゲモニー(覇権)
第3回　民族（エスニシティとネーション）
第4回　人種
第5回　文化資本
第6回　オリエンタリズム
第7回　構築主義と本質主義
第8回　ジェンダー
第9回　グローバル化
第10回　ポップカルチャー
第11回　多文化主義
第12回　ナラティブ
第13回　前半の復習
第14回　『想像の共同体』から　近代以前の政治社会構造と世界観について
第15回　『想像の共同体』から　メディアと資本、南北アメリカにおけるネーション出現
第16回　『想像の共同体』から　民族固有の言語と文化、という考え方、18〜19世紀ヨーロッパ
第17回　『想像の共同体』から　公定ナショナリズム
第18回　『想像の共同体』から　新興国家のナショナリズム
第19回　『想像の共同体』から　人種主義と愛国、記憶の問題、全体のまとめ
第20回　『創られた伝統』（序章)定義と概観
第21回　『創られた伝統』（最終章）ヨーロッパ19世紀末から20世紀の伝統の大量生産
第22回　『創られた伝統』から　スポーツと「伝統」
第23回　オリエンタリズムの日本的再生産
第24回　日本人と多文化主義
第25回　日本の移民政策
第26回　消費文化
第27回　グローバル化と文化
第28回　全体のまとめ

履修の注意点

この授業は週に2回授業を行い、一学期で4の科目なので、時間割によく注意すること。
わかりやすく説明するためにできるだけ努力するが、抽象的な概念や理屈が授業の主たる内容となっているため、履修者が授業内容を自分のものにする努力に期待するところが大きい。
高校の世界史の内容が頭に入っている方がのぞましい。

準備学習の内容

予習よりも、Oh-o! Meijiにアップロードする授業内容の概要や、リアクションペーパーを通して各自で復習し得た知識を整理することが重要である。

教科書

特になし

参考書

アンダーソン『想像の共同体』
ホブズボーム編『創られた伝統』
テッサ・モーリス＝スズキ『日本人とマルチカルチュラリズム』
姜尚中『オリエンタリズムの彼方へ』
ほか

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容について、報告やコメント、質問への返答をする

成績評価の方法

期末の試験(場合によってはレポート50%、授業への積極的な参加とリアクション50%

その他

科目ナンバー：(PE)EDU131J

異文化理解とコミュニケーション	2単位
	1年次

教授　海　野　素　央

授業の概要・到達目標

異文化間コミュニケーションにおいて、スムーズな関係を構築し、維持するためには、文化的背景の異なる相手の価値観、信念、思考様式を理解し、自分の意見を主張でき、自文化を相手に理解させ、その上で相手と共生していくための接点を見出すことが重要である。

本講義では、基礎的な理論及び概念を紹介し、そうした理論に基づいて、学生諸君に、円滑な異文化間コミュニケーションを促進していくためのスキルを習得させることにねらいを定めている。すなわち、それらは異文化環境において文化的認知度を高め、適切な行動をとることができるようなスキルである。そうしたプロセスを通じて、学生諸君の異文化理解を深めることが、本講義の最終目的である。

授業内容

異文化間コミュニケーションの基礎知識と実践を2本の柱とした構成とする。

理論面では、E・ホール、M・ベネット、J・ベネット、W・グディカンスト等の基礎理論の講義に続いて、講師が展開している異文化対応型リーダーシップに焦点を当てる。一方、実践面では、事例やシミュレーション（模擬体験）等を取り入れながら、異文化間コミュニケーション力を向上させたいと考えている。

尚、本講義では、2008年、12年、16年及び20年米大統領選挙において、オバマ、ヒラリー・クリントン及びバイデン陣営に参加した経験に基づいて、オバマ元大統領とトランプ元大統領及びバイデン大統領のリーダーシップ並びにコミュニケーションスタイルについても講ずる予定である。

本講義では、以下の内容を考えている。

第1回　イントロダクション
第2回　自文化中心主義と文化相対主義Ⅰ
第3回　自文化中心主義と文化相対主義Ⅱ
第4回　言語・非言語コミュニケーションⅠ
第5回　言語・非言語コミュニケーションⅡ
第6回　事例研究
第7回　ステレオタイプ・偏見・人種差別Ⅰ
第8回　ステレオタイプ・偏見・人種差別Ⅱ
第9回　事例研究
第10回　カルチャーショックと異文化適応
第11回　異文化対応型リーダーシップ
第12回　オバマ陣営・クリントン陣営・バイデン陣営の戸別訪問
第13回　トランプ米大統領のリーダーシップスタイルとコミュニケーションスタイル
第14回　講義全体のふりかえり

また、講師による一方的な講義を避け、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。

履修の注意点

社会心理学、文化人類学、社会学、経営学、コミュニケーション論、比較文化論、政治学（外交交渉論）等の関連科目を履修することが望ましい。

準備学習の内容

次回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。異文化間コミュニケーション論で扱う理論や概念を復習すること。

教科書

特に定めない

参考書

海野素央（2013）『オバマ再選の内幕　オバマ陣営を支えた日本人が語る選挙戦略』（同友館）
海野素央（2002）『異文化ビジネスハンドブック　事例と対処法』（学文社）
ウイリアム・B・グディカンスト　ICC研究会訳（1993）『異文化に橋を架ける』（聖文社）
L・A・サモーバー　西田司訳（1983）『異文化間コミュニケーション入門ー国際人養成のために』（聖文社）

課題に対するフィードバックの方法

事例についての発表に関して、講師が口頭でフィードバックを行う。

成績評価の方法

「期末試験 」「授業への貢献度」

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)EDU131J

異文化摩擦とコミュニケーション	2単位
	1年次

教授　海　野　素　央

授業の概要・到達目標

それぞれの文化には、文化的価値観、即ち、重視される価値観が存在する。文化的背景の異なる人の価値観を理解することは、効果的な異文化間コミュニケーションには不可欠である。というのも異なった価値観は、両者の間にコンフリクト（衝突）を生じさせる可能性を高めるからである。

本講義では、文化的価値観とコンフリクトに焦点を当て、異文化環境におけるコンフリクトの対処能力の向上を目指す。将来、海外勤務及び留学を望む学生諸君はもちろんのこと、国内においても文化的背景の相違する人とのコラボレーション（協働）を考えている学生諸君には、是非とも履修して頂きたい。

授業内容

基本的には、「異文化理解とコミュニケーション」と同様、基礎理論と実践の2本の柱とした構成とする。

理論面では、G・ホフステッド、C・ハンプデンターナー、F・トロンペナルス、E・ランガー、I・ジャニス等の基礎理論の講義を行う。一方、実践面では、事例や測定ツールを取り入れながら、異文化間コミュニケーション力を向上させたいと考えている。学生諸君は、文化的価値観及びコンフリクトの対処法を測定するツールを用いて、自分自身の価値観やコンフリクトの対処法を測定する機会を得る。講師は、その測定結果を分析しコメントをする。さらに、トヨタ公聴会並びに東京電力福島第一原発事故におけるコミュニケーションとリーダーシップの問題を事例として取りあげる。

本講義では、以下の内容を考えている。

第1回　イントロダクション
第2回　文化的価値観とコミュニケーションI
第3回　文化的価値観とコミュニケーションII
第4回　文化的価値観の測定
第5回　事例研究
第6回　異文化コンフリクトの対処法
第7回　集団思考の罠と多様性
第8回　マインドフルとマインドレス
第9回　効果的な通訳の使い方
第10回　トヨタ公聴会と異文化コミュニケーションI
第11回　トヨタ公聴会と異文化コミュニケーションII
第12回　東京電力福島第一原発事故とリーダーシップI
第13回　東京電力福島第一原発事故とリーダーシップII
第14回　講義全体のふりかえり

また、講師による一方的な講義をさけ、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。

履修の注意点

社会心理学、文化人類学、社会学、経営学、コミュニケーション論、比較文化論、政治学（外交交渉論）等の関連科目を履修することが望ましい。

準備学習の内容

次回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。異文化間コミュニケーション論で扱う理論並びに概念について復習すること。

教科書

特に定めない

参考書

海野素央（2011）『リスクと回復力－東京電力福島第一原発事故から学ぶリーダーシップ』（同友館）
海野素央（2011）『トヨタ公聴会から学ぶ異文化コミュニケーション』（同友館）
海野素央（2002）『異文化ビジネスハンドブック－事例と対処法』（学文社）
G・ホフステード（1995）岩井紀子　岩井八郎訳 『多文化世界』（有斐閣）
W.B.グディカンスト（1993）ICC研究会訳 『異文化に橋を架ける－効果的なコミュニケーション』（聖文社）

課題に対するフィードバックの方法

事例についての発表に関して、講師が口頭でフィードバックを行う。

成績評価の方法

「期末試験」「授業への貢献度」

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ARS161J

国際地域研究基礎論	2単位
	1年次

教授　丸　川　哲　史

授業の概要・到達目標

本講座は、戦後の在日韓国・朝鮮人(以後「在日」と記す)という歴史的存在をテーマにするが、それを二つの側面から照射したい。まず、彼らがどう描かれたかである。本講座では、映画などの映像資料を受講者に紹介し、その中の「在日」がどのように描かれたのか、また描こうとした作者の動機、社会的・歴史的背景を探ってみたい。もう一つの側面は、「在日」が自ら自分たちをどう表現して来たかである。この方向性に関しては、文学作品、あるいは歌などを紹介し、実際に、作者や歌い手を本講座に招き、実演していただくこととしたい。具体的に言えば、作者に詩を朗読し、その世界を語っていただき、日本社会で生きることの感覚を語ってもらう。また歌い手の方には、実際に歌っていただき、その歌の背後にある家族史を紹介していただき、日本社会でマイノリティとして生きることで感じて来たことなど語っていただく。本講義が対象とするのは、文化領域であるが、東アジアの内部にわだかまる領土問題、戦後補償問題など政治的的緊張などにも触れないわけにはいかず、逆に言えば、本講義はそのような緊張関係を解きほぐすことが目的となる。

授業内容

（1）　イントロダクション
（2）　映画『パッチギ』を観て、その歴史的背景を考える。
（3）　映画『パッチギ』の中の各シーンにこだわって、考えてみる。
（4）　映画『パッチギ』の持つ娯楽性と「真面目性」について論じる。
（5）　戦後在日による歴史経験と歌、その実践。
（6）　映画『月はどっちに出ている』の中の主人公の佇まいを考える。
（7）　映画『月はどっちに出ている』を観て、実際のところ「差別」とは何なのか、を考える。
（8）　映画『月はどっちに出ている』におけるマイノリティーの「生」と「性」を考える。
（9）　詩の朗読。詩が生まれる場と記憶を共有する。
（10）　映画『キューポラのある街』における1950年代～60年代の地方都市を考える。
（11）　映画『キューポラのある街』における「帰国運動」を考察する。
（12）　映画『キューポラのある街』における「民族」との出会いと葛藤を論ずる。
（13）　戦後日本社会にとって「在日」とは何か、あるいは韓国、朝鮮民主主義人民共和国とは何か、を考察する。
（14）　まとめ

履修の注意点

授業中にスマホ、アイパッド、パソコンなどの電子機器類は使用しないこと。
私語を注意して以降も私語が収まらない場合は、退室などの措置を行うことがある。

準備学習の内容

授業中に紹介れた内容について、メモをとっておき、試験に備えていただきたい。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

ウェブ機能、その他メールなどを通じてフィードバックする。

成績評価の方法

授業において、コメントペーパーの提出を求めることがある。そのコメントペーパーへの評価と、試験の点数。

その他

科目ナンバー：(PE)ARS161J

国際地域研究基礎論	2単位
	1年次

准教授　武　田　和　久

授業の概要・到達目標

今日、私たちが生きる世界では欧米発祥の制度、枠組み、価値観、生活様式、嗜好等が「グローバルスタンダード」として定着、常識化している。これらは基本、「近代」の産物であり、コロンブスによるアメリカの「発見」(1492)を契機にヨーロッパでゆっくりと形作られていったものである。ヨーロッパ人はこの「近代」を普遍かつ絶対と見なして理想化し、人類のすべてがこれを獲得、あるいはこの段階に到達することを目標に掲げ、地球全域に「近代」を普及すべく精力的に活動した。そしてその担い手となったのが商人、移民、宣教師などである。こうして世界の大部分はヨーロッパ化の荒波に巻き込まれ、その帰結が現在地球上で生きる私たち一人一人なのである。

言うまでもなく、ヨーロッパ化の荒波が到達した世界の様々な地域では太古の昔から人間が暮らし、彼らは先祖伝来の文化や慣習を継承しながら生きてきた。こうした地域に「近代」がもたらされたとき、地域の人々はいかなる反応を示したのだろうか。あるいは、「近代」は彼らにどのような影響を及ぼしたのだろうか。こうした問題を具体的に把握、理解することは、今日「当たり前」となっている「グローバルスタンダード」を批判的に検証し、人間にとって本当に大切なことに気づく重要な契機となる。

本授業では、アメリカの「発見」(1492)以降、300年にわたりスペイン、ポルトガルの植民地となった中南米（ラテンアメリカ）と、19世紀以降のオセアニア（とりわけニュージーランド）の歴史を具体例として取り上げ、土着の民たちの生き様を追っていく。前者では一般に「先住民」と総称される人々が、後者ではマオリに焦点が当てられ、ヨーロッパ人との接触が彼らに何をもたらしたのか、接触以後の彼らが何を考え、どのように生きることを模索してきたのか、こうした事柄を具体的に検討する。

この検討はひいては、今日「グローバルスタンダード」を前提として生きている私たち一人一人が、自分自身を客体化して見つめ直すことにもつながる。

授業内容

第1回　本授業の趣旨説明
第2回　ヨーロッパ人到来以前のアメリカ大陸
第3回　アメリカ大陸へのヨーロッパ人の到来
第4回　剣と十字架
第5回　集住政策（レドゥクシオン）
第6回　ユートピア思想と「文明化」
第7回　先住民による「文化的アプロプリエーション」
第8回　マオリの起源
第9回　キャプテン・クック
第10回　マスケット銃と福音
第11回　ワイタンギ条約
第12回　土地をめぐる争い
第13回　マオリ王擁立運動（キンギタンガ）
第14回　まとめ

履修の注意点

準備学習の内容

毎回の授業で、次回の授業で扱う概要を述べるので、その事柄について各自で情報収集・調査を行う。授業後は、授業内容を振り返り、関連事項を各自で追跡調査する。

教科書

特に定めない。

参考書

中南米の先住民関連：
・網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』講談社、2008年。
・網野徹哉『インディオ社会史－アンデス植民地時代を生きた人々－』みすず書房、2017年。
・伊藤滋子『幻の帝国－南米イエズス会士の夢と挫折』同成社、2001年。
・エリオット『旧世界と新世界－1492-1650－』越智武臣・川北稔［訳］岩波書店、1975年。
・岡田裕成・齋藤晃『南米キリスト教美術とコロニアリズム』名古屋大学出版会、2007年。
・岡田裕成『ラテンアメリカ－越境する美術－』筑摩書房、2014年。
・落合一泰『トランス・アトランティック物語－旅するアステカ工芸品－』山川出版社、2014年。
・清水透『ラテンアメリカ五〇〇年－歴史のトルソー－』岩波書店、 2017年。
・立花隆文、佐々木芳郎写真『インディオの聖像』文藝春秋、2022年。
・ハンケ『スペインの新大陸征服』染田秀藤［訳］平凡社、1979年。
・増田義郎『新世界のユートピア』研究社出版、1971年。
・松森奈津子『野蛮から秩序へ―インディアス問題とサラマンカ学派―』名古屋大学出版会、2009年。
・レオン=ポルティーヤ［編］『インディオの挽歌－アステカから見たメキシコ征服史－』山崎眞次［訳］成文堂、1994年。
・ワシュテル『敗者の想像力－インディオのみた新世界征服－』小池佑二［訳］岩波書店、2007年。
マオリ関連：
・アルフレッド・W・クロスビー『ヨーロッパの帝国主義－生態学的視点から歴史を見る－』佐々木昭夫訳筑摩書房、2017年（特に第10章のニュージーランド）。
・伊藤泰信『先住民の知識人類学－ニュージーランド=マオリの知と社会に関するエスノグラフィ』世界思想社、2007年。
・キース・シンクレア『ニュージーランド史－南海の英国から太平洋国家へ』青木公、百々佑利子訳、評論社、1982年。
・グレアム・ウィレム『ニュージーランドのマオリ族』河津千代訳、リブリオ出版 1989年。
・ロバート・コンセダイン、ジョアナ・コンセダイン『私たちの歴史を癒すということ－ワイタンギ条約の課題－』中村聡子訳、影書房, 2022年。
・ロバート・マクドナルド『マオリ族』柏木里美訳、リブリオ出版、1995年。
・原田敏治『先住民族社会の形成と存続－ニュージーランド南島ナイ・タフ族の伝統と社会』日本経済評論社、2016年。
・平松紘、中惠丰、ジェラルド・P・マクリン『ニュージーランド先住民マオリの人権と文化』明石書店、2000年。
・深山直子『現代マオリと「先住民の運動」－土地・海・都市そして環境』風響社、2012年。

課題に対するフィードバックの方法

模範・参考に値するアカデミック・エッセイについては授業時に解説する。

成績評価の方法

80%：中南米（ラテンアメリカ）の先住民とオセアニアの先住民（特にニュージーランドのマオリ）に関わる2回のアカデミック・エッセイの内容を総合的に評価。とりわけ、体裁と内容、パラグラフ・ライティングができているかどうか、授業やディスカッション（実施した場合）の内容に加えて、専門的な観点から議論が展開されている文献（学術書や学術論文）も参照したうえでエッセイが書かれているかどうか。
20%：授業への出席やディスカッション（実施した場合）への参加の度合い。

その他

・授業に関する連絡等は基本的にOh-o! Meijiを通じて行うので、適宜確認すること。
・担当教員の研究歴については次を参照。https://researchmap.jp/read0203916
・受講者の数や授業内容次第では、ディスカッションを実施することがある。

科目ナンバー：(PE)ARS161J

国際地域研究基礎論	2単位
	1年次

専任講師　佐々木　菜　緒

授業の概要・到達目標

日本では「アメリカ」というと英語圏のイメージが強いが、アメリカ大陸全体で見ると、カナダやカリブ海域には重要なフランス語圏地域がある。そこではフランス語はどのように存在し、社会および文化が形成される中でどのような役割を果たしているのだろうか。アメリカ大陸で「フランス語を話す」ことの意味を考察するために、各地域の歴史・社会背景を学ぶ。

アメリカ大陸の地域社会を「フランス語」の視座で読み解くことをとおして、社会構造を考察するために必要な基礎的な知見を習得する。社会と言語の関係についての洞察力を養う。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　北米のフランス語圏の起源
第3回目　フランス系カナダ社会の「生き残り」
第4回目　「静かな革命」と言語政策
第5回目　「静かな革命」に関する映画鑑賞（1）
第6回目　非フランス語圏出身の移民および先住民とフランス語
第7回目　「静かな革命」に関する映画鑑賞（2）
第8回目　カリブ海域のフランス海外県
第9回目　カリブ海域の「黒人であること」
第10回目　フランツ・ファノンの自己疎外
第11回目　自己疎外に関する映画鑑賞
第12回目　クレオール文化と民話（1）
第13回目　クレオール文化と民話（2）
第14回目　まとめ・総論

履修の注意点

世界史の基礎知識があることが望ましい。

準備学習の内容

授業資料とノートを振り返りつつ、授業で紹介した問題や現象について、文献等で調べ、理解を深めること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業で共有する。

成績評価の方法

期末試験　100%

その他

科目ナンバー：(PE)GDR111J

ジェンダー論Ⅰ【2022年度以降入学者】 教養基礎講座【2021年度以前入学者】	2単位
	1年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

ジェンダーとは、まずは「文化的・社会的・心理的な性の有り様」と説明できます。私たちは女として、男として、あるいはそのどちらでもない立場として例外なくジェンダーをまといながら生きており、また現代社会が抱える多くの問題の背景には、このジェンダーが潜んでいると考えられます。

この授業では、まずジェンダー論の基本的知識と考え方を習得し、さらにそれをツールとして他の社会現象や社会問題を分析する視点を獲得することを到達目標とします。

そうした分析視点が、3～4年生における政治学、経済学、政策学各分野の専門的な学びにおいて、問題解決の新たな方策をもたらすことを期待しています。

授業内容

第1講　ジェンダーへの気づき
第2講　ジェンダーへの社会化
第3講　性差について考える
第4講　家族とジェンダー
第5講　教育とジェンダー
第6講　労働とジェンダー（1）
第7講　労働とジェンダー（2）
第8講　ジェンダー理論史
第9講　性愛とジェンダー
第10講　セクシュアリティ
第11講　男性学・男性性について
第12講　性の商品化、性差別問題
第13講　暴力とジェンダー
第14講　ジェンダーと政治学／まとめ

履修の注意点

a）スライドとレジュメ
講義は原則として、スライドによるプレゼンテーションによって進めます。講義前にスライドのファイルをOh-o! Meijiのクラスウェブ内（資料）にアップしますので、手元に準備してください。
b）リアクションペーパー
原則として毎回、受講内容に対するコメントを書いてもらいます。教室での出席確認とリアクションペーパーの提出をもって1回の出席とします。ときどき、遅刻のチェックをします。
c）ディスカッション
できるだけ講義の中で受講生同士の意見交換をする時間を取りたいと思います。そうした時間には積極的に発言し、同時に他の受講者の意見にも耳を傾け受け入れることを心がけてください。

準備学習の内容

毎週、指定するテキストの章や文献、論文などの資料を熟読してくること。授業開始時にクイズを出します。

教科書

『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村・伊田・熊安編著（ミネルヴァ書房）2013年

参考書

指示はしませんが必要に応じて紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

次回講義の冒頭にて行います。

成績評価の方法

原則として毎回出欠を確認し、リアクションペーパーを書いてもらいます。
期末にはレポート課題を出します。
全授業回数の2/3以上の出席を期末レポート提出の条件とします。
1）授業の理解度（リアクションペーパーの評価）　60%
2）期末試験　40%

その他

身の回りにあたり前のようにある男と女という存在、そして男女の関係をあえて問い直していきます。そこには新たな発見があると思いますので、ぜひそれを受け入れる柔軟さを持ち合わせていてください。またできるだけ授業内で意見交換をする機会を設けますので、積極的に関わることを期待します。

科目ナンバー：(PE)GDR111J

ジェンダー論Ⅱ【2022年度以降入学者】 教養基礎講座【2021年度以前入学者】	2単位
	1年次

准教授　兼　子　　歩

授業の概要・到達目標

この授業は、和泉キャンパスで開講されている１～２年生を対象とした「ジェンダー論I」の応用編・中級編という位置付けの授業です。ジェンダーというアプローチ法を用いた政治・経済・社会・歴史などのさまざまな分野での議論の例を紹介することで、ジェンダー研究の世界の広がりを理解してもらうことが、この授業の目的となっています。

授業内容

この授業は、講義形式で行われます。毎回、授業の後でコメントを記入することが義務づけられます。次の回では、そうしたコメントのうち、重要なものをいくつかピックアップして回答する時間を設けることを通じて、講義ではありますが一方向的ではない授業をおこないます。各回の内容としては、以下のとおりです（内容が差し替えになることがあります）。

1）イントロダクション
2）ジェンダー概念の歴史
3）フェミニズムの基礎知識
4）教育とジェンダー（1）教育でつくられる性差
5）教育とジェンダー（2）大学入試と性差
6）教育とジェンダー（3）理系に女性はなぜ少ないのか
7）政治とジェンダー（1）アメリカ政治における女性
8）政治とジェンダー（2）日本政治と女性
9）労働とジェンダー（1）ガラスの天井はなぜ破れない？
10）労働とジェンダー（2）女性化する貧困
11）身体とジェンダー
12）科学とジェンダー
13）生殖のポリティクス（1）アメリカの中絶論争
14）生殖のポリティクス（2）日本の避妊と中絶

履修の注意点

この授業では、授業に関係しないものは〈全て〉カバンの中にしまってください。スマホ、PC、タブレット端末等は授業中に使用できません。
この授業では毎回、授業内容に関連した要約やコメントをオンライン上で提出する必要があります。毎回、その日の19時までを期限とします。大学側のシステム・ネットワークの不具合があった場合を除いて、期限後の提出は認めません。
公欠に関しては、以下の場合のみ公欠に準じた扱いを認めます。就活（内定式や研修を含む）、インターンなどは配慮しません。
1）インフルエンザ、新型コロナウィルスなどの法定感染症で登校停止となった場合
2）教育実習、博物館実習などの大学が提供する資格課程に伴う実習
3）体育会の部員の場合、大学の「公式な派遣による」大会出場（その他の大会や練習は認められない）
その他の特殊な事情がある場合は、個別に判断しますので、担当教員に相談してください。

準備学習の内容

授業で配布された資料などを読み返して、次回授業に備えておいてください。

教科書

この授業では教科書は使用しません。レジュメを配布し、スライドを使いながら講義します。

参考書

参考書については、授業中に随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

コメントのうち主要なものについては、授業内で言及し返答します（返答をまとめたものをOh-o! Meiji上で配信する場合もあります）。

成績評価の方法

授業後に提出される課題によって評価します。期末試験・レポートはありません。

その他

科目ナンバー：(PE)MAT151J

基礎数学	2単位
	1年次

専任講師　遠　藤　直　樹

授業の概要・到達目標

現代数学は「集合」と「写像」の概念を基礎として数学的な世界が構築される。本講義では、このような数学の言葉を学ぶ。

写像や同値関係の意味を正しく理解し、基本的な性質を自身の言葉で説明できるようになることが目標である。

授業内容

第１回　集合とその記法
第２回　集合の演算
第３回　論理と命題
第４回　全称記号と存在記号
第５回　積み木と $\varepsilon-\delta$ 論法
第６回　写像の定義
第７回　写像の基本的性質
第８回　写像の像と逆像
第９回　単射、全射、全単射
第10回　阿弥陀籤
第11回　同値関係と類別
第12回　商集合と完全代表系
第13回　合同式と合同式の演算
第14回　Zellerの公式

履修の注意点

本科目は関連する他の数学科目の基盤となる内容を扱う。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

藤岡敦著『手を動かしてまなぶ集合と位相』裳華房
遠藤直樹、高木悟著『群論への途』共立出版

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT191J

数学概論	2単位
	1年次

専任講師　遠　藤　直　樹

授業の概要・到達目標

本講義では、微分積分学の基礎、特に1変数関数の積分法とその応用に関する事項を学ぶ。不定積分や定積分などの概念を正しく理解し、積分法に関する基本的な計算ができるようになることが目標である。

授業内容

第1回　Riemann和による定積分の定義
第2回　定積分の基本的性質
第3回　積分可能であるための条件
第4回　不定積分と原始関数
第5回　微分積分学の基本定理
第6回　不定積分の基本的性質
第7回　初等関数の不定積分
第8回　部分積分法・置換積分法
第9回　微分積分学の基本公式
第10回　定積分と不等式
第11回　Taylorの定理の積分剰余形
第12回　有理関数の不定積分
第13回　有理関数の不定積分の応用
第14回　広義積分

履修の注意点

解析学Ⅰも合わせて履修することが望ましい。1変数関数の微分法は解析学Ⅰで扱う。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

長岡亮介、渡辺浩、矢崎成俊、宮部賢志著『新しい微積分〈上〉』講談社

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT111J

線形代数学Ⅰ	2単位
	1年次

兼任講師　内　田　俊　郎

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
数を縦横にいくつか並べたものを行列という。行列とその演算は種々の数学分野の基礎であるだけでなく、多くの応用がある。この授業では実数を成分とする行列とその演算を連立1次方程式への応用を中心に学ぶ。
[到達目標]
行列の基本的な演算を普通の数の四則演算と同様に使いこなせるようになる。
行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。
行列の階数の意味を理解し、かつ求めることができる。

授業内容

1．この授業で学ぶことの紹介。 ベクトルとその演算の復習
2．行列の導入
3．行列の基本的な演算
4．行列の積と零因子
5．行列の分割
6．連立1次方程式と行列、掃き出し法
7．行列の基本変形1
8．行列の基本変形2、小テスト
9．基本変形と基本行列
10. 連立方程式に解が存在する条件
11. 行列の階数
12. 基本変形による連立1次方程式の解法
13. 基本変形による逆行列の求め方
14. いくつかの補足とまとめ

履修の注意点

高校での行列の学習は前提としないが、義務教育で学んだ数学は当然、前提とする。
経済学で用いる数学を理解するためには、解析学の知識も必要である.。線形代数学と合わせて解析学も履修してほしい。

準備学習の内容

授業に先立って、あらかじめ教科書の対応箇所を読んでおく。
数学の理解にはそれなりの数の問題を解くことが不可欠である。少なくとも配布する練習問題は解くようしてください。

教科書

森山洋一 著 『線形代数入門』 ムイスリ出版
必要に応じてPDFファイルで参考資料を配布する。

参考書

橋口秀子他 『線形代数入門』 学術図書出版社
藤岡敦 『手を動かしてまなぶ線形代数』 裳華房
その他、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト後、解法の解説を行う。

成績評価の方法

定期試験：90%、小テスト：10%

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT111J	
線形代数学Ⅰ	2単位
	1年次
専任講師　遠　藤　直　樹	

授業の概要・到達目標

線形代数学は、連立方程式を解く技法のことである。現在では、数学や物理学、化学、生物学といった自然科学分野に限らず、社会科学分野においても現れる汎用性の高い数学である。本講義では、行列の定義から始め、行列を用いた連立方程式の解法を学ぶ。

行列と行列の基本変形、行列の階数などの概念を正しく理解し、連立方程式の解を求める計算に習熟することが目標である。

授業内容

第1回　平面や空間の一次変換
第2回　行列の定義
第3回　行列の和とスカラー倍
第4回　行列の積、行列の零因子
第5回　行列の小行列表示
第6回　行列の基本変形
第7回　基本行列
第8回　階段行列と行列の階数
第9回　簡約階段行列と階数標準形
第10回　正則行列
第11回　逆行列
第12回　掃き出し法
第13回　行列の冪乗
第14回　連立一次方程式の解法

履修の注意点

基礎数学も合わせて履修することが望ましい。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

長岡亮介著『長岡亮介 線型代数入門講義』東京図書
遠藤直樹、高木悟著『群論への途』共立出版

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT111J	
線形代数学Ⅱ	2単位
	1年次
兼任講師　内　田　俊　郎	

授業の概要・到達目標

線形代数は自然科学・社会科学の様々な分野において道具として用いられている。この授業では線形代数学の基礎のうち、行列式およびベクトル空間について学ぶ。行列式の基本的な計算ができるようになること、ベクトル空間の基本的な概念（特に1次独立、1次従属など）を理解して使えるようになることを目標とする。

授業内容

1．線形代数学IIの概観。線形代数学Iの復習
2．2次と3次の行列式
3．2次、3次の行列式の幾何学的な意味
4．順列と互換、行列式の導入の準備
5．任意次数の行列式の定義
6．行列式の性質と計算
7．行列式の性質と計算の続き
8．余因子展開、余因子と逆行列
9．小テスト
10. ベクトル空間とベクトルの1次結合
11. 部分空間
12. ベクトルの1次独立・1次従属
13. 基底と次元
14. 基底の変換と座標変換

履修の注意点

線形代数学Iを履修済みであるか、それと同等以上の線形代数の知識があることが望ましい。

準備学習の内容

あらかじめ教科書の対応箇所を読んでおく。
数学の理解には問題を解いてみることが必要である。
少なくとも配布する練習問題は解いてみること。

教科書

森山洋一 著 『線形代数入門』 ムイスリ出版
必要に応じてPDFファイルで参考資料を配布する。

参考書

橋口秀子他 『線形代数入門』学術図書出版社
藤岡敦 『手を動かしてまなぶ線形代数』裳華房
その他 授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト解説は実施後の授業時間内に行う。

成績評価の方法

定期試験：90%、小テスト：10%

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)MAT111J

線形代数学Ⅱ	2単位
	1年次

専任講師　遠　藤　直　樹

授業の概要・到達目標

線形代数学Ⅰにおいて、行列の基本的性質と連立方程式の解法を学んだ。本講義では、日本古来の阿弥陀籤をモデルに置換の理論を展開し、行列式の理論へと進む。

行列式とその基盤となる置換の概念を理解し、行列式を求める計算に習熟することが目標である。

授業内容

第1回　線形代数学Ⅰの復習
第2回　2次と3次の正方行列に対する行列式
第3回　置換と順列
第4回　置換の基本的性質
第5回　阿弥陀籤
第6回　一般の正方行列に対する行列式
第7回　行列式の基本的性質
第8回　Vandermondeの行列式
第9回　余因子
第10回　余因子展開
第11回　余因子行列と逆行列
第12回　Cramerの公式
第13回　Heronの公式
第14回　行列式の幾何学的意味

履修の注意点

線形代数学Ⅰの内容を理解しておくこと。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

長岡亮介著『長岡亮介 線型代数入門講義』東京図書
遠藤直樹、高木悟著『群論への途』共立出版

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT211J

線形代数学Ⅲ	2単位
	1年次

専任講師　遠　藤　直　樹

授業の概要・到達目標

線形代数学Ⅰ、Ⅱにおいて、行列と行列式の基本的性質と連立方程式の解法を学んだ。本講義では、連立方程式を解くことの意味をより深く理解するために、解全体の集合（解空間）を考え、その数学的な構造を調べる。

ベクトルの一次独立性とベクトル空間の基底の意味を理解し、与えられたベクトル空間の基底を求められることが目標である。

授業内容

第1回　基礎数学と線形代数学Ⅱの復習
第2回　ベクトル空間
第3回　ベクトル空間の部分空間
第4回　ベクトルの一次独立性
第5回　ベクトル空間の基底
第6回　基底の存在定理
第7回　ベクトル空間の次元
第8回　行列の階数と小行列式
第9回　部分空間の次元公式
第10回　線形写像
第11回　線形写像の核と像
第12回　線形写像の次元公式
第13回　線形代数学の基本定理
第14回　基底の取り替えと表現行列

履修の注意点

線形代数学Ⅰ、Ⅱ及び基礎数学の内容を理解しておくこと。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

長岡亮介著『長岡亮介 線型代数入門講義』東京図書
遠藤直樹、高木悟著『群論への途』共立出版

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT211J

線形代数学Ⅳ	2単位
	1年次

専任講師　遠　藤　直　樹

授業の概要・到達目標

線形代数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、行列と行列式の基本的性質、連立方程式の解法、及びベクトル空間の基本的性質を学んだ。本講義では、行列の三角化・対角化とベクトルの内積を扱う。

Cayley-Hamiltonの定理を理解すること、及びGram-Schmidtの正規直交化法により正規直交基底を求められることが目標である。

授業内容

第1回　線形代数学IIIの復習
第2回　固有値と固有ベクトル
第3回　固有空間と固有空間の次元
第4回　行列の三角化
第5回　Frobeniusの定理
第6回　Cayley-Hamiltonの定理
第7回　行列の対角化
第8回　行列の冪乗と対角化の応用
第9回　行列の最小多項式
第10回　実ベクトル空間の内積
第11回　直交補空間と正規直交系
第12回　Gram-Schmidtの正規直交化法
第13回　複素ベクトル空間の内積
第14回　エルミート行列のユニタリ行列による対角化

履修の注意点

線形代数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び基礎数学の内容を理解しておくこと。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

長岡亮介著『長岡亮介 線型代数入門講義』東京図書
遠藤直樹、高木悟著『群論への途』共立出版

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT131J

解析学Ⅰ	2単位
	1年次

兼任講師　内　田　俊　郎

授業の概要・到達目標

この授業では主に1変数関数の微分法について学ぶ。講義とともに演習を行う。微分法の概念を理解し、合成関数の微分法などの1変数の微分法に関する基本的な計算ができるようになること、その応用として極値問題が解けるようになることを目標とする。

授業内容

1．解析学Iの内容の概観、集合・関数などの基礎概念の確認
2．関数の極限
3．関数の連続性
4．三角関数と指数関数、対数関数
5．微分係数と導関数の定義
6．微分法の公式
7．初等関数の導関数
8．高階導関数
9．小テスト
10. 平均値の定理
11. 不定形の極限（ロピタルの定理）
12. テイラーの定理とテイラー展開
13. 関数の増減、極大・極小
14. グラフの凹凸

履修の注意点

高校での微分の学習は前提としない。
経済学で用いる数学を理解するためには、線形代数学も履修することが望ましい。

準備学習の内容

予習　教科書の対応箇所を読んでくる。
復習　解析学の理解には演習が不可欠である。少なくとも配布した問題は解いてください。

教科書

辻川亨、北直泰 著　『微分積分学入門』学術図書出版社
必要に応じてPDFファイルで参考資料を配布する。

参考書

微分積分学の参考書はたくさんあるので自分に合うものを探して下さい。
経済系の学生向けに書かれた解析学の教科書としては例えば、以下のものがある。
小宮英敏 著「入門　経済学のための微分・積分　高校数学から経済数学へ」東洋経済新報社
西原健二他 著「経済系のための微分積分」共立出版

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説は授業の中で行う。

成績評価の方法

定期試験：90%
小テスト：10%

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)MAT131J

解析学Ⅰ	2単位
	1年次

専任講師　遠　藤　直　樹

授業の概要・到達目標

本講義では、微分積分学の基礎、特に1変数関数の微分法とその応用に関する事項を学ぶ。

関数の連続性及び微分可能性などの概念を正しく理解し、微分法に関する基本的な計算ができるようになること、またその応用としてTaylor展開が求められるようになることが目標である。

授業内容

第1回　数列と関数の極限
第2回　関数の連続性と中間値の定理
第3回　関数の微分可能性と微分の基本的性質
第4回　初等関数の導関数
第5回　平均値の定理と関数の増減
第6回　利潤最大化問題への応用
第7回　逆三角関数とその微分
第8回　双曲線関数とその微分
第9回　高次導関数
第10回　Leibnizの公式とl'Hospitalの定理
第11回　関数の多項式近似とTaylorの定理
第12回　誤差評価付きの近似値計算
第13回　円周率の計算と収益率の近似計算
第14回　Taylor展開

履修の注意点

数学概論も合わせて履修することが望ましい。1変数関数の積分法は数学概論で扱う。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

長岡亮介、渡辺浩、矢崎成俊、宮部賢志著『新しい微積分〈上〉』講談社

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT131J

解析学Ⅱ	2単位
	1年次

兼任講師　内　田　俊　郎

授業の概要・到達目標

解析学IIでは、多変数関数（主として2変数関数）の微分法について学ぶ。多変数関数の微分法に関する基本的な計算ができるようになること、その応用として陰関数の極値問題や2変数関数の極値問題、条件付き極値問題などが解けるようになることを目標とする。

授業内容

1．解析学IIの概観と解析学の基本的事項の復習
2．2変数関数とその定義域
3．2変数関数の極限と連続性
4．偏導関数
5．全微分
6．接平面と方向微分係数
7．高階偏導関数と2変数関数の合成関数の微分法
8．小テストとその解説
9．平均値の定理とテイラーの定理
10．2変数関数の極値問題1、極値の必要条件と停留点
11．2変数関数の極値問題2、極値の十分条件と極値の計算
12．陰関数と陰関数定理
13．条件付き極値問題1、Lagrangeの未定乗数法
14．条件付き極値問題2、極値の十分条件と極値の計算

履修の注意点

「解析学I」を履修しているか、それと同程度の微分法に対する理解が必要である。
3変数以上の変数をもつ多変数関数を扱うには線形代数の知識も必要である。線形代数学も履修することが望ましい。

準備学習の内容

配布資料の対応箇所を読んでくる。復習として、問題集などで問題を解いておく。

教科書

辻川亨、北直泰 著　『微分積分学入門』学術図書出版社
必要に応じてPDFファイルで参考資料を配布する。

参考書

微分積分学の参考書はたくさんあるので自分にあうものを探して下さい。
経済系の学生向けに書かれた解析学の教科書としては例えば、以下のものがある。
小宮英敏 著「入門　経済学のための微分・積分　高校数学から経済数学へ」東洋経済新報社
西原健二他 著「経済系のための微分積分」

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説は授業の中で行う。

成績評価の方法

定期試験：90%
小テスト：10%

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)MAT131J

解析学Ⅱ	2単位
	1年次

専任講師　遠　藤　直　樹

授業の概要・到達目標

解析学Ⅰにおいて、1変数関数の微分法を学んだ。本講義では、多変数関数の微分法に関する事項を扱う。

多変数関数の連続性及び偏微分可能性、全微分可能性などの概念を正しく理解し、合成関数の微分を始めとした微分法に関する基本的な計算ができるようになることが目標である。

授業内容

第1回　多変数関数の極限
第2回　多変数関数の連続性
第3回　多変数関数の中間値の定理
第4回　多変数関数の偏微分
第5回　多変数関数の偏導関数
第6回　多変数関数の全微分
第7回　接平面の方程式
第8回　高次偏導関数
第9回　合成関数の微分法
第10回　多変数関数のTaylorの定理
第11回　漸近展開と近似多項式
第12回　多変数関数の極値問題
第13回　陰関数定理
第14回　条件付き極値問題とLagrangeの未定乗数法

履修の注意点

解析学Ⅰの内容を理解しておくこと。また、線形代数学Ⅰ、Ⅱも履修することが望ましい。

準備学習の内容

数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。

教科書

特に定めない。

参考書

長岡亮介、渡辺浩、矢崎成俊、宮部賢志著『新しい微積分〈下〉』講談社

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。

成績評価の方法

期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。
合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)STS111J

科学史A【2022年度以降入学者】 歴史における科学【2021年度以前入学者】	2単位
	1年次

兼任講師　菱　木　風　花

授業の概要・到達目標

科学（本授業では、自然科学のことを指す）は、現代の私たちの生活に欠かせないと同時に、常に様々な社会課題とともにある。私たちの知る科学とは、いつ、どのように、どのような人々によって形成されたのだろうか。

古代ギリシャの時代には、アリストテレスを中心とした自然哲学者たちによって、自然現象を論理的に理解することを目指した考察や実験が行われていた。そこからコペルニクス、ガリレオ、ニュートンに至る「科学革命」によって科学は「近代化」を遂げた。変容していく世界のなかで、職業人としての科学者が誕生し、科学は産業技術と結びつくことで人々の生活を変えていった。そしてアインシュタインからオッペンハイマーに至るまでに、科学は、時に敵国を攻撃するための「道具」にもなった。科学は人間の思考や意識に対しても影響を与え、それは現代も変わらず続いているようにみえる。科学の歴史を知ることは、現代社会に生きる私たち自身を知るきっかけの一つになるだろう。

本授業の到達目標は、世界と日本それぞれの科学の歴史を説明できるようになることである。前半では、近代科学の誕生から第二次世界大戦後の現代までの通史を概観する。後半では、日本を舞台に、明治期から戦後までの科学の歴史を学ぶことを通して、現代のこの地に生きる私たちのより身近な対象として捉え、考える。

授業内容

第1回目　イントロダクション：科学史を学ぶ前に
第2回目　科学史入門①：古代ギリシャ、アラビア科学～アリストテレスの自然哲学と数学～
第3回目　科学史入門②：「科学革命」と近代科学の誕生1～コペルニクスからガリレオまで～
第4回目　科学史入門③：「科学革命」と近代科学の誕生2～ガリレオからニュートンまで～
第5回目　科学史入門④：18世紀、啓蒙の時代から科学者誕生へ
第6回目　科学史入門⑤：19世紀、産業技術への接近・国家による科学の制度化・国家社会の中の科学
第7回目　科学史入門⑥：二つの世界大戦と科学～アインシュタインからオッペンハイマーまで～
第8回目　科学史入門⑦：冷戦とその後の世界における科学～ビッグサイエンスから市民社会の中の科学へ～
第9回目　科学史入門まとめ
第10回目　日本の科学史入門①：日本の科学史を考える～江戸時代以前と明治期以降では何が違うか～
第11回目　日本の科学史入門②：明治期、お雇い外国人たちの研究から日本人科学者の誕生へ
第12回目　日本の科学史入門③：大正期から昭和期における日本の科学の成長と拡大～その光と影～
第13回目　日本の科学史入門④：戦後から現在へ、科学技術の時代とその先
第14回目　日本の科学史入門まとめ

履修の注意点

「科学史B」を受講することを推奨する。

本授業を受講する場合、関連科目である「技術史A」「技術史B」「物理科学概論A」「物理科学概論B」も併せて受講するとそれぞれの授業内容の理解を深めることができる。

準備学習の内容

予習：次回の授業資料に目を通し、重要なキーワードや論点が何かチェックしておく。
復習：授業を振り返りながら、「質問・コメントシート」に質問事項やもっと説明してほしいこと等を記入。

教科書

使用しない。

参考書

『未来を考えるための科学史・技術史入門』、河村豊・小長谷大介・山崎文徳編著（北樹出版）.
『日本の近代科学史』、杉山滋朗（朝倉書店）.

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に、前回の授業内容についての質問・コメントシートのなかの皆さんからの質問にお答えする時間をつくる。授業内容のなかでもっと説明してほしい箇所や文献についての質問があれば、それも併せて記入してほしい。

成績評価の方法

①「質問・コメントシート」（35%）：（提出2点＋内容3点=5点満点）×14回＝70点満点
②論述式の期末定期試験（65%）：130点満点
＊①と②の合計点が200点満点（100%）中120点（60%）以上で合格とする

その他

「質問・コメントシート」は授業内に電子配布するので、PCやスマホ等のネットワーク接続可能な電子媒体を持参すること。第1回目から「質問・コメントシート」の評価を開始するので、履修予定者は出席すること。

科目ナンバー：(PE)STS111J

科学史Ｂ【2022年度以降入学者】 社会の中の科学【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　菱　木　風　花

授業の概要・到達目標

本授業では、科学（本授業では、自然科学のことを指す）の歴史を研究するという立場から考えることによって、科学史についての理解を深めることを目指す。前半では主に「インターナルな科学史」の立場から、科学の基礎分野（天文学、地球科学、博物学、生物学、数学、物理学、化学、医学）と現代科学といわれる諸領域の形成について、それぞれの主要な舞台となった各国における歴史を概観する。後半では「エクスターナルな科学史」の立場から、科学に関連する様々な要素（宗教、思想、文化、大学、教育、制度、国家、戦争、災害、メディア）との関係に着目し、それぞれの歴史についても学んでいく。最後に、科学史の研究方法にはどのようなものがあるか、そして科学史研究にとって重要となる歴史資料にはどのようなものがあり、その保全や整理方法にはどのような課題があるのかを学ぶことで、今日における科学史研究の課題について検討する。

本授業の到達目標は、科学史を一つの方法として、多面的な要素から科学について理解し、説明できるようになることである。

授業内容

第１回目　イントロダクション：「インターナルな科学史」と「エクスターナルな科学史」
第２回目　天文学史、地球科学史（地質、地震、測地、気象、海洋）～望遠鏡観測からメタスケールのシミュレーションへ～
第３回目　博物学史、生物学史～観察から体系化へ～
第４回目　数学史、物理学史～現象の素朴な理解からの脱出、統一的な理論を目指して～
第５回目　化学史～実験室から産業の現場へ～
第６回目　医学史～人体の理解と生命の危機に対する挑戦の歴史～
第７回目　材料科学、情報科学～現代科学とは何か①～
第８回目　環境科学、原子力科学、核融合科学～現代科学とは何か②～/中間まとめ
第９回目　科学と宗教、思想、文化～自然物と自己との対峙のなかで～
第10回目　科学と大学、教育、制度～職業人としての科学者の育成とコミュニティの拡大～
第11回目　科学と国家、戦争～純粋科学と軍事科学の間で～
第12回目　科学と災害、メディア～科学者の社会的責任とは何であったのか～
第13回目　科学史の研究方法とその課題～歴史資料の保全と活用の実例から考える～
第14回目　全体まとめ

履修の注意点

本授業では理系の個別分野の歴史を学ぶが、それぞれの専門的知識や技量を身に着けるというよりも、社会における科学の役割や影響について考える方法を学ぶことが目的である。これまで学校で学んだことのない分野の歴史であっても、臆せず受講してみてほしい。

本授業の前に「科学史A」を受講していなくても本授業を受講することは可能であるが、「科学史A」で扱った基礎概念・用語については、原則改めて説明することはしないので、「科学史A」を受講していることを推奨する。
また、「技術史A」「技術史B」「物理科学概論A」「物理科学概論B」も関連科目である。

準備学習の内容

予習：次回の授業資料に目を通し、重要なキーワードや論点が何かチェックしておく。
復習：授業を振り返りながら、「質問・コメントシート」に質問事項やもっと説明してほしいこと等を記入。

教科書

使用しない。

参考書

『科学の社会史：ルネサンスから20世紀まで』、古川安（筑摩書房）.
『文化としての近代科学：歴史的・学際的視点から』、渡辺正雄（講談社）.
『科学史事典』、日本科学史学会編（丸善出版）.

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に、前回の授業内容についての質問・コメントシートのなかの皆さんからの質問にお答えする時間をつくる。授業内容のなかでもっと説明してほしい箇所があれば、それも併せて記入してほしい。

成績評価の方法

①「質問・コメントシート」(35%)：(提出２点＋内容３点=5点満点）×14回分＝70点満点
②　論述式の期末定期試験（65%）：130点満点
　＊①と②の合計点が200点満点（100%）中120点（60%）以上で合格とする

その他

「質問・コメントシート」は授業内に電子配布するので、PCやスマホ等のネットワーク接続可能な電子媒体を持参すること。第１回目から「質問・コメントシート」の評価を開始するので、履修予定者は出席すること。

科目ナンバー：(PE)STS111J

技術史A【2022年度以降入学者】 技術の歩み【2021年度以前入学者】 古代・中世・近代の技術【2016年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　河　西　棟　馬

授業の概要・到達目標

本講義では前史時代から産業革命直前期までを対象に、（西洋中心主義の誹りは覚悟した上で）西洋世界の技術史を検討する。「技術」は常にその時々の社会・経済・政治・文化・環境等と技術は相互に規定しあう関係にあり、また、常に何らかの目的のために用いられるものである。本講義では「技術の目的」という視点から、近代以前の技術史を概観していく。
【到達目標】過去の技術の発展と社会的背景の結びつきを理解するとともに、歴史的文脈の中で過去・現在の技術について分析する能力を養う。

授業内容

第１回目　導入（分析対象の概念的整理）、現生人類登場以前から新石器革命まで
第２回目　古代（１）　文明と国家の始まり（文字記録システムと官僚制、治水事業、大建築）
第３回目　古代（２）　戦争技術の起こりと古代の冶金技術
第４回目　古代（３）　ヘレニズム文化における科学と技術
第５回目　古代（４）　ローマ帝国時代の土木と建築、古代世界の終焉
第６回目　中世（１）　中世ヨーロッパの農業と動力
第７回目　中世（２）　ゴシック建築の時代：神を荘厳するための技術
第８回目　中世（３）　機械式時計の発明と近代以前の時間意識
第９回目　中世（４）　商業および都市の復活：中世の手工業と商業数学
第10回目　近世（１）　東から西への技術移転：製紙、羅針盤、火薬、印刷術
第11回目　近世（２）　ルネサンスの技術者たちと遠近法
第12回目　近世（３）　活版印刷のインパクト
第13回目　近世（４）　火器の導入と軍事革命
第14回目　近世（５）　技術史側から見た科学革命

履修の注意点

特に履修要件は設けないが、科学・技術及び歴史学に一定の関心があることが望ましい。

準備学習の内容

必要に応じて講義前に該当回の講義資料に目を通しておくことが望ましい。

教科書

特に設けない。

参考書

講義中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義冒頭で前回分の質問およびコメントに対して講師より応答を行う。

成績評価の方法

毎講義後のリフレクションシートの提出（平常点）と最終レポートで評価する。評価の比重は平常点を20%、最終レポートを80%とする。

その他

資料の印刷・配布はしないため、各自講義資料をプリントアウトして持参するか、あるいは資料の閲覧が可能な端末（ラップトップPCあるいはタブレットなど）を持参することが望ましい。

科目ナンバー：(PE)STS111J

技術史B【2022年度以降入学者】 科学技術と現代社会【2021年度以前入学者】 近代・現代の技術【2016年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　河　西　棟　馬

授業の概要・到達目標

本講義では産業革命期から現代までを対象に、西洋世界の技術史を検討する。従来科学は技術とは別系統で発展してきたが、近代以降は国家や資本を介して技術との結びつきを急速に強めていく。技術の「科学技術」化とともに、科学もまた目的駆動的（つまりは技術的な）性格を持つようになる。本講義では〈国家・資本を介した科学・技術の融合〉という視点から、近現代の技術史を概観していく。
【到達目標】過去の技術の発展と社会的背景の結びつきを理解するとともに、歴史的文脈の中で過去・現在の技術について分析する能力を養う。

授業内容

第１回目　導入：産業革命概論
第２回目　イギリス産業革命の技術：鉄・石炭・蒸気
第３回目　蒸気機関
第４回目　綿繊維工業
第５回目　近代的交通輸送技術の形成：運河・鉄道・蒸気船
第６回目　19世紀のグローバリゼーション：帝国の技術としての電気通信
第７回目　第二次産業革命概論
第８回目　電灯・電力システムの形成
第９回目　生産の「科学」化：標準化部品・互換性・科学的管理・大量生産
第10回目　戦争の産業化
第11回目　第一次大戦の科学技術（１）　塹壕戦とその打開策の追求
第12回目　総力戦時代の科学技術（２）　第二次大戦・マンハッタン計画・原爆開発
第13回目　冷戦とコンピュータ・インターネット
第14回目　総括

履修の注意点

特に履修要件は設けないが、科学・技術及び歴史学に一定の関心があることが望ましい。

準備学習の内容

必要に応じて講義前に該当回の講義資料に目を通しておくことが望ましい。

教科書

特に設けない。

参考書

講義中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義冒頭で前回分の質問およびコメントに対して講師より応答を行う。

成績評価の方法

毎講義後のリフレクションシートの提出（平常点）と最終レポートで評価する。評価の比重は平常点を20%、最終レポートを80%とする。

その他

資料の印刷・配布はしないため、各自講義資料をプリントアウトして持参するか、あるいは資料の閲覧が可能な端末（ラップトップPCあるいはタブレットなど）を持参することが望ましい。

科目ナンバー：(PE)BPH171J

物理科学概論A【2022年度以降入学者】 物理の世界【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　内　田　俊　郎

授業の概要・到達目標

授業の概要
　物質のミクロな世界の探求が進んだ19世紀末から20世紀初めに物理学には大きな変革が生じた。この変革は1925年から26年にかけて量子力学が建設されたことで一応の決着をみたが、この変革以前の物理学を古典物理学、以後の物理学を現代物理学などと称している。もちろん現代物理学に基礎は古典物理学にある。
　この講義では主に古典物理学を扱い古典物理学を構成する力学や熱学、電磁気学、特殊相対論などの基本的な考え方をその歴史的成立過程や我々の日常との関わりとともに学ぶ。
到達目標
　身近に生起する物理現象を説明できる。

授業内容

1．講義内容の紹介、物理学の歴史
2．古典力学と近代物理学の成立
3．運動の法則と運動量
4．エネルギーの概念と力学的エネルギーの保存
5．重力と万有引力の法則
6．連続体の波動現象
7．巨視的世界と微視的世界、気体分子運動論
8．熱の本性と性質
9．電磁気学の成立
10．いろいろな電磁気的な現象、電磁波
11．光の性質
12．特殊相対性理論
13．一般相対性理論
14．ミクロな物質の世界と古典物理学の限界、いくつかの補足とまとめ

履修の注意点

高校の物理や数学の知識は不要だが、義務教育で学習した程度の数式は使う。

準備学習の内容

配布資料で予習、復習してください。

教科書

教科書は指定しない。
PDFファイルで資料を配布する。

参考書

安孫子誠也 著「歴史をたどる物理学」東京教学社
朝永振一郎 編「物理学読本」みすず書房
安孫子誠、岡本拓司、小林昭三 他 著 「はじめて読む物理学の歴史」ベレ出版
その他、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは授業時間中に行う。

成績評価の方法

定期試験 90%、授業への取り組み10%。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)BPH171J

物理科学概論Ｂ【2022年度以降入学者】 物質と宇宙【2021年度以前入学者】	2単位
	1年次

兼任講師　内　田　俊　郎

授業の概要・到達目標

物理科学概論Bでは現代物理学が到達した物質観を学ぶ。

はじめに量子力学を概説し、量子力学により解明された原子の構造や原子核に話を進める。原子核物理に関連して原子力や放射線について多少詳しく解説する。次いで現在判っている物質の基礎的な構成要素である素粒子とそれらに働く基礎的な相互作用を説明し、最後に宇宙における元素合成の概略を述べる。

現代物理学の世界の観方を知るとともに、例えばニュース等に現れる原子力等の物理学に関連する用語の意味が理解できるようになることが目標である。

授業内容

1．講義内容の紹介、物理学の歴史
2．原子論の成立
3．ミクロな物質の世界と古典物理学の限界
4．量子力学の成立
5．原子・分子の量子力学
6．金属と半導体とは何か
7．原子から原子核へ、原子核の性質
8．同位体と放射線
9．核分裂の発見と核分裂の連鎖反応
10．原子炉と原子力発電
11．核融合反応と太陽のエネルギー
12．原子核から素粒子へ、クォークとレプトン
13．４つの力と素粒子の標準模型
14．ビッグバン宇宙論と元素の起源

履修の注意点

高校の物理や数学の知識は不要だが、中学で学習した程度の数式は使う。

準備学習の内容

配布資料で予習、復習してください。

教科書

教科書は指定しない。
PDFファイルで資料を配布する。

参考書

安孫子誠也 著「歴史をたどる物理学」東京教学社
S.ワインバーグ 著 「電子と原子核の発見」ちくま学芸文庫
朝永振一郎 編「物理学読本」みすず書房
F.クローズ著 井上健訳 「宇宙という名の玉ねぎ」吉岡書店
その他、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは授業時間中に行う。

成績評価の方法

定期試験 90%、授業への取り組み10%。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)BPH171J

環境科学概論Ａ【2022年度以降入学者】 エネルギーと環境【2021年度以前入学者】	2単位
	1年次

兼任講師　市　野　美　夏

授業の概要・到達目標

近年、環境の悪化が人類だけでなく、生物全体に及ぼす影響が懸念され、大きな社会問題となっています。世界的な異常気象に加えて、日本では豪雨災害が毎年発生するなど、「地球温暖化」への懸念が年々増しています。
「地球温暖化」は地球規模での科学、政治、経済、社会など多様な分野を巻き込む複雑な問題です。地球システムは多くの構成要素から成り立ち、そのサブシステムである気候システムの理解も容易ではありません。そのため、変化のメカニズムや時間スケールに関する誤解や混同が見られ、多くの人々は「地球温暖化については知っているが、詳細はよくわからない」と感じているのではないでしょうか。
本講義では、地球温暖化に対する科学的理解を深めるため、まず、気候の形成に重要な物理法則などの基本的な概念を学びます。そして、過去に起こった気候変動を取り上げ、全地球環境史という広い視点から気候変動の全体像を俯瞰します。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：太陽放射とアルベド
第3回：放射の基礎と地球放射
第4回：放射エネルギー収支
第5回：大気のない放射収支
第6回：大気層を含む放射収支
第7回：温室効果
第8回：全球凍結とは
第9回：気候ジャンプ
第10回：炭素循環
第11回：酸素の増加
第12回：古生代の気候変動
第13回：大量絶滅－PT境界
第14回：総合演習とまとめ

履修の注意点

この講義では、中学校卒業レベルの数学と理科の知識が前提とされます。また、高校1年生程度の数学、物理、化学の知識があると理解が深まります。数式を使用した講義内容も含まれています。
講義中には、受講者が意見を発表する機会も設けられており、積極的な参加が望まれます。
後期に開講される「環境科学概論B」は、本講義の続編です。こちらでは新生代以降の気候変動を扱います。「環境科学概論B」では、本講義の内容が前提知識とされるため、「環境科学概論B」を受講する前に本講義を受講することを推奨します。

準備学習の内容

各講義中に配布される資料は、その後の復習に役立ちます。講義の理解を深めるため、これらの資料を活用して、講義後に自主的に復習することをお勧めします。特に基礎的な項目については、次の講義に進む前に十分に理解しておくことが重要です。疑問点があれば、次回の講義の始めに質問することで、理解を深めることができます。
また、講義の理解を助けるために演習問題や考察課題を用意しています。これらの宿題は、復習だけではなく、次の講義への準備や質問を促すためのものです。過度な負担とならないよう配慮しており、各自のペースで取り組んでいただくことが望まれます。

教科書

教科書は特に定めていませんが、各講義で配布される資料には、学習を深めるための参考文献も含まれています。

参考書

この講義では、特定の参考書を必須とはしていませんが、講義で使用する図表やデータの引用文献を配布資料に記載しています。これらの文献は専門性が高く、難易度もありますが、知識を深めたいと考える方には良い資源となります。ただし、これらは学びの補完として位置づけられており、基本的な講義内容の理解に集中することをお勧めします。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に行う。

成績評価の方法

成績は、講義への積極的な参加・貢献度と、期末試験の結果を総合的に評価して決定します。

その他

科目ナンバー：(PE)ENV191J

環境科学概論Ｂ【2022年度以降入学者】 環境と社会【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　市　野　美　夏

授業の概要・到達目標

近年、地球温暖化が社会的、科学的に大きな注目を集めています。本講義では、この現代の緊急課題に焦点を当て、気候変動のメカニズムを深く理解するための学びを展開します。環境科学概論Aで触れた基礎知識に基づき、人類の歴史を通じた気候変動の詳細な分析と、その現代社会への影響を探求します。
受講者は以下の目標を達成することが期待されます：
1. 新生代を通じた長期の気候変動の理解：人類の歴史に沿った気候変動のパターンを学び、その科学的背景を理解します。
2. 現代の気候問題への洞察：最新の気候変動研究や政府間パネル（IPCC）の報告を参考に、現代の地球温暖化問題への深い洞察を得ます。
3. 地球温暖化問題の再考：既に学んだ知識を活用して地球温暖化問題を再考し、その理解を深めます。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：放射収支の基礎（環境科学概論Aの復習）
第3回：大気循環の基礎
第4回：新生代の気候変動
第5回：ヒマラヤ隆起と寒冷化
第6回：第四紀の気候：氷期と間氷期
第7回：ミランコビッチサイクル
第8回：最終氷期
第9回：急激な気候変動と熱塩循環
第10回：完新世前期の気候変動
第11回：過去2000年の気候変動
第12回：20世紀の気候と地球温暖化
第13回：気候モデル実験と将来予測
第14回：まとめと総合演習

履修の注意点

この講義では、中学校卒業レベルの数学と理科の知識を前提としています。また、高校1年生程度の数学、物理、化学の知識があることが望ましいです。講義には数式を用いる部分もありますので、これらの基礎的な科学知識が役立ちます。
前期に開講される「環境科学概論A」では、本講義の第2回の内容を6回にわたって詳細に学びます。したがって、できるだけ「環境科学概論A」を受講した上で本講義に臨むことをお勧めします。環境科学概論Aを受講していない場合、その6回分の内容について自習する必要が生じる可能性があります。
また、講義中には受講者が自身の意見を発表する機会も設けられています。積極的な参加と意見交換が講義の理解を深める上で重要です。

準備学習の内容

各講義内容は、次回以降の講義を理解するために必要な事柄を扱います。そのため、講義後は配布資料等を活用して復習し、これが次回の講義の予習となります。特に基礎的な項目は、次の講義に進む前に十分に理解しておくことが重要です。もし疑問点があれば、次回の講義の始めに質問して、理解を深めるようにしましょう。
さらに、講義の理解を支援するために演習問題や考察課題を宿題として用意しています。これらは復習のためだけでなく、次の講義への準備や質問のためのものでもありますので、各自で取り組むことをお勧めします。

教科書

教科書は特に定めていませんが、各講義で配布される資料には、学習を深めるための参考文献も含まれています。

参考書

この講義では、特定の参考書を必須とはしていませんが、講義で使用する図表やデータの引用文献を配布資料に記載しています。これらの文献は専門性が高く、難易度もありますが、知識を深めたいと考える方には良い資源となります。ただし、これらは学びの補完として位置づけられており、基本的な講義内容の理解に集中することをお勧めします。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に行う。

成績評価の方法

成績は、講義への積極的な参加・貢献度と、期末試験の結果を総合的に評価して決定します。

その他

科目ナンバー：(PE)BBI191J

生命科学概論Ａ【2022年度以降入学者】 生物の成り立ちと生命現象【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　亀　谷　匠　郁

授業の概要・到達目標

この地球で最も長い制作期間を要する作品は何だろうか？46億年前に地球が誕生して以来、生命は数十億年の時を経て現在の姿に至りました。その進化の歴史は壮大であり、人類に計り知れない恩恵をもたらしてきました。生命を解き明かす学問である生命科学は、医学、農学、工学といったさまざまな分野に応用され、人類の生活を豊かにしてきた一方で、生命科学に関する基本的な知識やリテラシーが社会生活を営むうえでますます重要になっています。「記事にあるRNAって何？」「遺伝子組み換えとは？」「iPS細胞の凄さは？」「このサプリメントは本当に健康に良いの？」これらの疑問は、皆さんの生活にも関係しているのではないでしょうか。
本講義では、生命科学の基本知識を学びながら、生命科学と社会のつながりについて理解を深めることを目指します。また、知識だけでなく、生命科学の根本的なロジックや考え方を学ぶことで、皆さんの生命科学リテラシーを高めることを期待しています。このロジックは非常にシンプルであり、身近な疑問を解決する糸口を提供してくれるでしょう。
少々堅苦しい内容に聞こえたかもしれませんが、講義内容は決して難しいものではありません。ぜひ、生命科学の楽しさや奥深さに触れ、驚きと好奇心を育んでいただければと思います。

授業内容

1．生命科学がどう社会を変えてきたか？
2．生命科学のロジック
3．細胞生物学：細胞の基本構造、細胞の種類、細胞分裂
4．遺伝学：セントラルドグマ、エピジェネティクス
5．発生生物学：初期発生と個体発生、変態・表現型可塑性
6．生殖生物学：減数分裂、性決定、性の種類
7．進化生物学：現代の進化論と誤解、発生と進化
8．再生生物学：生命の再生力、再生医療の現在と可能性
9．生命科学の技術：クローン技術やゲノム編集など
10. 生理学：代謝、睡眠、内分泌
11. 神経科学：神経科学の基礎知識、脳の進化、神経疾患
12. 免疫学：自然免疫と獲得免疫、人類と感染症の歴史
13. これまでの授業のまとめと復習
14. 生命科学の未来と社会とのかかわり

履修の注意点

毎回の授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

準備学習の内容

予習・復習することをおすすめします。授業内容が次回授業に関連していることがあるので、とくに復習に力をいれてください。

教科書

とくに定めません。

参考書

必要があれば授業内で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストとレポートについては、全体についての講評をフィードバックします。

成績評価の方法

定期試験もしくはレポート課題 40%　授業への参加度 60%

その他

ありません。

科目ナンバー：(PE)BBI191J

生命科学概論Ｂ【2022年度以降入学者】 生命とバイオテクノロジー【2021年度以前入学者】	２単位 １年次

兼任講師　飯　島　和　樹

授業の概要・到達目標

前期の生命科学概論 A からの発展として、**マクロな生物現象に関わる生物学分野**（進化生物学、生態学、神経科学など）を扱う。特に、政治経済について考察する上で重要な意義を持つ、人間の生物的側面に関わる知見を紹介する。
授業の前半では、遺伝現象から進化のメカニズムを理解し、**進化の産物として人間行動を理解するアプローチ**を紹介する。授業の後半は、神経細胞の働きから知覚・運動を生み出す脳のメカニズムを概説し、**経済的意思決定や道徳判断などの社会行動を生み出す脳の働き**についての理解を深める。最終的には、こうした人間行動についての機械論的な理解と、日常的な世界像が前提とする人間の自由とがどのように調停可能であるのかを考察する。また、基礎的な生物学の知識だけでなく、生命や生命科学技術に関する倫理的・法的・社会的な課題も取り扱う。
本講義を通じて、マクロな生物学についての基礎的な知識を獲得するとともに、政治や経済といった**人間固有に思われる社会現象の背後にある生物学的な基盤**について見通す感覚を養ってほしい。本講義を通じて、政治経済に対するパースペクティヴがより豊かなものとなることを期待する。

授業内容

第１回　政治経済学部生が生物学を学ぶ理由
第２回　進化生物学序論（１）：進化のメカニズム
第３回　進化生物学序論（２）：分子進化学
第４回　進化生物学序論（３）：進化とゲーム理論
第５回　進化と人間行動（１）：人類の進化
第６回　進化と人間行動（２）：協力行動
第７回　神経科学序論（１）：神経細胞
第８回　神経科学序論（２）：知覚
第９回　神経科学序論（３）：運動
第10回　神経経済学（１）：報酬系
第11回　神経経済学（２）：意思決定と経済行動
第12回　道徳の神経科学：道徳判断
第13回　神経科学と自由意志
第14回　神経倫理学／神経科学技術の ELSI
（講義内容は、授業の進行状況等により変更する場合がある）

履修の注意点

この講義では、高校程度の数学、生物の知識があることを前提とする。数式を用いる箇所もある。統合的な生命理解のためには、生命科学概論 A を履修していることが望ましいが必須ではない。
毎回、コメントの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行う。

準備学習の内容

各講義内容は、次回以降の講義内容を理解する上で必要な事柄について学習するため、講義後は配布したスライド資料や紹介した参考文献などで復習することで、次回以降の予習となる。疑問点などがあれば、講義中、あるいは、クラスウェブの「教員とのメッセージ」欄で質問し、理解した上で次の講義に進むよう心がける。

教科書

特に定めない。

参考書

カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン『[url=https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000194951]カラー図解 進化の教科書』第1-3巻（講談社）
長谷川寿一・長谷川真理子・大槻久『[url=http://www.utp.or.jp/book/b600572.html]進化と人間行動 第２版』（東京大学出版会）
三上章允『[url=https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000370445]カラー図解 脳の教科書：はじめての「脳科学」入門』（講談社）
エリック・R・カンデルら『[url=https://www.medsi.co.jp/products/detail/3862]カンデル神経科学 第２版』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
（その他、関連書籍を講義中に紹介する）

課題に対するフィードバックの方法

各回の質問・コメントについては、全体についての講評をフィードバックする。

成績評価の方法

授業への参加度（30%）および期末試験（70%）から総合的に判断する。

その他

教員メールアドレス：iijima.kazuki(at)lab.tamagawa.ac.jp

科目ナンバー：(PE)ARS191J

日本事情Ａ	２単位 １年次

准教授　兼　子　　歩

授業の概要・到達目標

この授業は、留学生およびこれから留学を希望している学生（こちらは政治経済学部に限る）を対象としています。日本の歴史や文化から政治や経済にいたるまで、日本に関するさまざまなテーマについて、政治経済学部ならではの多彩な講師陣によって展開されます。留学生にとっては、日本に関する多様な知識を得る機会となるとともに、海外留学を希望する一般の学生にとっても、留学先で日本を紹介するために有用な知識の獲得につながることでしょう。

授業内容

第１回　イントロダクション（兼子歩）
第２回　高校国語教科書の「定番」・「小説の神様」志賀直哉『城の崎にて』を読む（冨澤成實）
第３回　日本の伝統遊戯を学ぶ（後藤光将）
第４回　日本のゲーム業界について（ヨーク、ジェームズ）
第５回　日本語の丁寧表現に対する社会言語学的な視点（ジョージ、ジョニー E）
第６回　世界における日本人の政治意識と行動（加藤言人）
第７回　天皇と政治（相原耕作）
第８回　日本の人口と家族（鎌田健司）
第９回　データで見る日本経済（関根篤史）
第10回　日本の会社（日向祥子）
第11回　日本の環境問題：現在と過去（大森正之）
第12回　日本財政の現状（星野泉）
第13回　日本の老舗と地域産業（奥山雅之）
第14回　日本の中小企業の経営特質（森下正）

履修の注意点

定員は100名で、上記のように留学生と留学を希望する学生のための授業なので、次のような履修条件が設定されています。留学生は、春学期に履修登録を行う場合、優先的に登録されます。一般の学生は秋学期の抽選期間にエントリーを行うことができます。ただし「留学を希望する学生」を対象としているため、一般の学生は、短期留学派遣最低基準のTOEICスコア550点以上を取得している必要があります。なお、留学生でも、秋学期に登録を行う場合には、一般の学生と同様の期間と条件になりますので注意してください。

準備学習の内容

予めOh-o! Meijiを通じて予習課題が指定された場合は、必ず予習を行ってください。また回によっては意見の発表や、グループワークが課される場合もあるので、そのような場合には積極的に参加するように心がけてください。復習課題が課される場合も同様に、丹念に復習を行い、提出課題がある場合には必ず期限内に提出するようにしてください。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介の予定。

課題に対するフィードバックの方法

課題等の講評をOh-o! Meiji等で行う。

成績評価の方法

各授業後に課題が課せられます。授業中にリアクションペーパーを記入し授業終了時に提出する場合や指定期限までにOh-o! Meijiシステム等で提出する場合があります。各回のリアクションペーパーが担当教員によって採点され、最終的に集計された結果が期末評価となります。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ARS191J

国際文化特殊講義Ａ【2022年度以降入学者】 国際文化特殊講義Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

准教授　佐久間　寛

授業の概要・到達目標

【授業概要】
本講義ではアフリカについて学ぶ。講義の主な素材となるのは、担当者がニジェール共和国の一村落で実施した、文化人類学的なフィールドワークにもとづく情報である。こうしたミクロな情報を、21世紀転換期の世界情勢と連関させて論じることにより、自分たちとは一見無縁にも感じられるアフリカを同時代の同一地平で考え抜く視座を養う。
【到達目標】
アフリカは、わたしたちが暮らす地域から遠く離れている。そこではわたしたちの「当たり前」がかならずしも通用しない。本講義では、たんにアフリカに関する知識を深めるだけでなく、自らと遠く隔たっている（ように思われる）地域を理解することにより、自らの「当たり前」を再考する柔軟な思考力の養成を目指す。

授業内容

第1回目　フィールドワークで学ぶアフリカ
第2回目　フィールドを「起こす」(1)
第3回目　フィールドを「起こす」(2)
第4回目　フィールドで「書く」(1)
第5回目　フィールドで「書く」(2)
第6回目　フィールドで「撮る」
第7回目　フィールドが「起こる」
第8回目　フィールドで「測る／数える」
第9回目　フィールドを「見いだす」(1)
第10回目　フィールドを「見いだす」(2)
第11回目　フィールドを「読む」(1)
第12回目　フィールドを「読む」(2)
第13回目　フィールドを「読む」(2)
第14回目　フィールドを「省みる」

履修の注意点

毎回の授業ごとに、800～2000字程度のリアクションペーパーを提出することが必須の課題となる。また単なる感想ではなく、授業の内容をふまえて独自の思考を記すことが求められる。履修の可否の判断にあたってはくれぐれも注意すること。

準備学習の内容

講義全体につながりがあるので配付資料には繰り返し目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。講義ごとに資料を配付する。

参考書

特に定めない。適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の冒頭にリアクションペーパーに対するリプライを行う。

成績評価の方法

授業への参加度および授業ごとのリアクションペーパー(70%)、学期末レポート(30%)

その他

受講者の疑問や要望を極力尊重し、必要な場合には授業内容を柔軟に見直す。

科目ナンバー：(PE)ARS191J

国際文化特殊講義B【2022年度以降入学者】 国際文化特殊講義Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

准教授　小　林　広　直

授業の概要・到達目標

本講義ではイギリス、アメリカ、アイルランドの文化を、11の文学作品（演劇・詩・小説・映画）を通じて、学びます。異文化を学ぶ上で、歴史書や統計データは1つの確実なアプローチの方法であることは言うまでもありませんが、文学作品には当時に生きていた〈人〉とその生活が活写されています。時代も場所も異なる人々の〈生〉に触れ、それらは今を生きている私たちとどのように異なり、どのように同じなのか――演劇や詩や小説の言葉、映画やTVドラマの映像を通じて、英米愛の「国際文化」を学びましょう。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　イギリス、アメリカ、アイルランドの基本情報を学ぶ
第3回目　シェイクスピア『ハムレット』(1601)
第4回目　ジョン・ミルトン『失楽園』(1667)
第5回目　チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』(1843)
第6回目　シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1847)
第7回目　マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒けん』(1884)
第8回目　W・B・イェイツ「復活祭1916年」(1916)
第9回目　ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』(1922)
第10回目　スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』(1925)
第11回目　トニ・モリソン『青い眼が欲しい』(1970)
第12回目　リドリー・スコット『ブレードランナー』(1982)
第13回目　カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』(2005)
第14回目　期末試験
※ただし、上記の内容は受講者の関心や希望によって変更の可能性あり

履修の注意点

講義内で紹介する映画には一部、暴力や性描写が過激な場面がある。講義内で視聴する際にも注意を促すが、その点はご了承いただきたい。

準備学習の内容

講義科目なので予習・復習共に特に必要としないが、可能な限り事前に講義で扱う作品を読む、あるいは映画を観ておくことが望ましい。

教科書

なし（適宜プリントを配布）

参考書

適宜、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にて行う。個別の質問もメールで受け付ける。

成績評価の方法

①授業への参加度　30%　②期末試験（プリント、およびノートの持ち込み可）　70%

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ARS191J	
国際文化特殊講義Ｂ【2022年度以降入学者】 国際文化特殊講義Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次
教授　田　村　久　男	

授業の概要・到達目標

ドイツ語圏の文化と歴史―史実と伝承をめぐって

日本でも比較的よく知られたドイツ各地の伝承や伝説を取り上げ、その歴史的背景を探る。また、これらドイツの伝説・伝承が絵画や音楽などの芸術作品や映画、ドラマ等で扱われ、ドイツ国外も含めてどのように広まり、受け入れられてきたのかを見ていく。伝承・伝説の成立と普及、受容を通してドイツ語圏文化の一端を考察しながら、現代にもつ意味を考える。

授業内容

第１回　ガイダンス　授業の概略
第２回　ローレライ伝説をめぐって――誕生と普及
第３回　ドイツ紹介――ライン川とドナウ川沿いの町
第４回　中央ヨーロッパの要害アルプス、ゴットハルト峠
第５回　アルプス「悪魔の橋」とイタリアへの通路
第６回　スイス建国とウィリアム・テル伝説
第７回　中部ドイツ・ハルツ山地の魔女伝説「ワルプルギスの夜」
第８回　芸術作品における魔女伝説
第９回　スヴォーロフ将軍のアルプス雪中行軍とナポレオン戦争
第10回　ゴッタルドトンネル(1882年) とベーストンネル(2016年) の開通
第11回　新旧二つの大掘削工事とアルプトランジット計画NEAT
第12回　ウィーン世紀末芸術――クリムトとシーレ
第13回　映画『黄金のアデーレ』――ナチス略奪芸術と返還運動
第14回　まとめと補足
(進行状況によっては話題が入れ替わることもある)

履修の注意点

この講義は文化が中心であり、必要に応じて歴史的な背景などを授業の中でも説明はするが、あらかじめドイツ、ヨーロッパについて高校世界史程度の予備知識を持っておくことが望ましい。

準備学習の内容

特にはないが、扱うテーマの時代背景などを事前に下調べしておくことが望ましい。

教科書

特になし。必要な資料はその都度、授業の中で配布する。

参考書

適宜、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜質問時間を設け、必要に応じてレポートや授業内容についてのアンケートを行うことがある。

成績評価の方法

授業への参加度30％と期末筆記試験70％で総合的に評価する。
なお、授業への参加度は毎回の出欠とアンケート等を参考にする。

その他

科目ナンバー：

全学共通総合講座Ⅰ・Ⅱ

2単位

1～4年次

授業の概要・到達目標

本学では、学部の枠を超え、学術的で魅力ある講座を「全学共通総合講座」として、以下の通り各キャンパスで開講している。

授業内容

２０２６年度 全学共通総合講座 開講申請書学部別一覧

No.	講座名	開講キャンパス	開講期間	コーディネーター
	法学部			
1	人権って何？築くちから、気づくこころ	駿	春	江島　晶子
2	グローバル化と人権	駿	秋	江島　晶子
3	「土地と建物の登記に関する講座」	駿	秋	亀田　浩一郎
4	紛争の解決・予防の仕組みと実務家の役割	駿	秋	太田　勝造
	商学部			
5	アート・オブ・物流	駿	春	町田　一兵／菊池　和夫
6	明治スタートアップ学2026～起業・スタートアップにチャレンジ！～	駿	春	出見世　信之
7	ポスト・SDGｓのファッションビジネス ～2000年代以降の日本のファッション現在地	駿	秋	高野　公三子
	政治経済学部			
8	環境と政治・経済・社会Ⅰ	駿	春	大森　正之
9	環境と政治・経済・社会Ⅱ	駿	秋	大森　正之
10	紛争と武器移転の連鎖	駿	秋	佐原　徹哉
11	コントラクトブリッジで身につける論理的思考力	中	春	柴田　有祐
12	明治大学の歴史Ⅰ	和	春	冨澤　成實
	文学部			
13	大学博物館の現場を実見する	駿	秋	駒見　和夫
14	登戸研究所から考える戦争と平和	駿	秋	山田　朗
15	シェイクスピアの現代的魅力	和	春	井上　優
16	登戸研究所から考える戦争と平和	生	春	山田　朗
17	明治大学の歴史Ⅰ	生	春	高田　幸男
	理工学部			
18	環境人文学Ⅰ｜ローカルスタンダードとは何か	生	春	鞍田　崇
19	環境人文学Ⅱ｜インティマシーとは何か	生	秋	鞍田　崇
20	先端医療概論	生	秋	工藤　寛之
21	データサイエンス・AI概論 ※メディア授業科目	－	秋	崎濱　栄治
	農学部			
	開講科目なし			
	経営学部			
22	明治起業家学　―起業はキャリアの選択肢―	駿	春	岡田　浩一
23	連合寄付講座「働くことと労働組合」	駿	春	山崎　憲
24	労働講座企画委員会寄付講座「職場のリアルから働き方を考える講座」	駿	秋	早川　佐知子
	情報コミュニケーション学部			
	開講科目なし			
	国際日本学部			
25	ダイバーシティ＆インクルージョンと日本社会	中	秋	山脇　啓造
	総合数理学部			
26	データサイエンスAI概論　※メディア授業科目	－	春	中村　和幸

履修の注意点

各講座の授業内容、テキスト、成績評価の方法等は、「2026年度全学共通総合講座シラバス」ホームページに掲載してます。受講する場合は、必ず確認してください。
政治経済学部生は、履修制限単位数等が定められているので、シラバスI「履修の手引き」を参照すること。

準備学習の内容

「2026年度全学共通総合講座シラバス」を参照すること。

教科書

「2026年度全学共通総合講座シラバス」を参照すること。

参考書

「2026年度全学共通総合講座シラバス」を参照すること。

課題に対するフィードバックの方法

「2026年度全学共通総合講座シラバス」を参照すること。

成績評価の方法

「2026年度全学共通総合講座シラバス」を参照すること。

その他

「2026年度全学共通総合講座シラバス」を参照すること。

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（M）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Mixed)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　水曜　1時限

1単位

1年次

准教授　小　林　広　直

授業の概要・到達目標

英語はTOEICに代表されるように、皆さん（の多く）の就職活動において必須の、学ぶ「べき」ものでしょう。しかし英語ができると、どのようにあなたの人生が、経済的に、ではなく、精神的に豊かになるのか――その1つの回答は英語原文で文学作品を読む、つまり翻訳ではどうしても抜け落ちてしまう原文のニュアンスを味読・精読することにあると思います。本授業は英米愛の作家による、(比較的）簡単な英語で書かれた短篇を読んで、他の受講生と楽しくおしゃべりする（ディスカッション、とも言います）授業です。受講生の希望があれば、英語で議論をしてみても面白そうですね。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　英語で文学作品を味読・精読するために（担当教員によるレクチャー）
第3回目　発表サンプル　ジェイムズ・ジョイス「痛ましい事件」
第4回目　学生発表①　ジェイムズ・ジョイス「イヴリン」
第5回目　学生発表②　カート・ヴォネガット「永遠への長い散歩」
第6回目　学生発表③　サマセット・モーム「生家」
第7回目　学生発表④　O・ヘンリー「賢者の贈り物」
第8回目　学生発表⑤　ケン・リュウ「紙の動物園」
第9回目　学生発表⑥　フランク・オコナー「国賓」
第10回目　学生発表⑦　スコット・フィッツジェラルド「マイ・ロスト・シティ」
第11回目　学生発表⑧　エドガー・アラン・ポー「黒猫」
第12回目　学生発表⑨　トルーマン・カポーティ「クリスマスの思い出」(前半)
第13回目　学生発表⑩　トルーマン・カポーティ「クリスマスの思い出」(後半)
第14回目　期末試験
※ただし、上記の内容は受講者の関心や希望によって変更の可能性あり

履修の注意点

英語原文と共に日本語訳も配布しますので、どんなに忙しくとも授業前に作品を一度読んでくること。よって、毎回30～90分の予習が必要とお考え下さい。

準備学習の内容

予習としては、扱う短篇を事前に読んでくること、復習としては、授業で学んだ内容を踏まえて作品を再読すること。

教科書

プリントと配布します。

参考書

適宜、指示します。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にて行います。個別の質問もメールで受け付けます。

成績評価の方法

①授業への参加・貢献度　30%　②発表　20%　③期末試験　50%

その他

語学の授業なので、欠席や遅刻をしないようにすること。

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Advanced)【2021年度以前入学者】

1単位

【和泉】　春学期　火曜　4時限

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development
第3回目　Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation
第4回目　Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation
第5回目　Mini Debate Topic Presentation All Teams
第6回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development
第7回目　Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion
第8回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice
第9回目　First Debate Topic Presentation All Teams
第10回目　Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development
第11回目　Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion
第12回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice
第13回目　Final Debates in Groups
第14回目　Vocabulary Sheet Submission（Google Classroom）, Final Debate Review

履修の注意点

Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course.
This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes.

準備学習の内容

Students will use Google Classroom for all class work submissions. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES（JPEG, PNG, GIF, etc）for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.

教科書

No textbook required.

参考書

Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class. Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom

課題に対するフィードバックの方法

We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course.

成績評価の方法

40% Weekly Review（research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online）
20% Participation（students must be actively involved in the class）
40% Assessment（includes two debates, and debate-related preparation assignments）

その他

None

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（A）【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅠ(Advanced)【2021年度以前入学者】	1単位
【和泉】　春学期　金曜　3時限	1年次

兼任講師　ＷＲＩＧＨＴ　ＡＬＥ

授業の概要・到達目標

This class will aim to teach students about the basic concepts international relations as well as improve their English skill through a variety of related activities. Students will learn to think critically about historical and current events by understanding the concepts which drive international events. Students will improve their English through listening to short lectures, short readings, discussions, learning the vocabulary of the field and a short debate and presentation.

授業内容

第1回　Course introduction
第2回　Concepts in Realism: anarchy, the security dilemma, and balance of power
第3回　Concepts in Realism: structural realism, polarity, alliance politics
第4回　Concepts in Realism: defensive realism, balance of threat, arms racing
第5回　Concepts in Liberalism: democratic peace theory and collective security
第6回　Concepts in Liberalism: International organizations and regimes
第7回　Concepts in Liberalism: Interdependence and international law
第8回　Debate: Realism vs Liberalism
第9回　Concepts in Constructivism identities, interests, and Norms
第10回　Nature of anarchy in international relations
第11回　Psychology in international relations
第12回　Peace strategies
第13回　Presentation: Relating concepts to current events and history
第14回　Test

履修の注意点

This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.

準備学習の内容

Please review the readings and think about the discussion questions I distribute to prepare before each class. Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.

教科書

No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on quizzes and tests will be provided through grades. Feedback on presentations will be provided through grades and comments. Additional feedback will also be given during class as appropriate.

成績評価の方法

25% Quizzes
25% Test
25% Debate
25% Presentation

その他

If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　火曜　4時限

1単位

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development
第3回目　Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation
第4回目　Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation
第5回目　Mini Debate Topic Presentation All Teams
第6回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development
第7回目　Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion
第8回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice
第9回目　First Debate Topic Presentation All Teams
第10回目　Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development
第11回目　Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion
第12回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice
第13回目　Final Debates in Groups
第14回目　Vocabulary Sheet Submission（Google Classroom）, Final Debate Review

履修の注意点

Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course.
This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes.

準備学習の内容

Students will use Google Classroom for all class work submissions. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES（JPEG, PNG, GIF, etc）for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.

教科書

No textbook required.

参考書

Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class. Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom

課題に対するフィードバックの方法

We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course.

成績評価の方法

40% Weekly Review（research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online）
20% Participation（students must be actively involved in the class）
40% Assessment（includes two debates, and debate-related preparation assignments）

その他

None

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（U）【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅠ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】 【和泉】　春学期　金曜　1時限	1単位 1年次

兼任講師　ハインズ，マーティン

授業の概要・到達目標

This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; immigration, Japan's changing society, education, the role of women in society, and crime. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary（through reading assignments）and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.

授業内容

Week 1. Introduction / The World Today 1.
Week 2. Education 1. School life
Week 3. Education 2. Education systems around the world
Week 4. Focus on Japan 1. A changing society
Week 5. Focus on Japan 2. Tourism & immigration
Week 6. The World Today 2.
Week 7. Racism & Discrimination
Week 8. Immigration 1. 'A world without borders'
Week 9. Immigration 2. Political asylum / Economic refugees
Week 10. Crime & Punishment 1.
Week 11. Crime & Punishment 2.
Week 12. The World Today 3.
Week 13. Women in the workplace 1.
Week 14. Final presentations, course review & explanation

履修の注意点

This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.

準備学習の内容

Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles（provided by the lecturer）or research. Additionally, students will conduct on-line research and prepare for their final presentations. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.

教科書

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Any Feedback from assignments will be provided after the class.

成績評価の方法

A student's final grade will be based on the following:
Classroom participation & attendance
Homework
A final presentation

その他

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　火曜　5時限

1単位

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development
第3回目　Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation
第4回目　Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation
第5回目　Mini Debate Topic Presentation All Teams
第6回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development
第7回目　Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion
第8回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice
第9回目　First Debate Topic Presentation All Teams
第10回目　Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development
第11回目　Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion
第12回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice
第13回目　Final Debates in Groups
第14回目　Vocabulary Sheet Submission（Google Classroom）, Final Debate Review

履修の注意点

Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course.
This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 4th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students must have a TOEIC score of 750 or above as this is an upper advanced level class. If your TOEIC score is below 750, contact me before registering for the clas

準備学習の内容

Students will use Google Classroom for all class work submissions. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES（JPEG, PNG, GIF, etc）for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.

教科書

No textbook required.

参考書

Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class. Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom

課題に対するフィードバックの方法

We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course.

成績評価の方法

40% Weekly Review（research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online）
20% Participation（students must be actively involved in the class）
40% Assessment（includes two debates, and debate-related preparation assignments）

その他

None

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　1時限

1単位

1年次

兼任講師　ハインズ，マーティン

授業の概要・到達目標

This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; immigration, Japan's changing society, the Internet and family life. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary（through reading assignments）and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.

授業内容

Week 1. Introduction / The World Today 1.
Week 2. The Internet 1.
Week 3. The Internet 2.
Week 4. Focus on Japan 1. A changing society
Week 5. Focus on Japan 2. Tourism & immigration
Week 6. The World Today 2.
Week 7. Racism & Discrimination
Week 8. Immigration 1. 'A world without borders'
Week 9. Immigration 2. Political asylum / Economic refugees
Week 10. Family Life 1.
Week 11. Family Life 2.
Week 12. The World Today 3.
Week 13. A look back at 2026
Week 14. Final presentations, course review & explanation

履修の注意点

This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.

準備学習の内容

Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles（provided by the lecturer）or research. Additionally, students will conduct on-line research and prepare for their final presentations. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.

教科書

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Any Feedback from assignments will be provided after the class.

成績評価の方法

A student's final grade will be based on the following:
Classroom participation & attendance
Homework
A final presentation

その他

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　火曜　5時限

1単位

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development
第3回目　Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation
第4回目　Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation
第5回目　Mini Debate Topic Presentation All Teams
第6回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development
第7回目　Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion
第8回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice
第9回目　First Debate Topic Presentation All Teams
第10回目　Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development
第11回目　Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion
第12回目　Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice
第13回目　Final Debates in Groups
第14回目　Vocabulary Sheet Submission（Google Classroom）, Final Debate Review

履修の注意点

Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course.
This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 4th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students must have a TOEIC score of 750 or above as this is an upper advanced level class. If your TOEIC score is below 750, contact me before registering for the clas

準備学習の内容

Students will use Google Classroom for all class work submissions. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES（JPEG, PNG, GIF, etc）for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.

教科書

No textbook required.

参考書

Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class. Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom

課題に対するフィードバックの方法

We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course.

成績評価の方法

40% Weekly Review（research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online）
20% Participation（students must be actively involved in the class）
40% Assessment（includes two debates, and debate-related preparation assignments）

その他

None

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（M）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Mixed)【2021年度以前入学者】

【駿河台】　春学期　金曜　２時限

１単位

１年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This course gives students an opportunity to explore the past, looking at the fascinating nostalgic landscape of retro popular culture in the English-speaking world, particularly in the 80s and 90s and how these eras have continued to influence and inspire contemporary popular culture. By engaging with popular culture from the past and examining key trends and events and historical figures through their study of English, students learn about the social and cultural significance of these eras as they analyze, evaluate, and understand the impact and enduring appeal of those past decades and how they revolutionized styles and trends in current popular culture and contemporary society. Through readings and multimedia sources, the class will look at different examples in music, television, film, fashion, literature, and other cultural forms of the past eras for students to identify and discuss key characteristics of retro popular culture, to give them a deeper understanding of the dynamic nature of popular trends and movements, and for them to learn to connect their observations and ideas to their knowledge, experiences, and own cultural contexts. Class activities include lectures, small-group discussions, and mini presentations to encourage students to present ideas and exchange opinions and engage in critical thinking about the themes and topics that were presented.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course
Weeks 2 – 3：Defining popular culture
Week 4：Introduction to late 20th century popular culture
Weeks 5 to 7：Television, film, and music
Weeks 8 to 10：Fashion, identity and subcultures
Weeks 11 – 12：Social and political developments
Week 13：Contemporary retro and revival trends
Week 14：Evaluation and assessment | Wrap-up

履修の注意点

This course is intended for students with a TOEIC score of 520 or higher. Students with study-abroad experience are especially encouraged to enroll. The class is well suited for those interested in cultural topics, historical perspectives, and past eras, as well as for students who wish to strengthen their speaking and listening skills through group discussions and lectures.
Because this is a mixed-level course, a cooperative and supportive attitude is expected. You will frequently work with partners or in groups, and many activities are designed to promote idea-sharing, questioning, and open exchange.
Students are expected to make a consistent effort to use English at all times during class.
Basic proficiency with Microsoft Word or other word-processing software, as well as PowerPoint, will be helpful for completing course assignments.

準備学習の内容

Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, both in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.
Students are advised to always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts.

教科書

Handouts of the required readings will be given out in class.

参考書

Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either in print, online, or app form.

課題に対するフィードバックの方法

Students can directly receive feedback and advice from the professor regarding their work during the class.
Individual consultation sessions will be held as necessary.

成績評価の方法

Attendance and class participation（30%）
In-class work and written assignments, including homework（45%）
Final report or presentation（25%）

その他

Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)ANT111E

ACE Content-based Study（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅠ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【駿河台】　春学期　金曜　3時限

1単位

1年次

准教授　兼　子　　歩

授業の概要・到達目標

In this class you are expected to achieve basic skills of reading social sciences and humanities texts and of discussing issues related to the texts, both in English. You will enjoy good opportunities not only to learn oral English but also to deepen your understanding of global political and social issues.
This year we will read Catherine Ceniza Choy, ASIAN AMERICAN HISTORIES OF THE UNITED STATES（New York: Beacon Press, 2022）. This book overviews historical experiences of diverse Asian ethnic groups, including Japanese, Chinese, Korean, Filipino, Vietnamese, and so on, migrating from their homeland to the United States for various reasons, and picks up topics such as COVID-19 pandemic and anti-Asian hate crimes, ordeals of Japanese Americans during World War II, international adoptees from Korea to America, refugees from Indochina to the U.S., Filipino farm workers in Texas and California, etc.
Each week one of the students are assigned a part of the book and expected to make a presentation using Powerpoint. After questions from other students, we are to discuss various issues related to the assigned article.

授業内容

1）Introduction to this class
2）"Preface: Writing in the Tears of Great Hatred," and "Introduction: The Multiple Origins of Asian American Histories"
3）"ONE 2020: The Health of the Nation"
4）"TWO 1975: Trauma and Transformation"
5）"THREE 1968: What's in the Name 'Asian American'?"
6）"FOUR 1965: The Many Faces of Post-1965 Asian America"
7）"INTERLUDE 1965 Reprise: The Faces Behind the Food"
8）"FIVE 1953: Mixed Race Lives"
9）"SIX 1941 and 1942: The Days That You Remember"
10）"SEVEN 1919: Declaration of Independence"
11）"EIGHT 1875: Homage"
12）"CONCLUSION 1869: These Wounds"
13）Wrap-up session（1）
14）Wrap-up session（2）

履修の注意点

This class is designated as "Upper-Advanced," so you are required to have TOEIC score of 700 or more.

準備学習の内容

You are required to read every assignment（10 to 25 pages）in order to actively participate in discussions. You are also required to give a presentation on an assigned essay at least once during the semester.
The Textbook was translated into Japanese. If you hope to consult the Japanese version, see キャサリン・C・チョイ（佐原彩子訳）『アジア系のアメリカ史』（勁草書房、2024）.

教科書

You are required to purchase Catherine Ceniza Choy, Asian American Histories of the United States（New York: Beacon Press, 2022）.

参考書

キャサリン・C・チョイ（佐原彩子訳）『アジア系のアメリカ史』勁草書房、2024.
A copy of this book is in the holdings of Meiji University Library.

課題に対するフィードバックの方法

I will make comments on your presentation, and assist you in discussion.

成績評価の方法

Presentation... 30%
Contribution to discussion...70%

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（M）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Mixed)【2021年度以前入学者】

1単位

【和泉】　春学期　水曜　3時限

1年次

准教授　ジョージ，ジョニー

授業の概要・到達目標

DIY TED TALK
TED（Technology Entertainment and Design）talks have served as the premier online platform for excellence in presentation. TED's exploration of social issues through the voices of dynamic, charismatic speakers has created an online phenomenon. While you may have seen a TED talk, have you ever aspired to GIVE a TED talk? In this course we will watch and analyze TED talks to try to understand what makes such presentations effective. Finally, you will prepare and present your TED talk!
TED（Technology, Entertainment, and Design）トークは、優れたプレゼンテーションのための主要なオンライン・プラットフォームとして確立されています。TEDは、ダイナミックでカリスマ性のあるスピーカーの声を通して社会問題を探究し、オンライン上で大きな現象を生み出してきました。皆さんの多くはTEDトークを見たことがあるかもしれませんが、「自分がTEDトークを**行う**」ことを考えたことはあるでしょうか。本コースでは、TEDトークを視聴・分析し、どのような点が効果的なプレゼンテーションを生み出しているのかを理解することを目指します。そして最終的には、皆さん自身の**TEDトークを準備し、発表**してもらいます。
OBJECTIVES
Create clear, concise, engaging presentation content
Play to your strengths in speech and manner when presenting
Increase your awareness of presentation styles and strategies
到達目標
明確で簡潔、かつ聴き手を引き込むプレゼンテーション内容を作成する
発表の際に、話し方や立ち居振る舞いにおいて自分の強みを生かす
プレゼンテーションのスタイルや戦略に対する理解を深める
TEACHING METHODS
This course focuses on practice and improvement of your presentation skills with lots of feedback. You will discuss effective presentation skills with video examples. You will give presentations and discuss instructor and peer/self feedback.
Homework includes: finding video examples of effective speaking; preparing for presentations; giving feedback.
授業方法
本コースは、フィードバックを多く取り入れながら、プレゼンテーション能力の実践と向上に重点を置きます。動画の事例を用いて効果的なプレゼンテーションについて議論し、実際に発表を行い、教員および受講生同士・自己評価によるフィードバックについて話し合います。
課題には、効果的なスピーチの動画例を探すこと、発表の準備を行うこと、そしてフィードバックを行うことが含まれます。

授業内容

1　Course introduction/Self Introductions
　Qualities of an effective presentation brainstorm [groups]
　What's so special about TED?
　Examples–favourite talks Randall Munroe
　Visuals Storytelling Familiar ideas　Jokes（unexpected）"
　Presentation order
2　Why Storytelling Matters––Garr Reynolds TED Kyoto
　The Naked Presenter（THEME/message/story）
　Speech Workshop I—Brainstorm ideas with group"
3　How to tell a story––Beasty vs Tom Thum
　Examples–TED Presentations/Evaluation Forms
　Group Presentation prep"
4　Presentation #1 – Your favorite talk
5　Presentation #1 – Your favorite talk
6　Presentation #1 – Your favorite talk
7　Examples – STUDENT TED presentations
　Speech Workshop —Practice your group presentation
8　Examples – STUDENT TED presentations
　Speech Workshop —Practice your group presentation
9　Group presentations – Sell a product or service to a capital investor
10　Your TED talks
11　Your TED talks
12　Your TED talks
13　Your TED talks
14　Review and feedback

履修の注意点

Have fun speaking English!

準備学習の内容

Read and watch all assigned homework. Practice your presentations. Give constructive feedback to your peers.

教科書

None. All materials for the class will be provided via Oh-o! Meiji.

参考書

Reynolds, G.（2015, August 23）. Why storytelling matters | Garr Reynolds | TEDxKyoto [Video]. YouTube.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

10%　Class participation
20% Your Feedback for TED Talks
70% Presentations（Your favorite talk 10% + Sell a product or services 20% + your own TED talk 40%）

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　月曜　1時限

1単位

1年次

准教授　ヨーク　ジェームズ

授業の概要・到達目標

この授業は、「Games and Politics」というテーマで、ゲームの教育的可能性を活かし、政治経済学生に必要な語彙力や知識を英語で養うことを目指す。
学生は、以下のスキルを習得する
* ゲーム理論の知識（戦略的状況、双行列ゲーム、原初状態、損益、など）
* 政治経済のトピックスを英語で話せるようになる
* ゲームの知識を深める。

授業内容

第1回　イントロダクション（授業内容や達成目標）
第2回　ゲーム1：学ぶ（ルール、歴史、語彙、文法）
第3回　ゲーム1：プレイする
第4回　ゲーム1：政治や経済的にゲーム1を分析する
第5回　ゲーム1：再度プレイする（スピーキングテスト）
第6回　ゲーム2：学ぶ（ルール、歴史、語彙、文法）
第7回　ゲーム2：プレイする
第8回　ゲーム2：政治や経済的にゲーム2を分析する
第9回　ゲーム2：再度プレイする（スピーキングテスト）
第10回　ゲーム3：学ぶ（ルール、歴史、語彙、文法）
第11回　ゲーム3：プレイする
第12回　ゲーム3：政治や経済的にゲーム3を分析する
第13回　ゲーム3：再度プレイする（スピーキングテスト）
第14回　期末発表

履修の注意点

* Students will need a smartphone in order to record their gameplay session.
* A laptop computer is helpful for completing activities, but a desktop computer at home will also suffice.
* The class will have reading, writing, speaking and listening components, but the main skill evaluated is speaking, so be prepared to speak a lot in this class.
* Finally, and this is important: this class is an English class, not a “gaming class,” so students should be prepared to use English at all times, both as a language during gameplay sessions and also during discussion and analysis activities.

準備学習の内容

なし

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

成績評価の方法

Speaking tests x3 (90%)
Final Reflection (10%)

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

1単位

【和泉】 春学期 水曜 3時限

1年次

特任講師 デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This course is designed to help students develop and refine practical oral communication skills for interacting with English speakers in everyday life. It is ideal for learners who wish to learn to: express ideas with more clarity and confidence; engage in respectful exchanges of opinion; and respond appropriately in peer interactions.
Lesson content draws on real experiences of foreigners living in Japan and Japanese nationals who have lived abroad. Each unit focuses on a specific daily-life setting and explores related topics, allowing students to reflect on authentic episodes, compare cultural patterns, and connect them with their own experiences and perspectives.
The course emphasizes building confidence, fluency, and spontaneity in speaking, while expanding vocabulary and deepening contemporary cultural knowledge.
By the end of the program, students will be able to:
- engage in everyday conversations with greater ease;
- respond naturally and express feelings and thoughts clearly;
- exchange ideas through interviews, dialogues, and discussions; and
- enrich their spoken fluency by learning useful words, phrases, and expressions.

Class activities include a variety of communicative and collaborative tasks such as interviews, role plays, and small-group discussions designed to strengthen critical, creative, and reflective thinking about cross-cultural concepts.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course
Week 2：Overview of unit content and structure | Lesson walk-through
Weeks 3 - 4：(People) Self-introductions
Weeks 5 - 6：(School) In the classroom
Weeks 7 - 8：(Extracurricular activities) In the clubhouse
Weeks 9 - 10：(Communication skills) Conversation and discussion
Weeks 11 - 12：(Social situations) Interacting with strangers
Week 13：Consultation and preparations for the final project
Week 14：Evaluation and assessment | Wrap-Up

履修の注意点

This course is aimed at students with a TOEIC score of at least 520 up to 630, so those with higher TOEIC scores or higher proficiency levels are requested to refrain from registering or should consult first with the professor before signing up.
A cooperative attitude is essential, as most activities are designed to encourage students to share ideas, ask questions, and exchange opinions with one another. Because peer interaction is a central part of the class, it is important to remain open to working with partners and in groups.
Students are expected to make every effort to use English consistently during class activities.
NOTE: If you plan to enroll in both the spring and fall courses, please be aware that while the same textbook will be used, the lesson content will not be identical.

準備学習の内容

Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, both in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.
It would be useful to always bring to class your dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts.

教科書

Richmond, S. and Vannieu, B. (2021)『ibunka! Intercultural Communication in Daily Life』(Alma Publishing) ISBN 978-4-905343-30-1.
Handouts for exercises and class activities will also be given out in class.

参考書

(1) ibunka! website 〈https://ibunka.jp/〉
(2) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either in print, online, or app form.

課題に対するフィードバックの方法

Students will be able to directly receive advice and feedback about their work from the professor.
Feedback may also be given immediately after an activity.

成績評価の方法

Attendance and class participation (30%)
In-class work and written assignments, including homework (40%)
Final project (30%)

その他

Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】 【和泉】　春学期　月曜　3時限	1単位 1年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

The American Sitcom: Brooklyn 99
In this course, students will learn about the television sitcom (situation comedy) genre by analyzing clips and episodes from the series Brooklyn 99.
Course goals:
By the end of the semester, students will learn:
-the structure of a sitcom
-typical character archetypes
-the role of setting in a sitcom
-episode and season plot structure
-quotable quotes from the show
-new grammar and vocabulary

授業内容

A tentative schedule of course content is given below:
- Course introduction. What is a sitcom?
- Pilot episodes
- Brooklyn 99 characters
- Plot structure of an episode: A and B plots
- Role of setting in a sitcom: New York City
- New York City project
- Serious moments in comedy shows
- Quotable quotes
- Copaganda
- Ending a show

履修の注意点

There are no prerequisites to this course.
Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.

準備学習の内容

Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.

教科書

No textbook is required.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.
Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.
Projects: graded according to given rubric and provided electronically.

成績評価の方法

50%: Classwork and homework
10%: Quizzes
40%: Projects

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　水曜　1時限

1単位

1年次

兼任講師　ヴァジラサーン，アン

授業の概要・到達目標

Intermediate General Communication Course
Reading and Discussion: Fantasy Genre
Do you like fantasy and adventure stories? Fantasy stories are an important part of popular culture. Fantasy literature allows students to expand their vocabulary of the fantasy genre expressions, encourages imagination and creativity, and provides motivation to read and think about themes of conflicts and ethical choices characters with powers must make.
In this course, students will read 2-part fantasy story in English (as homework). We follow the adventures of Corwin, an apprentice wizard and son of Ulwin, the wizard of the kingdom. Bad times are coming and Corwin's response could determine the fate of the world.
Each story is six chapters long and each chapter contains about ten pages. The end of each chapter has a "puzzle", in other words, an important piece of the story which is blanked out. To know the missing information, students need to answer the vocabulary and story questions, which appear at the end of each chapter. Those answers will lead to hints for solving the puzzle and completing the chapter's content.
The chapter readings are the basis for classroom discussion: summarizing the plot/timelines, asking clarification questions, confirmation questions, offering guesses/ speculation, giving opinions and evidence/explanations.

授業内容

Week 1　Course Introduction. Crime Talk. Pre-reading pages. HW is to read Part 1, Chapter 1, and do the puzzle
Spellbound Part 1: Corwin and Zara
Week 2　Discussion and Quiz of Chapter 1 "Kingskeep". HW Read Chapter 2 and do the puzzle.
Week 3　Discussion and Quiz of Chapter 2 "Whispering Woods". HW Read Chapter 3 and do the puzzle.
Week 4　Discussion and Quiz of Chapter 3 "Grimfast Bridge". HW Read Chapter 4 and do the puzzle.
Week 5　Discussion and Quiz of Chapter 4 "Port Venture". HW Read Chapter 5 and do the puzzle.
Week 6　Discussion and Quiz of Chapter 5 "Serati". HW Read Chapter 6 and do the puzzle.
Week 7　Discussion and Quiz of Chapter 6 "Oxla".
Week 8　Wrap-up & Midterm Assessment. HW: Read Part 2 Chapter 7 and do the puzzle.
Spellbound Part 2: The Wildlands
Week 9　Discussion and Quiz of Chapter 7 "The Wild Sea". HW Read Chapter 7 and do the puzzle.
Week 10　Discussion and Quiz of Chapter 8 "The Black Shores". HW Read Chapter 8 and do the puzzle.
Week 11　Discussion and Quiz of Chapter 9 "The Land of the Giants". HW Read Chapter 9 and do the puzzle.
Week 12　Discussion and Quiz of Chapter 10 "The Black Desert". HW Read Chapter 10 and do the puzzle.
Week 13　Discussion and Quiz of Chapter 11 "Gobline Forest". HW Read Chapter 11 and do the puzzle.
Week 14　Discussion and Quiz of Chapter 12 "Dominik's Lair". HW: Prepare for Final exam
Final Exam online given in Class Web
*Adjustments to this schedule may be made in terms of contents and pace due to class needs

履修の注意点

Be at the Intermediate level according to ACE policy.
Bring a completed entry sheet with photo on the first day.

準備学習の内容

It is highly recommended that you schedule time each week for doing the reading. Make an appointment with yourself at a set time and place. Keep that routine going.
It is required to read the entire chapter assigned for that week and attempt the homework puzzles by yourself BEFORE coming to class.
If you do not complete the reading beforehand, we will know. It will be clear that you cannot contribute to the discussion in a meaningful way. Please do not waste your classmates' time. Respect each other and do the reading.
Come prepared to ask questions and /or express opinions.
*All homework reading & questions should be done BEFORE coming to class.
Rushing to finish homework in the classroom during the class period will not count.
*Create a FREE account on www.quizlet.com to access the online flashcards for each chapter's content.

教科書

Fiction in Action: Spellbound
by Adam Gray, Abax Publishing, 978-1-78547-090-5
TOEIC 350-550 level reading

参考書

Any useful dictionary.
Digital Flashcards:
Quizlet.com
Create a free account on quizlet.com for accessing the online vocabulary and flashcard practice.
Online textbook with review/quiz content. (Your textbook will likely have a digital access code for this content.)
www.abaxlms.com
Teacher will provide the codes to join these online groups/classes.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on Quizzes will be given after they are scored by the teacher.
Feedback on discussions will happen during the class time.

成績評価の方法

The final grade will be calculated this way:
In-class participation points: 30%
12 quizzes: 30%
2 assessments (Part 1 test & Part 2 test): 40% (2 x 20%)

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】 【和泉】　春学期　金曜　２時限	１単位 １年次

兼任講師　ハインズ，マーティン

授業の概要・到達目標

This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; immigration, social issues, education, travel / mass tourism, and crime. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are also to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary (through reading assignments) and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.

授業内容

Week 1. Introduction / The World Today 1.
Week 2. Travel 1. Our Shrinking World
Week 3. Travel 2. The Impact of　Mass Tourism
Week 4. Focus on Japan 1. A Changing Society
Week 5. Focus on Japan 2. Immigration
Week 6. The World Today 2.
Week 7. Racism & Discrimination
Week 8. Social Issues 1.
Week 9. Social Issues 2.
Week 10. Crime & Punishment 1.
Week 11. Crime & Punishment 2.
Week 12. The World Today 3.
Week 13. Women in the Workplace 1.
Week 14. Final presentations, course review & explanation

履修の注意点

This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.

準備学習の内容

Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles (provided by the lecturer) or research. Additionally, students will conduct on-line research and prepare for their final presentations. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.

教科書

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Any Feedback from assignments will be provided after the class.

成績評価の方法

A student's final grade will be based on the following:
Classroom participation & attendance
Homework
A final presentation

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】 【和泉】　春学期　金曜　３時限	１単位 １年次

兼任講師　ハインズ，マーティン

授業の概要・到達目標

This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; immigration, culture & the arts, education, mass consumerism and discrimination. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary (through reading assignments) and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.

授業内容

Week 1. Introduction / The World Today 1.
Week 2. Art & Culture 1.
Week 3. Art & Culture 2.
Week 4. Focus on Japan 1. A Changing Society
Week 5. Focus on Japan 2. Tourism & Immigration
Week 6. The World Today 2.
Week 7. Discrimination
Week 8. Immigration 1. 'A World without Borders'
Week 9. Immigration 2. Political Asylum / Economic Refugees
Week 10. Consumerism 1. The Changing Landscape of Shopping
Week 11. Consumerism 2. The World of Advertising
Week 12. The World Today 3.
Week 13. Women in the Workplace 1.
Week 14. Final presentations, course review & explanation

履修の注意点

This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.

準備学習の内容

Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles (provided by the lecturer) or research. Additionally, students will conduct on-line research and prepare for their final presentations. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.

教科書

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Any Feedback from assignments will be provided after the class.

成績評価の方法

A student's final grade will be based on the following:
Classroom participation & attendance
Homework
A final presentation

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

【和泉】 春学期 金曜 4時限

1単位

1年次

兼任講師 ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.

授業内容

第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development
第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format
第4回目 Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice
第5回目 1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion
第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format
第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class
第8回目 Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up
第9回目 Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2
第10回目 Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development
第11回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format
第12回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development
第13回目 Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class
第14回目 Vocabulary Sheet Submissions (on Google Classroom BEFORE class) & Class Review

履修の注意点

Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You can submit your GMAIL account address in our first lesson.

準備学習の内容

Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course.
This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.

教科書

Students will online applications such as ChatGPT/Claude for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted (ZERO grade).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review (research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online)
20% Participation (students must be actively involved in the class)
40% Assessment (includes two presentations, and presentation-related assignments)

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

1単位

【和泉】 春学期 金曜 4時限

1年次

兼任講師 ＷＲＩＧＨＴ ＡＬＥ

授業の概要・到達目標

This class will introduce students to American music and artists from a variety of styles. Students will will learn about historical and modern styles of American music as well as engage with the music by looking at song lyrics. Students will practice their English through short readings and lectures, vocabulary practice, in class conversations and discussions about the material, and presentations.

授業内容

第1回 Course introduction, introduction to part 1: Historical music styles
第2回 Jazz part 1
第3回 Jazz part 2
第4回 Jazz part 3
第5回 Blues part 1
第6回 Blues part 2
第7回 Presentation 1, introduction to part 2: Modern music styles
第8回 Rock and roll
第9回 R&B
第10回 Pop
第11回 Hip hop
第12回 Rock
第13回 Presentation 2
第14回 Test

履修の注意点

This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.

準備学習の内容

Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.

教科書

No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on quizzes and tests will be provided through grades. Feedback on presentations will be provided through grades and comments. Additional feedback will also be given during class as appropriate.

成績評価の方法

25% Quizzes
25% Test
25% Presentation 1
25% Presentation 2

その他

If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

1単位

【和泉】　秋学期　水曜　2時限

1年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This course is designed to help students develop and refine practical oral communication skills for interacting with English speakers in everyday life. It is ideal for learners who wish to learn to: express ideas with more clarity and confidence; engage in respectful exchanges of opinion; and respond appropriately in peer interactions.
Lesson content draws on real experiences of foreigners living in Japan and Japanese nationals who have lived abroad. Each unit focuses on a specific daily-life setting and explores related topics, allowing students to reflect on authentic episodes, compare cultural patterns, and connect them with their own experiences and perspectives.
The course emphasizes building confidence, fluency, and spontaneity in speaking, while expanding vocabulary and deepening contemporary cultural knowledge.
By the end of the program, students will be able to:
- engage in everyday conversations with greater ease;
- respond naturally and express feelings and thoughts clearly;
- exchange ideas through interviews, dialogues, and discussions; and
- enrich their spoken fluency by learning useful words, phrases, and expressions.

Class activities include a variety of communicative and collaborative tasks such as interviews, role plays, and small-group discussions designed to strengthen critical, creative, and reflective thinking about cross-cultural concepts.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course
Week 2：Overview of unit content and structure | Lesson walk-through
Weeks 3 - 4：(People) Self-introductions
Weeks 5 - 6：(Daily life) In a shop
Weeks 7 - 8：(Socialization) Romance and relationships
Weeks 9 - 10：(Family) Parents and children
Weeks 11 - 12：(Communication with others) Asking a favor
Week 13：Consultation and preparations for the final project
Week 14：Evaluation and assessment | Wrap-Up

履修の注意点

This course is aimed at students with a TOEIC score of at least 520 up to 630, so those with higher TOEIC scores or higher proficiency levels are requested to refrain from registering or should consult first with the professor before signing up.
A cooperative attitude is essential, as most activities are designed to encourage students to share ideas, ask questions, and exchange opinions with one another. Because peer interaction is a central part of the class, it is important to remain open to working with partners and in groups.
Students are expected to make every effort to use English consistently during class activities.
NOTE: If you plan to enroll in both the spring and fall courses, please be aware that while the same textbook will be used, the lesson content will not be identical.

準備学習の内容

Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, both in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.
It would be useful to always bring to class your dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts.

教科書

Richmond, S. and Vannieu, B. (2021)『ibunka! Intercultural Communication in Daily Life』(Alma Publishing) ISBN 978-4-905343-30-1.
Handouts for exercises and class activities will also be given out in class.

参考書

(1) ibunka! website 〈https://ibunka.jp/〉
(2) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either in print, online, or app form.

課題に対するフィードバックの方法

Students will be able to directly receive advice and feedback about their work from the professor. Feedback may also be given immediately after an activity.

成績評価の方法

Attendance and class participation (30%)
In-class work and written assignments, including homework (40%)
Final project (30%)

その他

Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

【和泉】 秋学期 月曜 2時限

1単位

1年次

特任講師 パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

The American Sitcom: Brooklyn 99
In this course, students will learn about the television sitcom (situation comedy) genre by analyzing clips and episodes from the series Brooklyn 99.
Course goals:
By the end of the semester, students will learn:
-the structure of a sitcom
-typical character archetypes
-the role of setting in a sitcom
-episode and season plot structure
-quotable quotes from the show
-new grammar and vocabulary

授業内容

A tentative schedule of course content is given below:
- Course introduction. What is a sitcom?
- Pilot episodes
- Brooklyn 99 characters
- Plot structure of an episode: A and B plots
- Role of setting in a sitcom: New York City
- New York City project
- Serious moments in comedy shows
- Quotable quotes
- Copaganda
- Ending a show

履修の注意点

There are no prerequisites to this course.
Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.

準備学習の内容

Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.

教科書

No textbook is required.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.
Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.
Projects: graded according to given rubric and provided electronically.

成績評価の方法

50%: Classwork and homework
10%: Quizzes
40%: Projects

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】 【和泉】　秋学期　月曜　3時限	1単位 1年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Improving Speaking Fluency: Grammar and Pronunciation
Please consider this course if you want to speak English faster and more comprehensibly in conversations. The course will cover various situations in which students can practice describing, comparing, and evaluating, with improved ability to communicate their true emotions and sound like their natural selves in a second language.
The goals of this course are:
1. to learn and refine use of spoken English grammar
2. to learn and refine English pronunciation principles
3. to gain ability to speak in English with greater ease and at longer length

授業内容

1. Grammar content:
Verb tense and aspect
Modals and semi-modals
Adverbials
Articles, pronouns, and prepositions
Punctuation (for added reading and writing ease)
2. Pronunciation content:
Vowel sounds
Consonant sounds
Stress patterns
Regional accents and vocabulary
3. Functional content (Note: these are examples of situations in which students will practice the above grammar and pronunciation content. More will be added according to student need and interest)：
Interjections based on situation
Agreeing and disagreeing based on the conversation partner
Scary and exciting situations
Sarcasm

履修の注意点

There are no prerequisites for this course.
Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.
Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.
This class is the same as Course 13R20231, which runs in the Fall semester.
Students MAY NOT register for both courses.

準備学習の内容

Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.
Projects: graded according to given rubric and provided electronically.
Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.

成績評価の方法

40% Classwork and homework
30% Projects
30% Quizzes

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　２時限

１単位

１年次

兼任講師　ハインズ，マーティン

授業の概要・到達目標

This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; social issues, the mass media, Japan's changing society, education and urban life. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary (through reading assignments) and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.

授業内容

Week 1. Introduction / The World Today 1.
Week 2. Urban Life 1.
Week 3. Urban Life 2.
Week 4. Focus on Japan 1. A Changing Society
Week 5. Focus on Japan 2. Working Lifestyles
Week 6. The World Today 2.
Week 7. The Mass Media
Week 8. Social Issues 1.
Week 9. Social Issues 2.
Week 10. Education 1. School Life
Week 11. Education 2. Education Across the World
Week 12. The World Today 3.
Week 13. A Look Back at 2026
Week 14. Final presentations, course review & explanation

履修の注意点

This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.

準備学習の内容

Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles (provided by the lecturer) or research. Additionally, students will conduct on-line research and prepare for their final presentations. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.

教科書

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Any Feedback from assignments will be provided after the class.

成績評価の方法

A student's final grade will be based on the following:
Classroom participation & attendance
Homework
A final presentation

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】 【和泉】　秋学期　金曜　1時限	1単位 1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development
第3回目　Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format
第4回目　Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice
第5回目　1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion
第6回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format
第7回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class
第8回目　Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up
第9回目　Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2
第10回目　Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development
第11回目　Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format
第12回目　Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development
第13回目　Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class
第14回目　Vocabulary Sheet Submissions (on Google Classroom BEFORE class) & Class Review

履修の注意点

Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You can submit your GMAIL account address in our first lesson.

準備学習の内容

Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course.
This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.

教科書

Students will online applications such as ChatGPT/Claude for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted (ZERO grade).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review (research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online)
20% Participation (students must be actively involved in the class)
40% Assessment (includes two presentations, and presentation-related assignments)

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　4時限

1単位

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development
第3回目　Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format
第4回目　Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice
第5回目　1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion
第6回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format
第7回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class
第8回目　Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up
第9回目　Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2
第10回目　Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development
第11回目　Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format
第12回目　Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development
第13回目　Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class
第14回目　Vocabulary Sheet Submissions (on Google Classroom BEFORE class) & Class Review

履修の注意点

Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You can submit your GMAIL account address in our first lesson.

準備学習の内容

Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course.
This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.

教科書

Students will online applications such as ChatGPT/Claude for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted (ZERO grade).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review (research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online)
20% Participation (students must be actively involved in the class)
40% Assessment (includes two presentations, and presentation-related assignments)

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　水曜　1時限

1単位

1年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This ACE course focuses on learning English through news media. Students read and follow news and current events and learn about issues that affect Japan and the Japanese people. It is designed for learners who want to improve their reading and writing skills, increase their vocabulary, and gain a broader understanding of local, national, and international topics covered in English-language media.
The class uses authentic news articles from different English-language media sources. Students keep up with recent news and are introduced to new ideas, vocabulary, and terminology in real-world contexts. They also become familiar with words and expressions that are commonly used in the media. As their vocabulary and cultural knowledge grow, they learn to understand information from the viewpoint of English speakers and compare it with their own.
Students will also learn about news writing style and how to tell the difference between news and opinion. They will practice interpreting and summarizing articles, which helps improve both reading comprehension and writing skills. In addition, students study reading strategies and the basics of news literacy and media literacy, including concepts such as fairness, bias, fake news, and propaganda. By learning these ideas, they begin to understand how to become well-informed and careful readers of the news.
Along with news searches and summaries, class activities include information sharing, discussions, and oral reporting. By the end of the course, students will be able to express their ideas with confidence, explain their opinions on issues and current events based on what they read, and take part in conversations with people who may have different viewpoints.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course | Overview
Week 2：What is news?
Weeks 3 – 4：Understanding news literacy and media literacy
Weeks 5 – 6：Preparing for article discussions
Weeks 7 to 13：Article discussions (Various assigned topics)
Week 14：Evaluation and Assessment | Wrap-up

履修の注意点

This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520.
Active participation in class is necessary. Students who wish to enroll in the course must be willing to speak out and be not shy in expressing their ideas in class and in sharing and comparing viewpoints. A cooperative attitude is also needed as most activities are designed to encourage students to share their thoughts, ask questions, and exchange ideas with each other as well as to learn to work with a partner or in groups.
Proficiency with Microsoft Word or other word-processing software will be helpful for accomplishing class assignments.
Students must make every effort to always use and speak in English in class.

準備学習の内容

For this class, students are encouraged to read newspapers on a regular basis and be well-informed and up-to-date about the latest news topics and issues as it will be helpful for participation in class. They are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must also complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework.
Always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.

教科書

There is no set textbook for this course. News articles from online and print media sources will be used for assignments and discussions. Readings and handouts will also be given out in the course of the semester.

参考書

Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either in print, online, or app form. A list of recommended news media sources will be announced in class.

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive direct advice and feedback on their work from the professor.
Feedback may be given immediately after an activity, and individual consultation sessions will be arranged when needed.

成績評価の方法

Class participation and attendance (30%)
In-class activities and homework including article summaries and other written assignments (30%)
Vocabulary list (15%)
Final presentation or project (25%)

その他

Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　月曜　1時限

1単位

1年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Introduction to Media Literacy

This course aims to increase listening, reading, speaking, and writing skills through analyzing rhetoric and the use of media. Students will learn how conscious and subconscious choice of text and image commands hidden messages and values. Students will learn how to identify these messages, evaluate the goals of the messages, and think critically about around all these messages benefit and（potentially）harm.

授業内容

Course content includes lectures, discussions, and projects on the following topics:
What is Media? What is entertainment?
Types of entertainment media, their economic impact, and their various purposes
Story structure vocabulary and various story structures
Tropes in storytelling（and other media）: the good, the bad, and the ugly
Text, subtext, and implied messages & values in entertainment media
Entertaining from start to finish: the creative process
Types of jobs in entertainment media

履修の注意点

Students should regularly review class content and come to each lesson prepared to contribute in a meaningful way, asking questions if needed.

準備学習の内容

There are no prerequisites for this course.
Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.
Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.
This class is the same as Course 13R20252, which runs in the Spring semester.
Students MAY NOT register for both courses.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.
Projects: graded according to given rubric and provided electronically.
Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.

成績評価の方法

50%: Classwork and homework assignments
30%: Projects
20%: Content and Language Quizzes/Tests

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】 【和泉】　春学期　火曜　１時限	１単位 １年次

兼任講師　ペロガイティス，ジョン　D.

授業の概要・到達目標

This course develops advanced communication English skills through the exploration of decision-making, and behavioral economics. Students engage with readings from *The Decision Lab* to build a foundation for understanding how people make decisions and how cognitive biases influence and distort judgment. Students listen and analyze talks from the *Freakanomics Radio* podcast series "The Economics of Everyday Things" which examines ordinary phenomena – such as product recalls and pricing strategies – and reveals the hidden economic and behavioral forces behind them. Through guided projects, students practice summarizing research and explaining academic concepts in a presentation with a peer and later a discussion that connects theory to real-world applications.

By the end of this course, students will be able to:

１）explain the complexity in decision-making and concepts in behavioral economics clearly and accurately
２）summarize and paraphrase key ideas from academic articles and podcasts and discuss them with their peers
３）analyze academic texts and podcasts, identifying important arguments, evidence and implications
４）apply foundational behavioral concepts（e.g., biases, heuristics, incentives）to new situations
５）prepare structured presentations and discussions on foundational concepts in behavioral economics.

授業内容

第１回目：Course introduction / Introduction
第２回目：Introduce Pair Presentation Project / Annotating academic texts / Explaining academic concepts
第３回目：Example of Digital Nudging
第４回目：Preparation of Pair Presentation Project / Note-taking
第５回目：The Bystander Effect / Economics of Everyday Things: Porta-Potties
第６回目：The Recommender System / Economics of Everyday Things: Hand Models
第７回目：The Hawthorne Effect / Economics of Everyday Things: Hotel Art
第８回目：Group Polarization / Economics of Everyday Things: Zoo Animals
第９回目：Pricing Psychology / Economics of Everyday Things: Sushi Fish
第10回目：Diffusion of Innovation / Economics of Everyday Things: Botox
第11回目：Social Desirability Bias / Economics of Everyday Things: Graffiti
第12回目：Attention / Economics of Everyday Things: Airplane Food
第13回目：Resistance to Change / Economics of Everyday Things: Michelin Stars
第14回目：Course Feedback and Assessment

履修の注意点

Be prepared to work and participate in a class conducted in English. Students who are absent more than four times will fail this course.

準備学習の内容

Students are required to listen and take notes on podcasts weekly. Quizzes will sometimes be administered to check comprehension. In addition, students are to prepare a 45-minute presentation with activities that apply a behavioral economics concept and lead a discussion. All assignments will be submitted through Google Classroom and must be submitted using Google Docs or MS Word.

教科書

Not required – all materials will be distributed in class or available on Google Classroom

参考書

Online resources, such as *Economics of Everyday Things*（*Freakanomics* podcast）and *The Decision Lab Compendium* will be introduced throughout the semester on Google Classroom. Instructions will be provided on how to use Google Classroom in the first class. Students must use Google Docs and .docx files when submitting assignments.

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom will be used to give feedback and distribute assignments. Students MUST HAVE a Gmail address to set up a Google Classroom account.

成績評価の方法

30% Weekly note-taking assignments and quizzes
20% Participation – students must be in class and be actively involved in class discussions IN ENGLISH. Students who miss four or more classes will not receive a passing grade.
50% Assessment of two projects –（１）presenting a behavioral economics concept with a classmate and（２）leading a group discussion

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　金曜　1時限

1単位

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development
第3回目　Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format
第4回目　Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice
第5回目　1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion
第6回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format
第7回目　Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class
第8回目　Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up
第9回目　Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2
第10回目　Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development
第11回目　Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format
第12回目　Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development
第13回目　Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class
第14回目　Vocabulary Sheet Submissions（on Google Classroom BEFORE class）& Class Review

履修の注意点

Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You can submit your GMAIL account address in our first lesson.

準備学習の内容

Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course.
This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.

教科書

Students will online applications such as ChatGPT/Claude for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications（Drive: Documents, Sheets, Slides）and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted（ZERO grade）.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review（research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online）
20% Participation（students must be actively involved in the class）
40% Assessment（includes two presentations, and presentation-related assignments）

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　水曜　3時限

1単位

1年次

准教授　ジョージ，ジョニー

授業の概要・到達目標

A Planet Money Chitchat I（Microeconomics）—Let's talk about economics in English!
This class is based on the National Public Radio economic podcast Planet Money. Planet Money uses storytelling to explain economic concepts to a mainstream audience in an accessible way.　We will discuss podcasts from the Planet Money summer school episodes. You will have conversations about basic economic concepts in English. You will lead one class discussion on an economic concept. You will have a one on one conversation discussion with the teacher on an economics related topic.
この授業は、National Public Radio（NPR）の経済ポッドキャスト『**Planet Money**』をもとに進めます。**Planet Money** は、ストーリーテリングを用いて、一般のリスナーにもわかりやすく経済の概念を解説する番組です。
本授業では、**Planet Money の「サマースクール」エピソード**を題材にディスカッションを行います。受講者は、**基礎的な経済概念について英語で意見交換**を行います。また、**各自が一度、経済概念に関するクラスディスカッションを主導**します。さらに、**経済に関連するテーマについて、担当教員と1対1でのディスカッション**も行います。
OBJECTIVES
Improve your ability to have conversations in English
Use storytelling as a device to explain abstract topics
Discuss basic economics concepts in English
TEACHING METHODS
This course focuses on practice and improvement of your conversation skills with lots of feedback. You will have conversations about basic economic concepts in English. Homework includes: preparing material for presentations and giving feedback.
TEXT & RECORDINGS
https://www.npr.org/2020/07/15/884827691/planet-money-summer-school
https://www.tiktok.com/@planetmoney?lang=en

授業内容

1　Course introduction/Self Introductions/Presentation order
2　Outline of how to lead the class
Income elasticity of demand
3　Lesson 1 Choices and Dating
4　Lesson 2 Markets and Pickles
5　Lesson 3 Profit and Cocaine -Student led
6　Lesson 4 Scarcity and Pistachios -Student led
7　Lesson 5 Tariffs and Santa -Student led
8　Lesson 6 Taxes and Donald Duck -Student led
9　Lesson 7 Advertising and Race -Student led
10　Lesson 8 Risk and Disaster -Student led
11　The Toilet Cartel
A change in market structure protects Alaskan fishermen
The price of a Hermes bag
12　One on one discussions 1
13　One on one discussions 2
14　Feedback and Discussion

履修の注意点

Students should have the motivation to learn advanced English

準備学習の内容

Listen to the weekly podcast assignment in order to actively participate in class discussions.
授業でのディスカッションに積極的に参加するため、毎週指定されたポッドキャスト課題を聴いてください。

教科書

No textbook. All materials for the class will be provided via Oh-o! Meiji
教科書はありません。すべての教材はOh-o! Meijiで利用可能です。

参考書

NPR. n.d. Planet Money Summer School. National Public Radio. Series page.
https://www.npr.org/series/1190058995/planet-money-summer-school-microeconomics

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Class participation
30% Leading class discussion
30% One-on-one economic conversations with instructor

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　水曜　２時限

１単位

１年次

准教授　ネルソン，リンジー

授業の概要・到達目標

ACE General Communication Skills: Pop Music and Popular Culture
This course is designed to improve your English speaking, listening, and reading skills. Our focus is on English-language pop music--song lyrics plus news articles and videos about popular music and music stars.
By the end of this course, you should be able to:
1. understand more vocabulary, slang, and phrases commonly used in pop songs and articles / videos about popular music
2. have one-on-one conversations（without notes）about topics related to popular music and popular culture
3. have discussions with your classmates about topics related to popular music and popular culture
4. give a short presentation（a "music intro"）in which you introduce the class to a particular song and talk about why it is meaningful for you

授業内容

1　Introduction to course
2　Music and pop culture vocabulary
3　Article or video
4　Article or video, presentations
5　Article or video, presentations
6　Article or video, presentations
7　Article or video, QUIZ
8　Article or video, presentations
9　Article or video, presentations
10　Article or video, presentations
11　Article or video, presentations
12　Article or video, presentations
13　Semester review
14　FINAL EXAM

履修の注意点

Be prepared to speak only English in class.
Students must attend the first class. Students who are absent from more than four classes will receive a failing grade.
However, please don't come to class if you are sick! Your health is more important than grades. If you need to miss a lot of classes because of illness, please talk to me and we can decide on a solution together.

準備学習の内容

Before each class, students will read the assigned article or watch the video listed for that class date. Each class will include small group discussions of the article or video, a review of key phrases and concepts, conversation practice, listening practice, and lectures about ideas presented in the article or video. There will also be weekly worksheets with questions related to that week's reading or video. These worksheets will not be graded, but they will be part of the class discussion.
Students will give a presentation in which they describe a scandal or major event related to a pop music star or pop group.
Please come to class prepared to discuss the readings and videos listed for that day.　Please also come to class with your own questions about words, phrases, or ideas that you don't understand.

教科書

No textbook（readings and links can be downloaded via Oh-o! Meiji）.

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

I will mark your presentations, quizzes, and final exam. I will give written comments on your presentations also on occasional end-of-class writing assignments.

成績評価の方法

Participation	30%
Presentation	10%
Student questions	10%
Quiz	20%
Final Exam	30%

その他

If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com.（Please call me Professor Nelson.）

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　月曜　1時限

1単位

1年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Introduction to Media Literacy

This course aims to increase listening, reading, speaking, and writing skills through analyzing rhetoric and the use of media. Students will learn how conscious and subconscious choice of text and image commands hidden messages and values. Students will learn how to identify these messages, evaluate the goals of the messages, and think critically about around all these messages benefit and (potentially) harm.

授業内容

Course content includes lectures, discussions, and projects on the following topics:
What is Media? What is entertainment?
Types of entertainment media, their economic impact, and their various purposes
Story structure vocabulary and various story structures
Tropes in storytelling (and other media): the good, the bad, and the ugly
Text, subtext, and implied messages & values in entertainment media
Entertaining from start to finish: the creative process
Types of jobs in entertainment media

履修の注意点

Students should regularly review class content and come to each lesson prepared to contribute in a meaningful way, asking questions if needed.

準備学習の内容

There are no prerequisites for this course.
Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.
Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.
This class is the same as Course 13R20252, which runs in the Spring semester.
Students MAY NOT register for both courses.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.
Projects: graded according to given rubric and provided electronically.
Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.

成績評価の方法

50%: Classwork and homework assignments
30%: Projects
20%: Content and Language Quizzes/Tests

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　水曜　２時限

１単位

１年次

兼任講師　ヴァジラサーン，アン

授業の概要・到達目標

Advanced General Communication Course
Reading and Discussion
Do you like crime stories and trying to solve cases? Learn to THINK like a police detective. Pick up bits of information and think logically about how it all connects to find the culprit.
In this course, students will read 2 fictional crime stories in English（as homework）in order to practice how to do critical thinking, summarize ideas, participate in and lead discussions. Each story is six chapters long and each chapter contains about ten pages. Every chapter reveals a little more information than the last. Students can pick expressions related to law, crime, and human relationships.
Before each class meeting, students must read the assigned chapter, attempt the "puzzle" at the end of each chapter（questions about the vocabulary and the story information）, and make notes in their personal "detective notebook".
In class, groups of students will hold a discussion to review the chapter, check their understanding of the facts and evidence available, check their puzzle answers together, and prepare a list of questions for the teacher about vocabulary or story points that need clarification.
There will be a quiz every week on the chapter assigned for that week. The textbook cannot be used during the quiz, however, the students' notes may be used.

授業内容

Week 1. Course Introduction. Crime Talk. Pre-reading pages. HW is to read Story 1, Chapter 1, and do the puzzle
Week 2 Story 1: The Inverted Eagle
Discussion and Quiz of Chapter 1 “The Scene of the Crime”. HW Read Chapter 2 and do the puzzle.
Week 3 Discussion and Quiz of Chapter 2 “Three Interviews”. HW Read Chapter 3 and do the puzzle.
Week 4 Discussion and Quiz of Chapter 3 “The Hospital”. HW Read Chapter 4 and do the puzzle.
Week 5 Discussion and Quiz of Chapter 4 “The Suspect”. HW Read Chapter 5 and do the puzzle.
Week 6 Discussion and Quiz of Chapters　5 “Family Secrets” and Chapter 6 “The Arrest”HW Read Chapter 6 and do the puzzle.
Week 7 Wrap-up & Midterm Assessment. HW Read Story 2 Crime Talk and Chapter 1 and do the puzzle.
Week 8 Story 2: Death on U Street
Discussion and Quiz of Chapter 1 “The Victim”. HW Read Chapter 2 and do the puzzle.
Week 9 Discussion and Quiz of Chapter 2 “Blackmail”. HW Read Chapter 3 and do the puzzle.
Week 10 Discussion and Quiz of Chapter 3 “The Videotape”. HW Read Chapter 4 and do the puzzle.
Week 11 Discussion and Quiz of Chapter 4 “The Letter”. HW Read Chapter 5 and do the puzzle.
Week 12 Discussion and Quiz of Chapter 5 “The Meeting”. HW Read Chapter 6 and do the puzzle.
Week 13 Discussion and Quiz of Chapter 6 “Guilty, Guilty, Guilty”.
Week 14 Final Exam of "Death On U Street"
*Adjustments to this schedule may be made in terms of contents and pace due to class needs

履修の注意点

Be at the Intermediate level according to ACE policy. Bring a completed entry sheet with photo on the first day.

準備学習の内容

It is required to read the entire chapter assigned for that week and attempt the homework puzzles by yourself BEFORE coming to class.
*All homework reading & questions should be done BEFORE coming to class.
Rushing to finish homework in the classroom during the class period will not count.
*Create a FREE account on www.quizlet.com to access the online flashcards for each chapter's content.

教科書

Fiction In Action: Whodunit
by Adam Gray & Marcos Benevides
Abax Publishing 978-1-78547-091-2

参考書

Any useful dictionary.
Create a free account on Quizlet.com for accessing the online vocabulary and flashcard practice.
Our textbook also comes with an online study website: www.abaxlms.com
You can access the digital book, audio tracks, and quizzes to review vocabulary.
It require a digital access code from your book and the "join code" from the teacher.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on Quizzes will be given after they are scored by the teacher.
Feedback on discussions will happen during the class time.

成績評価の方法

The final grade will be calculated this way:
In-class participation points: 30%
12 quizzes: 30%
2 assessments（Story 1 & Story 2）: 40%

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　3時限

1単位

1年次

兼任講師　ハインズ，マーティン

授業の概要・到達目標

This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; art & culture, the changing face of Japan, travel & mass tourism, discrimination and environmental issues. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary（through reading assignments）and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.

授業内容

Week 1. Introduction / The World Today 1.
Week 2. Travel 1. Culture-Shock - A Life Overseas
Week 3. Travel 2. The Impact of Mass Tourism
Week 4. Focus on Japan 1. A Changing Society
Week 5. Focus on Japan 2. Tourism & Immigration
Week 6. The World Today 2.
Week 7. Discrimination
Week 8. Art & Culture 1.
Week 9. Art & Culture 2.
Week 10. Environmental Issues　1.
Week 11. Environmental Issues 2.
Week 12. The World Today 3.
Week 13. A look back at 2026
Week 14. Final presentations, course review & explanation

履修の注意点

This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.

準備学習の内容

Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles（provided by the lecturer）or research. Additionally, students will conduct on-line research and prepare for their final presentations. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.

教科書

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Any Feedback from assignments will be provided after the class.

成績評価の方法

A student's final grade will be based on the following:
Classroom participation & attendance
Homework
A final presentation

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　3時限

1単位

1年次

兼任講師　ＷＲＩＧＨＴ　ＡＬＥ

授業の概要・到達目標

This course will teach you how to speak in a variety of situations in English more naturally. People use language to do many things, like apologize, greet each other and make requests of each other. In this course we learn about English "Pragmatics". "Pragmatics" is the study of how native speakers perform actions like greeting and requesting naturally and the differences in how speakers perform these actions in different languages. For example, an English speaker is more likely to accept a compliment directly than a Japanese speaker. This course will explore how to perform many actions in English including, apologizing, complaining, complimenting, greeting, inviting, refusing, requesting and thanking as well as how to take turns and open and close a conversation in a natural way. It will also explore how many of these actions are performed in a different way in English than in Japanese. Students will learn both the natural language and culturally appropriate strategies to perform these important actions.

授業内容

第1回　Intro to course, greetings and conversation openings
第2回　Compliments
第3回　Invitations
第4回　Requests
第5回　Refusals
第6回　Thanks
第7回　Skit 1
第8回　Complaints
第9回　Apologies
第10回　Turn taking: how to know when to speak
第11回　Topic management and storytelling
第12回　Closing conversations
第13回　Skit 2
第14回　Test

履修の注意点

This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.

準備学習の内容

Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.

教科書

No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on quizzes and tests will be provided through grades. Feedback on presentations will be provided through grades and comments. Additional feedback will also be given during class as appropriate.

成績評価の方法

25% Quizzes
25% Test
25% Skit 1
25% Skit 2

その他

If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com

科目ナンバー：(PE)LAN116E

ACE GeneralCommunicationSkills(A)〔M〕【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】 春学期 月曜 5時限

1単位

1年次

専任講師 森 本 陽 子

授業の概要・到達目標

Building Presentation and Discussion Skills for Study Abroad (for advanced students)
This course is designed for advanced students who are seriously considering studying abroad in English speaking countries.
Using small group activities, students will build a firm foundation for academic and social skills in English focusing especially on presentation and discussion skills.
Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and group presentations, on their lives, articles, videos, films, and books of their academic interests, such as in politics, economics, environmental issues, their study abroad plans, positive psychology, and neuroscience. The aim of this course is for each student to gain more confidence in listening, speaking, reading, writing, and cooperative skills so that they will be able to fully participate in and enjoy their study abroad experiences. Students will also get to read and write English extensively through posting short entries in social media within a closed group, such as in a Facebook group, and also through their article, video, and book report assignments.

授業内容

Weeks 1-4
Getting to know each other. Each student makes an introductory speech. Introduction to Positive Psychology. Review basic conversation skills for social and academic settings. Posting short entries on positive experiences daily.
Weeks 3-5
Learning effective learning skills by studying neuroscientific findings mainly from internet articles and TED.com video clips. Introduction to Mindfulness. (Weekly mindfulness experiences will follow throughout the semester.)
Weeks 4-8
Student-led group discussions based on TED.com talks.
Weeks 6-8
Basic presentation skills focusing on body language and voice inflection.
Weeks 9-12
Developing an effective persuasive speech. Students in small groups will prepare a short group presentation (4 to 5 minutes each).
Weeks 13-14
Final delivery of group presentations.

履修の注意点

この授業は指定された教室において、ZOOMを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。
・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。
・指定された教室以外での受講は不可であること。
授業は1学期で完結しますが、なるべくならば、秋学期も継続して履修することを強くお勧めします。
また、このクラスを履修する方には、他のACE授業、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生／卒業生などが主催する各種イベント／勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。
・授業で使用するZoomミーティングID：
https://zoom.us/j/98771991894?pwd=MkJvb1ZPTEsraTBwNGNSY1VrdlpiZz09
ミーティング ID: 987 7199 1894
パスコードを設定する: 879493
・森本Emailアドレス（問合せ用）：yokomorimoto2012@gmail.com （必ずメールの表題に月5ACE、学年、受講生名を明記してください。例：月5ACE 1年明治花子）
*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZOOMでのリアルタイム授業が設定されています。**将来、Zoomによる国際会議やビジネスミーティング等に参加する機会も増えていくと考えられるため、Zoomの長所を最大限に活かして、対面でもオンラインでも自信を持って英語でコミュニケートしプレゼンができる力を養っていくことを本授業の目標のひとつとしています。**

準備学習の内容

This is a highly demanding course for advanced students. There will be a lot of homework in reading articles, books, watching videos, and preparing short reports. Additionally, students will be required to prepare for group presentations outside of their class time. In particular, they will be highly recommended to set up a time to talk in English EVERY DAY with their classmates, foreign students, or anybody who is willing to speak only in English in places such as International Exchange Lounge（国際交流ラウンジ）and/or online.
初回の授業では、英語による1分以内の簡単な自己紹介をしてもらいますので、準備をして来てください

教科書

Study Skills for College English 2nd Edition（慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ￥1,050）

参考書

Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery by Garr Reynolds, Voices That Matter, 3rd edition, 2019
Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021 ￥2,800+税
英辞郎pro lite等オンライン辞書など。

課題に対するフィードバックの方法

Mid-term and final presentations will be evaluated not only by the instructor, but also by the classmates using Google Form. However, the final grade for the course will be determined solely by the instructor.

成績評価の方法

Participation: 20%（4回以上欠席した場合は原則として単位は認定されない。）
Reports and written assignments including short posts: 40%（すべての課題を提出しなければ単位は認定されない。）
Speeches, presentations and quizzes: 40%

その他

None

科目ナンバー：(PE)LAN116E

ACE GeneralCommunicationSkills(A)〔M〕【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】 秋学期 月曜 5時限

1単位

1年次

専任講師 森 本 陽 子

授業の概要・到達目標

Building Presentation and Discussion Skills for Study Abroad (for advanced students)
This course is designed for advanced students who are seriously considering studying abroad in English-speaking countries.
Using small group activities, students will build a firm foundation for academic and social English skills, especially on presentation and discussion skills.
Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and group presentations on their lives, articles, videos, films, and books of their academic interests, such as politics, economics, environmental issues, study abroad plans, positive psychology, and neuroscience. The goal of this course is for each student to gain more confidence in listening, speaking, reading, writing, and cooperative skills to participate in and enjoy their study abroad experiences fully. Students will also get to read and write English extensively by posting short entries on social media within a closed group, such as in a Facebook group, and also through their article, video, and book report assignments.

授業内容

Weeks 1-4
Getting to know each other. Each student makes an introductory speech. Introduction to Positive Psychology. Review basic conversation skills for social and academic settings. Posting short entries on positive experiences daily.
Weeks 3-5
Learning effective learning skills by studying neuroscientific findings mainly from internet articles and TED.com video clips. Introduction to Mindfulness.
Weeks 4-9
Student-led group discussions based on TED.com talks. Drama-based activities, such as making a short movie, to enhance communicative skills.
Weeks 7-9
Basic presentation skills focusing on body language and voice inflexion.
Weeks 9-12
Developing an effective persuasive speech. Students in small groups will prepare a short group presentation (4 to 5 minutes each).
Weeks 13-14
Final delivery of group presentations.

履修の注意点

この授業は指定された教室において、Zoomを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。
・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。
・指定された教室以外での受講は不可であること。
授業は1学期で完結しますが、より高い能力を身につけるために、この授業を履修した方に継続して履修することを強くお勧めします。すでに留学経験のある方も大歓迎です。
秋学期から加わる学生さんに向けて、春学期の成果を、復習を兼ねて継続履修の方々にプレゼンなどをしてもらう予定です。秋学期は演劇の要素や、より高度なプレゼンスキルも無理のない範囲で取り入れる予定です。春学期と授業でのアクティヴィティや課題は類似しますが、扱う内容は各自が選択する部分が多いので、復習部分を除いては、授業内容の重複は限られます。

また、このクラスを履修する方には、他のACE授業、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生／卒業生などが主催する各種イベント／勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。
・授業で使用するZoomミーティングID：
https://zoom.us/j/98771991894?pwd=MkJvb1ZPTEsraTBwNGNSY1VrdlpiZz09
ミーティング ID: 987 7199 1894
パスコードを設定する: 879493
・森本Emailアドレス（問合せ用）：yokomorimoto2012@gmail.com （必ずメールの表題に月5ACE、学年、受講生名を明記してください。例：月5ACE 1年明治花子）
*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZOOMでのリアルタイム授業が設定されています。**将来、Zoomによる国際会議やビジネスミーティング等に参加する機会も増えていくと考えられるため、Zoomの長所を最大限に活かして、対面でもオンラインでも自信を持って英語でコミュニケートし、プレゼンができる力を養っていくことを本授業の目標のひとつとしています。**

準備学習の内容

This is a highly demanding course for advanced students. There will be a lot of homework in reading articles, books, watching videos, and preparing short reports. Additionally, students will be required to prepare for group presentations outside of their class time. In particular, they will be highly recommended to set up a time to talk in English EVERY DAY with their classmates, foreign students, or anybody who is willing to speak only in English in places such as International Exchange Lounge（国際交流ラウンジ）and/or online.
初回の授業では、英語による1分以内の簡単な自己紹介をしてもらいますので、準備をして来てください

教科書

Study Skills for College English 2nd Edition（慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ￥1,050）

参考書

Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery by Garr Reynolds, Voices That Matter, 3rd edition, 2019
Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021 ¥2,800+税
英辞郎pro lite等オンライン辞書など。

課題に対するフィードバックの方法

Mid-term and final presentations will be evaluated not only by the instructor, but also by the classmates using Google Form. However, the final grade for the course will be determined solely by the instructor.

成績評価の方法

Participation: 20%（4回以上欠席した場合は原則として単位は認定されない。）
Reports and written assignments including short posts: 40%（すべての課題を提出しなければ単位は認定されない。）
Speeches, presentations and quizzes: 40%

その他

None

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (U)【2022年度以降入学者】 ＡＣＥⅡ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】 【和泉】　春学期　月曜　２時限	１単位 １年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Profanity and Slurs

This course will examine the meanings, origins, grammatical structures, and effects of profanity and slurs in English through sociolinguistic and social justice perspectives. Overall, the goal is not to teach students how to use these words, but rather how they are used and how to accurately interpret and safely react to them when they are used by others.

WARNING 1: ANY abusive or inappropriate use of these words in or out of class will not be tolerated. The student will be failed and reported to the university for violating the student Code of Conduct.

WARNING 2: Content warning: offensive content. If you are uncomfortable with offensive or hurtful words, this course will be difficult.

授業内容

Unit 1：An introduction to sociolinguistics（approximately 3 weeks）

Unit 2：Profanity（approximately 6 weeks）

Unit 3：Slurs（approximately 5 weeks）

履修の注意点

There are no prerequisites to this course.

Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.

準備学習の内容

Students are encouraged to read the University's Code of Conduct before enrolling in the course.

Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.

教科書

No textbook is required.

参考書

Netflix series 'The History of Swear Words'

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.

Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.

Projects: graded according to given rubric and provided electronically.

成績評価の方法

40%: Classwork and homework

20%: Quizzes

40%: Projects

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　4時限

1単位

1年次

兼任講師　ＷＲＩＧＨＴ　ＡＬＥ

授業の概要・到達目標

This course will introduce students to the role of psychology in international politics. By studying this subject in English students will improve their understanding of international politics as well as improve their English at the same time. In the world of international relations, psychology plays an important role. The thoughts and beliefs of citizens and their leaders can have a strong impact on the choices countries make. Understanding how psychology affects international relations can give you a better understanding of the world. In addition, understanding psychology in international relations can help you better understand your own psychology and reflect on your own decision-making. This course aims to give students the concepts and framework to understand the impact of psychology in international politics. The course also aims to improve students English through reading, listening and discussion in a natural way that resembles the way native speakers learn their own language in school. Finally this course aims to give students psychological insights they can apply to their own lives.

授業内容

第1回　Intro to course
第2回　Identity
第3回　Nationalism
第4回　Public opinion
第5回　Leaders beliefs
第6回　Images and signaling
第7回　Debate
第8回　Biases
第9回　Biases part 2
第10回　Misinterpretation
第11回　Thinking of the world as a system
第12回　Resolve, reputation and deterrence
第13回　Presentation
第14回　Test

履修の注意点

This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.

準備学習の内容

Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.

教科書

No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on quizzes and tests will be provided through grades. Feedback on presentations will be provided through grades and comments. Additional feedback will also be given during class as appropriate.

成績評価の方法

25% Quizzes
25% Test
25% Debate
25% Presentation

その他

If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（M）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Mixed)【2021年度以前入学者】

1単位

【駿河台】　春学期　金曜　3時限

1年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This ACE course supports students who want to strengthen their writing skills, especially in business writing, which is highly useful for future careers in multicultural, English-speaking workplaces. It offers practice in writing for a range of workplace situations and online contexts, with attention to tone, style, and common formats such as emails, application letters, and reports.
Students will learn the essentials of the writing process and key principles of business communication to help them organize and express information clearly. They will also build important supporting skills that enhance their writing, such as reading, critical thinking, and editing that they can develop through group discussions, workshops, and short presentations. Peer-editing sessions offer students an opportunity to review each other's work and practice providing and receiving constructive feedback.
By the end of the semester, students will be able to recognize and produce a variety of professional writing styles. They will also be better able to express their ideas clearly and appropriately in these formats and will gain greater confidence in their English writing skills for professional and general business communication.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course | Overview
Weeks 2 to 3：Foundations of professional writing
Weeks 4 to 6：Business letters and emails
Week 7：Resume writing
Week 8：Creating application letters and cover letters
Week 9：Writing memos
Weeks 10 to 11：Writing reports
Week 12：Workplace messages and professional etiquette
Week 13：Feedback conferences
Week 14：Evaluation and assessment | Wrap-up

履修の注意点

This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520. Students who want to strengthen their English skills for professional situations will find this course helpful. It is especially suitable for those preparing for future careers in English-speaking workplaces and for students who have not yet taken business writing courses but want to improve their ability to communicate clearly and effectively in written form.
As this is a mixed class that welcomes students of different proficiency levels, it is expected that students have a cooperative attitude and are willing to work with others to create a mutually supportive class environment. Active participation in class is necessary. Class activities are meant to encourage students to express their thoughts, to ask questions, and to exchange opinions with each other as well as to learn to work with a partner or in groups.
Students must make every effort to always use and speak in English in class.
Proficiency with Microsoft Word or other word-processing software will be helpful for accomplishing class assignments.

準備学習の内容

You are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities.
You must complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.
It would be useful to always bring to class your dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts.

教科書

There is no designated textbook for this course. Handouts will be given out in class as necessary.

参考書

Any English dictionary for language learners, a bilingual English-Japanese dictionary or a monolingual English one, either in print, online, or app form.

課題に対するフィードバックの方法

Students will be able to directly receive advice and feedback about their work from the professor.
Feedback may also be given immediately after an activity.

成績評価の方法

Attendance and class participation (30%)
In-class work and written assignments, including homework (50%)
Discussions/ presentations (20%)

その他

Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（M）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Mixed)【2021年度以前入学者】

【駿河台】　秋学期　金曜　3時限

1単位

1年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This ACE course focuses on learning English through news media. Students read and follow news and current events and learn about issues that affect Japan and the Japanese people. It is designed for learners who want to improve their reading and writing skills, increase their vocabulary, and gain a broader understanding of local, national, and international topics covered in English-language media.
The class uses authentic news articles from different English-language media sources. Students keep up with recent news and are introduced to new ideas, vocabulary, and terminology in real-world contexts. They also become familiar with words and expressions that are commonly used in the media. As their vocabulary and cultural knowledge grow, they learn to understand information from the viewpoint of English speakers and compare it with their own.
Students will also learn about news writing style and how to tell the difference between news and opinion. They will practice interpreting and summarizing articles, which helps improve both reading comprehension and writing skills. In addition, students study reading strategies and the basics of news literacy and media literacy, including concepts such as fairness, bias, fake news, and propaganda. By learning these ideas, they begin to understand how to become well-informed and careful readers of the news.
Along with news searches and summaries, class activities include information sharing, discussions, and oral reporting. By the end of the course, students will be able to express their ideas with confidence, explain their opinions on issues and current events based on what they read, and take part in conversations with people who may have different viewpoints.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course | Overview
Week 2：What is news?
Weeks 3 to 4：Understanding news literacy and media literacy
Weeks 5 to 6：Preparing for article discussions
Weeks 7 to 13：Article discussions (Various assigned topics)
Week 14：Evaluation and Assessment | Wrap-up

履修の注意点

This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520. Those with study-abroad experience are especially encouraged to enroll. It is well-suited for learners interested in exploring news and current events in English, as well as for those seeking to maintain and enhance their vocabulary and discussion skills.
Because this is a mixed-level course, a cooperative and supportive attitude is expected. You will frequently work with partners or in groups, and many activities are designed to promote idea-sharing, questioning, and open exchange.
Proficiency with Microsoft Word or other word-processing software will be helpful for accomplishing class assignments.
Students must make every effort to always use and speak in English in class.

準備学習の内容

For this class, students are encouraged to read newspapers on a regular basis and be well-informed and up-to-date about the latest news topics and issues as it will be helpful for participation in class. They are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must also complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework.
Always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.

教科書

There is no set textbook for this course. News articles from online and print media sources will be used for assignments and discussions. Readings and handouts will also be given out in the course of the semester.

参考書

Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either in print, online, or app form. A list of recommended news media sources will be announced in class.

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive direct advice and feedback on their work from the professor.
Feedback may be given immediately after an activity, and individual consultation sessions will be arranged when needed.

成績評価の方法

Class participation and attendance (30%)
In-class activities and homework including article summaries and other written assignments (30%)
Vocabulary list (15%)
Final presentation or project (25%)

その他

Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

1単位

【駿河台】 春学期 水曜 2時限

1年次

特任講師 パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Improving Speaking Fluency: Grammar and Pronunciation
Please consider this course if you want to speak English faster and more comprehensibly in conversations. The course will cover various situations in which students can practice describing, comparing, and evaluating, with improved ability to communicate their true emotions and sound like their natural selves in a second language.
The goals of this course are:
1. to learn and refine use of spoken English grammar
2. to learn and refine English pronunciation principles
3. to gain ability to speak in English with greater ease and at longer length

授業内容

1. Grammar content:
Verb tense and aspect
Modals and semi-modals
Adverbials
Articles, pronouns, and prepositions
Punctuation (for added reading and writing ease)
2. Pronunciation content:
Vowel sounds
Consonant sounds
Stress patterns
Regional accents and vocabulary
3. Functional content (Note: these are examples of situations in which students will practice the above grammar and pronunciation content. More will be added according to student need and interest)：
Interjections based on situation
Agreeing and disagreeing based on the conversation partner
Scary and exciting situations
Sarcasm

履修の注意点

There are no prerequisites for this course.
Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.
Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.
This class is the same as Course 13R20231, which runs in the Fall semester.
Students MAY NOT register for both courses.

準備学習の内容

Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.
Projects: graded according to given rubric and provided electronically.
Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.

成績評価の方法

40% Classwork and homework
30% Projects
30% Quizzes

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE General Communication Skills（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅡ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【駿河台】　秋学期　水曜　２時限

１単位

１年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Profanity and Slurs
This course will examine the meanings, origins, grammatical structures, and effects of profanity and slurs in English through sociolinguistic and social justice perspectives. Overall, the goal is not to teach students how to use these words, but rather how they are used and how to accurately interpret and safely react to them when they are used by others.
WARNING 1: ANY abusive or inappropriate use of these words in or out of class will not be tolerated. The student will be failed and reported to the university for violating the student Code of Conduct.
WARNING 2: Content warning: offensive content. If you are uncomfortable with offensive or hurtful words, this course will be difficult.

授業内容

Unit 1：An introduction to sociolinguistics（approximately 3 weeks）
Unit 2：Profanity（approximately 6 weeks）
Unit 3：Slurs（approximately 5 weeks）

履修の注意点

There are no prerequisites to this course.
Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.

準備学習の内容

Students are encouraged to read the University's Code of Conduct before enrolling in the course.
Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.

教科書

No textbook is required.

参考書

Netflix series 'The History of Swear Words'

課題に対するフィードバックの方法

Classwork and homework: graded by effort, completion, and accuracy. Provided on paper and electronically as best fits the individual tasks.
Quizzes: provided based on quiz format; either electronically or on paper.
Projects: graded according to given rubric and provided electronically.

成績評価の方法

40%: Classwork and homework
20%: Quizzes
40%: Projects

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills (I)【2022年度以降入学者】【2021年度以前入学者】

1単位

【和泉】 春学期 水曜 3時限

1年次

兼任講師 ヴァジラサーン，アン

授業の概要・到達目標

Intermediate Exam Skills Course
Course Contents
This course is a **TOEIC exam skills program** designed to strengthen students' performance on the TOEIC Listening and Reading test through **strategy-based training, targeted practice, and sustained language exposure**. Rather than studying topics in isolation, students learn **how TOEIC questions work** and how to respond efficiently under test conditions.
In class, students work with selected units from *TOEIC Skills 2* that reflect **high-frequency TOEIC workplace contexts**, including **Human Resources, Manufacturing, Office Technology, Purchasing, and Banking and Finance**. These units provide realistic conversations, talks, emails, notices, and reports similar to those found on the actual TOEIC exam.
A core feature of the course is **explicit training in TOEIC question types**. Students learn to identify and practice:
Information questions (finding explicitly stated facts),
Vocabulary questions (understanding meaning from context),
Thinking questions (inferring purpose, reasons, or relationships),
Negative information questions (identifying what is NOT mentioned or NOT true).
Students are trained to label question types, apply keywording techniques, eliminate distractors, and read or listen strategically rather than translating word by word.
Listening instruction emphasizes **connected speech and phonology**, including reduced forms, linking, stress, and rhythm. This training helps students decode natural spoken English and improves comprehension in TOEIC Listening Parts 2–4.
Outside class, students complete three ongoing assignments that support exam performance:
Weekly diary writing in English to build fluency, grammatical awareness, and confidence.
Extensive reading of two graded readers with short book reports to develop reading stamina and inference skills.
Independent vocabulary study using Quizlet word lists, with regular in-class vocabulary checks to ensure accountability.
By combining **in-class strategy training** with **out-of-class language exposure**, this course helps students become faster, more accurate, and more confident TOEIC test-takers.

Component	Primary Skill	TOEIC Impact
Diary writing	Fluency + grammar awareness	Thinking / Reading accuracy
Extensive reading	Stamina + inference	Part 7 success
Quizlet vocabulary	Lexical access	All question types
In-class work	Strategy + logic + time pressure	Score improvement

授業内容

Schedule
Class 1 Introduction Introduction to the test, exam skills, level checks
Class 2 Unit 4 Section A Human Resources; homework
Class 3 Unit 4 Section B Human Resources; homework
Class 4 Units 4 Review Review and Quizzes; reflections; homework
Class 5 Unit 5 Section A Manufacturing; homework
Class 6 Unit 5 Section A Manufacturing; homework
Class 7 Unit 6 Section A Office Technology; homework
Class 8 Unit 6 Section B Office Technology; homework
Class 9 Units 5 & 6 Review Review Quizzes; reflections; homework
Class 10 Unit 7 Section A Purchasing; homework
Class 11 Unit 7 Section B Purchasing; homework
Class 12 Unit 10 Section A Banking & Finance; homework
Class 13 Unit 10 Section B Banking & Finance; homework
Class 14 Units 7 & 10 Review Review and Quizzes; reflections

履修の注意点

Be at the Intermediate level according to ACE policy.
Bring an entry sheet with your photo on the first day.
Spring: Wednesdays, 3rd period

準備学習の内容

Please be ready with your Textbook each week. Students will be required to master a large portion of the TSL (TOEIC Service List) which is a list of the most important vocabulary for TOEIC by how frequently it appears. Students will have to look at a portion of the list each week and identify the words they don't know and then learn the words they don't know on their own.
Student may also be required to listen to listening materials outside of class each week to improve their listening comprehension skills and write a short summary for homework.
Our textbook includes a homework website (www.abaxlms.com) with review and extension activiites. Some task will be assigned as "official" homework whose points will count toward the scores in the course. Other online items will be available to do a personal review activity.
Other assignments may include keeping a journal to record reflections of lesson learned and goals to aim for.

教科書

Required
TOEIC Skills 2, Abax ELT Publishing, 978-1-78547-082-0 (approximately ¥3,300)
Publisher's website
https://abax.co.jp/product/182

参考書

Any useful dictionary (paper, app, electronic)

課題に対するフィードバックの方法

Students will be able to directly receive advice and feedback about their work from the professor. Feedback may also be given immediately after an activity.

成績評価の方法

Unit Review Quizzes: 30%
Vocabulary Study: 15%
Book Reports: 20%
Diary Writing: 15%
Class Participation: 20%

その他

We will be using these online sources for the class.
www.abaxlms.com (connected to our textbook)
www.quizlet.com (for vocabulary study sets)
and you may also look for Graded Readers in our library: https://www.meiji.ac.jp/library/news/2022/mkmht00000028i2a.html

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills (I)【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Intermediate)【2021年度以前入学者】

1単位

【和泉】 秋学期 火曜 1時限

1年次

兼任講師 ペロガイティス，ジョン D.

授業の概要・到達目標

This course develops the speaking and writing skills required for success on the TOEFL iBT and the IELTS examinations, with a focus on performance at the IELTS 6.0–6.5 band range (equivalent to a TOEFL iBT score between 60–90). Students learn how to respond effectively to common task types, organize ideas clearly, and use accurate English under timed conditions. This course emphasizes key exam skills, such as task interpretation, idea development, coherence and cohesion, grammatical accuracy, and fluency.
By the end of this course students will be able to:
1）Respond clearly to TOEFL iBT and IELTS speaking and writing prompts
2）Organize spoken and writing reponses using appropriate structures and develop ideas with explanations, examples and comparisons
3）Improve fluency, pronunciation, and coherence under timed conditions
4）Use clear paragraphing, topic sentences, and logical development
5）Edit and improve written and spoken responses using feedback and model answers

授業内容

第1回目 Course introduction, expectations, and overview of the TOEFL iBT and IELTS speaking and writing sections
第2回目 Common speaking task types – opinion, experience, and explanation / Response structure / Fluency strategies (pausing and reformulation)
第3回目 IELTS Speaking tasks / Developing extended answers / Timed responses with peer evaluation
第4回目 TOEFL Speaking tasks / Improving clarity and coherence / Timed responses with peer evaluation
第5回目 Advanced speaking skills workshop – lexical range and paraphrasing, using complex sentences and linking devices, and adding stress for clarity
第6回目 Writing foundations – paragraph structure (topic sentences and supporting ideas) / Timed response with peer evaluation
第7回目 IELTS Writing 1 Describing a Visual – understanding task types and visuals, selecting key features, and using language for trends and comparisons / Timed response and peer evaluation
第8回目 IELTS Writing task 2 – understanding task types and analysis, essay structure, and developing argument with examples / Timed response and peer evaluation
第9回目 TOEFL Writing for an Academic Discussion – response structure and expectations / Timed response and peer evaluation
第10回目 TOEFL Writing an Email – Considering formality and expectations / Timed response and peer evaluation
第11回目 Revising writing – common errors at band 6–7 / Responding to a peer's writing
第12回目 Speaking review and mock practice test / Targeted feedback on strengths and weaknesses
第13回目 Writing review and mock practice test / Targeted feedback on strengths and weaknesses
第14回目 Final exam and course wrap-up

履修の注意点

This course welcomes students with a TOEIC score of at least 600 and intend to take the IELTS or TOEFL iBT in preparation for study abroad. Although this class will focus on practice test questions and tips and strategies for how to improve speaking and writing performance, there will be a range of activities that have students interacting and working in groups. With this in mind, students must be willing to freely speak and cooperate with their peers. Google Classroom will be used so students are required to have a Gmail account. Without one, students will not be able to sign on to Google Classroom to access course material or submit assignments.

準備学習の内容

Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to pair and group work activities. It is necessary for students to complete all work in a timely manner, including in-class work and homework assignments. There will be approximately 1 hour of homework per week which consist of applying strategies introduced in class to complete speaking and writing tasks. Student need to bring a laptop to class since most material will be distributed via Google Classroom.

教科書

No textbook is required for this class. Students will need to use a tablet or laptop for this class.

参考書

Online resources will be introduced throughout the semester.

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom will be used for accessing materials and assignments, as well as receiving feedback. Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom.

成績評価の方法

30% Speaking task assignments and feedback
30% Writing task assignments and feedback
20% Participation and practice activities
20% Final exam

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　金曜　２時限

１単位

１年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing four skills (Speaking, Listening, Reading and Writing) for academic purposes. The course goal is to help students perform in an academic environment by performing the following tasks: pair and group discussions and presentations, using clarification techniques, analyzing listening passages, writing and peer-editing sentences and paragraphs and analyzing and organizing reading passage information. Additionally, the course will work on developing collaboration skills through spoken and writing small group tasks. This will be done primarily through presentation writing and speaking assignments in small teams.
This course will also develop the skills necessary to improve performance on the IELTS Test. Students will use IELTS exam materials for reading and vocabulary assignments which will be discussed in class.
Additionally, students will be provided with the fundamentals for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第１回目　Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第２回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Options
第３回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development.
第４回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, 1st Presentation Practice
第５回目　1st Presentation Small Group, Question and Answer, Presentation Draft Review
第６回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice, IELTS Vocabulary Review
第７回目　Class Presentations All Groups
第８回目　2nd Presentation Topic Introductions and Group Formations
第９回目　2nd Presentation New Groups, Presentation Content Options
第10回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development
第11回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Review, IELTS Reading Review
第12回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice Set 1 & 2
第13回目　Final Presentations Set 1 and Set 2, Question and Answer
第14回目　Final Presentations Review, Question and Answer, Presentation Feedback

履修の注意点

Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must have some degree of proficiency with MS Word or Google Documents, as presentation drafts will require online applications to submit documents for the class.

準備学習の内容

Students thinking about taking other ACE exam preparation courses will also benefit from taking this course.
This course is a full year ACE exam skills course. Students can register for both semesters of this course
Students cannot take the Friday period 2 and period 3 courses in the same semester, as each period is designed for different levels, and because some of the class content and material will be used in both classes. Class size is limited to 14 students.

教科書

No textbook required.
Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You must have a good level of proficiency with Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as coursework drafts & presentation materials will be submitted in Google Classroom. Late submissions receive a ZERO score. Additionally, the course is meant to help students preparing for IELTS online tests. STUDENTS SHOULD BRING A P.C. TO CLASS FOR IN-CLASS WORK.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review (research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online)
20% Participation (students must be actively involved in the class)
40% Assessment (includes two presentations, and presentation-related assignments)

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　金曜　５時限

１単位

１年次

兼任講師　ＷＲＩＧＨＴ　ＡＬＥ

授業の概要・到達目標

This class will improve students' TOEIC test taking skills and basic English ability. By focusing on a number of test taking strategies as well as practicing material from sample tests, students will improve their TOEIC test taking skills. By learning the most important TOEIC specific vocabulary and gaining extensive listening input, students will improve their basic English skills in a way which will also benefit their TOEIC scores as well.

授業内容

第１回　Course introduction
第２回　Unit 1：Listening Test Part 1
第３回　Unit 2：Listening Test Part 2
第４回　Unit 3：Listening Test Part 3
第５回　Unit 4：Listening Test Part 4
第６回　Unit 5：Reading Test Part 5
第７回　Unit 6：Reading Test Part 6
第８回　Unit 7：Reading test Part 7
第９回　Unit 8：Listening test Part 1
第10回　Unit 9：Listening test Part 2
第11回　Unit 10：Listening test Part 3
第12回　Unit 11：Listening test Part 4
第13回　Unit 12：Reading test Part 1
第14回　Unit 13：Reading test Part 2

履修の注意点

This is a one year ACE course. The second half of the same textbook will be used for the fall course. Class size is limited to 15 students.

準備学習の内容

Please be ready with your Textbook each week. Students will be required to master a large portion of the TSL（TOEIC Service List）which is a list of the most important vocabulary for Toeic by how frequently it appears. Students will have to look at a portion of the list each week and identify the words they don't know and then learn the words they don't know on their own. They will also be required to listen to listening materials outside of class each week to improve their listening comprehension skills and write a short summary for homework.

教科書

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test, Grant Trew ¯2650yen
Listenings will be provided by the instructor

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on quizzes and reading will be provided through grades. Additional feedback will also be given during class as appropriate.

成績評価の方法

30% Participation
40% Quizzes
30% Extensive listening

その他

If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　水曜　３時限

１単位

１年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

The ACE course was developed with an integrated skills approach to help students prepare for the IELTS and other standardized English-language proficiency exams, while strengthening both their language abilities and test-taking strategies. It offers targeted skills practice, exam simulations, and learning strategies designed for students aiming for an IELTS band score of 6.0–6.5 (equivalent to approximately 60–90 on the TOEFL iBT). The course familiarizes learners with the IELTS Academic Test format, introduces them to a wide range of topics, and provides practical lessons to help enhance performance and improve scores. Lessons are structured to build students' test-taking skills and strategies within the IELTS framework, yet will be flexible enough to be tailored to individual student needs. They offer guided practice organized by skill area: speaking, writing, reading, listening, grammar, and vocabulary, alongside examples of different question types and sample test items. Also included are vocabulary-building activities, pronunciation practice, and tips for writing and responding effectively to test questions.
By the end of the course, students will have developed the essential skills to perform confidently in the IELTS Academic Test and other standardized English assessments. In addition, they will be able to apply their knowledge to academic contexts such as research, essay writing, and coursework during study abroad programs.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course | Overview
Weeks 2-3：What is the IELTS?
Weeks 4-5：Topic（1）The Man-made Environment
Weeks 6-7：Topic（2）The News and Media
Week 8：Midterm test
Weeks 9-10：Topic（3）Education Systems
Weeks 11-12：Topic（4）Festivals and Traditions
Week 13：Review
Week 14：Final test | Wrap-up

履修の注意点

This course welcomes students with a TOEIC score of at least 600 and who intend to take language proficiency tests in preparation for study abroad. It is specifically targeted for those who intend to take the IELTS Academic Test.
Please note that the class will not be a typical test preparation course with mere drills and practice exams but will take a more practical and interactive multi-skill approach with added opportunity for practicing speaking and writing. There will be a mix of activities that will require students to work independently and with each other as a pair or in a group. Students who wish to enroll in this class must be willing to speak out and actively participate in pair or group work and discussions and are not shy in sharing and comparing viewpoints with others. Both a collaborative and cooperative attitude are necessary to successfully complete the course.

準備学習の内容

Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, including in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.
Always bring to class your dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts.

教科書

Peter Crosthwaite, Natasha De Souza, and Marc Loewenthal. 『Cambridge English MINDSET FOR IELTS Student's Book 2』 Cambridge University Press. ISBN 978-1-316-64015-9.
Handouts for exercises and for some class activities will also be given out in class.

参考書

1）Any English dictionary designed for language learners whether bilingual (English/Japanese) or monolingual either in print, online, or app form.
2）The official IELTS website 〈https://www.ielts.org/〉
3）The Official Cambridge Guide to IELTS app (available in both Android and iOS versions)

課題に対するフィードバックの方法

Students will be able to directly receive advice and feedback about their work from the professor.
Feedback may also be given immediately after an activity.

成績評価の方法

Class participation and attendance (25%)
In-class activities and exercises (30%)
Midterm and final tests (30%)
Vocabulary list (15%)

その他

Refer to the syllabus that the professor will hand out in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　２時限

１単位

１年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing four skills (Speaking, Listening, Reading and Writing) for academic purposes. The course goal is to help students perform in an academic environment by performing the following tasks: pair and group discussions and presentations, using clarification techniques, analyzing listening passages, writing and peer-editing sentences and paragraphs and analyzing and organizing reading passage information. Additionally, the course will work on developing collaboration skills through spoken and writing small group tasks. This will be done primarily through presentation writing and speaking assignments in small teams.
This course will also develop the skills necessary to improve performance on the IELTS Test. Students will use IELTS exam materials for reading and vocabulary assignments which will be discussed in class.
Additionally, students will be provided with the fundamentals for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第１回目　Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第２回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Options
第３回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development.
第４回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, 1st Presentation Practice
第５回目　1st Presentation Small Group, Question and Answer, Presentation Draft Review
第６回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice, IELTS Vocabulary Review
第７回目　Class Presentations All Groups
第８回目　2nd Presentation Topic Introductions and Group Formations
第９回目　2nd Presentation New Groups, Presentation Content Options
第10回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development
第11回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Review, IELTS Reading Review
第12回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice Set 1 & 2
第13回目　Final Presentations Set 1 and Set 2, Question and Answer
第14回目　Final Presentations Review, Question and Answer, Presentation Feedback

履修の注意点

Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must have some degree of proficiency with MS Word or Google Documents, as presentation drafts will require online applications to submit documents for the class.

準備学習の内容

Students thinking about taking other ACE exam preparation courses will also benefit from taking this course.
This course is a full year ACE exam skills course. Students can register for both semesters of this course
Students cannot take the Friday period 2 and period 3 courses in the same semester, as each period is designed for different levels, and because some of the class content and material will be used in both classes. Class size is limited to 14 students.

教科書

No textbook required.
Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You must have a good level of proficiency with Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as coursework drafts & presentation materials will be submitted in Google Classroom. Late submissions receive a ZERO score. Additionally, the course is meant to help students preparing for IELTS online tests. STUDENTS SHOULD BRING A P.C. TO CLASS FOR IN-CLASS WORK.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review (research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online)
20% Participation (students must be actively involved in the class)
40% Assessment (includes two presentations, and presentation-related assignments)

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills（A）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　5時限

1単位

1年次

兼任講師　ＷＲＩＧＨＴ　ＡＬＥ

授業の概要・到達目標

This class will improve students' TOEIC test taking skills and basic English ability. By focusing on a number of test taking strategies as well as practicing material from sample tests, students will improve their TOEIC test taking skills. By learning the most important TOEIC specific vocabulary and gaining extensive listening input, students will improve their basic English skills in a way which will also benefit their TOEIC scores as well.

授業内容

第1回　Unit 15 Listening Test Part 1
第2回　Unit 16：Listening Test Part 2
第3回　Unit 17：Listening Test Part 3
第4回　Unit 18：Listening Test Part 4
第5回　Unit 19：Reading Test Part 5
第6回　Unit 20：Reading Test Part 6
第7回　Unit 21：Reading Test Part 7
第8回　Unit 22：Listening Test Part 1
第9回　Unit 23：Listening Test Part 2
第10回　Unit 24：Listening Test Part 3
第11回　Unit 25：Listening Test Part 4
第12回　Unit 26：Reading Test Part 1
第13回　Unit 27：Reading test Part 2
第14回　Unit 28：Reading test Part 3

履修の注意点

This is the second half of a one year course. The second half of the same textbook will be used for the fall course. Students who have not completed the spring part of the course can still join this class. Class size is limited to 15 students.

準備学習の内容

Please be ready with your Textbook each week. Students will be required to master a large portion of the TSL（TOEIC Service List）which is a list of the most important vocabulary for Toeic by how frequently it appears. Students will have to look at a portion of the list each week and identify the words they don't know and then learn the words they don't know on their own. They will also be required to listen to listening materials outside of class each week to improve their listening comprehension skills and write a short summary for homework.

教科書

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test, Grant Trew ~2650yen
Listenings will be provided by the instructor

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on quizzes and reading will be provided through grades. Additional feedback will also be given during class as appropriate.

成績評価の方法

30% Participation
40% Quizzes
30% Extensive listening

その他

If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　春学期　金曜　3時限

1単位

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing four skills（Speaking, Listening, Reading and Writing）for academic purposes. The course goal is to help students perform in an academic environment by performing the following tasks: pair and group discussions and presentations, using clarification techniques, analyzing listening passages, writing and peer-editing sentences and paragraphs and analyzing and organizing reading passage information. Additionally, the course will work on developing collaboration skills through spoken and writing small group tasks. This will be done primarily through presentation writing and speaking assignments in small teams.
This course will also develop the skills necessary to improve performance on the IELTS Test. Students will use IELTS exam materials for reading and vocabulary assignments which will be discussed in class.
Additionally, students will be provided with the fundamentals for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Options
第3回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development.
第4回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, 1st Presentation Practice
第5回目　1st Presentation Small Group, Question and Answer, Presentation Draft Review
第6回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice, IELTS Vocabulary Review
第7回目　Class Presentations All Groups
第8回目　2nd Presentation Topic Introductions and Group Formations
第9回目　2nd Presentation New Groups, Presentation Content Options
第10回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development
第11回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Review, IELTS Reading Review
第12回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice Set 1 & 2
第13回目　Final Presentations Set 1 and Set 2, Question and Answer
第14回目　Final Presentations Review, Question and Answer, Presentation Feedback

履修の注意点

Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must have some degree of proficiency with MS Word or Google Documents, as presentation drafts will require online applications to submit documents for the class.

準備学習の内容

Students thinking about taking other ACE exam preparation courses will also benefit from taking this course.
This course is a full year ACE exam skills course. Students can register for both semesters of this course
Students cannot take the Friday period 2 and period 3 courses offered, as each period is designed for different levels, and because some of the class content and material will be used in both classes. Class size is limited to 14 students.

教科書

No textbook required.
Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You must have a good level of proficiency with Google Applications（Drive: Documents, Sheets, Slides）and/or MS Office, as coursework drafts & presentation materials will be submitted in Google Classroom. LATE ASSIGNMENTS RECEIVE A ZERO GRADE. Additionally, the course is meant to help students preparing for IELTS online tests. STUDENTS SHOULD BRING A P.C. TO CLASS FOR IN-CLASS WORK. This is an Upper Advanced English Communication class. YOUR TOEIC SCORE SHOULD BE 750 or HIGHER. If your score is below 750, contact me before registering.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review（research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online）
20% Participation（students must be actively involved in the class）
40% Assessment（includes two presentations, and presentation-related assignments）

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Exam Skills（U）【2022年度以降入学者】
ＡＣＥⅢ(Upper Advanced)【2021年度以前入学者】

【和泉】　秋学期　金曜　3時限

1単位

1年次

兼任講師　ハダス，マイケルM.

授業の概要・到達目標

This course will focus on developing four skills（Speaking, Listening, Reading and Writing）for academic purposes. The course goal is to help students perform in an academic environment by performing the following tasks: pair and group discussions and presentations, using clarification techniques, analyzing listening passages, writing and peer-editing sentences and paragraphs and analyzing and organizing reading passage information. Additionally, the course will work on developing collaboration skills through spoken and writing small group tasks. This will be done primarily through presentation writing and speaking assignments in small teams.
This course will also develop the skills necessary to improve performance on the IELTS Test. Students will use IELTS exam materials for reading and vocabulary assignments which will be discussed in class.
Additionally, students will be provided with the fundamentals for writing at the university level in universities abroad.

授業内容

第1回目　Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction
第2回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Options
第3回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development.
第4回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, 1st Presentation Practice
第5回目　1st Presentation Small Group, Question and Answer, Presentation Draft Review
第6回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice, IELTS Vocabulary Review
第7回目　Class Presentations All Groups
第8回目　2nd Presentation Topic Introductions and Group Formations
第9回目　2nd Presentation New Groups, Presentation Content Options
第10回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development
第11回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Review, IELTS Reading Review
第12回目　Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice Set 1 & 2
第13回目　Final Presentations Set 1 and Set 2, Question and Answer
第14回目　Final Presentations Review, Question and Answer, Presentation Feedback

履修の注意点

Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must have some degree of proficiency with MS Word or Google Documents, as presentation drafts will require online applications to submit documents for the class.

準備学習の内容

Students thinking about taking other ACE exam preparation courses will also benefit from taking this course.
This course is a full year ACE exam skills course. Students can register for both semesters of this course
Students cannot take the Friday period 2 and period 3 courses offered, as each period is designed for different levels, and because some of the class content and material will be used in both classes. Class size is limited to 14 students.

教科書

No textbook required.
Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You must have a good level of proficiency with Google Applications（Drive: Documents, Sheets, Slides）and/or MS Office, as coursework drafts & presentation materials will be submitted in Google Classroom. LATE ASSIGNMENTS RECEIVE A ZERO GRADE. Additionally, the course is meant to help students preparing for IELTS online tests. STUDENTS SHOULD BRING A P.C. TO CLASS FOR IN-CLASS WORK. This is an Upper Advanced English Communication class. YOUR TOEIC SCORE SHOULD BE 750 or HIGHER. If your score is below 750, contact me before registering.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% Weekly Review（research collected outside of class for presentations and vocabulary sheet to be submitted online）
20% Participation（students must be actively involved in the class）
40% Assessment（includes two presentations, and presentation-related assignments）

その他

科目ナンバー：(PE)LAN311E

ACE Presentation Skills

1単位

【駿河台】 春学期 金曜 4時限

1年次

特任講師 デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This course is designed for students who aim to hone and enhance their presentation and public speaking skills in English and also for those who wish to gain credit to obtain the ACE certificate.
Students will have the opportunity to review the structure and flow of a formal presentation and to further build on the skills that they have acquired in other ACE classes, thus learning how to more effectively communicate their ideas to an audience. They will receive specific, more personalized, and directed guidance in planning and creating persuasive speeches and presentations to be able to deliver these with confidence. Students will be expected to conduct their own research on an academic topic they choose for their presentations.
The lessons will help further develop students' presentation skills and communicative skills by providing speaking opportunities in different class activities such as discussions and mini presentations for them to also share ideas and exchange information and opinions. These form part of the preparations for their final presentations, which they must present at the end of the semester. During the final presentations, they will speak before a public audience including students from other classes and invited instructors and participate in Q&A and discussions after each presentation.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course | Overview
Weeks 2 to 4：Review of basic presentation skills and structure of a formal presentation
Weeks 5 to 7：Preparations for the midterm presentations
Week 8：Midterm presentations
Weeks 9 to 13：Preparations and rehearsals for the final presentations
Week 14：Final presentations* | Wrap-up | Evaluation and Assessment
*Final presentations may be scheduled on a different date.

履修の注意点

The maximum number of students who can register for this course is 8 students.
To register for this class, students must meet the following two prerequisites:
1 Earned a minimum of 6 credits with a grade of S or A from ACE courses and other approved classes
2 A TOEIC score of 600 or higher
※Take note that these criteria may be subject to change, so make sure to confirm with the Seikei office prior to your registration.

準備学習の内容

Students must plan and perform two major presentations, a midterm presentation and a final presentation, at a level that meets class requirements and standards for assessment, and also prepare for the post-presentation Q&A and discussions in English.
They are expected to come to class ready to contribute to discussions and be involved in all activities. They must complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework.

教科書

None in particular. Handouts for class activities will also be given out in the course of the semester.

参考書

(1) Students are expected to always bring with them to class any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or better yet, an all-English dictionary for English learners, either printed, online, or in app form.
(2) LeBeau, C. (2020) 『Speaking of speech』 (National Geographic Learning)
(3) Stafford, M. (2012) 『Successful presentations: An interactive guide』 (Cengage Learning)

課題に対するフィードバックの方法

Individual consultation sessions will be held where students can directly receive feedback and advice from the instructor during the class regarding their work and performance.

成績評価の方法

Attendance and class participation (30%)
In-class work and written assignments (20%)
Midterm and final presentations (50%)

その他

Refer to the syllabus that the instructor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN311E

ACE Presentation Skills	1単位
【駿河台】 春学期 水曜 4時限	1年次

特任講師 パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

The main goal of this course is to review presentation skills and to build up toward a final persuasive presentation on an academic subject, which will be presented individually. Students will be expected to deliver their presentations effectively and also to smoothly handle questions after the delivery. It is possible that we will invite students and teachers from outside our class to our mid-term and final presentation classes and have them participate in the discussions after each presentation.

Students will be encouraged to support their classmates preparing for their presentations. Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and speeches.

授業内容

Lesson Content:

- Purposes of presenting
- Factors of successful presentations
- Rhetoric choices
- Citation expectations
- The Q&A session
- Presentation content structure and organization
- Finding reliable sources
- Visual accessibility
- Writing a catchy title and description
- Preparing an outline and notecards

履修の注意点

準備学習の内容

単位を得るには、最低、mid-term, final presentationを合格レベルで発表し、スムースに発表後の質疑応答、ディスカッションを英語でこなすことが求められます。また、4回以上欠席すると、評価の対象にはなりません。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Class participation will be graded holistically, based on students' attendance, conduct toward classmates, and engagement with the lesson materials.

The mid-term and final presentation feedback will be graded along a rubric and then provided to students electronically.

成績評価の方法

Participation, weekly assignments and speeches: 30%

Mid-term presentation: 30%

Final presentation: 40%

その他

科目ナンバー：(PE)LAN311E

ACE Presentation Skills

1単位

【駿河台】 秋学期 金曜 4時限

1年次

特任講師 デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

This course is designed for students who aim to hone and enhance their presentation and public speaking skills in English and also for those who wish to gain credit to obtain the ACE certificate.
Students will have the opportunity to review the structure and flow of a formal presentation and to further build on the skills that they have acquired in other ACE classes, thus learning how to more effectively communicate their ideas to an audience. They will receive specific, more personalized, and directed guidance in planning and creating persuasive speeches and presentations to be able to deliver these with confidence. Students will be expected to conduct their own research on an academic topic they choose for their presentations.
The lessons will help further develop students' presentation skills and communicative skills by providing speaking opportunities in different class activities such as discussions and mini presentations for them to also share ideas and exchange information and opinions. These form part of the preparations for their final presentations, which they must present at the end of the semester. During the final presentations, they will speak before a public audience including students from other classes and invited instructors and participate in Q&A and discussions after each presentation.

授業内容

(Content is subject to change based on the needs of the class)
Week 1：Introduction to the course | Overview
Weeks 2 to 4：Review of basic presentation skills and structure of a formal presentation
Weeks 5 to 7：Preparations for the midterm presentations
Week 8：Midterm presentations
Weeks 9 to 13：Preparations and rehearsals for the final presentations
Week 14：Final presentations* | Wrap-up | Evaluation and Assessment
*Final presentations may be scheduled on a different date.

履修の注意点

The maximum number of students who can register for this course is 8 students.
To register for this class, students must meet the following two prerequisites:
1 Earned a minimum of 6 credits with a grade of S or A from ACE courses and other approved classes
2 A TOEIC score of 600 or higher
※Take note that these criteria may be subject to change, so make sure to confirm with the Seikei office prior to your registration.

準備学習の内容

Students must plan and perform two major presentations, a midterm presentation and a final presentation, at a level that meets class requirements and standards for assessment, and also prepare for the post-presentation Q&A and discussions in English.
They are expected to come to class ready to contribute to discussions and be involved in all activities. They must complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework.

教科書

None in particular. Handouts for class activities will also be given out in the course of the semester.

参考書

(1) Students are expected to always bring with them to class any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or better yet, an all-English dictionary for English learners, either printed, online, or in app form.
(2) LeBeau, C. (2020) 『Speaking of speech』 (National Geographic Learning)
(3) Stafford, M. (2012) 『Successful presentations: An interactive guide』 (Cengage Learning)

課題に対するフィードバックの方法

Individual consultation sessions will be held where students can directly receive feedback and advice from the instructor during the class regarding their work and performance.

成績評価の方法

Attendance and class participation (30%)
In-class work and written assignments (20%)
Midterm and final presentations (50%)

その他

Refer to the syllabus that the instructor provides in class for further information.

科目ナンバー：(PE)LAN311E

ACE Presentation Skills	1単位
【駿河台】 秋学期　水曜　4時限	1年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

The main goal of this course is to review presentation skills and to build up toward a final persuasive presentation on an academic subject, which will be presented individually. Students will be expected to deliver their presentations effectively and also to smoothly handle questions after the delivery.　It is possible that we will invite students and teachers from outside our class to our mid-term and final presentation classes and have them participate in the discussions after each presentation.

Students will be encouraged to support their classmates preparing for their presentations. Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and speeches.

授業内容

Lesson Content:

- Purposes of presenting
- Factors of successful presentations
- Rhetoric choices
- Citation expectations
- The Q&A session
- Presentation content structure and organization
- Finding reliable sources
- Visual accessibility
- Writing a catchy title and description
- Preparing an outline and notecards

履修の注意点

準備学習の内容

単位を得るには、最低、mid-term, final presentationを合格レベルで発表し、スムースに発表後の質疑応答、ディスカッションを英語でこなすことが求められます。また、4回以上欠席すると、評価の対象にはなりません。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Class participation will be graded holistically, based on students' attendance, conduct toward classmates, and engagement with the lesson materials.

The mid-term and final presentation feedback will be graded along a rubric and then provided to students electronically.

成績評価の方法

Participation, weekly assignments and speeches: 30%

Mid-term presentation: 30%

Final presentation: 40%

その他

科目ナンバー：(PE)LAN316E

ACE Presentation Skills〔M〕

1単位

【駿河台】 春学期 水曜 5時限

1年次

専任講師 森 本 陽 子

授業の概要・到達目標

卒業後も長く使える、英語プレゼンの実践スキル。
他言語にも応用可能な、脳科学に基づく発信力を身につけます。
Practical presentation skills you can use long after graduation.
Learn how to deliver messages that leave an impact—based on neuroscience.
This course is a **required capstone course for students seeking the ACE Certificate** and is designed for third- and fourth-year students who wish to complete a high-quality academic English presentation.
It aims to help students develop practical and persuasive presentation skills that can be used long after graduation, not only in English but also in other languages. Grounded in findings from neuroscience and cognitive science, the course explores how attention, memory, emotion, and embodiment influence audience engagement, and how these insights can be applied to real academic and professional presentation settings. **Through step-by-step practice and repeated delivery, students learn how to design and deliver presentations that are clear, compelling, memorable, and impactful.**
In addition to delivery skills, students will learn **research-based and widely accepted academic and business presentation formats**, including how to structure arguments logically, cite sources appropriately, and present evidence in a clear and credible manner.
Practical strategies for **handling Q&A sessions**, including responding to unexpected questions and managing discussion smoothly in English, are also an essential component of the course.
The course is conducted in a **hybrid format**: students attend class in a designated classroom, while the instructor teaches live via Zoom as a reasonable accommodation related to the instructor's medical condition. **This format also provides pedagogical advantages, such as the ability to review recorded presentations, observe one's own body language and delivery objectively, and track improvement over time—skills increasingly required in international academic and professional contexts.**

授業内容

Week 1
Introduction to the course
Getting to know each other
Short self-introduction speeches by each student
Weeks 2–4
Review and deepening of body language and non-verbal communication, based on neuroscience and presentation research
Topics include:
• Posture, eye contact, gestures, and spatial use
• Voice, rhythm, pauses, and breathing
• How body movement and physical presence influence confidence, credibility, and audience attention
• Applying neuroscientific insights to make presentations more memorable and persuasive
Each week, students will prepare and deliver **short speeches, presentation segments, or mini-workshops**, receiving feedback focused especially on non-verbal communication and audience impact.
Week 4
Class survey on the opinion statement for the mid-term presentation
Submission of the outline for the mid-term presentation
Introduction to mindfulness
(Brief mindfulness practices will be incorporated throughout the semester to support focus, emotional regulation, and confident performance.)
Weeks 5–8
Step-by-step development and delivery of the mid-term presentation
Focus on:
• Logical structure and storytelling
• Clear presentation of research-based content
• Effective visual support
• Smooth transitions and audience engagement
Mid-term presentation delivery followed by short discussions
Weeks 9–12
Preparation for the final presentation
Focus on:
• Advanced structuring of arguments
• Appropriate citation of sources and academic conventions
• Refining delivery for clarity and persuasion
• Strategies for handling Q&A sessions confidently and professionally
Weeks 13–14
Final presentation delivery
（9–10 minutes per student）
Followed by audience discussions
Presentations will be conducted online, recorded, and may be shared within the ACE Program for educational purposes.

履修の注意点

定員は8名です。この授業に登録するには、以下の2つの前提条件をすべてクリアしている必要があります。
1 ACEI～IVから、SまたはAの評価を6単位以上取得。
2 TOEICスコア700以上を取得。(2017年以前の入学者は600点以上。)
この授業は指定された教室において、ZOOMを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。
・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン(マイク付き）を準備すること。
・指定された教室以外での受講は不可であること。
また、このクラスを履修する方には、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生／卒業生などが主催する各種イベント／勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。
・授業で使用するZoomミーティングID：
トピック: Zoom meeting invitation - Yoko Morimoto 水5 ACE Presentation Skills
時刻: 毎週水曜 05:00 PM 大阪、札幌、東京
（実際の授業開始時間は5時からです）

参加 Zoom ミーティング
https://zoom.us/j/98563231553?pwd=SnhnRHkvR0hUTVNJM3hZcnZXV29ZQT09
ミーティング ID: 985 6323 1553
パスコードを設定する: 860986
・森本Emailアドレス（問合せ用）: yokomorimoto2012@gmail.com （必ずメールの表題に水5ACE PS、学年、受講生名を明記してください。例：水5ACE PS 3年明治花子 課題についての質問）
*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZoomでのリアルタイム授業が設定されています。**将来、Zoomによる国際会議やビジネスミーティング等に参加する機会も増えていくと考えられるため、Zoomの長所を最大限に活かして、対面でもオンラインでも自信を持って英語でプレゼンができる力を養っていくことを本授業の目標のひとつとしています。**

準備学習の内容

To earn credit, students must demonstrate that they have fully acquired the presentation skills taught in this course. This includes delivering presentations that are:
• Based on research and clearly structured
• Delivered smoothly without reading from a script
• Supported by effective slides
• Enhanced by appropriate body language and vocal variation
• Followed by competent handling of questions and discussions in English
Preparation in this course is cumulative and research-informed. Students gradually build presentation skills each week, applying neuroscientific insights into attention, memory, and embodiment to their own presentations. By consistently preparing and participating, students will acquire a presentation style that is both **academically sound and professionally credible**, enabling them to deliver persuasive presentations and handle Q&A sessions effectively in English.
Students who follow the course sequence and complete weekly preparation can expect to achieve a presentation quality that meets or exceeds the required standard.

教科書

Study Skills for College English 2nd Edition（慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ￥1,050）

参考書

Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021
Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery, 3rd Edition by Garr Reynolds, Voices That Matter, 2019
英辞郎ProLite等オンライン辞書。

課題に対するフィードバックの方法

Feedback is provided primarily through:
• In-class oral feedback
• Peer comments during class
• Self-review using recorded presentations
Mid-term and final presentations may also be evaluated by classmates and audience members using online forms; however, **final grading decisions are made solely by the instructor**.

成績評価の方法

Participation, weekly assignments and in-class speeches: 25%
Mid-term presentation: 30%
Final presentation: 45%
Because each class builds step by step toward the final presentation, attending in real time is essential.
In cases of unavoidable absence due to job-hunting, illness, or other serious reasons, students may be asked to submit documentation and must watch the class recording before the next session.
Repeated absences or reliance on recordings without valid reasons may negatively affect the final grade.

その他

この授業では、言語的な側面だけでなく、姿勢、目線、ジェスチャー、声の抑揚、質疑応答への臨機応変な対応の仕方なども身に着けていきます。このようなプレゼンスキルに特化した授業で学び、プレゼンの準備段階から丁寧な指導を受ける機会をぜひ活かしてください。実際に、こうしたスキルを体得した受講生の多くが、使用言語に関係なく、留学先・就職先でのプレゼンや面接などにも大いに役立ったと報告してくれています。
また、ACE修了証の取得という目的以外にも、モティベーションの高いクラスメートと共に学んでいく経験と修了後の繋がりは、きっと皆さんの人生の糧になることと思います。

科目ナンバー：(PE)LAN316E

ACE Presentation Skills〔M〕

1単位

【駿河台】 秋学期 水曜 5時限

1年次

専任講師 森 本 陽 子

授業の概要・到達目標

卒業後も長く使える、英語プレゼンの実践スキル。
他言語にも応用可能な、脳科学に基づく発信力を身につけます。
Practical presentation skills you can use long after graduation.
Learn how to deliver messages that leave an impact—based on neuroscience.
This course is a **required capstone course for students seeking the ACE Certificate** and is designed for third- and fourth-year students who wish to complete a high-quality academic English presentation.
It aims to help students develop practical and persuasive presentation skills that can be used long after graduation, not only in English but also in other languages. Grounded in findings from neuroscience and cognitive science, the course explores how attention, memory, emotion, and embodiment influence audience engagement, and how these insights can be applied to real academic and professional presentation settings. **Through step-by-step practice and repeated delivery, students learn how to design and deliver presentations that are clear, compelling, memorable, and impactful.**
In addition to delivery skills, students will learn **research-based and widely accepted academic and business presentation formats**, including how to structure arguments logically, cite sources appropriately, and present evidence in a clear and credible manner.
Practical strategies for **handling Q&A sessions**, including responding to unexpected questions and managing discussion smoothly in English, are also an essential component of the course.
The course is conducted in a **hybrid format**: students attend class in a designated classroom, while the instructor teaches live via Zoom as a reasonable accommodation related to the instructor's medical condition. This format also provides pedagogical advantages, such as the ability to review recorded presentations, observe one's own body language and delivery objectively, and track improvement over time—skills increasingly required in international academic and professional contexts.

授業内容

Week 1
Introduction to the course
Getting to know each other
Short self-introduction speeches by each student
Weeks 2–4
Review and deepening of body language and non-verbal communication, based on neuroscience and presentation research
Topics include:
• Posture, eye contact, gestures, and spatial use
• Voice, rhythm, pauses, and breathing
• How body movement and physical presence influence confidence, credibility, and audience attention
• Applying neuroscientific insights to make presentations more memorable and persuasive
Each week, students will prepare and deliver **short speeches, presentation segments, or mini-workshops**, receiving feedback focused especially on non-verbal communication and audience impact.
Week 4
Class survey on the opinion statement for the mid-term presentation
Submission of the outline for the mid-term presentation
Introduction to mindfulness
(Brief mindfulness practices will be incorporated throughout the semester to support focus, emotional regulation, and confident performance.)
Weeks 5–8
Step-by-step development and delivery of the mid-term presentation
Focus on:
• Logical structure and storytelling
• Clear presentation of research-based content
• Effective visual support
• Smooth transitions and audience engagement
Mid-term presentation delivery followed by short discussions
Weeks 9–12
Preparation for the final presentation
Focus on:
• Advanced structuring of arguments
• Appropriate citation of sources and academic conventions
• Refining delivery for clarity and persuasion
• Strategies for handling Q&A sessions confidently and professionally
Weeks 13–14
Final presentation delivery
(9–10 minutes per student)
Followed by audience discussions
Presentations will be conducted online, recorded, and may be shared within the ACE Program for educational purposes.

履修の注意点

定員は8名です。この授業に登録するには、以下の2つの前提条件をすべてクリアしている必要があります。
1 ACEI～IVから、SまたはAの評価を6単位以上取得。
2 TOEICスコア700以上を取得。(2017年以前の入学者は600点以上。)
この授業は指定された教室において、ZOOMを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。
・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン(マイク付き)を準備すること。
・指定された教室以外での受講は不可であること。
また、このクラスを履修する方には、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生／卒業生などが主催する各種イベント／勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。
・授業で使用するZoomミーティングID：
トピック: Zoom meeting invitation - Yoko Morimoto 水5 ACE Presentation Skills
時刻: 毎週水曜 05:00 PM 大阪、札幌、東京
(実際の授業開始時間は5時からです)
参加 Zoom ミーティング
https://zoom.us/j/98563231553?pwd=SnhnRHkvR0hUTVNJM3hZcnZXV29ZQT09
ミーティング ID: 985 6323 1553
パスコードを設定する: 860986
・森本Emailアドレス（問合せ用）: yokomorimoto2012@gmail.com （必ずメールの表題に水5ACE PS、学年、受講生名を明記してください。例：水5ACE PS 3年明治花子 課題についての質問）
*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZoomでのリアルタイム授業が設定されています。**将来、Zoomによる国際会議やビジネスミーティング等に参加する機会も増えていくと考えられるため、Zoomの長所を最大限に活かして、対面でもオンラインでも自信を持って英語でプレゼンができる力を養っていくことを本授業の目標のひとつとしています。**

準備学習の内容

To earn credit, students must demonstrate that they have fully acquired the presentation skills taught in this course. This includes delivering presentations that are:
• Based on research and clearly structured
• Delivered smoothly without reading from a script
• Supported by effective slides
• Enhanced by appropriate body language and vocal variation
• Followed by competent handling of questions and discussions in English
Preparation in this course is cumulative and research-informed. Students gradually build presentation skills each week, applying neuroscientific insights into attention, memory, and embodiment to their own presentations. By consistently preparing and participating, students will acquire a presentation style that is both **academically sound and professionally credible**, enabling them to deliver persuasive presentations and handle Q&A sessions effectively in English.
Students who follow the course sequence and complete weekly preparation can expect to achieve a presentation quality that meets or exceeds the required standard.

教科書

Study Skills for College English 2nd Edition（慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ￥1,050）

参考書

Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021
Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery, 3rd Edition by Garr Reynolds, Voices That Matter, 2019
英辞郎ProLite等オンライン辞書。

課題に対するフィードバックの方法

Feedback is provided primarily through:
• In-class oral feedback
• Peer comments during class
• Self-review using recorded presentations
Mid-term and final presentations may also be evaluated by classmates and audience members using online forms; however, **final grading decisions are made solely by the instructor**.

成績評価の方法

• Participation, weekly assignments, and in-class speeches: **25%**
• Mid-term presentation: **30%**
• Final presentation: **45%**
Regular attendance is expected.
This course is designed as a step-by-step process in which each class builds directly on the previous one, leading toward the final presentation. Active real-time participation is therefore essential for achieving the course objectives.
Class recordings are provided to support learning, review, and self-reflection, but they are **not a substitute for attendance**. In cases of unavoidable absence due to job-hunting activities, illness, or other serious circumstances, students may be asked to submit appropriate documentation and are required to watch the recorded class before the next session.
Excessive absences, or repeated reliance on recordings without valid reasons, may result in a reduction of the participation grade and may negatively affect overall evaluation.

その他

この授業では、言語的な側面だけでなく、姿勢、目線、ジェスチャー、声の抑揚、質疑応答への臨機応変な対応の仕方なども身に着けていきます。このようなプレゼンスキルに特化した授業で学び、プレゼンの準備段階から丁寧な指導を受ける機会をぜひ活かしてください。実際に、こうしたスキルを体得した受講生の多くが、使用言語に関係なく、留学先・就職先でのプレゼンや面接などにも大いに役立ったと報告してくれています。
また、ACE修了証の取得という目的以外にも、モティベーションの高いクラスメートと共に学んでいく経験と修了後の繋がりは、きっと皆さんの人生の糧になることと思います。

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Academic Training（U）【2022年度以降入学者】

1単位

【和泉】　春学期　月曜　1時限

1年次

准教授　ネルソン，リンジー

授業の概要・到達目標

ACE Academic Training: Work and Play
This course is designed to emulate an undergraduate area studies course in a U.S. university. The course will be taught entirely in English and will make use of English-language readings, videos, written response assignments, presentations, and class discussions.
The theme of this class is "work and play." We will be reading and critically engaging with a variety of academic texts on the concept of work（how we define "work," what it means to exchange services for money, affective labor）and play（leisure time, the consumption of popular media and popular culture, social media）. Much of the reading will be focused on examining these concepts in a Japan-specific context.
Every week we will read an article or section from an academic text, write a short response to it online, discuss it in class, and have lectures related to that week's topic（and to "work and play" more generally）. We will also do in-class writing assignments and homework assignments related to writing. Once during the semester, you will "lead" the class for approximately 30 minutes by summarizing that week's topic and offering some questions for the class to discuss.
The final exam will be an in-class essay assignment in which you choose one question to answer in approximately 1000 words. You will be able to use your readings and in-class notes during the exam（but not any computers or smartphones）. Your final exam will be graded on clarity and your ability to engage with the texts and ideas that we have discussed in class.
***Please be aware that this class requires a large amount of reading, and that the reading materials are mostly taken from English-language academic texts and news articles.

授業内容

1 Introduction to course
2 Discussion of readings, lecture, writing exercises
3 Discussion of readings, lecture, writing exercises
4 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
5 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
6 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions, mid-semester review
7 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
8 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
9 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
10 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
11 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
12 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions
13 Semester review, writing exercises
14. FINAL EXAM

履修の注意点

The recommended TOEIC score for this course is in the 800-850 range（upper advanced）.
Students must attend the first class. Students who are absent from more than four classes will receive a failing grade.
However, please don't come to class if you are sick! Your health is more important than grades. If you need to miss a lot of classes because of illness, please talk to me and we can decide on a solution together.

準備学習の内容

Every week you will be required to read that week's reading assignment and write a short response to it online. You should read the text "actively," meaning that you take notes as you read, write down questions you want to ask, and write down any sections that you do not understand or want to talk about more. You will also occasionally need to complete short, in-class writing assignments that will help to improve aspects of writing like sentence and paragraph structure and developing an argument with evidence.

教科書

No textbook（readings will be available to download via Oh-o! Meiji）.

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

You will receive number/letter grades for your discussion leading and your final exam. I will frequently give you written comments on your weekly responses and your writing-related homework assignments. I will also give you written comments on your discussion leading.

成績評価の方法

Participation: 30%
Weekly discussion responses: 20%
Discussion leading: 20%
Final exam: 30%
***NOTE: You should not use ChatGPT or other translation software to write your weekly discussion responses. If I discover that you are doing this regularly, you will receive a score of "0" for your weekly discussion responses.

その他

If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com.（Please call me Professor Nelson.）

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Academic Training（U）【2022年度以降入学者】

1単位

【和泉】　秋学期　月曜　1時限

1年次

准教授　ヨーク　ジェームズ

授業の概要・到達目標

1. Development of writing skills, specifically academic writing skills（undergraduate level）
2. Understanding the stages and components of the writing process（brainstorming, developing a thesis statement, gathering information, drafting, revision/peer review, citation）
3. Understanding the concept of citation and how to avoid plagiarism, also how to distinguish between good and bad outside sources
4. Understanding good note-taking（active reading/listening）
5. Engaging in readings and activities that are a bit more challenging than those in a typical ACE class
6. Breaking down the components of an essay and working on each component（sentences, paragraphs, introductions, conclusions, thesis statement, supporting evidence）
7. Experience an English-language classroom environment
8. Discussing ideas and research findings, either through group/pair discussions or via presentations

授業内容

第1回　Orientation work
第2回　Deciding a research topic
第3回　Reading academic papers
第4回　Structure of an essay
第5回　Writing a literature review
第6回　The methodology section
第7回　Research methods
第8回　Focus on academic writing skills
第9回　Paper writing -- introduction to the zine format
第10回　Paper writing
第11回　Paper writing
第12回　Paper writing
第13回　Paper writing
第14回　Paper showcase and review

履修の注意点

Students are expected to write a term paper.
All communication is expected to be in English.
From week 5 onwards, students are expected to be writing their thesis each week. Help will be given for specific problems and questions each week.

準備学習の内容

The recommended TOEIC scores for this course are in the 800-850 range（upper advanced）.

教科書

なし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Check ClassWeb

成績評価の方法

（20%）Participation
（70%）Final essay（again, multiple drafts are recommended）
（10%）Reviewing other papers

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Academic Training（U）【2022年度以降入学者】	1単位
【駿河台】 春学期 水曜 3時限	1年次

特任講師 パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Course Goals:

1. Development of advanced academic skills: academic writing, research, and critical thinking skills
2. Development of advanced and specialized academic vocabulary and communication/discussion skills
3. Practice of learning strategies for managing large reading assignments, projects, and other assignments
4. Experience various learning activities and assessments simulating a foreign English-speaking university

Through this course, students should expect to develop their ability to engage in independent study and scholarship, and thereby be well-prepared for any future academic study in foreign English-speaking universities.

授業内容

Academic Writing: The 5-Paragraph Essay, The Annotated Bibliography, The Research Paper, Citation expectations and avoiding plagiarism
Communication Skills: Writing an email, asking questions, engaging in class discussion and activity leading
Study and time management skills: reading strategies, note-taking, and project management

履修の注意点

The course is conducted entirely in English.
If you are not comfortable using English exclusively, then you should reconsider if you are ready for this class.

準備学習の内容

Students should have a minimum of 850 TOEIC score. Please be sure to bring proof of your latest TOIEC test score to the first lesson.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Final Research Paper: graded according to the rubric and provided electronically.
Annotated Bibliography: graded according to the rubric and provided electronically.
Course Participation and Attendance: graded holistically according to effort, conduct, and achievement. Provided electronically.
Quizzes: provided on paper and/or electronically.

成績評価の方法

Final Research Paper: 50%
Annotated Bibliography: 15%
Course Participation and Attendance: 20%
Quizzes: 15%

その他

科目ナンバー：(PE)LAN111E

ACE Academic Training（U）【2022年度以降入学者】	1単位
【駿河台】 秋学期 水曜 3時限	1年次

特任講師 パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

Course Goals:
1. Development of advanced academic skills: academic writing, research, and critical thinking skills
2. Development of advanced and specialized academic vocabulary and communication/discussion skills
3. Practice of learning strategies for managing large reading assignments, projects, and other assignments
4. Experience various learning activities and assessments simulating a foreign English-speaking university

Through this course, students should expect to develop their ability to engage in independent study and scholarship, and thereby be well-prepared for any future academic study in foreign English-speaking universities.

授業内容

Academic Writing: The 5-Paragraph Essay, The Annotated Bibliography, The Research Paper, Citation expectations and avoiding plagiarism
Communication Skills: Writing an email, asking questions, engaging in class discussion and activity leading
Study and time management skills: reading strategies, note-taking, and project management

履修の注意点

The course is conducted entirely in English.
If you are not comfortable using English exclusively, then you should reconsider if you are ready for this class.

準備学習の内容

Students should have a minimum of 850 TOEIC score. Please be sure to bring proof of your latest TOIEC test score to the first lesson.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Final Research Paper: graded according to the rubric and provided electronically.
Annotated Bibliography: graded according to the rubric and provided electronically.
Course Participation and Attendance: graded holistically according to effort, conduct, and achievement. Provided electronically.
Quizzes: provided on paper and/or electronically.

成績評価の方法

Final Research Paper: 50%
Annotated Bibliography: 15%
Course Participation and Attendance: 20%
Quizzes: 15%

その他

科目ナンバー：—

英語	1単位
	1～4年次

【教　　授】虎岩直子、中村幸一、石山徳子
【准 教 授】兼子　歩、ネルソン・リンジー R、ジョージ・ジョニー E、ヨーク・ジェームズ、小林広直
【専任講師】
【兼任講師】石井千春、伊藤健一郎、伊藤由起子、井上和哉、宇野雅章、大和久悌一郎、奥井　裕、越智敏之、加藤　匠、神山左文、河本房子、木内久美子、儀部直樹、熊澤清美、倉光紀子、斉藤くるみ、佐藤信夫、塚田浩幸、中野里美、中林正身、中村美奈子、西浦　徹、野川浩美、堀越喜晴、ペロガイティス, ジョンD.、松崎由貴、松沼真由子、矢向寛子、山内正太郎、山口志のぶ、横田保恵、依田里花、若月麻美、渡邊浩子

授業の概要・到達目標

21世紀を迎えグローバル化の進む現在，英語の重要度は，益々大きくなっている。特に，本学部では，単位を伴った留学促進に力を入れており，英語は留学準備のためにも特に重要である。授業では読む，書く，話す，聴く，能力を高めることを当面のねらいとするが，一人の教員がすべての分野を同時に指導するのではなく，個々のクラスによっていくつかの分野に的を絞ることになる。いずれの分野を学ぶにしても，単なる言語習得ではなく，外国語を学ぶ意義を深く考え，その奥にある文化，風土，思考方法，外国語学習方法などに対する視野を広げることを，もう一つの目的とする。

授業内容

クラス指定，再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

履修の注意点

明治大学，或いは政治経済学部の外国語教育は全体としてバランスが取れるように構成されている。当学部の英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，英語Ⅳの授業の他にも，以下の授業やプログラムを履修したり参加することが可能である。

1）学部間共通外国諸科目：詳しくは配布された「学部間共通外国語シラバス」を参照のこと，英語については英会話科目が中心である
2）本学部独自のACE（Advanced Communicative English）プログラム：1クラス15人以下のコミュニケーション能力を重視した少人数授業を履修し，プレゼンテーションなどの能力も養い，ACE修了証を獲得することも，条件を満たせば可能である。（詳しくは，4月のACEガイダンスに出席し，シラバス，政治経済学部HP（教育の特色の中にあるACEページ）を参照すること）。
3）実践的英語力強化プログラム（仮称）：各種英語試験受験のサポート，オンライン英会話講座，語学留学講座などがオファーされている。今年度受講可能な講座や申し込み時期，方法については，http://meiji-seikei-ghrd.com/original/english.html他，掲示板などの情報に常に注意すること。
4）その他にも，英語科目ではないが，専門科目を英語で学ぶトップスクールセミナー（国内留学体験），留学生サポーター制度，留学準備講座など，英語を介してオファーされる各種講義や受け入れ留学生との交流機会等があるので，掲示等に注意し，積極的に履修，あるいは参加すること。

いずれにせよ，履修に関して特に留意してほしいことは，受身の学習を脱却して，英語を学習の対象としてみるだけでなく，「英語を使って学ぶ」気持ちになることである。日頃から，書物，新聞，英語を母国語とする人との会話など，英語を実生活で積極的に使うように心がけよう。本学部の学生には，留学に積極的にチャレンジして欲しいが，そうでなくとも，実際，社会に出てから，思わぬ時に国際的な場面で学んだり，働いたりする＜巡り合わせ＞に，会うものである。（30代，40代の卒業生が一番よく口にする言葉は，学生時代に「もっと英語を」そして「もっと教養を」身に付けておけばよかった，というものである。〔教養があれば応用が効く，とのこと〕）

準備学習の内容

教科書

クラス指定，再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

参考書

クラス指定，再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

課題に対するフィードバックの方法

クラス指定，再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

成績評価の方法

それぞれの担当教員によって異なる。クラス指定，再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

その他

科目ナンバー：—

ドイツ語	1単位
	1～4年次

【教　　授】田村久男
【准 教 授】飯嶋曜子
【専任講師】永川　聡
【兼任講師】石原竹彦、オストヴァルト・イエンス、正月　瑛、野口　健、橋本由紀子、阪東知子、平山茂樹

授業の概要・到達目標

ABC（アー・ベー・ツェー）の発音から接続法までのドイツ語文法の基礎と簡単なドイツ文の理解から始めて，中級読本が読めるようになるまでを目指す。同時にドイツ語圏諸国をはじめとしてヨーロッパの歴史，社会，文化，地理などにも目を向ける。

2年次では文法事項を再確認しながら，ドイツ語圏（ドイツ，オーストリア，スイス）の歴史，社会，文化，地理，風俗，生活，文学などに関するものを読むが，各人の関心に応じて，さまざまなジャンルのドイツ語（必ずシラバスを参照のこと）を読む中級ドイツ語，独検対応のためのドイツ語，ドイツ語会話のなかから選ぶことができる。

その他，学部間共通外国語科目としてドイツ人講師による会話I，II，IIIも設置されている。また，夏休み中に和泉キャンパスでネイティヴ・スピーカーによるドイツ語夏期集中講座も開催される。夏と冬の年2回，ドイツ語技能検定試験（独検）も実施されており，これらは学部の語学の単位に換算することができるので，シラバスによく目を通すこと。

授業内容

1年次では基本文法を学ぶとともに，やさしい読本を使って標準的な表現に親しむ。文法も講読もほぼ同じ章立てになっているので，対応させながら学ぶことができる。文法，講読ともに前期をドイツ語I，後期をドイツ語IIといい，ドイツ語Iでは，発音から始め，動詞系列では現在形を，名詞系列では格変化を中心にして，文を作るための基本的な語順を学ぶ。ドイツ語IIではさまざまな時称，助動詞，関係文，受動，最後に英語の仮定法に似た接続法を学び，ドイツ文の基本構造（枠構造）を理解する。
クラス指定授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

履修の注意点

ドイツ語会話I，II，III（学部間共通外国語科目）の履修を薦めたい。専門科目の中にもドイツ語圏の政治，経済，歴史，文化を対象とする科目がある。

準備学習の内容

教科書

クラス指定授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

参考書

クラス指定授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。
【参考文献】
（1） 独和辞典。特に指定しないので，担当教員の説明を聞いて購入するとよい。
（2） ドイツの政治，経済，社会，文化などについての文庫本や新書なども読むとよい。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の考え方や方針によって異なる。
クラス指定授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

成績評価の方法

担当教員の考え方や方針によって異なる。
クラス指定授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。

その他

科目ナンバー：—

フランス語	1単位
	1～4年次

【教　　授】前田更子
【准 教 授】佐久間寛
【専任講師】佐々木菜緒
【兼任講師】久保みゆき、陣野俊史、髙橋駿仁、中島万紀子、藤井宏尚、ベルテ・ディデエ、宮川慎也、森真太郎、山上昌子、山出裕子

授業の概要・到達目標

初めてフランス語に接する学習者を対象としています。新たな言語との出会いによって，それまで自分が作り上げてきた世界観や社会の見方が大きく揺さぶられることは少なくありません。2年間のフランス語の授業を通して，フランス語を習得するだけでなく，フランコフォニー（フランス語使用圏）の文化，社会に関する知識を深めていきましょう。

1年次では，発音や文法の初歩を学び，最終的にはフランス語の文章を正確に音読し，平易な文章を理解し，日常的な事柄について最低限の意志を相手に伝えられるようにします。

2年次の授業での具体的な目標は，多様なジャンルのフランス語の原書を辞書を用いて理解し，平易なフランス語でコミュニケーションを取れるようになることです。

授業内容

1年次の授業においては，フランス語の総合力を養う導入教育をおこないます。春学期の2コマ（フランス語I），および秋学期の1コマ（フランス語II）では，基礎文法の習得を主な目的とした授業が展開されます。1年次秋学期に設置されているもう1コマの授業（フランス語II）については，担当教員の裁量にゆだねられていますが，それらの授業ではおおむね，既習文法事項の復習をしながら，簡単な文章の読解，日常表現を中心とした会話の練習，身近な話題に関する作文などに力が注がれ，学習者がフランス語に慣れ親しむように工夫されています。

2年次においては，未習の文法項目を学びつつ，辞書を片手にさまざまなジャンルの文章を読み理解する能力，また，語彙力を強化しながら伝えたいことを文章化し，話す能力を養います。さらに，DVDなどの視覚教材を用いた授業では，フランスだけでなく，スイスやベルギー，ケベック，アフリカ諸国といったフランコフォニーの多様で豊かな文化に触れる機会もあるでしょう。

具体的な授業の進め方については，それぞれの授業に関するシラバス，および担当教員からの説明で確認してください。

なお，政治経済学部では，「実用フランス語技能検定試験」の受験を奨励しています。習熟度の確認のため，フランス語運用能力の向上のためにぜひ利用してください。詳しくは，授業時に担当教員に相談してください。

クラス指定授業については，Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。

2年次以上の選択フランス語の授業については，「選択外国語シラバス」で確認すること。

履修の注意点

学部間共通科目として「フランス語会話」と「夏期集中講座」が用意されています。より多くの学びの機会を得たい人，会話力を身につけたい人には，学部間共通外国のシラバスにも目を通すことを勧めます。

語学の習得には日々の努力の積み重ねが大切です。学習内容を消化し，自分の中に定着させるためには，とりわけ復習が重要になるでしょう。なお，毎時間新しいことを学んでいきます。やむを得ず欠席する場合には必ず自習するようにしてください。

準備学習の内容

クラス指定授業については，Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。

2年次以上の選択フランス語の授業については，「選択外国語シラバス」で確認すること。

教科書

クラス指定授業については，Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。

2年次以上の選択フランス語の授業については，「選択外国語シラバス」で確認すること。

参考書

クラス指定授業については，Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。

2年次以上の選択フランス語の授業については，「選択外国語シラバス」で確認すること。

課題に対するフィードバックの方法

クラス指定授業については，Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。

2年次以上の選択フランス語の授業については，「選択外国語シラバス」で確認すること。

成績評価の方法

クラス指定授業については，Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。

2年次以上の選択フランス語の授業については，「選択外国語シラバス」で確認すること。

その他

科目ナンバー：—

中国語	1単位
	1～4年次

【教　　授】本間次彦、丸川哲史、羽根次郎
【准 教 授】—
【兼任講師】阿部由美子、石黒ひさ子、伊藤英人、宇都宮美生、江崎隆哉、蛯名良亮、大西陽子、蓋　暁星、郭　　偉、河田聡美、牛　黎涛、喬　志航、近藤光雄、斉　金英、菅野敦志、髙橋美千子、中本梅衣、花井みわ、本田親史、将邑劍平、楊　川力、劉　　娟

授業の概要・到達目標

発音・文法の初歩から始めて，中国語の基礎的な表現を習得すること，平易な文章を理解できる能力を養うことが目ざされる。さらに，応用的な表現能力と読解能力の養成を目標としていく。

授業内容

「音」で表わされる「ことば」を学ぶという点から見て，中国語の学習に当たって最も大切なのは，正確な発音とその表記である「ピンイン」（ローマ字による中国語表記法）を習得することである。一方，通常の中国語の文章を読むためには，逆に，発音とピンインのマスターを前提とした，ピンイン離れ（日本語で言えば，振り仮名離れに相当する）が必要となる。二年間の授業は，このピンイン離れの入り口のレベルに到達するまでの課程と位置づけることができる。

〔1年次〕基礎的な発音練習から始め，基本文法を学びながら，簡単な会話ができ，やさしい文章が理解できる力を養う。日本人教員が担当する授業では主に，ピンイン表記および語法面の理解に重点を置き，ネイティブ教員が担当するクラスでは主に，音声面の練習に重点を置く。

詳しい授業内容は，Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

〔2年次〕基礎的な表現や文法事項を復習しつつ，応用的な表現能力と読解能力をバランスよく身につけることを目ざす。

この他，より高度の中国語運用能力の習得を希望する学生向けに，3年次以降にも特別のクラスが設けられている。

2年次以降の選択外国語は「選択外国語シラバス」もしくは Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

履修の注意点

学部間共通外国語科目の中に，「中国語会話」や「夏期集中講座」などが設置されている。話す力，聞く力を特に身につけようと望む者には，履修を薦めたい。

準備学習の内容

教科書

クラス指定授業は，Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

選択中国語は，「選択外国語シラバス」もしくは Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

中国語の辞書としては，初級向けに『プログレッシブ中国語辞典』（小学館），『クラウン中日辞典』（三省堂）などがある。また，より本格的な学習を目ざす者のためには，『中日辞典』（小学館），『講談社中日辞典』，『白水社中国語辞典』，『東方中国語辞典』（東方書店），『中日大辞典』（大修館書店）などがある。

参考書

担当教員の指示に従うこと。

課題に対するフィードバックの方法

クラス指定授業は，Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

選択中国語は，「選択外国語シラバス」もしくは Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

成績評価の方法

担当教員の考え方や方針によって異なる。

クラス指定授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

選択中国語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」もしくは Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。

その他

科目ナンバー：—

スペイン語	1単位
	1～4年次

【准 教 授】仮屋浩子、内田兆史、武田和久
【兼任講師】有田美保、石原 セルヒオナバロポロ、稲森広明、遠藤健太、コルメナ ロメロ ロベルト、佐藤麻里乃、鈴木正士、
セグ スビラ ホセ オリオル、田中 恵、バリエントス ロドリゲス、ブルゴス ホアン、福原弘識、松井賢治、松尾俊輔、
メンドサ オスカル、モラレス、ロドリゲス ベニト、渡辺有美

授業の概要・到達目標

初めてスペイン語に触れる学生を対象に，文字と発音を学ぶところから始めます。スペイン語で，1．最低限の意志を伝える，2．辞書をひけるようになる，3．ある程度のコミュニケーションを成立させる，といった段階を経て，2年間学んだのちには，自分の感情を含め，身の回りのことについて表現し，相手のことも理解できるようになることを目指します。また，言語と並行してスペイン語圏の文化とその背景についても学習します。広大なスペイン語圏を旅行する際に，人と知り合い，自分のことを話し相手の話を聞けるようになること，辞書を片手に初歩的な文章の読解ができるようになることを目指します。

1級から6級までの6段階に分けられたスペイン語技能検定を例に取れば，最初の学期で6級，1年～1年半かけて5級，2年を終えて4級程度の取得を目標にします。さらに半年から一年努力すれば，EUが設定しているヨーロッパ言語共通参照枠のA2を目指すこともできるでしょう。

授業内容

スペイン語は，綴りと発音の関係が明確で，比較的発音しやすいので，最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用，名詞／形容詞の性数一致など，覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も，発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し，一歩一歩着実に進んでいけるように取り組んでください。

さらに，簡単な読解，身近な話題に関する作文，聞き取り，日常表現を中心にした会話練習などを取り入れながら，学んだ文法を大きく広げていきます。また，言語習得には文化的背景も不可欠なので，二十カ国におよぶスペイン語圏の多様な文化に触れる機会も与えられることでしょう。具体的な授業の進め方その他については担当教員の説明およびそれぞれのシラバスを確認してください。

【1年次】

おもに文法学習を中心とするクラスと，聞いたり話したりする練習を中心とするクラスがあります。文法あっての凡用性と，口頭あっての実用性，そのふたつをバランスよく学んでいきます。前期には現在形を，後期には過去形を中心に学び，スペイン語の基礎を築きます。

【2年次】

既習文法事項を復習・再確認しながら，未習の基礎文法を仕上げます。言いたいことを表現する技術，書かれていること・言われていることを理解するコツを身につけたり，語彙を強化したりします。スペイン語で友人と話をすること，辞書さえあればスペイン語の文章を理解できるようになること，スペイン語検定4級合格を目指した文法事項の習得を到達目標とします。

意欲的な学習をして「初習外国語（という卒業単位）」の域を超えた習得を目指してください。

履修の注意点

学部間共通外国語のなかにもスペイン語が設置されています。より多くの学びの機会を得たい，会話力を身につけたい，復習がしたい，といったさまざまな活用法があります。

準備学習の内容

教科書

クラス指定授業は，Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。

参考書

クラス指定授業は，Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。

課題に対するフィードバックの方法

クラス指定授業は，Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。

成績評価の方法

クラス指定授業は，Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。
選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。

その他

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：剣道場
第１回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第２回　縄跳び①
第３回　縄跳び②
第４回　ユニホック①
第５回　ユニホック②
第６回　ショートテニス①
第７回　ショートテニス①
第８回　レクリエーションスポーツ①
第９回　レクリエーションスポーツ②
第10回　レクリエーションスポーツ③
第11回　ミニサッカー①
第12回　ミニサッカー②
第13回　ミニサッカー③
第14回　まとめ
※内容が変更になることがあります

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に行う

成績評価の方法

平常点（60%）、態度（20%）、理解（20%）の３項目を点数化し、その合計点で評価します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　一　川　大　輔

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉体育館イースト１階：外階段を降りた先のゴルフレンジ
第１回　オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、パッティング基礎
第２回　パッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解
第３回　アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎
第４回　アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パター（バックスイングなし型）
第５回　アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パター（インパクト型）
第６回　アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パター（フォロースルー型）
第７回　ショットクロック練習（７時から５時）、パターゲーム
第８回　ショットクロック練習（９時から３時）、パターゲーム
第９回　ショットクロック練習（11時から１時）、パターゲーム
第10回　打ち出し角度を変えるためのショット練習、ショットデータの確認
第11回　各種クラブ（サンドウェッジ）でのショット練習
第12回　各種クラブ（ミドルアイアン）でのショット練習
第13回　実際のラウンドを想定した模擬ショット練習
第14回　まとめ：授業内容の総括

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となる（感染症や正式な公欠届に該当しない場合は、欠席と扱いとする：詳細はその他の項を参照）
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。

教科書

特になし

参考書

PGA　基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会）
2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

*授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。
平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%

その他

１．各種目に適切な運動着や運動靴が準備できていない場合は減点対象とする。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
実技における持参品と注意事項
① 体育受講票に貼るための証明写真（縦4cm×横3cm）を必ず準備
② 運動をするのにふさわしいスポーツウェア
（通学時の服装と区別：高校の体操服等でも可）
ゴルフグローブ（使用済のものでもよい：上達が早く、手を痛めにくいため）
③ 自宅を出た時の天候の良・不良に関わらず、実技用の服と運動靴を準備（酷い雨天では屋内施設での実技となる）
更衣は必ず更衣室にておこなうこと（イースト１階の更衣室：外階段を降りたゴルフ練習レンジの隣にある）
○既往症や障害（身体的・精神的）について
１年生の学生で大きな怪我や障害によりクラスでの授業が難しい場合はcクラス（実技内容に配慮した授業）への移動も考慮できます。
事前に担当教員に相談してください。
○「学校において予防すべき感染症」での欠席および公欠（課外活動等）の扱い
インフルエンザやコロナなど「学校において予防すべき感染症」で欠席した場合については、病院を受診する際に本学が指定した「罹患・治癒証明」を持参し、次回出席時に提出してください。以下のサイトにフォーマットがありますので、確認をして下さい。
https://www.meiji.ac.jp/certificate/mkmht0000007ha97.html
課外活動や学会発表等での公欠は部長（教授等）や所属学部からの正式な依頼を示した証明書（エビデンス）がある場合に考慮を検討しますが、必ず事前事後に相談するようにして下さい。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。

受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第2回：体力測定（トレーニング前　その1）
第3回：体力測定（トレーニング前　その2）
第4回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義）
第5回：フィットネスルーム安全講習
第6回：各自のトレーニング
第7回：各自のトレーニング
第8回：各自のトレーニング
第9回：各自のトレーニング
第10回：各自のトレーニング
第11回：体力測定（トレーニング状況の中間評価）
第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング
第13回：心肺蘇生法（CPR）実習
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

1．運動学演習Iは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
2．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4．授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。
5．運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。
6．4月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切なトレーニング効果が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況 30%

その他

1．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
2．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
4．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5．上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　梅　澤　秋　久

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第1回：オリエンテーション（受講上の留意点についてのガイダンス）
第2回：パターゴルフをやってみよう（チカラの調整とパターの操作）
第3回：パターの操作に慣れよう（傾斜を計算してゴルフボールを転がそう）
第4回：パターゴルフ大会をしよう（Par2の5つのホールでスコアを競おう）
第5回：長いホールのパターゴルフ大会をしよう
第6回：短いクラブでショットに挑戦しよう（グリップの握り方、アドレスの取り方）
第7回：短いクラブでショットの型を学ぼう（ICTを活用して、見本とのずれ：問題点を発見しよう）
第8回：狙った方向にボールを飛ばそう
第9回：ライ角通りにボールを上げよう
第10回：自身のスウィングの特徴を知ろう（ICTを活用し、他者との違いを発見しよう）
第11回：下半身始動のスウィングを身につけよう
第12回：ミドルアイアンでボールを打とう
第13回：ミドルアイアンでボールを飛ばそう
第14回：本授業のまとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

基礎的な身体活動を日常的に実践する。

教科書

特になし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の概要・到達目標および授業内容に基づき、実技課題や授業への取り組みに対して、授業中に口頭での助言や示範を行う。あわせて、準備学習や振り返りの内容について適宜講評を行い、次回の学習や自己の課題改善につなげる。これらのフィードバックは、成績評価の観点の理解を促すことを目的とする。

成績評価の方法

授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス(30%)

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　蛭　間　栄　介

授業の概要・到達目標

実施種目：水泳・水球・シュノーケリング
　本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：プール
第１回　講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。
第２回　水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。
第３回　フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。
第４回　スキンダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。
第５回　演習：救急処置法について学習し、説明できる。
第６回　クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第７回　背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第８回　平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第９回　バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第10回　水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。
第11回　水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。
第12回　水球の審判法について学習し、説明できる。
第13回　水球の戦術について学習し、説明できる。
第14回　講義２：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．準備学習として事前にWebにアップロードしている資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。

準備学習の内容

事前にWeb上にアップロードしてある資料を読み、授業内容を理解しておいてください。
また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。

教科書

　使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。

参考書

「水泳指導教本」（財団法人日本水泳連盟　編、大修館書店）
「スイミングファステスト」（高橋繁浩、鈴木大地　監訳、ベースボールマガジン社）
「潜水医学入門」（池田知純　著、大修館書店）
「アクアエクササイズ指導教本」（深代泰子、尾陰由美子　監修、公益財団法人日本フィットネス協会）

課題に対するフィードバックの方法

レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。

成績評価の方法

平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
３．第１回目の授業には必ず出席してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　蛭　間　栄　介

授業の概要・到達目標

実施種目：水泳・水球・シュノーケリング
　本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：プール
第１回　講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。
第２回　水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。
第３回　フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。
第４回　スキンダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。
第５回　演習：救急処置法について学習し、説明できる。
第６回　クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第７回　背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第８回　平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第９回　バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第10回　水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。
第11回　水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。
第12回　水球の審判法について学習し、説明できる。
第13回　水球の戦術について学習し、説明できる。
第14回　講義２：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．準備学習としてWebにアップロードしてある資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。

準備学習の内容

事前にWeb上にアップロードしてある資料を読み、授業内容を理解しておいてください。
また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。

教科書

　使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。

参考書

「水泳指導教本」（財団法人日本水泳連盟　編、大修館書店）
「スイミングファステスト」（高橋繁浩、鈴木大地　監訳、ベースボールマガジン社）
「潜水医学入門」（池田知純　著、大修館書店）
「アクアエクササイズ指導教本」（深代泰子、尾陰由美子　監修、公益財団法人日本フィットネス協会）

課題に対するフィードバックの方法

レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。

成績評価の方法

平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
３．第１回目の授業には必ず出席してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　梅　澤　秋　久

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：卓球場
第1回　オリエンテーション　（受講上の留意点についてのガイダンス）
第2回　からだを使ったアイスブレイク　（仲間づくりをしよう）
第3回　ネット型ボール運動の特性について　（卓球の面白さに気づこう）
第4回　ネット型ボール運動としての「温泉卓球」（相手へのケアをもった卓球を心がけよう）
第5回　ネットを挟んでラリーを続けよう　（たくさんラリーして相手コートに入れる感覚を磨こう）
第6回　卓球のボールに回転をかけよう　（ドライブの面白さを探ろう）
第7回　卓球のボールに回転をかけよう　（「カット」したボールの行方を探ろう）
第8回　卓球のボールをコースに打ち分けよう　（狙ったところに打ってみよう）
第9回　バックハンドでも打ってみよう　（どのコースのボールも返せるようになろう）
第10回　サーブで相手を崩そう　（回転やコースを考えて打とう）
第11回　相手の打ちにくそうなところを狙おう　（シングルス大会）
第12回　協働でラリーをしよう　（ダブルスに慣れよう）
第13回　協力して相手の打ちにくそうなところを狙おう　（ダブルス大会）
第14回　本授業のまとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

基礎的な身体活動を日常的に実践する。

教科書

特になし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の概要・到達目標および授業内容に基づき、実技課題や授業への取り組みに対して、授業中に口頭での助言や示範を行う。あわせて、準備学習や振り返りの内容について適宜講評を行い、次回の学習や自己の課題改善につなげる。これらのフィードバックは、成績評価の観点の理解を促すことを目的とする。

成績評価の方法

授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス(30%)

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　一　川　大　輔

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉体育館イースト1階：外階段を降りた先のゴルフレンジ
第1回　オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、バッティング基礎
第2回　バッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解
第3回　アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎
第4回　アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パター（バックスイングなし型）
第5回　アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パター（インパクト型）
第6回　アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パター（フォロースルー型）
第7回　ショットクロック練習（7時から5時）、パターゲーム
第8回　ショットクロック練習（9時から3時）、パターゲーム
第9回　ショットクロック練習（11時から1時）、パターゲーム
第10回　打ち出し角度を変えるためのショット練習、ショットデータの確認
第11回　各種クラブ（サンドウェッジ）でのショット練習
第12回　各種クラブ（ミドルアイアン）でのショット練習
第13回　実際のラウンドを想定した模擬ショット練習
第14回　まとめ：授業内容の総括

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる
(感染症や正式な公欠届に該当しない場合は、欠席と扱いとする：詳細はその他の項を参照)
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．赤い靴ひもの室内用運動靴を用意してください。

準備学習の内容

授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。

教科書

特になし

参考書

PGA　基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会）
2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

*授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。
平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%

その他

1．各種目に適切な運動着や運動靴が準備できていない場合は減点対象とする。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
実技における持参品と注意事項
① 体育受講票に貼るための証明写真（縦4cm×横3cm）を必ず準備
② 運動をするのにふさわしいスポーツウェア
（通学時の服装と区別：高校の体操服等でも可）
ゴルフグローブ（使用済のものでもよい：上達が早く、手を痛めにくいため）
③ 自宅を出た時の天候の良・不良に関わらず、実技用の服と運動靴を準備（酷い雨天では屋内施設での実技となる）
更衣は必ず更衣室にておこなうこと（イースト1階の更衣室：外階段を降りたゴルフ練習レンジの隣にある）
○既往症や障害（身体的・精神的）について
1年生の学生で大きな怪我や障害によりクラスでの授業が難しい場合はcクラス（実技内容に配慮した授業）への移動も考慮できます。
事前に担当教員に相談してください。
○「学校において予防すべき感染症」での欠席および公欠（課外活動等）の扱い
インフルエンザやコロナなど「学校において予防すべき感染症」で欠席した場合については、病院を受診する際に本学が指定した「罹患・治癒証明」を持参し、次回出席時に提出してください。以下のサイトにフォーマットがありますので、確認をして下さい。
https://www.meiji.ac.jp/certificate/mkmht0000007ha97.html
課外活動や学会発表等での公欠は部長（教授等）や所属学部からの正式な依頼を示した証明書（エビデンス）がある場合に考慮を検討しますが、必ず事前事後に相談するようにして下さい。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール
第１回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第２回　フットサル①
第３回　フットサル②
第４回　バレーボール①
第５回　バレーボール②
第６回　バレーボール③
第７回　バドミントン①
第８回　バドミントン②
第９回　バドミントン③
第10回　キンボール①
第11回　キンボール②
第12回　ユニホック①
第13回　ユニホック②
第14回　まとめ
※内容は変更になることがあります

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理につとめてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に行う

成績評価の方法

授業への取り組み（50%）・意欲や態度（30%）・理解（20%）で総合的に判断します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　齋　藤　　実

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール　教材：バドミントン
第１回：イントロダクション（運動学を学修する意義、リスクマネジメント）
第２回：導入（シャトル、ラケットに慣れ、模範演技によって競技特性を理解する）
第３回：技能実習I（グリップ・ラケットワーク・フットワークの理解）
第４回：技能実習II（基本ストローク：サーブ・ヘアピン・ドロップ）
第５回：技能実習III（基本ストローク：ドライブ・ハイクリアー・スマッシュ）
第６回：技能実習IV（コンビネーションプレー、簡易ラリー）
第７回：シングルス簡易ゲームI（審判法の学習）
第８回：シングルス簡易ゲームII（ゲーム実習）
第９回：シングルス簡易ゲームIII（ゲームの戦略を学ぶ）
第10回：ダブルス簡易ゲームI（ゲーム実習）
第11回：ダブルス簡易ゲームII（ゲームの戦略を学ぶ）
第12回：大会実習I（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）
第13回：大会実習II（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）
第14回：大会実習III（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．服装とシューズの準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。

準備学習の内容

授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『基礎から学ぶスポーツリテラシー』高橋 健夫 (著)、大修館書店

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を取り上げて、授業内にて講評する。

成績評価の方法

平常点評価　70%：授業態度、授業への参加度（健康管理、コンディショニング）、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。
授業内評価　30%：実技評価、筆記（ルール、マナーについて）試験等を実施し、技能、理解度を評価する。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。

受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第2回：体力測定（トレーニング前　その1）
第3回：体力測定（トレーニング前　その2）
第4回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義）
第5回：フィットネスルーム安全講習
第6回：各自のトレーニング
第7回：各自のトレーニング
第8回：各自のトレーニング
第9回：各自のトレーニング
第10回：各自のトレーニング
第11回：体力測定（トレーニング状況の中間評価）
第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング
第13回：心肺蘇生法（CPR）実習
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

1．運動学演習Iは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
2．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4．授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。
5．運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。
6．4月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切なトレーニング効果が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況 30%

その他

1．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
2．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
4．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5．上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　高　梨　美　奈

授業の概要・到達目標

実施種目：ニュースポーツ、テニス、卓球
本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。
運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業概要：
これまであまり経験したことのないスポーツ（主に球技）及びラケットスポーツを通じ、スポーツの幅広さを学ぶと同時に、楽しく体を動かす場をつくるということを身をもって学びます。そのため、他者との関わりを重視し、そのプロセスを通じ、リーダーリップ、フォロワーシップ、コミュニケーションをとることを目指します。その他に、事故などに遭遇したときに躊躇せず救命活動に取り組めるよう救急救命法を学びます。
また、ストレッチや筋力トレーニングを身に付け、生涯に渡り、自ら実践できるようになることを目指します。

授業内容

使用施設:(スポーツルーム11/テニスコート/卓球場)
※教場が変更にともない、授業内容も変更になる可能性があります。
第1回：コミュニケーションゲーム（互いを知り合う）
第2回：ボールゲーム
第3回：ホッケー
第4回：キンボール
第5回：バスケットボール
第6回：テニス
第7回：テニス
第8回：テニス
第9回：テニス
第10回：救急救命法
第11回：卓球
第12回：卓球
第13回：卓球
第14回：卓球

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の**3分の2以上**の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業の内容は、変更になる場合があります。
5．受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。内履きも必ず持参して下さい。
ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。
6．自己や他者に対し危険を及ぼす行為と教員が判断した場合は、授業を見学あるいは退出していただく場合があります。

準備学習の内容

（予習）授業で行うスポーツ種目ルールおよびリスク・安全管理について理解する。
授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。
（復習）授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。
授業後はリフレクションシートを記入すること。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。
Oh-o!Meijiで紹介することがあります。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiを利用します。
質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。

成績評価の方法

1．授業参加度や積極性（70%）
①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度
などを総合的に評価します。
2．目標達成度（10%）
毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します
3．　レポート（20%）
授業を振り返り、最終日にレポートを提出する

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　竹　井　尚　也	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：メインホール
第1回：授業の説明とオリエンテーション
第2回：サッカーの基礎1
第3回：サッカーの基礎2
第4回：サッカーの応用
第5回：ドッヂビーの基礎1
第6回：ドッヂビーの基礎2
第7回：ドッヂビーの応用
第8回：バスケットボールの基礎1
第9回：バスケットボールの基礎2
第10回：バスケットボールの応用
第11回：サッカー、ドッヂビー, バスケットボールのリーグ戦1
第12回：サッカー、ドッヂビー, バスケットボールのリーグ戦2
第13回：サッカー、ドッヂビー, バスケットボールのリーグ戦3
第14回：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

サッカー、ドッヂビー, バスケットボールのルールやマナーについて調べてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックが必要な場合は、授業内もしくはOh-o! Meijiシステムを介して行います。

成績評価の方法

(a)　授業への積極的な取組み・態度　60%　(b)　理解力・技能の上達度　30%　(c)　レポート・提出物10%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
専任講師　武　田　紘　平	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：グラウンド
第1回：イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回：体ほぐし運動①
第3回：体ほぐし運動②
第4回：タグラグビー①
第5回：タグラグビー②
第6回：アルティメット①
第7回：アルティメット②
第8回：アルティメット③
第9回：フットサル①
第10回：フットサル②
第11回：フットサル③
第12回：ソフトボール①
第13回：ソフトボール②
第14回：ソフトボール③
※内容は変更になることがあります。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業に必要なウェアや靴を準備してください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に行う

成績評価の方法

平常点（60%）、態度（20%）、理解（20%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　杉　山　仁　志	

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することです。運動不足病が深刻な社会問題となっている現在、運動実践の機会および知識の獲得を教育の一環として確保されることは大学生にとって重要であり、不可欠であると考えます。健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の向上・育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール
第1講：前期授業のガイダンス
第2講：バレーボール（1）基礎技術の習得
第3講：バレーボール（2）基礎技術の応用・班分け
第4講：バレーボール（3）攻撃基礎技術の習得・ゲーム実践
第5講：バレーボール（4）攻撃基礎技術の応用・ゲーム実践
第6講：バレーボール（5）基礎技術習得確認・ゲーム実践
第7講：バレーボール（6）ゲーム実践
第8講：バドミントン（1）シングルスゲーム実践
第9講：バドミントン（2）シングルスゲーム実践
第10講：バドミバドミントン（3）ダブルスゲーム実践
第11講：バドミントン（4）ダブルスゲーム実践
第12講：バドミントン（5）ダブルスゲーム実践
第13講：バドミントン（5）団体戦ゲーム実践
第14講：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

バレーボールのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。
バドミントンのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。

教科書

特になし

参考書

コーチングバレーボール基礎編　日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）　大修館書店
バドミントン教本基礎編　日本バドミントン協会（編集）　ベースボールマガジン社

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別ついては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

（1）主に授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。
（2）平常点100％

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　杉　山　仁　志	

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することです。運動不足病が深刻な社会問題となっている現在、運動実践の機会および知識の獲得を教育の一環として確保されることは大学生にとって重要であり、不可欠であると考えます。健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の向上・育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール
第1講：前期授業のガイダンス
第2講：バレーボール（1）基礎技術の習得
第3講：バレーボール（2）基礎技術の応用・班分け
第4講：バレーボール（3）攻撃基礎技術の習得・ゲーム実践
第5講：バレーボール（4）攻撃基礎技術の応用・ゲーム実践
第6講：バレーボール（5）基礎技術習得確認・ゲーム実践
第7講：バレーボール（6）ゲーム実践
第8講：バドミントン（1）シングルスゲーム実践
第9講：バドミントン（2）シングルスゲーム実践
第10講：バドミバドミントン（3）ダブルスゲーム実践
第11講：バドミントン（4）ダブルスゲーム実践
第12講：バドミントン（5）ダブルスゲーム実践
第13講：バドミントン（5）団体戦ゲーム実践
第14講：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

バレーボールのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。
バドミントンのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。

教科書

特になし

参考書

コーチングバレーボール基礎編　日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）　大修館書店
バドミントン教本基礎編　日本バドミントン協会（編集）　ベースボールマガジン社

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別ついては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

（1）主に授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。
（2）平常点100％

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　田　中　千　晶	

授業の概要・到達目標

運動をはじめとする身体活動の具体的な方策についての知識をもつことは重要です。本授業の目的は、特に運動を含む身体活動と健康の維持・増進との関わりについて理解し、特に有酸素運動、筋力トレーニング、バランス運動、柔軟運動を安全かつ有効に実践できる知識と、自分の体力測定結果を分析し、トレーニングの原理・原則にみあったトレーニング計画を立てられるようにすることを目的とします。

体力（形態・機能: 筋力, 持久力, 柔軟性, 敏捷性）の定義、健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023、健康関連体力の測定および評価法を説明でき、自身の体力を評価し、促進するためのトレーニング方法を説明することができるようになることを到達目標とします。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　体力測定1（形態・機能）
第3回目　体力測定の妥当性・再現性, 測定結果の評価
第4回目　有酸素運動と運動強度の測定法, 柔軟運動
第5回目　心肺蘇生法（CPR）実習
第6回目　運動等の身体活動の主観的・客観的な評価法
第7回目　トレーニングの原則, 筋力トレーニングの方法
第8回目　トレーニング企画の実施1
第9回目　トレーニング企画の実施2
第10回目　トレーニング企画の実施3
第11回目　トレーニング企画の実施4
第12回目　トレーニング企画の実施5
第13回目　体力測定2（形態・機能）
第14回目　測定結果比較・分析、まとめ

履修の注意点

1．本授業には、実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

半期に数回、個人やグループ単位で課題提出があります。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位取得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要になります。また課題を数回出します。成績は、以下の点から総合的に評価します：授業への参加度（60%）, グループ活動への貢献度（20%）, 課題評価（20%）

その他

運動に適した服装や靴を着用し、受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
特任講師　竹　崎　一　真	

授業の概要・到達目標

現在、世界保健機構（WHO）は、「健康」を「単に病気あるいは虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に良好な状態（全人的健康）」として定義している。アメリカの医学者ハルバート・ダンはこの定義をさらに深め、より良い状態にするために、自己の身体への気づきを深め、QOL（生活の質）を追求する積極的な健康法である「ウェルネス」を提唱した。
本授業では、ダンが提唱する「ウェルネス」を実践的に学ぶことに加えて、身体運動やスポーツの実践に不可欠な「身体の多様性」や「他者との共生」についての理解も高めていくことを目標とする。多様性に対する理解の高まりとともに、ユニバーサルデザイン（文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した設計）への取り組みが重要視されている今日、「ウェルネス」にもそうした考え方を導入することが求められている。そのため授業では、自己の身体への気づきを高めることを目的とした身体運動とスポーツの実践だけでなく、身体の多様性を学ぶことを目的とした障害者スポーツの実践や、他者との共生についての理解を深めるためのスポーツのルール開発を実践する。

授業内容

本授業では、いわゆる「競技スポーツ」ではなく、ライフキネティックやパラスポーツ、ニュースポーツなど、誰でも能力に関係なく参加できるスポーツ中心に行う。
＜授業場所：SR11＞
第1回：イントロダクション
第2回：ライフキネティック①
第3回：ライフキネティック②
第4回：ストレングス＆コンディショニング
第5回：ユニホッケー①
第6回：ユニホッケー②
第7回：パターゴルフ
第8回：ドッチビー
第9回：ペタンク／ボッチャ
第10回：ユニホッケー③
第11回：フットサル
第12回：ブラインドサッカー
第13回：ライフキネティック③
第14回：まとめ（座学）
※授業内容は、状況に応じて変更することがあります。

履修の注意点

運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズを使用すること。体調管理を徹底すること。

準備学習の内容

日常的な運動習慣を身につけましょう。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業時に行います。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢（60点）、クラスメイトとの関わり方（20点）、期末レポート（20点）から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　緒　方　貴　浩

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール
第１回：イントロダクション（授業の概要と目的・授業計画の説明、履修上の注意、成績評価方法などの説明）
第２回：バレーボール①（基礎技術の習得）
第３回：バレーボール②（三段攻撃の習得に向けてその①、ゲーム実践）
第４回：バレーボール③（三段攻撃の習得に向けてその②、ゲーム実践）
第５回：バレーボール④（ゲーム実践）
第６回：バドミントン①（基礎技術の習得）
第７回：バドミントン②（シングルスゲーム実践）
第８回：バドミントン③（ダブルスゲーム実践①）
第９回：バドミントン④（ダブルスゲーム実践②）
第10回：フットサル①（基礎技術の習得）
第11回：フットサル②（連携からゴールを狙う）
第12回：フットサル③（ゲーム実践①）
第13回：フットサル④（ゲーム実践②）
第14回：まとめと振り返り
※講義の内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．授業に必要なウエアや室内シューズを準備してください。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段から自己管理（栄養、睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにしてください。
また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング法についてインターネットや図書を利用し、知識を積み重ねてください。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、必要に応じて授業内またはOh-o!Meijiシステムを通じて行います。

成績評価の方法

成績は、以下の観点から総合的に評価する。
１．実践点（60%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢）
２．理解点（20%）：幅広い教養としての知識・理解、レポート（提出状況、内容など）
３．技能達成度（20点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　今　野　和　志

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：グラウンド（和泉）
第１講　イントロダクション（授業計画の説明、評価について）
第２講　サッカー①（ルールとマナー、キック）
第３講　サッカー②（トラップ）
第４講　サッカー③（ドリブル）
第５講　サッカー④（ボールポゼッション、ゲーム）
第６講　サッカー⑤（リーグ戦）
第７講　ソフトボール①（ルールとマナー、スローイング）
第８講　ソフトボール②（キャッチング）
第９講　ソフトボール③（バッティング）
第10講　ソフトボール④（フィールディング、ゲーム）
第11講　ソフトボール⑤（リーグ戦）
第12講　アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム）
第13講　アルティメット②（リーグ戦）
第14講　講義のまとめ
*講義の内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

事故や怪我を予防するため、前日に充分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようこころがけてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

本授業は実技科目であるため、適宜授業内にフィードバックします。

成績評価の方法

授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
教授　後　藤　光　将	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：テニスコート
第1回　ガイダンス
第2回　送球マシーンを用いた練習（フォアハンドストローク）
第3回　送球マシーンを用いた練習（バックハンドストローク）
第4回　送球マシーンを用いた練習（フォア・バックハンドストローク）
第5回　送球マシーンを用いた練習（ボレー）
第6回　サービス、スマッシュ
第7回　ショートラリー、ミニゲーム（シングルス）
第8回　ショートラリー、ミニゲーム（3人vs3人）
第9回　サービスvsリターン、ミニゲーム（3人vs3人）
第10回　テニスの歴史・ルール・マナー
第11回　サービスvsリターン、ダブルスゲーム
第12回　サービスvsリターン、ダブルスゲーム
第13回　サービスvsリターン、ダブルスゲーム
第14回　講義（まとめ）

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

テニスのルールやマナーについて事前に調べてください。健康に関する情報収集を常に心懸けてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのレポート機能を用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加度（40%）、平常点（30%）、期末レポート（30%）

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉
1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
専任講師　武　田　紘　平	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館1階プール
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　水慣れ、泳力測定
第3回　クロール1（キック・プル）
第4回　クロール2（コンビネーション）
第5回　背泳ぎ1（キック・プル）
第6回　背泳ぎ2（コンビネーション）
第7回　平泳ぎ1（キック・プル）
第8回　平泳ぎ2（コンビネーション）
第9回　バタフライ1（キック・プル）
第10回　バタフライ2（コンビネーション）
第11回　個人メドレー
第12回　スキンダイビング
第13回　水球（パス・ドリブル・シュート）
第14回　水球（ゲーム）、授業のまとめ
※内容は変更になることがあります

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

1. 授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。
2. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に行います。

成績評価の方法

授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　佐　藤　伸一郎

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

第１講　前期授業のガイダンス・講義
第２講　ラケットとグリップについての説明、フォアハンド練習
第３講　バックハンド練習、ロング・ショートの打ち分け
第４講　各種ショットの打ち分けとシングルス・ルールの理解
第５講　シングルス・ゲームのグループ分け
第６講　シングルス・ゲーム実践（１）
第７講　シングルス・ゲーム実践（２）
第８講　ダブルス・ルールの理解とペア分け
第９講　ダブルス・ゲーム実践（１）
第10講　ダブルス・ゲーム実践（２）
第11講　ダブルス・ゲーム実践（３）
第12講　団体戦ゲーム実践（１）
第13講　団体戦ゲーム実践（２）
第14講　まとめ（実技試験含む）

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

１．ゲームのルール（シングルスとダブルス）を文献で理解しておくこと。できれば事前に実際にゲームを経験しておくと理解がスムースになります。
２．準備体操が自分でできるようにしておくこと。
３．自宅でストレッチをする、通学時に駅１区間はウオーキングするなど授業だけでなく週に２～３回は意識的に身体を動かすようにしましょう。

教科書

特に指定しません。必要な資料は授業中に配布します。

参考書

特に指定しません

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績は総合的な観点（平常点50%、各自の取り組み姿勢25%、実技試験25%）から評価されます。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　石　渡　貴　之

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第１回：ガイダンス（授業の目的、内容、注意点の確認等）、ゴルフの特性、ルール、マナー
第２回：クラブの握り方、姿勢、スイングチェック、スイング撮影
第３回：スイング確認、基本スイングの習得、ショートアイアン練習（SW、PW）
第４回：基本スイングの習得、ショートアイアン練習（SW、PW）アプローチショットゲーム①
第５回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、アプローチショットゲーム ②
第６回：グループ演習課題打合せ、パター練習、ミドルアイアン練習（9I～7I）
第７回：グループ課題発表①、パター練習、ミドルアイアン練習（9I～7I）
第８回：グループ課題発表②、パター練習、ロングアイアン練習（6I～5I）
第９回：グループ課題発表③、パターゴルフゲーム①
第10回：グループ課題発表④、ドライバー、フェアーウェイウッド練習
第11回：グループ課題発表⑤、ドライバー、フェアーウェイウッド、アイアン練習、アプローチショットゲーム ③
第12回：グループ課題発表⑥、ドライバー、フェアーウェイウッド、アイアン、ショートアイアン練習
第13回：グループ課題発表⑦、パターゴルフゲーム②、スイング試験
第14回：まとめ、学期末レポート作成

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-o! Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

教科書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で直接フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度（60%）、技術の習熟度（20%）、グループ課題発表（10%）、学期末レポート（10%）

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
３．授業中にガムを噛む、または飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。
４．受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。
上記の点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　今　野　和　志

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：グラウンド（和泉）
第1講　イントロダクション（授業計画の説明、評価について）
第2講　サッカー①（ルールとマナー、キック）
第3講　サッカー②（トラップ）
第4講　サッカー③（ドリブル）
第5講　サッカー④（ボールポゼッション、ゲーム）
第6講　サッカー⑤（リーグ戦）
第7講　ソフトボール①（ルールとマナー、スローイング）
第8講　ソフトボール②（キャッチング）
第9講　ソフトボール③（バッティング）
第10講　ソフトボール④（フィールディング、ゲーム）
第11講　ソフトボール⑤（リーグ戦）
第12講　アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム）
第13講　アルティメット②（リーグ戦）
第14講　講義のまとめ
*講義の内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

事故や怪我を予防するため、前日に充分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようこころがけてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

本授業は実技科目であるため、適宜授業内にフィードバックします。

成績評価の方法

授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　田　中　千　晶

授業の概要・到達目標

身体不活動が原因となる非感染性疾患が、国際的に深刻な社会問題となっています。心身共に健康で、かつ社会的に良好な生活をする上で、運動をはじめとする身体活動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識は重要です。本科目の目的は、履修者間でコミュニケーションを取りながら、様々な遊び、運動・スポーツの体験を通じて、生涯に亘って身体活動が実践できる資質の育成を目指します。

体力（形態・機能）、身体活動・座位行動の定義、健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023を説明でき、様々な遊び、運動・スポーツのルールを理解し、仲間と協力して楽しめるようになることを到達目標とします。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　体力測定（形態・機能）
第3回目　有酸素運動と運動強度の測定法,ストレッチング
第4回目　キンボール：大玉をつかったボールゲーム
第5回目　モルック
第6回目　運動等の身体活動の主観的・客観的な評価法
第7回目　ペタンク
第8回目　インディアカ
第9回目　レクリエーション企画の立案
第10回目　レクリエーション企画の実施1
第11回目　レクリエーション企画の実施2
第12回目　レクリエーション企画の実施3
第13回目　レクリエーション企画の実施4
第14回目　まとめ

履修の注意点

1．本授業には、実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

半期に数回、個人やグループ単位で課題提出があります。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位取得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要になります。また課題を数回出します。成績は、以下の点から総合的に評価します：授業への参加度（60%），グループ活動への貢献度（20%），課題評価（20%）

その他

運動に適した服装や靴を着用し、受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　齋　藤　　実	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上 、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール　教材：バドミントン
第1回：イントロダクション（運動学を学修する意義、リスクマネジメント）
第2回：導入（シャトル、ラケットに慣れ、模範演技によって競技特性を理解する）
第3回：技能実習I（グリップ・ラケットワーク・フットワークの理解）
第4回：技能実習II（基本ストローク：サーブ・ヘアピン・ドロップ）
第5回：技能実習III（基本ストローク：ドライブ・ハイクリアー・スマッシュ）
第6回：技能実習IV（コンビネーションプレー、簡易ラリー）
第7回：シングルス簡易ゲームI（審判法の学習）
第8回：シングルス簡易ゲームII（ゲーム実習）
第9回：シングルス簡易ゲームIII（ゲームの戦略を学ぶ）
第10回：ダブルス簡易ゲームI（ゲーム実習）
第11回：ダブルス簡易ゲームII（ゲームの戦略を学ぶ）
第12回：大会実習I（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）
第13回：大会実習II（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）
第14回：大会実習III（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．服装とシューズの準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。

準備学習の内容

授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『基礎から学ぶスポーツリテラシー』高橋 健夫（著）、大修館書店

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を取り上げて、授業内にて講評する。

成績評価の方法

平常点評価 70%：授業態度、授業への参加度（健康管理、コンディショニング）、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。
授業内評価 30%：実技評価、筆記（ルール、マナーについて）試験等を実施し、技能、理解度を評価する。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
専任講師　武　田　紘　平	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館1階プール
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　水慣れ、泳力測定
第3回　クロール1（キック・プル）
第4回　クロール2（コンビネーション）
第5回　背泳ぎ1（キック・プル）
第6回　背泳ぎ2（コンビネーション）
第7回　平泳ぎ1（キック・プル）
第8回　平泳ぎ2（コンビネーション）
第9回　バタフライ1（キック・プル）
第10回　バタフライ2（コンビネーション）
第11回　個人メドレー
第12回　スキンダイビング
第13回　水球（パス・ドリブル・シュート）
第14回　水球（ゲーム）、授業のまとめ
※内容は変更になることがあります

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

1. 授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。
2. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に行います。

成績評価の方法

授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　緒　方　貴　浩	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第１回：イントロダクション（授業の概要と目的・授業計画の説明、履修上の注意、成績評価方法などの説明）
第２回：体力測定（トレーニング前その①）
第３回：体力測定（トレーニング前その②）
第４回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義）
第５回：トレーニング機器の取り扱い説明・安全講習
第６回：トレーニングの実践①
第７回：トレーニングの実践②
第８回：トレーニングの実践③
第９回：トレーニングの実践④
第10回：トレーニングの実践⑤
第11回：トレーニングの実践⑥
第12回：体力測定及び評価
第13回：心肺蘇生法（CPR）実習
第14回：まとめと振り返り
※講義の内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．室内用のシューズを準備してください。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段から自己管理（栄養、睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにしてください。
また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング法についてインターネットや図書を利用し、知識を積み重ねてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、必要に応じて授業内またはOh-o!Meijiシステムを通じて行います。

成績評価の方法

成績は、以下の観点から総合的に評価する。
１．実践点（60%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢）
２．理解点（20%）：幅広い教養としての知識・理解、レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況
３．技能達成度（20点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　成　瀬　和　弥	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：柔道場（スポーツルームC）
第１回：オリエンテーション
第２回：救急救命法
第３回：ウォーキングの基礎
第４回：ウォーキングの応用
第５回：ウォーキングからランニング
第６回：瞑想の基礎
第７回：瞑想の実践（20分）
第８回：瞑想の実践（25分）
第９回：ウォーキングフラッグフットボール　ボールを投げる
第10回：ウォーキングフラッグフットボール　ボールを取る
第11回：ウォーキングフラッグフットボール　戦術の理解
第12回：ウォーキングフラッグフットボール　ワンゴールゲーム
第13回：ウォーキングフラッグフットボール　ゲーム
第14回：ウォーキングフラッグフットボール　ゲーム

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

・睡眠をよくとり、体調管理に努めてください。
・さまざまなスポーツの報道に関心をもち、情報を収集してください。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題（レポート）について、その後の授業もしくはクラスウェブを用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

技能40%、知識・理解60%

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　成　瀬　和　弥	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：柔道場（スポーツルームC）
第1回：オリエンテーション
第2回：救急救命法
第3回：ウォーキングの基礎
第4回：ウォーキングの応用
第5回：ウォーキングからランニング
第6回：瞑想の基礎
第7回：瞑想の実践（20分）
第8回：瞑想の実践（25分）
第9回：ウォーキングフラッグフットボール　ボールを投げる
第10回：ウォーキングフラッグフットボール　ボールを取る
第11回：ウォーキングフラッグフットボール　戦術の理解
第12回：ウォーキングフラッグフットボール　ワンゴールゲーム
第13回：ウォーキングフラッグフットボール　ゲーム
第14回：ウォーキングフラッグフットボール　ゲーム

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

・睡眠をよくとり、体調管理に努めてください。
・さまざまなスポーツの報道に関心をもち、情報を収集してください。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題（レポート）について、その後の授業もしくはクラスウェブを用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

技能40%、知識・理解60%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
教授　後　藤　光　将	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第1回：ガイダンス
第2回：用具とグリップ
第3回：アドレス、スウィングの基礎
第4回：クォータースウィングからハーフスウィング
第5回：ハーフスウィングからスリークォータースウィング
第6回：スリークォータースウィングからフルスウィング
第7回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（1）
第8回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（2）
第9回：パッティング（1）
第10回：パッティング（2）
第11回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（1）
第12回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（2）
第13回：講義（ゴルフの歴史、ルール、マナー）
第14回：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

ゴルフのルールやマナーについて事前に調べてください。健康に関する情報収集を常に心懸けてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのレポート機能を用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加度（40%）、平常点（30%）、期末レポート（30%）

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉
1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　石　渡　貴　之

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第１回：ガイダンス（授業の目的、内容、注意点の確認等）、ゴルフの特性、ルール、マナー
第２回：クラブの握り方、姿勢、スイングチェック、スイング撮影
第３回：スイング確認、基本スイングの習得、ショートアイアン練習（SW、PW）
第４回：基本スイングの習得、ショートアイアン練習（SW、PW）アプローチショットゲーム①
第５回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、アプローチショットゲーム ②
第６回：グループ演習課題打合せ、パター練習、ミドルアイアン練習（9I～7I）
第７回：グループ課題発表①、パター練習、ミドルアイアン練習（9I～7I）
第８回：グループ課題発表②、パター練習、ロングアイアン練習（6I～5I）
第９回：グループ課題発表③、パターゴルフゲーム①
第10回：グループ課題発表④、ドライバー、フェアーウェイウッド練習
第11回：グループ課題発表⑤、ドライバー、フェアーウェイウッド、アイアン練習、アプローチショットゲーム③
第12回：グループ課題発表⑥、ドライバー、フェアーウェイウッド、アイアン、ショートアイアン練習
第13回：グループ課題発表⑦、パターゴルフゲーム②、スイング試験
第14回：まとめ、学期末レポート作成

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-o! Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

教科書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で直接フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度（60%）、技術の習熟度（20%）、グループ課題発表（10%）、学期末レポート（10%）

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
３．授業中にガムを噛む、または飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。
４．受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。
上記の点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　杉　山　仁　志

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することです。運動不足病が深刻な社会問題となっている現在、運動実践の機会および知識の獲得を教育の一環として確保されることは大学生にとって重要であり、不可欠であると考えます。健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の向上・育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール
第１講：前期授業のガイダンス
第２講：バレーボール（１）基礎技術の習得
第３講：バレーボール（２）基礎技術の応用・班分け
第４講：バレーボール（３）攻撃基礎技術の習得・ゲーム実践
第５講：バレーボール（４）攻撃基礎技術の応用・ゲーム実践
第６講：バレーボール（５）基礎技術習得確認・ゲーム実践
第７講：バレーボール（６）ゲーム実践
第８講：バドミントン（１）シングルスゲーム実践
第９講：バドミントン（２）シングルスゲーム実践
第10講：バドミバドミントン（３）ダブルスゲーム実践
第11講：バドミントン（４）ダブルスゲーム実践
第12講：バドミントン（５）ダブルスゲーム実践
第13講：バドミントン（５）団体戦ゲーム実践
第14講：まとめ

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

バレーボールのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。
バドミントンのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。

教科書

特になし

参考書

コーチングバレーボール基礎編　日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）　大修館書店
バドミントン教本基礎編　日本バドミントン協会（編集）　ベースボールマガジン社

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別ついては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

（１）主に授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。
（２）平常点100％

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　水　口　　潔

授業の概要・到達目標

【授業の概要】授業は、ゴルフ練習場において実施する。ゴルフは自分の体の動かし方を意識する必要があるので、自主的な練習への取り組みが強く求められる。ゴルフの基本技術の習得と、基礎的なルール・マナー等を学ぶことによって、ゴルフへの理解を深める。運動に適したシューズを準備すること。手袋などについては、オリエンテーションで説明する。
【授業の到達目標】初心者・初級者として、ゴルフを楽しむことのできる技術を取得し、ゴルフを通し、スポーツの魅力と楽しさを実感する。

授業内容

第1回：ガイダンス
第2回：基本技術の練習（パッティングストローク）
第3回：基本技術の練習（アプローチストローク）
第4回：基本技術の練習（グリップの確認）
第5回：基本技術の練習（アプローチストロークその2）
第6回：基本技術の練習（ハーフスイング）
第7回：基本技術の練習（クオータースイング）
第8回：基本技術の練習（フルスイング）
第9回：基本技術の練習（フルスイングその2）
第10回：基本技術の練習（長いクラブの練習）
第11回：基本技術の練習（ドライバーの練習）
第12回：ハーフショットのアプローチゲーム
第13回：チーム対抗戦1回戦
第14回：チーム対抗戦2回戦
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

履修開始の第1週目(授業の開講時限)は,インフォメーションボードで,指定された教室に集合してください。通常授業に関しては,以下の点に留意してください。これが準備学習となります。
（1）心身のコンディションを整えて出席してください。
（2）スポーツ活動にふさわしいシューズやウェアを着用してください。
（3）授業の進行および安全管理の観点から,遅刻は厳禁とします。
雨天時の対応などは実技に関する指示は,体育館の入り口にあるインフォメーションボードに掲載されていますので、授業前に必ず目を通してください。ゴルフ用の手袋を各自準備すること。

準備学習の内容

ネット上の動画なども含め、興味のある映像などを見ておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、改善点などを報告し合い、次の課題を見つけていく。
最終授業日に期末実技試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

単位の取得には,開講日数の2/3以上の出席が必要です。2/3以上出席した者について、以下のような比率により総合的に評価します。
(a)平常点:40% (b)理解力・コミュニケーション能力:40% (c)技能・体力:20% &.実技能力や向上度、ルールとマナーの理解度などを見るために試験を実施し、レポートの提出を求めます。

その他

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

兼任講師　針ヶ谷　雅　子

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：剣道場（スポーツルームB）
第1回：ガイダンス
第2回：ストレッチと体力チェック
第3回：＜フィットネス1＞ エアロビックダンス入門
第4回：＜フィットネス2＞ ヨガ入門
第5回：＜フィットネス3＞ ヨガ応用
第6回：＜レクリエーション1＞　長縄跳びのバリエーション
第7回：＜レクリエーション2＞ 短縄跳びのバリエーション
第8回：＜レクリエーション3＞ ダブルダッチとリズム縄跳び
第9回：＜レクリエーション4＞ ジャグリングボール
第10回：＜レクリエーション5＞ インラインスケート
第11回：＜ニュースポーツ1＞ ユニバーサルホッケー
第12回：＜ニュースポーツ2＞ キンボール
第13回：＜ダンス＞ フラダンス
第14回：まとめ・講義「環境とスポーツ」

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．睡眠や食事をきちんととり、元気なこころとからだで参加してください。

準備学習の内容

学びを深めるため、また、生涯スポーツとして活用するため、授業で触れた教材について、書籍やインターネットを活用して補習・復習することを推奨します。

教科書

教科書は使用しません。

参考書

（1）ニュースポーツ辞典（北川勇人/日本レクリエーション協会 編著、遊戯社）
（2）健康教育―表現する身体―（山岸俊子/山口順子 編、勁草書房）
（3）誰でもできる楽しいなわとび（榎木繁男 他、大修館書店）

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で実施します

成績評価の方法

（1）平常点（参加、意欲、取り組み、積極性、協調性など）60%
（2）達成度（種目・教材の特性をどの程度理解しているか）30%
（3）学期末レポート（授業で学んだことを整理してまとめる）10%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用等については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
教授　後　藤　光　将	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第1回：ガイダンス
第2回：用具とグリップ
第3回：アドレス、スウィングの基礎
第4回：クォータースウィングからハーフスウィング
第5回：ハーフスウィングからスリークォータースウィング
第6回：スリークォータースウィングからフルスウィング
第7回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（1）
第8回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（2）
第9回：パッティング（1）
第10回：パッティング（2）
第11回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（1）
第12回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（2）
第13回：講義（ゴルフの歴史、ルール、マナー）
第14回：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

ゴルフのルールやマナーについて事前に調べて下さい。健康に関する情報収集を常に心懸けて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのレポート機能を用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加度（40%）、平常点（30%）、期末レポート（30%）

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉
1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次
兼任講師　高　梨　美　奈	

授業の概要・到達目標

実施種目：ニュースポーツ、卓球（SR!!、卓球場）
本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。
運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業概要：
これまであまり経験したことのないスポーツを通じ、スポーツの幅広さを学ぶと同時に、楽しく体を動かす場をつくるということを
身をもって学びます。そのため、他者との関わりを重視し、そのプロセスを通じ、リーダーリップ、フォロワーシップ、コミュニケーションをとることを目指します。その他に、事故などに遭遇したときに躊躇せず救命活動に取り組めるよう救急救命法を学びます。
また、ストレッチや筋力トレーニングを身に付け、生涯に渡り、自ら実践できるようになることを目指します。

授業内容

使用施設:(スポーツルーム11/卓球場)
※教場が変更にともない、授業内容も変更になる可能性があります。
第1回：コミュニケーションゲーム（互いを知り合う）
第2回：ボールゲーム
第3回：ホッケー
第4回：ウォーキング
第5回：フットサル
第6回：キンボール
第7回：バスケットボール
第8回：卓球
第9回：卓球
第10回：卓球
第11回：卓球
第12回：救急救命法
第13回：ボッチャ、シッティングバレーボール
第14回：まとめ、レポート提出

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の**3分の2以上**の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業の内容は、変更になる場合があります。
5．受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。内履きも必ず持参して下さい。
ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。
6．自己や他者に対し危険を及ぼす行為と教員が判断した場合は、授業を見学あるいは退出していただく場合があります。

準備学習の内容

（予習）授業で行うスポーツ種目ルールおよびリスク・安全管理について理解する。
授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。
（復習）授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。
授業後はリフレクションシートを記入すること。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。
Oh-o!Meijiで紹介することがあります。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiを利用します。
質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。

成績評価の方法

1．授業参加度や積極性（70%）
①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度
などを総合的に評価します。
2．目標達成度（10%）
毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します
3．　レポート（20%）
授業を振り返り、最終日にレポートを提出する

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：グラウンド
第１講　ガイダンス
第２講　アイスブレイク
第３講　コミュニケーションゲーム（１）
第４講　コミュニケーションゲーム（２）
第５講　フォトラリー
第６講　フラッグフットボール（１）
第７講　フラッグフットボール（２）
第８講　フラッグフットボール（３）
第９講　フラッグフットボール（４）
第10講　フライングディスク（１）
第11講　フライングディスク（２）
第12講　ディスクゴルフ
第13講　ペタンク（１）
第14講　ペタンク（２）

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．爪が伸びている場合は実技を行うことはできず見学をすることになります。

準備学習の内容

半期に数回、個人やグループ単位で課題を出します。
それらの課題については授業時間外で取り組むことになります。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要になります。またレポート課題を数回出します。成績は以下の点から評価します：
１）授業への参加度（60%）
２）グループ活動への貢献度（20%）
３）課題評価（20%）

その他

１．適切な服装や靴、メガネの着用についてはガイダンスにて説明します。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。
受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第１回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第２回：体力測定（トレーニング前　その１）
第３回：体力測定（トレーニング前　その２）
第４回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義）
第５回：フィットネスルーム安全講習
第６回：各自のトレーニング
第７回：各自のトレーニング
第８回：各自のトレーニング
第９回：各自のトレーニング
第10回：各自のトレーニング
第11回：体力測定（トレーニング状況の中間評価）
第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング
第13回：心肺蘇生法（CPR）実習
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

１．運動学演習Iは１年次必修科目である。週１回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
２．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
３．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となる。
４．授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻２回で欠席１回と換算する。また、原則として早退は認めない。
５．運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出ること。
６．４月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切なトレーニング効果が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況 30%

その他

１．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
２．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
３．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
４．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
５．上記４点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。

受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第2回：体力測定（トレーニング前　その1）
第3回：体力測定（トレーニング前　その2）
第4回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義）
第5回：フィットネスルーム安全講習
第6回：各自のトレーニング
第7回：各自のトレーニング
第8回：各自のトレーニング
第9回：各自のトレーニング
第10回：各自のトレーニング
第11回：体力測定（トレーニング状況の中間評価）
第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング
第13回：心肺蘇生法（CPR）実習
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

1．運動学演習Iは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
2．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4．授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。
5．運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。
6．4月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切なトレーニング効果が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況 30%

その他

1．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
2．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
4．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5．上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－1	1単位
	1年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
本授業は、和泉5学部（法、商、政経、文、経営）における1年次必修体育実技科目受講者のうち、なんらかの理由によって、本来のクラスや時間割での受講ができない者を対象として実施するクラスです。本授業は、受講者個々の事情によって授業内容を調節するため、コンディショニングクラス（以下、Cクラス）と呼ばれています。
【到達目標】
1．各自の心身のコンディションを把握し、適切な知的・身体的活動を行うことができる。
2．毎回の授業内容について正確に記述することができる。

授業内容

＜場所＞
和泉総合体育館2階フィットネスルーム
＜機器・用具＞
○有酸素運動：ステーショナルバイク15台、トレッドミル5台、ステップマシン1台
○筋力トレーニング：マシン（上肢5台、体幹5台、下肢3台）、フリーウエイト
○パワー系：バイク3台
○バランス系：バランスボール10個
○柔軟性：ストレッチマット多数
○測定機器：身体組成ほか
＜授業内容＞
○出欠の確認
○毎回の授業における個別面談により、本授業で何を実施していくかを決定
○受講者個々に決まった内容（実技、調査）を実施
○リアクションペーパー提出

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

授業前後に自身の心身の状況を把握してください。

教科書

特に指定しない。

参考書

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、提出期限後に授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別フィードバックについては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み状況（40%）、授業中の提出物（30%）期末レポート（20%）から総合的に評価します。
3分の2以上の出席が必要になります。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES198J

運動学演習Ⅰ－1（特定　スポーツ）	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、スポーツ特別入試で入学した体育会所属の学生を対象に、高い競技レベルで活躍するために身につけておくべき基本的知識について、実技と講義を通じて学ぶことである。また、4年間で卒業するために必要な日々の生活習慣や学習習慣を整えるための取り組みも行う。受講生が、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣を、この授業を通して身につけ、適切に実践できるようになることを到達目標とする。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第1回：ガイダンス（授業の進め方）、体組成測定、食事の考え方（講義）／必要カロリー算出
第2回：ライフスキルテスト／ライフスキルとは？（講義）、練習日誌の書き方
第3回：形態計測（周径囲）
第4回：競技力向上に欠かせない体力とトレーニングの考え方（講義）、体力測定（筋力、筋持久力、柔軟性、平衡性、全身持久力）
第5回：体力測定（全身持久力、敏捷性）
第6回：筋力と筋パワー（講義）、体力測定（垂直跳、無酸素パワーテスト）
第7回：体力測定（脚伸展パワー、全力ペダリングピークパワー）
第8回：トレーニングの実践、体幹筋力測定
第9回：トレーニングの実践、体幹筋力測定
第10回：トレーニングの実践、体幹筋力測定
第11回：トレーニングの実践、体幹筋力測定
第12回：トレーニングの実践、体幹筋力測定
第13回：心肺蘇生法（CPR）実習、レポート課題の提示
第14回：まとめ（レポート提出・回収）

履修の注意点

1.本授業は1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。
2.本授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3.本授業の単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4.授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認め、遅刻2回で欠席1回と換算する。また原則として早退は認めない。
5.大会出場、強化合宿、遠征等で授業を欠席する場合は、学部指定の「欠席届」を必ず提出すること。提出がない場合は、通常の欠席として取り扱う。
6.授業中に出された課題・レポート等は必ず行い、提出を求められた場合は必ず提出すること。
7.怪我で運動が制限されている場合は、第1回目の授業時に担当教員へ申し出て指示を受けること。
8.4月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業参加に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、自身の競技力向上に必要と思われる様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うことが望ましい。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

スポーツ競技者に特化した科目であるため、課題や講義に関するフィードバックを必要に応じて行い、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート・課題（提出状況、内容など） 30%

その他

1.受講中にガムを噛む、また飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。
2.運動に適した服装、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3.受講中にスマートフォンを身につけること、および使用は厳禁とする。
4.授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5.上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES198J

運動学演習Ⅰ－1（特定　スポーツ）	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

本授業は、スポーツ特別入試で入学した体育会所属の学生を対象に、高い競技レベルで活躍するために身につけておくべき専門的な知識について、実技ならびに講義を通じて学びます。自身の専門種目以外の運動種目についても理解を深め、他者の考え方や取り組みから自身のパフォーマンス向上に繋げられる広い視野を持つことが望まれます。この授業を通して、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣を身につけることを到達目標とします。本授業では、パフォーマンス向上に関わる知識や技能（トレーニング、運動生理学、運動栄養学、解剖学等）を講義と実践の両面から身に付けます。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　フィットネスルームの使い方
第3回　ビッグスリーのフォーム、1RM測定
第4回　栄養と休養、各自のトレーニング
第5回　トレーニングの原理と原則、各自のトレーニング
第6回　筋の肥大、各自のトレーニング
第7回　心拍数とトレーニング、各自のトレーニング
第8回　怪我の予防と対処法、各自のトレーニング
第9回　ベンチプレスのバリエーション、各自のトレーニング
第10回　スクワットのバリエーション、各自のトレーニング
第11回　デッドリフトのバリエーション、各自のトレーニング
第12回　1RM測定、各自のトレーニング
第13回　心肺蘇生法
第14回　まとめ
授業内容は変更になることがあります。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。
5．授業を正当な理由（大会出場、強化合宿、遠征等）で欠席する場合は、学部指定の欠席届を必ず提出してください。提出がない場合は、無断欠席として取り扱います。

準備学習の内容

体育・スポーツに関わる本や資料を積極的に読むようにしましょう。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業開始時に講義形式で行います。

成績評価の方法

授業への取り組み（50%）・意欲や態度（20%）・ミニレポート（30%）で総合的に判断します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

実施種目：フィットネス
フィットネスルーム内の様々なトレーニング機器を用いてトレーニングを行います。各個人が目標を設定し、目標達成のためのトレーニングプログラムを立案し、実践します。最後にトレーニング効果について評価し、レポートにまとめます。運動トレーニングの実践および安全で効果的なトレーニングプログラム作成のための知識と技術の習得を目指します。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館ウェスト2階 フィットネスルーム
第1回：ガイダンス
第2回：体力測定（1）、トレーニング機器の取り扱い説明、機器の使用に慣れる
第3回：目標設定、プログラム作成、フリーウエイトトレーニングのフォーム解説
第4回：トレーニング強度の設定（10RM の測定など）
第5回：トレーニングの実践（1）
第6回：トレーニングの実践（2）
第7回：トレーニングの実践（3）
第8回：トレーニングの実践（4）
第9回：トレーニングの実践（5）
第10回：トレーニングの実践（6）
第11回：トレーニングの実践（7）
第12回：トレーニングの実践（8）
第13回：体力測定（2）、トレーニング効果の評価
第14回：レポート提出、まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に行います。

成績評価の方法

平常点（40%）、授業への取り組み（30%）、レポート（30%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　一　川　大　輔

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉キャンパス総合体育館 サブホール
第1回：オリエンテーション、利用施設の説明、簡易エクササイズ
第2回：ソフトバレーボール導入、シッティングバレーボール
第3回：リクリエーショナルボールでのリーグ戦
第4回：正式なバレーボールでのリーグ戦
第5回：フットサルの導入
第6回：フットサルのスキル、リーグ戦
第7回：フロアボールの導入
第8回：フロアボールのスキル、リーグ戦
第9回：バドミントン導入のためのルール説明、試しのゲーム
第10回：基礎練習（ヘアピン・ドライブ、ロングサーブ）、のシングルスゲーム
第11回：ダブルスゲームのルール理解、基礎練習（ショートサービス）
第12回：ダブルスゲームの実践と戦術
第13回：上級者と未経験者でのダブルスゲーム
第14回：実技運動のまとめ、授業総括

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる（感染症や正式な公欠届に該当しない場合は、欠席と扱いとする：詳細はその他の項を参照）
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．赤い靴ひもの室内用運動靴を用意してください。

準備学習の内容

授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

*授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。
平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%

その他

1. 適切な運動着や運動靴が準備できていない場合は減点対象とする
2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください
実技における持参品と注意事項
① 運動をするのにふさわしいスポーツウェア
（通学時の服装と区別：高校の体操服等でも可）
② 屋内種目となる場合はソールが黒くて古いものは不可
屋内専用シューズでなければ授業参加できない（屋内専用シューズは、明大マートで購入できる赤い靴紐に交換しないと使用出来ません）
○既往症や障害（身体的・精神的）について
1年生の学生で大きな怪我や障害によりクラスでの授業が難しい場合はcクラス（実技内容に配慮した授業）への移動も考慮できます。
事前に担当教員に相談してください。
○「学校において予防すべき感染症」での欠席および公欠（課外活動等）の扱い
インフルエンザやコロナなど「学校において予防すべき感染症」で欠席した場合については、病院を受診する際に本学が指定した「罹患・治癒証明」を持参し、次回出席時に提出してください。以下のサイトにフォーマットがありますので、確認をして下さい。
https://www.meiji.ac.jp/certificate/mkmht0000007ha97.html
課外活動や学会発表等での公欠は部長（教授等）や所属学部からの正式な依頼を示した証明書（エビデンス）がある場合に考慮を検討しますが、必ず事前事後で相談するようにして下さい。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようになることを目的としている。

受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに応用できるようになる。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。

授業内容

使用施設：スポーツルームA
第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第2回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー
第3回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける
第4回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践
第5回：シングルス・ゲーム実践（1）
第6回：シングルス・ゲーム実践（2）
第7回：シングルス・ゲーム実践（3）
第8回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践
第9回：ダブルス・ゲーム実践（1）
第10回：ダブルス・ゲーム実践（2）
第11回：ダブルス・ゲーム実践（3）
第12回：様々な形式でのゲーム実践（1）
第13回：様々な形式でのゲーム実践（2）
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

1．運動学演習Iは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
2．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4．授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。
5．運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。
6．4月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切な技能の向上が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など） 30%

その他

1．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
2．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
4．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5．上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　蛭　間　栄　介

授業の概要・到達目標

実施種目：水泳・水球・シュノーケリング

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：プール
第1回　講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。
第2回　水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。
第3回　フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。
第4回　スキンダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。
第5回　クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第6回　背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第7回　平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第8回　バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第9回　水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。
第10回　水球のゲーム法について学習し、説明できる。
第11回　水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。
第12回　水球の審判法について学習し、説明できる。
第13回　水球の戦術について学習し、説明できる。
第14回　講義2：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．準備学習としてWeb上にアップロードしてある資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。

準備学習の内容

事前にWeb上にアップロードしてある資料を読み、授業内容を理解しておいてください。
また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。

教科書

使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。

参考書

「水泳指導教本」（財団法人日本水泳連盟　編、大修館書店）
「スイミングファステスト」（高橋繁浩、鈴木大地　監訳、ベースボールマガジン社）
「潜水医学入門」（池田知純　著、大修館書店）
「アクアエクササイズ指導教本」（深代泰子、尾陰由美子　監修、公益財団法人日本フィットネス協会）

課題に対するフィードバックの方法

レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。

成績評価の方法

平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
3．第1回目の授業には必ず出席してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　梅　澤　秋　久	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第1回：オリエンテーション（受講上の留意点についてのガイダンス）
第2回：パターゴルフをやってみよう（チカラの調整とパターの操作）
第3回：パターの操作に慣れよう（傾斜を計算してゴルフボールを転がそう）
第4回：パターゴルフ大会をしよう（Par2の5つのホールでスコアを競おう）
第5回：長いホールのパターゴルフ大会をしよう
第6回：短いクラブでショットに挑戦しよう（グリップの握り方、アドレスの取り方）
第7回：短いクラブでショットの型を学ぼう（ICTを活用して、見本とのずれ：問題点を発見しよう）
第8回：狙った方向にボールを飛ばそう
第9回：ライ角通りにボールを上げよう
第10回：自身のスウィングの特徴を知ろう（ICTを活用し、他者との違いを発見しよう）
第11回：下半身始動のスウィングを身につけよう
第12回：ミドルアイアンでボールを打とう
第13回：ミドルアイアンでボールを飛ばそう
第14回：本授業のまとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

基礎的な身体活動を日常的に実践する。

教科書

特になし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の概要・到達目標および授業内容に基づき、実技課題や授業への取り組みに対して、授業中に口頭での助言や示範を行う。あわせて、準備学習や振り返りの内容について適宜講評を行い、次回の学習や自己の課題改善につなげる。これらのフィードバックは、成績評価の観点の理解を促すことを目的とする。

成績評価の方法

授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス(30%)

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　梅　澤　秋　久	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：サブホール
(ネット型：バドミントン、バレーボール中心、ゴール型：フットサルも数回実施予定)
第1回　オリエンテーション　(受講上の留意点についてのガイダンス)
第2回　ネット型ボール運動の特性について（バトミントンで攻守一体型の特性を知ろう）
第3回　ネット型ボール運動の特性を深めよう（相手コートに羽を落とすための方法を探究しよう）
第4回　ネット型ボール運動の特性を極めよう（スマッシュ、ドロップ、ヘアピン、ハイクリアを駆使しよう）
第5回　バドミントン大会（シングルス）をしよう
第6回　バドミントン大会（ダブルス）をしよう
第7回　ネットを挟んでラリーを続けよう　(2,3人制のソフトバレーボールに触れよう)
第8回　2,3人制バレーボールの特性を考えて実践しよう（コートに落とすか／落とさせないかの間を愉しもう）
第9回　2,3人制バレーボール大会をしよう
第10回　6人制バレーボールの特性を考えて実践しよう（コートに落とすか／落とさせないかの間を愉しもう）
第11回　6人制バレーボール大会をしよう
第12回　足で操作するゴール型ゲームの特性をを学ぼう（フットサル）
第13回　仲間と共に突破してゴールを決めよう（ボールを持たない人がどう動くかを考えよう）
第14回　本授業のまとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

基礎的な身体活動を日常的に実践する

教科書

特になし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の概要・到達目標および授業内容に基づき、実技課題や授業への取り組みに対して、授業中に口頭での助言や示範を行う。あわせて、準備学習や振り返りの内容について適宜講評を行い、次回の学習や自己の課題改善につなげる。これらのフィードバックは、成績評価の観点の理解を促すことを目的とする。

成績評価の方法

授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス(30%)

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　蛭　間　栄　介

授業の概要・到達目標

実施種目：水泳・水球・シュノーケリング
　本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：プール
第１回　講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。
第２回　水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。
第３回　フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。
第４回　スキンダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。
第５回　クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第６回　背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第７回　平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第８回　バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。
第９回　水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。
第10回　水球のゲーム法について学習し、説明できる。
第11回　水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。
第12回　水球の審判法について学習し、説明できる。
第13回　水球の戦術について学習し、説明できる。
第14回　講義２：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．準備学習としてWeb上にアップロードしてある資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。

準備学習の内容

事前にWeb上にアップロードしてある資料を読み、授業内容を理解しておいてください。
また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。

教科書

　使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。

参考書

「水泳指導教本」（財団法人日本水泳連盟　編、大修館書店）
「スイミングファステスト」（高橋繁浩、鈴木大地　監訳、ベースボールマガジン社）
「潜水医学入門」（池田知純　著、大修館書店）
「アクアエクササイズ指導教本」（深代泰子、尾陰由美子　監修、公益財団法人日本フィットネス協会）

課題に対するフィードバックの方法

レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。

成績評価の方法

平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
３．第１回目の授業には必ず出席してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　一　川　大　輔

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉キャンパス総合体育館 サブホール
第１回：オリエンテーション、利用施設の説明、簡易エクササイズ
第２回：ソフトバレーボール導入、シッティングバレーボール
第３回：リクリエーショナルボールでのリーグ戦
第４回：正式なバレーボールでのリーグ戦
第５回：フットサルの導入
第６回：フットサルのスキル、リーグ戦
第７回：フロアボールの導入
第８回：フロアボールのスキル、リーグ戦
第９回：バドミントン導入のためのルール説明、試しのゲーム
第10回：基礎練習（ヘアピン・ドライブ、ロングサーブ）、のシングルスゲーム
第11回：ダブルスゲームのルール理解、基礎練習（ショートサービス）
第12回：ダブルスゲームの実践と戦術
第13回：上級者と未経験者でのダブルスゲーム
第14回：実技運動のまとめ、授業総括

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となる(感染症や正式な公欠届に該当しない場合は、欠席と扱いとする：詳細はその他の項を参照)
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．赤い靴ひもの室内用運動靴を用意してください。

準備学習の内容

授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

*授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。
平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%

その他

1. 適切な運動着や運動靴が準備できていない場合は減点対象とする
2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください
実技における持参品と注意事項
① 運動をするのにふさわしいスポーツウェア
（通学時の服装と区別：高校の体操服等でも可）
② 屋内種目となる場合はソールが黒くて古いものは不可
屋内専用シューズでなければ授業参加できない（屋内専用シューズは、明大マートで購入できる赤い靴紐に交換しないと使用出来ません）
○既往症や障害（身体的・精神的）について
１年生の学生で大きな怪我や障害によりクラスでの授業が難しい場合はcクラス(実技内容に配慮した授業）への移動も考慮できます。
事前に担当教員に相談してください。
○「学校において予防すべき感染症」での欠席および公欠（課外活動等）の扱い
インフルエンザやコロナなど「学校において予防すべき感染症」で欠席した場合については、病院を受診する際に本学が指定した「罹患・治癒証明」を持参し、次回出席時に提出してください。以下のサイトにフォーマットがありますので、確認をして下さい。
https://www.meiji.ac.jp/certificate/mkmht0000007ha97.html
課外活動や学会発表等での公欠は部長（教授等）や所属学部からの正式な依頼を示した証明書（エビデンス）がある場合に考慮を検討しますが、必ず事前事後で相談するようにして下さい。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：剣道場
第１回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第２回　縄跳び①
第３回　縄跳び②
第４回　ユニホック①
第５回　ユニホック②
第６回　ショートテニス①
第７回　ショートテニス①
第８回　レクリエーションスポーツ①
第９回　レクリエーションスポーツ②
第10回　レクリエーションスポーツ③
第11回　ミニサッカー①
第12回　ミニサッカー②
第13回　ミニサッカー③
第14回　まとめ
※内容は変更になることがあります。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に紹介します。

成績評価の方法

平常点（60%）、意欲・態度（20%）、理解（20%）の３項目を点数化し、その合計点で評価します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　齋　藤　　実

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：多目的ホールB（剣道場）　教材：剣道
第１回：オリエンテーション、剣道の歴史と教育的意義
第２回：剣道の礼法と所作
第３回：剣道の動機付け　（新聞紙切り、発声、剣道的ゲーム）
第４回：竹刀操作と実際の打突　（素振り、竹刀への打突）
第５回：木刀を用いた稽古法１　（剣道基本技稽古法基本１～４）
第６回：木刀を用いた稽古法２　（剣道基本技稽古法基本５～９）
第７回：技能評価　（剣道基本技稽古法）
第８回：剣道具着用の仕方、剣道具への打ち方と打たせ方、剣道具の片づけ方
第９回：踏み込み足での仕掛け技　（剣道基本技稽古法基本１～４）
第10回：踏み込み足での仕掛け技と応じ技　（簡単な試合）
第11回：模擬審査（１級レベル、初段レベル）
第12回：試合のやり方と審判のやり方
第13回：技能評価１（試合と審判）
第14回：技能評価２（試合と審判）

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．服装の準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。
５．手ぬぐいの用意をお願いします。
６．昇級審査、昇段審査（全日本剣道連盟）に参加することができます（希望制）。

準備学習の内容

授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『日本剣道形解説書』、『剣道指導要領』、全日本剣道連盟

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を授業内にて取り上げて講評する。

成績評価の方法

平常点評価 70%：授業態度、授業への参加度（健康管理、コンディショニング）、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。
授業内評価 30%：実技評価、筆記（ルール、マナーについて）試験等を実施し、技能、理解度を評価する。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようになることを目的としている。

受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに応用できるようになる。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。

授業内容

使用施設：スポーツルームA
第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第2回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー
第3回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける
第4回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践
第5回：シングルス・ゲーム実践（1）
第6回：シングルス・ゲーム実践（2）
第7回：シングルス・ゲーム実践（3）
第8回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践
第9回：ダブルス・ゲーム実践（1）
第10回：ダブルス・ゲーム実践（2）
第11回：ダブルス・ゲーム実践（3）
第12回：様々な形式でのゲーム実践（1）
第13回：様々な形式でのゲーム実践（2）
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

1．運動学演習Iは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
2．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4．授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。
5．運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。
6．4月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切な技能の向上が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など） 30%

その他

1．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
2．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
4．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5．上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　高　梨　美　奈

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。
運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。
実施種目：スポーツクライミング
授業概要：
クライミングは、これまで経験したことのない人、運動が得意な人もそうでない人でも、自分のペースで取り組めるスポーツです。
クライミングを通して、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。本授業では、クライミングの中の「ボルダリング」「ロープクライミング」を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体への理解を深めます。講義やリフレクションを15分ほど導入し、自分で目標を立ててチャレンジすること、また他者を観察し他者から学ぶこと、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感得できるよう、グループワークも取り入れていきます。
到達目標：
・クライミングの基本技術について理解し説明できる。
・ロープクライミングの技術を習得し、安全に行うことができる。
・ボルダリングの課題を作ることができる。
・ルートを正確に読むことができる。
・事故や怪我を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。
・スポーツを通じて仲間と協力や励まし合いコミュニケーションを活発にすることができる。
・生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心を高めることができる。
・感情や自らの言動を客観的に振り返ることで、自分自身と向き合い、自己分析力を高めることができる

授業内容

使用施設：クライミングウォール
第1回：オリエンテーション（授業の概要に関する説明、カード記入）
第2回：クライミングの概要，安全対策
第3回：コンディショニング（筋トレ，ストレッチ），ボルダリングとロープクライミング
第4回：グループワーク，フットワーク（足の置き方）
第5回：グループワーク，ホールドの持ち方、体の動かし方（ムーヴ）
第6回：グループワーク，ルートを読む（オブザベーション）
第7回：グループワーク，オリジナル課題を作る
第8回：グループワーク，ロープクライミング（安全システムを学ぶ)/　ボルダリング
第9回：グループワーク，ロープクライミング（ビレイを学ぶ)/ボルダリング
第10回：グループワーク，ロープクライミング（チームビレイ)/ボルダリング
第11回：目標設定，自分の目標を決めて登る
第12回：グループワーク，課題を作る
第13回：コンペティション，コンペティション
第14回：まとめ、レポート提出
クラスメートとのコミュニケーションを重視し、グループによる活動を行います。
状況により、場所を変更する日があるかもしれません。必ず掲示を確認するようにしてください。

履修の注意点

1.本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2.単位修得にあたっては、授業実施回数の**3 分の 2 以上**の出席が必要となります。
3.医師により運動が禁止または制限されている学生は、第 1 回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4.受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。
5.薄手の靴下を持参して下さい。
6．自己や他者に対し危険を及ぼす行為と教員が判断した場合は、授業を見学あるいは退出していただく場合があります。

準備学習の内容

（予習）スポーツクライミングに関するルールおよびリスク・安全管理について理解する。
　　授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。
（復習）授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。
　　授業後はリフレクションシートを記入すること。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。授業で資料を配布することがあります。
おすすめ 「完全図解スポーツクライミング教本」 東秀磯　著, 山と渓谷社

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiを利用します。
質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。

成績評価の方法

1．授業参加度や積極性（70%）
　①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度
　などを総合的に評価します。
2．目標達成度（10%）
　毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します
3．レポート（20%）
　授業を振り返り、最終日にレポートを提出する

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　竹　井　尚　也

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館ウェスト2階 フィットネスルーム
第1回：授業の説明とオリエンテーション
第2回：体力測定1、トレーニングマシンの解説と実技
第3回：目標設定、プログラム作成、フリーウエイトの解説と実技1
第4回：持久的運動の解説、フリーウエイトの解説と実技2
第5回：トレーニングの実践1
第6回：トレーニングの実践2
第7回：トレーニングの実践3
第8回：トレーニングの実践4
第9回：トレーニングの実践5
第10回：トレーニングの実践6
第11回：トレーニングの実践7
第12回：トレーニングの実践8
第13回：体力測定2、測定結果の評価と解説
第14回：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

健康やフィットネストレーニングに関する情報収集を心懸けて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックが必要な場合は、授業内もしくはOh-o! Meijiシステムを介して行います。

成績評価の方法

(a)　授業への積極的な取組み・態度　60%　(b)　理解力・技能の上達度　30%　(c)　レポート・提出物10%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：剣道場
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　縄跳び①
第3回　縄跳び②
第4回　ユニホック①
第5回　ユニホック②
第6回　ショートテニス①
第7回　ショートテニス①
第8回　レクリエーションスポーツ①
第9回　レクリエーションスポーツ②
第10回　レクリエーションスポーツ③
第11回　ミニサッカー①
第12回　ミニサッカー②
第13回　ミニサッカー③
第14回　まとめ
※内容は変更になることがあります。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に紹介します。

成績評価の方法

平常点（60%）、態度（20%）、理解（20%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　杉　山　仁　志	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

第1講　ガイダンス(ゴルフ練習場)
第2講　グリップの基本及びスイングの基本　1
第3講　グリップの基本及びスイングの基本　2
第4講　ハーフスイングからのショット　1
第5講　ハーフスイングからのショット　2
第6講　フルスイングショット　1
第7講　フルスイングショット　2
第8講　フルスイングショット　3
第7講　フルスイングショット　4
第8講　フェアウエーウッドショット（能力別）1
第9講　フェアウエーウッドショット（能力別）2
第10講　フェアウエーウッドショット（能力別）3
第11講　ドライバーショット（能力別）1
第12講　ドライバーショット（能力別）2
第13講　パター
第14講　まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

ゴルフスイングの基本となるグリップ・スイングなどを雑誌及びメディアを利用し、理解しておくこと。
自分が行っているスイング動画をチェックする。(プロのスイングと比較など)

教科書

特に指定しません。

参考書

PGA基本ゴルフ教本（社）日本プロゴルフ協会（監修）　学研

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別ついては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

（1）授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。
（2）平常点100％

その他

1．各種目に適切な服装や靴、については担当教員の指示に　従って下さい。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診して下さい。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　杉　山　仁　志	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

第1講　ガイダンス(ゴルフ練習場)
第2講　グリップの基本及びスイングの基本　1
第3講　グリップの基本及びスイングの基本　2
第4講　ハーフスイングからのショット　1
第5講　ハーフスイングからのショット　2
第6講　フルスイングショット　1
第7講　フルスイングショット　2
第8講　フルスイングショット　3
第7講　フルスイングショット　4
第8講　フェアウエーウッドショット（能力別）1
第9講　フェアウエーウッドショット（能力別）2
第10講　フェアウエーウッドショット（能力別）3
第11講　ドライバーショット（能力別）1
第12講　ドライバーショット（能力別）2
第13講　パター
第14講　まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

ゴルフスイングの基本となるグリップ・スイングなどを雑誌及びメディアを利用し、理解しておくこと。
自分が行っているスイング動画をチェックする。(プロのスイングと比較など)

教科書

特に指定しません。

参考書

PGA基本ゴルフ教本（社）日本プロゴルフ協会（監修）　学研

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別ついては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

（1）授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。
（2）平常点100％

その他

1．各種目に適切な服装や靴、については担当教員の指示に　従って下さい。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診して下さい。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　田　中　千　晶

授業の概要・到達目標

日常的に身体をよく動かす事は、子どもにとっても成人・高齢者でも、現在のみならずその後の健康にも影響する事が知られています。遊びや運動・スポーツを含む身体を動かす時間の減少に加え、スクリーンタイムの増加は、全ての人の共通した課題です。本科目では、遊びや運動・スポーツとヒトの身体の発育、運動能力の獲得、心理・社会性の発達に及ぼす関連要因、成人・高齢者の遊びや運動・スポーツとの現状・課題が説明でき、セルフケア能力を高め、自らおよび周囲の人々の心身とその発達を理解し、学習成果を疾病予防と健康増進へ向けた具体的行動やライフスタイルづくりにも生かせるようになることを到達目標とします

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　幼児から高齢者の身体機能の発達と測定法
第3回目　スポーツ鬼ごっこ：チーム対戦型の鬼ごっこ
第4回目　縄跳び、長縄、伝承遊び
第5回目　ダーツ
第6回目　ユニカール1
第7回目　ユニカール2
第8回目　キンボール
第9回目　対象別レクリエーション企画の立案
第10回目　子どもの遊び、運動・スポーツの企画の実施
第11回目　親子の遊び、運動・スポーツの企画の実施
第12回目　成人の遊び、運動・スポーツの企画の実施
第13回目　高齢者の遊び、運動・スポーツの企画の実施
第14回目　まとめ

履修の注意点

1．本授業には、実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位取得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

半期に数回、個人やグループ単位で課題提出があります。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要になります。また課題を数回出します。成績は、以下の点から総合的に評価します：授業への参加度（60%），グループ活動への貢献度（20%），課題評価（20%）

その他

運動に適した服装や靴を着用し、受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館1階プール
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　水慣れ、泳力測定
第3回　クロール1（キック・プル）
第4回　クロール2（コンビネーション）
第5回　背泳ぎ1（キック・プル）
第6回　背泳ぎ2（コンビネーション）
第7回　平泳ぎ1（キック・プル）
第8回　平泳ぎ2（コンビネーション）
第9回　バタフライ1（キック・プル）
第10回　バタフライ2（コンビネーション）
第11回　個人メドレー
第12回　スキンダイビング
第13回　水球（パス・ドリブル・シュート）
第14回　水球（ゲーム）、授業のまとめ
※内容は変更になることがあります

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

1. 授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。
2. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に紹介します。

成績評価の方法

授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　緒　方　貴　浩

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：剣道場
第１回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明）
第２回：ボディワーク①
第３回：ボディワーク②
第４回：ショートテニス①
第５回：ショートテニス②
第６回：シッティングバレー①
第７回：シッティングバレー②
第８回：ユニホック①
第９回：ユニホック②
第10回：インラインスケート
第11回：スポーツ鬼ごっこ
第12回：ダブルダッチ
第13回：大縄跳び
第14回：まとめ

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

１．ルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を積極的に活用し、授業の課題に取り組むこと。
２．運動習慣確立のために日常生活における身体活動量の増加に務めること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、必要に応じて授業内またはOh-o!Meijiシステムを通じて行います。

成績評価の方法

成績は、以下の観点から総合的に評価する。
１．実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢）
２．理解点（20%）：ルールおよびマナーの理解（幅広い教養としての知識・理解）
３．技能達成度（30点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　今　野　和　志

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館１階多目的ホールB（剣道場）
第１講　イントロダクション（授業計画の説明、評価について）
第２講　インラインスケート①（基本姿勢、歩行）
第３講　インラインスケート②（前方への移動、停止、方向転換）
第４講　キンボール①（ルールとマナー、ゲーム）
第５講　キンボール②（リーグ戦）
第６講　ユニホック①（ルールとマナー、ハンドリング）
第７講　ユニホック②（ボール回し、シュート）
第８講　ユニホック③（ゲーム）
第９講　ユニホック④（リーグ戦）
第10講　フライングディスク①（バックハンドスロー、フォアハンドスロー）
第11講　フライングディスク②（オーバーハンドスロー、キャッチング）
第12講　アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム）
第13講　アルティメット②（リーグ戦）
第14講　講義のまとめ
*講義の内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．室内用のシューズを準備してください。

準備学習の内容

事故や怪我を予防するため、前日に充分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようこころがけてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

本授業は実技科目であるため、適宜授業内にフィードバックします。

成績評価の方法

授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　成　瀬　和　弥	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：柔道場（スポーツルームC）
第1回：オリエンテーション
第2回：救急救命法
第3回：ウォーキングの基礎
第4回：ウォーキングの応用
第5回：ウォーキングからランニング
第6回：瞑想の基礎
第7回：瞑想の実践（20分）
第8回：瞑想の実践（25分）
第9回：ウォーキングフラッグフットボール　ボールを投げる
第10回：ウォーキングフラッグフットボール　ボールを取る
第11回：ウォーキングフラッグフットボール　戦術の理解
第12回：ウォーキングフラッグフットボール　ワンゴールゲーム
第13回：ウォーキングフラッグフットボール　ゲーム
第14回：ウォーキングフラッグフットボール　ゲーム

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

・睡眠をよくとり、体調管理に努めてください。
・さまざまなスポーツの報道に関心をもち、情報を収集してください。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題（レポート）について、その後の授業もしくはクラスウェブを用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

技能40%、知識・理解60%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
専任講師　武　田　紘　平	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：剣道場
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　縄跳び①
第3回　縄跳び②
第4回　ユニホック①
第5回　ユニホック②
第6回　ショートテニス①
第7回　ショートテニス①
第8回　レクリエーションスポーツ①
第9回　レクリエーションスポーツ②
第10回　レクリエーションスポーツ③
第11回　ミニサッカー①
第12回　ミニサッカー②
第13回　ミニサッカー③
第14回　まとめ
※内容は変更になることがあります。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に紹介します。

成績評価の方法

平常点（60%）、態度（20%）、理解（20%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　佐　藤　伸一郎

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

第１講　秋学期授業のイントロダクション、柔道衣の貸し出し。
第２講　柔道と世界の JUDO
第３講　礼法（自然体、自護体、立礼と座礼）
第４講　基本動作（摺足、継足、八方の崩し、体の捌き方）
第５講　受身（横受身、後受身、前まわり受身）
第６講　振り返り
第７講　投技と固技（１）膝車と袈裟固
第８講　投技と固技（２）体落と横四方固
第９講　投技と固技（３）大腰と上四方固
第10講　投技と固技（４）大内刈と縦四方固
第11講　投技と固技（５）送足払と出足払
第12講　約束練習（１）技を繋げてみる
第13講　約束練習（２）相手の技に対応してみる
第14講　まとめおよび実技試験

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

1、柔道の大会をyoutube等で見ておいてください。
２、自重で行うプッシュアップやスクワット、シットアップなどをやっておくと良いと思います。

教科書

特に指定しません。必要な資料は授業中に配布します。

参考書

特に指定しません

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績は総合的な観点（平常点60%、各自の取り組み姿勢20%、実技試験20%）から評価されます。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　石　渡　貴　之

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：テニスコート
第１回：ガイダンス（授業の目的、内容、注意点の確認等）、テニスの特性、ルール
第２回：グリップと構え、フォア・バックハンドの打ち方、練習
第３回：サーブの打ち方、ショートラリー（フォア・バック）、シングルスゲーム
第４回：サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲーム
第５回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦①
第６回：グループ演習課題打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦②
第７回：グループ課題発表①、ダブルスゲーム説明、練習
第８回：グループ課題発表②、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム①
第９回：グループ課題発表③、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム②
第10回：グループ課題発表④、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム③
第11回：グループ課題発表⑤、団体戦①
第12回：グループ課題発表⑥、団体戦②
第13回：グループ課題発表⑦、団体戦③
第14回：まとめ、学期末レポート作成

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-o! Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

教科書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で直接フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度（60%）、技術の習熟度（20%）、グループ課題発表（10%）、学期末レポート（10%）

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
３．授業中にガムを噛む、または飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。
４．受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。
上記の点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　今　野　和　志

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館1階多目的ホールB（剣道場）
第1講　イントロダクション（授業計画の説明、評価について）
第2講　インラインスケート①（基本姿勢、歩行）
第3講　インラインスケート②（前方への移動、停止、方向転換）
第4講　キンボール①（ルールとマナー、ゲーム）
第5講　キンボール②（リーグ戦）
第6講　ユニホック①（ルールとマナー、ハンドリング）
第7講　ユニホック②（ボール回し、シュート）
第8講　ユニホック③（ゲーム）
第9講　ユニホック④（リーグ戦）
第10講　フライングディスク①（バックハンドスロー、フォアハンドスロー）
第11講　フライングディスク②（オーバーハンドスロー、キャッチング）
第12講　アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム）
第13講　アルティメット②（リーグ戦）
第14講　講義のまとめ
*講義の内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．室内用のシューズを準備してください。

準備学習の内容

事故や怪我を予防するため、前日に充分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようこころがけてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

本授業は実技科目であるため、適宜授業内にフィードバックします。

成績評価の方法

授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　田　中　千　晶

授業の概要・到達目標

日常的に身体をよく動かす事は、子どもにとっても成人・高齢者でも、現在のみならず、その後の健康にも影響する事が知られています。遊びや運動・スポーツを含む身体を動かす時間の減少に加え、スクリーンタイムの増加は、全ての人の共通した課題です。本科目では、遊びや運動・スポーツとヒトの身体の発育、運動能力の獲得、心理・社会性の発達に及ぼす関連要因、成人・高齢者の遊びや運動・スポーツとの現状・課題が説明でき、セルフケア能力を高め、自らおよび周囲の人々の心身とその発達を理解し、学習成果を疾病予防と健康増進へ向けた具体的行動やライフスタイルづくりにも生かせるようになることを到達目標とします。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　幼児から高齢者の身体機能の発達と測定法
第3回目　スポーツ鬼ごっこ：チーム対戦型の鬼ごっこ
第4回目　縄跳び、長縄、伝承遊び
第5回目　ダーツ
第6回目　ユニカール1
第7回目　ユニカール2
第8回目　キンボール
第9回目　対象別レクリエーション企画の立案
第10回目　子どもの遊び、運動・スポーツの企画の実施
第11回目　親子の遊び、運動・スポーツの企画の実施
第12回目　成人の遊び、運動・スポーツの企画の実施
第13回目　高齢者の遊び、運動・スポーツの企画の実施
第14回目　まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位取得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

半期に数回、個人やグループ単位で課題提出があります。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要になります。また課題を数回出します。成績は、以下の点から総合的に評価します：授業への参加度（60%），グループ活動への貢献度（20%），課題評価（20%）

その他

運動に適した服装や靴を着用し、受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　齋　藤　　実

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：多目的ホールB（剣道場）　教材：剣道
第１回：オリエンテーション、剣道の歴史と教育的意義
第２回：剣道の礼法と所作
第３回：剣道の動機付け　（新聞紙切り、発声、剣道的ゲーム）
第４回：竹刀操作と実際の打突　（素振り、竹刀への打突）
第５回：木刀を用いた稽古法１　（剣道基本技稽古法基本１～４）
第６回：木刀を用いた稽古法２　（剣道基本技稽古法基本５～９）
第７回：技能評価　（剣道基本技稽古法）
第８回：剣道具着用の仕方、剣道具への打ち方と打たせ方、剣道具の片づけ方
第９回：踏み込み足での仕掛け技　（剣道基本技稽古法基本１～４）
第10回：踏み込み足での仕掛け技と応じ技　（簡単な試合）
第11回：模擬審査（１級レベル、初段レベル）
第12回：試合のやり方と審判のやり方
第13回：技能評価１（試合と審判）
第14回：技能評価２（試合と審判）

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．服装の準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。
５．手ぬぐいの用意をお願いします。
６．昇級審査（全日本剣道連盟）に参加することができます（希望制）。

準備学習の内容

授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『日本剣道形解説書』、『剣道指導要領』、全日本剣道連盟

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を授業内にて取り上げて講評する。

成績評価の方法

平常点評価 70%：授業態度、授業への参加度（健康管理、コンディショニング）、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。
授業内評価 30%：実技評価、筆記（ルール、マナーについて）試験等を実施し、技能、理解度を評価する。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

特任講師　竹　崎　一　真

授業の概要・到達目標

現在、世界保健機構（WHO）は、「健康」を「単に病気あるいは虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に良好な状態（全人的健康）」として定義している。アメリカの医学者ハルバート・ダンはこの定義をさらに深め、より良い状態にするために、自己の身体への気づきを深め、QOL（生活の質）を追求する積極的な健康法である「ウェルネス」を提唱した。
本授業では、ダンが提唱する「ウェルネス」を実践的に学ぶことに加えて、身体運動やスポーツの実践に不可欠な「身体の多様性」や「他者との共生」についての理解も高めていくことを目標とする。多様性に対する理解の高まりとともに、ユニバーサルデザイン（文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した設計）への取り組みが重要視されている今日、「ウェルネス」にもそうした考え方を導入することが求められている。そのため授業では、自己の身体への気づきを高めることを目的とした身体運動とスポーツの実践だけでなく、身体の多様性を学ぶことを目的とした障害者スポーツの実践や、他者との共生についての理解を深めるためのスポーツのルール開発を実践する。

授業内容

本授業では、いわゆる「競技スポーツ」ではなく、ライフキネティックやパラスポーツ、ニュースポーツなど、誰でも能力に関係なく参加できるスポーツ中心に行う。
＜授業場所：SR11＞
第１回：イントロダクション
第２回：ライフキネティック①
第３回：ライフキネティック②
第４回：ストレングス＆コンディショニング
第５回：ユニホッケー①
第６回：ユニホッケー②
第７回：パターゴルフ
第８回：ドッチビー
第９回：ペタンク／ボッチャ
第10回：ユニホッケー③
第11回：フットサル
第12回：ブラインドサッカー
第13回：ライフキネティック③
第14回：まとめ
※授業内容は、状況に応じて変更することがあります。

履修の注意点

運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズを使用すること。体調管理を徹底すること。

準備学習の内容

日常的な運動習慣を身につけましょう。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業時に行います。

成績評価の方法

・評価を受けるためには３分の２以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢（60点）、クラスメイトとの関わり方（20点）、期末レポート（20点）から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　緒　方　貴　浩

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：剣道場
第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明）
第2回：ボディワーク①
第3回：ボディワーク②
第4回：ショートテニス①
第5回：ショートテニス②
第6回：シッティングバレー①
第7回：シッティングバレー②
第8回：ユニホック①
第9回：ユニホック②
第10回：インラインスケート
第11回：スポーツ鬼ごっこ
第12回：ダブルダッチ
第13回：大縄跳び
第14回：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

1．ルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を積極的に活用し、授業の課題に取り組むこと。
2．運動習慣確立のために日常生活における身体活動量の増加に務めること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、必要に応じて授業内またはOh-o!Meijiシステムを通じて行います。

成績評価の方法

成績は、以下の観点から総合的に評価する。
1．実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢）
2．理解点（20%）：ルールおよびマナーの理解（幅広い教養としての知識・理解）
3．技能達成度（30点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　成　瀬　和　弥

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：プール
第1回：オリエンテーション
第2回：水慣れ
第3回：アクアエクササイズ
第4回：スキンダイビング
第5回：クロール
第6回：クロール
第7回：平泳ぎ
第8回：平泳ぎ
第9回：水球　ルールと歴史
第10回：水球　パス
第11回：水球　シュート
第12回：水球　ゲーム
第13回：水球　ゲーム
第14回：水球　ゲーム

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください

準備学習の内容

クロール、平泳ぎの技術について調べる。

教科書

特に指定しない。

参考書

水泳体幹トレーニング　小泉圭介　マイナビ　2014年

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題（レポート）について、その後の授業もしくはクラスウェブを用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

技能40%、知識・理解60%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　成　瀬　和　弥	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：プール
第1回：オリエンテーション
第2回：水慣れ
第3回：アクアエクササイズ
第4回：スキンダイビング
第5回：クロール
第6回：クロール
第7回：平泳ぎ
第8回：平泳ぎ
第9回：水球　ルールと歴史
第10回：水球　パス
第11回：水球　シュート
第12回：水球　ゲーム
第13回：水球　ゲーム
第14回：水球　ゲーム

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください

準備学習の内容

クロール、平泳ぎの技術について調べる。

教科書

特に指定しない。

参考書

水泳体幹トレーニング　小泉圭介　マイナビ　2014年

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題（レポート）について、その後の授業もしくはクラスウェブを用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

技能40%、知識・理解60%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
教授　後　藤　光　将	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館2階スポーツルームA（卓球場）
第1回：オリエンテーション、基本的知識の習得（ルールの理解など）
第2回：ラリーの実践（フォアー・バック）
第3回：サーブ・レシーブ、ミニゲーム
第4回：スマッシュ、ミニゲーム
第5回：ダブルスゲームの基本戦術
第6回：ダブルスゲームの応用戦術
第7回：ダブルスゲームの実践
第8回：シングルスゲームの実践
第9回：ダブルスチャンピオンゲーム（1）
第10回：ダブルスチャンピオンゲーム（2）
第11回：ダブルスチャンピオンゲーム（3）
第12回：ダブルスチャンピオンゲーム（4）
第13回：ダブルスチャンピオンゲーム（5）
第14回：ダブルスチャンピオンゲーム（6）

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

卓球のルールやマナーについて事前に調べてください。健康に関する情報収集を常に心懸けてください。

教科書

特に指定はしません。必要な資料は授業中に配布します。

参考書

特に指定はしません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのレポート機能を用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢（40%）、出席（30%）、期末レポート（30%）

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉
1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　石　渡　貴　之

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：テニスコート
第１回：ガイダンス（授業の目的、内容、注意点の確認等)、テニスの特性、ルール
第２回：グリップと構え、フォア・バックハンドの打ち方、練習
第３回：サーブの打ち方、ショートラリー（フォア・バック)、シングルスゲーム
第４回：サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲーム
第５回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦①
第６回：グループ演習課題打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦②
第７回：グループ課題発表①、ダブルスゲーム説明、練習
第８回：グループ課題発表②、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム①
第９回：グループ課題発表③、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム②
第10回：グループ課題発表④、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム③
第11回：グループ課題発表⑤、団体戦①
第12回：グループ課題発表⑥、団体戦②
第13回：グループ課題発表⑦、団体戦③
第14回：まとめ、学期末レポート作成

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-o! Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

教科書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で直接フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度（60%)、技術の習熟度（20%)、グループ課題発表（10%)、学期末レポート（10%）

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
３．授業中にガムを噛む、または飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。
４．受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。
上記の点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　杉　山　仁　志

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

第１講　ガイダンス(ゴルフ練習場)
第２講　グリップの基本及びスイングの基本　1
第３講　グリップの基本及びスイングの基本　2
第４講　ハーフスイングからのショット　1
第５講　ハーフスイングからのショット　2
第６講　フルスイングショット　1
第７講　フルスイングショット　2
第８講　フルスイングショット　3
第７講　フルスイングショット　4
第８講　フェアウエーウッドショット（能力別）1
第９講　フェアウエーウッドショット（能力別）2
第10講　フェアウエーウッドショット（能力別）3
第11講　ドライバーショット（能力別）1
第12講　ドライバーショット（能力別）2
第13講　パター
第14講　まとめ

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

ゴルフスイングの基本となるグリップ・スイングなどを雑誌及びメディアを利用し、理解しておくこと。
自分が行っているスイング動画をチェックする。(プロのスイングと比較など)

教科書

特に指定しません。

参考書

PGA基本ゴルフ教本（社）日本プロゴルフ協会（監修）　学研

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別ついては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

（１）授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。
（２）平常点100％

その他

１．各種目に適切な服装や靴、については担当教員の指示に　従って下さい。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診して下さい。

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　水　口　　潔	

授業の概要・到達目標

【授業の概要】授業は、体育館にて行う。技術および体力別にグループに分かれて活動することから、自主的な練習への取り組みが強く求められる。主にバドミントンの基本技術の習得と、基礎的なルール・マナー等を学ぶことによって、バドミントンへの理解を深める。室内専用シューズを準備すること。他にバレーボールやユニホックなども実施可能なエリアで授業を実施します。
【授業の到達目標】それぞれの技術レベルに応じて、バドミントンのゲームを楽しむことのできる技術を取得し、バドミントンを通し、スポーツの魅力と楽しさを実感する。その他のスポーツも楽しんで参加することを目標とします。

授業内容

第1回：ガイダンス
第2回：基本技術の練習（フォアハンドストローク）
第3回：基本技術の練習（バックハンドストローク）
第4回：基本技術の練習（ヘヤピン）
第5回：基本技術の練習（スマッシュ）
第6回：サーブ&レシーブ
第7回：基本的なルール・マナー・審判法およびバドミントンの歴史（入門編）
第8回：ゲームにおける基本的戦術
第9回：ゲーム形式の練習（ダブルス中心、攻撃の際の動き方）
第10回：ゲーム形式の練習（ダブルス中心、守りの際の動き方）
第11回：リーグ戦（ダブルス）1回戦
第12回：リーグ戦（ダブルス）2回戦
第13回：チーム対抗戦1回戦
第14回：チーム対抗戦2回戦
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

履修開始の第1週目(授業の開講時限)は,インフォメーションボードで,指定された教室に集合してください。通常授業に関しては,以下の点に留意してください。これが準備学習となります。
（1）心身のコンディションを整えて出席してください。
（2）スポーツ活動にふさわしいシューズやウェアを着用してください。
（3）授業の進行および安全管理の観点から,遅刻は厳禁とします。
雨天時の対応などは実技に関する指示は,体育館の入り口にあるインフォメーションボードに掲載されていますので、授業前に必ず目を通してください。

準備学習の内容

ネット上の動画なども含め、興味のある映像などを見ておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、改善点などを報告し合い、次の課題を見つけていく。
最終授業日に期末実技試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

単位の取得には,開講日数の2/3以上の出席が必要です。2/3以上出席した者について、以下のような比率により総合的に評価します。
(a)平常点:40% (b)理解力・コミュニケーション能力:40% (c)技能・体力:20% &.実技能力や向上度、ルールの理解度などを見るために試験を実施し、レポートの提出を求めます。

その他

科目ナンバー：(PE)HES193J	
運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次
兼任講師　針ヶ谷　雅　子	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、運動学演習I-1で学んだ知識や経験を活かし、実際にスポーツを体験・習得しながら、スポーツの魅力や身体を動かすことの楽しさを十分に味わい、生涯にわたる運動習慣の基盤とすることです。また、友人と協力したり、助言し合ったりしながら互いに成長することも有意義な体験です。さらに、自ら工夫して技術を身につけたり、練習に没頭するような経験から、自己を理解し、意欲が湧き、生き生きとした大学生活につなげることも目指します。

授業内容

使用施設：テニス場
第1回：ガイダンス
第2回：ストレッチと体力チェック
第3回：ラケットの持ち方・ボールを使った基礎練習
第4回：ストロークの打ち方（フォア・バック）
第5回：ラリーの練習・ミニゲーム
第6回：サービスの基礎・ミニゲーム
第7回：ボレーの基礎・ミニゲーム
第8回：ダブルスのルール・ダブルスのミニゲーム
第9回：ダブルス①
第10回：ダブルス②
第11回：ダブルス③
第12回：シングルス①
第13回：シングルス②
第14回：まとめ・ふりかえり

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．睡眠や食事をきちんととり、元気なからだで参加してください。

準備学習の内容

学びを深めるため、また、生涯スポーツとして活用するため、授業で触れた教材について、書籍やインターネットを活用して補習・復習することを推奨します。

教科書

教科書は使用しません。

参考書

（1）これでダブルスに勝てるー知的テニスのすすめー（Bob Harman & Keith Monroe著/勝田茂 訳、アイオーエム）

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で実施します

成績評価の方法

（1）平常点（参加、意欲、取り組み、積極性、協調性など）60%
（2）達成度（種目・教材の特性をどの程度理解しているか）30%
（3）学期末レポート（授業で学んだことを整理してまとめる）10%

その他

1．各種目に適切な服装については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

場所：多目的ホールC（柔道場）
第１回：イントロダクション
第２回：コラボレーティブゲーム１
第３回：コラボレーティブゲーム２
第４回：ボッチャの基礎（持ち方、投げ方、ルール）
第５回：ボッチャのゲーム１
第６回：ボッチャのゲーム2 ボールジャグリングの応用
第７回：ウォーキングラリー
第８回：ボールジャグリングの基礎１（1ボールから３ボールカスケード）
第９回：ボールジャグリングの基礎２（安定した３ボールカスケード）
第10回：(オーバーザトップ、ワンアップ・ツーアップ）
第11回：シッティングバレーボール１
第12回：シッティングバレーボール２
第13回：シッティングバレーボール３
第14回：まとめ

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．赤い靴ひもの室内用運動靴を用意してください。

準備学習の内容

様々なニュースポーツ、パラスポーツに取り組みますので各種文献やウェブサイトでルールなどをあらかじめ予習しておいてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのレポート機能を用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢（40%）、出席（30%）、期末レポート（30%）

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉1.各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

兼任講師　高　梨　美　奈

授業の概要・到達目標

実施種目：スポーツクライミング
授業概要：
　クライミングは、これまで経験したことのない人、運動が得意な人もそうでない人でも、自分のペースで取り組めるスポーツです。
クライミングを通して、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。本授業では、クライミングの中の「ボルダリング」「ロープクライミング」を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体への理解を深めます。講義やリフレクションを15分ほど導入し、自分で目標を立ててチャレンジすること、また他者を観察し他者から学ぶこと、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感得できるよう、グループワークも取り入れていきます。
到達目標：
・クライミングの基本技術について理解し説明できる。
・ロープクライミングの技術を習得し、安全に行うことができる。
・ボルダリングの課題を作ることができる。
・ルートを正確に読むことができる。
・事故や怪我を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。
・スポーツを通じて仲間と協力や励まし合いコミュニケーションを活発にすることができる。
・生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心を高めることができる。
・感情や自らの言動を客観的に振り返ることで、自分自身と向き合い、自己分析力を高めることができる

授業内容

使用施設：クライミングウォール
第１回：オリエンテーション（授業の概要に関する説明、カード記入）
第２回：クライミングの概要，安全対策
第３回：コンディショニング（筋トレ，ストレッチ），ボルダリングとロープクライミング
第４回：グループワーク，フットワーク（足の置き方）
第５回：グループワーク，ホールドの持ち方、体の動かし方（ムーヴ）
第６回：グループワーク，ルートを読む（オブザベーション）
第７回：グループワーク，オリジナル課題を作る
第８回：グループワーク，ロープクライミング（安全システムを学ぶ)/　ボルダリング
第９回：グループワーク，ロープクライミング（ビレイを学ぶ)/ボルダリング
第10回：グループワーク，ロープクライミング（チームビレイ)/ボルダリング
第11回：目標設定，自分の目標を決めて登る
第12回：グループワーク，課題を作る
第13回：コンペティション，コンペティション
第14回：まとめ、レポート提出
クラスメートとのコミュニケーションを重視し、グループによる活動を行います。
状況により、場所を変更する日があるかもしれません。必ず掲示を確認するようにしてください。

履修の注意点

1.本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2.単位修得にあたっては、授業実施回数の**3 分の 2 以上**の出席が必要となります。
3.医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4.受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。
5.薄手の靴下を持参して下さい。
６．自己や他者に対し危険を及ぼす行為と教員が判断した場合は、授業を見学あるいは退出していただく場合があります。

準備学習の内容

（予習）スポーツクライミングに関するルールおよびリスク・安全管理について理解する。
　　授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。
（復習）授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。
　　授業後はリフレクションシートを記入すること。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。授業で資料を配布することがあります。
おすすめ 「完全図解スポーツクライミング教本」 東秀磯　著, 山と渓谷社

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiを利用します。
質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。

成績評価の方法

１．授業参加度や積極性（70%）
　①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度
　などを総合的に評価します。
２．目標達成度（10%）
　毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します
３．　レポート（20%）
　授業を振り返り、最終日にレポートを提出する

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：メインホール
第１講　バレーボール(１)～基本的なスキルとルール確認
第２講　バレーボール(２)～レシーブとトス
第３講　バレーボール(３)～スリータッチによるゲーム
第４講　バレーボール(４)～スリータッチによるゲーム
第５講　シッティングバレーボール体験
第６講　キンボール(１)～ゲーム作りその１
第７講　キンボール(２)～ゲーム作りその２
第８講　キンボール(３)～ゲーム作りその３
第９講　キンボール(４)～正規のルールでのゲームと戦略・戦術
第10講　なわとび（長なわ）コンビネーション(１)
第11講　なわとび（短なわ）コンビネーション(２)
第12講　なわとびコンビネーション(３)
第13講　なわとびパフォーマンス
第14講　まとめ

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．爪が伸びている場合は実技を行うことはできず見学をすることになります。

準備学習の内容

半期に数回、個人やグループ単位で課題を出します。それらの課題については授業時間外で取り組むことになります。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要になります。またレポート課題を数回出します。成績は以下の点から評価します：
１）授業への参加度（60%）
２）グループ活動への貢献度（20%）
３）課題評価（20%）

その他

１．適切な服装や靴についてはガイダンスにて説明します。
２．種目によってはメガネの着用を禁止します。
３．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようになることを目的としている。
受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに応用できるようになる。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。

授業内容

使用施設：スポーツルームA
第１回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第２回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー
第３回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける
第４回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践
第５回：シングルス・ゲーム実践（１）
第６回：シングルス・ゲーム実践（２）
第７回：シングルス・ゲーム実践（３）
第８回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践
第９回：ダブルス・ゲーム実践（１）
第10回：ダブルス・ゲーム実践（２）
第11回：ダブルス・ゲーム実践（３）
第12回：様々な形式でのゲーム実践（１）
第13回：様々な形式でのゲーム実践（２）
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

１．運動学演習Iは１年次必修科目である。週１回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
２．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
３．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となる。
４．授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。
５．運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出ること。
６．４月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切な技能の向上が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など） 30%

その他

１．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
２．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
３．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
４．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
５．上記４点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようになることを目的としている。

受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに応用できるようになる。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。

授業内容

使用施設：スポーツルームA
第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス）
第2回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー
第3回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける
第4回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践
第5回：シングルス・ゲーム実践（1）
第6回：シングルス・ゲーム実践（2）
第7回：シングルス・ゲーム実践（3）
第8回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践
第9回：ダブルス・ゲーム実践（1）
第10回：ダブルス・ゲーム実践（2）
第11回：ダブルス・ゲーム実践（3）
第12回：様々な形式でのゲーム実践（1）
第13回：様々な形式でのゲーム実践（2）
第14回：まとめと振り返り

履修の注意点

1．運動学演習Iは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。
2．運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3．運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4．授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。
5．運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。
6．4月に実施される健康診断を必ず受診すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

実技科目であるため、必要に応じてフィードバックをして修正点等の明確化を図り、適切な技能の向上が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート（提出状況、内容など） 30%

その他

1．受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。
2．運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3．受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。
4．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5．上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES193J

運動学演習Ⅰ－2	1単位
	1年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
本授業は、和泉5学部（法、商、政経、文、経営）における1年次必修体育実技科目受講者のうち、なんらかの理由によって、本来のクラスや時間割での受講ができない者を対象として実施するクラスです。本授業は、受講者個々の事情によって授業内容を調節するため、コンディショニングクラス（以下、Cクラス）と呼ばれています。
【到達目標】
1．各自の心身のコンディションを把握し、適切な知的・身体的活動を行うことができる。
2．毎回の授業内容について正確に記述することができる。

授業内容

＜場所＞
和泉総合体育館2階フィットネスルーム
＜機器・用具＞
○有酸素運動：ステーショナルバイク15台、トレッドミル5台、ステップマシン1台
○筋力トレーニング：マシン（上肢5台、体幹5台、下肢3台）、フリーウエイト
○パワー系：バイク3台
○バランス系：バランスボール10個
○柔軟性：ストレッチマット多数
○測定機器：身体組成ほか
＜授業内容＞
○出欠の確認
○毎回の授業における個別面談により、本授業で何を実施していくかを決定
○受講者個々に決まった内容（実技、調査）を実施
○リアクションペーパー提出

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の 3 分の 2 以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

授業前後に自身の心身の状況を把握してください。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、提出期限後に授業時間内に全体フィードバックをおこなう。
個別フィードバックについては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み状況（40%）、授業中の提出物（30%）期末レポート（20%）から総合的に評価します。
3分の2以上の出席が必要になります。

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES198J

運動学演習Ⅰ－2（特定　スポーツ）	1単位
	1年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、スポーツ特別入試で入学した体育会所属の学生を対象に、高い競技レベルで活躍するために身につけておくべき応用的知識について、実技と講義を通じて学ぶことである。基本的な授業内容は春学期に準じているが、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣について、自身の競技種目により特化した内容とする。受講生が、競技力を高めるためために必要な知識とそのための習慣を、この授業を通して身につけ、適切に実践できるようになることを到達目標とする。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第1回：ガイダンス（秋学期授業スケジュールの確認等）、形態計測（体組成、周径囲）
第2回：体力測定（筋力、筋持久力、柔軟性、平衡性、全身持久力）
第3回：体力測定（全身持久力、敏捷性）
第4回：体力測定（無酸素パワーテスト、脚伸展パワー）
第5回：体力測定（垂直跳、全力ペダリングピークパワー）
第6回：コンディショニング②／ピーキングとテーパリング（講義）
第7回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング
第8回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング
第9回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング
第10回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング
第11回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング
第12回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング
第13回：アンチドーピング（講義）、レポート課題提示
第14回：まとめ（レポートの提出・回収）

履修の注意点

1．本授業は1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。
2．本授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。
3．本授業の単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
4．授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認め、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。
5．大会出場、強化合宿、遠征等で授業を欠席する場合は、学部指定の「欠席届」を必ず提出すること。提出がない場合は、通常の欠席として取り扱う。
6．授業中に出された課題・レポート等は必ず行い、提出を求められた場合は必ず提出すること。
7．授業への出席に関する相談（特にスキー、スケート等の冬季種目）は、担当教員と連絡を密にして対応すること。

準備学習の内容

実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業参加に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、自身の競技力向上に必要と思われる様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

スポーツ競技者に特化した科目であるため、課題や講義に関するフィードバックを必要に応じて行い、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣が得られるように努める。

成績評価の方法

成績評価は以下の通り行う。
1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など） 70%
2. レポート・課題（提出状況、内容など） 30%

その他

1．受講中にガムを噛む、また飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。
2．運動に適した服装、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。
3．受講中にスマートフォンを身につけること、および使用は厳禁とする。
4．授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。
5．上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。

科目ナンバー：(PE)HES198J

運動学演習Ⅰ－2（特定　スポーツ）	1単位
	1年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

本授業は、スポーツ特別入試で入学した体育会所属の学生を対象に、高い競技レベルで活躍するために身につけておくべき専門的な知識について、実技ならびに講義を通じて学びます。自身の専門種目以外の運動種目についても理解を深め、他者の考え方や取り組みから自身のパフォーマンス向上に繋げられる広い視野を持つことが望まれます。この授業を通して、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣を身につけることを到達目標とします。本授業では、パフォーマンス向上に関わる知識や技能（トレーニング、運動生理学、運動栄養学、解剖学等）を講義と実践の両面から身に付けます。

授業内容

使用施設：フィットネスルーム
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　フィットネスルームの使い方
第3回　ビッグスリーのフォーム、1RM測定
第4回　栄養と休養、各自のトレーニング
第5回　トレーニングの原理と原則、各自のトレーニング
第6回　筋の肥大、各自のトレーニング
第7回　心拍数とトレーニング、各自のトレーニング
第8回　怪我の予防と対処法、各自のトレーニング
第9回　ベンチプレスのバリエーション、各自のトレーニング
第10回　スクワットのバリエーション、各自のトレーニング
第11回　デッドリフトのバリエーション、各自のトレーニング
第12回　ストレッチの重要性、各自のトレーニング
第13回　1RM測定、各自のトレーニング
第14回　まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．　授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。
5．　授業を正当な理由（大会出場、強化合宿、遠征等）で欠席する場合は、学部指定の欠席届を必ず提出してください。提出がない場合は、無断欠席として取り扱います。

準備学習の内容

体育・スポーツに関わる本や資料を積極的に読むようにしましょう。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業開始時に講義形式で行います。

成績評価の方法

授業への取り組み（50%）・意欲や態度（30%）・レポート（20%）で総合的に判断します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

実施種目：クライミング

クライミングとはとっ手（ホールド）のついた人口壁を縦に横に移動し、自分の課題ルートのクリアを目指す身体活動です。腕力が必要なように思うかもしれませんが、むしろバランス力が求められ、男女を問わず様々な体格や体力レベル、運動経験をもつ学生が各自で決めた課題ルートに取り組むことができます。

この授業の前半では高さ4mほどの人口壁を補助具を付けずに登るボルダリングを、後半はハーネスとロープを使い約10mの壁を登るロープクライミングを実践します。

クライミングは基本的には個人の活動ですが、ロープクライミングでは登っている人のロープを確保する活動が加わります。そうしたことから毎回の授業ではグループを作り、グループメンバーのコミュニケーションを通じて各自の知識をより確かなものにし、スキルの向上を目指します。最終的には、街中にあるボルダリング施設等で個人で活動できるようになることを到達目標とします。

競争原理に基づくスポーツとは違った協同原理の身体活動を体験してください。

授業内容

使用施設：クライミングウォール

第1回：イントロダクション～クライミングのルールと安全管理、設備と用具について
第2回：ホールドの持ち方、足の使い方、オブザベーション
【ボルダリング】
第3回：三点支持と正対ムーブ
第4回：二点支持とダイアゴナル
第5回：多様なムーブ
第6回：フラッギング
第7回：各自の課題練習、ロープクライミングの基本技術
【ロープクライミング】
第8～9回：ロープクライミング1回目
第10～11回：ロープクライミング2回目、バディによるビレイ練習
第12～13回：ロープクライミング3回目、バディによるビレイ
第14回：まとめ

履修の注意点

1．定員を超えた場合は抽選を行います。詳細については4月のガイダンスにて説明します。
2．単位修得のためには、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．実技と講義の内容に関するレポート課題を出します。
4．服装については教員の指示に従うこと。
5．爪が伸びている場合は実技を行うことができず見学となります。

準備学習の内容

常にクライミングの情報を集めるよう心がけましょう。またクランプなど、個々人に必要なトレーニングを見つけて日々取り組めると良いです。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位修得のためには、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要になります。また実技と講義の内容にかかわるレポート課題を出します。成績は以下の点から評価します：
1）各自の課題への取り組み（50%）
2）グループワークへの参加度（20%）
3）クライミングスキル評価（20%）
4）レポート評価（10%）

その他

受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診しておくこと。クライミングに必要な専用シューズはレンタルすることができます。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　佐　古　隆　之

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。
実施種目：バドミントン

＜到達目標＞
ハイクリア、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピンなどの基本的技術を習得するための練習に加えて、ゲームを数多く行うことで、バドミントンに必要な「動く」「打つ」「読む」能力の向上を目指します。

授業内容

使用施設：サブホール
第1講：春学期授業のイントロダクション
第2講：グリップについての説明、ストローク練習（1）ハイクリア
第3講：ストローク練習（2）ドライブ、ドロップ
第4講：ストローク練習（3）スマッシュ、ヘアピン
以降、毎授業の前半30分は各種ストローク練習を行う。
第5講：シングルスゲームの実践（1）ハーフコート
第6講：シングルスゲームの実践（2）ハーフコート（レベル分け）
第7講：シングルスゲームの実践（3）ハーフコート（レベル別）
第8講：シングルスゲームの実践（4）オールコート（レベル別）
第9講：ダブルスゲームの実践（1）
第10講：ダブルスゲームの実践（2）
第11講：ダブルスゲームの実践（3）
第12講：団体戦のためのチーム作り
第13講：団体戦の実践（1）
第14講：団体戦の実践（2）

履修の注意点

1．単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
2．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。

準備学習の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の開始時および終了時に、当該授業での到達目標および学修状況について、履修学生全体に口頭で説明をする。
また、最終授業時には全授業の総括を口頭で説明する。

成績評価の方法

（1）平常点60%…授業への取り組み情況、積極性
（2）実技内容の習得度20%
（3）授業への貢献度20%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　佐　古　隆　之

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。
実施種目：バドミントン

＜到達目標＞
ハイクリア、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピンなどの基本的技術を習得するための練習に加えて、ゲームを数多く行うことで、バドミントンに必要な「動く」「打つ」「読む」能力の向上を目指します。

授業内容

使用施設：サブホール
第1講：春学期授業のイントロダクション
第2講：グリップについての説明、ストローク練習（1）ハイクリア
第3講：ストローク練習（2）ドライブ、ドロップ
第4講：ストローク練習（3）スマッシュ、ヘアピン
以降、毎授業の前半30分は各種ストローク練習を行う。
第5講：シングルスゲームの実践（1）ハーフコート
第6講：シングルスゲームの実践（2）ハーフコート（レベル分け）
第7講：シングルスゲームの実践（3）ハーフコート（レベル別）
第8講：シングルスゲームの実践（4）オールコート（レベル別）
第9講：ダブルスゲームの実践（1）
第10講：ダブルスゲームの実践（2）
第11講：ダブルスゲームの実践（3）
第12講：団体戦のためのチーム作り
第13講：団体戦の実践（1）
第14講：団体戦の実践（2）

履修の注意点

1．単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
2．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。

準備学習の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の開始時および終了時に、当該授業での到達目標および学修状況について、履修学生全体に口頭で説明をする。
また、最終授業時には全授業の総括を口頭で説明する。

成績評価の方法

（1）平常点60%…授業への取り組み情況、積極性
（2）実技内容の習得度20%
（3）授業への貢献度20%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　一　川　大　輔

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉体育館イースト1階：外階段を降りた先のゴルフレンジ
第1回　オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、パッティング基礎
第2回　パッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解
第3回　アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎
第4回　アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パター（バックスイングなし型）
第5回　アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パター（インパクト型）
第6回　アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パター（フォロースルー型）
第7回　ショットクロック練習（7時から5時）、パターゲーム
第8回　ショットクロック練習（9時から3時）、パターゲーム
第9回　ショットクロック練習（11時から1時）、パターゲーム
第10回　打ち出し角度を変えるためのショット練習、ショットデータの確認
第11回　各種クラブ（サンドウェッジ）でのショット練習
第12回　各種クラブ（ミドルアイアン）でのショット練習
第13回　実際のラウンドを想定した模擬ショット練習
第14回　まとめ：授業内容の総括

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる（感染症や正式な公欠届に該当しない場合は、欠席と扱いとする：詳細はその他の項を参照）
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。

教科書

特になし

参考書

PGA　基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会）
2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

*授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。
平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%

その他

1．各種目に適切な運動着や運動靴が準備できていない場合は減点対象とする。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
実技における持参品と注意事項
① 体育受講票に貼るための証明写真（縦4cm×横3cm）を必ず準備
② 運動をするのにふさわしいスポーツウェア
（通学時の服装と区別：高校の体操服等でも可）
ゴルフグローブ（使用済のものでもよい：上達が早く、手を痛めにくいため）
③ 自宅を出た時の天候の良・不良に関わらず、実技用の服と運動靴を準備（酷い雨天では屋内施設での実技となる）
更衣は必ず更衣室にておこなうこと（イースト1階の更衣室：外階段を降りたゴルフ練習レンジの隣にある）
○既往症や障害（身体的・精神的）について
1年生の学生で大きな怪我や障害によりクラスでの授業が難しい場合はcクラス（実技内容に配慮した授業）への移動も考慮できます。
事前に担当教員に相談してください。
○「学校において予防すべき感染症」での欠席および公欠（課外活動等）の扱い
インフルエンザやコロナなど「学校において予防すべき感染症」で欠席した場合については、病院を受診する際に本学が指定した「罹患・治癒証明」を持参し、次回出席時に提出してください。以下のサイトにフォーマットがありますので、確認をして下さい。
https://www.meiji.ac.jp/certificate/mkmht0000007ha97.html
課外活動や学会発表等での公欠は部長（教授等）や所属学部からの正式な依頼を示した証明書（エビデンス）がある場合に考慮を検討しますが、必ず事前事後に相談するようにして下さい。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　板橋 マリオ

授業の概要・到達目標

実施種目：硬式テニス
　本授業では、テニス未経験者から上級者までを対象とし、基本的なシングルス、ダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。また、長期到達目標として、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。

授業内容

場所：和泉キャンパス　テニスコート
第1講　イントロダクション（テニスとは）
第2講　硬式テニスボールに慣れる、グラウンドストロークの基本（ラリーが5往復できるようになる）
第3講　グラウンドストロークの復習、シングルスポイントゲーム
第4講　サービス、シングルスゲーム
第5講　シングルス大会
第6講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（デュースサイド）
第7講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（アドバンテージサイド）
第8講　サービスの復習、ダブルスゲーム（デュースサイド）
第9講　サービスの復習、ダブルスゲーム（アドバンテージサイド）
第10講　ダブルス大会
第11講　グラウンドストロークの応用（トップスピン）
第12講　グラウンドストロークの応用（スライス）
第13講　スマッシュ
第14講　団体戦
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

次回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。
また、授業後についても動画を視聴して復習してください。
https:// www.youtube.com/ channel/ UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

教科書

特に指定しません。

参考書

以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。
https:// www.youtube.com/ channel/ UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

課題に対するフィードバックの方法

直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。

成績評価の方法

授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。

その他

1．雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
3．適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　堀　川　浩　之

授業の概要・到達目標

　本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。
到達目標
1．バドミントンの競技特性について概略できる
2．バドミントン競技規則について説明できる
3．ルールやマナーを遵守したスポーツ活動を実践できる
4．基本技能を身に付けスポーツ活動に積極的に参加することができる
5．練習や試合を通じて仲間と協調性や公平性を保つことができる

授業内容

使用施設：サブホール
第1講　a：本授業の進め方、参加方法、評価方法等について説明を受ける
　　b：羽根（シャトル）を使った動きの練習を行う。グリップの説明を受け、前腕の回内動作習得のための直上ショットの練習を行う。
第2講　前腕の回内動作習得のための直上ショット、フォアハンド・バックハンドショットの練習を行う。
第3講　スマッシュについて練習し、簡易ゲームを行う。
第4講　クリアについて練習し、簡易ゲームを行う。
第5講　ドロップについて練習し、簡易ゲームを行う。小テスト（競技規則13条～16条）を受ける。
第6講　ドライブについて練習し、簡易ゲームを行う。
第7講　ヘヤピンについて練習し、簡易ゲームを行う。
第8講　サーブ、ゲーム進行に関する説明を受け、簡易ゲームを行う。
第9講　4人ゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。
第10講　3人ゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。小テスト（競技規則6条～12条）を受ける。
第11講　ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。
第12講　ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。
第13講　ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。
第14講　ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。小テスト（競技規則1条～5条）を受ける。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

＜予習＞小テストは、フォルトやレット、ダブルスのゲームの進め方など基本的な事項について競技規則から出題されます。授業内でも説明していきますが、競技規則に目を通しておいてください。
＜復習＞バドミントンの試合がテレビなどで放映された場合は、積極的に視聴し授業内で実施した技能が試合でどのように活かされているかを確認してください。

教科書

　なし

参考書

　バドミントン競技規則（日本バドミントン協会）
（https://www.badminton.or.jp/rule/docs/rule_20200617.pdf）

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは翌週に全体に対しておこないます。

成績評価の方法

平常点　50%（授業への取り組みの積極性、他の学生との協調性等）
実技点　20%
小テスト　30%（バドミントン競技規則に関するもの、授業内に15分程度で3回実施）

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　板橋 マリオ

授業の概要・到達目標

実施種目：硬式テニス
　本授業では、テニス未経験者から上級者までを対象とし、基本的なシングルス、ダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。また、長期到達目標として、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。

授業内容

場所：和泉キャンパス　テニスコート
第1講　イントロダクション（テニスとは）
第2講　硬式テニスボールに慣れる、グラウンドストロークの基本（ラリーが5往復できるようになる）
第3講　グラウンドストロークの復習、シングルスポイントゲーム
第4講　サービス、シングルスゲーム
第5講　シングルス大会
第6講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（デュースサイド）
第7講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（アドバンテージサイド）
第8講　サービスの復習、ダブルスゲーム（デュースサイド）
第9講　サービスの復習、ダブルスゲーム（アドバンテージサイド）
第10講　ダブルス大会
第11講　グラウンドストロークの応用（トップスピン）
第12講　グラウンドストロークの応用（スライス）
第13講　スマッシュ
第14講　団体戦
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

次回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。
また、授業後についても動画を視聴して復習してください。
https://www.youtube.com/channel/UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

教科書

特に指定しません。

参考書

以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。
https://www.youtube.com/channel/UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

課題に対するフィードバックの方法

直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。

成績評価の方法

授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。

その他

1．雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
3．適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

実施種目：クライミング
　クライミングとはとっ手（ホールド）のついた人口壁を縦に横に移動し、自分の課題ルートのクリアを目指す身体活動です。腕力が必要なように思うかもしれませんが、むしろバランス力が求められ、男女を問わず様々な体格や体力レベル、運動経験をもつ学生が各自で決めた課題ルートに取り組むことができます。
　この授業の前半では高さ4mほどの人口壁を補助具を付けずに登るボルダリングを、後半はハーネスとロープを使い約10mの壁を登るロープクライミングを実践します。
　クライミングは基本的には個人の活動ですが、ロープクライミングでは登っている人のロープを確保する活動が加わります。そうしたことから毎回の授業ではグループを作り、グループメンバーのコミュニケーションを通じて各自の知識をより確かなものにし、スキルの向上を目指します。最終的には、街中にあるボルダリング施設等で個人で活動できるようになることを到達目標とします。
　競争原理に基づくスポーツとは違った協同原理の身体活動を体験してください。

授業内容

使用施設：クライミングウォール
第1回：イントロダクション～クライミングのルールと安全管理、設備と用具について
第2回：ホールドの持ち方、足の使い方、オブザベーション
【ボルダリング】
第3回：三点支持と正対ムーブ
第4回：二点支持とダイアゴナル
第5回：多様なムーブ
第6回：フラッギング
第7回：各自の課題練習、ロープクライミングの基本技術
【ロープクライミング】
第8～9回：ロープクライミング1回目
第10～11回：ロープクライミング2回目、バディによるビレイ練習
第12～13回：ロープクライミング3回目、バディによるビレイ
第14回：まとめ

履修の注意点

1．定員を超えた場合は抽選を行います。詳細については4月のガイダンスにて説明します。
2．単位修得のためには、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．実技と講義の内容に関するレポート課題を出します。
4．服装については教員の指示に従うこと。
5．爪が伸びている場合は実技を行うことができず見学となります。

準備学習の内容

　常にクライミングの情報を集めるよう心がけましょう。またクランプなど、個々人に必要なトレーニングを見つけて日々取り組めると良いです。

教科書

　使用しません。

参考書

　使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

　必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

　単位修得のためには、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要になります。また実技と講義の内容にかかわるレポート課題を出します。成績は以下の点から評価します：
1）各自の課題への取り組み（50%）
2）グループワークへの参加度（20%）
3）クライミングスキル評価（20%）
4）レポート評価（10%）

その他

　受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診しておくこと。クライミングに必要な専用シューズはレンタルすることができます。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次
専任講師　武　田　紘　平	

授業の概要・到達目標

実施種目：アクアスポーツ
自身の健康管理や体力向上のために、継続して運動することは強く推奨されています。この観点から水泳は個人の体力や技術レベルを問わず取り組むことができる種目であることから、「生涯スポーツ」としてベストな運動です。本授業では個人の泳力や目的に合わせて授業を展開し、生涯にわたり水泳に親しみ、取り組むことを目標とします。したがって、泳ぎの得意・不得意は関係ありません。
本授業では近代4泳法を中心に学ぶことで「楽に、綺麗に、速く泳ぐ」ことを目指します。また、スタートやターンなどの泳ぎ以外のテクニックについても学び、自身の記録更新に繋げます。また、スキンダイビングや水球に触れることで水中でのアクティビティの楽しさについても学習します。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館1階プール
第1回　イントロダクション（受講上の留意点など）
第2回　水慣れ、泳力測定
第3回　クロール1（キック・プル）
第4回　クロール2（コンビネーション）
第5回　背泳ぎ1（キック・プル）
第6回　背泳ぎ2（コンビネーション）
第7回　平泳ぎ1（キック・プル）
第8回　平泳ぎ2（コンビネーション）
第9回　バタフライ1（キック・プル）
第10回　バタフライ2（コンビネーション）
第11回　個人メドレー
第12回　スキンダイビング
第13回　水球（パス・ドリブル・シュート）
第14回　水球（ゲーム）、授業のまとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に紹介します。

成績評価の方法

授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次
兼任講師　緒　方　貴　浩	

授業の概要・到達目標

実施種目：テニス
本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：テニスコート
第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明）
第2回：ラケッティング、テニス競技の特性を知る
第3回：グラウンドストローク（フォア・バック）
第4回：ショートラリーからロングラリーへ
第5回：フットワークを意識したグラウンドストローク
第6回：サービスの基礎
第7回：サービス・レシーブ
第8回：ボレー・スマッシュ
第9回：ダブルスマッチの進め方
第10回：ダブルスゲーム（平行陣・雁行陣）
第11回：シングルスゲーム
第12回：リーグ戦①
第13回：リーグ戦②
第14回：まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．テニス競技を観るスポーツとして楽しむことができるようにルールを積極的に覚える努力をしてください。

準備学習の内容

1．ルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を積極的に活用し、授業の課題に取り組むこと。
2．運動習慣確立のために日常生活における身体活動量の増加に務めること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

テニス指導教本Ⅰ
別途、必要に応じて資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、必要に応じて授業内またはOh-o!Meijiシステムを通じて行います。

成績評価の方法

成績は、以下の観点から総合的に評価する。
1．実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢）
2．理解点（20%）：ルールおよびマナーの理解（幅広い教養としての知識・理解）
3．技能達成度（30点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　竹　井　尚　也

授業の概要・到達目標

実施種目：バドミントン

習慣的に運動を行うことは心身の健康を保つうえで重要です。バドミントンは、半球状のコルクに羽がついたシャトルを打ち合う球技です。シャトルの特性上、手元に届くまでにシャトルが減速しやすいためラリーが続きやすく初心者にも取り組みやすい種目です。本授業では、バドミントンの基礎やルールを学び、生涯スポーツの一つとして取り組めるようになることを目指します。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館ウェストサブホール
第1回：授業の説明とオリエンテーション
第2回：バドミントンのルールと基礎、ラケット操作
第3回：シングルス、ダブルスの基礎と戦略
第4回：サービスとラリー
第5回：クリアとドロップ1
第6回：クリアとドロップ2
第7回：スマッシュ1
第8回：スマッシュ2
第9回：ドライブ1
第10回：ドライブ2
第11回：ミニゲーム
第12回：リーグ戦1
第13回：リーグ戦2
第14回：まとめ

履修の注意点

1．単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
2．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください

準備学習の内容

バドミントンの成り立ちやルールについて調べる。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックが必要な場合は、授業内もしくはOh-o! Meijiシステムを介して行います。

成績評価の方法

(a) 平常点：50%　(b) 理解力・コミュニケーション能力:20%
(c) 技能・体力:20%　(d)レポート・提出物10%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　緒　方　貴　浩

授業の概要・到達目標

実施種目：ゴルフ
本授業では種目の特性、必要とされる技術や戦略、運動中の心理的変化、自分に合ったコンディショニング、スポーツの文化的背景の理解などを通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための態度と技能の習得を目指します。さらにゴルフの体験を通じて、基本的なルールやマナー、エチケットとその意味を理解します。そして、ゴルフスイングを論理的に学習していきます。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明）
第2回：グリップ、アドレス、スイング理論（スイングクロック）
第3回：ミドルアイアンを使ってのスイングフォームの形成（スイングクロック①～③）
第4回：ミドルアイアンを使ってのスイングフォームの形成（スイングクロック③～⑤）
第5回：スイング作り（ビデオを使ってスイング修正①）
第6回：ショートアイアンを使ってのスイングフォームの形成
第7回：ロングアイアンを使ってのスイングフォームの形成
第8回：ドライバーのスイング理論（ビデオを使ってスイング修正②）
第9回：ドライバーショット時のティーの高さの考え方
第10回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチショット）
第11回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチエンドラン、チップショット）
第12回：パッティング技術の習得
第13回：ミニゲーム①
第14回：ミニゲーム②

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．ゴルフ競技を観るスポーツとして楽しむことができるようにルールを積極的に覚える努力をしてください。

準備学習の内容

下記サイト（日本ゴルフ協会）を参考にルールについて学習すること。
・ゴルフ規則について（https://www.jga.or.jp/jga/html/rules/image/Rules_2023.pdf）
・ゴルフ規則動画（https://www.jga.or.jp/jga/html/rules/movie.html）

教科書

ゴルフには様々なスイング理論があるため、1つと限定した教科書は使用しない。

参考書

・PGAジュニア基本ゴルフ教本
別途、必要に応じて資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、必要に応じて授業内またはOh-o!Meijiシステムを通じて行います。

成績評価の方法

成績は、以下の観点から総合的に評価する。
1．実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢）
2．理解点（20%）：ルールおよびゴルフのラウンドマナー・エチケットの理解（幅広い教養としての知識・理解）
3．技能達成度（30点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

兼任講師　梅　澤　秋　久

授業の概要・到達目標

実施種目：バレーボール

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。

運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質・能力（身体的リテラシー）の育成をねらいとします。特にバレーボールを行うため、身体的距離を確保しつつ、相手コートにボールを落とせるか／自コートに落とさせないかの機能的特性を味わう中で、豊かなスポーツライフに資するスキルを協働探究していきます。各回にテーマを掲げますが、原則ゲーム中心に授業を進めていきます。

授業内容

使用施設：メインホール

第1回　オリエンテーション　（受講上の留意点についてのイントロダクション）
第2回　からだを使ったアイスブレイク　（仲間づくりをしよう）
第3回　ネット型ボール運動の面白さを味わおう　（自コートにボールを落とさない面白さ）
第4回　面でボールを扱う面白さを味わおう　（アンダーハンドパスのコツを知ろう）
第5回　面でボールを扱う面白さを味わおう　（オーバーハンドパスのコツを知ろう）
第6回　繋いで攻撃しよう　（スパイクやフェイントで相手コートに落とそう）
第7回　サーブで崩そう　（多様なサーブに挑戦しよう）
第8回　ブロックをしよう（攻撃を止めよう）
第9回　トスを左右に振って攻撃しよう　（レフト、ライト、センターからスパイクで攻撃しよう）
第10回　3段攻撃でブロックをかわそう
第11回　性差や能力差を包摂するバレーボールのアダプテーション・ルールをつくろう
第12回　アダプテーション・ルールをつくり競争を楽しもう（自分たちで勝敗のギリギリを楽しめるハンディをつくろう）
第13回　まとめのゲーム大会をしよう
第14回　まとめのゲーム大会をしよう　本授業のまとめ

履修の注意点

1．単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

基礎的な体力づくりを日常から実践しておくこと。

教科書

特になし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の概要・到達目標および授業内容に基づき、実技課題や授業への取り組みに対して、授業中に口頭での助言や示範を行う。あわせて、準備学習や振り返りの内容について適宜講評を行い、次回の学習や自己の課題改善につなげる。これらのフィードバックは、成績評価の観点の理解を促すことを目的とする。

成績評価の方法

授業への参加度50%、身体リテラシー50%(特にバレーボールに関連する資質・能力)

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－1	1単位
	2年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

実施種目：ゴルフ

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

本授業では、ゴルフの競技特性、マナー、ルールの理解を深め、マナー、ルールを遵守しながら活動を実践する能力、簡易ゲームや練習で仲間との協調性や公平性を保つことができることを到達目標とします。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ

第1回　オリエンテーション
第2回　アドレスとグリップ、パッティングの基礎
第3回　アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎
第4回　アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パターゲーム
第5回　アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パターゲーム
第6回　アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パターゲーム
第7回　ゴルフの歴史・ルール・マナー
第8回　方向を定めてのアイアンショット練習、パターゲーム
第9回　方向を定めてのアイアンショット練習、パターゲーム
第10回　方向を定めてのアイアンショット練習、パターゲーム
第11回　様々なクラブ（ウッド等）でのショット練習
第12回　様々なクラブ（ウッド等）でのショット練習
第13回　模擬ラウンド練習
第14回　まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

ゴルフに関するルール、マナーなどの情報収集を心懸けてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのレポート機能を用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢（70%）、期末レポート（30%）から総合的に評価します。
授業回数の3分の1以上欠席した場合は、成績評価対象外とします。

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉1．雨天の場合は屋内施設での活動となりますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次
兼任講師　佐　古　隆　之	

授業の概要・到達目標

使用施設：卓球場
＜授業概要＞
本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について、科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。
実施種目：卓球
各人のレベルに応じ、卓球の基本的な打法の練習とゲームを中心に展開する。
＜到達目標＞
初心者はゲームを楽しめるようになることを目標とする。また中・上級者は戦術の理解を深め、よりレベルの高いゲーム展開が行えるようになることを目標とする。

授業内容

第１回：卓球のルール、特徴についての説明、基本的練習－導入（ラケットの持ち方、基本的ルールの説明）
第２回：基本的練習－導入（フォアハンド）の練習
第３回：基本的練習－導入（バックハンド）の練習
第４回：基本的練習－導入（ツッツキ）の練習、なおフォアハンド、バックハンド、ツッツキは以後の授業前半に繰り返し練習する
第５回：基本的練習－発展（サービス）の練習
第６回：基本的練習－発展（レシーブ）の練習
第７回：基本的練習－発展（スマッシュ）の練習
第８回：応用的練習（シングルス）の試合（１）
第９回：応用的練習（シングルス）の試合（２）
第10回：応用的練習（ダブルス）の試合（１）
第11回：応用的練習（ダブルス）の試合（２）
第12回：応用的練習（団体戦）の試合（１）
第13回：応用的練習（団体戦）の試合（２）
第14回：まとめ

履修の注意点

１．単位修得にあたっては、半期授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
２．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。

準備学習の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の開始時および終了時に、当該授業での到達目標および学修状況について、履修学生全体に口頭で説明をする。
また、最終授業時には全授業の総括を口頭で説明する。

成績評価の方法

（１）平常点60%…授業への取り組み情況、積極性
（２）実技内容の習得度20%
（３）授業への貢献度20%

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次
兼任講師　佐　古　隆　之	

授業の概要・到達目標

使用施設：卓球場
＜授業概要＞
本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について、科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。
実施種目：卓球
各人のレベルに応じ、卓球の基本的な打法の練習とゲームを中心に展開する。
＜到達目標＞
初心者はゲームを楽しめるようになることを目標とする。また中・上級者は戦術の理解を深め、よりレベルの高いゲーム展開が行えるようになることを目標とする。

授業内容

第１回：卓球のルール、特徴についての説明、基本的練習－導入（ラケットの持ち方、基本的ルールの説明）
第２回：基本的練習－導入（フォアハンド）の練習
第３回：基本的練習－導入（バックハンド）の練習
第４回：基本的練習－導入（ツッツキ）の練習、なおフォアハンド、バックハンド、ツッツキは以後の授業前半に繰り返し練習する
第５回：基本的練習－発展（サービス）の練習
第６回：基本的練習－発展（レシーブ）の練習
第７回：基本的練習－発展（スマッシュ）の練習
第８回：応用的練習（シングルス）の試合（１）
第９回：応用的練習（シングルス）の試合（２）
第10回：応用的練習（ダブルス）の試合（１）
第11回：応用的練習（ダブルス）の試合（２）
第12回：応用的練習（団体戦）の試合（１）
第13回：応用的練習（団体戦）の試合（２）
第14回：まとめ

履修の注意点

１．単位修得にあたっては、半期授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
２．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。

準備学習の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の開始時および終了時に、当該授業での到達目標および学修状況について、履修学生全体に口頭で説明をする。
また、最終授業時には全授業の総括を口頭で説明する。

成績評価の方法

（１）平常点60%…授業への取り組み情況、積極性
（２）実技内容の習得度20%
（３）授業への貢献度20%

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

兼任講師　一　川　大　輔

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：和泉体育館イースト1階：外階段を降りた先のゴルフレンジ
第1回　オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、パッティング基礎
第2回　パッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解
第3回　アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎
第4回　アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パター（バックスイングなし型）
第5回　アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パター（インパクト型）
第6回　アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パター（フォロースルー型）
第7回　ショットクロック練習（7時から5時）、パターゲーム
第8回　ショットクロック練習（9時から3時）、パターゲーム
第9回　ショットクロック練習（11時から1時）、パターゲーム
第10回　打ち出し角度を変えるためのショット練習、ショットデータの確認
第11回　各種クラブ（サンドウェッジ）でのショット練習
第12回　各種クラブ（ミドルアイアン）でのショット練習
第13回　実際のラウンドを想定した模擬ショット練習
第14回　まとめ：授業内容の総括

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる（感染症や正式な公欠届に該当しない場合は、欠席と扱いとする：詳細はその他の項を参照）
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。

教科書

特になし

参考書

PGA　基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会）
2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

*授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。
平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%

その他

1．各種目に適切な運動着や運動靴が準備できていない場合は減点対象とする。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
実技における持参品と注意事項
① 体育受講票に貼るための証明写真（縦4cm×横3cm）を必ず準備
② 運動をするのにふさわしいスポーツウェア
（通学時の服装と区別：高校の体操服等でも可）
ゴルフグローブ（使用済のものでもよい：上達が早く、手を痛めにくいため）
③ 自宅を出た時の天候の良・不良に関わらず、実技用の服と運動靴を準備（酷い雨天では屋内施設での実技となる）
更衣は必ず更衣室にておこなうこと（イースト1階の更衣室：外階段を降りたゴルフ練習レンジの隣にある）
○既往症や障害（身体的・精神的）について
1年生の学生で大きな怪我や障害によりクラスでの授業が難しい場合はcクラス（実技内容に配慮した授業）への移動も考慮できます。
事前に担当教員に相談してください。
○「学校において予防すべき感染症」での欠席および公欠（課外活動等）の扱い
インフルエンザやコロナなど「学校において予防すべき感染症」で欠席した場合については、病院を受診する際に本学が指定した「罹患・治癒証明」を持参し、次回出席時に提出してください。以下のサイトにフォーマットがありますので、確認をして下さい。
https://www.meiji.ac.jp/certificate/mkmht0000007ha97.html
課外活動や学会発表等での公欠は部長（教授等）や所属学部からの正式な依頼を示した証明書（エビデンス）がある場合に考慮を検討しますが、必ず事前事後に相談するようにして下さい。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

兼任講師　板橋 マリオ

授業の概要・到達目標

実施種目：硬式テニス
本授業では、テニス未経験者から上級者までを対象とし、基本的なシングルス、ダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。また、長期到達目標として、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。

授業内容

場所：和泉キャンパス　テニスコート
第1講　イントロダクション（テニスとは）
第2講　硬式テニスボールに慣れる、グラウンドストロークの基本（ラリーが5往復できるようになる）
第3講　グラウンドストロークの復習、シングルスポイントゲーム
第4講　サービス、シングルスゲーム
第5講　シングルス大会
第6講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（デュースサイド）
第7講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（アドバンテージサイド）
第8講　サービスの復習、ダブルスゲーム（デュースサイド）
第9講　サービスの復習、ダブルスゲーム（アドバンテージサイド）
第10講　ダブルス大会
第11講　グラウンドストロークの応用（トップスピン）
第12講　グラウンドストロークの応用（スライス）
第13講　スマッシュ
第14講　団体戦
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

次回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。
また、授業後についても動画を視聴して復習してください。
https://www.youtube.com/channel/UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

教科書

特に指定しません。

参考書

以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。
https://www.youtube.com/channel/UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

課題に対するフィードバックの方法

直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。

成績評価の方法

授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。

その他

1．雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
3．適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

兼任講師　堀　川　浩　之

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。
到達目標
1．ゴルフの競技特性について概略できる
2．ゴルフのマナー、ルールについて概略できる
3．マナー、ルールを遵守したスポーツ活動を実践できる
4．基本技能を身に付けスポーツ活動に積極的に参加することができる
5．簡易ゲームや練習で仲間との協調性や公平性を保つことができる

授業内容

使用施設：ゴルフ練習場
第1講　a：本授業の進め方、参加方法、評価方法、ゴルフのマナー等について説明を受ける。
　　b：ゴルフクラブの握り方、構え方について説明を受け個人で練習を行う。パター練習を行う。
第2講　7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（ジャイロスイング）を行う。パター練習を行う。
第3講　パターゲームを行う。
第4講　アプローチ練習（構え方、距離感の作り方）を行う。
第5講　アプローチ練習（的あて）を行う。
第6講　アプローチ練習（サークル入れ）を行う。
第7講　7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（クロスハンドグリップ）を行う。
第8講　7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（タオル等を使ってハーフスイング）を行う。
第9講　7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（スプリットグリップ）を行う。
第10講　7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（ハーフスイングからフルスイング）を行う。
第11講　7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（片手打ち）を行う。
第12講　7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（フルスイング）を行う。
第13講　ウッドを使ったスイング作りの練習（ジャイロスイング）を行う。
第14講　総合練習（アイアン～ウッド）、ヘッドスピードの測定、レポート提出を行う。

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習の内容

＜予習＞場合によっては凶器となるクラブを使用するスポーツです。安全の確認などゴルフ規則に書かれていますので、ゴルフ規則に目を通しておいてください。レポートはゴルフ規則から出題されます。
＜復習＞ゴルフの試合がテレビなどで放映された場合は、積極的に視聴し授業内で実施した技能が試合でどのように活かされているかを確認してください。

教科書

なし

参考書

2023年度ゴルフ規則（日本ゴルフ協会）（https://www.jga.or.jp/rules/rule/）

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは翌週に全体に対しておこないます。

成績評価の方法

平常点　50%（授業への取り組みの積極性、他の学生との協調性等）
実技点　20%
レポート　30%（学期後半に指示）

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

兼任講師　板橋 マリオ

授業の概要・到達目標

実施種目：硬式テニス
　本授業では、テニス未経験者から上級者までを対象とし、基本的なシングルス、ダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。また、長期到達目標として、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。

授業内容

場所：和泉キャンパス　テニスコート
第1講　イントロダクション（テニスとは）
第2講　硬式テニスボールに慣れる、グラウンドストロークの基本（ラリーが5往復できるようになる）
第3講　グラウンドストロークの復習、シングルスポイントゲーム
第4講　サービス、シングルスゲーム
第5講　シングルス大会
第6講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（デュースサイド）
第7講　ボレーの基本とダブルス雁行陣（アドバンテージサイド）
第8講　サービスの復習、ダブルスゲーム（デュースサイド）
第9講　サービスの復習、ダブルスゲーム（アドバンテージサイド）
第10講　ダブルス大会
第11講　グラウンドストロークの応用（トップスピン）
第12講　グラウンドストロークの応用（スライス）
第13講　スマッシュ
第14講　団体戦
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

次回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。
また、授業後についても動画を視聴して復習してください。
https://www.youtube.com/channel/UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

教科書

特に指定しません。

参考書

以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。
https://www.youtube.com/channel/UCuPCQQaN0cVDwsJVwgViYuw

課題に対するフィードバックの方法

直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。

成績評価の方法

授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。

その他

1．雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。
3．適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

実施種目：クライミング

クライミングとはとっ手（ホールド）のついた人口壁を縦に横に移動し、自分の課題ルートのクリアを目指す身体活動です。腕力が必要なように思うかもしれませんが、むしろバランス力が求められ、男女を問わず様々な体格や体力レベル、運動経験をもつ学生が各自で決めた課題ルートに取り組むことができます。

この授業の前半では高さ4mほどの人口壁を補助具を付けずに登るボルダリングを、後半はハーネスとロープを使い約10mの壁を登るロープクライミングを実践します。

クライミングは基本的には個人の活動ですが、ロープクライミングでは登っている人のロープを確保する活動が加わります。そうしたことから毎回の授業ではグループを作り、グループメンバーのコミュニケーションを通じて各自の知識をより確かなものにし、スキルの向上を目指します。最終的には、街中にあるボルダリング施設等で個人で活動できるようになることを到達目標とします。

競争原理に基づくスポーツとは違った協同原理の身体活動を体験してください。

授業内容

使用施設：クライミングウォール

第1回：イントロダクション～クライミングのルールと安全管理、設備と用具について
第2回：ホールドの持ち方、足の使い方、オブザベーション
【ボルダリング】
第3回：三点支持と正対ムーブ
第4回：二点支持とダイアゴナル
第5回：多様なムーブ
第6回：フラッギング
第7回：各自の課題練習、ロープクライミングの基本技術
【ロープクライミング】
第8～9回：ロープクライミング1回目
第10～11回：ロープクライミング2回目、バディによるビレイ練習
第12～13回：ロープクライミング3回目、バディによるビレイ
第14回：まとめ

履修の注意点

1．定員を超えた場合は抽選を行います。詳細については4月のガイダンスにて説明します。
2．単位修得のためには、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．実技と講義の内容に関するレポート課題を出します。
4．服装については教員の指示に従うこと。
5．爪が伸びている場合は実技を行うことができず見学となります。

準備学習の内容

常にクライミングの情報を集めるよう心がけましょう。またクランプなど、個々人に必要なトレーニングを見つけて日々取り組めると良いです。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に行います。

成績評価の方法

単位修得のためには、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要になります。また実技と講義の内容にかかわるレポート課題を出します。成績は以下の点から評価します：
1）各自の課題への取り組み（50%）
2）グループワークへの参加度（20%）
3）クライミングスキル評価（20%）
4）レポート評価（10%）

その他

受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診しておくこと。クライミングに必要な専用シューズはレンタルすることができます。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

実施種目：フィットネス
フィットネスルーム内の様々なトレーニング機器を用いてトレーニングを行います。各個人が目標を設定し、目標達成のためのトレーニングプログラムを立案し、実践します。最後にトレーニング効果について評価し、レポートにまとめます。運動トレーニングの実践および安全で効果的なトレーニングプログラム作成のための知識と技術の習得を目指します。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館ウェスト2階 フィットネスルーム
第1回：ガイダンス
第2回：体力測定（1）、トレーニング機器の取り扱い説明、機器の使用に慣れる
第3回：目標設定、プログラム作成、フリーウエイトトレーニングのフォーム解説
第4回：トレーニング強度の設定（10RM の測定など）
第5回：トレーニングの実践（1）
第6回：トレーニングの実践（2）
第7回：トレーニングの実践（3）
第8回：トレーニングの実践（4）
第9回：トレーニングの実践（5）
第10回：トレーニングの実践（6）
第11回：トレーニングの実践（7）
第12回：トレーニングの実践（8）
第13回：体力測定（2）、トレーニング効果の評価
第14回：レポート提出、まとめ

履修の注意点

1．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
2．単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
3．医師により運動が禁止または制限されている学生は、可能な限り早く担当教員に申し出て、指示を受けてください。
4．授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。

準備学習の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に紹介します。

成績評価の方法

平常点（40%）、授業への取り組み（30%）、レポート（30%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

兼任講師　緒　方　貴　浩

授業の概要・到達目標

実施種目：ゴルフ
本授業では種目の特性、必要とされる技術や戦略、運動中の心理的変化、自分に合ったコンディショニング、スポーツの文化的背景の理解などを通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための態度と技能の習得を目指します。さらにゴルフの体験を通じて、基本的なルールやマナー、エチケットとその意味を理解します。そして、ゴルフスイングを論理的に学習していきます。

授業内容

使用施設：ゴルフレンジ
第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明）
第2回：グリップ、アドレス、スイング理論（スイングクロック）
第3回：ミドルアイアンを使ってのスイングフォームの形成（スイングクロック①～③）
第4回：ミドルアイアンを使ってのスイングフォームの形成（スイングクロック③～⑤）
第5回：スイング作り（ビデオを使ってスイング修正①）
第6回：ショートアイアンを使ってのスイングフォームの形成
第7回：ロングアイアンを使ってのスイングフォームの形成
第8回：ドライバーのスイング理論（ビデオを使ってスイング修正②）
第9回：ドライバーショット時のティーの高さの考え方
第10回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチショット）
第11回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチエンドラン、チップショット）
第12回：パッティング技術の習得
第13回：ミニゲーム①
第14回：ミニゲーム②

履修の注意点

1．単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
2．ゴルフ競技を観るスポーツとして楽しむことができるようにルールを積極的に覚える努力をしてください。

準備学習の内容

下記サイト（日本ゴルフ協会）を参考にルールについて学習すること。
・ゴルフ規則について（https://www.jga.or.jp/jga/html/rules/image/Rules_2023.pdf）
・ゴルフ規則動画（https://www.jga.or.jp/jga/html/rules/movie.html）

教科書

ゴルフには様々なスイング理論があるため、1つと限定した教科書は使用しない。

参考書

・PGAジュニア基本ゴルフ教本
別途、必要に応じて資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、必要に応じて授業内またはOh-o!Meijiシステムを通じて行います。

成績評価の方法

成績は、以下の観点から総合的に評価する。
1．実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢）
2．理解点（20%）：ルールおよびゴルフのラウンドマナー・エチケットの理解（幅広い教養としての知識・理解）
3．技能達成度（30点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

兼任講師　竹　井　尚　也

授業の概要・到達目標

実施種目：フィットネス
　フィットネスルームで様々なトレーニング機器を用いて全身の筋を鍛えます。全身の筋を鍛えることは、スポーツのパフォーマンスを高めるためでなく、健康を保つうえでも重要です。本授業では、各種トレーニングの基礎と応用について学び、自らトレーニングプログラムを作成し実践できるようになることを目指します。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館ウェスト2階 フィットネスルーム
第1回：授業の説明とオリエンテーション
第2回：体力測定1、トレーニングマシンの解説と実技
第3回：目標設定、プログラム作成、フリーウエイトの解説と実技1
第4回：持久的運動の解説、フリーウエイトの解説と実技2
第5回：トレーニングの実際と応用
第6回：トレーニングの実践1
第7回：トレーニングの実践2
第8回：トレーニングの実践3
第9回：トレーニングの実践4
第10回：トレーニングの実践5
第11回：トレーニングの実践6
第12回：トレーニングの実践7
第13回：体力測定2、測定結果の評価と解説
第14回：まとめ

履修の注意点

1．単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
2．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。

準備学習の内容

健康やフィットネストレーニングに関する情報収集を心懸けて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックが必要な場合は、授業内もしくはOh-o! Meijiシステムを介して行います。

成績評価の方法

(a) 平常点：50%　(b) 理解力・コミュニケーション能力:20%
(c) 技能・体力:20%　(d) レポート・提出物10%

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

実施種目：パラスポーツ

パラスポーツとは、障害者スポーツ全体のことを指します。もともとは、パラリンピックで採用されている競技のことを呼ぶ際の名称として使われ始めましたが、現在では、障害者が行うスポーツ全般を指すことが多いです。パラスポーツは、さまざまな障害を持つ人が取り組むため、オリンピックスポーツとは異なるルール上の工夫があります。本授業では、パラスポーツの代表的競技であるボッチャ、シッティングバレーボールを中心に、ガイドランナー体験等に取り組みます。ボッチャなどのルールを理解して実践しながら、さまざまな人びとが共に生きていく社会とは何かを考えていきます。

授業内容

使用施設：和泉総合体育館ウェスト1階多目的ホールB（剣道場）
第1回：ガイダンス（履修に関する注意事項の説明、パラスポーツの歴史・意義）
第2回：ボッチャのルール
第3回：ボッチャの距離感、方向
第4回：ボッチャの基本戦術（1）
第5回：ボッチャの基本戦術（2）
第6回：ボッチャの基本戦術（3）
第7回：ボッチャの応用戦術（1）
第8回：ボッチャの応用戦術（2）
第9回：ボッチャの応用戦術（3）
第10回：シッティングバレーボール（1）
第11回：シッティングバレーボール（2）
第12回：シッティングバレーボール（3）
第13回：ガイドランナー体験
第14回：まとめ

履修の注意点

1．単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
2．本授業は運動量が少ないパラスポーツ（おもにボッチャ）に取り組みます。緻密な戦略を考えながら行う頭脳スポーツなので、運動が苦手な人でも十分活躍できます。

準備学習の内容

パラスポーツ（特にボッチャ）に関するルールや戦術について情報収集を心掛けていください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのレポート機能を用いてフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢（70%）、期末レポート（30%）から総合的に評価します。
授業回数の3分の1以上欠席した場合は、成績評価対象外とします。

その他

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉1. 赤い靴紐の体育館履きを持参してください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J

運動学演習Ⅱ－2	1単位
	2年次

兼任講師　梅　澤　秋　久

授業の概要・到達目標

実施種目：バレーボール

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。

運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質・能力（身体的リテラシー）の育成をねらいとします。特にバレーボールを行うため、身体的距離を確保しつつ、相手コートにボールを落とせるか／自コートに落とさせないかの機能的特性を味わう中で、豊かなスポーツライフに資するスキルを協働探究していきます。各回にテーマを掲げますが、原則ゲーム中心に授業を進めていきます。

授業内容

使用施設：メインホール
第1回　オリエンテーション　（受講上の留意点についてのイントロダクション）
第2回　からだを使ったアイスブレイク　（仲間づくりをしよう）
第3回　ネット型ボール運動の面白さを味わおう　（自コートにボールを落とさない面白さ）
第4回　面でボールを扱う面白さを味わおう　（アンダーハンドパスのコツを知ろう）
第5回　面でボールを扱う面白さを味わおう　（オーバーハンドパスのコツを知ろう）
第6回　繋いで攻撃しよう　（スパイクやフェイントで相手コートに落とそう）
第7回　サーブで崩そう　（多様なサーブに挑戦しよう）
第8回　ブロックをしよう（攻撃を止めよう）
第9回　トスを左右に振って攻撃しよう　（レフト、ライト、センターからスパイクで攻撃しよう）
第10回　3段攻撃でブロックをかわそう
第11回　性差や能力差を包摂するバレーボールのアダプテーション・ルールをつくろう
第12回　アダプテーション・ルールをつくり競争を楽しもう（自分たちで勝敗のギリギリを楽しめるハンディをつくろう）
第13回　まとめのゲーム大会をしよう
第14回　まとめのゲーム大会をしよう　本授業のまとめ

履修の注意点

1．単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

基礎的な体力づくりを日常から実践しておくこと。

教科書

特になし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の概要・到達目標および授業内容に基づき、実技課題や授業への取り組みに対して、授業中に口頭での助言や示範を行う。あわせて、準備学習や振り返りの内容について適宜講評を行い、次回の学習や自己の課題改善につなげる。これらのフィードバックは、成績評価の観点の理解を促すことを目的とする。

成績評価の方法

授業への参加度50%、身体リテラシー50%(特にバレーボールに関連する資質・能力)

その他

1．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	１単位
	３年次
兼任講師　中　西　康　己	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：スポーツホール
第１講　イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等)、バレーボールの特性
第２講　パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス)、ミニゲーム
第３講　サーブ練習（フローターサーブ、スピンサーブ)、ゲーム
第４講　スパイク練習、ゲーム
第５講　レシーブ練習（スパイクレシーブ)、ゲーム
第６講　レシーブ練習（サーブレシーブ)、ゲーム
第７講　フォーメーション練習（サーブレシーブ体形)、ゲーム
第８講　ブロック練習、ゲーム
第９講　フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス)、ゲーム
第10講　ゲーム　①（リーグ戦）
第11講　ゲーム　②（リーグ戦）
第12講　ゲーム　③（リーグ戦）
第13講　ゲーム　④（リーグ戦）
第14講　ゲーム　⑤（まとめ）

履修の注意点

１．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。

教科書

特に指定しません

参考書

特に指定しません

課題に対するフィードバックの方法

授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。

成績評価の方法

授業への参加度及び取り組み姿勢（50%)、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%)、期末レポート（10%）とします。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	１単位
	３年次
兼任講師　中　西　康　己	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：スポーツホール
第１講　イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等)、バレーボールの特性
第２講　パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス)、ミニゲーム
第３講　サーブ練習（フローターサーブ、スピンサーブ)、ゲーム
第４講　スパイク練習、ゲーム
第５講　レシーブ練習（スパイクレシーブ)、ゲーム
第６講　レシーブ練習（サーブレシーブ)、ゲーム
第７講　フォーメーション練習（サーブレシーブ体形)、ゲーム
第８講　ブロック練習、ゲーム
第９講　フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス)、ゲーム
第10講　ゲーム　①（リーグ戦）
第11講　ゲーム　②（リーグ戦）
第12講　ゲーム　③（リーグ戦）
第13講　ゲーム　④（リーグ戦）
第14講　ゲーム　⑤（まとめ）

履修の注意点

１．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。

教科書

特に指定しません

参考書

特に指定しません

課題に対するフィードバックの方法

授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。

成績評価の方法

授業への参加度及び取り組み姿勢（50%)、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%)、期末レポート（10%）とします。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	１単位
	３年次
兼任講師　相　澤　勝　治	

授業の概要・到達目標

実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール）
本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組むことに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。

授業内容

使用施設：リバティタワー地下スポーツホール
第１講　イントロダクション
第２講　フットサルー実技（１）ゴールを狙う
第３講　フットサルー実技（２）周りの人が動く
第４講　フットサルー実技（３）ゲーム実践
第５講　バドミントンー実技（１）基本練習
第６講　バドミントンー実技（２）ゲームの組み立て
第７講　バドミントンー実技（３）ゲーム実践
第８講　バレーボール実技（１）ルールと基本の動き
第９講　バレーボール実技（２）レシーブ/アタック
第10講　バレーボール実技（３）ゲーム実践
第11講　バレーボール実技（４）ゲーム実践
第12講　ボールゲーム実技（１）ボールを用いたアクティビティ
第13講　ボールゲーム実技（２）ゲーム実践
第14講　振り返り

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．室内用のシューズを用意すること。

準備学習の内容

各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。

教科書

教科書等は使用しない

参考書

参考書等は使用しない

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を取り上げて講評する

成績評価の方法

授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	１単位
	３年次
兼任講師　相　澤　勝　治	

授業の概要・到達目標

実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール）
本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組むことに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。

授業内容

使用施設：リバティタワー地下スポーツホール
第１講　イントロダクション
第２講　フットサルー実技（１）ゴールを狙う
第３講　フットサルー実技（２）周りの人が動く
第４講　フットサルー実技（３）ゲーム実践
第５講　バドミントンー実技（１）基本練習
第６講　バドミントンー実技（２）ゲームの組み立て
第７講　バドミントンー実技（３）ゲーム実践
第８講　バレーボール実技（１）ルールと基本の動き
第９講　バレーボール実技（２）レシーブ/アタック
第10講　バレーボール実技（３）ゲーム実践
第11講　バレーボール実技（４）ゲーム実践
第12講　ボールゲーム実技（１）ボールを用いたアクティビティ
第13講　ボールゲーム実技（２）ゲーム実践
第14講　振り返り

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．室内用のシューズを用意すること。

準備学習の内容

各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。

教科書

教科書等は使用しない

参考書

参考書等は使用しない

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を取り上げて講評する

成績評価の方法

授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	１単位 ３年次
兼任講師　中　西　康　己	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：スポーツホール
第１講　イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等)、バレーボールの特性
第２講　パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス)、ミニゲーム
第３講　サーブ練習（フローターサーブ、スピンサーブ)、ゲーム
第４講　スパイク練習、ゲーム
第５講　レシーブ練習（スパイクレシーブ)、ゲーム
第６講　レシーブ練習（サーブレシーブ)、ゲーム
第７講　フォーメーション練習（サーブレシーブ体形)、ゲーム
第８講　ブロック練習、ゲーム
第９講　フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス)、ゲーム
第10講　ゲーム　①（リーグ戦）
第11講　ゲーム　②（リーグ戦）
第12講　ゲーム　③（リーグ戦）
第13講　ゲーム　④（リーグ戦）
第14講　ゲーム　⑤（まとめ）

履修の注意点

１．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。

教科書

特に指定しません

参考書

特に指定しません

課題に対するフィードバックの方法

授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。

成績評価の方法

授業への参加度及び取り組み姿勢（50%)、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%)、期末レポート（10%）とします。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	１単位 ３年次
兼任講師　中　西　康　己	

授業の概要・到達目標

本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。

授業内容

使用施設：スポーツホール
第１講　イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等)、バレーボールの特性
第２講　パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス)、ミニゲーム
第３講　サーブ練習（フローターサーブ、スピンサーブ)、ゲーム
第４講　スパイク練習、ゲーム
第５講　レシーブ練習（スパイクレシーブ)、ゲーム
第６講　レシーブ練習（サーブレシーブ)、ゲーム
第７講　フォーメーション練習（サーブレシーブ体形)、ゲーム
第８講　ブロック練習、ゲーム
第９講　フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス)、ゲーム
第10講　ゲーム　①（リーグ戦）
第11講　ゲーム　②（リーグ戦）
第12講　ゲーム　③（リーグ戦）
第13講　ゲーム　④（リーグ戦）
第14講　ゲーム　⑤（まとめ）

履修の注意点

１．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。

準備学習の内容

バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。

教科書

特に指定しません

参考書

特に指定しません

課題に対するフィードバックの方法

授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。

成績評価の方法

授業への参加度及び取り組み姿勢（50%)、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%)、期末レポート（10%）とします。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	１単位
	３年次
兼任講師　相　澤　勝　治	

授業の概要・到達目標

実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール）
本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組むことに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。

授業内容

使用施設：リバティタワー地下スポーツホール
第１講　イントロダクション
第２講　フットサルー実技（１）ゴールを狙う
第３講　フットサルー実技（２）周りの人が動く
第４講　フットサルー実技（３）ゲーム実践
第５講　バドミントンー実技（１）基本練習
第６講　バドミントンー実技（２）ゲームの組み立て
第７講　バドミントンー実技（３）ゲーム実践
第８講　バレーボール実技（１）ルールと基本の動き
第９講　バレーボール実技（２）レシーブ/アタック
第10講　バレーボール実技（３）ゲーム実践
第11講　バレーボール実技（４）ゲーム実践
第12講　ボールゲーム実技（１）ボールを用いたアクティビティ
第13講　ボールゲーム実技（２）ゲーム実践
第14講　振り返り

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．室内用のシューズを用意すること。

準備学習の内容

各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。

教科書

教科書等は使用しない

参考書

参考書等は使用しない

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を取り上げて講評する

成績評価の方法

授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	１単位
	３年次
兼任講師　相　澤　勝　治	

授業の概要・到達目標

実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール）
本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組むことに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。

授業内容

使用施設：リバティタワー地下スポーツホール
第１講　イントロダクション
第２講　フットサルー実技（１）ゴールを狙う
第３講　フットサルー実技（２）周りの人が動く
第４講　フットサルー実技（３）ゲーム実践
第５講　バドミントンー実技（１）基本練習
第６講　バドミントンー実技（２）ゲームの組み立て
第７講　バドミントンー実技（３）ゲーム実践
第８講　バレーボール実技（１）ルールと基本の動き
第９講　バレーボール実技（２）レシーブ/アタック
第10講　バレーボール実技（３）ゲーム実践
第11講　バレーボール実技（４）ゲーム実践
第12講　ボールゲーム実技（１）ボールを用いたアクティビティ
第13講　ボールゲーム実技（２）ゲーム実践
第14講　振り返り

履修の注意点

１．本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
２．単位修得にあたっては、授業実施回数の３分の２以上の出席が必要となります。
３．医師により運動が禁止または制限されている学生は、第１回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
４．室内用のシューズを用意すること。

準備学習の内容

各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。

教科書

教科書等は使用しない

参考書

参考書等は使用しない

課題に対するフィードバックの方法

代表的な意見を取り上げて講評する

成績評価の方法

授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。

その他

１．各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
２．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(PE)HES233J

生涯スポーツ演習	1単位
	2年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

実施種目：キャンプベーシック１期
　この授業では、自然環境の中でテント泊と野外炊事をベースにした生活を送りながら、キャンプを安全に楽しむための知識・技術・マナー、野外でのリスクマネジメントや環境への配慮、集団で生活するための組織運営や役割分担の方法について学びます。キャンプの生活方法は、常設のテントや炊飯場を利用した初歩的なもので、キャンプ経験がない初心者でも受講が可能です。
　また、こうしたアウトドアライフを基礎にして、サイクリング、トレッキング、沢歩きといったアウトドアスポーツを体験し、将来的に野外活動を安全に楽しむための基礎知識と態度、技術を身につけます。煩雑な都会での日常生活を離れ、自然の中でシンプルな生活を送ることで、自然や仲間、そして自分自身について新しい発見をする機会を得ることができます。
　なおキャンプベーシック１期と２期は同一のプログラムです。

授業内容

１．期間：2026年９月８日（火）～11日（金）３泊４日
２．場所：静岡県立朝霧野外活動センター（静岡県富士宮市）
３．対象：経験は問いません
４．定員：42名（うち政治経済学部生21名）
５．受講料：1,000円（保険料など）
６．参加費：交通費約12,000円、現地費用約10,000円、計22,000円程度
７．担当者：高峰修（政治経済学部）
８．プログラム
　１日目：(午後）キャンプ場に現地集合。開講式、備品配布、野外炊事、初日の振り返り
　２日目：(終日）キャンプ場内およびキャンプ場周辺の活動
　３日目：(終日）キャンプ場外での活動
　４日目：(午前）撤収、まとめ、正午頃解散
９．事前授業：７月初旬に事前授業を行います（出席必須)。プログラムの詳細については事前授業で説明します。

履修の注意点

１．この集中授業は、和泉の選択体育実技の学部間相互乗り入れ科目として実施します。応募多数の場合は抽選となります。
２．受講の手続きについては４月１日と２日に予定されているガイダンスにて説明します。応募者多数で抽選となった場合、ガイダンス出席者を優先します。
３．プログラムはスタッフや天候などの都合、感染症等により変更または中止になることがあります。
４．受講を認められた学生は、原則としてキャンセルはできませんので注意してください。
５．5月中旬～下旬に、受講料と参加費の一部を事前納入してもらいます。納入された参加費は理由を問わず返金できません。
６．４月に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。

準備学習の内容

7月の事前授業への出席が必須となります。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて適宜行います。

成績評価の方法

成績は以下の３点から総合的に評価します：
事前授業と実習当日の出席（60%）
活動への取り組み（20%）
グループ活動状況（20%）

その他

繰り返しになりますが、受講を認められた学生は原則としてキャンセルはできませんので、くれぐれも注意してください。
また４月に実施される学内の健康診断を必ず受診しておくこと。

科目ナンバー：(PE)HES233J

生涯スポーツ演習	1単位
	2年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

　本授業では、ゴルフの運動学的特性を理解し、基礎的な技術を身につけ、スポーツの楽しさを理解することを目的とします。ゴルフは、日本では競技人口が多く、社会人のレジャースポーツとして最もポピュラーなスポーツです。体育授業教材としてゴルフは取り上げられることが少ないので、社会人で初めて経験する人が多いです。ゴルフの運動特性として、瞬間的に大きなパワーの発揮とミリ単位の正確な動作が要求されます。これはゴルフのが難しさであり、醍醐味でもあります。また、ゴルフは個々の体力に応じて活動できるため、老若男女問わずに楽しむことができるのも魅力的な点です。
　本授業は、長野県佐久市の八ヶ岳連山の麓に位置する標高1,100mの名門ゴルフクラブ（サニーカントリークラブ）で実施します。練習用コース（PAR23、1,852ヤード、６ホール）、300ヤードのドライビングレンジを利用します。宿泊施設はゴルフ場内に併設されていますので、集中的にゴルフを学ぶ環境で生活できます。ゴルフは、自然の変化を感じながら優雅に楽しむスポーツです。小さなホールに向かってボールを正確に運ぶ技術が要求されます。ドライバーからパットまで多くのクラブを使ってショットをします。ゴルフには、技術やルール以外にも服装やマナー、ラウンド方法なども重要です。普段の練習場とは異なる、自然のなかでのラウンド経験がゴルフの醍醐味です。
　本授業では、避暑地でリゾートスポーツ文化を感じながら、練習、講義で得た技術や知識を活かして、生涯スポーツとしての「ゴルフ」を理解・習得します。リゾートスポーツ文化を総合的に経験、理解する機会によって、健康的な生活を自らデザインして、生涯に亘りスポーツに触れ合う素養を学びます。

授業内容

１．期間：2026年９月８日（火）～11日（金）　※和泉総合体育館にて事前授業８月１日（土）10:00-12:00
２．場所：サニーカントリークラブ（長野県佐久市協和）
３．受講条件：ラウンド経験者、あるいはゴルフ授業を半期受講した者
４．定員： 35名（指導者５名を予定）
５．登録費：1,000円（保険料）
６．参加費用：約43,000円（宿泊代、ゴルフラウンド・練習場費用など）
７．宿泊場所：サニーカントリークラブ（長野県佐久市協和）
８．担当者：後藤光将（政治経済学部）
　１日目：(午後）開講式、ショット、アプローチ、パット練習
　２日目：(午前・午後）ラウンド、ショット、アプローチ、パット練習
　３日目：(午前・午後）ラウンド、ショット、アプローチ、パット練習
　４日目：(午前）ラウンド、ふりかえり、閉講式

履修の注意点

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉1．ゴルフ未経験者は受講できません。受講条件はゴルフラウンド経験者、あるいはゴルフ授業を半期受講した者です。
２．本授業は、選択体育実技の８学部間相互乗り入れ科目（和泉・駿河台・中野キャンパス）として実施します。
３．４月１日、２日（予定）に履修説明ガイダンスを行います。４月３日（予定）にOh-o! Meijiのアンケートで履修を受け付けます。定員を超過した場合は抽選となりますが、対面ガイダンス参加者優先となります。
４．８月１日（土）10:00-12:00に事前授業を和泉キャンパスで行いますので、受講を認められた学生は必ず出席してください。
５．受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセルはできません。事前授業も含めて日程をよく確認してください。
６．各学期複数の希望科目を申請することができます。また、同一種目を翌年度以降も繰り返し履修できます。
７．４月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。

準備学習の内容

　ゴルフに関するルール、マナーに関して事前に理解するように努めてください。

教科書

　特に指定しません。

参考書

　特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

都度振り返りを行い、理解が深められるようにします。

成績評価の方法

　事前授業への出席（10%）、授業への取り組み姿勢（40%）、技能上達度（20%）、グループ行動状況（20%）、ふりかえりレポート（10%）から、総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(PE)HES233J

生涯スポーツ演習	1単位
	2年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

【野辺山スケートコース】
心地よいスピードを感じながら、自分の身体全体を用いて意のままに氷上を滑走することは、他では得られない感覚です。寒い場所での体温調節は多くのエネルギーを消費させる有酸素運動であり、ダイエットにも効果的です。実習では、まず基礎スケーティングを習得します。集団で音楽に合わせて滑る“シンクロナイズドスケーティング”、氷上の格闘技“アイスホッケー”などにも挑戦します。野辺山高原は長野県の東端に位置しており、高原野菜の産地で有名です。滑走練習の合間には、近隣の牧場を訪問して、雄大な自然を体験する機会もあります。氷上での様々な活動を体験しながら、普段の都会の生活では感じることのない、すばらしい発見があるはずです。

授業内容

1．期間：2027年２月17日（水）～２月20日（土）３泊４日
2．場所：長野県南佐久郡南牧村野辺山1003　帝産アイススケートトレーニングセンター
3．対象：経験は問いません。
4．定員：40名（指導者６名を予定）
5．登録費：1,000円（保険料など）
6．参加費用：約43,000円（宿泊費、食費、リンク代、スケート靴レンタル料など）
7．担当者：後藤光将（政治経済学部教授）
　１日目：(午後）開講式、基礎スケーティング１、講義
　２日目：(終日）基礎スケーティング２、講義
　３日目：(終日）基礎スケーティング３、シンクロナイズドスケーティング、講義
　４日目：(午前）アイスホッケー体験、ふりかえり、閉講式

履修の注意点

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉1．本授業は、選択体育実技の８学部間相互乗り入れ科目（和泉・駿河台・中野キャンパス）として実施します。
2．４月１日、２日（予定）に対面で履修説明ガイダンスを行います。４月３日（予定）にOh-o! Meijiのアンケートで履修を受け付けます。定員を超過した場合は抽選となりますが、対面ガイダンス参加者優先となります。
3．12月中旬に事前授業を行いますので、受講を認められた学生は必ず出席してください。
4．受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセルはできません。日程をよく確認してください。
5．２月下旬に実施する授業のため、４年生は卒業判定後の単位認定となりますので、卒業要件の単位に含めることができません。
6．各学期複数の希望科目を申請することができます。また、同一種目を翌年度以降も繰り返し履修できます。
7．４月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。

準備学習の内容

氷上スポーツ（フィギュアスケート）に関する情報を事前に調べておいてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

都度振り返りを行い、理解が深められるようにします。

成績評価の方法

事前授業への出席（10%）、授業への取り組み姿勢（40%）、技能上達度（20%）、グループ行動状況（20%）、ふりかえりレポート（10%）から、総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(PE)HES233J

生涯スポーツ演習	1単位
	2年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

学外集中授業：マリンスポーツ実習
＜授業の概要＞
この実習では、海でシュノーケリングやスキンダイビング、シーカヤックを行う予定です。プールとは異なる環境でこれら活動に関する基本的知識・技術の習得と安全に実施する上での注意点の理解が主な目的です。実習場所の沖縄県渡嘉敷島近海は「ケラマブルー」と呼ばれており、ダイバーに人気があります。世界屈指の美しさで、運が良ければウミガメやクジラに会えるかもしれません。海に身を委ねサンゴ礁や色とりどりの魚など壮大な自然に触れてみたいという学生は、この授業を受講してはいかがでしょうか。
＜到達目標＞
(１)水中での安全確保の実践（バディシステム含む)、各種器材を使用した遊泳ならびに潜水スキルを身につける
(２)カヤックの準備や片付けを含めた操作技術を確実に理解、実践する
(３)生態系などの海洋環境について理解を深める
(４)他者との活動・生活を通してコミュニケーション能力を高める

授業内容

期間：2026年９月８日～９月11日（予定）3泊４日
場所：国立沖縄青少年交流の家海洋研修場及び周辺海岸　沖縄県島尻郡渡嘉敷村字阿波連775
定員：18名（指導者３名を予定）希望者多数の場合、抽選にて受講者を決定する
受講費：1,000円程度（保険料など）
参加費用：宿泊費（３泊分、食費込み）・フェリー代・バス貸切代・雑費（合計約28,000円）＋現地への交通費と前泊分宿泊費（いずれも各自負担）
担当者：武田紘平（政治経済学部）
　１日目：(午前）泊港（那覇市）集合後、フェリーで渡嘉敷島に移動（午後）開講式、水慣れ、講義
　２日目：(終日）シュノーケリング、大型カヌー、講義
　３日目：(終日）シュノーケリング、カヤック、講義
　４日目：(午前）スキンダイビング、閉講式（午後）フェリーで泊港（那覇市）へ移動後、解散
＊授業内容は天候等に応じて変更することがあります。

履修の注意点

１．本授業は、選択体育実技の学部間相互乗り入れ科目（和泉・駿河台・中野キャンパス）として実施します。受講希望者はシラバスで詳細を確認したうえで、Oh-o! Meijiのアンケート機能で申し込みを行ってください。履修に関して４月上旬に対面ガイダンス（説明会）を実施します。対面ガイダンスは参加必須でありませんが、希望者多数（抽選）の場合は対面ガイダンス参加者優先となります。詳細は各学部からの案内を確認してください。
２．９月７日中に那覇入りできるよう日程調整をしてください。また、この日のホテルは各自で手配します。
３．事前授業を２回行う計画ですので、受講を認められた学生はどちらも必ず出席してください。単位取得の必須条件です。
４．受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセルはできません。日程・金額をよく確認してください。
５．４月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診して下さい。
６．天候により開講できない場合、本授業の取り扱いは履修削除となります。

準備学習の内容

マリンスポーツや沖縄近辺の海に関する情報を事前に調べておきましょう。

教科書

特にありません

参考書

特にありません

課題に対するフィードバックの方法

適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢（30%）、技能上達度（20%）、グループ活動状況（20%）、小レポート（30%）から総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(PE)HES191J

健康・運動科学Ⅰ	2単位
	2年次

教授　春日井　淳　夫

授業の概要・到達目標

本授業は、体育学と医学およびその他の関連諸科学の知見を総合して、健康づくりの３要素である「運動・栄養・休養」について、できるだけ具体的に解説する。またヒトの健康を理解する上で必要と思われる基礎的な生理学分野（神経、筋肉、呼吸、循環等）についても解説する。

これによって受講生は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わり、栄養・休養の重要性、基礎的な生理学分野について学びつつ教養を高め、生涯に亘って日常的に運動やスポーツを個人の健康や能力に合わせて実践できるようになる。また、疾患にかかる前に健康度を高め、疾患にかからない身体をつくる正しい健康づくり理論が理解でき、医・科学的根拠に基づいた健康度の測定・評価、到達目標の決定が実現できるようになる。

授業内容

第１回　ガイダンス（授業実施上の注意点）、現代人の生活習慣と健康状態
第２回　体力とは何か
第３回　運動不足とその影響
第４回　安全で有効な運動の基準
第５回　どのような運動がよいのか
第６回　筋の種類とその特徴
第７回　筋の収縮様式と筋力トレーニング
第８回　身体組成と肥満
第９回　運動と体温調節
第10回　活性酸素と生活習慣病
第11回　栄養 ～生活習慣病・老化を防ぐ食事
第12回　運動と免疫
第13回　禁煙と節酒
第14回　効果的な休養とは

履修の注意点

１．講義はPower Pointを用いて行う。講義資料は、Oh-o! Meiji Systemの本講義クラスウェブにアクセスし、事前に受講生がダウンロード＆印刷をして授業に持参することとする。
２．高校の保健理論の理解を前提とする。
３．１回ずつの授業が相互に関連があるので休まず受講することが望ましい。
４．授業中の飲食行為、携帯電話による通話・メールは厳禁とする。
５．私語など人の迷惑になる行為は厳禁とする。

準備学習の内容

講義資料は事前に必ず一読しておくことを予習と位置づける。各回の授業内容についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねることを復習として位置づける。

教科書

特に指定はしない。

参考書

特に指定はしない。

課題に対するフィードバックの方法

第２回授業から、前回授業の振り返りを行い、理解が深められるようにする。

授業終了後に質疑応答の時間を確保し、必要に応じてフィードバックをして、理解が深められるように努める。

成績評価の方法

１．学期末に行う筆記試験の点数で評価する。
２．点数は60点以上を合格とし、点数に応じてS～Cの評価をする。
３．合格点に満たない者についての救済措置（追試、レポート等）は行わない。

その他

科目ナンバー：(PE)HES191J

健康・運動科学Ⅰ	2単位
	2年次

専任講師　武　田　紘　平

授業の概要・到達目標

この授業の目標は、健康を維持・増進するためになぜ運動が必要なのか、運動を行うと身体がどのように変化するのかを自然科学的に理解することです。この目標を達成するために、自然科学的かつ専門的な内容となることを十分理解して受講して下さい。また、本授業で身につけた知見を活用して生涯にわたり、日常的な運動を実践することが望まれます。

授業の概要として、体力、栄養、運動器、加齢、生活習慣病、スポーツ医学、スポーツ科学、トレーニングなどの内容が主になります。

授業内容

第１回　イントロダクション、健康について
(授業の内容、評価方法についての説明)
第２回　健康に関連する体力-1
第３回　健康に関連する体力-2
第４回　カロリー
第５回　栄養
第６回　運動器-1
第７回　運動器-2
第８回　トレーニング理論と実践
第９回　心肺蘇生法・スポーツ医学
第10回　生活習慣病-1
第11回　生活習慣病-2
第12回　加齢による身体の変化と運動の効果
第13回　メンタルヘルスと健康
第14回　運動習慣の形成
講義内容は変更になることがあります

履修の注意点

・体育会の学生など、練習・試合などの欠席は基本的には考慮しません。
・スライドを用いた講義をおこないます。
・自然科学的な内容を多く含み、それに関わる専門用語も使用します。
・健康科学だけでなく、スポーツ科学の内容も含みます。

準備学習の内容

授業内容に関する書籍、文献を積極的に読むことを推奨します。

教科書

特に指定しません。

参考書

『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学身体運動研究室編）東京大学出版会
『乳酸と運動生理・生化学』（八田秀雄著）市村出版
『健康づくりのための運動の科学』（鵜木秀夫編）化学同人

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時冒頭に概説します。

成績評価の方法

期末試験（70%）と授業時の課題への取り組み（30%）で総合的に判断します。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)HES191J

健康・運動科学Ⅰ（特定　スポーツ）	2単位
	2年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

この授業では、スポーツに深く関わる学生として知っておくべき基本的な事項のうち主に文化･社会的側面について取り上げます。対面授業またはメディア授業での講義を基本としながら、受講者自身による作業、あるいはグループワークを通じて講義内容の理解を深めます。

グループワークの一環として、プロジェクト企画案を立案し、概要を授業内で発表します。

この授業の達成目標は、受講者が深く関わりをもつスポーツや、そのスポーツをめぐる社会情勢についての理解を深め、さらにそうした理解に基づいて各自の将来的なキャリアを構想することにあります。

なおこの授業では、半期14回のうち９回を対面授業、５回をメディア授業として実施します。

授業内容

第１回：「ガイダンス」～近代スポーツとは〔対面〕
第２回：「映画視聴」～近代スポーツとは〔対面〕
第３回：「スポーツと暴力」〔メディア〕
第４回：「プロジェクト企画」①〔対面〕
第５回：「ドーピング」〔メディア〕
第６回：「プロジェクト企画」②〔対面〕
第７回：「ジェンダー」〔メディア〕
第８回：「プロジェクト企画」③〔対面〕
第９回：「障がい」〔メディア〕
第10回：「プロジェクト企画」④〔対面〕
第11回：「UNIVASとキャリア」〔メディア〕
第12回：「プロジェクト案報告」〔対面〕
第13回：アスリートのキャリア問題①〔対面〕
第14回：アスリートのキャリア問題②〔対面〕

履修の注意点

・この授業の受講者はスポーツ特別入試によって入学した学生に限定します。
・この授業は教室での対面授業を基本としつつ半期に５回のメディア授業（オンデマンド型）を行います。
※講義動画は原則として毎週月曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、翌火曜日まで視聴できます。
・対面授業においては授業開始時に口頭で出席を確認し、メディア授業においては課題の提出をもって出席とします。
・授業に関する質問や相談は担当教員へのメールによって常時受け付けます。また対面授業時に受講者同士の意見交換の場を積極的に設け、メディア授業の内容に関する意見等の共有を図ります。
・担当教員から受講者への連絡はOh-o! Meijiの「お知らせ」機能を用い、受講者から担当教員への連絡は公開したメールアドレスを使用します。

準備学習の内容

毎回の授業終了時に出す課題を復習として捉え、丁寧かつ着実にこなして提出することを求めます。

教科書

『現代社会とスポーツの社会学』高峰ほか（杏林書院）2022年

参考書

『スポーツ教養入門』高峰修編著（岩波書店）2010年

課題に対するフィードバックの方法

次回対面授業の冒頭にて行います。

成績評価の方法

・リアクションペーパーを含めた毎回の提出物（60%）と企画案の相互評価（10%）、期末レポート（30%）によって評価し、対面形式での定期試験は行いません。
・全授業回数の2/3以上の「出席」あるいは「リアクションペーパーの提出」を単位取得の条件とします。

その他

科目ナンバー：(PE)HES231J

健康・運動科学Ⅲ	2単位
	3年次

教授　後　藤　光　将

授業の概要・到達目標

本授業は、外国・日本における地域コミュニティのつながり方の代表的な事例を紹介します。異文化理解の有用な方策としての「スポーツ」について考えることを目標とします。
地球上の様々な地域でおこなわれている伝統遊戯（伝統スポーツ）、および、近代スポーツの受容と変容の実相を、異文化交流というグローバルな視点で捉え直します。スポーツを切り口にして、文化創造のダイナミズムを歴史学、および、文化人類学的視点から比較検討します。祝祭的な空間における身体活動の意義を現代的課題と結びつけながら考えます。

授業内容

第１講　初回オリエンテーション
第２講　古代ギリシャの葬送競技（古代オリンピック）
第３講　古代ローマの見世物（剣闘士競技）
第４講　メキシコの古式長距離競走（ララヒッパリ）
第５講　バヌアツの通過儀礼（ナゴール）
第６講　イギリスの古式サッカー（シュローヴタイドフットボール）
第７講　イタリアの古式サッカー（カルチョストーリコ）
第８講　イタリアの古式競馬（パリオ）
第９講　秋田県刈和野の大綱引
第10講　福岡県吉富町の八幡古表神社の神相撲
第11講　福島県相馬の野馬追
第12講　スポーツの類型
第13講　平和とスポーツ
第14講　まとめ

履修の注意点

準備学習の内容

学際的なテーマの授業なので、事前に学習する必要はありませんが、スポーツ関連の時事問題を新聞などで常に収集することを心懸けてください。

教科書

特に指定しない

参考書

日本ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ｱｶﾃﾞﾐｰ編（2022）『2022+1 東京大会を考える』メディア・パル
後藤光将編（2020）『オリンピック・パラリンピックを学ぶ』岩波書店
新井博編（2019）『新版 スポーツの歴史と文化』道和書院
日本ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ｱｶﾃﾞﾐｰ編（2019）『JOAオリンピック小事典2020増補改訂版』メディア・パル
阿部生雄編（2012）『スポーツの世界地図』丸善出版

課題に対するフィードバックの方法

第２回授業から、前回授業の振り返りを行い、理解が深められるようにする。

成績評価の方法

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" autocomplete="off"〉小レポート（50%）、期末試験（50%）で成績評価をおこないます。
※成績評価対象として、授業回数の３分の２以上の出席が必要です。

その他

科目ナンバー：(PE)POL111J	
政治学特殊講義A【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次
教授　井　田　正　道	

授業の概要・到達目標

本授業においては民主政治の根幹をなす選挙に焦点を当て、その仕組みについて考える。選挙制度という場合、狭義の定義では有権者の投票を議席に変換するシステムを指すが、広義の選挙制度においては、選挙運動の期間、有権者の資格、立候補者の資格、有権者の登録、投票日、投票方法、など多岐にわたる。本講義ではまず、狭義の選挙制度について基礎から説明を行い、つづいて広義の選挙制度について解説する。さたに日本の選挙制度と選挙結果についても触れていく。到達目標は、選挙制度に関する知識の習得にある。

授業内容

1．イントロダクション
2．選挙制度とは何か―広義と狭義―
3．選挙制度の分類
4．小選挙区制（1）
5．小選挙区制（2）
6．大選挙区制、中選挙区制
7．比例代表制
8．混合制
9．政治改革と選挙制度
10．選挙権と被選挙権の規定
11．有権者登録制―自動登録制と自発的登録制―
12．電子投票制―投票所電子投票、インターネット投票―
13．18歳選挙権と若年層の投票参加
14．まとめ

履修の注意点

遅刻をしないこと。

準備学習の内容

事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。

教科書

井田正道『日本の選挙と有権者』北樹出版、2025年

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはOh-o Meijiでレポートの講評を行う

成績評価の方法

中間レポート（30%）
定期試験(70%)

その他

科目ナンバー：(PE)POL111J	
政治学特殊講義B【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次
教授　井　田　正　道	

授業の概要・到達目標

マスメディアなどが行う世論調査の結果は現実政治の展開に多大な影響を及ぼしうる。しかしながら、世論調査の信頼性について疑義を唱える見方も少なくなく、また調査方法についても社会状況の変化に伴い変化していき、普遍的に優位な方法は存在しない。本授業において、まず世論調査を含む社会調査の基礎知識について解説し、世論調査の方法の変化についても言及する。さらに過去と現在の世論調査を取り上げ、日本人の意識の変化についても解説する。そのほか最新の世論調査から見える日本政治の現状や2026年11月に実施されるアメリカ中間選挙の事前情勢や結果分析についても都度、言及する。受講者の世論調査リテラシーの向上および世論政治の理解度の深化を到達目標とする。

授業内容

1．イントロダクション
2．社会調査とは
3．社会調査の種類
4．世論調査の方法
5．統計的な有意差とは
6．政府による世論調査
7．メディアによる政治世論調査
8．日本における政権と世論
9．アメリカにおける政権と世論
10．アメリカ中間選挙
11．日本人の意識（1）
12．日本人の意識（2）
13．日本人の意識（3）
14．まとめ

履修の注意点

準備学習の内容

事前に教科書を読んでおくこと。

教科書

井田正道『世論調査を読む―Q＆Aからみる日本人の＜意識＞―』明治大学出版会、2013年

参考書

課題に対するフィードバックの方法

レポートについて講評を行う。

成績評価の方法

中間レポート50%、期末試験50%

その他

科目ナンバー：(PE)SOC111J

社会学特殊講義Ａ【2022年度以降入学者】 社会学特殊講義Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　高　　明

授業の概要・到達目標

概要：

春学期では、国際社会学の理論的基礎および主要概念を中心に、国際人口移動をめぐる全体的動向、歴史的展開、分析理論について学ぶ。人種、エスニシティ、国民国家、グローバル化、トランスナショナルな視角などの基本概念を理解し、労働移民、家族再結合、定住、非正規移民、難民、高度技能移民、ディアスポラといった現代的現象を社会学的に捉えるための理論的枠組みを修得することを目的とする。

到達目標：

春学期の履修を通じて、学生は以下の能力を身につけることを目標とする。
①国際社会学および国際人口移動研究における基本概念と理論を説明できる。
②国際人口移動の歴史的展開および現代的特徴を理解し、整理できる。
③移民・難民・ディアスポラをめぐる諸現象を、理論的視点から分析できる。

授業内容

第1回　イントロダクション：授業の進め方と成績評価
第2回　人の国際移動：全体的動向および地域別状況
第3回　国際社会学とその基礎概念①（国際社会学の誕生、人種）
第4回　国際社会学とその基礎概念②（エスニシティ、国民国家、グローバル化）
第5回　国際社会学とその基礎概念③（トランスナショナルな視角、国際移民とジェンダー）
第6回　国際社会学とその基礎概念④（人種差別の現代的展開、移民と開発・発展）
第7回　国際人口移動の歴史①（第二次世界大戦以前の国際人口移動）
第8回　国際人口移動の歴史②（労働移民、家族再結合と定住）
第9回　国際人口移動の加速化と多様化①（難民、非正規移民）
第10回　国際人口移動の加速化と多様化②（高度技能移民、ディアスポラ）
第11回　国際人口移動の要因と分析理論
第12回　社会統合（同化、編入）
第13回　社会的結合、多文化社会と多文化主義
第14回　全体のまとめ

履修の注意点

単位取得の前提として、4回以上欠席しないこと。
履修の人数によって講義の進め方を調整するため、初回授業に出席すること。

準備学習の内容

予習：参考書などを利用し、該当回の内容について目を通しておくこと。授業で扱う各種
テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておくこと。
復習：配布資料や参考書等を利用して、授業内容を振り返って、理解を深めること。不明
な部分があれば授業で質問すること。

教科書

特に定めない。

参考書

『国際社会学』宮島喬、佐藤成基、小ヶ谷千穂編、改訂版、有斐閣、2023。
『よくわかる国際社会学』樽本英樹著、第 2 版、ミネルヴァ書房、2016。
『移民受入の国際社会学：選別メカニズムの比較分析』小井土彰宏編、 名古屋大学出版会、2017。
『現代人の国際社会学・入門--トランスナショナリズムという視点』西原和久、 樽本英樹編、有斐閣、2016。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業で前回のリアクションペーパーの全体講評を行う。

成績評価の方法

毎回、 リアクションペーパーを提出することとし、そのリアクションペーパーの点数の総計を 30%、授業への貢献度 20%、課題レポートを 50%で総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)SOC111J

社会学特殊講義Ｂ【2022年度以降入学者】 社会学特殊講義Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

兼任講師　高　　明

授業の概要・到達目標

概要：

秋学期では、春学期に学んだ理論的視角を踏まえ、日本社会における移民・外国人をめぐる諸問題を具体的に検討する。日本における移民の歴史、現代の移民政策、労働市場、エスニック・コミュニティ、家族、ジェンダー、社会階層などを取り上げ、国際移動が日本社会に与える影響と課題を多角的に考察することを目的とする。

到達目標：

秋学期の履修を通じて、学生は以下の能力を身につけることを目標とする。
①日本社会における移民・外国人の現状および政策的課題を理解できる。
②移民と労働、家族、ジェンダー、社会階層との関係を社会学的に分析できる。
③春学期で修得した理論的枠組みを、日本社会の具体的事例に応用して考察できる。

授業内容

第1回　イントロダクション：授業の進め方と成績評価
第2回　日本における移民の歴史
第3回　日本における外国人の諸相
第4回　現代日本の移民政策
第5回　少子高齢化と移民政策
第6回　日本における移民エスニックグループ・コミュニティの形成と地域社会①（在日中国人）
第7回　日本における移民エスニックグループ・コミュニティの形成と地域社会②（在日コリアン）
第8回　日本における移民エスニック・コミュニティの変容と新たな動向
第9回　日本における移民と労働①（技能実習制度）
第10回　日本における移民と労働②（高度人材制度）
第11回　日本における移民と社会階層
第12回　日本における移民と家族
第13回　日本における移民と女性
第14回　全体のまとめ

履修の注意点

単位取得の前提として、4回以上欠席しないこと。
履修の人数によって講義の進め方を調整するため、初回授業に出席すること。

準備学習の内容

予習：参考書などを利用し、該当回の内容について目を通しておくこと。授業で扱う各種
テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておくこと。
復習：配布資料や参考書等を利用して、授業内容を振り返って、理解を深めること。不明
な部分があれば授業で質問すること。

教科書

特に定めない。

参考書

『ニッポンの移民－増え続ける外国人とどう向き合うか』是川夕、筑摩書房、2025。
『移民受け入れと社会的統合のリアリティ：現代日本における移民の階層的地位と社会学的課題』是川夕、勁草書房、2019。
『日本の移民統合－全国調査から見る現況と障壁』永吉希久子、明石書店、2021。
『国際社会学』宮島喬、佐藤成基、小ヶ谷千穂編、改訂版、有斐閣、2023。
『よくわかる国際社会学』樽本英樹著、第 2 版、ミネルヴァ書房、2016。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業で前回のリアクションペーパーの全体講評を行う。

成績評価の方法

毎回、 リアクションペーパーを提出することとし、そのリアクションペーパーの点数の総計を 30%、授業への貢献度 20%、課題レポートを 50%で総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

経済学特殊講義A【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

特任教授　金　子　隆　一

授業の概要・到達目標

経済社会現象の基底には常に人口変動の働きがあり、とりわけ今日の日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢を基調とした社会へと歴史的な転換を経験しつつある。したがって、現代の経済社会を理解し、その将来を見通すためには、人口・経済社会の連動を正しく理解する必要がある。ただし、人口変動とは人々のライフコース変化の帰結であり、日本社会が直面している歴史的転換とは、実は私たち自身の生き方の転換に他ならない。本講義では、現代日本の人口・経済社会動向を概観した後、人口学（ライフコース統計学）の基礎事項を習得し、次いで我々の「生」を根本から変え、近代化の起点とも考えられる長寿化を中心に、人口・経済社会システムの動態についての理解を深める。

授業内容

第１回　イントロダクション…人口学：人生の計量科学
第２回　人口減少・超高齢化の実相(１)…世界の中の日本人口
第３回　人口減少・超高齢化の実相(２)…人口減少・高齢化の実相
第４回　人口減少・超高齢化の実相(３)…地域変動、出生死亡パラドックス
第５回　人口減少・超高齢化の実相(４)…人口オーナス、シルバー民主主義
第６回　人口減少・超高齢化の実相(５)…ライフコース変動、処方箋
第７回　人口統計の基礎概念…人口分析、人口静態と人口動態
第８回　人口変動メカニズムⅠ…人学的方程式、人口再生産
第９回　人口変動メカニズムⅡ…行動要因と構造要因、多死社会到来
第10回　生存と死亡の定量化…ライフコースのモデル、生命表
第11回　生存と死亡の歴史…寿命の進化・疫学転換理論
第12回　長寿化の要因…生物医学・経済社会的要因
第13回　長寿化の帰結…長寿化と経済リスク
第14回　長寿化と社会…長寿リスクと経済

履修の注意点

人口動向や経済社会の事象について問題意識をもって講義に臨むこと。授業における問題提起などに対しては真剣に考察すること。

準備学習の内容

統計や数式など定量的題材を用いるが、人口・経済社会の本質的理解が主眼であり、必ずしも予備知識等は必要としない。必須の技術的事項については授業で詳細に説明する。

教科書

指定しない。配付する資料を主な教材とし、適宜参考図書を紹介する。

参考書

遠藤薫(編)『人口縮小! どうする日本?: 持続可能な幸福社会へのアプローチ』東京大学出版会, 2025年
金子隆一・村木厚子・宮本太郎『新時代からの挑戦状』厚生労働統計協会、2018年
森田朗(監修)『日本の人口動向とこれからの社会』東京大学出版会、2017年
佐藤龍三郎・金子隆一（編著）『ポスト人口転換期の日本』原書房、2016年
河野稠果『人口学への招待』中公新書、2007年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席（50%）、期末レポート（50%）

その他

「経済学特殊講義B・Ⅱ」と重複する内容あり。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

経済学特殊講義B【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

特任教授　金　子　隆　一

授業の概要・到達目標

経済社会現象の基底には常に人口変動の働きがあり、とりわけ今日の日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢を基調とした社会へと歴史的な転換を経験しつつある。したがって、現代の経済社会を理解し、その将来を見通すためには、人口・経済社会の連動を正しく理解する必要がある。ただし、人口変動とは人々のライフコース変化の帰結であり、日本社会が直面している歴史的転換とは、実は私たち自身の生き方の転換に他ならない。本講義では、現代日本の人口・経済社会動向を概観し、人口学（ライフコース統計学）の基礎事項を習得した後、日本が先行し、やがて世界を席巻する人口減少・高齢化の「震源」少子化について学ぶことを通して、人口・経済社会システムの動態について理解を深める。

授業内容

第１回　イントロダクション…人口学：人生の計量科学
第２回　人口減少・超高齢化の実相(１)…世界の中の日本人口
第３回　人口減少・超高齢化の実相(２)…人口減少・高齢化の実相
第４回　人口減少・超高齢化の実相(３)…地域変動、出生・死亡パラドックス
第５回　人口減少・超高齢化の実相(４)…人口オーナス、シルバー民主主義
第６回　人口減少・超高齢化の実相(５)…ライフコース変動、処方箋
第７回　人口統計の基礎概念…人口分析、人口静態と人口動態
第８回　人口変動メカニズムⅠ…人学的方程式、人口再生産
第９回　人口変動メカニズムⅡ…行動要因と構造要因、多死社会到来
第10回　生存と死亡の定量化…合計特殊出生率、人口置換水準
第11回　生存と死亡の歴史…人類進化と出生、近代化と出生転換
第12回　少子化の要因…生物医学・経済社会的要因
第13回　少子化の帰結…人口変動のもたらす冬、経済社会転換
第14回　少子化と文明…脱近代化、人類社会の行方

履修の注意点

人口動向や経済社会の事象について問題意識をもって講義に臨むこと。授業における問題提起などに対しては真剣に考察すること。

準備学習の内容

統計や数式など定量的題材を用いるが、人口・経済社会の本質的理解が主眼であり、必ずしも予備知識等は必要としない。必須の技術的事項については授業で詳細に説明する。

教科書

指定しない。配付する資料を主な教材とし、適宜参考図書を紹介する。

参考書

遠藤薫(編)『人口縮小! どうする日本?: 持続可能な幸福社会へのアプローチ』東京大学出版会, 2025年
金子隆一・村木厚子・宮本太郎『新時代からの挑戦状』厚生労働統計協会、2018年
森田朗(監修)『日本の人口動向とこれからの社会』東京大学出版会、2017年
佐藤龍三郎・金子隆一（編著）『ポスト人口転換期の日本』原書房、2016年
河野稠果『人口学への招待』中公新書、2007年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席（50%）、期末レポート（50%）

その他

「経済学特殊講義A・Ⅰ」と重複する内容あり。

科目ナンバー：(PE)ECN141J

経済政策特殊講義Ａ【2022年度以降入学者】 経済政策特殊講義Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

特任教授　小　西　淳　文

授業の概要・到達目標

副題を「開発経済学の潮流と援助戦略の変遷」とし、各時代を席巻した理論とそれに基づく援助プロジェクトの成功例・失敗例を確認し、それぞれの理論の射程と限界を確認する。
このような歴史的経緯・事実を理解した上で、グローバル化した世界、分断化されるかもしれない世界に向けてどのような開発と援助を行うべきか考えることができることを目標とする。

授業内容

1回目　「講義の概要」
「国際経済体制の確立（1945年～）と戦後初期のアメリカのイニシアティブ」
「戦後初期の日本の外交戦略（経済協力の推進）」
2回目　「国際貿易と経済状況（1960年前後）」
「GATT」、「アジア・アフリカ諸国のムーブメント（1955年～1963年）」
「国連の動き（1957年～1962年）国連貿易会議開催決定まで」
「第１次国連開発の10年（1961～70年）」
「プレビッシュ報告書（1963年）と輸出ペシミズム論」
3回目　「第１回・２回UNCTAD（1964年・1968年）」
「GATTケネディラウンド」
「ピアソン報告書（1969年）」
「ティンバーゲン報告書（1969年）」
4回目　「第２次国連開発の10年（1971～80年）」
「第３回・４回・５回UNCTAD（1972年・1976年、1979年）」
「新国際経済秩序（1977年）」
「国際経済協力会議(CIEC)」(1975年～77年）」
「国連包括交渉（GN: Global Negotiations：1980～）」ほか
5回目　「第３次国連開発の10年（1981～90）」
「ブラント委員会報告書（1980年）」
「南北サミット（1981年）」
6回目　「歴史から学ぶ（総括）」
「構造主義（1940年代後半～1960年代前半）
「トリクルダウン仮説」、「ヌルクセの貧困の悪循環論」、「ロストウの段階理論」
「従属論（新マルクス主義）」、「世界資本蓄積論」
7回目　「国連人間環境会議（1972年）」～「国連環境開発会議（1992年）」
8回目　「国連環境開発会議フォロー（環境関連条約）」
「MDGs（2000年）」
「SDGs（2015年）」
9回目　「構造調整計画」
「改良主義」
「人間開発報告」
「人間の安全保障」
「JICA課題別指針」、「JICAグローバルアジェンダ」
10回目　「世界開発報告2012 ジェンダーの平等と開発」
「JICA課題別指針」（ジェンダーと開発）
11回目　「世界開発報告2011 紛争、安全保障と開発」
「JICA課題別指針」（平和構築）
12回目　「世界開発報告1997 開発における国家の役割」
13回目　「世界開発報告2017 ガバナンスと法」
「世界開発報告2023 移民、難民と社会）」
14回目　「世界開発報告2020 グローバル・バリューチェーン時代の貿易による開発」
「総括」

履修の注意点

各回とも授業の概要を示す事前配布資料をクラスウエブに掲載するので、あらかじめ一読し、質問事項について考えておいてください。
授業は、事前配布資料を一読していることを前提に進めます。
授業では事前配布資料の内容を詳しく説明します。
なお、本講義資料のクラスウエブへの掲載のタイミングは、皆さんの取り組み姿勢を勘案して決めることにします。レポート作成や復習に利用してください。

準備学習の内容

クラスウエブ掲載資料に加え、「外交青書」、「世界開発銀行の世界開発報告」、「UNDPの人間開発報告書」、「JICAホームページからアクセスできる該当資料」、「ブラント委員会報告書」などから理解を深めるようにしてください。

教科書

特にありません。

参考書

「外交青書」、「世界開発銀行の世界開発報告」、「UNDPの人間開発報告書」、「JICAホームページからアクセスできる該当資料」、「ブラント委員会報告書」などから理解を深めるようにしてください。

課題に対するフィードバックの方法

各回とも受講後に「質問事項の回答と、レポート（A4 2～3枚程度：指定様式あり）」の提出をお願いします。
レポートテーマは各回の授業の最後に提示します。
この「質問事項の回答と、レポート」は評価対象となるので必ず提出するようにしてください。
提出された「質問事項の回答と、レポート」に対しては、フィードバックコメントを返します。
提出された「最終レポート」に対しても、フィードバックコメントを返します。

成績評価の方法

1 学習内容の理解と考察（各回 5％満点 14回 計70％満点）
各回とも授業中にレポートテーマをお知らせしますので、「質問事項の回答と、レポート（A4 2～3枚程度：指定様式あり）」を各授業日の2日後の午後23時30分までに、クラスウエブのレポート提出欄に提出してください。
2 期末レポート（30％満点）
最終授業後にレポートテーマをお知らせしますので、「A4、3～4頁程度（指定様式あり）」で考えをまとめてください。
レポートの提出期間は、最終授業終了時から1週間後の午後23時30分までです。
提出先はクラスウエブの最終レポート提出欄です。締め切り厳守。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE)ECN141J

経済政策特殊講義Ｂ【2022年度以降入学者】 経済政策特殊講義Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

特任教授　小　西　淳　文

授業の概要・到達目標

日本及び国際社会の環境問題への取り組みを理解し、環境課題に対処しつつ成長を促す方法を模索することができること。
トピックとして、JICAが実施したプロジェクトの成果とそこで使われた科学技術やイノベーション技術についても紹介する。

授業内容

1回目　持続可能な開発～成長と環境の調和～ 講義の概要
「ツバル」（春学期の内容を少し深めます）、「モルディブ」
2回目　日本の環境問題の歴史と二国間協力
「インドネシア ヘイズ」
3回目　国連人間環境会議（1972年）
「タイ 酸性雨対策」
「中国 酸性雨及び黄砂モニタリングネットワーク整備計画」
4回目　国際社会の協力体制確立と日本の開発途上国支援
「タイ 環境研修研究センター」
「中国 日中友好環境保全センター」
「メキシコ 環境研究研修センター」
5回目　国連環境開発会議（1992年）と国際条約
「ブータン ヒマラヤ氷河湖決壊洪水」
6回目　大気関連
「中南米 オゾン層の保護」
7回目　海洋関連、廃棄物管理
「ブータン 廃棄物管理」
8回目　森林保全
「ブラジル アマゾン森林地帯の炭素量評価ほか」
9回目　生物多様性条約
「ガボン 森林生態系保全と科学的エコツーリズム」
10回目　気候変動枠組み条約
「タイ チャオプラヤ川の大洪水」
11回目　MDGs（2000年）、感染症対策
「Neglected Tropical Diseases」
12回目　ヨハネスブルグサミット（2002年）
「東部・南部アフリカの気象予測」
「南部アフリカ 気候変動とダイポールモード現象」
13回目　国連持続可能な開発会議（リオ＋20）、防災
「フィリピン 火山」、「チリ 地震・津波」
14回目 SDGs（2016年） 都市・地域開発
「セネガル ダカール首都圏開発」
「アジア 低炭素社会シナリオの開発」

履修の注意点

各回とも授業の概要を示す事前配布資料をクラスウエブに掲載するので、あらかじめ一読し、質問事項について考えておいてください。
授業は、事前配布資料を一読していることを前提に進めます。
授業では事前配布資料の内容を詳しく説明します。
なお、本講義資料のクラスウエブへの掲載のタイミングは、皆さんの取り組み姿勢を勘案して決めることにします。
レポート作成や復習に利用してください。

準備学習の内容

各回とも授業の概要を示す事前配布資料をクラスウエブに掲載するので、あらかじめ一読し、質問事項について考えておいてください。
授業は、事前配布資料を一読していることを前提に進めます。
授業では事前配布資料の内容を詳しく説明します。
なお、本講義資料のクラスウエブへの掲載のタイミングは、皆さんの取り組み姿勢を勘案して決めることにします。レポート作成や復習に利用してください。

教科書

特になし。

参考書

各回の授業で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各回とも受講後に「質問事項の回答と、レポート（A4 2～3枚程度：指定様式あり）」の提出をお願いします。
レポートテーマは各回の授業の最後に提示します。
この「質問事項の回答と、レポート」は評価対象となるので必ず提出するようにしてください。
提出された「質問事項の回答と、レポート」に対しては、フィードバックコメントを返します。
提出された「最終レポート」に対しても、フィードバックコメントを返します。

成績評価の方法

1 学習内容の理解と考察（各回 5％満点 14回 計70％満点）
各回とも授業中にレポートテーマをお知らせしますので、「質問事項の回答と、レポート（A4 2～3枚程度：指定様式あり）」を各授業日の2日後の午後23時30分までに、クラスウエブのレポート提出欄に提出してください。
2 期末レポート（30％満点）
最終授業後にレポートテーマをお知らせしますので、「A4、3～4頁程度（指定様式あり）」で考えをまとめてください。
レポートの提出期間は、最終授業終了時から1週間後の午後23時30分までです。
提出先はクラスウエブの最終レポート提出欄です。締め切り厳守。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE)ABR115M

海外留学演習Ⅰ～Ⅳ	2単位
	1年次

専任講師　宮崎　イキサン

授業の概要・到達目標

本演習は、「グローバル人材」の育成を目指して夏休みに実施される「ノースイースタン短期留学プログラム」に該当する。このプログラムは、アメリカ・ノースイースタン大学での特別講義に加えて、滞在中に、ボストン周辺諸施設・史跡等の見学、ノースイースタン大学の学生との国際交流などが組み込まれた幅広い内容となっている。このプログラムを通じ、英語力の向上のみならず、視野を広げ、新たな知見を得て、帰国後の学習に活かすとともに、自分自身の将来に向けたビジョンを描けるようになってもらいたい。

授業内容

［1］事前講座（渡航前）〔2コマ〕
事前講座においては、プログラム内容や目的、留意事項等を確認するとともに、現地で受講する特別講義の準備として、アメリカの政治・経済・社会の基礎について学び、視野を広げる。また、小グループに分かれてそれぞれ関心のあるテーマでディスカッションを行う。
［2］ノースイースタン大学短期留学プログラム（現地研修：1コマ＝70分換算）
※ノースイースタン大学の都合で、レクチャーの内容及び視察・訪問先は変更になる場合があります。
Lecture 1 “Globalization and the City”
Lecture 2 “United States Government”
Lecture 3 “Urbanization and Sustainability”
Lecture 4 “U.S. Social Welfare Policy”
Lecture 5 “U.S. Agricultural and Food Policy”
Lecture 6 “Economics of Aging and Social Security Concerns”
Lecture 7 “U.S. Foreign Policy: Actors and Institutions”
Lecture 8 “Economics of Environmental Issues and Comparative Policy Approaches”
Lecture 9 “U.S. Foreign Policy: Issues and Challenges”
Lecture 10 “Economics of Limiting International Trade and Comparison of International Trade Policy Approaches”
Lecture 11 “U.S. National Security”
Lecture 12 “International Migration”
Lecture 13 “Federalism in the U.S.”
Lecture 14 “Education Policy in the U.S.”
Lecture 15 “Global Experiential Learning”
Lecture 16 “Presidential Election in the U.S.”
Lecture 17 “Disasters and Resilience”
Lecture 18 “Civil Society, Social Change, and the Nonprofit Sector”
視察・訪問
Freedom Trail 、Faneuil Hall and Marketplace、Massachusetts State House、Consulate General of Japan in Boston、Harvard and MIT Walking Tour、Boston Public Library and Copley Square
［3］事後講座（帰国後）〔2コマ〕
事後講座においては、現地で学習した内容について振り返り、各参加者ごとに自らテーマを決めて発表を行う。

履修の注意点

「ノースイースタン短期留学プログラム」への参加にあたっては、応募書類と面接による選考がある。応募資格・応募方法・応募書類等については、春学期初めに公開される＜募集要項＞を参照すること。なお、渡航前の事前講座への出席、帰国後の事後講座への参加およびTOEIC（IP）テストの受験が必須となっている。

準備学習の内容

準備として、渡航前に可能な限り英語力（4技能すべて）を伸ばしておくことが肝要となるが、英語力以外にも、アメリカの政治・経済・社会・歴史等の基礎知識がなければ、講義内容を十分理解することは難しい。したがって、事前に書籍等を参照し、専門用語の意味内容を掴んでおく必要がある。また、ノートパソコンの操作などにも慣れておき、Word・Excel・プレゼンテーション資料作成ソフト等の使い方もマスターしておくことが望ましい。
なお、政治経済学部の国際交流学生委員会（The Supporters）への参加等を通じて、積極的に国際交流の機会を得られるようにすると、よい事前準備となるだろう。

教科書

特になし

参考書

※必要に応じて参考文献を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

講義において課題が出された場合、課題の提出・評価・フィードバックはOh-o! meijiシステム上で行う。
具体的には課題をOh-o! meijiクラスウェブの「レポート」欄に公開し、提出もこちらで受け付ける。さらに、Oh-o! meijiクラスウェブの「レポート」欄にはコメントやフィードバック機能が付いているので、課題に対するコメントやフィードバックもその機能を利用して行う。
さらなる理解や研究のために必要であれば、オフィスアワーでの対面でのコメントやフィードバックを実施することもある。

成績評価の方法

事前講座での取り組み20%、ノースイースタン大学でのプログラムへの取り組み（講義への出席と講義内容に関する理解やコメント、課外活動への参加や現地学生との交流など）60%、事後講座での発表（テーマの選定および内容）20%

その他

科目ナンバー：(PE)ABR115M

海外留学演習Ⅰ～Ⅳ	2単位
	1年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

本演習は、東南アジアをはじめアジアで活躍できる国際志向を持つ人材の育成を目指して夏休みに実施される「タイ短期留学プログラム」に該当する。このプログラムは、タイ協定校での特別講義に加えて、日本・タイ政府関連施設／国際機関等の訪問、協定校学生との国際交流などが組み込まれた幅広い内容となっている。
このプログラムを通じ、英語力の向上のみならず、日本を含むアジア地域全体へ視野を広げ、新たな知見を得て、帰国後の学習に活かすとともに、自らの将来像を描けるようになることが期待されている。

授業内容

[1] 事前講座（渡航前）〔2コマ〕
事前講座においては、プログラム内容や目的、留意事項等を確認するとともに、現地で受講する特別講義の準備として、タイの政治・経済・社会の基礎について学び、タイを含むアジア地域の様々な問題について視野を広げる。また、小グループに分かれてそれぞれ関心のあるテーマでディスカッションを行う。
[2] タイ短期留学プログラム　※授業内容は協定校の都合により変更になる可能性がある。
Lecture 1: Thai Language & Culture
Lecture 2: Thai Culture
Lecture 3:Thai Economy
Lecture 4:Thai Culture & History
Lecture 5: Thai Politics
Lecture 6:Thailand Sustainable Tourism Industry
Lecture 7: Thailand Food Security
Final Presentation（英語）
[3] 視察・訪問〕
本プログラムでは、下記の機関への視察・訪問を実施し、参加者にタイの思考様式や文化慣習に関する洞察を提供するとともに、タイで活動する日本関連機関の組織構造および機能を理解できるようにする。
バンコク国立博物館、アユタヤ観光、在タイ日本大使館、JETRO 、JSPS、JASSO、Japan Foundation
※視察・訪問先の都合により変更の可能性あり。

履修の注意点

「タイ短期留学プログラム」への参加にあたっては、応募書類と面接による選考がある。応募資格・応募方法・応募書類等については、春学期初めに公開される＜募集要項＞を参照すること。
なお、渡航前の事前講座への出席、および帰国後の最終レポートの提出とTOEIC(IP）テストの受験が必須となっている。最終課題の提出がない場合、単位認定がなされない点に注意すること。

準備学習の内容

準備として、渡航前に可能な限り英語力（4技能すべて）を伸ばしておくことが肝要となるが、英語力以外にも、タイ（東南アジア）の政治・経済・社会・歴史等の基礎知識がなければ、講義内容を十分理解することは難しい。したがって、事前に書籍等を参照し、専門用語の意味内容を掴んでおく必要がある。
また、現地では、インターネット上で資料や統計データを収集しなければならないので、ノートパソコンの操作などにも慣れておき、Wordやプレゼンテーション資料作成ソフト等の使い方もマスターしておくことが望ましい。
なお、政治経済学部の国際交流学生委員会（The Supporters）への参加等を通じて、積極的に国際交流の機会を得られるようにすると、よい事前準備となるだろう。

教科書

特になし

参考書

『入門　東南アジア近現代史』岩崎育夫著、(講談社、2017年)
『東南アジア現代政治入門（改訂版)』清水一史/田村慶子/横山豪志編著、(ミネルヴァ書房、2018年)
『消費するアジア―新興国市場の可能性と不安』大泉啓一郎著、(中央公論新社、2011年)
『タイの基礎知識（アジアの基礎知識)』柿崎一郎著、(めこん、2016年)
『タイ　中進国の模索』末廣昭著、(岩波書店、2009年)
※その他、必要に応じて参考文献を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

事前講座およびタイ滞在中を通じて、引率教員が学生のプログラムへの参加状況や学修状況に関して、適切な支援と助言を行います。必要に応じて、説明やフィードバック、さらなる支援を目的とした個別相談も行います。

Throughout the preparatory course and during the stay in Thailand, the instructor in charge will be available to support students and offer guidance regarding their participation and performance in the program. Consultations may also be arranged as needed to provide explanations, feedback, and additional assistance.

成績評価の方法

当該プログラムの全講義（事前講座を含む）や活動への積極的参加（60%）、共同研究のプレゼンテーション（20%）、最終レポート（20%）

その他

過去の共同研究テーマ（例）：タイの立憲君主制、バンコクの交通事情、タイで販売される日本食品、軍事政権（民主化）、地域間格差、貧困（スラム）、中所得国の罠（経済成長／経済発展）、タイにおける日系企業の活動、GVC（Global Value Chain)、日・タイの教育制度比較など。

科目ナンバー：(PE) ABR115M

海外留学演習Ⅰ～Ⅳ

2単位

1年次

特任講師　パスクッチ，ルアン

授業の概要・到達目標

本演習は、「グローバル人材」の育成を目指して春休みに実施される「西シドニー大学短期留学プログラム」に該当する。このプログラムは、オーストラリア・西シドニー大学での特別講義に加えて、協定校学生との国際交流などが組み込まれた幅広い内容となっている。このプログラムを通じ、英語力の向上のみならず、日本を含むアジア地域全体へ視野を広げ、新たな知見を得て、帰国後の学習に活かすとともに、自分自身の将来に向けたビジョンを描けるようになってもらいたい。

授業内容

[1] 事前講座（渡航前）〔2コマ〕
事前講座においては、プログラム内容や目的、留意事項等を確認するとともに、現地で受講する特別講義の準備として、オーストラリアの政治・経済・社会の基礎について学び、様々な問題について視野を広げる。また、小グループに分かれてそれぞれ関心のあるテーマでディスカッションを行う。
[2] 西シドニー大学短期留学プログラム　※授業内容は協定校の都合により変更になる場合があります。
Module 1: Discovering Australia
Topic: Politics of Australia
Topic: Multicultural identity
Topic: Aboriginal Australia
Topic: Colonial Contact
Topic: Aboriginal Australia
Topic: Colonial Contact
MODULE 1 PRESENTATIONS
Module 2:
Topic: Politics of Australia and Asia
Topic: Australia in Asia
Topic: Australia and China
Topic: Australia and US
Topic: Australia and the World
MODULE 3: Australia and Japan
Topic: Australian-Japan relations in context
Topic: Australia-Japan Post War Reconciliation
Topic: Contemporary Economic Co-operation
Discovering Australia Presentations
視察・訪問先
Australian Museum、War Memorial、Blue Mountains and Scenic World Tour、Sydney Zoo Tour、Walking Tour of Sydney Harbour and The Rocks
※視察・訪問先の都合により変更の可能性あり。

履修の注意点

「西シドニー大学短期留学プログラム」への参加にあたっては、応募書類と面接による選考がある。応募資格・応募方法・応募書類等については、春学期初めに公開される＜募集要項＞を参照すること。なお、渡航前の事前講座への出席、および帰国後の最終レポートの提出とTOEIC（IP）テストの受験が必須となっている。とくに、最終課題の提出がない場合、単位付与がなされない点に注意すること。

準備学習の内容

準備として、渡航前に可能な限り英語力（4技能すべて）を伸ばしておくことが肝要となるが、英語力以外にも、オーストラリアの政治・経済・社会・歴史等の基礎知識がなければ、講義内容を十分理解することは難しい。したがって、事前に書籍等を参照し、専門用語の意味内容を掴んでおく必要がある。また、現地では、インターネット上で資料や統計データを収集しなければならないので、ノートパソコンの操作などにも慣れておき、Word・Excel・プレゼンテーション資料作成ソフト等の使い方もマスターしておくことが望ましい。
なお、政治経済学部の国際交流学生委員会（The Supporters）への参加等を通じて、積極的に国際交流の機会を得られるようにすると、よい事前準備となるだろう。

教科書

参考書

必要に応じて参考文献を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

50%:　Achievement in class
(attendance, lesson participation, assignment achievement)
5%: Achievement in Jizen Kouza
20%: Diary
25%: Final Report

その他

科目ナンバー：(PE) ABR111J

留学基礎講座

2単位

1年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

本講座は、海外留学プログラムへの参加に関心のある学生を対象とする準備講座です。授業では、留学に必要な基礎知識の提供、具体的には出願手続きの遂行方法から、留学実生活および日常生活中に有用なガイダンスと実践的な語学指導に至るまでの徹底した事前指導を行い、留学プロセスをより円滑に進めることを目的としています。海外の大学で通用する実践的な英語を含む基礎的なアカデミック・スキルを身につけます。
本講座の到達目標は、次の2点です:
（1）履修者が自ら留学の出願や留学計画を適切に決定するために、留学をしっかり理解ができること;
（2）英語スキルを磨き、海外大学レベルの授業に特化した基礎的なアカデミックスキルを習得すること。
本講座は基本的に日本語と英語を使用しますが、英語練習のため、英語のみの授業も行います。

授業内容

(変更の可能性があります)
第1回：オリエンテーション
第2回～第5回：留学の理解・留学申請について
第6回～第9回：英語による授業のために必要かつ効果的なアカデミック・スキルについて
第10回～第13回：基本的なレポートやその他の基礎的な学術文章の執筆（または学術プレゼンテーション作成の基礎）
第14回：まとめ

履修の注意点

本講座は、TOEIC 550以上/ TOEFL iBT 61以上/ IELTS 5.0以上のいずれかのスコアを持つ学生を対象とします。ただし、これらのスコアは協定校留学プログラムの要件を反映したものではないので、希望する留学先の大学で必要とされるスコアを確認して、そのスコアを目安として前もって相当する英語学習をしっかりと達成しましょう。
真剣に留学を検討している学生にとっては、日本の大学と海外の大学との授業の進め方や期待される学習レベルの違いを理解し、受け入れることが重要です。履修者には積極的な行動と前向きな受講姿勢、留学経験で何を学び、何を達成したいのかを明確にする自律した学習者になることが望まれます。ほとんどの教室内でのアクティビティは学生が発言したり、自らの考えを表現したり、クラスのメンバーと意見交換したりすることとなるため、協力的な態度で積極的に授業に参加することが必要不可欠です。
本授業には英語運用能力に個人差のある学生が履修する可能性があるため、皆さんが安心して理解を深められるよう、日本語と英語を状況に応じて併用しながら進めていきます。
注意：秋コース（基礎講座）に履修する学生は、春コース（準備講座）を受講する必要はありません。留学講座は、どちらか一つだけを選んで受講してください。

準備学習の内容

履修者は授業が始まる前までに、ディスカッションや学習活動に関与できるように十分に予習をして、出席してください。また、与えられた時間内に宿題、授業内外の課題やグループワーク、プレゼンテーション等の事前準備に取り組み、すべての課題を完遂してください。メモをとるためのノートと配布プリントをまとめるためのファイルを各自用意して必ず持参してください。

教科書

教科書は特に使用しません。必要に応じて授業中にプリントを配布します。

参考書

特にありませんが、新聞・テレビ・インターネットなどのメディアを通じて、興味のある留学先の国に関する情報を読み、メモを取り収集する習慣を身につけてください。 授業に役立つため、学習者向けの英英辞書、英和・和英のバイリンガル辞書、または英英辞書を、紙媒体・オンライン・アプリのいずれの形式でもよいので、常に携行しておくと役に立ちます。

課題に対するフィードバックの方法

授業中には、課題に対して教員から直接フィードバックやアドバイスを受けることができます。
また、必要に応じて個別面談も行います。

成績評価の方法

授業へ積極的参加、態度・出席（30%）
授業内で実施する課題や宿題（40%）
最終課題、またはプレゼンテーション（30%）

その他

授業計画の詳細については、初回に配付するシラバスを参照のこと。

科目ナンバー：(PE)ABR111J

留学準備講座	2単位
	1年次

特任講師　デヴェラ，ローナヴェ

授業の概要・到達目標

本講座は、明治大学の海外留学プログラム、またはそのような留学プログラムに参加する予定の学生を対象に、留学先の国について様々な実践的なテーマを模索しながら学び、知識を得ると共に語学学習指導や基礎的な学修指導を受けることを目的としています。履修者が留学先の国について日常生活、価値観、習慣、伝統などのさまざまな側面や状況を入念に調べて、日本文化と比較することにより、留学先の人々や文化への理解を深めることを授業目標としています。しかも異文化能力の育成と、さらなる国際的な視野や考え方を身に付ける機会を提供します。このクラスでは以下のことができるようになります：
（1） 留学経験の重要性や価値、そのメリットが個人の成長及び自分の将来計画とどのようにつながるかを理解できるようにします;
（2） 海外大学レベルの授業の困難さを乗り越えられるように、基本的な英語学習スキルに磨きをかけます;
（3） 留学先での学生生活において、さまざまな場面でのコミュニケーションや交流のために、個人的・社会的なレベルで自信とスキルを身につけることができます。英語による教育を受ける備えとして、教室での学習や交流に役立つコミュニケーションスキルとストラテジーの指導も行います。また、留学の課題に対する意識を高めながら、新しい文化や環境に対応するために不可欠なスキルである問題解決能力（トラブルシューティング）や批判的思考力を身につけます。留学に対する意識を高めながら、新しい文化と環境への取組みに際し学生が必ず学ぶべきスキルである問題解決能力（トラブルシューティング）と批判的思考力（クリティカル・シンキング）も養います。
本講座は基本的に日本語と英語を使用しますが、英語練習のため、授業中にレッスンは英語で行います。

授業内容

(変更の可能性があります)
第1回：オリエンテーション
第2回～第8回：留学準備ガイダンス／学習スキルの指導
第9回～第13回：留学先の国についてテーマ別調査・発表・ディスカッション
第14回：復習・まとめ

履修の注意点

本講座は、TOEIC 550以上/ TOEFL iBT 61以上 / IELTS 5.0以上のいずれかのスコアを持つ学生を対象とします。留学を希望している、または、留学を決められた履修者にとっては、日本の大学と海外の大学との授業のあり方や期待される学習態度や内容の違いを理解し、受け入れることが重要です。
履修者には積極的な行動と前向きな受講姿勢、留学経験で何を学び、何を達成したいのかを明確にする自律した学習者になることが望まれます。ほとんどの教室内でのアクティビティは学生が発言したり、自らの考えを表現したり、クラスのメンバーと意見交換したりすることとなるため、協力的な態度で積極的に授業に参加することが必要不可欠です。
春コース（準備講座）に履修する学生は、秋コース（基礎講座）を受講する必要はありません。留学講座は、どちらか一つだけを選んで受講してください。
注意：本講座は語学授業ではありませんが、授業で使用する英語に触れ、練習し、慣れ親しむことで、海外留学で役立つ英語力に触れる良い機会となります。

準備学習の内容

履修者は授業が始まる前までに、ディスカッションや学習活動に関与できるように十分に予習をして、出席してください。また、与えられた時間内に宿題、授業内外の課題やグループワーク、プレゼンテーション等の事前準備に取り組み、すべての課題を完遂してください。
メモをとるためのノートと配布プリントをまとめるためのファイルを各自用意して必ず持参してください。

教科書

教科書は特に使用しません。必要に応じて授業中にプリントを配布します。

参考書

特に指定はありませんが、新聞・テレビ・インターネットなどの各種メディアを通じて、関心のある留学先の国に関する情報を読み取り、メモを取る習慣を身につけてください。授業には、学習者向けの英英辞書、英和・和英のバイリンガル辞書、または英英辞書を、紙媒体・オンライン・アプリのいずれの形式でもよいので、常に携行しておくと役に立ちます。

課題に対するフィードバックの方法

学生は授業中に教授から直接課題に対するフィードバックやアドバイスを受けることができます。
また、必要に応じて個別相談会を実施します。

成績評価の方法

授業へ積極的参加、態度・出席（30%）
ディスカッションの提出物や発表(40%)
その他、授業内で実施する課題や宿題（30%）

その他

授業計画の詳細については、初回に配付するシラバスを参照のこと。

科目ナンバー：(PE)IND111J

就業力育成総合講座【2026年度以降入学者】 就業力育成総合講座B【2025年度以前入学者】	2単位
	1年次

特任教授　小　西　淳　文

授業の概要・到達目標

講師（JICA職員、外務省員として、多くの経験あり）による講話と意見交換に加え、様々な組織の一員として国際社会で活躍される方々10～11名を外部講師としてお招きし、各々の業務内容を紹介していただくとともに、学生時代に取り組んでいたことなど、貴重なアドバイスを得る授業としています。
国際社会での活躍を検討している学生さんがその実現に向けた課題を整理し、在学中に実践できることが目標。

授業内容

1回目　講座の概要説明（小西）
2回目　外務省在外公館長（特命全権大使）による講話と意見交換（順不同）
3回目　外務省員による講話と意見交換（順不同）
4回目　JICA職員による講話と意見交換（順不同）
5回目　JICA専門家による講話と意見交換（順不同）
6回目　JICA海外協力隊経験者による講話と意見交換（順不同）
7回目　開発系コンサルタントによる講話と意見交換（順不同）
8回目　中間総括（小西）
9回目　海外展開を行っているコンサルティング会社員による講話と意見交換（順不同）
10回目　海外展開を行っている一般財団法人職員による講話と意見交換（順不同）
11回目　海外展開を行っている民間企業職員の講話と意見交換（順不同）
12回目　海外展開を行っているNPO代表理事による講話と意見交換（順不同）
13回目　国際機関職員による講話と意見交換（順不同）
14回目　全体総括（小西）
(外部講師の招聘は調整中で、所属先等一部変更があることもあります。都合のつく方10～11名を想定しています。)

履修の注意点

職務経験が豊富な外部講師に講話をいただくことが多い講座ですが、本学の学生として恥ずかしくない受講態度や受講後のレポート提出をお願いします。

準備学習の内容

各回とも講師が使用されたプレゼン資料をクラスウエブに掲載するので、レポート作成や復習に利用してください。
各講師から紹介された書籍や資料を熟読されることをお勧めします。

教科書

なし。
各講師から紹介された書籍や資料を熟読されることをお勧めします。

参考書

なし。
各講師から紹介された書籍や資料を熟読されることをお勧めします。

課題に対するフィードバックの方法

各回ともレポート（A4 1～2枚程度：様式あり）の提出をお願いします。
テーマ「講師（小西）や外部講師の講話と意見交換を通じて考えたこと」
提出されたレポートでの質問・コメントについては、講師（小西）や外部講師からの回答・コメントをフィードバックします。

成績評価の方法

1小レポート（A4 1～2ページ程度：様式あり）の提出
テーマ「講師（小西）や外部講師の講話と意見交換を通じて考えたこと」
（各回5％ 計70%）
2期末レポート（A4 1～2ページ程度、様式あり）(30%)
テーマ「この講座を受け確認できた自分自身の課題（5項目）についてアクションプランを作成すること」
なお、このアクションプランには「到達目標となる指標」と「タイムスケジューリング」を必ず明記すること。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE)IND111J

就業力育成総合講座【2026年度以降入学者】
就業力育成総合講座D【2025年度以前入学者】

2単位

1年次

教授　奥　山　雅　之

授業の概要・到達目標

本講座は、学生がビジネスキャリアを主体的に構想できるようになるための実践的講座である。本講座では、今後のビジネスキャリアに必要不可欠なグローカルビジネスを動かす「プロデューサーシップ」能力の獲得を目指す。「プロデューサーシップ」とは、0から1をつくり出す起業家とは異なり、1を100にするために、ビジネスの完成度を高め、関係者をネットワークし、「売り出す」姿勢であり、思想であり、能力である。
前半では、グローバルとローカルを統合する「グローカルビジネス」、プロデューサーシップ、越境EC、クラウドファンディング、ライブコマース、法務・会計・税務など、近年の潮流と実践ノウハウを学ぶ。後半では、テーマ「地方の産品を世界に売り出す」を題材に、グループでビジネスプランを立案し、最終回で発表と実務者による講評を受ける。この過程を通して、起業やビジネス構想を自らのキャリア選択肢と捉え、グローカルな思考力と行動力、構想力を育成することをめざす。
到達目標
1．グローカルな視点でビジネスを捉えられるようになる
2．地域資源を活かしたビジネスを動かす「プロデューサーシップ」を身につける
3．調査・企画・発表・議論のプロセスを通して、チームで事業構想を練る力を獲得する

授業内容

第1回
イントロダクション／グローカルビジネスとは何か
奥山雅之（明治大学）
講座の全体設計を説明するとともに、「グローカル＝グローバル＋ローカル」の視点を紹介。地域と世界を結ぶビジネスの可能性を概観する。
第2回
プロデューサーシップ
桜庭大輔（NPO法人ZESDA 代表理事）
次代に必要な「プロデューサーシップ」「媒介者としての役割」を磨く視点を学ぶ。特に、関係者を巻き込んで企画を実行に結びつけるスキルを理解する。
第3回
海外市場開拓・越境EC活用法
徳田祐希（世界へボカン株式会社 代表取締役）
越境EC・海外Webマーケティングの実務を、成功事例や失敗事例を交えながら学ぶ。中小事業者でも使える戦略設計や運用手法を紹介する
第4回
海外クラウドファンディング活用法
中村岳人（株式会社Gaku 代表取締役）
海外向けクラウドファンディング（Kickstarterなど）の仕組み、企画設計、リターン設計、集客・プロモーション戦略を学ぶ
第5回
海外ライブコマース活用法
菱沼一郎（菱沼貿易株式会社 代表取締役）
ライブ配信型即時販売（ライブコマース）のグローバル事例や実践上のノウハウを学び、リアルタイムコミュニケーション型販促を体感する
第6回
海外展開と法律リスク
板崎一雄（弁護士・三浦法律事務所）
海外契約、知的財産、コンプライアンス、輸出規制など、国際ビジネスで知っておくべき法務リスクを学ぶ
第7回
海外展開における財務の実際
細田明（税理士法人フェアコンサルティング 代表社員）
国際税務、現地法人設立、移転価格、消費税・関税等の制度設計を学び、実務観点から海外展開を支える基盤を理解する
第8回
地域創生の現場：春蘭の里など
瀬崎真広（NPO法人ZESDA 理事）
石川県能登「春蘭の里」などの地域創生プロジェクトを題材に、地域資源活用型観光・交流モデルを学ぶ。ZESDAの地域事業とも接続する
第9回
伝統工芸の海外展開
八木温子（8PEACE）
伝統工芸品を現代のマーケットとつなげて海外展開する実例を通して、文化的価値とビジネス性の統合を考える
第10回
課題提示：馬路村の柚子の海外展開
木下彩二（高知県馬路村農協）
高知県馬路村の柚子を題材に、現在の流通・課題・強み・海外展開の可能性を講師より提示。学生はこの課題をビジネスプランの基点とする
第11回
海外展開プランのつくり方
奥山雅之（明治大学）
課題設定からコンセプト設計、ビジネスモデル設計、収支予測、マーケティング戦略、リスク評価まで、プラン構成の基本フレームを修得する
第12回
グループワーク
奥山雅之（明治大学）
各グループは課題に取り組み、プラン案をブラッシュアップする
第13回
発表①：海外展開プランの発表
上野匡史（NPO法人ZESDA）／
奥山雅之（明治大学）
各グループによる最初のプレゼンテーションと、実務者視点からのフィードバックを受ける
第14回
発表②：海外展開プランの発表
上野匡史（NPO法人ZESDA）／
奥山雅之（明治大学）
各グループによる最初のプレゼンテーションと、実務者視点からのフィードバックを受ける

履修の注意点

外部から講師を招聘する講座ですので、講師への礼を失することがないように、能動的に学ぼうとする姿勢をもって、講義に真剣に向き合うことが求められる。

準備学習の内容

予習：ビジネスに対する問題意識や提言力を身につけるため、日頃より新聞の経済・産業関連記事に接することが望まれる。とくに、企業や製品の海外展開、特産品のグローバル市場への展開などに興味を持って記事などに接していただきたい。
復習：毎回、講義終了時に講師から出される課題レポートを提出期限を守ってOh-o! Meijiクラスウェブにアップすることが求められる。

教科書

奥山雅之・NPO法人ZESDA『グローカルビジネスのすすめ』紫洲書院, 2021

参考書

徳田祐希・中村岳人・森田尚志『越境EC＆海外Webマーケティング"打ち手"大全』インプレス, 2025

課題に対するフィードバックの方法

課題に関連する質問があった場合には、必要に応じて各講師からフィードバックがある。また、課題のうち解説が必要なものについては、課題が提出された次の回の講義で解説する。

成績評価の方法

この講座の成績評価は、
（1）授業への参加・貢献度（平常点に加えて、クラスに向けての発言など、能動的な参加態度を授業への貢献として加点する）
（2）毎回のレポート提出状況（毎回、講師から出される課題レポートを提出期限を守ってOh-o! Meijiシステムにアップすること）
（3）プレゼンテーション資料、プレゼンテーション、最終レポートの内容
以上の（1）（2）（3）によって総合的に評価します。
定期試験は実施しません。

その他

本講座は実務経験豊富な民間の専門家と本学教員の協働によって運営される。自立したビジネスパーソンをめざす学生にぜひ受講していただきたい。

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法【2025年度以前入学者】

4単位

1年次

兼任講師　上　代　庸　平

授業の概要・到達目標

この科目では、憲法学のうち基本的人権論を扱う。基本的人権は、法政策にとって実現・具体化すべき対象であり、かつ、その限界を画すものでもある。この観点から、実際に生じた人権問題をケースとして取り上げ、最高裁判所の判例に依拠して、各人権に関わる法的論点について教科書とレジュメに沿って講義する。

人権問題に対する判例の態度とその論理の把握を通じて、憲法学の基本用語・基礎概念を理解するとともに、それを法政策論に反映させるために必要な法的・論理的思考力と表現能力を修得することを到達目標とする。

＜秋学期＞

この科目では、憲法学のうち統治機構論と憲法政策論を扱う。統治機構は、憲法の理念の具体化形態であり、法政策の実現過程でもある。この観点から、権力と国民との関係・権利救済に関する現代的問題をケースとして取り上げ、最高裁判所の判例に依拠して、統治機構の諸制度に関わる法的論点について教科書とレジュメに沿って講義するほか、実際の政策論への憲法的価値の反映について、政策法務の視点から論じる。

統治活動に対する判例の態度とその論理の把握を通じて統治に関わる制度・組織に関する観察視点を構築するとともに、それを法政策論に反映させるために必要な論理構成能力と表現能力を修得することを到達目標とする。

授業内容

＜春学期＞

第１回目a：イントロダクション（憲法の学び方・基本的人権論への導入）
　　b：人権擁護の原理としての立憲主義・法治主義
第２回目　就職と憲法・人権～ハラスメントは人権侵害か（基本的人権の性質と射程、私人間効力）
第３回目　外国人の人権と平等～等しくあるべきはスタートかゴールか（人権の享有主体・法の下の平等）
第４回目　思想と良心～内心に反する義務は許されるか（思想良心の自由）
第５回目　国家と信仰～「カルト」に対する規制はなぜ困難なのか（信教の自由・政教分離）
第６回目　表現とその規制①～勝手にビラを撒いてはいけないのはなぜか（表現の自由の概念と射程・二重の基準論）
第７回目　表現とその規制②～表現に対する国家の支援はどのような場合に必要か（表現の自由の規制・表現と法制度・名誉、プライバシーとの調整）
第８回目　職業の自由～営業停止処分が憲法上許される場合とは（職業選択の自由・居住移転の自由・規制目的二分論）
第９回目　財産権と私有財産制度～「私の財産」は権利か制度か（財産権とその制度的保障、損失補償）
第10回目　社会権～「最低限度の生活」とはどのようなものか（生存権・労働基本権）
第11回目　教育と憲法～検定済教科書はなぜ必要なのか（学問の自由・大学の自治・教育を受ける権利）
第12回目　人身の自由～死刑は残虐な刑罰か（適正手続・刑事手続における人権）
第13回目　参政権～強制投票制度を導入することは可能か（選挙の法的性質、選挙権の制度的理解）
第14回目　まとめ・基本的人権の論じ方

＜秋学期＞

第１回目a：イントロダクション（憲法の概念と特性、統治機構論への導入）
　　b：統治の組織原理としての権力分立
第２回目　統治機構の基礎概念～憲法を遵守するべきは誰か（立憲主義の生成と展開、法の支配と法治主義）
第３回目　憲法の具体化としての統治組織～独裁者はなぜ生まれるのか（民主主義・権力分立の展開）
第４回目　立法①～「国の唯一の立法機関」とはどのような意味か（立法権の意義、代表の観念）
第５回目　立法②～国会議員をクビにすることができないのはなぜか（国会の組織と権能、議員の地位、政党）
第６回目　内閣～参院議員は首相になることができるか（行政の概念、内閣の組織と構成、独立行政委員会、解散権の所在）
第７回目　司法①～法律の違憲性を裁判で争うためには（司法の観念と司法制度、司法の独立）
第８回目　司法②～大学の処分を裁判で争うことができない理由とは（司法権の限界、司法の独立）
第９回目　司法③～憲法判断の回避はどのような場合になされるか（違憲審査の方法、違憲判決の効力）
第10回目　財政・地方自治～日本の自治体財政はなぜ苦しいのか（財政の意義、財政国会中心主義、租税法律主義、地方自治の制度的保障、条例の効力）
第11回目　象徴天皇制・平和主義～憲法９条の下で自衛隊が存立できるのはなぜか（平和主義の意義、憲法９条の解釈、自衛権の範囲、象徴天皇制）
第12回目　憲法政策論①～自転車保険加入義務づけ条例の憲法問題とは（法政策と憲法、公共の福祉の具体化）
第13回目　憲法政策論②～契約における「反社条項」はなぜ存在するか（政策による人権制約の正当化）
第14回目　まとめ・統治機構の論じ方

履修の注意点

各回のケーススタディでは必要に応じて直近の事件や事象を取り扱うことがあるため、憲法・裁判等に関する報道に関心を向けるようにしていることが望ましい。

準備学習の内容

＜春学期＞

授業は、各回の人権の一般論と、当該人権に関する最高裁判例に基づく解釈論とで構成される。前者に関しては、事前にシラバスの項目に対応する概説書の章を読んでおくこと。後者については、講義レジュメを基にして取り上げられた判例を判例集で調べること。

＜秋学期＞

授業は、各回の統治組織に関する一般論と、それに関連する最高裁判例に基づく解釈論とで構成される。前者に関しては、事前にシラバスの項目に対応する概説書の章を読んでおくこと。後者については、講義レジュメを基にして取り上げられた判例を判例集で調べること。

教科書

『憲法概説［第３版］』松浦一夫・奥村公輔編（成文堂）2026年
『判例プラクティス憲法［第３版］』宍戸常寿・曽我部真裕編（信山社）2022年

参考書

最新版の小型六法（ポケット六法・デイリー六法・法学六法等があるが、いずれでも差し支えない。）

課題に対するフィードバックの方法

期末試験および任意レポート（下記参照）の解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、各自で確認すること。

成績評価の方法

期末試験（100%）。ただし、学期中に任意レポートを課し、それを提出した者について20%を限度として試験の採点結果に加点を行ったうえで成績評価を行う。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法【2025年度以前入学者】

4単位

1年次

兼任講師　中　村　安　菜

授業の概要・到達目標

【授業の概要】この授業では、最初に憲法の基本原理について学んだ上で、日本国憲法の具体的な内容について理解を深めていきます。授業では、関連判例も適宜取り上げます。
【到達目標】
日本国憲法の基礎的知識を身につけること、日本国憲法の全体像をつかむこと、その上で憲法問題について自分で考えを組み立てられるようにすることを到達目標とします。

授業内容

第1回目：イントロダクション
第2回目：憲法の基本原理
第3回目：日本における憲法の歴史
第4回目：国民主権と権力分立
第5回目：平和主義
第6回目：象徴天皇制
第7回目：国会（1）　－国会の組織
第8回目：国会（2）　－国会の権限
第9回目：内閣（1）　－議院内閣制、内閣の構成
第10回目：内閣（2）　－内閣の権限
第11回目：裁判所（1）　－司法権の概念と司法の独立
第12回目：裁判所（2）　－違憲審査制と憲法訴訟
第13回目：地方自治と財政
第14回目：a：前半のまとめ
　　b：試験
第15回目：人権総論
第16回目：人権の享有主体性　－人権の国際化と外国人への権利保障
第17回目：法の下の平等（1）　－平等の概念
第18回目：法の下の平等（2）　－判例の動向
第19回目：思想良心の自由
第20回目：信教の自由と政教分離
第21回目：学問の自由
第22回目：表現の自由（1）総論
第23回目：表現の自由（2）　－表現の自由に対する規制
第24回目：表現の自由（3）　－集会の自由と結社の自由
第25回目：人身の自由
第26回目：経済的自由権
第27回目：社会権　－生存権と労働権－
第28回目：a：後半のまとめ
　　b：試験
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

指定している教科書2冊は、毎回授業に持参してください。

準備学習の内容

予習では、各回の授業内容に該当する教科書のページを熟読し、自分が重要だと考える部分や疑問点などを整理すること。また復習では、授業の内容を振り返り、授業の重要な部分をきちんと理解しているか、予習段階で疑問だった点が解決できているかを確認すること。不明な点がある場合は質問すること。

教科書

『グラフィック憲法入門〔第3版〕』毛利透（新世社）
『憲法判例50！〔第3版〕』上田 健介・尾形 健・片桐 直人

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

第14回と第28回のbモジュールで、試験の解説と講評を行います。

成績評価の方法

授業内試験と授業への参加度とを成績評価の対象として、総合的に判断する。詳細は授業内で説明する。

その他

Oh-o!Meijiにレジュメを掲載するので、授業の際には印刷・ダウンロードして持参すること。

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法【2025年度以前入学者】

4単位

1年次

兼任講師　三　枝　昌　幸

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
この授業では憲法の全体像について基礎事項を中心に講義する。最初に憲法の概念や基本原理を解説し、次に憲法が定める統治の仕組みを解説する。これらの知識を踏まえつつ、憲法が保障する基本的人権の意義や内容、限界について解説する。授業では裁判所の判決も積極的に取り上げ、具体的な憲法問題の解決方法についても検討する。
《到達目標》
憲法の基礎概念を説明できるようになること、及び基礎的な憲法問題について自身の見解を説明できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回　憲法とは何か
第2回　日本憲法史
第3回　国民主権と権力分立
第4回　象徴天皇制
第5回　国会（1）　国会の地位と組織
第6回　国会（2）　国会の権限
第7回　内閣（1）　内閣の組織
第8回　内閣（2）　内閣の権限
第9回　裁判所（1）　裁判所の組織
第10回　裁判所（2）　裁判所の権限
第11回　裁判所（3）　違憲審査制
第12回　財政と地方自治
第13回　平和主義
第14回　a：前半のまとめ
　　b：試験
第15回　人権総論（1）　人権の意義
第16回　人権総論（2）　人権の制約
第17回　思想良心の自由
第18回　信教の自由
第19回　表現の自由
第20回　集会結社の自由
第21回　職業選択の自由
第22回　人身の自由
第23回　生存権
第24回　勤労の権利
第25回　参政権
第26回　法の下の平等
第27回　新しい人権
第28回　a：後半のまとめ
　　b：試験

履修の注意点

特になし。

準備学習の内容

次回の授業範囲について教科書の該当箇所を熟読し、重要だと思われる部分を整理しておくこと。授業後はレジュメやノートを見返し、授業内容を整理すること。分からない部分があれば質問すること。

教科書

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
上田健介、尾形健、片桐直人『憲法判例50! 〔第3版〕』（有斐閣、2023年）

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施する試験の結果を講評する。

成績評価の方法

授業内試験（90%）、授業への参加態度（10%）

その他

レジュメをOh-o! Meijiに掲載するので、授業前にダウンロードしたり印刷したりしておくこと。

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法Ａ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

兼任講師　上　代　庸　平

授業の概要・到達目標

この科目では、憲法学のうち基本的人権論を扱う。基本的人権は、法政策にとって実現・具体化すべき対象であり、かつ、その限界を画すものでもある。この観点から、実際に生じた人権問題をケースとして取り上げ、最高裁判所の判例に依拠して、各人権に関わる法的論点について教科書とレジュメに沿って講義する。

人権問題に対する判例の態度とその論理の把握を通じて、憲法学の基本用語・基礎概念を理解するとともに、それを法政策論に反映させるために必要な法的・論理的思考力と表現能力を修得することを到達目標とする。

授業内容

第１回目a：イントロダクション（憲法の学び方・基本的人権論への導入）
　　b：人権擁護の原理としての立憲主義・法治主義
第２回目　就職と憲法・人権～ハラスメントは人権侵害か（基本的人権の性質と射程、私人間効力）
第３回目　外国人の人権と平等～等しくあるべきはスタートかゴールか（人権の享有主体・法の下の平等）
第４回目　思想と良心～内心に反する義務は許されるか（思想良心の自由）
第５回目　国家と信仰～「カルト」に対する規制はなぜ困難なのか（信教の自由・政教分離）
第６回目　表現とその規制①～勝手にビラを撒いてはいけないのはなぜか（表現の自由の概念と射程・二重の基準論）
第７回目　表現とその規制②～表現に対する国家の支援はどのような場合に必要か（表現の自由の規制・表現と法制度・名誉、プライバシーとの調整）
第８回目　職業の自由～営業停止処分が憲法上許される場合とは（職業選択の自由・居住移転の自由・規制目的二分論）
第９回目　財産権と私有財産制度～「私の財産」は権利か制度か（財産権とその制度的保障、損失補償）
第10回目　社会権～「最低限度の生活」とはどのようなものか（生存権・労働基本権）
第11回目　教育と憲法～検定済教科書はなぜ必要なのか（学問の自由・大学の自治・教育を受ける権利）
第12回目　人身の自由～死刑は残虐な刑罰か（適正手続・刑事手続における人権）
第13回目　参政権～強制投票制度を導入することは可能か（選挙の法的性質、選挙権の制度的理解）
第14回目　まとめ・基本的人権の論じ方

履修の注意点

各回のケーススタディでは必要に応じて直近の事件や事象を取り扱うことがあるため、憲法・裁判等に関する報道に関心を向けるようにしていることが望ましい。

準備学習の内容

授業は、各回の人権の一般論と、当該人権に関する最高裁判例に基づく解釈論とで構成される。前者に関しては、事前にシラバスの項目に対応する概説書の章を読んでおくこと。後者については、講義レジュメを基にして取り上げられた判例を判例集で調べること。

教科書

『憲法概説［第３版］』松浦一夫・奥村公輔編（成文堂）2026年
『判例プラクティス憲法［第３版］』宍戸常寿・曽我部真裕編（信山社）2022年

参考書

最新版の小型六法（ポケット六法・デイリー六法・法学六法等があるが、いずれでも差し支えない。）

課題に対するフィードバックの方法

期末試験および任意レポート（下記参照）の解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、各自で確認すること。

成績評価の方法

期末試験（100%）。ただし、学期中に任意レポートを課し、それを提出した者について20%を限度として試験の採点結果に加点を行ったうえで成績評価を行う。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法Ａ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

兼任講師　中　村　安　菜

授業の概要・到達目標

【授業の概要】この授業では、最初に憲法の基本原理について学んだ上で、日本国憲法の具体的な内容について理解を深めていきます。授業では、関連判例も適宜取り上げます。
【到達目標】
日本国憲法の基礎的知識を身につけること、日本国憲法の全体像をつかむこと、その上で憲法問題について自分で考えを組み立てられるようにすることを到達目標とします。

授業内容

第１回目：イントロダクション
第２回目：憲法の基本原理
第３回目：日本における憲法の歴史
第４回目：国民主権と権力分立
第５回目：平和主義
第６回目：象徴天皇制
第７回目：国会（１）　－国会の組織
第８回目：国会（２）　－国会の権限
第９回目：内閣（１）　－議院内閣制、内閣の構成
第10回目：内閣（２）　－内閣の権限
第11回目：裁判所（１）　－司法権の概念と司法の独立
第12回目：裁判所（２）　－違憲審査制と憲法訴訟
第13回目：地方自治と財政
第14回目：a：前半のまとめ
　　b：試験
第15回目：人権総論
第16回目：人権の享有主体性　－人権の国際化と外国人への権利保障
第17回目：法の下の平等（１）　－平等の概念
第18回目：法の下の平等（２）　－判例の動向
第19回目：思想良心の自由
第20回目：信教の自由と政教分離
第21回目：学問の自由
第22回目：表現の自由（１）総論
第23回目：表現の自由（２）　－表現の自由に対する規制
第24回目：表現の自由（３）　－集会の自由と結社の自由
第25回目：人身の自由
第26回目：経済的自由権
第27回目：社会権　－生存権と労働権－
第28回目：a：後半のまとめ
　　b：試験
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

指定している教科書２冊は、毎回授業に持参してください。

準備学習の内容

予習では、各回の授業内容に該当する教科書のページを熟読し、自分が重要だと考える部分や疑問点などを整理すること。また復習では、授業の内容を振り返り、授業の重要な部分をきちんと理解しているか、予習段階で疑問だった点が解決できているかを確認すること。不明な点がある場合は質問すること。

教科書

『グラフィック憲法入門〔第３版〕』毛利透（新世社）
『憲法判例50！〔第３版〕』上田 健介・尾形 健・片桐 直人

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

第14回と第28回のbモジュールで、試験の解説と講評を行います。

成績評価の方法

授業内試験と授業への参加度とを成績評価の対象として、総合的に判断する。詳細は授業内で説明する。

その他

Oh-o!Meijiにレジュメを掲載するので、授業の際には印刷・ダウンロードして持参すること。

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法A【2026年度以降入学者】

2単位

1年次

兼任講師　三　枝　昌　幸

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
この授業では憲法が保障する基本的人権について基礎事項を中心に講義する。最初に人権の意義や歴史、制約原理などを解説し、それらの知識を踏まえつつ憲法が保障する個別の基本的人権を学習していく。授業では裁判所の判決も積極的に取り上げ、具体的な憲法問題の解決方法についても検討する。
《到達目標》
人権論の基礎事項を説明できるようになること、また人権に関する憲法問題について自身の見解を説明できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回　人権総論（1）　人権の意義
第2回　人権総論（2）　人権の制約原理
第3回　思想良心の自由
第4回　信教の自由
第5回　表現の自由
第6回　集会結社の自由
第7回　職業の自由
第8回　人身の自由
第9回　生存権
第10回　労働権
第11回　参政権
第12回　法の下の平等
第13回　新しい人権
第14回　a：まとめ
　　b：試験

履修の注意点

特になし。

準備学習の内容

次回の授業範囲について教科書の該当箇所を熟読し、重要だと思われる部分を整理しておくこと。授業後はレジュメやノートを見返し、授業内容を整理すること。分からない部分があれば質問すること。

教科書

渋谷秀樹、赤坂正浩『憲法1 人権〔第9版〕』（有斐閣、2025年）

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施する試験の結果を後日講評する。

成績評価の方法

授業内試験（90%）、授業への参加態度（10%）

その他

レジュメをOh-o! Meijiに掲載するので、授業前にダウンロードしたり印刷したりしておくこと。

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法B【2026年度以降入学者】

2単位

1年次

兼任講師　上　代　庸　平

授業の概要・到達目標

この科目では、憲法学のうち統治機構論と憲法政策論を扱う。統治機構は、憲法の理念の具体化形態であり、法政策の実現過程でもある。この観点から、権力と国民との関係・権利救済に関する現代的問題をケースとして取り上げ、最高裁判所の判例に依拠して、統治機構の諸制度に関わる法的論点について教科書とレジュメに沿って講義するほか、実際の政策論への憲法的価値の反映について、政策法務の視点から論じる。
統治活動に対する判例の態度とその論理の把握を通じて統治に関わる制度・組織に関する観察視点を構築するとともに、それを法政策論に反映させるために必要な論理構成能力と表現能力を修得することを到達目標とする。

授業内容

第1回目a：イントロダクション（憲法の概念と特性、統治機構論への導入）
　　b：統治の組織原理としての権力分立
第2回目　統治機構の基礎概念～憲法を遵守するべきは誰か（立憲主義の生成と展開、法の支配と法治主義）
第3回目　憲法の具体化としての統治組織～独裁者はなぜ生まれるのか（民主主義・権力分立の展開）
第4回目　立法①～「国の唯一の立法機関」とはどのような意味か（立法権の意義、代表の観念）
第5回目　立法②～国会議員をクビにすることができないのはなぜか（国会の組織と権能、議員の地位、政党）
第6回目　内閣～参院議員は首相になることができるか（行政の概念、内閣の組織と構成、独立行政委員会、解散権の所在）
第7回目　司法①～法律の違憲性を裁判で争うためには（司法の観念と司法制度、司法の独立）
第8回目　司法②～大学の処分を裁判で争うことができない理由とは（司法権の限界、司法の独立）
第9回目　司法③～憲法判断の回避はどのような場合になされるか（違憲審査の方法、違憲判決の効力）
第10回目　財政・地方自治～日本の自治体財政はなぜ苦しいのか（財政の意義、財政国会中心主義、租税法律主義、地方自治の制度的保障、条例の効力）
第11回目　象徴天皇制・平和主義～憲法9条の下で自衛隊が存立できるのはなぜか（平和主義の意義、憲法9条の解釈、自衛権の範囲、象徴天皇制）
第12回目　憲法政策論①～自転車保険加入義務づけ条例の憲法問題とは（法政策と憲法、公共の福祉の具体化）
第13回目　憲法政策論②～契約における「反社条項」はなぜ存在するか（政策による人権制約の正当化）
第14回目　まとめ・統治機構の論じ方

履修の注意点

各回のケーススタディでは必要に応じて直近の事件や事象を取り扱うことがあるため、憲法・裁判等に関する報道に関心を向けるようにしていることが望ましい。

準備学習の内容

授業は、各回の統治組織に関する一般論と、それに関連する最高裁判例に基づく解釈論とで構成される。前者に関しては、事前にシラバスの項目に対応する概説書の章を読んでおくこと。後者については、講義レジュメを基にして取り上げられた判例を判例集で調べること。

教科書

『憲法概説［第3版］』松浦一夫・奥村公輔編（成文堂）2026年
『判例プラクティス憲法［第3版］』宍戸常寿・曽我部真裕編（信山社）2022年

参考書

最新版の小型六法（ポケット六法・デイリー六法・法学六法等があるが、いずれでも差し支えない。）

課題に対するフィードバックの方法

期末試験および任意レポート（下記参照）の解説については、Oh-o! Meijiを通じて配信するため、各自で確認すること。

成績評価の方法

期末試験（100%）。ただし、学期中に任意レポートを課し、それを提出した者について20%を限度として試験の採点結果に加点を行ったうえで成績評価を行う。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法Ｂ【2026年度以降入学者】

2単位

1年次

兼任講師　中　村　安　菜

授業の概要・到達目標

【授業の概要】この授業では、最初に憲法の基本原理について学んだ上で、日本国憲法の具体的な内容について理解を深めていきます。授業では、関連判例も適宜取り上げます。
【到達目標】
日本国憲法の基礎的知識を身につけること、日本国憲法の全体像をつかむこと、その上で憲法問題について自分で考えを組み立てられるようにすることを到達目標とします。

授業内容

第１回目：イントロダクション
第２回目：憲法の基本原理
第３回目：日本における憲法の歴史
第４回目：国民主権と権力分立
第５回目：平和主義
第６回目：象徴天皇制
第７回目：国会（１）　－国会の組織
第８回目：国会（２）　－国会の権限
第９回目：内閣（１）　－議院内閣制、内閣の構成
第10回目：内閣（２）　－内閣の権限
第11回目：裁判所（１）　－司法権の概念と司法の独立
第12回目：裁判所（２）　－違憲審査制と憲法訴訟
第13回目：地方自治と財政
第14回目：a：前半のまとめ
　　b：試験
第15回目：人権総論
第16回目：人権の享有主体性　－人権の国際化と外国人への権利保障
第17回目：法の下の平等（１）　－平等の概念
第18回目：法の下の平等（２）　－判例の動向
第19回目：思想良心の自由
第20回目：信教の自由と政教分離
第21回目：学問の自由
第22回目：表現の自由（１）総論
第23回目：表現の自由（２）　－表現の自由に対する規制
第24回目：表現の自由（３）　－集会の自由と結社の自由
第25回目：人身の自由
第26回目：経済的自由権
第27回目：社会権　－生存権と労働権－
第28回目：a：後半のまとめ
　　b：試験
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

指定している教科書２冊は、毎回授業に持参してください。

準備学習の内容

予習では、各回の授業内容に該当する教科書のページを熟読し、自分が重要だと考える部分や疑問点などを整理すること。また復習では、授業の内容を振り返り、授業の重要な部分をきちんと理解しているか、予習段階で疑問だった点が解決できているかを確認すること。不明な点がある場合は質問すること。

教科書

『グラフィック憲法入門〔第３版〕』毛利透（新世社）
『憲法判例50！〔第３版〕』上田 健介・尾形 健・片桐 直人

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

第14回と第28回のbモジュールで、試験の解説と講評を行います。

成績評価の方法

授業内試験と授業への参加度とを成績評価の対象として、総合的に判断する。詳細は授業内で説明する。

その他

Oh-o!Meijiにレジュメを掲載するので、授業の際には印刷・ダウンロードして持参すること。

科目ナンバー：(PE)LAW191J

憲法Ｂ【2026年度以降入学者】

2単位

1年次

兼任講師　三　枝　昌　幸

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
この授業では憲法が定める統治の仕組みについて基礎事項を中心に講義する。最初に憲法の概念や統治の基本原理などを解説し、それらの知識を踏まえつつ憲法が定める統治の仕組みを学習していく。授業では裁判所の判決も積極的に取り上げ、具体的な憲法問題の解決方法についても検討する。
《到達目標》
憲法や統治機構の基礎事項を説明できるようになること、また統治機構に関する憲法問題について自身の見解を説明できるようになることを目標とする。

授業内容

第１回　憲法とは何か
第２回　日本憲法史
第３回　統治の基本原理（１）立憲主義
第４回　統治の基本原理（２）民主主義
第５回　国会（１）国会の組織
第６回　国会（２）国会の権限
第７回　内閣（１）内閣の組織
第８回　内閣（２）内閣の権限
第９回　裁判所（１）裁判所の組織
第10回　裁判所（２）裁判所の権限
第11回　裁判所（３）違憲審査制
第12回　地方自治
第13回　平和主義
第14回　a：まとめ
　　b：試験

履修の注意点

特になし。

準備学習の内容

次回の授業範囲について教科書の該当箇所を熟読し、重要だと思われる部分を整理しておくこと。授業後はレジュメやノートを見返し、授業内容を整理すること。分からない部分があれば質問すること。

教科書

渋谷秀樹、赤坂正浩『憲法2 統治〔第９版〕』（有斐閣、2025年）

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施する試験の結果を後日講評する。

成績評価の方法

授業内試験（90%）、授業への参加態度（10%）

その他

レジュメをOh-o! Meijiに掲載するので、授業前にダウンロードしたり印刷したりしておくこと。

科目ナンバー：(PE)POL111J

政治学基礎	2単位
	1年次

助教　土　肥　有　理

授業の概要・到達目標

政治学の基本的な知識を習得するとともに、主権者としてある問題に対する自分なりの考えを持つ能力（言語化する力）を養います。また、シニシズムに陥りがちな現状に抗するため、政治学を根本からとらえなおすことを目的とします。

授業内容

第1回目：オリエンテーション／2025年の年の政治をふりかえる
第2回目：政治学とは何か、政治とは何か
第3回目：市民とは何か
第4回目：権力と国家
第5回目：自由とは何か
第6回目：政治体制とその転換
第7回目：政党と圧力団体、市民運動
第8回目：政治過程と自治
第9回目：世論とマスメディア
第10回目：選挙とその制度
第11回目：政策とその実施
第12回目：戦後の日本政治
第13回目：国際政治
第14回目：まとめ
※履修者の関心や時々の社会問題に応じて順番や内容を一部変更する可能性があります。

履修の注意点

レジュメやパワーポイントを使用し、重要事項は板書します。

準備学習の内容

事前に参考書の該当部分は示します。また、どの新聞でもよいので、眼を通す、あるいは関心のあるテーマについて複数紙読み比べてみる、ということをやってみてほしいと思います。

教科書

特に指定せず、教科書的な内容＋ニュースを読み解く、というかたちを予定しています。

参考書

・バーナード・クリック（添谷育志・金田耕一訳）『現代政治学入門』講談社学実文庫、2003年
➡政治学が何を対象にしているか、という入門書としては一番読みやすい。他分野から入った自分としても一番読みやすかった
・新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹編著『政治学』有斐閣、2017年
➡基本的にこちらを参照していますが、いかんせん抽象的でわかりにくい
・杉本稔・三澤真明・鈴木貴志編著『現代政治学入門』北樹出版、2025年
➡同じく抽象的で、社会運動の重要性も弱いが、出版年が新しい
・高畠通敏『政治学への道案内』講談社学術文庫、2012年※絶版
➡こちらは、用語解説や概念によりがちな教科書とは異なり、「政治学の全体像」をつかみやすい。例はちょっと古かったりするが、例が豊富であるがゆえにものの考え方が分かりやすい
・名古忠行著『政治学のすすめ』法律文化社、2003年※絶版
・ロバート・ダール（高畠通敏訳）『現代政治分析』岩波現代文庫、2012年
➡アメリカの政治学教科書だが、「政治を見る眼」のうち、避けられがちな社会運動の側面も無視していないので読みやすい。ただ、上記2冊に比べると抽象度は高い

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業時にコメント（任意）提出を求め、そこで出た質問などについて次の授業時に共有します。なるべく多く取り上げますが、似た質問はまとめたりするため、履修人数や内容によってはすべて取り上げることができない可能性があることについてはあらかじめご了承ください。

成績評価の方法

授業への貢献度（30%）、期末試験（70%）

その他

私語や授業中のスマートフォンの使用は控えてください。

科目ナンバー：(PE)POL111J

政治学基礎	2単位
	1年次

教授　木　寺　　元

授業の概要・到達目標

この講義では、現実の政治を構成している諸制度と実際の政治のプロセスを理解するための視座に関して、その基礎的な知識とそれに基づく思考の機会を提供する。これらを通じて、他の政治系科目を学ぶための「基礎体力」を付けることを最大の目標とする。

授業内容

1　イントロダクション
2　執政制度
3　選挙制度
4　投票行動論
5　政党システム・政党組織
6　議会制度
7　官僚制
8　独立機関
9　地方自治
10　国際政治
11　メディア
12　利益団体
13　市民社会
14　グループワーク
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修の注意点

講義では、履修者に対し考えてもらう機会を積極的に提供していきたい。

準備学習の内容

講義中にテーマが示されるコメントの提出は、携帯電話・パソコン等により、Oh-o! Meijiを通じて行う。

教科書

木寺元（編）『政治学入門〔第3版〕』（弘文堂、2023年）。

参考書

講義中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜ポイントを講義中等で共有します。

成績評価の方法

授業での「コメント」と学期末の「期末試験」による。「グループワーク」を加点要素に取り入れる可能性も含む。

その他

科目ナンバー：(PE)POL111J	
政治理論基礎	2単位
	1年次
助教　土　肥　有　理	

授業の概要・到達目標
政治学や現在社会問題となっているテーマについて、その分析視角を理解するとともに、その問題に対する自分の考えを表現（言語化）する能力を養います。

授業内容
第1回目オリエンテーション
第2回目：民主政治の起源
第3回目：民主政治の変容
第4回目：民主政治の危機①：ファシズム
第5回目：現代民主政治の展開
第6回目：民主政治の危機②：右翼ポピュリズム
第7回目：グローバル化と新自由主義
第8回目：歴史否定論と歴史修正主義
第9回目：植民地責任を問う運動
第10回目：フェミニズムとジェンダー
第11回目：差別とヘイトクライム
第12回目：ロシア・ウクライナ戦争
第13回目：パレスチナ問題
第14回目：まとめと振り返り
※履修者の関心や時々の社会情勢に応じて順番や内容を一部変更する可能性があります。

履修の注意点
レジュメやパワーポイントを使用し、重要事項は板書します。

準備学習の内容
どの新聞でもよいので、国際面に目を通してください。

教科書
特に指定しません。

参考書
原則毎回、テーマに関わる参考文献を提示します。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業時にコメントペーパーを配布し、いくつか紹介し、知識や質問の共有を図ります。
※ゆっくり考えたいという人もいることを考え、Oh-o！Meijiシステム上のレポート提出機能での提出を予定していますが、初回時に相談します。

成績評価の方法
授業への貢献度（30%）、期末レポート（70%）

その他
私語や授業中のスマートフォンの使用は控えること。

科目ナンバー：(PE)POL111J	
政治理論基礎	2単位
	1年次
教授　木　寺　　元	

授業の概要・到達目標
古代から政治は様々な問題に直面してきた。それに対し政治学もまた多様な概念を編み出し、思考してきた。いまの政治はどうだろうか。同じように様々な問題を抱えてはいないだろうか。
この講義では、政治の根本に関わる基礎概念について考え、現代政治が直面している諸課題について検討していきたい。

授業内容
1　所有
2　決定
3　自由
4　平等
5　国家
6　民族
7　暴力
8　権力
9　参加
10　戦争と平和
11　性差
12　ワークⅠ
13　ワークⅡ
14　まとめ
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修の注意点
講義では、履修者に対し考えてもらう機会を積極的に提供していきたい。

準備学習の内容
講義中にテーマが示されるコメントの提出は、携帯電話・パソコン等により、Oh-o! Meijiを通じて行う。

教科書
特に定めない。

参考書
講義中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
適宜ポイントを講義中等で共有します。

成績評価の方法
授業での「コメント」、「期末試験」、クラス単位での「グループワークへの貢献」による。

その他
特になし

科目ナンバー：(PE)POL196J

政治学・社会学総合講座〔M〕【2017年度以降入学者】
政治・社会研究総合講座〔M〕【2016年度以前入学者】

2単位

1年次

教授　西　川　伸　一

授業の概要・到達目標

政治学・社会学を学ぶにあたって、知っておいてほしい基本的な事柄、トピックスを取り上げる。
各回の担当者が、「政治学理論」、「政治史・政治思想」および「社会学」のさまざまなテーマを入門的に解説する。
これらを通じて、政治学科で学ぶ内容に興味を持ってもらい、1年次から専門教育につながる学習を促すことがねらいである。

授業内容

授業内容	授業日	担当者	テーマ
第1回目	4月10日	西川伸一	ガイダンス
第2回目	4月17日	木寺元	政治学へのファーストステップ
第3回目	4月24日	ベナサリオ・ベルルッキ,アントニオ	科学としての政治学
第4回目	5月8日	堀金由美	「アジアの中の日本」を考えてみよう―ポリティカル・エコノミーというアプローチ―
第5回目	5月15日	外池力	デモクラシーと人権
第6回目	5月22日	宮本雅也	社会正義論入門
第7回目	5月29日	井田正道	世論調査と政治
第8回目	6月5日	伊藤剛	国際関係論入門
第9回目	6月12日	水戸部由枝	セクシュアリティと政治
第10回目	6月19日	川嶋周一	「未来は変わらない。変わるのは過去だ」。政治（学）における歴史の役割について
第11回目	6月26日	重田園江	ブラッドランドのナショナリズム
第12回目	7月3日	鍾家新	社会的役割という社会学の基本概念から人生過程を考える
第13回目	7月10日	加藤彰彦	人口統計から読み解く21世紀の世界と日本
第14回目	7月17日	樋口収	人の心は読めるか？

履修の注意点

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o！Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。
講義動画は原則、毎週金曜日の午前9時までにOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該授業日の午前9時から週明け火曜日0時（月曜日の24時）まで視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して課題を設け、Oh-o! Meijiシステムの「出欠管理」、「レポート」、「アンケート」、「小テスト」等の機能を用いて提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。
また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設ける。

準備学習の内容

講義では、期日までに取り組むべき課題を指示するので、それらを学習したうえで、講義動画を視聴すること。

教科書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

参考書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

平常点および各授業回で課される小テストの成績を加味して総合的に評価する。※対面形式での授業は行わない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)POL211J

政治学原論

4単位

2年次

専任講師　宮　本　雅　也

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
この授業では、規範的政治理論・現代政治哲学のアプローチに沿って、政治学を学習していく。「政治学原論」とは、政治および政治学を根本的＝原理的なレベルから論じることを意味している。他の多くの科目では、現実の政治や経済や社会における事実を記述したり、それらの事象の間の因果関係を説明したりするアプローチに沿って学習しているはずである。そうした研究は、「実証研究」や「経験的研究」と呼ばれている。これに対して、この授業のアプローチは、「規範（的）研究」と呼ばれるものである。そうした研究では、「自由」や「平等」や「正義」などの政治的概念を解釈し、それらの解釈に依拠して「政治や社会はどうあるべきか」を考察する。
「自由」「平等」「正義」などの概念や価値に関して適切に思考できることは、民主的社会の市民にとって必要とされることであると考えられる。というのも、それらの諸概念・諸価値に関して適切に思考できないのであれば、現代社会における政治経済体制の特徴や諸々の社会問題を把握し、政治や経済における体制や政策（公共政策・社会政策）を価値や理念の観点から評価することができないからである。そうした評価が適切にできない場合、投票などの政治参加の際に民主的社会における市民として責任を十分に果たすことができなくなってしまう。この授業では、そのような意味で市民に必要とされる概念の分節化の方法や規範的な思考を身につけてもらう。
〈到達目標〉
この授業の到達目標は以下の三つとする。
（1）政治学および政治現象を理解するために重要・必要となる概念や思考法を身につける。
（2）日々発生している政治現象や身近な（日常生活にも深く関わっている）社会問題に興味関心をもち、それらを政治学的に理解できるようになる。
（3）政治現象や社会問題に対する自分の理解を他者に対して説明できるようになる。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　政治、権力、正義・正統性
第3回目　自由①：消極的自由と積極的自由
第4回目　自由②：非支配としての自由
第5回目　自由③：自律による自由解釈の探究
第6回目　リベラリズムと個人の権利①：リベラリズムの歴史、リベラリズム内の理論的立場の差異
第7回目　正義①：ジョン・ロールズの正義の理論
第8回目　正義②：ジョン・ロールズの正義の理論（続き）
第9回目　正義③：リバタリアニズムの正義の理論
第10回目　正義④：人権保障と主権国家システム、グローバルな貧困の問題
第11回目　正義⑤：人権保障と主権国家システム、グローバルな貧困の問題（続き）
第12回目　リベラリズムと個人の権利②：個人の権利保障のための立憲主義
第13回目　リベラリズムと個人の権利③：人身の自由と日本の刑事司法システム
第14回目　リベラリズムと個人の権利④：表現の自由とヘイトスピーチ
第15回目　前半の学習内容のまとめと中間考察
第16回目　デモクラシー①：立憲主義とデモクラシー
第17回目　デモクラシー②：デモクラシーの正当化の問題、ロトクラシーおよびエピストクラシーとの比較
第18回目　不平等とケア・教育①：民主的社会における主体育成の重要性、子ども期の経験による不平等の長期的継続（＝「親ガチャ」）の問題
第19回目　不平等とケア・教育②：子どもの不適切なケアによる重大な悪影響
第20回目　不平等とケア・教育③：階級関係の文化的再生産における学校教育の役割、日本の教育格差の現状
第21回目　不平等とケア・教育④：階級関係の文化的再生産における学校教育の役割、日本の教育格差の現状（続き）
第22回目　フェミニズム①：フェミニズム関連の基本知識
第23回目　フェミニズム②：社会構造論によるジェンダー不平等の把握
第24回目　フェミニズム③：社会構造論によるジェンダー不平等の把握（続き）
第25回目　フェミニズム④：個々人が負うべき構造変革責任の理論的説明
第26回目　フェミニズム⑤：現代社会における男性性の問題、「弱者男性」問題の男性学的理解
第27回目　フェミニズム⑥：現代社会における男性性の問題、「弱者男性」問題の男性学的理解（続き）
第28回目　講義全体のまとめ、試験などに関する質疑応答の時間

履修の注意点

この授業では、紹介された文献を調べて読んだり定期的に出される授業コメント課題への回答を提出したりするなど、積極的な参加が求められる。

準備学習の内容

毎回の授業資料を事前に（Oh-o! Meijiシステムを通じて）配布するので、よく読んでおき、資料に出てきている知らない言葉などを事前に調べておくとよい。また、定期的に授業コメント課題を出すので、質問やコメントなどを書いて提出することが求められる。さらに、授業内で紹介された文献を手に入れて読むことが望ましい。

教科書

全体にわたる教科書はとくに指定・使用しない。参考文献・読んでもらいたい文献に関しては、配布する授業資料において適宜紹介する。

参考書

以下の書籍がこの授業全体を理解するのに有用である。
宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論――ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社）、2019年
川崎修・杉田敦編著『現代政治理論［増補新装版］』（有斐閣）、2023年
齋藤純一・谷澤正嗣『公共哲学入門――自由と複数性のある社会のために』（NHK出版）、2023年
山岡龍一・大澤津編著『現実と向き合う政治理論』（放送大学教育振興会）、2022年

課題に対するフィードバックの方法

定期的に提出してもらう授業コメントの中から、代表的な質問や批判的な意見などを取り上げて、授業時間中に時間を設けて応答・解説をかなり丁寧に行う予定である。

成績評価の方法

平常点（授業コメント提出など）：50%、期末試験：50%

その他

上記の授業スケジュールはあくまで予定であり、履修者の理解度の確認などをしながら、進行速度を調整する。そのため、スケジュールに書いているが扱わない内容が出てくる可能性があるという点を予め承知しておくこと。
また、春学期と秋学期では政治学科の必修であるかないかという差があり、履修学生数に相当の差が生じることが見込まれるため、学期によって授業内容や授業の進め方に違いが生じるものと思われる。

科目ナンバー：(PE)POL221J

行政学基礎	2単位
	2年次

教授　西　村　　弥

授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》
「行政の肥大化」が指摘され、数次にわたる行政改革が行われてきたにもかかわらず、わが国行政の果たす役割は拡大を遂げてきた。規制改革が進められる一方で、一年間に数百の許認可が新設されている。行政機関の長である総理とその閣僚たちに対する注目度は、国会両院の議長や委員長の比ではない。本講義では、行政についての基礎的な知識を身につけることはもちろんのこと、これからの行政に求められる役割や、無数の行政批判論や擁護論の当否について、自ら考える力をつけることを目標とする。
《授業の概容》
行政学基礎では、近代以降における行政の守備範囲の変遷と拡大について把握するとともに、議院内閣制や大統領制、あるいはそれを支える官僚制や行政機構等、現代行政を構成する基本的な「制度」について理解を深める。また、後半では、長らく改革の対象とされながら、もっとも変動の少ない分野である公務員制度について多様な観点からとりあげ、現代公務員制度の意義と課題について光をあてる。

授業内容

第1講　行政学基礎では何を学ぶか?（行政とは？）
第2講　立法国家から行政国家へ
第3講　日本における特徴と各国政府
第4講　議院内閣制と大統領制①：支持基盤と政策立案
第5講　議院内閣制と大統領制②：閣僚と官僚、首相公選制
第6講　官僚制①：家産官僚制、近代官僚制の構成要件
第7講　官僚制②：官僚制の逆機能、政治家・官僚それぞれの責任
第8講　日本の行政機構①：ラインとスタッフ、独任制と合議制
第9講　日本の行政機構②：警察組織からキャリア制度・合議制を考える
第10講　公務員制度①：国家公務員の給与制度
第11講　公務員制度②：各国の公務員制度、開放型任用制と閉鎖型任用制
第12講　公務員制度③：戦前の官吏制度、キャリアとノンキャリア
第13講　公務員制度④：事務官と技官、天下り
第14講　公務員制度⑤：国家公務員の義務、分限処分と懲戒処分

履修の注意点

この講義を履修するにあたっては、行政学の素養を広く身につけるため、「行政理論基礎」を受講することが望ましい。

準備学習の内容

日常の生活の中のあらゆる場所と場面に「行政」は関与している。公務員がいるところだけが「行政の現場」ではない。日常生活の中にどのように行政が関与しているか、しっかりアンテナを立てておくこと。それによって、行政学をより実のある形で深く理解できる。
また、行政についての基礎的な知識・理論を学ぶ教科であることから、ノートをもとにしっかりと復習し、知識を定着させること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

中邨章『感染症危機管理と自治体』ぎょうせい、2023年。
真渕勝『行政学〔新版〕』有斐閣、2020年。
石見豊『日本の公共経営』北樹出版、2014年。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施する小テストに学生のコメント欄（記入任意）を設け、教員からフィードバックを行う。共有すべきと判断した質問やコメントについては「お知らせ」機能を使用して共有する。

成績評価の方法

原則として毎回の授業で実施する小テスト30%、期末試験70%で評価する。
希望者には、「期末試験より前」の時点で課題図書レポートを課す予定である。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL221J

行政理論基礎	2単位
	2年次

教授　西　村　　弥

授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》
「行政の肥大化」が指摘され、数次にわたる行政改革が行われてきたにもかかわらず、わが国行政の果たす役割は拡大を遂げてきた。規制改革が進められる一方で、一年間に数百の許認可が新設されている。行政機関の長である総理とその閣僚たちに対する注目度は、国会両院の議長や委員長の比ではない。本講義では、行政についての基礎的な知識を身につけることはもちろんのこと、これからの行政に求められる役割や、無数の行政批判論や擁護論の当否について、自ら考える力をつけることを目標とする。
《授業の概容》
行政学基礎では、近代以降における行政の守備範囲の変遷と拡大について把握するとともに、議院内閣制や大統領制、あるいはそれを支える官僚制や行政機構等、現代行政を構成する基本的な「制度」について理解を深める。また、後半では、長らく改革の対象とされながら、もっとも変動の少ない分野である公務員制度について多様な観点からとりあげ、現代公務員制度の意義と課題について光をあてる。

授業内容

第1講　行政学基礎では何を学ぶか?（行政とは？）
第2講　立法国家から行政国家へ
第3講　日本における特徴と各国政府
第4講　議院内閣制と大統領制①：支持基盤と政策立案
第5講　議院内閣制と大統領制②：閣僚と官僚、首相公選制
第6講　官僚制①：家産官僚制、近代官僚制の構成要件
第7講　官僚制②：官僚制の逆機能、政治家・官僚それぞれの責任
第8講　日本の行政機構①：ラインとスタッフ、独任制と合議制
第9講　日本の行政機構②：警察組織からキャリア制度・合議制を考える
第10講　公務員制度①：国家公務員の給与制度
第11講　公務員制度②：各国の公務員制度、開放型任用制と閉鎖型任用制
第12講　公務員制度③：戦前の官吏制度、キャリアとノンキャリア
第13講　公務員制度④：事務官と技官、天下り
第14講　公務員制度⑤：国家公務員の義務、分限処分と懲戒処分

履修の注意点

この講義を履修するにあたっては、行政学の素養を広く身につけるため、「行政理論基礎」を受講することが望ましい。

準備学習の内容

日常の生活の中のあらゆる場所と場面に「行政」は関与している。公務員がいるところだけが「行政の現場」ではない。日常生活の中にどのように行政が関与しているか、しっかりアンテナを立てておくこと。それによって、行政学をより実のある形で深く理解できる。
また、行政についての基礎的な知識・理論を学ぶ教科であることから、ノートをもとにしっかりと復習し、知識を定着させること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

中邨章『感染症危機管理と自治体』ぎょうせい、2023年。
真渕勝『行政学〔新版〕』有斐閣、2020年。
石見豊『日本の公共経営』北樹出版、2014年。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施する小テストに学生のコメント欄（記入任意）を設け、教員からフィードバックを行う。共有すべきと判断した質問やコメントについては「お知らせ」機能を使用して共有する。

成績評価の方法

原則として毎回の授業で実施する小テスト30%、期末試験70%で評価する。
希望者には、「期末試験より前」の時点で課題図書レポートを課す予定である。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)SOC211J

社会学【2021年度以前入学者】

4単位

1年次

教授　鍾　　家　新

授業の概要・到達目標

《授業の概要・到達目標》（社会学・前半）（春学期）
社会学は社会科学の一つであり、近代以降の社会を中心に研究する学問である。この授業では、社会学の由来・研究対象・基本概念・研究方法・視点・考え方、政治・統治、言語共同体、植民地・異文化などにたいする応用分析を中心に、社会学という学問の考え方・特徴・分析手法と近現代社会の仕組みを説明していく。
この授業の到達目標は、＜1＞社会学の基礎知識、＜2＞社会学的想像力、＜3＞日中社会など現代社会の比較分析能力、＜4＞自己分析力と自己相対化力、を身につけさせていくことである。
この授業のテーマは、＜1＞社会学の誕生の背景・研究対象・基本概念・研究方法・社会学の考え方を基礎から学ぶことと、＜2＞近代国家と最高権威の再構築、＜3＞自国言語の廃止論からみた非西洋近代化の苦悩、＜4＞台湾統治をめぐる後藤新平の中国認識と日本認識など、具体的な社会現象を分析することである。これらを分析することによって、社会学という学問体系の概要を習得し、①日中の近代化における表と裏、②現代社会における個人と社会の関係の本質を探る。社会学と現代社会への認識を深めることは自己認識を深めることである。
《授業の概要・到達目標》（社会学・後半）（秋学期）
社会学は社会科学の一つであり、近代以降の社会を中心に研究する学問である。この授業では社会学という学問の基礎を創った、E.デュルケム、M.ウェーバー、G.ジンメルという三巨匠のそれぞれの経歴・社会学の特徴・代表作を学習し、社会学の基本的な考えにたいする理解をさらに深める。また、貧困・福祉、移民・エスニシティ、国家・国民などを中心に現代社会の仕組みや個人と社会との関係について、社会学という分析手法で説明していく。
この授業の到達目標は、＜1＞社会学の基本的な視点・考えに基づく理解力、＜2＞現代社会を総合的に分析する力、＜3＞現代社会、とくに日本社会と中国社会に関する国際比較分析を行う力、を身につけさせていくことである。
この授業のテーマは、＜1＞E.デュルケム、M.ウェーバー、G.ジンメルという三巨匠のそれぞれの経歴・社会学の特徴・代表作を学ぶことと、＜2＞日中の社会保障の構築と伝統文化、＜3＞在日華僑華人にとっての＜日本＞と＜中国＞、＜4＞中国残留孤児にとっての＜中国＞と＜日本＞など、具体的な社会現象を分析することである。これらを分析することによって、社会学の視点と考え方をさらに習得し、日中の近代化における表と裏、現代社会における個人と社会の関係の本質を探る。社会学と現代社会への認識を深めることは自己認識を深めることである。

授業内容

（社会学・前半）（春学期）
第1回：社会学の定義
第2回：社会学の価値と意義
第3回：社会学の研究対象（1）
第4回：社会学の研究対象（2）
第5回：社会学の基本概念
第6回：社会学の研究方法
第7回：政治・統治Ⅰ：天皇と天皇制
第8回：政治・統治Ⅱ：毛沢東と中国共産党体制
第9回：政治・統治Ⅲ：日本と中国の最高権威の異同とゆくえ
第10回：言語共同体Ⅰ：日本の近代化における漢字廃止論・日本語廃止論・日本語賛美論
第11回：言語共同体Ⅱ：中国の近代化における漢字廃止論・中国語廃止論・中国語賛美論
第12回：言語共同体Ⅲ：言語と社会凝集力
第13回：植民地・異文化Ⅰ：台湾統治をめぐる後藤新平の中国認識と日本認識
第14回：植民地・異文化Ⅱ：後藤新平の台湾統治策
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

（社会学・後半）（秋学期）
第1回：E.デュルケムの経歴・代表作・社会学の特徴
第2回：社会学の名著〔1〕：E.デュルケム『自殺論－社会学研究』主な視点・考え方
第3回：貧困・福祉Ⅰ：中国の社会保障制度の構築・運営と「伝統文化」
第4回：貧困・福祉Ⅱ：中国の「伝統文化」への社会保障体系化の影響
第5回：貧困・福祉Ⅲ：日本の社会保障制度の構築と「伝統文化」
第6回：M.ウェーバーの経歴・代表作・社会学の特徴
第7回：社会学の名著〔2〕M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の主な視点・考え方
第8回：移民・エスニシティⅠ：在日華僑華人の形成とエスニックの特徴の「利用」「隠滅」
第9回：移民・エスニシティⅡ：在日華僑華人の老い・死と故郷喪失・故郷探し
第10回：G.ジンメル経歴・代表作・社会学の特徴
第11回：社会学の名著〔3〕：G.ジンメル『社会学の根本問題－個人と社会』の主な視点・考え方
第12回：国家・国民Ⅰ：「中国残留孤児」の創出と召還
第13回：国家・国民Ⅱ：「中国残留孤児」の老後
第14回：国家・国民Ⅲ：日中のはざまで生きる「中国残留孤児」
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

なし

準備学習の内容

事前に、配布した資料と教科書の該当箇所を読むこと。授業後、復習すること。

教科書

『社会凝集力の日中比較社会学』鍾家新（ミネルヴァ書房）2016年。

参考書

〈1〉『自殺論－社会学研究』E. デュルケム著、宮島喬訳（中公文庫）。
〈2〉『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. ウェーバー著、大塚久雄訳（岩波文庫）。
〈3〉『社会学の根本問題－個人と社会』G. ジンメル著、清水幾太郎訳（岩波文庫）。
〈4〉『社会学』A・ギデンズ著、内田健他訳（而立書房）。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で口頭で行う。

成績評価の方法

社会学・前半は春学期の①平常点と②期末の筆記試験、 社会学・後半は秋学期の③平常点と④期末の筆記試験によって評価する。
社会学・前半にかんする評価と社会学・後半にかんする評価にもとづいて、最終評価を行う。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)SOC211J

社会学Ａ【2022年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　鍾　　家　新

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　社会学は社会科学の一つであり、近代以降の社会を中心に研究する学問である。この授業では、社会学の由来・研究対象・基本概念・研究方法・視点・考え方、政治・統治、言語共同体、植民地・異文化などにたいする応用分析を中心に、社会学という学問の考え方・特徴・分析手法と近現代社会の仕組みを説明していく。
《授業の到達目標及びテーマ》
　この授業の到達目標は、＜１＞社会学の基礎知識、＜２＞社会学的想像力、＜３＞日中社会など現代社会の比較分析能力、＜４＞自己分析力と自己相対化力、を身につけさせていくことである。
　この授業のテーマは、＜１＞社会学の誕生の背景・研究対象・基本概念・研究方法・社会学の考え方を基礎から学ぶことと、＜２＞近代国家と最高権威の再構築、＜３＞自国言語の廃止論からみた非西洋近代化の苦悩、＜４＞台湾統治をめぐる後藤新平の中国認識と日本認識など、具体的な社会現象を分析することである。これらを分析することによって、社会学という学問体系の概要を習得し、①日中の近代化における表と裏、②現代社会における個人と社会の関係の本質を探る。社会学と現代社会への認識を深めることは自己認識を深めることである。

授業内容

第１回：社会学の定義
第２回：社会学の価値と意義
第３回：社会学の研究対象（１）
第４回：社会学の研究対象（２）
第５回：社会学の基本概念
第６回：社会学の研究方法
第７回：政治・統治Ⅰ：天皇と天皇制
第８回：政治・統治Ⅱ：毛沢東と中国共産党体制
第９回：政治・統治Ⅲ：日本と中国の最高権威の異同とゆくえ
第10回：言語共同体Ⅰ：日本の近代化における漢字廃止論・日本語廃止論・日本語賛美論
第11回：言語共同体Ⅱ：中国の近代化における漢字廃止論・中国語廃止論・中国語賛美論
第12回：言語共同体Ⅲ：言語と社会凝集力
第13回：植民地・異文化Ⅰ：台湾統治をめぐる後藤新平の中国認識と日本認識
第14回：植民地・異文化Ⅱ：後藤新平の台湾統治策
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

学習効果の向上のため、「社会学A」・「社会学B」という両科目を併せて履修したほうが望しい。

準備学習の内容

事前に、配布した資料と教科書の該当箇所を読むこと。授業後、復習すること。

教科書

『社会凝集力の日中比較社会学』鍾家新（ミネルヴァ書房）2016年。

参考書

〈1〉『自殺論－社会学研究』E. デュルケム著、宮島喬訳（中公文庫）。
〈2〉『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. ウェーバー著、大塚久雄訳（岩波文庫）。
〈3〉『社会学の根本問題－個人と社会』G. ジンメル著、清水幾太郎訳（岩波文庫）。
〈4〉『社会学』A・ギデンズ著、内田健他訳（而立書房）。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で口頭で行う。

成績評価の方法

①平常点と②期末の筆記試験によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)SOC211J

社会学Ｂ【2022年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　鍾　　家　新

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　社会学は社会科学の一つであり、近代以降の社会を中心に研究する学問である。この授業では社会学という学問の基礎を創った、E.デュルケム、M.ウェーバー、G.ジンメルという三巨匠のそれぞれの経歴・社会学の特徴・代表作を学習し、社会学の基本的な考えにたいする理解をさらに深める。また、貧困・福祉、移民・エスニシティ、国家・国民などを中心に現代社会の仕組みや個人と社会との関係について、社会学という分析手法で説明していく。
《授業の到達目標及びテーマ》
　この授業の到達目標は、＜１＞社会学の基本的な視点・考えに基づく理解力、＜２＞現代社会を総合的に分析する力、＜３＞現代社会、とくに日本社会と中国社会に関する国際比較分析を行う力、を身につけさせていくことである。
　この授業のテーマは、＜１＞E.デュルケム、M.ウェーバー、G.ジンメルという三巨匠のそれぞれの経歴・社会学の特徴・代表作を学ぶことと、＜２＞日中の社会保障の構築と伝統文化、＜３＞在日華僑華人にとっての＜日本＞と＜中国＞、＜４＞中国残留孤児にとっての＜中国＞と＜日本＞など、具体的な社会現象を分析することである。これらを分析することによって、社会学の視点と考え方をさらに習得し、日中の近代化における表と裏、現代社会における個人と社会の関係の本質を探る。社会学と現代社会への認識を深めることは自己認識を深めることである。

授業内容

第１回：デュルケムの社会学（１）――E.デュルケムの経歴・代表作・社会学の特徴
第２回：デュルケムの社会学（２）――社会学の名著〔１〕：E.デュルケム『自殺論－社会学研究』主な視点・考え方
第３回：貧困・福祉Ⅰ：中国の社会保障制度の構築・運営と「伝統文化」
第４回：貧困・福祉Ⅱ：中国の「伝統文化」への社会保障体系化の影響
第５回：貧困・福祉Ⅲ：日本の社会保障制度の構築と「伝統文化」
第６回：ウェーバーの社会学（１）――M.ウェーバーの経歴・代表作・社会学の特徴
第７回：ウェーバーの社会学（２）――社会学の名著〔２〕M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の主な視点・考え方
第８回：移民・エスニシティⅠ：在日華僑華人の形成とエスニックの特徴の「利用」「隠滅」
第９回：移民・エスニシティⅡ：在日華僑華人の老い・死と故郷喪失・故郷探し
第10回：ジンメルの社会学（１）――G.ジンメルの経歴・代表作・社会学の特徴
第11回：ジンメルの社会学（２）――社会学の名著〔３〕：G.ジンメル『社会学の根本問題－個人と社会』の主な視点・考え方
第12回：国家・国民Ⅰ：「中国残留孤児」の創出と召還
第13回：国家・国民Ⅱ：「中国残留孤児」の老後
第14回：国家・国民Ⅲ：日中のはざまで生きる「中国残留孤児」
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

学習効果の向上のため、「社会学A」・「社会学B」という両科目を併せて履修したほうが望ましい。

準備学習の内容

事前に、配布した資料と教科書の該当箇所を読むこと。授業後、復習すること。

教科書

『社会凝集力の日中比較社会学』鍾家新（ミネルヴァ書房）2016年。

参考書

〈1〉『自殺論－社会学研究』E. デュルケム著、宮島喬訳（中公文庫）。
〈2〉『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. ウェーバー著、大塚久雄訳（岩波文庫）。
〈3〉『社会学の根本問題－個人と社会』G. ジンメル著、清水幾太郎訳（岩波文庫）。
〈4〉『社会学』A・ギデンズ著、内田健他訳（而立書房）。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で口頭で行う。

成績評価の方法

①平常点と②期末の筆記試験によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)SOC261J

ジャーナリズム論【2025年度以前入学者】

2単位

1年次

教授　水　野　剛　也

授業の概要・到達目標

本講の目的は、ジャーナリズム、つまりマス・メディアがになう多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点をしぼり、映像資料も用いながら、その特質や問題点を総合的に論じることである。本講であつかう媒体は、新聞や雑誌などの活字メディアを中心とするが、写真・テレビ・ラジオ・インターネットなども含む。ただし、ニュースの報道や評論・論説活動に直接関わらないものは、基本的に除外する。

基本編である春学期の本講をふまえ、秋学期の「ジャーナリズム論B」では、映像資料も用いながら、発展的・応用的に考察する。当然、「ジャーナリズム論A」、「ジャーナリズム論B」の順で履修することが望ましい。

本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々はどのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。

授業内容

大まかに、ジャーナリズムの定義、ジャーナリズムの自由と責任、ジャーナリズム（ニュース）の価値、ジャーナリズムをめぐる最近の問題、映画・映像作品が描くジャーナリズム、の順で講義をすすめる予定である。毎回、当日の新聞を教材として使用する。

ただし、受講者数によっては、講義形式よりも、ゼミのようなディスカッション形式に重きを置く場合もある。

いずれにせよ、より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。受講希望者は、初回にはかならず出席すること。

第１回　本講の基本方針、具体的なスケジュールなど
第２回　ジャーナリズムの定義 基礎編
第３回　ジャーナリズムの定義 応用編
第４回　ジャーナリズムの自由と責任
第５回　ジャーナリズムの自由と責任 事例研究
第６回　ジャーナリズム（ニュース）の価値
第７回　ジャーナリズム（ニュース）の価値 事例研究
第８回　ジャーナリズム日誌の発表１
第９回　ジャーナリズム日誌の発表２
第10回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題１（受講者、あるいは教員が選択する時事的な諸問題）
第11回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題２（同上）
第12回　映画・映像作品が描くジャーナリズム１（作品は未定）
第13回　映画・映像作品が描くジャーナリズム２（同上）
第14回　総括・総評、ジャーナリズム日誌の発表・提出、受講者アンケート、など

履修の注意点

「ジャーナリズム論A」、「ジャーナリズム論B」の順で履修することが望ましい。

その上で、受講希望者は、少なくとも次の点について了解しておかなければならない。

第１に、「コツコツ努力することが嫌い・苦手」という人、あるいは「楽に単位を取得したい」と考えている人は受講すべきでない。単位取得のためには、相当の作業量が継続的に要求されるからである。基本的に試験は実施しないので、短期間の集中的な努力だけでは好結果にはつながらない。

第２に、少なくとも新聞（一般紙）を定期的に閲読する必要がある。毎授業で当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求めるほか、新聞閲読にもとづく「ジャーナリズム日誌」は必須の課題である。

なお、本講は出席と授業参加を重視するため、欠席が多くなることが予想される者（特定の運動部所属や就職活動を予定する者など）は、はじめから受講すべきでない。本講は、特定の受講者を優遇しない。全員を平等にあつかう。個別的な試験なども実施しない。

準備学習の内容

事前・事後とも、積極的な授業参加を前提とした新聞閲読、および各自できる範囲での追加的な学習が求められる。

最大の課題である「ジャーナリズム日誌」の作成にあたっては、日常的な新聞閲読が必須であることはもちろん、講義内容をふまえた考察・分析をすることになる。

通常、予習・復習ともに、講義と同程度、あるいはそれ以上の時間・労力を要する。

教科書

テキストは使用しないが、受講者は最低１紙、新聞（一般紙）を定期的に閲読することになる。

受講者は、毎授業で当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントする。

参考書

Bill Kovach and Tom Rosenstiel, *The Elements of Journalism: What Newspeople Should Know and the Public Should Expect* 4th edition (Crown, 2021).

ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール、澤康臣訳、『ジャーナリストの条件 時代を超える10の原則』（新潮社、2024年）。

Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, *The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media* 9th ed., (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000).

マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井眞二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳『アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から観た米国史』（松柏社、2016年）。

別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也編・著、『映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み』（勁草書房、2023年）。

課題に対するフィードバックの方法

受講者は、毎授業で当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントするため、その都度、口頭でフィードバックをする。必要に応じて、大学ポータルサイトでも課題などについてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。したがって、欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位は獲得できない。日々の継続的な努力と積極的な参加が評価を大きく左右する。

最大の課題の１つは、新聞をはじめとする報道機関に積極的に接し、それにもとづいて「ジャーナリズム日誌」をつけることである。そのために主要日刊紙を最低１紙は定期的に閲読することになる。毎授業で、最近起こった時事問題やそのなかでジャーナリズムに関わる事象について意見を尋ねる。

さらに、講義内容に関わる複数の課題を課す。

評価の配分は、おおまかに、「ジャーナリズム日誌」＝45%、講義内容に関わる課題＝45%、その他＝10%程度とする。

その他

科目ナンバー：(PE)SOC261J

ジャーナリズム論【2025年度以前入学者】

2単位

1年次

教授　水　野　剛　也

授業の概要・到達目標

本講の目的は、ジャーナリズム（もっぱら「ニュースの報道や時事問題についての解説や論説」という広義）について、基本編である春学期開講の「ジャーナリズム論A」をふまえ、映像資料も用いながら、より発展的・応用的に考察することである。当然、本講の前に「ジャーナリズム論A」を履修していることが望ましい。

「ジャーナリズム論A」もそうであるが、本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々はどのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。

授業内容

大まかに、ジャーナリズムを特徴づける主要な役割・特徴、ジャーナリズムの定義、言論・表現の自由の概念の発達、ジャーナリズムの自由と責任、「何がニュースか」をめぐる諸理論、ジャーナリズムをめぐる最近の問題、映画・映像作品が描くジャーナリズム、の順で講義をすすめる予定である。毎回、当日の新聞を教材として使用する。

ただし、受講者数によっては、講義形式よりも、ゼミのようなディスカッション形式に重きを置く場合もある。

いずれにせよ、より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。受講希望者は、初回にはかならず出席すること。

第１回　本講の基本方針、具体的なスケジュールなど
第２回　ジャーナリズムを特徴づける主要な役割・特徴
第３回　ジャーナリズムの定義（春学期の復習）
第４回　言論・表現の自由の概念の発達
第５回　現代的なジャーナリズムの自由と責任
第６回　現代的なジャーナリズムの自由と責任 事例研究
第７回　「何がニュースか」をめぐる諸説
第８回　「何がニュースか」をめぐる諸説 事例研究
第９回　ジャーナリズム日誌の発表
第10回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題１（受講者、あるいは教員が選択する時事的な諸問題）
第11回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題２（同上）
第12回　映画・映像作品が描くジャーナリズム１（作品は未定）
第13回　映画・映像作品が描くジャーナリズム２（同上）
第14回　総括・総評、ジャーナリズム日誌の発表・提出、受講者アンケート、など

履修の注意点

まず、本講の前に「ジャーナリズム論A」を履修していることが望ましい。

その上で、受講希望者は、少なくとも次の点について了解しておかなければならない。

第１に、「コツコツ努力することが嫌い・苦手」という人、あるいは「楽に単位を取得したい」と考えている人は受講すべきでない。単位取得のためには、相当の作業量が継続的に要求されるからである。基本的に試験は実施しないので、短期間の集中的な努力だけでは好結果にはつながらない。

第２に、少なくとも新聞（一般紙）を定期的に閲読する必要がある。毎授業で当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求めるほか、新聞閲読にもとづく「ジャーナリズム日誌」は必須の課題である。

なお、本講は出席と授業参加を重視するため、欠席が多くなることが予想される者（特定の運動部所属や就職活動を予定する者など）は、はじめから受講すべきでない。本講は、特定の受講者を優遇しない。全員を平等にあつかう。個別的な試験なども実施しない。

準備学習の内容

事前・事後とも、積極的な授業参加を前提とした新聞閲読、および各自できる範囲での追加的な学習が求められる。

最大の課題である「ジャーナリズム日誌」の作成にあたっては、日常的な新聞閲読が必須であることはもちろん、講義内容をふまえた考察・分析をすることになる。

通常、予習・復習ともに、講義と同程度、あるいはそれ以上の時間・労力を要する。

教科書

テキストは使用しないが、受講者は最低１紙、新聞（一般紙）を定期的に閲読することになる。

受講者は、毎授業で当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントする。

参考書

Bill Kovach and Tom Rosenstiel, *The Elements of Journalism: What Newspeople Should Know and the Public Should Expect* 4th edition (Crown, 2021).

ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール、澤康臣訳、『ジャーナリストの条件 時代を超える10の原則』（新潮社、2024年）。

Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, *The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media* 9th ed., (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000).

マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井眞二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳『アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から観た米国史』（松柏社、2016年）。

別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也編・著、『映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み』（勁草書房、2023年）。

課題に対するフィードバックの方法

受講者は、毎授業で当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントするため、その都度、口頭でフィードバックをする。必要に応じて、大学ポータルサイトでも課題などについてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。したがって、欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位は獲得できない。日々の継続的な努力と積極的な参加が評価を大きく左右する。

最大の課題の１つは、新聞をはじめとする報道機関に積極的に接し、それにもとづいて「ジャーナリズム日誌」をつけることである。そのために主要日刊紙を最低１紙は定期的に閲読することになる。毎授業で、最近起こった時事問題やそのなかでジャーナリズムに関わる事象について意見を尋ねる。

さらに、講義内容に関わる複数の課題を課す。

評価の配分は、おおまかに、「ジャーナリズム日誌」＝45%、講義内容に関わる課題＝45%、その他＝10%程度とする。

その他

科目ナンバー：(PE)SOC261J

ジャーナリズム論A【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　水　野　剛　也

授業の概要・到達目標

本講の目的は、ジャーナリズム、つまりマス・メディアがになう多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点をしぼり、映像資料も用いながら、その特質や問題点を総合的に論じることである。本講であつかう媒体は、新聞や雑誌などの活字メディアを中心とするが、写真・テレビ・ラジオ・インターネットなども含む。ただし、ニュースの報道や評論・論説活動に直接関わらないものは、基本的に除外する。

春学期の本講はいわば基本編であり、秋学期の「ジャーナリズム論B」は応用・発展編として、春学期の修学を前提に映像資料も用いながらより高度な内容を論じる。当然、先に「ジャーナリズム論A」、つづいて「ジャーナリズム論B」の順で履修することが望ましい。

本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々はどのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。

授業内容

大まかに、ジャーナリズムの定義、ジャーナリズムの自由と責任、ジャーナリズム（ニュース）の価値、ジャーナリズムをめぐる最近の問題、映画・映像作品が描くジャーナリズム、の順で講義をすすめる予定である。毎回、当日の新聞を教材として使用する。

ただし、受講者数によっては、講義形式よりも、ゼミのようなディスカッション形式に重きを置く場合もある。

いずれにせよ、より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。受講希望者は、初回にはかならず出席すること。

第1回　本講の基本方針、具体的なスケジュールなど
第2回　ジャーナリズムの定義 基礎編
第3回　ジャーナリズムの定義 応用編
第4回　ジャーナリズムの自由と責任
第5回　ジャーナリズムの自由と責任 事例研究
第6回　ジャーナリズム（ニュース）の価値
第7回　ジャーナリズム（ニュース）の価値 事例研究
第8回　ジャーナリズム日誌の発表1
第9回　ジャーナリズム日誌の発表2
第10回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題1（受講者、あるいは教員が選択する時事的な諸問題）
第11回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題2（同上）
第12回　映画・映像作品が描くジャーナリズム1（作品は未定）
第13回　映画・映像作品が描くジャーナリズム2（同上）
第14回　総括・総評、ジャーナリズム日誌の発表・提出、受講者アンケート、など

履修の注意点

先に「ジャーナリズム論A」、つづいて「ジャーナリズム論B」の順で履修することが望ましい。

その上で、受講希望者は、少なくとも次の点について了解しておかなければならない。

第1に、「コツコツ努力することが嫌い・苦手」という人、あるいは「楽に単位を取得したい」と考えている人は受講すべきでない。単位取得のためには、相当の作業量が継続的に要求されるからである。基本的に試験は実施しないので、短期間の集中的な努力だけでは好結果にはつながらない。

第2に、少なくとも新聞（一般紙）を定期的に閲読する必要がある。毎回、当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求めるほか、新聞閲読にもとづく「ジャーナリズム日誌」は必須の課題である。

なお、本講は出席と授業参加を重視するため、欠席が多くなることが予想される者（特定の運動部所属や就職活動を予定する者など）は、はじめから受講すべきでない。本講は、特定の受講者を優遇しない。全員を平等にあつかう。個別的な試験なども実施しない。

準備学習の内容

事前・事後とも、積極的な参加を前提とした新聞閲読、および各自できる範囲での追加的な学習が求められる。

最大の課題である「ジャーナリズム日誌」の作成にあたっては、日常的な新聞閲読が必須であることはもちろん、講義内容をふまえた考察・分析をすることになる。

通常、予習・復習ともに、講義と同程度、あるいはそれ以上の時間・労力を要する。

教科書

テキストは使用しないが、受講者は最低1紙、新聞（一般紙）を定期的に閲読することになる。

受講者は毎回、当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントする。

参考書

Bill Kovach and Tom Rosenstiel, *The Elements of Journalism: What Newspeople Should Know and the Public Should Expect* 4th edition (Crown, 2021).

ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール、澤康臣訳、『ジャーナリストの条件 時代を超える10の原則』（新潮社、2024年）。

Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, *The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media* 9th ed., (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000).

マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井眞二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳『アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から観た米国史』（松柏社、2016年）。

別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也編・著、『映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み』（勁草書房、2023年）。

課題に対するフィードバックの方法

受講者は毎回、当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントするため、その都度、口頭でフィードバックをする。必要に応じて、大学ポータルサイトでも課題などについてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。したがって、欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位は獲得できない。日々の継続的な努力と積極的な参加が評価を大きく左右する。

最大の課題の1つは、新聞をはじめとする報道機関に積極的に接し、それにもとづいて「ジャーナリズム日誌」を作成することである。そのために主要日刊紙を最低1紙は定期的に閲読する必要がある。毎回、最近起こった時事問題やそのなかでジャーナリズムに関わる事象について意見を尋ねる。

さらに、講義内容に関わる複数の課題を与える。

評価の配分は、おおまかに、「ジャーナリズム日誌」＝45%、講義内容に関わる課題＝45%、その他＝10%程度とする。

その他

ご入力をお願いいたします。

科目ナンバー：(PE)SOC261J

ジャーナリズム論B【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　水　野　剛　也

授業の概要・到達目標

本講の目的は、ジャーナリズム（もっぱら「ニュースの報道や時事問題についての解説や論説」という広義）について、基本編である春学期の「ジャーナリズム論A」につづく応用・発展編として、映像資料も用いながらより高度な内容を論じることである。当然、本講より先に「ジャーナリズム論A」を履修していることが望ましい。

「ジャーナリズム論A」もそうであるが、本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々はどのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。

授業内容

大まかに、ジャーナリズムを特徴づける主要な役割・特徴、ジャーナリズムの定義、言論・表現の自由の概念の発達、現代的なジャーナリズムの自由と責任、「何がニュースか」をめぐる諸理論、ジャーナリズムをめぐる最近の問題、映画・映像作品が描くジャーナリズム、の順で講義をすすめる予定である。毎回、当日の新聞を教材として使用する。

ただし、受講者数によっては、講義形式よりも、ゼミのようなディスカッション形式に重きを置く場合もある。

いずれにせよ、より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。受講希望者は、初回にはかならず出席すること。

第1回　本講の基本方針、具体的なスケジュールなど
第2回　ジャーナリズムを特徴づける主要な役割・特徴
第3回　ジャーナリズムの定義（春学期の復習）
第4回　言論・表現の自由の概念の発達
第5回　現代的なジャーナリズムの自由と責任
第6回　現代的なジャーナリズムの自由と責任 事例研究
第7回　「何がニュースか」をめぐる諸説
第8回　「何がニュースか」をめぐる諸説 事例研究
第9回　ジャーナリズム日誌の発表
第10回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題1（受講者、あるいは教員が選択する時事的な諸問題）
第11回　ジャーナリズムをめぐる最近の問題2（同上）
第12回　映画・映像作品が描くジャーナリズム1（作品は未定）
第13回　映画・映像作品が描くジャーナリズム2（同上）
第14回　総括・総評、ジャーナリズム日誌の発表・提出、受講者アンケート、など

履修の注意点

まず、本講より先に「ジャーナリズム論A」を履修していることが望ましい。

その上で、受講希望者は、少なくとも次の点について了解しておかなければならない。

第1に、「コツコツ努力することが嫌い・苦手」という人、あるいは「楽に単位を取得したい」と考えている人は受講すべきでない。単位取得のためには、相当の作業量が継続的に要求されるからである。基本的に試験は実施しないので、短期間の集中的な努力だけでは好結果にはつながらない。

第2に、少なくとも新聞（一般紙）を定期的に閲読する必要がある。毎回、当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求めるほか、新聞閲読にもとづく「ジャーナリズム日誌」は必須の課題である。

なお、本講は出席と授業参加を重視するため、欠席が多くなることが予想される者（特定の運動部所属や就職活動を予定する者など）は、はじめから受講すべきでない。本講は、特定の受講者を優遇しない。全員を平等にあつかう。個別的な試験なども実施しない。

準備学習の内容

事前・事後とも、積極的な参加を前提とした新聞閲読、および各自できる範囲での追加的な学習が求められる。

最大の課題である「ジャーナリズム日誌」の作成にあたっては、日常的な新聞閲読が必須であることはもちろん、講義内容をふまえた考察・分析をすることになる。

通常、予習・復習ともに、講義と同程度、あるいはそれ以上の時間・労力を要する。

教科書

テキストは使用しないが、受講者は最低1紙、新聞（一般紙）を定期的に閲読することになる。

受講者は毎回、当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントする。

参考書

Bill Kovach and Tom Rosenstiel, *The Elements of Journalism: What Newspeople Should Know and the Public Should Expect* 4th edition (Crown, 2021).

ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール、澤康臣訳、『ジャーナリストの条件 時代を超える10の原則』（新潮社、2024年）。

Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, *The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media* 9th ed., (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000).

マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井眞二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳『アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から観た米国史』（松柏社、2016年）。

別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也編・著、『映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み』（勁草書房、2023年）。

課題に対するフィードバックの方法

受講者は毎回、当日の新聞や「ジャーナリズム日誌」などにもとづき、最近の出来事について「ジャーナリズム論」の観点からコメントするため、その都度、口頭でフィードバックをする。必要に応じて、大学ポータルサイトでも課題などについてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。したがって、欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位は獲得できない。日々の継続的な努力と積極的な参加が評価を大きく左右する。

最大の課題の1つは、新聞をはじめとする報道機関に積極的に接し、それにもとづいて「ジャーナリズム日誌」を作成することである。そのために主要日刊紙を最低1紙は定期的に閲読する必要がある。毎回、最近起こった時事問題やそのなかでジャーナリズムに関わる事象について意見を尋ねる。

さらに、講義内容に関わる複数の課題を与える。

評価の配分は、おおまかに、「ジャーナリズム日誌」＝45%、講義内容に関わる課題＝45%、その他＝10%程度とする。

その他

ご入力をお願いいたします。

科目ナンバー：(PE)SOC261J	
メディアコミュニケーション論	2単位
	1年次
教授　海　後　宗　男	

授業の概要・到達目標

現在、テレビ、新聞などの伝統的なメディアとインターネットやソーシャルメディアといったオンラインメディアなどが我々のメディア環境を構成し、日常に融合して、私達は生活をしています。その中で、情報を送受信し、様々な問題が起きることもあります。メディアコミュニケーションが個人や社会に及ぼす機能や影響についての理解と学問としての関心を高めることをこの授業の目標とします。

授業内容

第1回目　オリエンテーション　メディアとコミュニケーション
第2回目　不確実性とコミュニケーション
第3回目　不安、不確実性とコミュニケーション
第4回目　メディアのコンテンツ
第5回目　メディアのコンバージェンス
第6回目　メディアとグローバリゼーション
第7回目　コミュニケーション科学の研究（メディア授業）
第8回目　メディアと暴力、プロパガンダ（メディア授業）
第9回目　メディア報道の受信過程（メディア授業）
第10回目　メディア報道の受信過程
第11回目　メディア情報とリスク
第12回目　ソーシャルメディアと情報伝達
第13回目　フェイクニュース
第14回目　メディアコミュニケーション論まとめ

履修の注意点

Oh-o! Meiji経由で資料を電子媒体で配布することがある。
第7回目、第8回目、第9回目はオンラインで情報提供と交流をする予定。

準備学習の内容

授業前に、指定資料と文献を予習すること。

教科書

『ツイッターの心理学』北村智他（誠信書房、2016）
他は開講時に指示

参考書

参考資料はOh-o! Meiji経由で資料を電子媒体で配布予定

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭で、もしくはOh-o! Meijiを活用して行う。

成績評価の方法

筆記試験 50%
レポート 25%
授業への参加度 25%

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

教授　八　木　尚　志

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です.
　春学期には、GDP とは何か。何が一国の GDP を決めるのか。日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか。日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか。このようなことがテーマとなります。本講座では初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。マクロ経済学１の講義では主に、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明します。現在の日本や世界のマクロ経済が直面する問題を理解することと、マクロ経済のメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的です。履修者が現代社会における経済の仕組みや役割を把握し、様々な経済現象に対する理解を深め、問題解決の方法を自ら考えることができるようになることを目指しています。
　秋学期には、中国の貿易収支はなぜ黒字なのか。反対に、米国はなぜ貿易収支が赤字なのか。新型コロナは日本経済、世界経済をどう変えたのか。金融危機はなぜ生じるのか。インフレ、デフレはなぜ生じるのか。多くの途上国はなぜ経済発展できずにいるのか。といったことがテーマとなります。本講座ではマクロ経済学１の講義内容に基づき、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について引き続き講義を行います。マクロ経済学２の講義では主に、インフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや開放経済マクロモデルについて説明します。本講義を通して、マクロ経済の課題・問題を理論的・実証的に整理して分析できるようになることを目標とします.「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験で B＋を獲得することを目指します。

授業内容

春学期
第１回　マクロ経済学のイントロダクション
第２回　マクロ経済学について
第３回　GDP と経済指標の見方
第４回　国民所得勘定
第５回　産業連関表と産業連関分析
第６回　貨幣と金融 、物価、
第７回　古典派経済モデル
第８回　ケインズの消費関数、 投資
第９回　45度線モデルとGDPの決定
第10回　乗数効果
第11回　中間テスト
第12回　ケインズモデルと古典派モデルの相違
第13回　貨幣需給・流動性選好理論
第14回　マクロ経済学Iのまとめ
秋学期
第１回　消費・投資・貨幣理論の復習
第２回　IS-LMモデル（１）：IS曲線
第３回　IS-LMモデル（２）：LM曲線
第４回　IS-LMモデル（３）：国民所得と利子率の決定
第５回　経済政策の有効性
第６回　総需要（AD）総供給（AS）モデル
第７回　フィリップス曲線
第８回　労働市場と総需要・総供給
第９回　失業とインフレーションの理論
第10回　中間テスト
第11回　ハロッドドーマーモデル、経済成長モデル
第12回　国際収支、ISバランス
第13回　オープン・マクロ経済モデル
第14回　全体総括

履修の注意点

必ず出席をして下さい。
１限の授業なので遅刻をしないで下さい。

準備学習の内容

授業中に指示します。
テキストの該当箇所を事前に読んで授業に出るようにしてください。

教科書

西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版

参考書

西村・友田『経済学ゼミナール上級編』実務教育出版

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

1）毎回の授業での成果の確認20％
２）中間テスト40％（春学期の中間テスト20％、秋学期の中間テスト20％）
３）期末テスト40％（春学期の期末テスト20％、秋学期の期末テスト20％）

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

教授　平　口　良　司

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です．GDP とは何か。何が一国の GDP を決めるのか。日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか。日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか。このようなことがテーマとなります。本講座では初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。マクロ経済学の講義ではまず、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明します。続いてインフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや開放経済マクロモデルについて説明します。本講義を通して、マクロ経済の課題・問題を理論的・実証的に整理して分析できるようになることを目標とします．「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験で B+ を獲得することを目指します。

授業内容

第1回　マクロ経済学のイントロダクション
第2回　マクロ経済学について
第3回　GDP と経済指標の見方
第4回　国民所得勘定
第5回　産業連関表と産業連関分析
第6回　貨幣と金融 、物価、
第7回　古典派経済モデル
第8回　ケインズの消費関数
第9回　投資
第10回　45度線モデルとGDPの決定
第11回　乗数効果
第12回　ケインズモデルと古典派モデルの相違
第13回　貨幣需給・流動性選好理論
第14回　ケインズモデルのまとめ
第15回　消費・投資・貨幣理論の復習
第16回　IS-LMモデル（1）：IS曲線
第17回　IS-LMモデル（2）：LM曲線
第18回　IS-LMモデル（3）：国民所得と利子率の決定
第19回　経済政策の有効性
第20回　総需要（AD）総供給（AS）モデル
第21回　フィリップス曲線
第22回　労働市場と総需要・総供給
第23回　失業とインフレーションの理論
第24回　経済成長モデル
第25回　ハロッドドーマーモデル
第26回　国際収支、ISバランス
第27回　オープン・マクロ経済モデル
第28回　全体総括

履修の注意点

ミクロ経済学と同様、マクロ経済学は基礎からの積み重ねの学問ですので、授業の欠席をしないようにしてください。

準備学習の内容

授業中に配布する練習問題にしっかり取り組んでください。テレビや新聞の経済ニュースに関心を持つようにしてください。産業連関分析においては簡単な行列やベクトルの知識があるとより理解が深まるでしょう。数学的知識についても授業後復習してください。

教科書

マクロ経済学（平口良司・稲葉大著、有斐閣ストゥディア）

参考書

『経済学のための線形代数』（平口良司著、浅倉書店）

課題に対するフィードバックの方法

中間試験の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

中間試験（30%）と期末試験（70%）によって評価します。

その他

私語はしないようにしてください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

教授　武田　巧

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野である。GDP とは何か。何が一国の GDP を決めるのか。日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか。日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか。すべてがマクロ経済学の扱う問題である。本講座では初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行う。春学期の講義では主に、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明する。現在の日本や世界のマクロ経済が直面する問題を理解することと、マクロ経済のメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的である。到達目標は、履修者が現代社会における経済の仕組みや役割を把握し、様々な経済現象に対する理解を深め、問題解決の方法を自ら考えることができるようになることを目指している。

秋学期は春学期の講義内容に基づき、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について引き続き講義を行う。秋学期は主に、インフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや開放経済マクロモデルについて説明する。中国の貿易収支はなぜ黒字なのか、反対に、米国はなぜ貿易収支が赤字なのか。新型コロナは日本経済、世界経済をどう変えたのか、金融危機はなぜ生じるのか、インフレ、デフレはなぜ生じるのか、多くの途上国はなぜ経済発展できずにいるのか、といったことが秋学期のテーマとなる。

本講義を通して、マクロ経済の課題・問題を理論的・実証的に整理して分析できるようになることを目標とする。「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験で B+を獲得することを目指している。

授業内容

春学期は、後述の教科書に沿って、以下の様に進める予定。
第 1 回 ：マクロ経済学のイントロダクション
第 2 回 ：マクロ経済学は、どのようなことを学ぶのか
第 3 回 ：GDPと付加価値
第 4 回 ：物価指数と景気判断の指標
第 5 回 ：総需要の構成要素と消費、投資
第 6 回 ：生産物市場の均衡とGDPの決定メカニズム ―45度線分析―
第 7 回 ：有効需要の原理と乗数理論
第 8 回 ：財政活動とGDPの決定
第 9 回 ：中間総括
第 10 回 ：消費関数論争、ケインズの投資理論と新投資理論
第 11 回 ：貨幣の定義と貨幣供給
第 12 回 ：貨幣需要と利子率の決定 ―流動性選好理論―
第 13 回 ：産業連関表と産業連関分析
第 14 回 ：春学期総括
秋学期は、後述の教科書に沿って、以下の様に進める予定。
第 15 回 ：消費・投資・貨幣理論の復習
第 16 回 ：IS-LMモデル（1）：生産物市場の均衡とIS曲線
第 17 回 ：IS-LMモデル（2）：貨幣市場の均衡とLM曲線
第 18 回 ：IS-LMモデル（3）：国民所得と利子率の決定
第 19 回 ：経済政策の有効性
第 20 回 ：オープンマクロ経済学（1）：国際収支、オープンマクロモデル、為替レート
第 21 回 ：オープンマクロ経済学（2）：マンデル＝フレミング・モデル
第 22 回 ：中間総括
第 23 回 ：労働市場と総需要・総供給（1）：物価と総需要、労働市場と総供給
第 24 回 ：労働市場と総需要・総供給（2）：AD-AS分析
第 25 回 ：インフレ、デフレ、失業の社会的費用
第 26 回 ：フィリップス曲線
第 27 回 ：成長理論
第 28 回 ：全体総括

履修の注意点

マクロ経済学は経済を理解するうえでの基礎であり、その基礎が無ければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。さすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。加えて是非お勧めしたいのが、『日本経済新聞』などの経済紙を日々読み続けることである。経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、**The Wall Street Journal** もお薦めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供しているので、是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。2023年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。

なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、**Oh-o! Meiji** に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにできるはずとの考えからである。是非、挑戦して欲しい。

準備学習の内容

毎回の予習としては、教科書、**Oh-o! Meiji** にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 **WEB** サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題、
http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/7874960106
および**Oh-o! Meiji** にて閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高める。

教科書

山田久、武田巧他『入門マクロ経済学』実教出版。
上記出版社 **WEB** サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。
Oh-o! Meiji にて閲覧可能な各種問題。
『日本経済新聞』。

参考書

N.G. マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編』東洋経済新報社。
J.E. スティグリッツ『マクロ経済学』東洋経済新報社。
P.A. クルーグマン、**R.** ウェルズ『クルーグマン マクロ経済学』東洋経済新報社。
D.アセモグル、**D.** レイブソン、**J.** リスト『マクロ経済学』東洋経済新報社。
中谷巌『マクロ経済学入門第５版』日本評論社。
伊藤元重『マクロ経済学』日本評論社。
なお、数学を苦手とする場合は、下記参考書を勧める。
E・ドウリング『例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）』シーエーピー出版。
その他、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれも**Oh-o! Meiji**にて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、**Oh-o! Meiji** に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。

その他、**Oh-o! Meiji**を通しての質問を常時受け付ける。

成績評価の方法

中間試験40%（春学期・秋学期各20%）と期末試験60%（春学期・秋学期各30%）の合計で評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テストも数回実施する予定。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを **Oh-o! Meiji** を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。

その他

以下の点を心しておくこと。
1. 出席せずして単位認定は有り得ない。
2. 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。
3. 講義中は最低限のマナーを守ること。次の点は特に順守のこと。
   a. 勝手なおしゃべりはしない。
   b. スマホ、携帯電話はマナー・モードにしておく。
   c. 教室をむやみに出入りしない。
4. 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。
5. 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。
6. 定期試験対策問題、定期試験問題解答、休講連絡など講義に関わる連絡事項は、**Oh-o! Meiji** により通知する。連絡事項が **PC** ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

兼任講師　鈴　木　慶　春

授業の概要・到達目標

本科目では、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。
マクロ経済学は、一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です。例えばGDPとは何か、何が一国のGDPを決めるのか、日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか、日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか、などがテーマとなります。
春学期では主に、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明します。秋学期では、春学期の講義内容に基づき、インフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや、開放経済マクロモデルについて説明します。
現在の日本や世界のマクロ経済が直面する問題を理解することと、マクロ経済のメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的です。
履修者が(i)経済の仕組みや役割を把握し、(ii)様々な経済現象に対する理解を深め、(iii)問題解決の方法を自ら考えられるようになることを目指します。

授業内容

春学期
第1回　マクロ経済学のイントロダクション
第2回　世界と日本のマクロ経済
第3回　GDPの定義と計測（1）
第4回　GDPの定義と計測（2）
第5回　GDPの定義と計測（3）
第6回　物価の定義と計測
第7回　貨幣と貨幣市場モデル
第8回　金融市場
第9回　中央銀行
第10回　投資
第11回　45度線モデルとGDPの決定
第12回　乗数効果と財政政策
第13回　マクロ経済学史
第14回　マクロ経済学Iのまとめ
秋学期
第15回　消費理論
第16回　IS-LMモデル（1）：財市場と貨幣市場の同時均衡
第17回　IS-LMモデル（2）：財政政策と金融政策
第18回　労働市場と失業
第19回　インフレーション
第20回　AD-ASモデル
第21回　為替レート
第22回　国際貿易
第23回　オープン・マクロ経済モデル
第24回　経済成長
第25回　簡略版ソローモデル
第26回　完全版ソローモデル
第27回　ソローモデルとデータ
第28回　全体総括

履修の注意点

期末試験の直前だけではなく、日頃から継続的に学習してください。何故なら経済学は暗記科目ではなく、自転車や水泳のような「スキル」を身につける科目だからです。経済学には一言で形容し難い独特の思考法がありますが、毎日のように触れていれば自然と無意識レベルにまで取り込むことができ、一生消えることのないスキルになります。また「学ばされる」という姿勢では何事も損をします。経済学は面白い学問なので、楽しみながら出席してください。自分の知的好奇心を上手に刺激する方法を自分で発見できればなお望ましいです。

準備学習の内容

講義の予習・復習としてOh!-o Meijiに演習問題を多数用意しますので、それを解いて、解答・解説と照らし合わせてください。

教科書

市販のテキストは使用しません。教員が作成した講義ノート（Oh!-o Meijiを通じて配付）を使用します。

参考書

『入門・日本の経済成長』平口良司、日経BP社、2022年
『マクロ経済学 第3版』平口良司・稲葉大、有斐閣、2023年
『ALLマクロ経済学』アセモグル/レイブソン/リスト、東洋経済新報社、2019年

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについて、授業およびOh!-o Meijiを通じて解説を行う。

成績評価の方法

春学期の課題レポート（15%）、春学期の期末試験（35%）、秋学期の課題レポート（15%）、秋学期の期末試験（35%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J	
マクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次
教授　八　木　尚　志	

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です．GDP とは何か。何が一国の GDP を決めるのか。日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか。日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか。このようなことがテーマとなります。本講座では初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。マクロ経済学１の講義では主に、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明します。現在の日本や世界のマクロ経済が直面する問題を理解することと、マクロ経済のメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的です。履修者が現代社会における経済の仕組みや役割を把握し、様々な経済現象に対する理解を深め、問題解決の方法を自ら考えることができるようになることを目指しています。

授業内容

第１回　マクロ経済学のイントロダクション
第２回　マクロ経済学について
第３回　GDP と経済指標の見方
第４回　国民所得勘定
第５回　産業連関表と産業連関分析
第６回　貨幣と金融 、物価、
第７回　古典派経済モデル
第８回　ケインズの消費関数、 投資
第９回　45度線モデルとGDPの決定
第10回　乗数効果
第11回　中間テスト
第12回　ケインズモデルと古典派モデルの相違
第13回　貨幣需給・流動性選好理論
第14回　マクロ経済学Iのまとめ

履修の注意点

・出席をするようにしてください。
・１限の授業がですが、遅刻をしないようにしてください。

準備学習の内容

次回の講義・内容について授業やOh-o! Meijiで指示します。
事前学習については、テキストで次の授業範囲を読んでください。
事後学習については、中間テストと期末テストに合わせて復習をしてください。

教科書

西村和雄・八木尚志著『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版
難しいところ・わかりにくいところについてはプリントを配布します。

参考書

西村和雄・友田康信『経済学ゼミナール上級編』実務教育出版

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

平常点（授業での確認、20%）程度）及び中間テスト（40%程度）、期末テスト（40%程度）

その他

　予習・復習を十分に行い、マクロ経済学の内容と理論構造を理解してください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J	
マクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次
教授　平　口　良　司	

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です．GDP とは何か。何が一国の GDP を決めるのか。日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか。日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか。このようなことがテーマとなります。本講座では初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。マクロ経済学１の講義では主に、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明します。現在の日本や世界のマクロ経済が直面する問題を理解することと、マクロ経済のメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的です。履修者が現代社会における経済の仕組みや役割を把握し、様々な経済現象に対する理解を深め、問題解決の方法を自ら考えることができるようになることを目指しています。

授業内容

第１回　マクロ経済学のイントロダクション
第２回　マクロ経済学について
第３回　GDP と経済指標の見方
第４回　国民所得勘定
第５回　産業連関表と産業連関分析
第６回　貨幣と金融 、物価、
第７回　古典派経済モデル
第８回　ケインズの消費関数
第９回　投資
第10回　45度線モデルとGDPの決定
第11回　乗数効果
第12回　ケインズモデルと古典派モデルの相違
第13回　貨幣需給・流動性選好理論
第14回　マクロ経済学Iのまとめ

履修の注意点

ミクロ経済学と同様、マクロ経済学は基礎からの積み重ねの学問ですので、授業の欠席をしないようにしてください。

準備学習の内容

授業中に配布する練習問題にしっかり取り組んでください。テレビや新聞の経済ニュースに関心を持つようにしてください。産業連関分析においては簡単な行列やベクトルの知識があるとより理解が深まるでしょう。数学的知識についても授業後復習してください。

教科書

マクロ経済学（平口良司・稲葉大著、有斐閣ストゥディア）

参考書

『経済学のための線形代数』（平口良司著、浅倉書店）

課題に対するフィードバックの方法

中間試験の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

中間試験（30%）と期末試験（70%）によって評価します。

その他

私語はしないようにしてください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】

2単位

1年次

教授　武田　巧

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野である。GDP とは何か。何が一国の GDP を決めるのか。日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか。日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか。すべてがマクロ経済学の扱う問題である。本講座では初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行う。「マクロ経済学１」の講義では主に、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明する。現在の日本や世界のマクロ経済が直面する問題を理解することと、マクロ経済のメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的である。到達目標は、履修者が現代社会における経済の仕組みや役割を把握し、様々な経済現象に対する理解を深め、問題解決の方法を自ら考えることができるようになることを目指している。

授業内容

講義は、後述の教科書に沿って、以下の様に進める予定。
第 1回：マクロ経済学のイントロダクション
第 2回：マクロ経済学は、どのようなことを学ぶのか
第 3回：GDPと付加価値
第 4回：物価指数と景気判断の指標
第 5回：総需要の構成要素と消費、投資
第 6回：生産物市場の均衡とGDPの決定メカニズム ―45度線分析―
第 7回：有効需要の原理と乗数理論
第 8回：財政活動とGDPの決定
第 9回：中間総括
第10回：消費関数論争、ケインズの投資理論と新投資理論
第11回：貨幣の定義と貨幣供給
第12回：貨幣需要と利子率の決定 ―流動性選好理論―
第13回：産業連関表と産業連関分析
第14回：全体総括

履修の注意点

マクロ経済学は経済を理解するうえでの基礎であり、その基礎が無ければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。さすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。加えて是非お勧めしたいのが、『日本経済新聞』などの経済紙を日々読み続けることである。経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、The Wall Street Journal もお薦めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供しているので、是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。2023年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。

なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、Oh-o! Meiji に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにできるはずとの考えからである。是非、挑戦して欲しい。

準備学習の内容

毎回の予習としては、教科書、Oh-o! Meiji にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題、
http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/7874960106
およびOh-o! Meiji にて閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高める。

教科書

山田久、武田巧他『入門マクロ経済学』実教出版。
上記出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。
Oh-o! Meiji にて閲覧可能な各種問題。
『日本経済新聞』。

参考書

N.G. マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編』東洋経済新報社。
J.E. スティグリッツ『マクロ経済学』東洋経済新報社。
P.A. クルーグマン、R. ウェルズ『クルーグマン マクロ経済学』東洋経済新報社。
D.アセモグル、D. レイブソン、J. リスト『マクロ経済学』東洋経済新報社。
中谷巌『マクロ経済学入門第５版』日本評論社。
伊藤元重『マクロ経済学』日本評論社。
なお、数学を苦手とする場合は、下記参考書を勧める。
E・ドウリング『例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）』シーエービー出版。
その他、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれもOh-o! Meijiにて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、Oh-o! Meiji に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。

その他、Oh-o! Meijiを通しての質問を常時受け付ける。

成績評価の方法

中間試験（40%）と期末試験（60%）の合計で評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テストを数回実施する予定。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを Oh-o! Meiji を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。

その他

以下の点を心しておくこと。
1. 出席せずして単位認定は有り得ない。
2. 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。
3. 講義中は最低限のマナーを守ること。次の点は特に順守のこと。
   a. 勝手なおしゃべりはしない。
   b. スマホ、携帯電話はマナー・モードにしておく。
   c. 教室をむやみに出入りしない。
4. 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。
5. 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。
6. 定期試験対策問題、定期試験問題解答、休講連絡など講義に関わる連絡事項は、Oh-o! Meiji により通知する。連絡事項が PC ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】

2単位

1年次

兼任講師　鈴　木　慶　春

授業の概要・到達目標

本科目では、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。
マクロ経済学は、一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です。例えばGDPとは何か、何が一国のGDPを決めるのか、日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか、日銀はなぜ低金利政策を維持してきたのか、などがテーマとなります。
マクロ経済学Iでは主に、経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、そして国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）について説明します。
現在の日本や世界のマクロ経済が直面する問題を理解することと、マクロ経済のメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的です。
履修者が(i)経済の仕組みや役割を把握し、(ii)様々な経済現象に対する理解を深め、(iii)問題解決の方法を自ら考えられるようになることを目指します。

授業内容

第１回　マクロ経済学のイントロダクション
第２回　世界と日本のマクロ経済
第３回　GDPの定義と計測（１）
第４回　GDPの定義と計測（２）
第５回　GDPの定義と計測（３）
第６回　物価の定義と計測
第７回　貨幣と貨幣市場モデル
第８回　金融市場
第９回　中央銀行
第10回　投資
第11回　45度線モデルとGDPの決定
第12回　乗数効果と財政政策
第13回　マクロ経済学史
第14回　マクロ経済学Iのまとめ

履修の注意点

期末試験の直前だけではなく、日頃から継続的に学習してください。何故なら経済学は暗記科目ではなく、自転車や水泳のような「スキル」を身につける科目だからです。経済学には一言で形容し難い独特の思考法がありますが、毎日のように触れていれば自然と無意識レベルにまで取り込むことができ、一生消えることのないスキルになります。
また「学ばされる」という姿勢では何事も損をします。経済学は面白い学問なので、楽しみながら出席してください。自分の知的好奇心を上手に刺激する方法を自分で発見できればなお望ましいです。

準備学習の内容

講義の予習・復習としてOh!-o Meijiに演習問題を多数用意しますので、それを解いて、解答・解説と照らし合わせてください。

教科書

市販のテキストは使用しません。教員が作成した講義ノート（Oh!-o Meijiを通じて配付）を使用します。

参考書

『入門・日本の経済成長』平口良司、日経BP社、2022年
『マクロ経済学 第３版』平口良司・稲葉大、有斐閣、2023年
『ALLマクロ経済学』アセモグル/レイブソン/リスト、東洋経済新報社、2019年

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについて、授業およびOh!-o Meijiを通じて解説を行う。

成績評価の方法

課題レポート（30%）、期末試験（70%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　八　木　尚　志

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です．中国の貿易収支はなぜ黒字なのか。反対に、米国はなぜ貿易収支が赤字なのか。新型コロナは日本経済、世界経済をどう変えたのか。金融危機はなぜ生じるのか。インフレ、デフレはなぜ生じるのか。多くの途上国はなぜ経済発展できずにいるのか。といったことがテーマとなります。本講座ではマクロ経済学１の講義内容に基づき、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について引き続き講義を行います。マクロ経済学２の講義では主に、インフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや開放経済マクロモデルについて説明します。本講義を通して、マクロ経済の課題・問題を理論的・実証的に整理して分析できるようになることを目標とします．

「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験でB＋を獲得することを目指します。

授業内容

第１回　消費・投資・貨幣理論の復習
第２回　IS-LMモデル（１）：IS曲線
第３回　IS-LMモデル（２）：LM曲線
第４回　IS-LMモデル（３）：国民所得と利子率の決定
第５回　経済政策の有効性
第６回　総需要（AD）総供給（AS）モデル
第７回　フィリップス曲線
第８回　労働市場と総需要・総供給
第９回　失業とインフレーションの理論
第10回　中間テスト
第11回　ハロッドドーマーモデル、経済成長モデル
第12回　国際収支、ISバランス
第13回　オープン・マクロ経済モデル
第14回　全体総括

履修の注意点

・出席をするようにしてください。
・１限の授業がありますが、遅刻をしないようにしてください。

準備学習の内容

次回の講義・内容について授業やOh-o! Meijiで指示します。
事前学習については、テキストで次の授業範囲を読んでください。
事後学習については、中間テスト２回と期末テストに合わせて復習をしてください。

教科書

西村和雄・八木尚志著『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版。
重要なところ、わかりにくいところについてはプリントを配布します。

参考書

西村和雄・友田康信『経済学ゼミナール上級編』実務教育出版

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

平常点（授業での確認、20%）程度）及び中間テスト（40%程度）、期末テスト（40%程度）

その他

予習・復習を十分に行い、マクロ経済学の内容と理論構造を理解してください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　平　口　良　司

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野です．中国の貿易収支はなぜ黒字なのか。反対に、米国はなぜ貿易収支が赤字なのか。新型コロナは日本経済、世界経済をどう変えたのか。金融危機はなぜ生じるのか。インフレ、デフレはなぜ生じるのか。多くの途上国はなぜ経済発展できずにいるのか。といったことがテーマとなります。本講座ではマクロ経済学１の講義内容に基づき、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について引き続き講義を行います。マクロ経済学２の講義では主に、インフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや開放経済マクロモデルについて説明します。本講義を通して、マクロ経済の課題・問題を理論的・実証的に整理して分析できるようになることを目標とします．「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験でB＋を獲得することを目指します。

授業内容

第１回　消費・投資・貨幣理論の復習
第２回　IS-LMモデル（１）：IS曲線
第３回　IS-LMモデル（２）：LM曲線
第４回　IS-LMモデル（３）：国民所得と利子率の決定
第５回　経済政策の有効性
第６回　総需要（AD）総供給（AS）モデル
第７回　フィリップス曲線
第８回　労働市場と総需要・総供給
第９回　失業とインフレーションの理論
第10回　経済成長モデル
第11回　ハロッドドーマーモデル
第12回　国際収支、ISバランス
第13回　オープン・マクロ経済モデル
第14回　全体総括

履修の注意点

ミクロ経済学と同様、マクロ経済学は基礎からの積み重ねの学問ですので、授業の欠席をしないようにしてください。

準備学習の内容

授業中に配布する練習問題にしっかり取り組んでください。テレビや新聞の経済ニュースに関心を持つようにしてください。産業連関分析においては簡単な行列やベクトルの知識があるとより理解が深まるでしょう。数学的知識についても授業後復習してください。

教科書

マクロ経済学（平口良司・稲葉大著、有斐閣ストゥディア）

参考書

『経済学のための線形代数』（平口良司著、浅倉書店）

課題に対するフィードバックの方法

中間試験の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

中間試験（30%）と期末試験（70%）によって評価します。

その他

私語はしないようにしてください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　武田　巧

授業の概要・到達目標

マクロ経済学は一国や世界全体という大きなスケールで経済を考える分野である。中国の貿易収支はなぜ黒字なのか。反対に、米国はなぜ貿易収支が赤字なのか。新型コロナは日本経済、世界経済をどう変えたのか。金融危機はなぜ生じるのか。インフレ、デフレはなぜ生じるのか。多くの途上国はなぜ経済発展できずにいるのか。といったことがテーマとなる。本講座では「マクロ経済学１」の講義内容に基づき、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について引き続き講義を行う。「マクロ経済学II」の講義では主に、インフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや開放経済マクロモデルについて説明する。

本講義を通して、マクロ経済の課題・問題を理論的・実証的に整理して分析できるようになることを目標とする。「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験で B+を獲得することを目指している。

授業内容

講義は、後述の教科書に沿って、以下の様に進める予定。
第 1回：消費・投資・貨幣理論の復習
第 2回：IS-LMモデル（1）：生産物市場の均衡とIS曲線
第 3回：IS-LMモデル（2）：貨幣市場の均衡とLM曲線
第 4回：IS-LMモデル（3）：国民所得と利子率の決定
第 5回：経済政策の有効性
第 6回：オープンマクロ経済学（1）：国際収支、オープンマクロモデル、為替レート
第 7回：オープンマクロ経済学（2）：マンデル=フレミング・モデル
第 8回：中間総括
第 9回：労働市場と総需要・総供給（1）：物価と総需要、労働市場と総供給
第10回：労働市場と総需要・総供給（2）：AD-AS分析
第11回：インフレ、デフレ、失業の社会的費用
第12回：フィリップス曲線
第13回：成長理論
第14回：全体総括

履修の注意点

マクロ経済学は経済を理解するうえでの基礎であり、その基礎が無ければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。さすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。加えて是非お勧めしたいのが、『日本経済新聞』などの経済紙を日々読み続けることである。経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、The Wall Street Journal もお薦めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供しているので、是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。2023年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。

なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、Oh-o! Meiji に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにできるはずとの考えからである。是非、挑戦して欲しい。

準備学習の内容

毎回の予習としては、教科書、Oh-o! Meiji にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題、
http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/7874960106
およびOh-o! Meiji にて閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高める。

教科書

山田久、武田巧他『入門マクロ経済学』実教出版。
上記出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。
Oh-o! Meiji にて閲覧可能な各種問題。
『日本経済新聞』。

参考書

N.G. マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編』東洋経済新報社。
J.E. スティグリッツ『マクロ経済学』東洋経済新報社。
P.A. クルーグマン、R. ウェルズ『クルーグマン マクロ経済学』東洋経済新報社。
D.アセモグル、D. レイブソン、J. リスト『マクロ経済学』東洋経済新報社。
中谷巌『マクロ経済学入門第５版』日本評論社。
伊藤元重『マクロ経済学』日本評論社。
なお、数学を苦手とする場合は、下記参考書を勧める。
E・ドウリング『例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）』シーエービー出版。
その他、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれもOh-o! Meijiにて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、Oh-o! Meiji に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。

その他、Oh-o! Meijiを通しての質問を常時受け付ける。

成績評価の方法

中間試験（40%）と期末試験（60%）の合計で評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テストを数回実施する予定。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを Oh-o! Meiji を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。

その他

以下の点を心しておくこと。
1. 出席せずして単位認定は有り得ない。
2. 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。
3. 講義中は最低限のマナーを守ること。次の点は特に順守のこと。
   a. 勝手なおしゃべりはしない。
   b. スマホ、携帯電話はマナー・モードにしておく。
   c. 教室をむやみに出入りしない。
4. 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。
5. 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。
6. 定期試験対策問題、定期試験問題解答、休講連絡など講義に関わる連絡事項は、Oh-o! Meiji により通知する。連絡事項が PC ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

マクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

兼任講師　鈴　木　慶　春

授業の概要・到達目標

本科目では、マクロ経済学Iの講義内容に基づき、初学者が習得すべきマクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。インフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きや、開放経済マクロモデルについて説明します。本講義を通して、マクロ経済の課題・問題を理論的・実証的に整理して分析できるようになることを目標とします。
「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験で B+以上を獲得できるだけの知識習得を目指します。

授業内容

第１回　消費理論
第２回　IS-LMモデル（１）: 財市場と貨幣市場の同時均衡
第３回　IS-LMモデル（２）: 財政政策と金融政策
第４回　労働市場と失業
第５回　インフレーション
第６回　AD-ASモデル
第７回　為替レート
第８回　国際貿易
第９回　オープン・マクロ経済モデル
第10回　経済成長
第11回　簡略版ソローモデル
第12回　完全版ソローモデル
第13回　ソローモデルとデータ
第14回　全体総括

履修の注意点

期末試験の直前だけではなく、日頃から継続的に学習してください。何故なら経済学は暗記科目ではなく、自転車や水泳のような「スキル」を身につける科目だからです。経済学には一言で形容し難い独特の思考法がありますが、毎日のように触れていれば自然と無意識レベルにまで取り込むことができ、一生消えることのないスキルになります。
また「学ばされる」という姿勢では何事も損をします。経済学は面白い学問なので、楽しみながら出席してください。自分の知的好奇心を上手に刺激する方法を自分で発見できればなお望ましいです。

準備学習の内容

講義の予習・復習として、Oh!-o Meijiにアップロードする講義ノートの最後に演習問題を多数用意しますので、それを解いて、解答・解説と照らし合わせてください。

教科書

市販のテキストは使用しません。教員が作成した講義ノート（Oh!-o Meijiを通じて配付）を使用します。

参考書

『入門・日本の経済成長』平口良司、日経BP社、2022年
『マクロ経済学 第３版』平口良司・稲葉大、有斐閣、2023年
『ALLマクロ経済学』アセモグル/レイブソン/リスト、東洋経済新報社、2019年

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについて、授業およびOh!-o Meijiを通じて解説を行う。

成績評価の方法

課題レポート（30%）、期末試験（70%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

専任講師　井　上　朋　紀

授業の概要・到達目標

春学期は、完全競争市場を分析する。買い手と売り手が多数いて、それぞれの買い手や売り手は自分１人が購入量や販売量を変えても市場全体での総購入量や総販売量はほとんど変化しないため、すべての買い手と売り手は自分は価格を動かせないものと感じて、価格を所与として行動するような市場が完全競争市場である。買い手（消費者）と売り手（生産者）の行動をモデル化し、総購入量（総需要）と総販売量（総供給量）が一致している競争均衡の望ましい性質（社会的余剰最大化やパレート効率性）を学ぶ。

秋学期は、完全競争的ではない市場を分析の対象とする。例えば、ある財を生産する企業が少数である寡占市場では、それぞれの企業は生産量を調整することで価格を動かすことができる。２つの企業がお互いに相手の生産量を知らずに自分の生産量を決める場合と一方の企業が先に生産量を決め、それを観察してからもう一方の企業が生産量を決める場合とでは、企業の行動が変わってくる。ゲーム理論を使って、これらのケースを分析する。

現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて理論的な基礎を習得し、また応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目標である。

授業内容

第１回：経済学の原理と実践１：経済学の対象、最適化
第２回：経済学の原理と実践２：均衡、経験主義
第３回：経済学の方法と問い
第４回：最適化１：水準による最適化
第５回：最適化２：差分による最適化
第６回：需要、供給と均衡１：買い手の行動
第７回：需要、供給と均衡２：売り手の行動、競争均衡
第８回：消費者とインセンティブ１：買い手の選択、消費者余剰
第９回：消費者とインセンティブ２：需要の価格弾力性
第10回：生産者とインセンティブ１：売り手の選択、生産者余剰
第11回：生産者とインセンティブ２：長期競争均衡
第12回：完全競争と見えざる手：社会的余剰、パレート効率性
第13回：貿易１：比較優位
第14回：貿易２：反自由貿易の根拠
第15回：外部性と公共財１：外部性
第16回：外部性と公共財２：公共財、共有地の悲劇
第17回：政府の役割１：税と規制
第18回：政府の役割２：政府の失敗
第19回：生産要素市場：労働供給
第20回：独占１：市場支配力、独占企業の選択
第21回：独占２：独占に対する政府の政策
第22回：ゲーム理論と戦略的行動１：同時手番ゲーム、ナッシュ均衡
第23回：ゲーム理論と戦略的行動２：展開型ゲーム、後ろ向き帰納法
第24回：寡占と独占的競争１：寡占
第25回：寡占と独占的競争２：独占的競争
第26回：時間とリスクのトレードオフ：リスク選好
第27回：情報の経済学１：逆選択、シグナリング
第28回：情報の経済学２：隠された行動、モラルハザード

履修の注意点

ミクロ経済学をよく理解するために、数学のレベルアップをした方がよい。「数量経済分析」または「解析学Iと解析学II」を履修することを勧める。
理解の確認のために小テストを実施する予定である。

準備学習の内容

教科書の章末問題の中から解いてほしい問題を知らせるので、それらを解いて理解を深めること。

教科書

『ALL ミクロ経済学』ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト（著）、岩本康志（監訳）（東洋経済新報社）2020年。

参考書

ちょっと進んだ中級レベルのミクロ経済学「も」学びたい者には、
『ミクロ経済学の力』神取道宏（日本評論社）2014年。
『ミクロ経済学』奥野正寛（編）（東京大学出版会）2018年。
を勧める。これらの参考書を読むために数学も勉強したい者には、
『改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』尾山大輔、安田洋祐（編著）（日本評論社）2013年。
を勧める。

課題に対するフィードバックの方法

重要な章末問題については、講義で解説する。

成績評価の方法

春学期の期末試験と秋学期の期末試験（75～85％）、小テスト（15～25％）で評価する。

その他

講義中は、携帯電話を鳴らさないこと、私語をしないこと、教室を頻繁に出入りしないこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

教授　平　口　良　司

授業の概要・到達目標

経済現象を大雑把に捉え、経済の基本的な動きを理解するには、経済理論、なかでも主に価格の決定を扱うミクロ経済学が必要不可欠となる。モノやサービスの価格はどのように決まるのか。限りある資源は一体どのように配分されるのか。そこにおいて、市場はいかなる役割を果たし得るのか。市場が機能することで、私たちはどのような社会に到達し得るのか。それでは市場が機能しない場合はどうか。本講義では、身近な具体例を多用し、ともすれば抽象的で難解になりがちなミクロ経済理論を分かりやすく解説する。受講者が本講義を通じてミクロ経済学の基礎的な考え方を体系的に習得し、現代社会における経済の仕組みや役割、そして様々な経済現象に対する理解を深めることを到達目標とする。
まず、需要曲線と消費者行動について講義する。続いて独占や寡占の不完全競争市場の分析をする。寡占市場のモデルとして、（1）企業が同時に生産量を決めるクールノー競争、（2）企業が同時に価格を決めるベルトラン競争、（3）1つの企業が先に生産量を決め、もう1つの企業がその生産量を観察してから自分の生産量を決めるシュタッケルベルク競争を扱う。（1）と（2）は戦略型ゲーム、（3）は展開型ゲーム、として記述することになるので、ゲーム理論も扱う。次に、すべての消費者が価格を所与として扱うような完全競争的な交換経済の分析をする。消費者の行動を定式化し、需要ベクトル（最適消費計画）を求める。最後に、それぞれの消費者が所与としていた価格がどのような水準に決まるかについて見る。ワルラス的な見方は、すべての消費者について集計した総需要と総供給が等しくなる水準に価格が決まる。需給が一致した状態であるワルラス均衡が社会的に望ましい性質をもつことを意味する厚生経済学の基本定理を扱う。この講義を通して、現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて学んでもらいたい。2年生以降、経済政策論、国際貿易論、産業組織論といった応用分野を重点的に勉強していく場合でもミクロ経済学は重要である。理論的な基礎を習得するだけでなく、応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目的である。「マクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験でB+を獲得することを目指します。

授業内容

第1回目　ミクロ経済学の考え方
第2回目　経済モデル・トレードオフと取引
第3回目　需要と供給（1） 需要曲線
第4回目　需要と供給（2） 価格弾力性・所得弾力性
第5回目　需要と供給（3） 供給曲線
第6回目　需要と供給（4） 市場均衡
第7回目　需要と供給（5） 余剰
第8回目　消費者行動（1） 予算制約
第9回目　消費者行動（2） 無差別曲線
第10回目　消費者行動（3） 最適消費
第11回目　企業行動（1） 生産関数
第12回目　企業行動（2） 費用関数
第13回目　企業行動（3） 利潤最大化の行動
第14回目　需要供給と消費者企業行動のまとめ
第15回目：消費者・企業行動の復習・完全競争市場モデル
第16回目：市場の失敗・公共財・外部性
第17回目：独占市場・寡占市場のモデル、クールノー競争
第18回目：戦略型ゲームのナッシュ均衡
第19回目：ベルトラン競争・シュタッケルベルク競争
第20回目：生産要素市場
第21回目：消費者行動(1)：効用函数の序数性、限界代替率、需要ベクトル
第22回目：消費者行動(2所得消費曲線、上級財と下級財、エンゲル曲線
第23回目：消費者行動(3)支出最小化問題と補償需要・代替効果と所得効果
第24回目：エッジワース・ボックス
第25回目：パレート効率性、厚生経済学の第1・第2基本定理
第26回目：無限回くり返しゲーム
第27回目：情報の経済学
第28回目：全体総括

履修の注意点

ミクロ経済学は基礎から応用への積み重ねの学問ですので、欠席をしないようにしてください。

準備学習の内容

予習の必要はありませんが、授業中に配布する練習問題に積極的に取り組んでください。

教科書

グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編　第5版』センゲージ・ラーニング株式会社

参考書

井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、平口良司『経済学のための線形代数』浅倉書店

課題に対するフィードバックの方法

中間試験の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

中間試験（30%）と期末試験（70%）によって評価します。

その他

私語はしないようにしてください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

教授　八　木　尚　志

授業の概要・到達目標

経済現象を大雑把に捉え、経済の基本的な動きを理解するには、経済理論、なかでも主に価格の決定を扱うミクロ経済学が必要不可欠となる。モノやサービスの価格はどのように決まるのか。限りある資源は一体どのように配分されるのか。そこにおいて、市場はいかなる役割を果たし得るのか。市場が機能することで、私たちはどのような社会に到達し得るのか。それでは市場が機能しない場合はどうか。

春学期には、身近な具体例を多用し、ともすれば抽象的で難解になりがちなミクロ経済理論を分かりやすく解説する。受講者が本講義を通じてミクロ経済学の基礎的な考え方を体系的に習得し、現代社会における経済の仕組みや役割、そして様々な経済現象に対する理解を深めることを到達目標とする。ミクロ経済学1では主に、需要曲線と消費者行動、供給曲線の基礎と費用曲線について講義する。

秋学期には、第1に不完全競争の諸理論、第2にゲームの理論、第3に一般均衡理論の基礎について講義する。第1の不完全競争の諸理論では、独占や寡占の不完全競争市場の分析、寡占市場のモデルとして、(1) 企業が同時に生産量を決めるクールノー競争、(2) 企業が同時に価格を決めるベルトラン競争、(3) 1つの企業が先に生産量を決め、もう1つの企業がその生産量を観察してから自分の生産量を決めるシュタッケルベルク競争などを取り上げる。第2のゲームの理論では、戦略型ゲームの基礎、ナッシュ均衡、展開型ゲームの基礎、サブゲーム完全均衡、そしてゲーム理論のさまざまな応用例について講義を行う。最後に、すべての消費者が価格を所与として扱うような完全競争的な交換経済の分析をする。このモデルは、ワルラス的モデルとして発展してきており、初歩的な説明ではエッジワースのボックス・ダイアグラムを用いた説明、やや進んだ説明では一般均衡理論の数式を用いた説明として講義が行われている。ワルラス均衡、パレート最適、厚生経済学の基本定理などの重要な概念を取り上げる予定である。

この講義を通して、現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて学んでもらいたい。2年生以降、経済政策論、国際貿易論、産業組織論といった応用分野を重点的に勉強していく場合でもミクロ経済学は重要である。理論的な基礎を習得するだけでなく、応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目的である。

授業内容

春学期
第1回目　ミクロ経済学の考え方
第2回目　経済モデル・トレードオフと取引
第3回目　需要と供給（1） 需要曲線・供給曲線・エンゲル曲線
第4回目　需要と供給（2） 価格弾力性・所得弾力性
第5回目　需要と供給（3） 市場均衡、課税の効果、市場均衡の安定性
第6回目　需要と供給（4） 消費者余剰と生産者余剰、課税の効果
第7回目　消費者行動（1） 予算制約、効用関数、無差別曲線
第8回目　消費者行動（2） 最適消費
第9回目　消費者行動（3） 価格変化の効果、通常の需要曲線
第10回目　中間テスト
第11回目　企業行動（1） 費用関数、完全競争企業の行動：最適生産量
第12回目　企業行動（2） 生産関数、完全競争企業の行動：最適雇用量
第13回目　企業行動（3） 生産関数と費用関数
第14回目　ミクロ経済学Iのまとめ
秋学期
第1回：消費者・企業行動の復習・完全競争市場モデル
第2回：市場の失敗・公共財・外部性
第3回：独占市場・寡占市場のモデル、価格差別、独占的競争
第4回：クールノー競争、ベルトラン競争・シュタッケルベルク競争
第5回：ゲームの理論：戦略型ゲーム、展開型ゲーム、無限繰り返しゲーム
第6回：生産要素市場
第7回：消費者行動(1)：効用函数の序数性、限界代替率、需要ベクトル
第8回：消費者行動(2)：所得消費曲線、上級財と下級財、エンゲル曲線
第9回：消費者行動(3)：支出最小化問題と補償需要・代替効果と所得効果
第10回：中間テスト
第11回：エッジワース・ボックス
第12回：パレート効率性、厚生経済学の第1・第2基本定理
第13回：情報の経済学
第14回：全体総括

履修の注意点

出席を必ずしてください。

準備学習の内容

西村和雄著『ミクロ経済学』岩波書店の該当箇所を読んでください。
ページは授業で案内します。

教科書

西村和雄著『ミクロ経済学』岩波書店
重要な内容・わかりにくい内容については、プリントを配布します。

参考書

西村和雄著『ミクロ経済学入門』岩波書店
西村和雄・八木尚志著『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版
ヴァリアン『入門ミクロ経済学・原著第9版』勁草書房

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

1）毎回の授業での成果の確認20%
2）中間テスト40%(春学期中間テスト20%、秋学期中間テスト20%)
3）期末テスト40%(春学期期末テスト20%、秋学期期末テスト20%)

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学【2025年度以前入学者※Ⅰ・Ⅱセット履修】

4単位

1年次

教授　武田　巧

授業の概要・到達目標

経済現象を大雑把に捉え、経済の基本的な動きを理解するには、経済理論、なかでも主に価格の決定を扱うミクロ経済学が必要不可欠となる。モノやサービスの価格はどのように決まるのか。限りある資源は一体どのように配分されるのか。そこにおいて、市場はいかなる役割を果たし得るのか。市場が機能することで、私たちはどのような社会に到達し得るのか。それでは市場が機能しない場合はどうか。本講義では、身近な具体例を多用し、ともすれば抽象的で難解になりがちなミクロ経済理論を分かりやすく解説する。受講者が本講義を通じてミクロ経済学の基礎的な考え方を体系的に習得し、現代社会における経済の仕組みや役割、そして様々な経済現象に対する理解を深めることを、春学期の到達目標とする。

秋学期はまず、「ミクロ経済学Ⅰ」で学んだミクロ経済学の基本的考え方を振り返ったうえで、完全競争市場での到達点をエッジワース・ボックスを通してパレート最適点として確認するとともに、国際経済にも当てはめ、貿易の利益、比較優位の考え方を検証する。しかし市場は万能とは言えず、失敗もする。独占や寡占の不完全市場がその端的な例である。寡占市場のモデルとしては、クールノー競争、ベルトラン競争、シュタッケルベルク競争を扱う。更には公共財、外部性、費用逓減産業などにおいても市場は失敗する。市場の失敗はなぜ起き、どのような弊害をもたらすのか、そして、どのように対処すべきなのかを検討する。更には、寡占市場を扱う際にも用いるゲーム理論、そして不完全情報下の経済学についても扱うこととする。

秋学期はこの講義を通して、現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて学んでもらいたい。2年生以降、経済政策論、国際貿易論、産業組織論といった応用分野を重点的に勉強していく場合でもミクロ経済学は重要である。理論的な基礎を習得するだけでなく、応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目的である。到達目標としては、「マクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験でB＋を獲得することを目指している。

授業内容

春学期の講義は以下の様に進める予定。
第１回：ミクロ経済学の考え方
第２回：需要曲線と消費者行動（１）需要曲線の構造
第３回：需要曲線と消費者行動（２）消費者行動と需要曲線
第４回：供給曲線と生産者行動（１）供給曲線の構造、短期と長期の費用曲線
第５回：供給曲線と生産者行動（２）利潤最大化行動と生産者余剰
第６回：供給曲線と生産者行動（３）損益分岐点、操業停止点と供給曲線
第７回：中間総括
第８回：消費者行動の理論（１）無差別曲線、限界代替率
第９回：消費者行動の理論（２）需要の所得弾力性、所得効果と代替効果
第10回：消費者行動の理論（３）労働供給の理論
第11回：企業行動の理論（１）生産関数と企業行動
第12回：企業行動の理論（２）費用最小化行動
第13回：企業行動の理論（３）拡張経路
第14回：春学期総括

秋学期の講義は、以下の様に進める予定。
第 15 回：消費者・企業行動の復習・完全競争市場モデル
第 16 回：エッジワース・ボックス
第 17 回：国際経済学の基礎
第 18 回：独占・寡占の理論（１）独占の理論、独占価格とマークアップ
第 19 回：独占・寡占の理論（２）独占理論の応用
第 20 回：独占・寡占の理論（３）寡占の理論 ―クールノー競争、戦略型ゲームのナッシュ均衡―
第 21 回：独占・寡占の理論（４）寡占の理論 ―ベルトラン競争、主たっけるべるぐ競争―
第 22 回：中間総括
第 23 回：市場の失敗（１）外部性
第 24 回：市場の失敗（２）公共財と共有財
第 25 回：市場の失敗（３）費用逓減産業
第 26 回：ゲーム理論
第 27 回：不完全情報の経済学
第 28 回：全体統括

履修の注意点

ミクロ経済学は経済を理解するうえでの基礎であり、その基礎が無ければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。さすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。加えて是非お勧めしたいのが、『日本経済新聞』などの経済紙を日々読み続けることである。経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、**The Wall Street Journal** もお薦めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供しているので、是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。2023年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。

なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、**Oh-o! Meiji** に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにできるはずとの考えからである。是非、挑戦して欲しい。

準備学習の内容

毎回の予習としては、教科書、**Oh-o! Meiji** にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 **WEB** サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題
http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/6994461826
と**Oh-o! Meiji** にて閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高めることを勧める。

教科書

・山田久、武田巧他『入門ミクロ経済学』（初版第二刷）実教出版。
・また上記出版社 **WEB** サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。
・**Oh-o! Meiji** にて閲覧可能な各種問題。
・『日本経済新聞』。

参考書

伊藤元重『ミクロ経済学 第２版』日本評論社。
伊藤元重、下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社。
上記２冊は特に、教科書を補完するうえで有用と思われる。
N.G. マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』東洋経済新報社。
J.E. スティグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済新報社。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス『クルーグマン・ミクロ経済学』東洋経済新報社。
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社。
数学を苦手とする者には下記を勧める。
E・ドウリング『例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）』シーエーピー出版。
その他、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれも**Oh-o! Meiji**にて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、**Oh-o! Meiji** に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。
その他、質問は**Oh-o! Meiji**を通じて常時受け付ける。

成績評価の方法

中間試験40%（春学期・秋学期各20%）と期末試験60%（春学期・秋学期各30%）の合計で評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テストも数回実施する予定。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを **Oh-o! Meiji** を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。

その他

以下の点を心しておくこと。
1. 出席せずして単位認定は有り得ない。
2. 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。
3. 講義中は最低限のマナーを守ること。次の点は特に順守のこと。
   a. 勝手なおしゃべりはしない。
   b. 携帯電話、スマホはマナー・モードにしておく。
   c. 教室をむやみに出入りしない。
4. 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。
5. 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。
6. 講義に関わる連絡事項は、**Oh-o! Meiji** により通知する。連絡事項が **PC** ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J	
ミクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次
専任講師　井　上　朋　紀	

授業の概要・到達目標

ミクロ経済学Iでは、完全競争市場を分析する。買い手と売り手が多数いて、それぞれの買い手や売り手は自分１人が購入量や販売量を変えても市場全体での総購入量や総販売量はほとんど変化しないため、すべての買い手と売り手は自分は価格を動かせないものと感じて、価格を所与として行動するような市場が完全競争市場である。買い手（消費者）と売り手（生産者）の行動をモデル化し、総購入量（総需要）と総販売量（総供給量）が一致している競争均衡の望ましい性質（社会的余剰最大化やパレート効率性）を学ぶ。

現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて理論的な基礎を習得し、また応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目標である。

授業内容

第１回：経済学の原理と実践１：経済学の対象、最適化
第２回：経済学の原理と実践２：均衡、経験主義
第３回：経済学の方法と問い
第４回：最適化１：水準による最適化
第５回：最適化２：差分による最適化
第６回：需要、供給と均衡１：買い手の行動
第７回：需要、供給と均衡２：売り手の行動、競争均衡
第８回：消費者とインセンティブ１：買い手の選択、消費者余剰
第９回：消費者とインセンティブ２：需要の価格弾力性
第10回：生産者とインセンティブ１：売り手の選択、生産者余剰
第11回：生産者とインセンティブ２：長期競争均衡
第12回：完全競争と見えざる手：社会的余剰、パレート効率性
第13回：貿易１：比較優位
第14回：貿易２：反自由貿易の根拠

履修の注意点

ミクロ経済学をよく理解するために、数学のレベルアップをした方がよい。「数量経済分析」または「解析学Iと解析学II」を履修することを勧める。
理解の確認のために小テストを実施する予定である。

準備学習の内容

教科書の章末問題の中から解いてほしい問題を知らせるので、それらを解いて理解を深めること。

教科書

『ALL ミクロ経済学』ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト（著）、岩本康志（監訳）（東洋経済新報社）2020年。

参考書

ちょっと進んだ中級レベルのミクロ経済学「も」学びたい者には、
『ミクロ経済学の力』神取道宏（日本評論社）2014年。
『ミクロ経済学』奥野正寛（編）（東京大学出版会）2018年。
を勧める。これらの参考書を読むために数学も勉強したい者には、
『改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』尾山大輔、安田洋祐（編著）（日本評論社）2013年。
を勧める。

課題に対するフィードバックの方法

重要な章末問題については、講義で解説する。

成績評価の方法

期末試験（75～85%）、小テスト（15～25%）で評価する。

その他

講義中は、携帯電話を鳴らさないこと、私語をしないこと、教室を頻繁に出入りしないこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J	
ミクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次
教授　平　口　良　司	

授業の概要・到達目標

経済現象を大雑把に捉え、経済の基本的な動きを理解するには、経済理論、なかでも主に価格の決定を扱うミクロ経済学が必要不可欠となる。モノやサービスの価格はどのように決まるのか。限りある資源は一体どのように配分されるのか。そこにおいて、市場はいかなる役割を果たし得るのか。市場が機能することで、私たちはどのような社会に到達し得るのか。それでは市場が機能しない場合はどうか。本講義では、身近な具体例を多用し、ともすれば抽象的で難解になりがちなミクロ経済理論を分かりやすく解説する。受講者が本講義を通じてミクロ経済学の基礎的な考え方を体系的に習得し、現代社会における経済の仕組みや役割、そして様々な経済現象に対する理解を深めることを到達目標とする。ミクロ経済学１では主に、需要曲線と消費者行動について講義する。

授業内容

第１回目　ミクロ経済学の考え方
第２回目　経済モデル・トレードオフと取引
第３回目　需要と供給（１）需要曲線
第４回目　需要と供給（２）価格弾力性・所得弾力性
第５回目　需要と供給（３）供給曲線
第６回目　需要と供給（４）市場均衡
第７回目　需要と供給（５）余剰
第８回目　消費者行動（１）予算制約
第９回目　消費者行動（２）無差別曲線
第10回目　消費者行動（３）最適消費
第11回目　企業行動（１）生産関数
第12回目　企業行動（２）費用関数
第13回目　企業行動（３）利潤最大化の行動
第14回目　ミクロ経済学Iのまとめ

履修の注意点

ミクロ経済学は基礎から応用への積み重ねの学問ですので、欠席をしないようにしてください。

準備学習の内容

予習の必要はありませんが、授業中に配布する練習問題に積極的に取り組んでください。

教科書

グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編　第５版』センゲージ・ラーニング株式会社

参考書

井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、平口良司『経済学のための線形代数』浅倉書店

課題に対するフィードバックの方法

中間試験の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

中間試験（30%）と期末試験（70%）によって評価します。

その他

私語はしないようにしてください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　八　木　尚　志

授業の概要・到達目標

経済現象を大雑把に捉え、経済の基本的な動きを理解するには、経済理論、なかでも主に価格の決定を扱うミクロ経済学が必要不可欠となる。モノやサービスの価格はどのように決まるのか。限りある資源は一体どのように配分されるのか。そこにおいて、市場はいかなる役割を果たし得るのか。市場が機能することで、私たちはどのような社会に到達し得るのか。それでは市場が機能しない場合はどうか。本講義では、身近な具体例を多用し、ともすれば抽象的で難解になりがちなミクロ経済理論を分かりやすく解説する。受講者が本講義を通じてミクロ経済学の基礎的な考え方を体系的に習得し、現代社会における経済の仕組みや役割、そして様々な経済現象に対する理解を深めることを到達目標とする。ミクロ経済学１では主に、需要曲線と消費者行動、供給曲線の基礎と費用曲線について講義する。

授業内容

第１回目　ミクロ経済学の考え方
第２回目　経済モデル・トレードオフと取引
第３回目　需要と供給（１）需要曲線・供給曲線・エンゲル曲線
第４回目　需要と供給（２）価格弾力性・所得弾力性
第５回目　需要と供給（３）市場均衡、課税の効果、市場均衡の安定性
第６回目　需要と供給（４）消費者余剰と生産者余剰、課税の効果
第７回目　消費者行動（１）予算制約、効用関数、無差別曲線
第８回目　消費者行動（２）最適消費
第９回目　消費者行動（３）価格変化の効果、通常の需要曲線
第10回目　中間テスト
第11回目　企業行動（１）費用関数、完全競争企業の行動：最適生産量
第12回目　企業行動（２）生産関数、完全競争企業の行動：最適雇用量
第13回目　企業行動（３）生産関数と費用関数
第14回目　ミクロ経済学Iのまとめ

履修の注意点

必ず出席をしてください。

準備学習の内容

西村和雄著『ミクロ経済学』岩波書店の該当箇所を読んでください。ページは授業で案内します。

教科書

西村和雄著『ミクロ経済学』岩波書店
わかりにくいところ・重要なところについてはプリントを配布します。

参考書

西村和雄著『ミクロ経済学入門』岩波書店
西村和雄・八木尚志著『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版
ヴァリアン『入門ミクロ経済学』勁草書房

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

１）毎回の授業での成果の確認10％
２）中間テスト40％
３）期末テスト50％

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学Ⅰ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　武　田　　巧

授業の概要・到達目標

経済現象を大雑把に捉え、経済の基本的な動きを理解するには、経済理論、なかでも主に価格の決定を扱うミクロ経済学が必要不可欠となる。モノやサービスの価格はどのように決まるのか。限りある資源は一体どのように配分されるのか。そこにおいて、市場はいかなる役割を果たし得るのか。市場が機能することで、私たちはどのような社会に到達し得るのか。それでは市場が機能しない場合はどうか。本講義では、身近な具体例を多用し、ともすれば抽象的で難解になりがちなミクロ経済理論を分かりやすく解説する。受講者が本講義を通じてミクロ経済学の基礎的な考え方を体系的に習得し、現代社会における経済の仕組みや役割、そして様々な経済現象に対する理解を深めることを到達目標とする。

授業内容

講義は以下の様に進める予定。
第１回：ミクロ経済学の考え方
第２回：需要曲線と消費者行動（１）需要曲線の構造
第３回：需要曲線と消費者行動（２）消費者行動と需要曲線
第４回：供給曲線と生産者行動（１） 供給曲線の構造、短期と長期の費用曲線
第５回：供給曲線と生産者行動（２）利潤最大化行動と生産者余剰
第６回：供給曲線と生産者行動（３）損益分岐点、操業停止点と供給曲線
第７回：中間総括
第８回：消費者行動の理論（１）無差別曲線、限界代替率
第９回：消費者行動の理論（２）需要の所得弾力性、所得効果と代替効果
第10回：消費者行動の理論（３）労働供給の理論
第11回：企業行動の理論（１）生産関数と企業行動
第12回：企業行動の理論（２）費用最小化行動
第13回：企業行動の理論（３）拡張経路
第14回：全体総括

履修の注意点

ミクロ経済学は経済を理解するうえでの基礎であり、その基礎が無ければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。さすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。加えて是非お勧めしたいのが、『日本経済新聞』などの経済紙を日々読み続けることである。経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、The Wall Street Journal もお薦めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供しているので、是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。2023年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。
なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、Oh-o! Meiji に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにできるはずとの考えからである。是非、挑戦して欲しい。

準備学習の内容

毎回の予習としては、教科書、Oh-o! Meiji にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題
http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/6994461826
とOh-o! Meiji にて閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高めることを勧める。

教科書

・山田久、武田巧他『入門ミクロ経済学』（初版第二刷）実教出版。
・また上記出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。
・Oh-o! Meiji にて閲覧可能な各種問題。
・『日本経済新聞』。

参考書

伊藤元重『ミクロ経済学 第２版』日本評論社。
伊藤元重、下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社。
上記２冊は特に、教科書を補完するうえで有用と思われる。
N.G. マンキュー『マンキュー経済学Iミクロ編』東洋経済新報社。
J.E. スティグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済新報社。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス『クルーグマン・ミクロ経済学』東洋経済新報社。
数学を苦手とする者には下記を勧める。
E・ドウリング『例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）』シーエーピー出版。
その他、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれもOh-o! Meijiにて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、Oh-o! Meiji に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。
その他、Oh-o! Meijiを通しての質問を常時受け付ける。

成績評価の方法

中間試験（40％）と期末試験（60％）の合計で評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テストを数回実施する予定。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを Oh-o! Meiji を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。

その他

以下の点を心しておくこと。
1. 出席せずして単位認定は有り得ない。
2. 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。
3. 講義中は最低限のマナーを守ること。次の点は特に順守のこと。
   a. 勝手なおしゃべりはしない。
   b. 携帯電話、スマホはマナー・モードにしておく。
   c. 教室をむやみに出入りしない。
4. 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。
5. 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。
6. 講義に関わる連絡事項は、Oh-o! Meiji により通知する。連絡事項が PC ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

専任講師　井　上　朋　紀

授業の概要・到達目標

ミクロ経済学Iでは、消費者も生産者も価格を所与として行動する完全競争市場の分析がハイライトであった。ミクロ経済学IIでは、完全競争的ではない市場を分析の対象とする。例えば、ある財を生産する企業が少数である寡占市場では、それぞれの企業は生産量を調整することで価格を動かすことができる。２つの企業がお互いに相手の生産量を知らずに自分の生産量を決める場合と一方の企業が先に生産量を決め、それを観察してからもう一方の企業が生産量を決める場合とでは、企業の行動が変わってくる。ゲーム理論を使って、これらのケースを分析する。

現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて理論的な基礎を習得し、また応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目標である。

授業内容

第１回：外部性と公共財１：外部性
第２回：外部性と公共財２：公共財、共有地の悲劇
第３回：政府の役割１：税と規制
第４回：政府の役割２：政府の失敗
第５回：生産要素市場：労働供給
第６回：独占１：市場支配力、独占企業の選択
第７回：独占２：独占に対する政府の政策
第８回：ゲーム理論と戦略的行動１：同時手番ゲーム、ナッシュ均衡
第９回：ゲーム理論と戦略的行動２：展開型ゲーム、後ろ向き帰納法
第10回：寡占と独占的競争１：寡占
第11回：寡占と独占的競争２：独占的競争
第12回：時間とリスクのトレードオフ：リスク選好
第13回：情報の経済学１：逆選択、シグナリング
第14回：情報の経済学２：隠された行動、モラルハザード

履修の注意点

ミクロ経済学をよく理解するために、数学のレベルアップをした方がよい。「数量経済分析」または「解析学Iと解析学II」を履修することを勧める。
理解の確認のために小テストを実施する予定である。

準備学習の内容

教科書の章末問題の中から解いてほしい問題を知らせるので、それらを解いて理解を深めること。

教科書

『ALL ミクロ経済学』ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト（著）、岩本康志（監訳）（東洋経済新報社）2020年。

参考書

ちょっと進んだ中級レベルのミクロ経済学「も」学びたい者には、
『ミクロ経済学の力』神取道宏（日本評論社）2014年。
『ミクロ経済学』奥野正寛（編）（東京大学出版会）2018年。
を勧める。これらの参考書を読むために数学も勉強したい者には、
『改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』尾山大輔、安田洋祐（編著）（日本評論社）2013年。
を勧める。

課題に対するフィードバックの方法

重要な章末問題については、講義で解説する。

成績評価の方法

期末試験（75～85%）、小テスト（15～25%）で評価する。

その他

講義中は、携帯電話を鳴らさないこと、私語をしないこと、教室を頻繁に出入りしないこと。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　平　口　良　司

授業の概要・到達目標

本講義ではまず、独占や寡占の不完全競争市場の分析をする。寡占市場のモデルとして、（1）企業が同時に生産量を決めるクールノー競争、（2）企業が同時に価格を決めるベルトラン競争、（3）１つの企業が先に生産量を決め、もう１つの企業がその生産量を観察してから自分の生産量を決めるシュタッケルベルク競争を扱う。（1）と（2）は戦略型ゲーム、（3）は展開型ゲーム、として記述することになるので、ゲーム理論も扱う。次に、すべての消費者が価格を所与として扱うような完全競争的な交換経済の分析をする。消費者の行動を定式化し、需要ベクトル（最適消費計画）を求める。
最後に、それぞれの消費者が所与としていた価格がどのような水準に決まるかについて見る。ワルラス的な見方は、すべての消費者について集計した総需要と総供給が等しくなる水準に価格が決まる。需給が一致した状態であるワルラス均衡が社会的に望ましい性質をもつことを意味する厚生経済学の基本定理を扱う。この講義を通して、現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて学んでもらいたい。２年生以降、経済政策論、国際貿易論、産業組織論といった応用分野を重点的に勉強していく場合でもミクロ経済学は重要である。理論的な基礎を習得するだけでなく、応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目的である。「マクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、経済学検定試験で B＋を獲得することを目指します。

授業内容

第１回：消費者・企業行動の復習・完全競争市場モデル
第２回：市場の失敗・公共財・外部性
第３回：独占市場・寡占市場のモデル、クールノー競争
第４回：戦略型ゲームのナッシュ均衡
第５回：ベルトラン競争・シュタッケルベルク競争
第６回：生産要素市場
第７回：消費者行動（１）：効用函数の序数性、限界代替率、需要ベクトル
第８回：消費者行動（２所得消費曲線、上級財と下級財、エンゲル曲線
第９回：消費者行動（３）支出最小化問題と補償需要・代替効果と所得効果
第10回：エッジワース・ボックス
第11回：パレート効率性、厚生経済学の第１・第２基本定理
第12回：くり返しゲーム
第13回：情報の経済学
第14回：全体総括

履修の注意点

ミクロ経済学は基礎から応用への積み重ねの学問ですので、欠席をしないようにしてください。

準備学習の内容

予習の必要はありませんが、授業中に配布する練習問題に積極的に取り組んでください。

教科書

グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編　第５版』センゲージ・ラーニング株式会社

参考書

井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、平口良司『経済学のための線形代数』浅倉書店

課題に対するフィードバックの方法

中間試験の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

中間試験（30%）と期末試験（70%）によって評価します。

その他

私語はしないようにしてください。

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　八　木　尚　志

授業の概要・到達目標

本講義では、第１に不完全競争の諸理論、第２にゲームの理論、第３に一般均衡理論の基礎について講義する。第１の不完全競争の諸理論では、独占や寡占の不完全競争市場の分析、寡占市場のモデルとして、（1）企業が同時に生産量を決めるクールノー競争、（2）企業が同時に価格を決めるベルトラン競争、（3）１つの企業が先に生産量を決め、もう１つの企業がその生産量を観察してから自分の生産量を決めるシュタッケルベルク競争などを取り上げる。第２のゲームの理論では、戦略型ゲームの基礎、ナッシュ均衡、展開型ゲームの基礎、サブゲーム完全均衡、そしてゲーム理論のさまざまな応用例について講義を行う。最後に、すべての消費者が価格を所与として扱うような完全競争的な交換経済の分析をする。このモデルは、ワルラス的モデルとして発展してきており、初歩的な説明ではエッジワースのボックス・ダイアグラムを用いた説明、やや進んだ説明では一般均衡理論の数式を用いた説明として講義が行われている。ワルラス均衡、パレート最適、厚生経済学の基本定理などの重要な概念を取り上げる予定である。

この講義を通して、現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて学んでもらいたい。２年生以降、経済政策論、国際貿易論、産業組織論といった応用分野を重点的に勉強していく場合でもミクロ経済学は重要である。理論的な基礎を習得するだけでなく、応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目的である。

授業内容

第１回：消費者・企業行動の復習・完全競争市場モデル
第２回：市場の失敗・公共財・外部性
第３回：独占市場・寡占市場のモデル、価格差別、独占的競争
第４回：クールノー競争、ベルトラン競争・シュタッケルベルク競争
第５回：ゲームの理論：戦略型ゲーム、展開型ゲーム、無限繰り返しゲーム
第６回：生産要素市場
第７回：消費者行動（1）：効用函数の序数性、限界代替率、需要ベクトル
第８回：消費者行動（2）：所得消費曲線、上級財と下級財、エンゲル曲線
第９回：消費者行動（3）：支出最小化問題と補償需要・代替効果と所得効果
第10回：中間テスト
第11回：エッジワース・ボックス
第12回：パレート効率性、厚生経済学の第１・第２基本定理
第13回：情報の経済学
第14回：全体総括

履修の注意点

出席を必ずしてください。

準備学習の内容

西村和雄著『ミクロ経済学』岩波書店の該当箇所を読んでください。
ページは授業で案内します。

教科書

西村和雄著『ミクロ経済学』岩波書店
わかりにくいところ、重要なところについてはプリントを配布する予定です。

参考書

西村和雄著『ミクロ経済学』岩波書店
西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版
ヴァリアン『入門ミクロ経済学』勁草書房

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

1）毎回の授業での成果の確認10%
2）中間テスト40%
3）期末テスト50%

その他

科目ナンバー：(PE)ECN111J

ミクロ経済学Ⅱ【2026年度以降入学者】	2単位
	1年次

教授　武　田　　巧

授業の概要・到達目標

本講義ではまず、「ミクロ経済学Ⅰ」で学んだミクロ経済学の基本的考え方を振り返ったうえで、完全競争市場での到達点をエッジワース・ボックスを通してパレート最適点として確認するとともに、国際経済にも当てはめ、貿易の利益、比較優位の考え方を検証する。しかし市場は万能とは言えず、失敗もする。独占や寡占の不完全市場がその端的な例である。寡占市場のモデルとしては、クールノー競争、ベルトラン競争、シュタッケルベルク競争を扱う。更には公共財、外部性、費用逓減産業などにおいても市場は失敗する。市場の失敗はなぜ起き、どのような弊害をもたらすのか、そして、どのように対処すべきなのかを検討する。更には、寡占市場を扱う際にも用いるゲーム理論、そして不完全情報下の経済学についても扱うこととする。

この講義を通して、現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて学んでもらいたい。2年生以降、経済政策論、国際貿易論、産業組織論といった応用分野を重点的に勉強していく場合でもミクロ経済学は重要である。理論的な基礎を習得するだけでなく、応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目的である。到達目標としては、「マクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験で B＋を獲得することを目指している。

授業内容

講義は、以下の様に進める予定。
第１回：消費者・企業行動の復習・完全競争市場モデル
第２回：エッジワース・ボックス
第３回：国際経済学の基礎
第４回：独占・寡占の理論（1）独占の理論、独占価格とマークアップ
第５回：独占・寡占の理論（2）独占理論の応用
第６回：独占・寡占の理論（3）寡占の理論 ―クールノー競争、戦略型ゲームのナッシュ均衡―
第７回：独占・寡占の理論（4）寡占の理論 ―ベルトラン競争、主たっけるべるぐ競争―
第８回：中間総括
第９回：市場の失敗（1）外部性
第10回：市場の失敗（2）公共財と共有財
第11回：市場の失敗（3）費用逓減産業
第12回：ゲーム理論
第13回：不完全情報の経済学
第14回：全体統括

履修の注意点

ミクロ経済学は経済を理解するうえでの基礎であり、その基礎が無ければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。さすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。加えて是非お勧めしたいのが、『日本経済新聞』などの経済紙を日々読み続けることである。経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、**The Wall Street Journal** もお薦めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供しているので、是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。2023年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。

なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、**Oh-o! Meiji** に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにできるはずとの考えからである。是非、挑戦して欲しい。

準備学習の内容

毎回の予習としては、教科書、**Oh-o! Meiji** にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 **WEB** サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題
http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/6994461826
と**Oh-o! Meiji** にて閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高めることを勧める。

教科書

・山田久、武田巧他『入門ミクロ経済学』（初版第二刷）実教出版。
・また上記出版社 **WEB** サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。
・**Oh-o! Meiji** にて閲覧可能な各種問題。
・『日本経済新聞』。

参考書

伊藤元重『ミクロ経済学 第２版』日本評論社。
伊藤元重、下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社。
上記２冊は特に、教科書を補完するうえで有用と思われる。
N.G. マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』東洋経済新報社。
J.E. スティグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済新報社。
ボール・クルーグマン、ロビン・ウェルス『クルーグマン・ミクロ経済学』東洋経済新報社。
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社。
数学を苦手とする者には下記を勧める。
E・ドウリング『例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）』シーエーピー出版。
その他、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれも**Oh-o! Meiji**にて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、**Oh-o! Meiji** に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。
その他、質問は**Oh-o! Meiji**を通じて常時受け付ける。

成績評価の方法

中間試験（40%）と期末試験（60%）の合計で評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テストも数回実施する予定。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを **Oh-o! Meiji** を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。

その他

以下の点を心しておくこと。
1. 出席せずして単位認定は有り得ない。
2. 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。
3. 講義中は最低限のマナーを守ること。次の点は特に順守のこと。
   a. 勝手なおしゃべりはしない。
   b. 携帯電話、スマホはマナー・モードにしておく。
   c. 教室をむやみに出入りしない。
4. 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。
5. 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。
6. 講義に関わる連絡事項は、**Oh-o! Meiji** により通知する。連絡事項が **PC** ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。

科目ナンバー：(PE)ECN181J

経済史	4単位
	1年次

教授　石　山　幸　彦

授業の概要・到達目標

本講義では、資本主義社会はどのように生まれ、どのように発展してきたのかについて、欧米先進国を中心に基本的な歴史的事実を解説する。まず、ヨーロッパにおける資本主義社会の誕生については、封建社会の経済システムがいかに崩壊して産業革命が発生し、資本主義社会が出現するのかを明らかにする。次いで、産業革命後の資本主義社会はどのような歴史を経過して、19世紀末の大不況、第一次世界大戦と世界恐慌、さらに、第二次世界大戦後の経済成長を経験することになるのかを、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなどの経済発展を中心に、それらを比較しながら説明する。

以上の授業によって、受講生は欧米諸国を中心とした資本主義経済の歴史を基本的に理解し、個別テーマに関する歴史研究や、現代経済に関する研究書を理解する上でも基盤となる歴史的事実を把握することができる。

授業内容

第1回目　イントロダクション「経済史」学の誕生と発展
第2回目　ヨーロッパ中世の農村
第3回目　ヨーロッパの中世都市
第4回目　絶対王政の経済構造
第5回目　大航海時代の到来
第6回目　旧植民地主義の展開
第7回目　イギリス産業革命の前提条件
第8回目　イギリス産業革命の展開
第9回目　フランスにおける産業革命
第10回目　ドイツにおける産業革命
第11回目　自由貿易世界市場の開設
第12回目　金本位制の世界的普及
第13回目　第2の技術革新と世紀末大不況
第14回目　アメリカにおける独占資本の形成
第15回目　ドイツにおける独占資本の形成
第16回目　イギリスにおける工業退化と資本輸出の拡大
第17回目　帝国主義の経済政策
第18回目　第一次世界大戦後の経済再建
第19回目　再建金本位制　基軸通貨の並列
第20回目　1929年恐慌の発生と世界的波及
第21回目　アメリカにおける不況への対応
第22回目　ドイツにおける不況への対応
第23回目　イギリスの対応と世界経済のブロック化
第24回目　戦後世界経済の再建
第25回目　冷戦の深化とマーシャル・プラン
第26回目　アメリカにおける戦後経済成長
第27回目　西ヨーロッパ諸国の戦後経済成長①
第28回目　西ヨーロッパ諸国の戦後経済成長②

履修の注意点

国際経済史、社会思想史、日本経済史、経済思想史など関連する歴史科目も履修することが望ましい。

準備学習の内容

下記の参考書等で予習し、授業で利用するレジュメを丁寧に読み、復習する。

教科書

特になし。

参考書

馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』（晃洋書房）
関口尚志・梅津順一『欧米経済史』（放送大学出版）など

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内に口頭で行う。

成績評価の方法

定期試験を中心に評価するが(70%)、平常の授業への取り組みも成績評価に反映する(30%)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN181J

経済史

4単位

1年次

准教授　赤　津　正　彦

授業の概要・到達目標

将来についての見通しを持つためには、現在をよく理解しなければならない。現在を正確に把握するためには、過去についての知見を深めなければならない。なぜなら現在は過去の積み重ねによって成り立っているからである。本講義では、主に西洋の経済の歴史について学ぶ。西洋にその歴史的起源を持ちながらも、世界的に拡延し、また今なお存続する経済システムは多い。なかでも「資本主義」は、我々が生きる今日の経済社会の基軸的なシステムであり、その西洋における生成、発展、変容の過程を振り返って見ることは、我々が生きる現代社会の成り立ちを考える上で不可欠のことといえよう。

本講義では、この「資本主義」を中心とした西洋の経済社会システムが、いかなる条件・状況のもとで、どのように生成・確立したか、またいかにして世界的に展開し、そして変容してきたかについて学ぶ。そしてそれを通じて、今日の経済社会について考えるための、また将来のそれを展望するための視座の獲得を目指す。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　経済史と近代および資本主義（前半）
第3回　経済史と近代および資本主義（後半）
第4回　中世社会（1）中世の農村共同体（前半）
第5回　中世社会（1）中世の農村共同体（後半）
第6回　中世社会（2）中世の都市共同体（前半）
第7回　中世社会（2）中世の都市共同体（後半）
第8回　中世末の経済社会とルネサンス
第9回　大航海時代のヨーロッパ経済（前半）
第10回　大航海時代のヨーロッパ経済（後半）
第11回　農村社会の変容と農村工業の萌芽的展開
第12回　絶対王政と市民革命―市民革命の経済的背景
第13回　宗教と資本主義
第14回　貿易国家オランダの盛衰
第15回　産業革命前夜のイギリス
第16回　イギリス産業革命（前半）
第17回　イギリス産業革命（後半）
第18回　イギリス産業革命と世界経済
第19回　産業革命の波及（前半）
第20回　産業革命の波及（後半）
第21回　イギリスの産業覇権（前半）
第22回　イギリスの産業覇権（後半）
第23回　19世紀末大不況
第24回　世界経済の再編成（前半）
第25回　世界経済の再編成（後半）
第26回　帝国主義と第一次世界大戦
第27回　相対的安定と大恐慌
第28回　世界恐慌と資本主義の変容

履修の注意点

上記の授業内容はおおよその計画であり、実際の進捗状況などにより変更もありうる。
授業計画の詳細および授業の進め方などについては初回の授業時に説明する。

準備学習の内容

下記の「参考書」に挙げられている予習・復習用参考書を入手し、授業の前後に読むことが望まれる。

教科書

特に指定しない。

参考書

予習のための参考書
『経済史入門』岡田泰男（慶應義塾大学出版会）
『欧米経済史』関口尚志・梅津順一（放送大学教育振興会）
『欧米経済史』藤瀬浩司（放送大学教育振興会）
（以上のうちどれか一冊）
復習のための参考書
各回授業時に配布されるプリントに参考文献として示す。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で口頭で行う。

成績評価の方法

定期試験（70%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）、などにより総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN181J

経済史

4単位

1年次

兼任講師　石　原　俊　時

授業の概要・到達目標

今日我々の社会は、転換期に直面していると言われるが、いかなる意味で転換期なのかを明らかにするには、歴史に対する省察は不可欠である。この講義では、近代資本主義の歴史的展開に着目することにより、我々が直面する問題状況を把握する手がかりを探ることとする。具体的には、近代資本主義がなぜ西欧で生成し、その後どのように展開したのかを、西欧対非西欧という空間軸と前近代対近代という時間軸を設定して検討することとする。あわせて、歴史を通じて「市場」がどのような形で展開し、「経済」なるものがどのように認識されてきたのかを見ることで、「市場」あるいは「経済」とは一体何なのかを考えるきっかけを与えたい。このように本講義は、国際経済史・現代経済史などより専門的な経済史系の科目を学ぶための基礎的知識を提供するのみでなく、経済学のどの分野を専攻する上でもイントロダクションの役割を果たすことを目指している。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　経済史学とは何か／歴史を見る眼
第3回目　前近代における社会と経済：農村（1）
第4回目　前近代における社会と経済：農村（2）
第5回目　前近代における社会と経済：都市（1）
第6回目　前近代における社会と経済：都市（2）
第7回目　前近代における社会と経済：支配と統治（1）
第8回目　前近代における社会と経済：支配と統治（2）
第9回目　近代への移行：資本主義の精神論争
第10回目　近代への移行：ルネサンスと宗教改革
第11回目　近代への移行：近代資本主義の起源をめぐって
第12回目　近代への移行：宗教戦争と主権国家
第13回目　近代への移行：世界商業戦と絶対王政
第14回目　近代への移行：市民革命
第15回目　近代への移行：名誉革命体制と重商主義
第16回目　近代への移行：オランダとフランスの経験
第17回目　近代への移行：明清期における市場経済の展開（1）
第18回目　近代への移行：明清期における市場経済の展開（2）
第19回目　二重革命の時代：イギリス産業革命をめぐって（1）
第20回目　二重革命の時代：イギリス産業革命をめぐって（2）
第21回目　二重革命の時代：後発国における産業革命
第22回目　二重革命の時代：古典的世界経済の構造と動態
第23回目　二重革命の時代：ウェスターン・インパクト（1）
第24回目　二重革命の時代：ウェスターン・インパクト（2）
第25回目　二重革命の時代：アジア間貿易と労働集約型工業化
第26回目　帝国主義の時代
第27回目　パックス・アメリカーナと新興国の台頭
第28回目　今日の歴史的位置づけをめぐって

履修の注意点

授業の内容は大よそ上記のとおりであるが、変更はありうる。その他の歴史系の科目を履修することが望ましい。

準備学習の内容

特に予習は必要としないが、理解を深めるために、講義中に挙げた参考文献はどれか読んでおいて欲しい。歴史的知識の不足を自覚している者は、必要に応じて高校の教科書を参照しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

参考書として、とりあえず、馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』（晃洋書房、2020年）を挙げておく。その他の参考文献は、適宜講義中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎週、Oh-0! Meijiを利用して、講義の内容についてアンケートをとる。その中で出た意見や質問に対し、講義の理解に資すると判断されれば講義中に答えることとする。

成績評価の方法

おおよそ定期試験が8割、平常点（アンケート）が2割の配分で成績をつける予定である。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN196J

経済学総合講座(16-25組)〔M〕【2017年度以降入学者】
経済研究総合講座【2016以前入学者】

2単位

1年次

複数担当者

授業の概要・到達目標

経済学科の学生のなかには、「経済学を学ぼう」という高い理想をもって入学したものの、「経済学がわからない」、「経済学はどうやって学習するのか」という壁にぶつかるケースが多々ある。
本講座は「経済学を何から学んでいいのかわからない」「経済学を学ぶにはどういった文献を読んだらいいのか」といった学生に対して、経済学の基礎を提供することを目的としている。本講座では、経済学の基礎について理論、歴史、政策、総合の分野から専門の教員が講義を行い、経済学をやさしく解説する。履修者は各分野の専門教員から経済学の基礎を学ぶとともに、今後の経済学研究の出発点にしてもらいたい。

授業内容

授業回	日付	担　当　者	テ　　ー　　マ
1	4月13日	平口　良司	講座概要
2	4月20日	武田　巧	経済学への誘い
3	4月27日	井上　朋紀	費用分担問題を協力ゲーム理論で解く
4	5月11日	関根　篤史	経済データの統計分析
5	5月18日	大森　正之	経済と環境はどうつながっているのか？
6	5月25日	八木　尚志	マーシャルとワルラス－それぞれの系譜と視点－
7	6月1日	高橋　信勝	マルサス「人口論」を読み解く
8	6月8日	石山　幸彦	未定
9	6月15日	日向　祥子	日本経済の歴史と財閥
10	6月22日	廣松　悟	地域の経済的自立とその条件、ほか
11	6月29日	小野島　真	財政の国際比較
12	7月6日	小早川　周司	ステーブルコイン、預金トークン、お金の将来像は？
13	7月13日	大高　研道	人間らしい働き方とは何か？―協同労働の世界―（仮）
14	7月20日	鎌田　健司	人口学からみた日本の人口減少

※各時限とも、理論・歴史・政策・総合等の分野をバランスよく開講する。

履修の注意点

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o！Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。
講義動画は原則、毎週月曜日の午前9時までにOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該授業日の午前9時から各授業実施日の週の週末金曜日0時（木曜日の24時）まで視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して課題を設け、Oh-o! Meijiシステムの「出欠管理」、「レポート」、「アンケート」、「小テスト」等の機能を用いて提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。
また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設ける。

準備学習の内容

講義では、期日までに取り組むべき課題を指示するので、それらを学習したうえで、講義動画を視聴すること。

教科書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

参考書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

平常点および各授業回で課される小テストの成績を加味して総合的に評価する。※対面形式での授業は行わない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN196J

経済学総合講座(26-35組)〔M〕【2017年度以降入学者】
経済研究総合講座【2016以前入学者】

2単位

1年次

複数担当者

授業の概要・到達目標

経済学科の学生のなかには、「経済学を学ぼう」という高い理想をもって入学したものの、「経済学がわからない」、「経済学はどうやって学習するのか」という壁にぶつかるケースが多々ある。

本講座は「経済学を何から学んでいいのかわからない」「経済学を学ぶにはどういった文献を読んだらいいのか」といった学生に対して、経済学の基礎を提供することを目的としている。本講座では、経済学の基礎について理論、歴史、政策、総合の分野から専門の教員が講義を行い、経済学をやさしく解説する。履修者は各分野の専門教員から経済学の基礎を学ぶとともに、今後の経済学研究の出発点にしてもらいたい。

授業内容

授業回	日付	担　当　者	テ　　ー　　マ
1	4月13日	平口　良司	講座概要
2	4月20日	武田　巧	経済学への誘い
3	4月27日	髙橋　聡	経済学者の考える「豊かさ」とは？
4	5月11日	永原　裕一	統計学と現代ファイナンス理論
5	5月18日	小林　和司	物価に関する理論と統計
6	5月25日	奥山　誠	西欧経済学と近代日本
7	6月1日	杉本　隆司	サン＝シモンの産業組織思想
8	6月8日	赤津　正彦	経済史の多様性と可能性
9	6月15日	中島　満大	リサーチ・リテラシー入門
10	6月22日	末永　啓一郎	iPhoneの経済学
11	6月29日	田中　茉莉子	未定
12	7月6日	星野　泉	少子高齢化と財政
13	7月13日	大高　研道	人間らしい働き方とは何か？―協同労働の世界―（仮）
14	7月20日	原　ひろみ	日本の労働市場を考える

※各時限とも、理論・歴史・政策・総合等の分野をバランスよく開講する。

履修の注意点

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o！Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。

講義動画は原則、毎週月曜日の午前9時までにOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該授業日の午前9時から各授業実施日の週の週末金曜日0時（木曜日の24時）まで視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して課題を設け、Oh-o! Meijiシステムの「出欠管理」、「レポート」、「アンケート」、「小テスト」等の機能を用いて提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。

また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設ける。

準備学習の内容

講義では、期日までに取り組むべき課題を指示するので、それらを学習したうえで、講義動画を視聴すること。

教科書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

参考書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

平常点および各授業回で課される小テストの成績を加味して総合的に評価する。※対面形式での授業は行わない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN141J

経済政策【2022年度以降入学者】

2単位

2年次

専任講師　齋　藤　雅　己

授業の概要・到達目標

本講義では、我々の社会において生じる様々な経済問題を解決していく**「経済政策」とはどのようなものであるのか**、また、**その「経済政策」はどのように形成・実践されていくのか**、という問題について理解し、**現実の経済政策について自ら考えられるようになる**ことを目標としています。

具体的には、1年次に学んだマクロ経済学の基本モデルを用いて**「現実経済」**を分析するとともに、それらを**経済政策の形成**へと応用していく方法を学んでいきます。なお、受講生が講義内容をより理解しやすくなるように、毎週、とくに重要な**経済時事問題**を取り挙げ、そのときの**経済政策課題**とその**政策的対応**を検討していく予定です。

授業内容

本講義は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定です。

第1回：イントロダクション ～経済政策とは何か～
第2回：経済政策の形成とその基本概念
第3回：経済政策の目標と政策体系およびその理論構造 ～経済分析理論と政策理論～
第4回：経済運動メカニズムの分析と経済政策
第5回：経済政策の目標変数としての所得水準の決定 ～二部門経済モデル～
第6回：三部門・四部門経済モデルにおける所得水準の決定 ～経済モデルの拡張と修正～
第7回：経済活動の変化と経済政策
第8回：自律的拡大成長のメカニズムとGlobal Economyにおける経済発展
第9回：生産物市場の分析（1）～IS曲線の導出と均衡調整メカニズム～
第10回：生産物市場の分析（2）～IS曲線のシフトと政策論的応用～
第11回：貨幣市場の分析（1）～LM曲線の導出と均衡調整メカニズム～
第12回：貨幣市場の分析（2）～LM曲線のシフトと政策論的応用～
第13回：生産物市場・貨幣市場・労働市場の同時均衡 ～財政・金融政策とその効果～
第14回：講義のまとめ＆復習

※第1回の授業において、より詳細なシラバスを配布し、講義の進め方や受講時の基本的ルール、出席・試験・成績評価などの**重要事項**について説明いたします。この科目の単位取得を考えている学生は、必ず出席するようにして下さい。

履修の注意点

（基本科目）マクロ経済学、数量経済分析
※本科目は、マクロ経済学（経済モデル）を応用していく内容となっているため、マクロ経済学の単位取得が前提となっています。
※数量経済分析の単位を取得していなくても履修は可能ですが、その場合、経済学で用いられている数学的手法について自分で学習を補完する必要があります。（なお、それほど高度な数学を用いることはありません）
※毎回必ず授業に**出席**するとともに**出席コメント・課題**を提出し、**授業の予習・復習**をきちんと行えば、本科目の単位取得自体は難しくないはずです。

準備学習の内容

Oh-o! Meijiクラスウェブで提示される次回授業範囲について、事前にレジュメ・補足資料・参考書等を読んで内容を把握するように努めてください。また、授業後、授業内で十分に理解できなかった箇所については、レジュメとノート、および参考書・Webサイト等を用いて調べなおしてください。なお、欠席して授業を受けられなかった場合や授業内容を復習したい場合などの補完的措置として、**講義動画のアーカイブ**を公開予定です。

本講義は、現実の世界経済において生じている様々な問題と関連させながら進めていくため、日常的に関心を持って経済情報の収集・整理を行ってください。少なくとも、毎日、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」に目を通し、重要な出来事や政策課題について批判的に検討し、自らの考えをまとめておくことを強くお勧めします。

教科書

とくに指定しない。

参考書

『アセモグル／レイブソン／リスト　マクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】（東洋経済新報社、2019年）
『ネットニュースではわからない本当の日本経済入門』、伊藤元重【著】（東洋経済新報社、2021年）
『日本の経済政策―「失われた30年」をいかに克服するか』、小林慶一郎【著】（中央公論新社、2024年）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の冒頭に、受講生が提出した現実経済の問題についてコメントするとともに、前回授業の出席コメントで出された重要な質問に回答いたします。また、受講生の希望に応じてオンライン（Zoom）でのオフィスアワーを設けて学生からの質問に対応いたします。

成績評価の方法

期末試験（100%）の点数に**授業への参加度（特別加点による上乗せ、最大15%）**を加えて100点満点で評価します。なお、授業への参加度は、[1] 授業開始前の「現実経済の問題（WN?）」の提出、[2] 授業終了後の教室での「出席確認票」の提出＋出席コメント（講義の質問／感想）の送信、という2項目を特別加点として評価します。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN141J

経済政策（再履・初修）【2022年度以降入学者】

2単位

2年次

専任講師　宮崎　イキサン

授業の概要・到達目標

今日において、世界の多くの国ではいわゆる市場経済あるいはその変則型が主流であり、かつて存在した計画経済は限られた場所を彷徨うだけの亡霊となっている。これまでに世界各国が経験した経済成長や世界レベルでの生活水準の上昇は、その全てではないにしろ、かなりの部分が市場経済（資本主義経済）という制度によってもたらされていると言える。しかし、市場経済はバラ色の世界を作り出すものではなく、そもそも市場経済という制度上、そのようなものが約束されているわけでもない。バブル経済、金融危機、失業、格差や環境、世代間の問題など、経済成長と共に、市場経済の下で経済活動がもたらす問題も、以前にも増して顕在化している。経済政策はこのような問題に対処し、これらを是正すべく行われるが、そもそも何故上記のような問題が発生するのか、問題に対する対策の方向性は何か、その方向性に基づく政策をどのように実行していくべきか。本講義ではこれらの問いに対しての経済学の知見を学ぶことで、理解を深める。

【講義の目的】

本講義はの目的は以下の3点を通じて経済政策について学ぶことである。1点目は経済政策の前提として、市場経済においてどのような問題が存在し、またそれらが政策の対象となるのかについて理解すること。2点目は経済政策を考えるのにあたり、経済学はどのような知見を与えているのかを学ぶこと。3点目は先に触れた問題やそれに対する知見とを、現実の問題と実施された・されている政策と結びつけることである。

【講義の到達目標】

本講義は講義中に触れた議論や学術的知見を基に、学生が日頃目にする経済に関連する問題について、**経済学的な視点から、政策についての議論ができるようになる**ことを目標としている。講義内容と実世界の問題に結び付きを見出し、机上の空論に終わらない形で、経済政策をつかむことが理想である。

授業内容

第1回目　イントロダクション（講義ガイダンス）
第2回目　そもそも「経済」とは、具体的に何を指しているのか？－GDPについて
第3回目　何故大抵の国がデジタル化や持続可能性などを後押しするのか？－総需要と総供給
第4回目　「外資系企業はリモートワークが当たり前」は本当なのか？－労働市場と働き方
第5回目　「仮想通貨はお金なのか」と聞かれたら、何と答えれば良いのか？－通貨の概念と金利
第6回目　値上がりはしない方が良い気がするが、何故インフレ目標なるものが存在するのか？－インフレとデフレ
第7回目　「異次元緩和」は、何故異次元まで緩和するはめになったのか？－金融政策とその変遷
第8回目　何故「日本　財政」と検索すると、「破綻」と検索エンジンがサジェストするのか？－財政、税制と債務問題
第9回目　急激な円安が記憶に新しいが、円安は国力の低下なのか？－為替相場制度と為替レートの決定理論
第10回目　貿易収支はやはり「黒字」が良いのか？－国際貿易と国際収支
第11回目　通貨危機、金融危機、経済危機、何が違っていて、どうすれば良いのか？－危機の経済学
第12回目　所得格差は是正されるべきと言うが、格差の存在しない世界が望ましいのか？－個人、地域間の再配分
第13回目　財政出動？金融緩和？イノベーション？経済成長に必要なものは何か？－経済成長の理論
第14回目　講義のまとめおよび期末評価について

履修の注意点

授業はスライド資料を中心に進め、必要に応じて板書をすることもある。授業に用いられるスライドおよび関連資料は事前にOh-o! Meijiクラスウェブにアップロードする予定である。

準備学習の内容

授業内容をより良く理解するため、授業前に資料や参考書などに目を通し、授業後には復習を行うことが望ましい。

本講義はあくまで「経済政策」であり、かつ半期集中ではないため、講義の設定あるいは特性上、テーマによっては総論あるいは導入的な内容になってしまうことが考えられる。履修学生には是非基本となるミクロ・マクロ経済学に加え、財政学や金融、経済成長論や国際経済学などの関連する講義を履修し、より詳細に学習することを勧める。

教科書

教科書は特に指定しない、適宜参考書を読むことを勧める。

参考書

伊藤元重（2021）『ネットニュースではわからない本当の日本経済入門』（東洋経済新報社）
井堀利宏（2003）『財政政策』（新世社）
岩田規久男・飯田泰之（2006）『ゼミナール　経済政策入門』（日本経済新聞出版）
内田浩史（2016）『金融』（有斐閣）
黒田晃生（2011）『入門　金融（第5版）』（東洋経済新報社）
東短リサーチ株式会社（2019）『東京マネーマーケット』（有斐閣選書）
前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清（2014）『金融論をつかむ』（有斐閣）

課題に対するフィードバックの方法

講義において課題が出された場合、課題の提出・評価・フィードバックはOh-o! meijiシステム上で行う。

具体的には課題をOh-o! meijiクラスウェブの「レポート」欄に公開し、提出もこちらで受け付ける。さらに、Oh-o! meijiクラスウェブの「レポート」欄にはコメントやフィードバック機能が付いているので、課題に対するコメントやフィードバックもその機能を利用して行う。

さらなる理解や研究のために必要であれば、オフィスアワーでの対面でのコメントやフィードバックを実施することもある。

成績評価の方法

期末評定の結果を基に、明治大学の評価・評点基準に沿って成績評価を行う。

その他

1. 学生には学ぶ権利があり、教員には教える権利がある。これを邪魔する権利は誰にも無い。
2. 授業中はマナーを守り、私語など、その他授業中に不要あるいは授業の妨げになると思われる行為は慎むこと。場合によっては減点あるいは退室・その後受講を認めないなどの措置を取ることがある。
3. 出席なくして授業内容、国際経済学に関する理解と単位認定は不可能に近い。
4. 授業中にノートパソコンあるいはタブレット端末を利用した授業ノートの作成を認めるが、ノート作成以外の用途には使用しないこと。スマートフォンは授業に必要になるものではないため、緊急時以外は使用を控えること。
5. 講義内容（講義資料、課題および試験など）をSNSを含むインターネット上に投稿・アップロード・シェアすること禁ずる。

科目ナンバー：(PE)ECN151J

財政学【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次

教授　星　野　　泉

授業の概要・到達目標

公共部門におけるモノやサービスの提供は、民間部門とかなり異なる性質をもっている。民間部門の取引では、望んでお金を出してくれた人がお客さんであり、代わりにモノやサービスを提供する。お金を出してくれない、購入を望まない人は、基本的に取引の相手ではない。一方、公共部門は外国人を含む多様な住民、企業、すべてが取引相手であり、望むと望まざるとにかかわらず、関係性をもつ。社会保障もこの分野に属し、民間の保険会社と大きく異なるものである。公共部門とできれば関わりたくない、と思っても、税は強制的に徴収され、対価が払った本人に戻るものでもない無償という性格をもち、恩恵は社会として受け取るしくみとなる。納税、社会保険料の負担を通じて、住民や企業は負担を行い、社会全体がサービスや給付を受けることになる。

税負担が大きい、したがって可処分所得が小さいとなれば大きな政府、福祉国家の方向であり、負担が小さい、結果として可処分所得が大きいとなれば小さな政府、自己責任国家の方向となる。ただ、税負担や可処分所得の大きさは、かなり感覚的なものである。いいものを着たい食べたい、推しに金を使いたい、大型遊園地に行きたいということで税負担感を感じるケースから、生活がいっぱいいっぱいだ、ということで負担感を感じるケースでは全く異なるものとなる。また、ここで指摘した、いいものという程度、いっぱいいっぱいという程度、どのあたりなのか。あいまいな感覚的概念の税負担感やサービスからの疎外感について、国際比較、歴史分析などデータをみることで、議論する分野。公共部門の経済活動を議論するのが財政学である。

増税は不幸なのか、減税は、幸福なのか。小さな政府は可処分所得は大きくなっても、公共料金は高くなり、様々な危機には頼りない政府となる。財政とは、要は保険制度であり、十分に積んでいなければいざという時、頼りにならない。税の議論は、とかく政府と住民のお金の取り合いに見えるが、実際、政府は仲介機関にすぎず、負担は住民、企業であり、その中でどういった人々にどの程度の負担を求めるのかということである。仲介機関たる政府がけしからん、と思う場合は、選挙によって意思を示すことになる。

授業内容

第1回　bのみ 講義の概要
第2回　国際的にみた日本の少子化、高齢化、経済、財政問題
第3回　財政とは何か
第4回　公共部門とは
第5回　公共部門は必要か
第6回　国民経済と財政
第7回　日本の財政、予算、歳出
第8回　財政理論
第9回　日本の税は高いのか
第10回　日本の所得税
第11回　日本の法人税
第12回　日本の消費税
第13回　税の国際比較
第14回　まとめ

履修の注意点

日常的に新聞を読むこと。

準備学習の内容

テキストを予習、復習。

教科書

『財政のかたちは国のかたち』朝陽会、2022年。

参考書

『スウェーデン高い税金と豊かな生活』イマジン出版、2008年。

課題に対するフィードバックの方法

対面、コメントカードなどで行う。

成績評価の方法

出席30%、小試験30%、期末試験40%。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN151J

財政学【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次

兼任講師　原　田　悠　希

授業の概要・到達目標

本講義では、財政学の基本的な考え方について理論的に学修するとともに、日本の財政について具体的な事例を参照しながら学修をします。現在、日本の財政は、少子高齢化が急速に進展する中において毎年社会保障支出が増加し続けるなど、課題山積の状態となっています。本講義では、なぜこのような財政問題が発生しているのかを理解し、あるべき財政の姿とは何か考えていきます。財政学の学びを糸口として現代社会の諸課題について理解を深めるとともに、現実社会における様々な財政現象について、財政学の視点を用いて論理的に考察することができるようになることが本講義の到達目標です。

なお、担当講師は、厚生労働省・総務省に2011年から計12年間勤務した実務経験を有します。国家公務員として政策の企画立案業務を担当した経験も踏まえた講義を行います。また、講義内容に関連する直近のニュースについて、財政学の視点から適宜解説を加えることも行います。

授業内容

第1回目　イントロダクション～財政とは何か～
第2回目　予算と財政民主主義
第3回目　税制（1）　直接税
第4回目　税制（2）　間接税
第5回目　財政赤字
第6回目　地方自治と地方財政
第7回目　財政調整制度
第8回目　自治体経営
第9回目　社会資本と公共投資、財政投融資
第10回目　社会保障財政（1）　年金
第11回目　社会保障財政（2）　医療
第12回目　社会保障財政（3）　介護・子育て
第13回目　社会保障財政（4）　生活保護
第14回目　まとめ

履修の注意点

関連科目には「地方財政論」、「財政政策」、「自治体経営論」があり、併せて履修することが望まれます。なお、授業計画は理解度等により順番を変更する可能性があります。

準備学習の内容

日頃からニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにしてください。また、講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要があります。（各回講義につき、予習・復習それぞれ100分程度）

教科書

『日本の財政』小西砂千夫・吉弘憲介・古市将人編（有斐閣）2026年

参考書

『Why not?!　財政学』江成穣・倉地真太郎・佐藤一光・藤原遥（有斐閣）2025年、『財政学の扉をひらく』高端正幸・佐藤滋（有斐閣）2020年、『財政学（第3版）』神野直彦（有斐閣）2021年、『[新版]財政学入門』佐藤進・関口浩（同文舘出版）2019年

課題に対するフィードバックの方法

各回の講義時に、前回講義コメントカードへのフィードバックを行います。最終試験については、学期末に講評を行います。

成績評価の方法

授業後のコメントカード（40%）、最終試験（60%）によります。

その他

質問・相談等がありましたら、講義の前後に随時受け付けるので、可能な限り直接話し掛けてください。なお、連絡可能なE-mail アドレスは、講義の中でお伝えします。

科目ナンバー：(PE)ECN151J

財政学（再履・初修）【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次

教授　小野島　真

授業の概要・到達目標

本講義では、財政学の基本的な考えを、理論と実際の両面から学習する。現在、少子高齢化がますます進展している日本は、未曽有の政府債務を抱えており、将来の公共サービスの持続可能性に対して多くの人々が不安を抱えている。さらに、戦後日本が築いてきたさまざまな制度は、時代を経て多くの歪みが生じてきている。中間層の減少と格差の拡大、未知の感染症などを含めたの緊急事態への対応、安全保障環境の変化、環境問題等を含めたグローバルな課題への対応など、財政面での課題も山積みとなっている。危機の時代において、あるべき財政の姿はどのようなものだろうか。なぜ、このような財政問題が発生しているのか。財政学の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深める。

授業内容

本講義は、財政と市場の関係性、日本と諸外国が直面する財政問題を学び、財政、ひいては政府の意義と課題を理解することで、身近な社会問題を財政学的視点で考える。講義は概ね以下の授業計画で実施する。
授業内容
第1回目　aのみ：イントロダクション
(危機の時代の財政)
第2回目　財政の機能と役割
第3回目　日本の税制の特徴と国際比較
第4回目　消費税
第5回目　所得税
第6回目　法人税
第7回目　グローバル化と税制
第8回目　財政赤字の歴史とその理論
第9回目　公債管理政策と公債負担論
第10回目　公共財とその理論
第11回目　財政投融資改革
第12回目　独立行政法人・公営企業と公共サービス
第13回目　地方財政の理論と課題
第14回目　環境問題・社会保障と財政

履修の注意点

関連科目には「地方財政論」、「財政政策」、「自治体経営論」があり、併せて履修することが望ましい。なお、授業計画は理解度等により順番を変更する可能性がある。

準備学習の内容

日頃からニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある

教科書

指定しない。随時、資料を配布する。

参考書

『現代財政論』星野泉・小野島真編著（税務経理協会）2007年、『財政学（改訂版）』神野直彦（有斐閣）2007年、『グローカル財政論』兼村高文ら（税務経理協会）2012年など。そのほか、授業中に参考文献を指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーやその他の課題については、次回授業時に説明を加える。

成績評価の方法

リアクションペーパー等（40%）、定期試験（60%）を予定している。受講者数により変更する場合があるが、その際には改めて指示する。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN141J

現代経済事情【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次

兼任講師　吉　野　　薫

授業の概要・到達目標

本講義では、受講者が経済データの取り扱いに関する基礎的な知識を獲得し、経済データと経済理論との関連性について理解するよう促す。これをもって、3年次以降の学習に向けて、受講者自らが経済データを用いて日本経済や世界経済について考察し、説明できるようになることを目標とする。

授業内容

（1） 導入：経済を理解することの意義
（2）景気
（3）国民経済計算
（4）国民所得とその国際比較
（5）家計と企業
（6）政府の役割と財政
（7）都市・土地利用・住宅
（8）物価
（9）金融政策
(10) 為替レート
(11) 国際収支と貿易
(12) 資金循環
(13) ファイナンスと投資マネージ
(14) まとめ・解説

履修の注意点

ミクロ経済学・マクロ経済学に関する基礎知識は履修済みであることを想定して講義を進める。

準備学習の内容

日々の経済ニュースに関心を持ちながら受講されたい。

教科書

指定しない。

参考書

吉野薫「これだけは知っておきたい『経済』の基本と常識［改訂新版］」、フォレスト出版、2021年
その他の参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

学期中に課すレポート課題に対する総評・解説によるフィードバック。

成績評価の方法

学期中に課すレポート（50%）と期末テスト（50%）から評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN141J

現代経済事情【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次

兼任講師　木野内　栄　治

授業の概要・到達目標

ビジネスを把握する尺度、主要業界の動向、株式市場の基礎知識、企業情報の読み方、最新経済事情を講義する。これらを用い、就活の志望動機を考えるつもりで、自分が活躍できそうな有望業種を選び、その理由を文章に起こし発表を行うことが特色。
あまたある産業・企業等の特徴を把握する尺度や、将来社会に出る際に必要な視点を身に着ける事が目標。

授業内容

第1回目：イントロダクション
第2回目：ストックビジネスとフロービジネス
第3回目：経済の5大要素
第4回目：主要業界の動向1 金融とヒト
第5回目：主要業界の動向2 貿易とモノ
第6回目：主要業界の動向3 技術と情報と賃金
第7回目：株式市場の基礎1 インフレと株価
第8回目：株式市場の基礎2 景気循環と株価
第9回目：株式市場の基礎3 需要供給曲線と板
第10回目：企業情報の読み方1 財務データ
第11回目：企業情報の読み方2 デユポン分解
第12回目：就活志望動機のつもりで業界選別1
第13回目：就活志望動機のつもりで業界選別2
第14回目：まとめ

履修の注意点

毎回の授業を理解することに集中して欲しい。授業の1・12・13回目は特に重要なので、体調管理に努め可能な限り出席されたい。

準備学習の内容

日々の経済ニュースに関心を持ち、授業が進むにつれ、身近な産業・企業等を評価して欲しい。さらに、自分自身が活躍できそうな有望業種を選ぶことを意識されたい。

教科書

なし

参考書

『会社四季報 業界地図 』東洋経済新報社、(東洋経済新報社)。その他、授業中に紹介することがある。

課題に対するフィードバックの方法

12、13回目で、各自が将来有望で自分が活躍できると判断した業界を選び、その理由を文章にまとめる（スマホ利用OK)。希望者等が発表を行いその場で講師が寸評を行うとともに、各自は自身の文章と見比べて欲しい。

成績評価の方法

選択肢群から選ぶ穴埋め方式の期末テスト。12、13回目の授業での発表など、授業への積極的な参加は加点。

その他

講師は実務家、証券アナリスト。

科目ナンバー：(PE)ECN141J

現代経済事情（再履・初修）【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次

兼任講師　藤　原　　徹

授業の概要・到達目標

本講義は、日本経済の現状や抱える諸問題について把握し、その対策を経済学的に考える力を涵養することを目的とする。
統計データを基に日本経済の現状を把握すること、ミクロ経済学・マクロ経済学の分析手法を経済問題に応用する方法を習得することが本講義の到達目標である。

授業内容

以下を予定している。講義の進捗状況によって、若干の変更はあり得る。また、学修効果を考えて、順序の入れ替えもあり得る。
第1回　イントロダクション
第2回　日本経済の全体像を把握する
第3回　マクロの政策分析の基礎
第4回　ミクロの政策分析の基礎
第5回　戦後日本の経済成長
第6回　景気循環
第7回　雇用の変動と日本型雇用慣行
第8回　格差問題
第9回　産業構造の変化と日本型企業経営
第10回　物価変動とデフレ問題
第11回　人口構造の変化と日本経済
第12回　経済活動の都市への集中の要因
第13回　日本経済と地域の振興
第14回　まとめ

履修の注意点

必要なミクロ経済学・マクロ経済学については講義中に復習する予定であるが、それでも不足すると感じる場合には、基本的なミクロ経済学・マクロ経済学のテキストを自習されたい。

準備学習の内容

(予習）教科書、講義資料の次回講義内容に相当する部分を一読すること。
(復習）教科書、講義ノート等を精読し、演習を行った際には再度復習すること。また、適宜参考文献や統計資料にあたり、理解を深めること。

教科書

小峰隆夫、村田啓子　最新｜日本経済入門　第7版　日本評論社

参考書

講義資料にて適宜提示する。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に行う演習については次回講義で解説する。

成績評価の方法

講義時間内の演習（20%)、期末試験（80%）

その他

科目ナンバー：(PE)ECN211J

経済原論

4単位

1年次

専任講師　高　橋　　聡

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
経済原論（Principles of Political Economy）は、資本主義経済の原理(Principles＝メカニズム・法則性)の理解を目的とする。具体的には、資本主義経済のメカニズムを次の二点から解明する。
1.人間・社会・自然のトータルなあり方としての資本主義経済の再生産のしくみ
2.資本主義経済の歴史的展開をふまえた景気変動と長期的な動態

講義はマルクスが全体の2/3、非主流派経済学1/3程度となる予定であり、内容は経済学(マクロ経済学に比較的近い)に限定する。経済学は、学派によって資本主義経済の見方（ヴィジョン）と分析手法が異なる。現在の大学では、ミクロ経済学（＝新古典派経済学）の方法にしたがってミクロだけでなくマクロ経済学も講義されている。これに対して本講義では、マルクスと非主流派経済学（ケインズ学派、制度学派など)の理論に即して経済現象を解明する。市場/資本主義経済に対する複数の理論的アプローチ手法を理解して、多角的な見方を身に着けてほしい。なおマルクスのコミュニズム(アソシエーション)などの思想には一切言及しないので、思想・歴史系科目で補ってほしい。

(2)　到達目標
到達目標は、第1に資本主義経済のしくみとその運動メカニズムの理解にあり、第2にこれをふまえて歴史の方向を読む力を身につけることである。履修者は、自分が社会人としてこれからどのような社会の中を生きていくのか、どのような社会が望ましいのかを考えながら受講してほしい。そこで、以下のような諸問題を理論に即して読み解く。
1.労働－長時間労働やパワハラ
2.雇用・失業・貧困－技術進歩と失業
3.社会の持続可能性－ワーク・ライフ・バランスとケア(家事・育児・介護など)

授業内容

第1回目　経済原論で何を学ぶことができるか？ミクロ・マクロ経済学と経済原論のちがい
第2回目　資本主義経済と市場経済のちがい。資本主義経済の歴史的発展区分
第3回目　市場の基本構造とその特質　商品と貨幣
第4回目　市場の基本構造とその特質　貨幣の諸機能
第5回目　近代的企業システムと産業資本　資本とは何か
第6回目　近代的企業システムと産業資本　資本の再生産
第7回目　近代的企業システムと産業資本　資本内部の人的組織
第8回目　近代的企業システムと産業資本　資本の所有
第9回目　剰余価値の理論　剰余価値とは何か
第10回目　剰余価値の理論　絶対的剰余価値
第11回目　剰余価値の理論　相対的剰余価値
第12回目　剰余価値の理論　特別剰余価値
第13回目　再生産と産業連関　単純再生産表式
第14回目　再生産と産業連関　拡大再生産表式
第15回目　再生産と産業連関　貨幣還流法則
第16回目　a.前半のまとめ。b.理解度の確認
第17回目　諸資本間の競争と利潤　利潤率の規制要因と資本の行動
第18回目　諸資本間の競争と利潤　資本過剰と景気循環のメカニズム
第19回目　諸資本間の競争と利潤　部門間競争と平均利潤、生産価格
第16回目　資本主義経済と失業　相対的過剰人口の理論
第17回目　資本主義経済と失業　マルクスの雇用理論と景気循環
第18回目　資本主義経済と失業　ケインズとカレツキの雇用理論
第19回目　資本主義経済と消費　マルクスの消費概念
第20回目　資本主義経済と消費　制度学派とレギュラシオン学派
第21回目　資本主義経済と消費　制度学派(ミュルダール)の消費の社会化論
第22回目　商業資本と銀行資本、信用制度　商業資本と銀行資本
第23回目　商業資本と銀行資本、信用制度　信用の機能と景気循環
第24回目　商業資本と銀行資本、信用制度　流動性選好説（ケインズ）と貨幣数量説（フリードマン）
第25回目　恐慌・景気循環論　歴史上の資本主義の確立と景気循環
第26回目　恐慌・景気循環論　独占資本主義段階における景気循環の変容
第27回目　現代資本主義論　高度経済成長の時代
第28回目　現代資本主義論　ブレトンウッズ体制の崩壊から金融グローバリゼーションへ

履修の注意点

1.履修者は、欠席に伴うリスクを引き受けたものとみなす。欠席への対応は、事務室経由で連絡のあった者だけを対象とする。教育実習、特別試験、障がい学生支援制度対象者には対応する。病欠、体育会活動、就活には対応しない。これは成績評価の公平性、学生と教員間の無用のトラブルを避けるための措置である。年間数百人が履修する講義で、個々の事情を把握しかつ全員にノー・エラーの対応をするのは多大な時間コストと精神的ストレスのかかる仕事である。
2.円滑な講義進行に協力することが履修の条件。私語など講義妨害者がいればその都度講義を停めて、静粛になるのを待つ。講義とは教員と学生が共同で創造するものなので、質問やコメントなどを通じた授業参加と良好な受講環境づくりに協力してほしい。

準備学習の内容

予習：次回範囲の教科書・プリントを読み、疑問点をあげておくこと。
復習：疑問点を解決することができたかどうかを確認し、授業で指示された箇所をまとめ、問題を解くこと。
貧困、格差、労働、環境などの問題をめぐって社会を少しでもよくしたいと思うなら、必修のミクロ・マクロと選択必修の経済政策系の科目をまずしっかりと学ぶこと。政治・地行・政策学科生であれば必修の政治・行政科目を学ぶこと。現代の政策立案や制度設計の指針をマルクスから直接引き出すことはできないはずである。

教科書

『現代資本主義の経済理論』飯田和人・髙橋聡・高橋輝好（日本経済評論社)、2016年。

参考書

使用しない。ただし授業で配布する資料に登場する参考文献に目を通すことが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

講義において解説を行う。

成績評価の方法

中間試験(または課題）40%、期末試験60%

その他

資本主義経済の同一の現象（たとえば失業）をとりあげてみても、ミクロ、マクロ(ケインズ派)、原論(マルクス)の分析の間には、学派ごとに異なる(時として正反対の)ヴィジョン、分析、政策が存在する。そしていずれの分析手法にも独自の切れ味と弱点がある。できれば複数の学派を介して思考することで、受講者も自らの価値観を相対化してみることをすすめる。『資本論』の副題は、 Critique of Political Economy（経済学批判）である。critiqueとは罵倒や非難ではない。相手の言うことを鵜呑みにせず適度な距離間を保って再吟味するという意味である。複数の学派を学ぶことはクリティカル・シンキングのよい練習になるだろう。

科目ナンバー：(PE)ECN231J

統計学	4単位
	1年次

教授　永　原　裕　一

授業の概要・到達目標

社会科学における分析の基礎として、統計学の考え方及び分析手法を学ぶ。自らデータ分析を実行していくにあたっての理論的な背景を理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回：(aのみ：イントロダクション）統計学とは何か
第2回：統計学の歴史1
第3回：統計学の歴史2
第4回：度数分布表による計算
第5回：ヒストグラム
第6回：中心の特性値の導入
第7回：中心の特性値の計算
第8回：ばらつきの特性値の導入
第9回：ばらつきの特性値の計算
第10回：散布図の見方
第11回：相関係数の導入
第12回：相関係数の計算
第13回：回帰分析の導入
第14回：回帰分析の計算
第15回：回帰分析の応用
第16回：場合の数の復習
第17回：確率の基礎
第18回：確率の応用
第19回：確率変数
第20回：確率分布の基礎
第21回：二項分布
第22回：正規分布
第23回：母集団と推定
第24回：中心極限定理
第25回：推定量の基礎と応用
第26回：点推定と区間推定
第27回：検定
第28回：まとめ

履修の注意点

授業中に演習をするので、電卓を持参のこと。
関連科目：社会科学方法論、数量経済分析、経済統計学、応用数量分析

準備学習の内容

記述統計学や確率論などは、高校の範囲について復習しておくこと。

教科書

教科書：特に指定しない。

参考書

東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』、東大出版会
森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司『統計学』、増補版、有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

授業中に演習問題をやるが、その場で解答を示す。

成績評価の方法

期末試験　100％

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN231J

統計学

4単位

1年次

准教授　関　根　篤　史

授業の概要・到達目標

【講義概要】統計学の基礎理論について講義を行う。具体的には、記述統計、確率、分布、推定、仮説検定、回帰分析、二項分布である。この講義では、これらの理論を基礎として、Excelを用いたデータ分析について解説する。
【到達目標】統計学の基礎理論について理解を深めることを目標とする。この講義では、統計学の基礎となる推定や仮説検定、回帰分析を学ぶだけでなく、Excelを使ってどのようにデータ分析を行うのか、また出力された結果に対してどのように解釈するのかについて理解を深めることが期待される。

授業内容

第1回目　イントロダクション（統計学とは）
第2回目　『統計学基礎講義』第2章　データを記述する図
第3回目　『統計学基礎講義』第3章　度数分布表から計算する数値的尺度
第4回目　『統計学基礎講義』第4章　確率
第5回目　『統計学基礎講義』第5章　確率変数と確率分布
第6回目　『統計学基礎講義』第5章　確率変数と確率分布
第7回目　『統計学基礎講義』第6章　確率変数の関数と標準化
第8回目　『統計学基礎講義』第6章　確率変数の関数と標準化
第9回目　『統計学基礎講義』第7章　正規分布
第10回目　『統計学基礎講義』第7章　正規分布
第11回目　『統計学基礎講義』第8章　中心極限定理
第12回目　『統計学基礎講義』第8章　中心極限定理
第13回目　『統計学基礎講義』第9章　信頼区間の推定
第14回目　『統計学基礎講義』第9章　信頼区間の推定
第15回目　『統計学基礎講義』第10章　仮説検定
第16回目　『統計学基礎講義』第10章　仮説検定
第17回目　『統計学基礎講義』第17章　二項分布
第18回目　『統計学基礎講義』第18章　二項分布の推定と検定
第19回目　『統計学基礎講義』第11章　相関分析
第20回目　『統計学基礎講義』第12章　回帰分析の基礎
第21回目　『統計学基礎講義』第12章　回帰分析の基礎
第22回目　『統計学基礎講義』第13章　回帰式の説明力
第23回目　『統計学基礎講義』第13章　回帰式の説明力
第24回目　『統計学基礎講義』第14章　回帰分析と仮説検定
第25回目　『統計学基礎講義』第14章　回帰分析と仮説検定
第26回目　『統計学基礎講義』第15章　様々な平均
第27回目　『統計学基礎講義』第16章　所得不平等度の分析
第28回目　第27回までの総復習

履修の注意点

授業内でExcelの実習を行うので、出来る限りノートPCを持参することが望ましい。

準備学習の内容

事前に該当の章を読んで来ることが望ましい。また授業後には、実習で学習した内容をもう一度自分で復習すること。

教科書

秋山裕（2022）『統計学基礎講義 第3版』慶應義塾大学出版会。

参考書

森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司（2015）『統計学 改訂版』有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で問題演習を行い、受講者にはOh-o! Meijiのアンケート機能を使って解答を提出してもらう予定である。そしてその問題演習の解説を次の授業で行う。

成績評価の方法

期末試験(80%)、授業への参加度(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN211J

数量経済分析	2単位
	1年次

専任講師　齋　藤　雅　己

授業の概要・到達目標

(授業の概要)　経済学においては、多くの分野で数学的な手法や思考法を用いた理論展開がなされているため、数学的素養がなければ講義内容を十分に理解することはできないという現状がある。しかし、「数学的手法を用いているから経済学はむずかしい」というのは誤った先入観であり、実際には、**「数学的手法を用いることで経済学はやさしくなる」**と言える。なぜならば、数学は、複雑に絡み合った現実の経済現象を論理的かつ明快に整理し、分析する強力なツールとなってくれるからである。本講義では、このような**「経済学における分析ツール」**としての**基本的な数学手法**を学ぶとともに、そうした数学的手法が**経済学へどのように応用されているのか**を学んでいく。
(到達目標)　本講義を通じて、受講生が学部レベルの経済学の学習に必要な数学的知識を身につけるとともに、専門科目における講義に対応できるだけの数学的基礎能力を養成することを目的としている。

授業内容

本講義は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定である。
第１回：イントロダクション ～ 経済学における数学的アプローチ ～
第２回：高校数学の復習
第３回：経済学におけるグラフ・方程式の応用
第４回：数列とその応用
第５回：指数関数と対数関数
第６回：微分法の基礎（１）
第７回：微分法の基礎（２）
第８回：微分の経済学的応用
第９回：微分法の展開と応用
第10回：積分法の基礎
第11回：積分の経済学的応用
第12回：線形代数の基礎（１）
第13回：線形代数の基礎（２）
第14回：経済学における線形代数の応用
※第１回の授業において、より詳細なシラバスを配布し、講義の進め方や受講時の基本的ルール、出席・試験・成績評価などの**重要事項**について説明いたします。この科目の単位取得を考えている学生は、必ず出席するようにして下さい。

履修の注意点

数学を苦手に感じている人は、これまで数学を学ぶ過程のどこかで分からなくなってしまい、道に迷ってしまっただけですので、この講義を通じて基礎から積み重ねていくことで必ず理解することができるようになります。ただし、**数学的な手法**は、説明を何度も聞いたとしても、実際に自分で問題を解いてみないかぎり身に付くものではありません。その意味では、この科目は**「実技科目」**であると言えます。そのため、受け身で講義を受けるのではなく、受講生の**主体的かつ継続的な努力**が望まれます。
具体的には、受講生が数学的手法に対する理解を深め、それらを十分に身につけるために、毎回、**演習問題**や**復習・応用課題**を配布し、**自ら問題を解く**という課題を行ってもらいます。
なお、受講生は高校１年生程度の数学知識があれば十分であり、本講義は、数学に苦手意識を持っている人や昔習った数学を忘れてしまった人も含めて、基礎から学んでいく講座となっています。

準備学習の内容

(予習・復習)　毎回の授業終了後にOh-o! Meijiで提示される次回授業範囲について、事前にレジュメの内容を確認し、参考書を読むなどして講義内容の把握に努めること。また、授業後は、授業で十分に理解できなかった箇所について、レジュメとノート、および参考書を用いて調べなおすこと。なお、欠席して授業を受けられなかった場合や授業内容を復習したい場合などの補完的措置として過去の講義動画アーカイブを公開予定。
(復習・応用課題)　毎週、講義内容に関連した復習・応用課題を配布するので、次の授業までに各自で問題を解いて自己採点したものを提出すること（答えだけではなく、答えの導出過程も含めて記述する）。
(現実経済の情報収集)　本講義は、現実の世界経済において生じている様々な問題と関連させながら進めていくため、日常的に関心を持って経済情報の収集・整理を行ってください。少なくとも、毎日、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」に目を通し、重要な出来事や経済問題についての知識を積み上げていく必要があります。そうすることで、経済学に対する理解が深まるとともに、、経済学を学ぶことが楽しくなるはずです。

教科書

とくに指定しない。

参考書

『経済学で出る数学　高校数学からきちんと攻める（改訂版）』、尾山大輔・安田洋祐編著（日本評論社、2013年）
※このテキストは、授業の予習・復習等、自宅での学習に用いる「サブテキスト」となります。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の冒頭に、前回授業で出された重要な質問に回答するほか、受講生からの希望に応じてオンライン（Zoom）でのオフィスアワーを設けて学生からの質問に対応します。

成績評価の方法

期末試験の点数（100%）に**授業への参加度（特別加点による上乗せ、最大15%）**を加えて、100点満点で評価する。なお、授業への参加度は、[1] 毎回の復習・応用課題の提出（10%分）、[2] 教室で配布する「出席確認票」の提出および出席コメント送信（５%分）、という２項目を特別加点として評価する。

その他

(基本科目）マクロ経済学、ミクロ経済学
※上記科目の単位を取得していなくても履修は可能ですが、その場合、経済学の様々な概念を理解するのに時間がかかることが考えられます。自らの数学的力量を勘案するとともに、ミクロ経済学・マクロ経済学を本講座と同時並行で学んでいくことが可能かどうか、事前に十分検討してください。
(関連科目）線形代数学、解析学、基礎数学、数学概論

科目ナンバー：(PE)ECN211J

数量経済分析	2単位
	1年次

教授　八　木　尚　志

授業の概要・到達目標

経済分析に必要となる数学的知識を取り上げて講義を行います。高校で身に付けた数学の学力は履修者によってさまざまであるかもしれませんが、この講義では、数学の知識とともに、毎回の講義においてどのような数学の理解がどのような経済分析に関連しているか応用されるかという点に配慮して講義を進める予定です。

授業内容

第１回　経済数量のとらえ方１：GDP統計、産業連関表、様々な集計量、比率
第２回　経済数量のとらえ方２：実質値と名目値、相対価格、名目為替レート・実質為替レート、名目利子率・実質利子率、経済指数（ラスパイレス指数・パーシェ指数）
第３回　経済数量のとらえ方３：変化率、経済成長率、寄与度、複利計算、ネイピア数、弾力性
第４回　関数とグラフ、方程式、連立方程式
第５回　２次関数、べき関数、弾力性
第６回　指数関数と対数関数
第７回　生産関数(コブ＝ダグラス型生産関数、CES型生産関数)
第８回　行列
第９回　経済分析と微分１
第10回　経済分析と微分２
第11回　経済分析と微分３
第12回　中間テスト
第13回　関数の展開、経済分析と積分
第14回　経済分析と積分

履修の注意点

毎回出席（小テストをかねる場合もあります）を取ります。欠席をしないようにしてください。

準備学習の内容

次回の内容についてプリントを配布します。
配付プリントを用いて準備をして下さい。

教科書

毎回プリントを配布する予定です。

参考書

授業中に案内します。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

平常点（確認を行うことがあります、20%程度）および中間試験（40%程度を考えていますが授業の進行を見て調整します）、
期末試験（40%程度を考えていますが授業の進行を見て調整します）

その他

経済学の基礎となる数学をわかりやすく講義するように努力します。現代の経済分析においては、ソフトウェアを利用して簡単に計算ができるようになってきていますが、基礎的な概念を理解したり、自分で計算してみることを心がけてください。

科目ナンバー：(PE)ECN281J

日本経済史

4単位

1年次

准教授　日　向　祥　子

授業の概要・到達目標

［授業の概要］幕末・開港から高度成長期までの日本経済・社会について、その変容過程を学ぶ。
［到達目標］日本経済・社会の在り様が変容してきた過程について、基本的な知識を習得するとともに、ごく基本的な経済学の理解に基づいて史的因果関係を吟味する力を身につける。

授業内容

第1回目　黒船襲来（講義）
第2回目　黒船襲来（小テスト＆確認）
第3回目　維新の税制改革（講義）
第4回目　維新の税制改革（小テスト＆確認）
第5回目　明治14年政変（講義）
第6回目　明治14年政変（小テスト＆確認）
第7回目　足尾鉱毒事件（講義）
第8回目　足尾鉱毒事件（小テスト＆確認）
第9回目　別子暴動事件（講義）
第10回目　別子暴動事件（小テスト＆確認）
第11回目　大正政変（講義）
第12回目　大正政変（小テスト＆確認）
第13回目　米騒動（講義）
第14回目　米騒動（小テスト＆確認）
第15回目　昭和恐慌（講義）
第16回目　昭和恐慌（小テスト＆確認）
第17回目　2.26事件（講義）
第18回目　2.26事件（小テスト＆確認）
第19回目　敗戦（講義）
第20回目　敗戦（小テスト＆確認）
第21回目　ドッジ・ライン（講義）
第22回目　ドッジ・ライン（小テスト＆確認）
第23回目　保守合同と55年体制（講義）
第24回目　保守合同と55年体制（小テスト＆確認）
第25回目　新日本製鉄の成立（講義）
第26回目　新日本製鉄の成立（小テスト＆確認）
第27回目　ドル・ショックと石油危機（講義）
第28回目　ドル・ショックと石油危機（小テスト＆確認）

履修の注意点

・講義資料はOh-o! Meijiシステムを通じて配信するので、各自印刷のうえ講義に臨むこと。
・期末試験は持ち込み不可。また、出題形式などの事前情報提供は行わない。

準備学習の内容

講義資料には、各回末尾に「理解の確認」として論述形式の問いをつけるので、その問いに解答できるよう復習を行うとよい。
なお、各講義の受講前に「理解の確認」に目を通しておくと、講義を通して理解すべきポイントが予め把握でき、効率的と思われる。

教科書

・『(新版) 日本経済の事件簿』武田晴人（日本経済評論社）2009年

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび確認課題については講義中に解説を行う。

成績評価の方法

小テスト（50%）、期末試験（50%）

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN221J

経済思想

4単位

1年次

准教授　奥　山　　誠

授業の概要・到達目標

経済思想は、それが生まれてきた時代の社会的背景あるいは制度的環境と切り離すことはできない。なぜなら、経済思想とは、そのときどきの経済社会が抱える問題に答えようとする経済学者たちの真摯な努力のうえに築かれるものだからである。

本講義では、近代初期のヨーロッパを舞台として生まれた経済思想がどのような時代的特殊性と時代を超えた普遍性を有していたのかについて検討を行う。考察の範囲としては、経済学の黎明である重商主義、重農主義からアダム・スミスを嚆矢とする古典派経済学を経て、その批判的継承としてのマルクス、歴史学派経済学、アメリカ制度学派までを予定している。

主要な経済思想について一通りの理解を得ること、また現代を代表する経済システムである「資本主義」の特徴をより具体的に掴めるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回　：イントロダクション
第2回　：中世封建社会と「資本主義」
第3回　：重商主義の時代と経済政策
第4回　：重商主義の理論1　マンとペティ
第5回　：重商主義の理論2　ヒュームとステュアート
第6回　：重農主義の時代と経済政策
第7回　：ケネーの経済思想と「経済表」
第8回　：古典学派の時代と経済政策
第9回　：アダム・スミスの生涯と著作
第10回　：『国富論』概説1　富と分業、価値・価格論
第11回　：『国富論』概説2　資本投下論と重商主義批判
第12回　：『国富論』概説3　経済と国家、政策提言
第13回　：マルサスの人口論とゴドウィン批判
第14回　：穀物法をめぐるリカードウとマルサスの論争
第15回　：地代論と「資本主義」に対する長期的展望
第16回　：ミルにおける環境経済思想の萌芽と「停止状態」
第17回　：社会主義経済学の興隆とマルクスの『資本論』
第18回　：労働価値説と人間の疎外、物象化論
第19回　：剰余価値の形成と搾取、資本蓄積論
第20回　：ドイツ産業革命と歴史学派の生誕
第21回　：ゾンバルトの「近代資本主義」論
第22回　：ヴェーバーにおける宗教と経済
第23回　：シュンペーターの企業家観と経済発展論
第24回　：歴史学派の波及とアメリカ制度学派
第25回　：ヴェブレンにおける大衆消費社会論
第26回　：世界恐慌とケインズ
第27回　：ガルブレイスの現代資本主義論
第28回　：経済思想の古典と現代をつなぐ　スミスとセン

履修の注意点

社会思想史、経済史を併せて履修すること。

準備学習の内容

授業で扱ったテーマについて参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『経済思想』　長峰章編著　（学文社）　2015年
『経済思想の源流』　金子光男編著　（八千代出版）　2008年
『経済思想』　松原隆一郎　（新世社）　2001年
『経済思想』　八木紀一郎　（日経文庫）　1993年
『経済思想』　猪木武徳　（岩波書店）　1987年

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

平常点（30%）、期末試験（70%）

その他

初回の授業には必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE)ECN221J

社会思想史

4単位

1年次

専任講師　杉　本　隆　司

授業の概要・到達目標

この授業では、社会思想史における宗教と合理化の問題を検討する。古来より西欧では、宗教は単なる個人の信仰に留まらず、教義としてはもちろん、社会制度としても政治と経済のあらゆる場面に適用されてきた。マックス・ウェーバーは、こうした宗教的世界観から近代以降の合理的世界観への転換を「脱魔術化」の過程として特徴づけた。だが近年では、西欧とイスラムの摩擦に象徴されるように再び世俗化の問題が現実の政治的課題となっている。この授業はキリスト教と異教（魔術）、文明と野生（野蛮）、プロテスタンティズムと資本主義といったテーマを中心に、社会と宗教の緊張関係を近代初頭までさかのぼり、従来の市民社会論や近代化論では周縁に置かれてきた宗教問題の系譜を社会思想の観点からとらえ直すことを目的とする。

授業内容

中世まで神学者たちは異教・異端を排除しつつ聖書の歴史を人類史として描いてきた。だが近世以降、キリスト教文明とは異質な世界観が西欧世界に流入する。その仕方はキリスト教・文明批判という直接的な形もあれば、古典古代や新大陸の称揚、ユートピア思想の形をとることもある。他方、キリスト教の側からの反論も生まれるが、それもプロテスタントとカトリックでは一枚岩ではなく、経験主義など世俗の思想からも野生や自然状態の称揚を批判する動きが現れる。授業ではこれらの流れを歴史的に整理し、国家と教会、啓蒙主義と宗教批判、観念論と唯物論（実証主義）をめぐる諸問題を思想史のなかで改めて検討する。最後にキリスト教が失墜した19世紀に再び世俗宗教による産業社会の組織化を掲げた思想潮流に社会学思想や社会主義の起源を置きなおし、現代の社会と宗教の在り方や自由主義批判の思想的起源についても併せて考える。

1）イントロダクション―授業の概要
2）西欧思想と現代―ポスト世俗化の時代
3）ユダヤ・キリスト教の歴史①―律法主義と原罪・贖罪意識
4）ユダヤ・キリスト教の歴史②―福音書の普遍主義、愛と正義
5）中世キリスト教思想の展開①―教父の異教批判と教会制度の確立
6）中世キリスト教思想の展開②―アウグスティヌスからスコラ哲学へ
7）宗教改革の史的展開①―ルターのカトリック批判と領邦教会制
8）宗教改革の史的展開②―カルヴァンの禁欲思想とベーコンのイドラ論
9）宗教改革の史的展開③―ウェーバーの脱魔術化論と資本蓄積論
10）宗教改革の史的展開④―デモノロジーの盛衰とボダンの自由意志論争
11）新大陸と野生の「発見」①―アリストテレス復興と文明化の使命論
12）新大陸と野生の「発見」②―「無主の地」論批判と高貴な野生人論
13）ユマニスムとユートピア思想①―モンテーニュの懐疑とモアの文明批判
14）ユマニスムとユートピア思想②―新プラトン主義とユマニスム思想
15）理神論と経験主義①―自然宗教論とスピノザの寛容思想
16）理神論と経験主義②―デカルトの合理論、ホッブズの自然状態批判
17）理神論と経験主義③―ロックの経験論と生得観念批判
18）啓蒙思想の史的展開①―ヴォルテールとモンテスキューの思想
19）啓蒙思想の史的展開②―啓蒙のユートピアとルソーの文明批判
20）啓蒙思想の史的展開③―進歩思想とヒュームの理神論批判
21）啓蒙思想の史的展開④―国家・宗教・言語の起源論争
22）フランス革命とロマン主義①―ネーションの創出とライシテ思想
23）フランス革命とロマン主義②―ロマン主義の啓蒙批判と反文明論
24）ドイツ観念論と社会主義①―ヘーゲルの歴史哲学と市民社会批判
25）ドイツ観念論と社会主義②―フォイエルバッハからマルクスの疎外論へ
26）フランス実証主義と社会学①―サン＝シモンとコントの社会組織思想
27）フランス実証主義と社会学②―カトリック社会主義とデュルケム社会学
28）全体の解説とまとめ

履修の注意点

Oh-olMeijiの出席管理機能を利用します。私語、スマホ厳禁。

準備学習の内容

毎回の授業の内容について、ノートに沿って理解を深めるとともに、毎回配布するレジュメで指示する参考図書のうち関心のあるものを自分でさらに読んで調べてみる。また、毎回のテーマは、下記の【参考書】欄の事典などにすべて載っている重要項目なので、事前に問題のイメージを得ておく。

教科書

なし。毎回プリントを配布。

参考書

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』マックス・ヴェーバー、大塚久雄訳（岩波文庫）、1989年（諸版あり）
『近代経済人の宗教的根源―ヴェーバー、バクスター、スミス』梅津順一（みすず書房）、1989年
『ヨーロッパ思想史―理性と信仰のダイナミズム』金子晴勇（筑摩選書）、2021年
『サン=シモンとサン=シモン主義』ピエール・ミュッソ、杉本隆司訳（文庫クセジュ）、2019年
『社会思想史事典』安藤隆穂、坂本達哉ほか編（丸善）、2019年

課題に対するフィードバックの方法

中間テストで答案にコメントをつけて返却。

成績評価の方法

授業の前半の終りに中間小テストを行う。欠席が授業回数の過半数を上回る場合、期末試験の受験資格を失う。この中間テスト（30%）と期末試験（70%）を総合して評価します（合計100%）。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)IND211J

社会科学方法論

4単位

1年次

専任講師　中　島　満　大

授業の概要・到達目標

大学に入り、概念、理論、仮説などの言葉を耳にする機会も増えたと思う。これらの言葉は、研究の方法論に関係する用語である。本講義の前半では、研究（ex. 卒業研究）を実施する際に必要となる方法論やその考え方について解説していく。後半では、アンケート調査やインタビューなどの調査法について概説し、それぞれの調査法の強みや注意すべき点を説明する。

本講義では、皆さんが、社会科学方法論に基づいて、卒業研究などの研究計画を立案できることを到達目標とする。自分で問いを立て、先行研究を整理し、何らかの方法で調査し、その調査を土台として論文を執筆していくための基礎的な力の習得を本講義では目指していく。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　リサーチ・リテラシーとは何か？
第3回目　科学という方法（1）科学と疑似科学
第4回目　科学という方法（2）帰納と演繹
第5回目　リサーチ・デザイン（1）量的調査と質的調査
第6回目　リサーチ・デザイン（2）分析単位と時間の扱い方
第7回目　因果関係
第8回目　概念化と操作化
第9回目　測定
第10回目　サンプリング
第11回目　ケーススタディ
第12回目　先行研究との接続
第13回目　調査倫理（1）
第14回目　調査倫理（2）
第15回目　実験（1）実験のロジック
第16回目　実験（2）実験室実験／サーベイ実験／フィールド実験
第17回目　サーベイ・リサーチ（1）サーベイのプロセス
第18回目　サーベイ・リサーチ（2）質問紙の作成
第19回目　参与観察（1）参与観察の考え方
第20回目　参与観察（2）参与観察を使った研究事例
第21回目　インタビュー（1）インタビューのプロセス
第22回目　インタビュー（2）インタビューを使った研究事例
第23回目　既存データ分析（1）二次分析
第24回目　既存データ析（2）内容分析と計量テキスト分析
第25回目　最終課題の説明
第26回目　混合研究法
第27回目　社会問題とは何か？
第28回目　論文／レポートを書き上げるということ

履修の注意点

課題（社会問題に関する研究計画書）では、履修者自らがテーマ設定を行うため、「何の社会問題にも関心がない」、「自分の人生には何の問題も発生していない」等といった学生は、そこで苦労することが多いです。「問題のない問題」を抱えている学生は、その点に十分注意してから履修するようにしてください。

準備学習の内容

この講義（特に後半部）では、該当する調査法を用いた研究論文や文献を読んでくることを求める。できるだけおもしろい研究にふれて、「自分もやってみたい」と思ってもらえることが理想である。

教科書

毎回、レジュメを配布する。

参考書

適宜、講義で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で提出してもらうコメントカードに対して、フィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点（40%）と研究計画書（60%）で成績を評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)POL111J	
政策学基礎〔メディア授業科目〕	2単位
	1年次
教授　**複数担当者**	

授業の概要・到達目標

本科目は、政策の概要及びプロセスを理解するとともに、社会的課題を網羅的に把握、理解することを目的とする。政策とは「社会問題の解決のための方法」であり、その基本的なプロセスは「社会的課題を発見し、その問題が生じた要因を分析し、問題解決の方法を探索・選択し、実行し、フィードバックし、改善する」となる。この科目では、まず、政策形成や政策決定に関する理論を中心に、政策実施や課題設定について、基礎的な理論を、できるだけわかりやすく紹介していく。そのうえで、政策の思想やプロセスにおいて従来指摘されてきた特徴、たとえば縦割り行政、ボトムアップ型意思決定方式などへの理解を深める。さらに、各分野に典型的な社会的課題を紹介し、「社会には解決すべきどのような課題があるか」をしっかりと把握する。

授業内容

第1回目　イントロダクション／政策学科長
第2回目　政策立案プロセス／野澤千絵教授
第3回目　政策に必要な知識とスキル／奥山雅之教授
第4回目　世界経済の正しい見方ー「常識」と「誤解」ー／藤永修一教授
第5回目　災害大国日本における危機管理政策／西村弥教授
第6回目　地域産業政策の変遷と課題／奥山雅之教授
第7回目　中小企業の経営課題と支援政策／森下正教授
第8回目　東京一極集中と地域経済の課題／飯田泰之教授
第9回目　日本の長期停滞とマクロ経済政策／齋藤雅己講師
第10回目　どうすればイノベーションが起こるか／柴田有祐講師
第11回目　政策分析のための因果関係の考え方／宮崎イキサン講師
第12回目　政策分析と評価指標／野澤千絵教授
第13回目　統計をどう政策に役立たせるか：公的統計とEBPM／加藤久和教授
第14回目　まとめ／牛山久仁彦教授

※第5回～第14回はメディア授業となる。

履修の注意点

3年次の『政策研究インターンシップ』に参加することを目指す学生は、本講座を受講し、単位修得をしておかなければならない。

準備学習の内容

次回の講義担当者について、プロフィール、著書、業績などを確認しておくこと。また、復習を兼ねて、毎回小レポートが課される。

教科書

特に指定しない。ただし、各講師より各講義時に紹介される場合がある。

参考書

特に指定しない。ただし、各講師より各講義時に紹介される場合がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

授業での発言等貢献度および講師から出された課題に対する小レポートの内容によって総合的に評価する。したがって、定期試験は実施しない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)POL191J

地域研究総合講座

4単位

2年次

教授　牛　山　久仁彦

授業の概要・到達目標

行政、企業、地域社会、3つのテーマを柱として、それぞれに関わる講義を行う。地域において政策を展開・運用する際の、地域の「実態」を十分に理解できるようになることを目的としている。

講師は、地域あるいはそれに関連する現場でご活躍する方々で、その経験をもとに、各分野の現状と問題点、課題などについてお話しいただく。自治体の政策形成、地域活性化、まちづくりなど、理論だけでは得られない貴重な体験談等も紹介する。具体的な実務経験およびその経験を活かした教育内容については授業内容に記載する。なお、初回には、専任教員によるイントロダクションの講義を行う。

また「地域研究インターンシップ」を経験したOB・OGの話を聞いて、この総合講座がもつ意義に対する理解を深める。

こうした一連の講義により、地域づくりの最先端の取り組み状況を理解できるようになるとともに、3年生時に実施される「地域研究インターンシップ」に参加する際の、「基礎体力」＝知識・見識・常識を身につけることを目的としている。

地域行政学科の必修科目であるため卒業のために必要なだけでなく、3年次の地域研究インターンシップに参加することを目指す学生は、本講座を受講し、単位修得をしておかなければならない。

授業内容

回数	日程	時限	テーマ	講師所属・役職	講師氏名	講師紹介教員
第1回	4月13日	3限	イントロダクション	地域行政学科長		
		4限	信金マンの志	城南信用金庫相談役	川本 恭治	奥山 雅之
第2回	4月20日	3限	ソーシャルインパクトとこれからのEBPM（仮）	Ankh & Partner	斉藤 隆秀	野澤 千絵
		4限				
第3回	4月27日	3限	中小企業支援機関の仕事と いま求められる支援	(一社)埼玉県商工会議所連合会広域指導員	黒澤 元国	森下 正
		4限				
第4回	5月11日	3限	地方公務員のススメ （変化と衰退の狭間で）	株式会社みらい政策研究機構代表取締役	田口 薫	森下 正
		4限				
第5回	5月18日	3限	スポーツがつなぐ地域の輪 ～市民スポーツボランティアの意味と魅力～	キタクブ(市民スポーツボランティア)	久留島 尚武	後藤 光将
		4限				
第6回	5月25日	3限	調整中			-
		4限				
第7回	6月1日	3限	ファイナンス視点での地域課題の解決	フィンテックグローバル株式会社取締役事業開発本部長	吉岡 尚子	奥山 雅之
		4限				
第8回	6月8日	3限	地域資産をブランドにする	博報堂ケトル クリエイティブディレクター/ PRディレクター	永渕　雄也	星野 泉
		4限				
第9回	6月15日	3限	10年後の未来の街づくり（仮）	株式会社船場 EAST事業本部 プロジェクトディレクター	小西 龍人	奥山 雅之
		4限				
第10回	6月22日	3限	基礎自治体における政策体系 ～政策と事務事業の関係～	川島町まち整備課主査	品川 貴洋	西村 弥
		4限				
第11回	6月29日	3限	調整中			
		4限				
第12回	7月6日	3限	日立市の産業振興に向けた施策について	日立市産業経済部 部長	鎌田 裕一郎	森下 正
		4限				
第13回	7月13日	3限	地域とインフラ	需給センター 需給センター長	細川 治秀	星野 泉
		4限				
第14回	7月20日	3限	まとめ	地域行政学科長		-
		4限				

履修の注意点

次回の講義担当者について、プロフィール、著書、業績などを確認しておくこと。また、復習を兼ねて、毎回小レポートが課される。

準備学習の内容

特に指定しない。ただし、各講師より各講義時に紹介される場合がある。

教科書

特に指定しない。ただし、各講師より各講義時に紹介される場合がある。

参考書

Oh-o! Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

課題に対するフィードバックの方法

授業での発言等貢献度および講師から出された課題に対する小レポートの内容によって総合的に評価する。したがって、定期試験は実施しない。

成績評価の方法

特になし。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW261J

民法（総則）	2単位
	2年次

兼任講師　績　　孝　史

授業の概要・到達目標

民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法（親族法・相続法）によって構成されているが、本授業では民法総則を学習する。民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。
本授業では、公務員試験（国家・地方上級）、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。

授業内容

第１回目　基礎(１)民法の意義、モデルケースの理解、信義則、権利濫用
第２回目　基礎(２)法律行為と意思表示①
第３回目　基礎(３)法律行為と意思表示②
第４回目　基礎(４)代理
第５回目　基礎(５)権利能力、行為能力
第６回目　基礎(６)無効・取消し、条件と期限・期間
第７回目　基礎(７)時効
第８回目　基礎(８)法人、物
第９回目　応用(１)総則規定と不動産物権変動
第10回目　応用(２)法律行為と意思表示
第11回目　応用(３)代理
第12回目　応用(４)時効
第13回目　応用(５)法人
第14回目　応用(６)一般条項

履修の注意点

指定教科書と民法の条文に基づいて授業をする。六法等を持参し、民法の条文が必ず見れる状態で受講すること。

準備学習の内容

指定教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。

教科書

潮見佳男『民法（全）第３版補訂版』（有斐閣）

参考書

（１）『六法』：どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣　判例六法』（有斐閣）のほうが良い。
（２）『民法判例百選Ⅰ　総則・物権[第９版]』（有斐閣）

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説する。

成績評価の方法

期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果（100％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW261J

民法（物権）	2単位
	2年次

兼任講師　績　　孝　史

授業の概要・到達目標

民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法（親族法・相続法）によって構成されているが、本授業では物権法を学習する。民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。
本授業では、公務員試験（国家・地方上級）、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。

授業内容

第１回目　物権の意義、物権法定主義、物権的請求権、物権変動
第２回目　不動産登記の意義と効力、明認方法
第３回目　動産物権変動、即時取得、177条の復習と発展
第４回目　登記を必要とする物権変動各論
第５回目　占有（権）
第６回目　所有権
第７回目　用益物権
第８回目　担保物権総論、抵当権①
第９回目　抵当権②
第10回目　抵当権③
第11回目　抵当権④
第12回目　根抵当権、留置権
第13回目　先取特権、質権、譲渡担保、所有権留保
第14回目　集合動産・集合債権譲渡担保、抵当権応用

履修の注意点

指定教科書と民法の条文に基づいて授業を行う。六法の持参等民法の条文が見れる状態で受講すること。

準備学習の内容

指定教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。

教科書

潮見佳男『民法（全）第３版補訂版』（有斐閣）

参考書

（１）『六法』：どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣　判例六法』（有斐閣）のほうが良い。
（２）『民法判例百選Ⅰ　総則・物権[第９版]』（有斐閣）

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説する。

成績評価の方法

期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果（100％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)POL291J

地方自治法	2単位
	2年次

教授　牛　山　久仁彦

授業の概要・到達目標

日本の地方自治は、90年代に進められた地方分権の推進によって、大きく前進した。それ以前にも、地方自治は憲法保障されており、戦後改革をふまえた地方自治の確立がなされていたが、戦前からの官治集権が引きつがれた面もあり、地方自治のあり方が問われていた。本講義では、日本国憲法に規定された自治権保障の基本的な原則をふまえ、憲法付属法ともいわれる地方自治法の基本的な原理と制度等について講義を行う。この講義を通じて地方自治の基本原理についての法的な理解を深め、地方自治の基本的な構造と制度についての概略についての知見を得る。

授業内容

本講義では、地方自治の基本的な原理について、地方自治法を学ぶことによって理解する。その上で、国地方の関係や地方自治に関連する諸制度の法的な根拠について学び、地方自治の意義と制度についての理解を深めていく。講義の具体的な内容と進め方は以下の通り。
第１回　講義の進め方について（地方自治法についての概略）
第２回　地方自治の法原理（地方自治の意義と根拠）
第３回　地方自治法制の歴史（戦前の地方制度）
第４回　日本国憲法と地方自治法
第５回　自治体の種類と自治体の区域（都道府県と市区町村）
第６回　自治体の合併と道州制
第７回　自治体政治と二元代表制
第８回　自治体住民とその権利と義務
第９回　自治立法権と例規
第10回　政策法務と自治体条例
第11回　自治行政権と自治体の事務
第12回　国の関与と中央-地方関係
第13回　公の施設の管理と指定管理者制度
第14回　自治財政権と自治体の財務・全体のまとめ

履修の注意点

生きた地方自治法を習得・理解するためには、自治体が直面する諸問題について、行政法、行政学、政治学をはじめ、社会学や財政学など広範な視点からの理解が不可欠である。本講座では、憲法学・行政法学など法律学的な視点を重視するが、政策法務的な思考が求められることから、地方自治の現状に関心をもち、具体的な自治体の動向について気を配ることを望む。

準備学習の内容

講義内容について事前にテキスト等で確認するとともに、地方自治法の条文や判例との関連について理解を深める。

教科書

人見剛・須藤陽子『ホーンブック地方自治法』北樹出版

参考書

磯部力・小幡純子・斎藤誠編『地方自治判例百選（第四版）』（有斐閣）
六法（「地方自治法」が収録されていれば出版社は問わない）
他は講義内で適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末の試験の結果により評価する。なお、講義への参加状況やリアクションペーパーなどの結果も評価に加算する。

その他

講義中の私語等、講義の妨げになったり、他の履修者の迷惑になる行為は厳禁とする。

科目ナンバー：(PE)POL291J

地域研究論	2単位
	2年次

教授　廣　松　　悟

授業の概要・到達目標

地域論関連の問題群に関する様々なアプローチの総体的理解と各自の研究における応用能力の向上を主な目標とする。地域と政治経済上のグローバル化に関連した各種の社会科学的的アプローチについて、モデル論的展開と実証研究事例を外国語文献を含め適宜紹介しながら、参加者が上記の目標を実現できるように努める。

授業内容

第１回：イントロダクション・地域論再考
第２回：地域システム論と世界システム論
第３回：地域経済の本質と空間問題
第４回：地域の空間的ネットワーク
第５回：地域の空間科学
第６回：地域のグローバル化とネットワーク分析（１）
第７回：地域のグローバル化とネットワーク分析（２）
第８回：地域のグローバル化と高次サービス連関（１）
第９回：地域のグローバル化と高次サービス連関（２）
第10回：経済のグローバル化と地域連関（１）
第11回：経済のグローバル化と地域連関（２）
第12回：経済のグローバル化と地域連関（３）
第13回：近代世界・地域システムとグローバル経済社会・回顧
第14回：近代世界・地域システムとグローバル経済社会・展望
第15回：総括

履修の注意点

社会科学的モデルの操作と大量の参考となる英文参考論文の読解が必要となる。単なる一方的な講義ではなく、各自の問題意識を考慮した演習的要素をもたせる、つまり課題を各回ごとにに出すので、それらに講義の事前と事後の両方を通じて積極的に取り組めることを単位取得の基本的要件とする。

準備学習の内容

上記のように毎回の終了時に次週までの課題を出すので、それについて考察を重ね具体的な回答案を提出することが求められる。参加人数が多くない場合には、参加者各人の発表・プレゼンを貸す場合もあるのでその際には相当の準備が必要となる。

教科書

特に定めない。開始時に指定する参考文献を積極的に吸収することが求められている。時には、読破した内容についての概要や批判的コメントを小レポートを課す。

参考書

同上

課題に対するフィードバックの方法

オーメイジシステムを通じて適宜行う。

成績評価の方法

各回のレポート類（30%）、期末筆記試験（60%）及び参加度（10%）の総合評価。

その他

科目ナンバー：(PE)POL291J	
地域分析法	2単位
	2年次
教授　廣　松　　悟	

授業の概要・到達目標

この授業では、空間を明示的な分析単位としたアプローチの実際について、毎回、導入的な講義に引き続いて参加者各自に演習課題に積極的に取組んでもらうことを通じて、都市や地域に関連する専門諸科目へのイントロダクションとしたい。

授業内容

1．イントロダクション
2．地域分析入門（1）
　地域統計の実際
3．地域分析入門（2）
　地域データの特質とその限界
4．地域分析入門（3）
　同演習
5．地域分析の実際（1）
　地域特化指数について
6．地域分析の実際（2）
　立地係数と地域集積
7．地域分析の実際（3）
　同演習
8．地域分析の実際（4）
　GIS ソフトの導入と使用
9．地域分析の実際（5）
　同演習
10. 地域分析の実際（6）
　多変量解析法の導入 a
11. 地域分析の実際（7）
　多変量解析法の導入 b
12. 地域分析の実際（8）
　多変量解析法の導入 c
13. 地域分析とプレゼンテーション（1）
　プレゼンテーションと地図化
14. 表地域分析とプレゼンテーション（2）
　表象としての「地図」の特質と限界（含演習）

履修の注意点

学科を問わず、生活の場としての都市や地域に関する様々なトピックについて、何らかの「具体的関心」を抱いていることをこの科目履修のための最低必要条件としたい。なお、演習の課題遂行上 PC 表計算ソフトを使用するので、基本操作については既知であることが望まれる。つまり、データ入力や計算式の利用等の基本事項については特に解説はしないということ。なお、それ以外のソフトウェア操作等については、授業中で解説する。設置PCの数に制限あり。超えた場合（30数名）には抽せんを行って定員内に参加者人数を限る。

準備学習の内容

講義内容の正確な理解と運用を図るため、講義終了時に関連する問題を提示し次週開始時に解答およびその補足を適宜行う、ので、そのための積極的な対応が求められる。

教科書

特に定めない。講義中に適宜プリント類を配布する。

参考書

特に定めないが、その都度、必要に応じて詳細な文献リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて適宜、授業内野このオーメイジを通じた質疑応答や各自のレポート・テーマについて面接等を行う。

成績評価の方法

複数の演習の成果により、それらの「総合評価」とする。各課題の「重み付け」や課題提出の手順等については、初回オリエンテーションで詳しく述べるので、単位取得希望者は必ず出席のこと。原則的に、初回出席ができない学生の受講は認められない。

その他

関連科目である「地域研究論」（同じ曜日の前の時限）の受講を勧める。

科目ナンバー：(PE)ACC211J

簿記論	4単位
	2年次

教授　梅　原　秀　継

授業の概要・到達目標

本講義は、これから会計学の学習を開始する者を対象として、特に財務会計論の入門レベルの知識修得を目指している。また本講義では、財務会計論の根幹となる会計基準を題材とするとともに、その理解に役立つように設例を用いた説明を行う。

授業内容

第１回　企業会計の基礎（１）
第２回　企業会計の基礎（２）
第３回　貸借対照表と損益計算書（１）
第４回　貸借対照表と損益計算書（２）
第５回　貸借対照表と損益計算書（３）
第６回　棚卸資産（１）
第７回　棚卸資産（２）
第８回　棚卸資産（３）
第９回　固定資産（１）
第10回　固定資産（２）
第11回　固定資産（３）
第12回　金銭債権と金銭債務（１）
第13回　金銭債権と金銭債務（２）
第14回　貸借対照表の構成
第15回　損益計算書の構成
第16回　負債会計（１）
第17回　負債会計（２）
第18回　資本会計（１）
第19回　資本会計（２）
第20回　収益会計（１）
第21回　収益会計（２）
第22回　法人税等と課税所得
第23回　有価証券
第24回　無形資産（１）
第25回　無形資産（２）
第26回　総まとめ・演習（１）
第27回　総まとめ・演習（２）
第28回　総まとめ・演習（３）

履修の注意点

会計学の理解には、初歩的な簿記（仕訳）の知識が不可欠である。授業でも簿記の仕組みは説明するが、あらゆる機会を利用して簿記の学習に努めること。

準備学習の内容

復習に際しては、授業で配布するレジュメの他、参考文献などを吟味すること。

教科書

梅原秀継（2022）『財務会計論』白桃書房。

参考書

テーマに応じて必要な参考文献は、適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における質疑のほか、Oh-o! Meijiのクラスウェブ機能も利用する。

成績評価の方法

授業への貢献度（20％）と定期試験（80％）により評価する。

その他

本講義をきっかけとして、社会で生起している多くの会計問題に目を向け、より上級レベルの学習に進まれることを期待したい。

科目ナンバー：(PE)POL191J

政策フィールドスタディーズ	2単位
	1年次

教授　野　澤　千　絵

授業の概要・到達目標

「授業の概要」
地域の実情に応じた実効性のある政策を立案するには、「EBPM（証拠に基づく政策立案）」の実践力と、「データだけでは見えない現場の文脈・ニーズ・実態・課題」を読み解く力の双方を鍛える必要がある。本講義では、都市づくり・地域活性化・地方創生にかかわる政策を対象とし、関連法制度・計画やデータ分析から導き出した仮説を、フィールドワークによって検証し、データと現場の両者から真の地域課題を明らかにし、その課題に対して論理的かつ実現可能な政策の提案を具体的に行うことを目的とする。
なお、(第３回～第６回の演習対象：明大前駅周辺のまちづくり・再整備)
「到達目標」
１）データ分析を通じて地域の現状を定量的に把握できる。
２）データから地域課題の仮説を構築し、適切なフィールドワーク手法（現地調査、インタビュー等）を設計できる。
３）客観的なデータ分析（マクロ視点）と、現地での観察・ヒアリング調査（ミクロ視点）の双方を用いて、説得力のある根拠に基づいた政策提言書を作成できる

授業内容

第１回・第２回　ガイダンス：9/23
第２回　フィールドワーク・分析方法等のレクチャー：9/23
第３回　様々な行政の計画書とともに、オープンデータ等を用い、対象地の人口・産業・土地利用の実態や課題を抽出：9/30
第４回　現地調査でフォーカスする論点のとりまとめ：9/30
第５回　全員で現地調査： 10/7
第６回　政策の方向性に関するディスカッション・各自の対象地域の選定：10/7
第７回　各自のフィールドワーク対象地域・分野の選定： 10/14
第８回　各自のフィールドワーク対象地域・分野ディスカッション・決定： 10/14
＊＊＊10月中旬～11月末の１か月半の間に各自で調査・政策立案・成果物の作成を進める＊＊＊
第９回・第10回　中間発表①：12/2
第11回・第12回　中間発表②：12/9
＊＊＊12月上旬～１月中旬 中間発表で指摘された点の追加調査・修正加筆＊＊＊
第13回・第14回　最終成果物の発表・講評： 1/13

履修の注意点

本授業は、秋学期の水曜４限・５限の連続授業（合計で14回）となり、9/23、9/30、10/7、10/14、12/2、12/9、1/13の各４・５限で行いますので、日程をよく確認すること。
特に、授業を聞いて学ぶ形の科目ではなく、自ら分析したり、現地調査やヒアリング調査を進めていく「自主性」が鍵となる演習的な科目です。(グループ課題ではない)
そのため、授業時間以外に、各自、選定した地域のデータ分析やフィールドワーク、政策立案をまとめた成果物の作成を行う必要があり、こうした授業時間外に取り組む時間が多く必要となりますので、そのあたり時間的余裕・覚悟をもって履修してください。
・基本的に、こちらが用意したフィールドワークに参加する形の授業ではなく、フィールドワークの対象テーマ・エリア・調査方法等は、適宜アドバイスを受けながら、自ら選定・取り組んでいく形となります。
・データ分析については、様々な手法は紹介した上で、各分析ツールの詳細な取り扱い方などは自ら情報を収集しながら取り組む形となるので、自ら調べて試行錯誤をしてスキルを習得していこうという姿勢が重要となります。
・第３回～第６回の授業は、後半の各自の作業に重要な手法や論点をレクチャーするので、やむを得ない場合を除き、必ず出席してください。
。
・演習型の授業のため、人数が多い場合には、エントリーシートによる選考を行う場合があります。
(２年時で履修の選考にパスしない場合もあることも想定しておくこと。そのため、１年時での履修をお勧めします。)

準備学習の内容

授業時に指摘した箇所について、指定した回までに修正加筆・追加調査等を行ってくること。

教科書

特に定めない。講義資料が教科書となる。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

各自が取り組む演習課題について、適宜、フィードバックを行いながら、最終的な政策提案書の完成度を高めていく。

成績評価の方法

2回目以降の授業における授業の参画度（50%）と最終成果物の内容・発表（50%）で評価を行う。

その他

科目ナンバー：(PE)POL391J

政策評価・デザイン	2単位
	1年次

兼任講師　小　林　庸　平

授業の概要・到達目標

政策立案の現場において、EBPM（エビデンスに基づく政策形成）の重要性が高まっている。本講義では、EBPMの基本的な考え方を解説した後で、政策効果の検証やデータサイエンスにおいて重要なツールとなっている統計的因果推論の考え方を講義する。

授業内容

第１回目：aのみ：イントロダクション（政策評価やEBPMの重要性）
第２回目：EBPMの基本的な考え方と動向
第３回目：統計的因果推論の考え方とその重要性
第４回目：統計学の基礎①：記述統計・推測統計
第５回目：統計学の基礎②：仮説検定
第６回目：統計学の基礎③：回帰分析
第７回目：統計ソフトウェアの基礎
第８回目：回帰分析による因果関係への接近
第９回目：ランダム化比較試験の考え方
第10回目：ランダム化比較試験の実践
第11回目：差の差分析の考え方
第12回目：差の差分析の実践
第13回目：回帰不連続デザインの考え方
第14回目：回帰不連続デザインの実践と授業のまとめ

履修の注意点

最低限の数式を用いることがあるが、特別な準備は要しない。

準備学習の内容

予習は不要だが、授業の内容を復習すること。

教科書

特に定めない。

参考書

大竹文雄・内山融・小林庸平編著（2022）『EBPM　エビデンスに基づく政策形成の導入と実践』日本経済新聞出版社
中室牧子・津川雄介（2017）『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社
伊藤公一朗（2017）『データ分析の力』光文社新書
デュフロ他（2019）『政策評価のための因果関係の見つけ方』日本評論社

課題に対するフィードバックの方法

中間レポートの解説を授業時間に行う。

成績評価の方法

中間レポート（30%）、期末試験（70%）

その他

科目ナンバー：(PE)POL291J

政治思想史【2022年度以降入学者】 政治学説史【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　川　上　洋　平

授業の概要・到達目標

人はいかに生きるべきかという道徳の問題と結びついていた古代の政治観が、キリスト教の浸透や宗教戦争などを経るなかでどのように変わっていき、今日の政治についての捉え方を生み出したのか。

本講義では、西洋における政治観の変遷を、主要な政治思想家の思想をその歴史的背景を踏まえつつ丁寧に解説することで理解し、それによって現代の政治観を問い直す視点を探っていきたい。

授業内容

第１回目　イントロダクション
第２回目　ソクラテスの死と哲学：プラトン
第３回目　魂と政治：プラトン
第４回目　哲人王と国家論：プラトン
第５回目　実践学の始まり：アリストテレス
第６回目　民主政の基礎：アリストテレス
第７回目　古代ローマと共和主義：キケロ
第８回目　必要悪と政治：アウグスティヌス
第９回目　中世の階層秩序：アクィナス
第10回目　中世から近代へ：ルター
第11回目　徳の再定義：マキアヴェッリ
第12回目　演劇としての政治：モア
第13回目　欲望の肯定：ホッブズ
第14回目　近代国家の誕生：ホッブズ・まとめ

履修の注意点

私語厳禁。スマートフォンは使用不可とする。

準備学習の内容

各回の思想家の生きた時代の歴史的背景などについて、参考書や手元の世界史教科書などを読んで調べてくること。復習としては、授業で紹介するや原典や参考文献のうち、気になったものを選び、積極的に目を通してほしい。

教科書

特に定めない。

参考書

堤林剣『政治思想史入門』慶應義塾大学出版会、
宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年
髙山裕二『新版　憲法からよむ政治思想史』有斐閣、2024年

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で、質問に答えたり、解説したりする。

成績評価の方法

小レポート（30%）と期末試験（70%）で評価する。期末試験は持ち込み不可。受講態度に問題がある場合は、減点もしくは失格とする。

その他

科目ナンバー：(PE)POL291E

政治思想史【2022年度以降入学者】 政治学説史【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

特任教授　アベシンヘ　ムディヤ

授業の概要・到達目標

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-860776" data-gramm="false"〉 **Course Summary**
This course provides a comprehensive overview of the historical development of Western political thought from the ancient period to the modern era. It examines the ideas of major political philosophers and theorists and their contributions to the formation of key political concepts such as justice, freedom, authority, sovereignty, and governance. Beginning with Classical thinkers such as Plato and Aristotle, the course traces the evolution of political ideas through Roman and Medieval Christian thought, Renaissance political theory, and the emergence of the modern state. It further explores liberalism, socialism, communism, anarchism, utilitarianism, and social democracy through the works of influential thinkers including Machiavelli, Hobbes, Locke, Rousseau, Marx, Engels, and Gramsci. By situating political ideas within their historical, social, economic, and cultural contexts, the course enables students to understand how Western political thought has shaped modern political institutions and contemporary political debates.
Course Objectives
After the successful completion of this course module, students will be able to:
1. Identify major Western political thinkers and explain their contributions to the development of political thought.
2. Critically analyze classical and modern political philosophies and their underlying assumptions about power, authority, and governance.
3. Trace and evaluate the historical evolution of Western political ideas from the classical era to modern political theory.
4. Apply key concepts from Western political thought to understand contemporary political systems and ideological debates.

授業内容

Course Content
1st week: Introduction to Political Thoughts, Philosophy and Theory
-Definition and Scope of Political Theory
-The Importance of Political Theory in Understanding Politics
-Historical Context and Evolution of Political Theories
2nd Week: Ancient Political Thought I
-Plato's and Aristotle's Political Philosophy
3rd Week: Ancient Political Thought II
-Cicero and Zeneca
4th Week: Christian Thoughts in Medieval
-Saint Augustine
-Saint Thomas Aquinas
5th Week: Renaissance Political Thought I
-Martin Luther and John Calvin
-*Politiques*
6th Week: Renaissance Political Thought II
-Niccolò Machiavelli
7th Week: The Emergence of the Modern State
-Thomas Hobbes
8th Week: The Liberalization of the Modern State
-John Locke

9th Week: The Separation of Powers
-Montesquieu
-Federalists
10th Week: French Revolution and Popular Sovereignty
-Burke
-Rousseau
11th Week: German Idealism and Communism
-Karl Marx and Fredric Engels
12th Week: Anarchism
-Proudhon and Bakunin
13th Week: Utilitarianism
-Jeremy Bentham
14th Week: Social Democracy
-New Liberalism
-Antonio Gramsci

履修の注意点

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-89226" data-gramm="false"〉 Students who wish to join this module must be enrolled before the course begins. Follow the guidelines provided by the graduate school.

準備学習の内容

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-642508" data-gramm="false"〉 Students are required to read and review the assigned materials uploaded to the learning platform prior to each class session. After each lecture, students should revisit key concepts, reflect on discussions, and review supplementary readings.

教科書

参考書

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-230602" data-gramm="false"〉 J. S. Mcclelland. (1998). A History of Western Political Thought, Routledge: London
Brian R. Nelson. (1996). Western Political Thoughts from Socrates to the Age of Ideology, Waveland Press, Inc.
Ryan K. Balot. (2006). Greek Political Thought, Wiley Online Library Bookstore
Dante L. Germino. (1972). Modern Western Political Thought: Machiavelli to Marx, The University of Chicago Press: Illinois
Andrew Gamble. (1981). An Introduction to Modern Social and Political Thought, Red Globe Press: London
John B. Morrall. (1980). Political Thought in Medieval Times, University of Toronto Press: Toronto

課題に対するフィードバックの方法

After screening the submitted assignments, Specific and targeted comments will be provided concerning the various aspects of the assignment, referring to specific criteria or guidelines for a comprehensive evaluation. Constructive criticism, presented in a growth mindset, will guide the student's improvements without judgment. This would help students understand their strengths, weaknesses, and areas for improvement.

成績評価の方法

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-482071" data-gramm="false"〉 Final Exam 60%, Assignment 20%, Attendance 20%

その他

科目ナンバー：(PE)POL291J	
政治理論史【2022年度以降入学者】 政治学説分析【2021年度以前入学者】	2単位 3年次
兼任講師　川　上　洋　平	

授業の概要・到達目標

近代政治理論の原型となる啓蒙思想について詳しく解説したうえで、そこで目指された個人および共同体の「自律」の理想が、どのように継承ないし修正されていったのかを、主要な思想家の政治観を詳しく見ていくことで理解する。

とくに、現代政治における主要な問題のひとつである政治と宗教との関係についても、歴史的視点から考察する。またその過程で、自由主義、民主主義、保守主義、功利主義、社会主義といった政治理念の内実や多様性について、その成立の局面に焦点を当てることで理解を深めていきたい。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　啓蒙の理想：カント
第3回目　革命と抵抗：ロック
第4回目　アメリカの独立：ペイン
第5回目　フランス啓蒙の成立：ヴォルテール
第6回目　スコットランド啓蒙：スミス
第7回目　文明社会への批判：ルソー
第8回目　人民主権論の成立：ルソー
第9回目　保守主義の成立：バーク
第10回目　反啓蒙と反動：メーストル
第11回目　民主主義論の転換：トクヴィル
第12回目　功利主義と自由：J.S.ミル
第13回目　社会主義の成立：マルクス
第14回目　現代自由主義の展開：ロールズ・まとめ

履修の注意点

私語厳禁。スマートフォンは使用不可とする。

準備学習の内容

各回の思想家の生きた時代の歴史的背景について、参考書や手元の世界史教科書などを読んで調べてくること。復習としては、授業で紹介するや原典や参考文献のうち、気になったものを選び、積極的に目を通してほしい。

教科書

特に定めない。

参考書

宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年
高山裕二『新版　憲法からよむ政治思想史』有斐閣、2024年

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で、質問に答えたり、解説したりする。

成績評価の方法

小レポート（30%）と期末試験（70%）で評価する。期末試験は持ち込み不可。受講態度に問題がある場合は、減点もしくは失格とする。

その他

科目ナンバー：(PE)POL291J

日本政治史

4単位

3年次

兼任講師　竹　内　　桂

授業の概要・到達目標

1945年から現在に至る期間の日本政治外交史について講義する。政治外交史における重要な出来事の経緯、結果を学ぶことは、単に過去の歴史を知る、理解するということにだけにとどまらない。現代日本の政治で起こっている出来事は、過去との繋がりのなかで生じている。歴史を学ぶことは今を学ぶことを意味する。日本政治史を理解し、学ぶことは意義深い。

日本が1945年に第二次世界大戦に敗れてから80年が経過した。戦争に敗れた日本は連合国最高司令官総司令部（GHQ／SCAP）により占領され、様々な変革がなされた。また、戦争により関係が途絶えた国々との関係を再構築する必要に迫られた。戦後に日本の政治、外交はどのような変遷を遂げてきたのかを検討する。政治制度の変遷、政権の枠組みをめぐる争い、政権による施策、外交における重要案件への対応、政権内の権力闘争が扱うべき事柄となる。戦後日本政治外交史に関する知識を獲得し、理解を深めることが講義の目標となる。

なお、戦後日本政治においては、明治大学出身の政治家も多く活躍している。可能な限り触れることにしたい。

授業内容

第1回目　イントロダクション・戦後日本政治外交史の時期区分
第2回目　占領政策
第3回目　中道政権―片山・芦田内閣
第4回目　吉田長期政権
第5回目　鳩山一郎内閣―1955年体制の成立
第6回目　岸内閣―日米安保改定
第7回目　池田内閣と所得倍増計画―1960年代における二つの長期政権①
第8回目　佐藤内閣と沖縄返還―1960年代における二つの長期政権②
第9回目　田中内閣・三木内閣―「三角大福」の時代　1970年代①
第10回目　福田内閣・大平内閣―「三角大福」の時代　1970年代②
第11回目　鈴木内閣―1980年代前半の「田中支配」
第12回目　中曽根内閣―「大統領的首相」の志向
第13回目　竹下内閣・宇野内閣―自民党政権の揺らぎ
第14回目　海部内閣―冷戦終結と湾岸戦争
第15回目　宮澤内閣―1955年体制の終焉
第16回目　細川内閣―政治改革の実現
第17回目　村山内閣―日本社会党の政策転換
第18回目　橋本内閣―日米安保再定義と行政改革
第19回目　小渕内閣―自公提携の始まり
第20回目　森内閣―「加藤の乱」
第21回目　小泉内閣①―「自民党をぶっ壊す」
第22回目　小泉内閣②―「郵政解散」
第23回目　小泉内閣後の自民党政権
第24回目　民主党政権①―政権交代の実現と鳩山内閣
第25回目　民主党政権②―民主党政権の蹉跌
第26回目　第2次・第3次・第4次安倍内閣
第27回目　菅義偉内閣以降
第28回目　まとめ

履修の注意点

講義中の私語等は厳禁である。

準備学習の内容

教科書と配付資料（Oh-o!Meijiにアップ するPDFファイル）を読み込む。
参考文献を読む。

教科書

小西德應・竹内桂・松岡信之編『戦後日本政治の変遷―史料と基礎知識』（北樹出版、2020年）

参考書

配付資料に記載する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中ないし講義終了後に質問を受けつける。またOh-o!Meijiを通じて行う。

成績評価の方法

定期試験100％

その他

科目ナンバー：(PE)POL291J

西洋政治史

4単位

3年次

教授　水戸部　由　枝

授業の概要・到達目標

世界でいち早く近代的な主権国家が成立したヨーロッパ。このヨーロッパにおいて政治社会はどのような変容をとげてきたのか。また、市民革命、産業革命、国民国家形成を特徴とする近代から、グローバル化のもと国家統合が進められてきた現代にかけての、政治的な連続性・非連続性、諸政治社会現象の歴史的な因果関係、政治が経済や社会におよぼした影響とはいかなるものなのか。
本講義では、主にヨーロッパ政治史を概観しながら、これらの問いについて考察する。その際、国家に関わる事柄だけに限らず、あらゆる社会的な諸集団、さらには諸個人の間でも政治が機能していること（政治の多様性）、また、国家による権利保障や福祉・社会保障と引き替えに、どのような国家介入が家族や個人に対してなされたのかについても言及する。加えて、トピックスとして、ジェンダー／セクシュアリティの歴史についても都度ふれる。
到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の政治・社会への理解をより深めること。さらに、将来の政治社会のあり方について考える力をつけること。

授業内容

（全28回）
第１回　イントロダクション：西洋政治史の意義
第２回　啓蒙の時代
第３回　フランス革命
第４回　ナポレオンの時代・ウィーン体制
第５回　ブルジョワ・自由主義の台頭
第６回　1848年革命
第７回　産業革命――急激な工業化が社会に与えた影響
第８回　国民国家形成――エスニシティ、ネイション、ナショナリズム
第９回　植民地主義、オリエンタリズム
第10回　帝国主義・帝国意識
第11回　第一次世界大戦――総力戦体制の成立
第12回　大戦中と大戦後の変化
第13回　ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ政治――政治的・経済的動揺
第14回　ファシズム体制の成立
第15回　ナチ独裁体制
第16回　反ユダヤ主義――ホロコースト
第17回　第二次世界大戦
第18回　「過去の克服」
第19回　冷戦（１）――東西ドイツの建国とベルリンの壁建設
第20回　冷戦（２）――自由主義陣営と共産主義陣営の対立
第21回　冷戦の終結――ベルリンの壁崩壊
第22回　68年運動（学生運動）――その前後の政治と社会
第23回　市民・社会運動――反原発・環境・平和・女性運動
第24回　ヨーロッパ統合――経済統合から政治統合へ
第25回　福祉国家形成
第26回　新自由主義
第27回　移民・難民問題と極右政党の台頭
第28回　まとめ

履修の注意点

・授業は毎回パワーポイントを使って行う。各授業のレジュメは、Oh-o! Meiji「授業内容・資料」にて一定期間公開する。

準備学習の内容

授業内容の理解をより深めるために、歴史、特に西洋近現代史に関する基礎知識を事前に習得しておくことが望ましい。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書

１）荒川正晴他編『岩波講座　世界歴史01 世界史とは何か／22, 23 冷戦と脱植民地化（全24巻）』岩波書店、2021～2023年。
２）池本大輔・板橋拓己・川嶋周一・佐藤俊輔『EU政治論：国境を越えた統治のゆくえ』有斐閣、2020年。
３）板橋拓己・妹尾哲志編『現代ドイツ政治外交史：占領期からメルケル政権まで』ミネルヴァ書房、2023年。
４）遠藤乾編『ヨーロッパ統合史［第２版］』名古屋大学出版会、2024年。
５）岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年（初版、岩波全書、1955年）。
６）小川浩之・板橋拓己・ 青野利彦『国際政治史：主権国家体系のあゆみ』有斐閣、2018年。
７）金澤周作・藤井崇・青谷秀紀・古谷大輔・坂本優一郎・小野沢透『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年。
８）川越修・脇村孝平・友部謙一・花島誠人『ワークショップ社会経済史：現代人のための歴史ナビゲーション』ナカニシヤ出版、2010年。
９）川島周一「独仏関係史：三度の戦争からEUの中核へ」中公新書、2024年。
10）木畑洋一「20世紀の歴史」岩波新書、2014年。
11）君塚直隆『ヨーロッパ近代史』筑摩書房、2019年
12）北村暁夫『近代ヨーロッパの歴史：人の移動から見る』放送大学教育振興会、2022年。
13）木村靖二・近藤和彦編『近現代ヨーロッパ史』放送大学教育振興会、2006年。
14）篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986年。
15）田野大輔・柳原伸洋『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書店、2016年。
16）テーア、フィリップ（福田宏・河合信晴監訳）『東欧の体制転換と新自由主義：1989年以降のヨーロッパ』みすず書房、2025年。
17）中山洋平・水島治郎『改訂版　ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2024年。
18）馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック［第２版］』東京大学出版会、2010年。
19）平島健司・飯田芳弘『改訂新版　ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2010年。
20）平野千果子編『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房、2019年。
21）ホブズボーム、E. J.（柳父国近・荒関めぐみ他訳）『資本の時代：1848-1875（１）（２）』みすず書房、2018年。（新装版）
22）ホブズボーム、E. J.（野口建彦・野口照子他訳）『帝国の時代：1875-1914（１）（２）』みすず書房、2023年。
23）ホブズボーム、E. J.（大井由紀訳）『20世紀の歴史（上）（下）』ちくま学芸文庫、2018年。
24）ヤーラオシュ、コンラート『灰燼の中から：20世紀ヨーロッパ史の試み（上）（下）』人文書院、2022年。
25）若尾祐司・井上茂子編『ドイツ文化史入門：16世紀から現代まで』昭和堂、2011年。
26）「シリーズ近現代ヨーロッパ200年史全４巻」：リチャード J.エヴァンズ『力の追求（上）（下）：ヨーロッパ史1815-1914』白水社、2018年／イアン・カーショー『地獄の淵から：ヨーロッパ史1914-1949』『分断と統合への試練：ヨーロッパ史1950-2017』白水社、2019年。
※その他、参考書、資料は講義中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でリアクションペーパーのコメントをいくつか紹介し、さらに教員によるコメントや教員と学生または学生同士での意見交換を通じて、課題内容への理解を深める。

成績評価の方法

平常点40%（授業への参加度・リアクションペーパー）と学期末試験60%（論述形式）の総合点をもとに成績評価を行う。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)PHL291J

現代思想	2単位
	3年次

教授　重　田　園　江

授業の概要・到達目標

近代とはいかなる時代なのか。このことについて、「統治」という観点から理解することを目指す。
また、近代理解と近代国家理解は重なるものだが、昨今の状況を考えると国際関係についてのいくつかの思考パターンを知ることも非常に重要である。この点にも目配りしながら、一方に国際関係、他方に国内秩序がどのように形成されていくかを考察する。授業の内容は単純ではないが、私たちが生きる「いま」が何によって作られてきたかを知ることで、いまに対する理解がはじめて可能になると考える。
本当かどうかわからないが、古代ローマの政治家・哲学者のキケロは「歴史は人生の師である」と言ったそうだ（キケロは欧米人が教養の権化として引用するのが大好きな人物）。私たち現代人は、過去から学ぶことに長けていないが、現在を作っているのは全て過去に起こった事柄だ。歴史に敬意を払うことの重要性が分かるような授業を心がけたい。これが到達目標。

授業内容

第１回　イントロダクション
　　中世（普遍帝国）について、ポスト近代（帝国秩序）について
第２回　近代的な国際秩序とは？（17世紀）
　　国際法、世界君主制、勢力均衡、ヨーロッパの平和
第３回　国家とはその力である（17世紀）
　　国家理性論
第４回　都市計画とポリス
　　18世紀パリはどのくらい汚なかった？
第５回　病と衛生
　　癩とペストと天然痘
第６回　食糧難
　　食べ物がないとき都市はどうしていたの？
第７回　穀物自由化論
　　自由と規制とどっちがいい？
第８回　自由か規制か
　　重商主義ってどんな考え？
第９回　自然と自由
　　「重農主義（自然主義）」と自然の関係は？
第10回　欲望と真理
　　市場はなぜ黄門さまの「印籠」みたいになったのか？
第11回　ホモ・エコノミクス
　　「経済人」てどんな人？
第12回　エコノミーの歴史
　　エコノミーって経済じゃないの？
第13回　エコノミーが経済になるとき
　　国家理性から政治経済学へ
第14回　まとめ
第15回　定期試験

履修の注意点

準備学習の内容

近代ヨーロッパ史、国際関係史（実際にはヨーロッパ外交史）などの知識があると理解が容易になる。

教科書

重田園江『統治の抗争史ーフーコー講義1978-79』勁草書房、2018年（7000円と高いので買わなくていいですが、これに依拠して進めます）

参考書

参考文献は授業中に適宜指示します。
ミシェル・フーコー『生政治の誕生』筑摩書房
安藤裕介『商業・専制・世論―フランス啓蒙の「政治経済学」と統治原理の転換―』創文社
アルバート・ハーシュマン『情念の政治経済学』法政大学出版局
カール・ポランニー『大転換』東洋経済新報社　　など

課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題を与える場合には、適宜個別にフィードバックを行う

成績評価の方法

期末試験（記述式）。出席した上での授業への取り組み。
毎回の授業でリアクションペーパーを回収します。

その他

毎回授業の最初に前説の時間があり、リアクションペーパーへの返答を含めて学生とのやりとりを行います（「おたよりコーナー」と呼ばれています）。主に最近見た映画やこれまで見てきた映画の紹介。授業に関連するトピックを取り上げて詳しく解説する回もあります。

科目ナンバー：(PE)POL211J

現代政治理論	2単位
	3年次

教授　重　田　園　江

授業の概要・到達目標

秋学期は「シン・アナキズム」と題して、新しいアナキズム的な実践と、新たな角度からみたアナキズム思想をセットで解説する。
若い方々は知らないかもしれないが、アナキズムというと「テロル」「暴力」下手すると「一揆」といった印象を長い間持たれてきた。しかし、いまになってみると、アナキズムにはそれとは異なる側面が多々ある。共通するのは、「国家」や「巨大な権力」による支配とは異なった形での、「自治」や「自律」の政治・社会実践を伴うことだ。
これについて、都市と農村のそれぞれについて社会運動を実践してきた二人の女性、ジェイン・ジェイコブズとヴァンダナ・シヴァをまず取り上げる。彼女たちが何に抵抗していたかをみることで、近代の裏面が自ずと浮かび上がってくる。
つづいて、アナキズムのより思想的・理論的な取り組みとして、デイヴィッド・グレーバーのアナキズム思想を取り上げる。先ごろ急死してしまったグレーバーであるが、21世紀という時代の文脈に即して、その思想を紐解いてゆく。
授業を通じて理解してほしいのは、いかに今の世界が社会編成原理として、また主流の価値観として、どん詰まりの状態にあるかだ。だからこそ、この世界は身近なところから変えていくことができる。間違ったことだらけなので。そのために、自分の足で立ち、自分の頭で考える第一歩になってほしい。これが授業の到達目標。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　都市は誰のものか（ジェイン・ジェイコブズ）１
第３回　都市は誰のものか２
第４回　都市は誰のものか３
第５回　都市は誰のものか４
第６回　タネと水と大地と（ヴァンダナ・シヴァ）１
第７回　タネと水と大地と２
第８回　タネと水と大地と３
第９回　タネと水と大地と４
第10回　アナキスト人類学と運動の未来（デイヴィッド・グレーバー）１グレーバーの生涯と著作
第11回　アナキスト人類学と運動の未来２　『負債論』
第12回　アナキスト人類学と運動の未来３　『ブルシット・ジョブ』
第13回　アナキスト人類学と運動の未来４　『官僚制のユートピア』
第14回　講義のまとめ
第15回　定期試験

履修の注意点

準備学習の内容

映像資料として、原村政樹監督「タネは誰のもの？」マリー＝モニク・ロバン監督「モンサントの不自然な食べもの」ロバート・ケナー監督「フードインク」ニコラウス・ゲイハルター監督「いのちの食べ方」、またヴァンダナ・シヴァに関する動画、「ジェイコブズ対モーゼスー都市計画をめぐる争い」などの視聴を勧める。

教科書

重田園江『シン・アナキズムー世直し思想家列伝』（NHK Books、2025）

参考書

ジェイン・ジェイコブズ、山形浩生訳『アメリカ大都市の死と生』鹿島出版社 2010年
ヴァンダナ・シヴァ、浜名喜美子訳『緑の革命とその暴力』日本経済評論社、1997年
映像資料　原村政樹監督「タネは誰のもの？」
　　マリー＝モニク・ロバン監督「モンサントの不自然な食べもの」ロバート・ケナー「フードインク」
デイヴィッド・グレーバー『負債論ー貨幣と暴力の5000年』以文社、2016年
グレーバー『ブルシット・ジョブークソどうでもいい仕事の理論』岩波書店、2020年
グレーバー『官僚制のユートピアーテクノロジー、構造的愚かさ、リベラリズムの鉄則』以文社、2017年
など

課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題を与える場合には、適宜個別にフィードバックを行う

成績評価の方法

期末試験。毎回の授業への取り組み。
授業では毎回リアクションペーパーを配り、回収します。
現代的な話題なので、毎回の授業への皆さんのリアクション次第で内容が深まります。
自分の意見を持ちやすい話題が多いので、熱い議論が出てくることを期待します。

その他

授業のはじめに「前説」と「お便りコーナー」があり、受講者との触れ合いの心温まる場になっています。前説では主に映画やサブカルチャーを取り上げます。時事的なワンテーマで話すこともあります。

科目ナンバー：(PE)POL291J

日本政治思想史	2単位
	3年次

専任講師　相　原　耕　作

授業の概要・到達目標

日本には、後進国として先進国の文明を輸入し続けてきた歴史があります。外来思想の導入にはさまざまな軋轢や反発を伴い、そこから新たな思想も産み出されてゆきます。そのような営みについて、主に中国由来の儒学・朱子学に対する江戸時代の知識人たちの知的格闘に即して考えます。

本講義の目標は、「異質な他者」と出会うことです。「異質な他者」の思考の道筋を辿り、彼らとともに考え、思考の幅を広げることを目指します。

授業内容

一話完結型の講義は行いませんが、おおよその予定は以下の通りです。ただし、変更はありえます。

第１回　イントロダクション
　　序論（１）「異質な他者」との出会い
第２回　序論（２）「日本」「日本語」について考える
　　儒学・朱子学の政治思想（１）儒学の成り立ち
第３回　儒学・朱子学の政治思想（２）存在論・人性論
第４回　儒学・朱子学の政治思想（３）政治論・ユートピアと革命
第５回　儒学・朱子学の政治思想（４）中華と夷狄
第６回　「御威光」の支配―徳川政権のクレデンダとミランダ
第７回　徳川社会と儒学（１）家・家職国家
第８回　徳川社会と儒学（２）家業道徳・君臣・天子
第９回　徳川社会と儒学（３）礼楽・革命・東夷
第10回　反朱子学の政治思想―古学の成立
　　伊藤仁斎の思想（１）古義学の方法・朱子学批判
第11回　伊藤仁斎の思想（２）道徳論・政治論
　　荻生徂徠の思想（１）朱子学・仁斎学批判
第12回　荻生徂徠の思想（２）言語研究・古文辞学・徂徠学
第13回　荻生徂徠の思想（３）政策論
第14回　太宰春台と国学

履修の注意点

日本政治文化論と併せて受講すると理解が深まります。
講義中に資料の朗読や意見を求める場合があります。その際は快く応じて下さい。

準備学習の内容

配付資料に予習・復習のための欄を設けますから、それに従って予習・復習を行って下さい。

教科書

教科書は使用しません。毎回、資料を配付します。

参考書

渡辺浩『日本政治思想史［十七～十九世紀］』東京大学出版会、2010年
田尻祐一郎『江戸の思想史　人物・方法・連環』中公新書、2011年
米原謙『日本政治思想［増補版］』ミネルヴァ書房、2017年
原武史『日本政治思想史』新潮選書、2025年
その他の文献は、講義の際に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出のコメント・ペーパーを踏まえて、講義の際に口頭でコメントを行います。

成績評価の方法

定期試験80%（講義で得た知識を運用する工夫と論理的に表現する力を問う論述試験）・平常点20%（毎回提出のコメント・ペーパーによる）。

その他

話を聞きながらノートをとる能力を身につけて下さい。また、毎回、コメント・ペーパーに、質問・意見・感想などを書いていただきます。
Oh-o!Meijiで配付資料やお知らせをチェックしてください。

科目ナンバー：(PE)POL211E

日本政治思想史	2単位
	3年次

特任講師　ブルチャー　ミヒャエ

授業の概要・到達目標

The purpose of this course is to offer a survey of the history of Japanese political thought up to the Meiji Restoration, with a focus on the early modern period. Central to its topical approach will be continuities and differences between "premodern," "early modern," and distinctly "modern" forms of political thought.
Students will gain basic acquaintance with major thinkers and achieve an improved understanding especially of "Confucianism" as a form and language of political thought and of how characteristically "early modern" and "modern" political ideas emerged from its background, as seminal thinkers were challenged to rethink Japan's changing society and relations to the wider world.

授業内容

1. Origins of "History of Japanese Political Thought" as an Academic Field
2. The Foundation Myths and Early State Formation in Japan
3. The Ritsuryo 律令 State and Privatization of Government in Heian Japan
3. Medieval Backgrounds: Buddhist Esotericism and the Concept of Shinkoku 神国
4. Political Consolidation During the Warring States Period: The Concept of Kokka 国家
5. The Unification Regimes and the Concept of Tenka 天下
6. The Constitution of the Tokugawa State
7. Confucianism in Early Tokugawa Japan
8. Zhu Xi Confucianism and Ancient Learning Confucianism
9. The Rise of National Learning
10. The Spread of Western Learning
11. Foreign Relations of the Tokugawa State
12. Aizawa Seishisai and the Idea of the Kokutai 国体
13. Toward "Restoration"
14. The Discourse on "Civilization" in Early Meiji Japan

履修の注意点

This course will be conducted in English.

準備学習の内容

Review of PowerPoint slides and assigned readings prior to class. The lectures will summarize, explain, and offer interpretations of assigned readings, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.

教科書

None. Weekly readings will be distributed in class or accessible online.

参考書

Friday Karl, ed. Japan Emerging: Premodern History to 1850, Routledge, 2012.
Watanabe Hiroshi, A History of Japanese Political Thought, 1600– 1901, International House of Japan, 2012.
Kiri Paramore, Japanese Confucianism: A Cultural History, Cambridge University Press, 2016.

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc.).

成績評価の方法

Attendance and Participation:　14/100 points max.
Three Quizzes:　75/100 points max. in total
Essay:　see below
The Essay will be optional. The final grade will be based on the number points reached in combination with evaluation of the essay. It is possible to pass this class by doing reasonably well on the quizzes (in addition to participation) alone. However, it is mathematically impossible to reach an "S" (90/100) without submitting an (S-grade) Essay as well.

その他

科目ナンバー：(PE)POL291E

日本政治文化論	2単位
	3年次

特任講師　ブルチャー　ミヒャエ

授業の概要・到達目標

"Political culture" is a problematic concept used in multiple (and often shifting) senses. While it can make important sense to discuss a (tenacious or changing) " culture" or "cultures" of Japanese politics, it is also important to note the politics involved in assertions of "Japanese culture" as a (supposed) national essence. This course will critically pursue the theme of "Japanese political culture" in both of these directions.
Weekly lectures will take up key aspects under which Japanese political culture has been discussed, and introduce influential contributions to the ensuing debates.
It is in the nature of an introduction that many of the complex issues involved can only be broached in passing. This course aims to serve students as a source of inspiration and ideas for further study or research on these and related topics in the future. Lectures will often revolve around excerpts and quotes from famous essays or books, that contain the contention of the respective work in compressed form, or are representative of a distinctive viewpoint.

授業内容

Topics covered will include:
1. The Concept of "Political Culture"
2. The Politics of "Japanese Culture"
3. The "Culture of the Meiji Period"
4. "Civil Society" in Contemporary Japan
5. The Security Treaty Crisis of 1960
6. Contestations of the Meaning of Shimin 市民
7. Electoral Politics in Japan
8. Ozawa Ichiro and "Japanese Politics"
9. Koizumi Jun'ichiro and "Japanese Politics"
10. "Cool Nationalism" and Historical Revisionism
11. Imperial Apologies and Historical Memory
12. The Postwar "Symbol Monarchy"
13. The Prewar "Emperor System"
14. "Imperial Democracy" and "Modernization Theory"

(This is not a weekly schedule but an overview of topics addressed. Some of these topics overlap or are recurrent themes.)

履修の注意点

This course will be conducted in English.

準備学習の内容

Review of PowerPoint slides and weekly readings prior to class. The lectures will summarize, explain, and offer interpretations of assigned readings, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.

教科書

None. Weekly readings will be distributed in class or accessible online.

参考書

Literature referenced in this class will include (among others):
David Leheny, "Four Cultures of Japanese Politics," In Routledge Handbook of Japanese Culture and Society, Routledge 2011.
Jeff Kingston, ed. Critical Issues in Contemporary Japan, Routledge 2019.
Simon Andrew Avenell, Making Japanese Citizens, University of California Press 2010.
Kenneth Ruoff, The People's Emperor: Democracy and the Japanese Monarchy 1945-1995, Harvard University Press 2002.

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc.).

成績評価の方法

Attendance and Participation: 14/100 points max.
Three Quizzes: 75/100 points max. in total
Essay: see below
The Essay will be optional. The final grade will be based on the number of points reached in combination with evaluation of the essay. It is possible to pass this class by doing reasonably well on the quizzes (in addition to participation) alone. However, it is mathematically impossible to reach an "S" (90/100) without submitting an (S-level) Essay as well.

その他

科目ナンバー：(PE)POL211J

日本政治文化論	2単位
	3年次

専任講師　相　原　耕　作

授業の概要・到達目標

日本には、後進国として先進国の文明を輸入し続けてきた歴史があります。江戸時代には、中国由来の儒学・朱子学が学問の主流となる一方、西洋思想も入ってきます。江戸時代半ばから幕末維新期の知識人たちが、儒学・朱子学や近代西洋の思想とどのように知的に格闘したのか、考えます。

本講義の目標は、「異質な他者」と出会うことです。「異質な他者」の思考の道筋を辿り、彼らとともに考え、思考の幅を広げることを目指します。

授業内容

一話完結型の講義は行いませんが、おおよその予定は以下の通りです。ただし、変更はありえます。
第1回　イントロダクション
　　「まつりごと」―日本在来の政治観
第2回　「政は正なり」―儒学の政治観
第3回　「おおやけ」と「わたくし」―公共性をめぐって
第4回　「言語」をめぐる構想と闘争（1）儒学者・五十音図・契沖・賀茂真淵
第5回　「言語」をめぐる構想と闘争（2）本居宣長の語学説と秩序像
第6回　「言語」をめぐる構想と闘争（3）本居宣長の「神」・平田篤胤・蘭学者
第7回　近世日本の外交関係
第8回　後期水戸学の思想
第9回　幕末の朱子学と西洋観
第10回　近代国家の形成と江戸思想
第11回　「国民nation」の創出―ナショナリズム
第12回　立憲主義の導入（1）「公議輿論」と明治憲法
第13回　立憲主義の導入（2）明治憲法の制定と運用
第14回　武士なき「武士道」の成立

履修の注意点

日本政治思想史と併せて受講すると理解が深まります。
講義中に資料の朗読や意見を求める場合があります。その際は快く応じて下さい。

準備学習の内容

配付資料に予習・復習のための欄を設けますから、それに従って予習・復習を行って下さい。

教科書

教科書は使用しません。毎回、資料を配付します。

参考書

渡辺浩『日本政治思想史［十七～十九世紀］』東京大学出版会、2010年
田尻祐一郎『江戸の思想史　人物・方法・連環』中公新書、2011年
米原謙『日本政治思想［増補版］』ミネルヴァ書房、2017年
原武史『日本政治思想史』新潮選書、2025年
その他の文献は、講義の際に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出のコメント・ペーパーを踏まえて、講義の際に口頭でコメントを行います。

成績評価の方法

定期試験80%（講義で得た知識を運用する工夫と論理的に表現する力を問う論述試験）・平常点20%（毎回提出のコメント・ペーパーによる）。

その他

話を聞きながらノートをとる能力を身につけて下さい。また、毎回、コメント・ペーパーに、質問・意見・感想などを書いていただきます。
Oh-o!Meijiで配付資料やお知らせをチェックしてください。

科目ナンバー：(PE)SOC261J

メディアリテラシー論

2単位

3年次

兼任講師　牛　山　佳菜代

授業の概要・到達目標

メディアリテラシーとは、一般的に「メディアを主体的・批判的に読み解く能力」と定義されるが、近年のメディアの多様化の中で、ネットリテラシー・モラルのみならず、これからのメディアのあり方を提案する能力までが含まれる広い概念である。そこで、この講義では、メディアリテラシーを理解するための前提となる基礎概念及びメディア環境・文法の特徴について概説を行った後に、実際のテレビ番組、新聞記事、雑誌記事、ネットコンテンツなどを題材としながら、その読み解き方を検討し、今後のメディアのあり方を構想する力を身につけることを目的とする。
これらの講義を通じて、メディアリテラシーの総合的向上及び自らが情報発信者となるための手法を修得することを目指す。

授業内容

第1回目：イントロダクション（現代におけるメディアリテラシーの重要性）
第2回目：メディアリテラシーとは
第3回目：メディア環境の変容
第4回目：メディア文法の特徴
第5回目：ニュース報道を考える(1)
第6回目：ニュース報道を考える(2)
第7回目：ドキュメンタリーを読み解く
第8回目：ドラマと現代社会の関係性(1)
第9回目：ドラマと現代社会の関係性(2)
第10回目：雑誌が提示する価値観
第11回目：広告が提示する価値観
第12回目：地域メディアと地域社会
第13回目：ネットメディアが生み出す新しいメディア空間
第14回目：メディアリテラシーが拓く可能性・まとめ

履修の注意点

1)メディアに関する前提知識は必要としないが、授業内で実際にメディア分析を行い、随時コメントを求めるため、主体的に授業に取り組みたいと考える学生の受講を歓迎する。
2)講義資料は電子配布し、授業内においてリアルタイムアンケートシステムを使用した双方向型講義を行うことがある。授業初回より、ネットにアクセスできるPC、タブレット、スマホ等を持参することを求める。
3)一部授業において実務家との連携講義を実施する可能性があり、その場合シラバスに記載の順番を入れ替えて行う可能性がある。

準備学習の内容

授業中に配布するレジュメ及び授業で紹介した問題について文献等で調べ、不明な点があれば質問すること。次週のテーマについては、自分で事前に調べておくことが望ましい。

教科書

使用しない。

参考書

『【改訂版】メディア・リテラシー論――ソーシャルメディア時代のメディア教育』中橋雄（北樹出版）2021年
『吟味思考を育むメディアリテラシー』坂本旬・山脇岳志（時事通信社）2022年

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題のうち、優秀、気づきがあるものなどについて、次週以降の授業で一部を紹介し、フィードバックを行うことがある。

成績評価の方法

授業への貢献度(20%)、授業終了時の小レポート（30%）、期末レポート（50%）

その他

授業の進め方について初回に詳細説明を行うため、受講希望者は初回より出席すること。
期末レポートの実施方法については、授業内で指示する。

科目ナンバー：(PE)SOC261J

国際コミュニケーション論

2単位

3年次

兼任講師　石　澤　靖　治

授業の概要・到達目標

授業の概要：　テーマは「紛争とメディア」。学問分野としては、政治学・社会学・国際関係論の学際的なもの。
授業の到達目標：　国際関係におけるニュースメディアと二国間関係の相互作用についてのモデルとダイナミズムを理解し、それを他の二国間関係にも応用して考えられるようにすること、国際関係における世論とPRの影響と役割、政治プロセスとの関連、国際関係論の基本を理解すること。その上で、パブリック・ディプロマシーやソフトパワーの重要性への認識を深めることで、国際関係のありようについての自らのフレームを構築できるようにする。

授業内容

第1回目：授業の説明、イントロダクション、ニュースメディアの基本的特質1
第2回目：ニュースメディアの基本的特質2
第3回目：ニュースメディアの基本的特質3
第4回目：ニュースメディアの基本的特質4
第5回目：戦後日米関係史1
第6回目：戦後日米関係史2
第7回目：日米関係とニュースメディア
第8回目：理解度の確認
第9回目：前回のフォローアップ、紛争とメディアへの導入（日露戦争、第一次大戦など）
第10回目：ベトナム戦争、湾岸戦争とメディア
第11回目：イラク戦争とメディア
第12回目：ボスニア紛争とメディア、ロシアのウクライナ侵攻
第13回目：紛争とメディアの諸相、パブリック・ディプロマシー、ソフトパワー1
第14回目：紛争とメディアの諸相、パブリック・ディプロマシー、ソフトパワー2
＊状況により内容、進行に変化があることがある。

履修の注意点

一つ一つ積み上げ式の講義となる。表面的ではなく、いかに深く内容を理解するかが重要。事前に問題意識を持っていると受講が充実する。
国際関係論、国際情勢に関する授業を履行しているか、その分野に興味と関心をもっていることが望まれる。
お互いが不幸になるので、真面目に学ぶ気持ちのない学生は履修しないこと。

準備学習の内容

テキストや参考書を読むこと。ジャーナリズムに興味のある学生は、国際関係以外の章にも目をとおしておくことを推奨する。
授業で扱う、日米関係、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争、ボスニア紛争などについては、事前・事後に関連書籍を読んでおくことで、より理解が深まる。
日常的に国際ニュースに触れて自分なりの問題意識を深めておくこと。

教科書

石澤靖治編著『政治コミュニケーション概論』（ミネルヴァ書房）、2021年

参考書

石澤靖治『テキスト現代ジャーナリズム論』ミネルヴァ書房、2008年
石澤靖治『戦争とマスメディア』ミネルヴァ書房、2005年
石澤靖治『アメリカ 情報・文化支配の終焉』PHP研究所、2019年
石澤靖治『世論とメディアでみる戦後日米関係史』創成社、2025年
高木徹『戦争広告代理店』講談社、2002年
その他、随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたものの中から興味深い視点のものについて紹介。あるいは質問する事もある。

成績評価の方法

期末試験:50%、理解度の確認:30%、平常点（授業中に実施するコメントの提出など):20%

その他

しばしば映像を使用する。

科目ナンバー：(PE)SOC261E

国際コミュニケーション論	2単位
	3年次

特任教授　杉　田　弘　毅

授業の概要・到達目標

Class Summary: Conflict and the Media. It is interdisciplinary in political science, sociology, and international relations.
Objectives of the course:
To understand the model and dynamism of the interaction between news media and bilateral relations in international politics and to be able to apply it to other bilateral relations,
To understand the influence and role of public opinion, its relation to the political process, and the basics of international relations.
To develop an awareness of the importance of public diplomacy and soft power, so that students can construct their own frame of better international relations.

授業内容

Session 1: Introduction
Session 2: Basic characteristics of news media
Session 3: Basic characteristics of news media
Session 4: Basic characteristics of the news media
Session 5: Japan-Russo War, WW1
Session 6: WW2 and news media
Session 7: History of Postwar Japan-U.S. Relations
Session 8: Japan-U.S. Relations and the news media
Session 9: Vietnam War, Gulf War and the media
Session 9: Iraq War and the media
Session 10: War In Ukraine and the media
Session 11: War in Gaza strip and Middle East and the media
Session 12: Public Opinion
Session 13: Public Opnion and Propaganda, Soft Power
Session 14: Final report
The content and progression of the course may change depending on the situation.

履修の注意点

The lectures and discussions are conducted in English. Students will write reports in English.

準備学習の内容

Check current news and have your opinions about these news

教科書

None

参考書

If students read Japanese publications, I would recommend 国際報道を問いなおす（ちくま新書）by Hiroki Sugita.

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide individual feedback

成績評価の方法

Report=50%
Inputs in the class discussions=50%

その他

科目ナンバー：(PE)SOC261J

マスメディア論	2単位
	3年次

教授　海　後　宗　男

授業の概要・到達目標

現代社会においてマスメディアは、公共の情報や知識の共有を促進する役割を果たしている。この授業ではマスメディアが、政治、経済、法律といった他の制度との関係において、日々どのようにコンテンツを生産し、どのように利用されているかを考察する。また、インターネットの普及に伴う情報環境の変化によって、メディアがどのように変容していくのかについても考察する。特にニュースなどの時事情報の生産、流通、消費のプロセスに焦点をあて、コミュニケーションのプロセスに関する理解を深めることを目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション：多様化するメディア環境
第2回目　産業としての新聞
第3回目　産業としての放送
第4回目　メディアのビジネスモデル
第5回目　マスメディアと市場寡占化の問題
第6回目　多元化するメディア
第7回目　メディアと社会的責任論（メディア授業）
第8回目　メディアと表現の自由と知る権利（メディア授業）
第9回目　編集論とニュースの価値（メディア授業）
第10回目　客観報道主義
第11回目　取材源との関係、ニュースの娯楽化
第12回目　「利用と満足」研究
第13回目　インターネットと情報の受信過程
第14回目　マスメディア論まとめ

履修の注意点

Oh-o! Meiji経由で資料を電子媒体で配布することがある。
第7回目、第8回目、第9回目はオンラインで情報提供と交流をする予定。

準備学習の内容

授業前に、指定資料と文献を予習すること。

教科書

『図説 日本のメディア〔新版〕』 藤竹暁・竹下俊郎(編)（NHK出版、2018）
『メディアと政治〔改訂版〕』 蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一（有斐閣、2010）

参考書

参考資料はOh-o! Meiji経由で資料を電子媒体で配布予定

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭で、もしくはOh-o! Meijiを活用して行う。

成績評価の方法

筆記試験 50%
レポート 25%
授業への参加度 25%

その他

科目ナンバー：(PE)SOC261E

マスメディア論	2単位
	3年次

特任教授　杉　田　弘　毅

授業の概要・到達目標

Title: Understanding Media
The course will give the participants an overview of Japanese and international media organizations and challenges resulting from rapid transition in the Internet- AI age. Information will be provided about history of Japan's newspapers and TV broadcasters, and their influence in shaping public opinion. The course will examine challenges related to news gathering activities by Japanese media organizations. The participants will also be briefed on the Japan's out-going news service for the purpose of having foreign nations understand Japan objectively. Finally, we will discuss about ways to revitalize responsible media and journalism.
The course objectives are:
1 To get a comprehensive understanding of Japan's mass media
2 To acquire the knowledge of media policies
3 To learn about role of major media organizations in Internet-AI age

授業内容

Lecture 1 Introduction
Lecture 2 The present situation of Japan's media organizations
Lecture 3 History of Japan's media, newspapers and TV broadcasters
Lecture 4 Media and its influencing power
Lecture 5 Media bias, liberal and conservative
Lecture 6 Fake news and media
Lecture 7 Mid semester report
Lecture 8 Free press
Lecture 9 War and media
Lecture 10 Media and governments
Lecture 11 The roles and challenges of the mass media in the Internet age
Lecture 12 Traditional media and Artificial Intelligence
Lecture 13 Discussion about the future of media
Lecture 14 Final report

履修の注意点

準備学習の内容

Before class: Check for current news for 60 mins. Occasionally we will discuss about major news stories.
After class: Review important information provided and learned in class

教科書

None

参考書

If students read Japanese publication, I will reccomend 国際報道を問いなおす（ちくま新書） by Hiroki Sugita, professor of this class

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide individual feedback

成績評価の方法

Classes will be conducted in English; reports will be written in English

その他

科目ナンバー：(PE)SOC261J

メディアと世論	2単位
	3年次

教授　海　後　宗　男

授業の概要・到達目標

今日、複雑な社会では、様々な情報チャネル、特にメディアが、人々の考えを大きく形成し、変化させています。そして民主主義国家においては、政府はしばしば世論によって導かれると理解されています。この授業では、メディアと世論のダイナミックな関係を探求します。そして世論を公共問題に関する一般市民の意識と行動と定義します。現代政治を効果的に分析するためには、メディアの役割を把握することが極めて重要です。主観的な批評に頼るのではなく、科学的な手法を用いて事実やデータを収集・分析する実証研究を重視しメディアの機能についての理解を深めることをこの授業の目標とします。

授業内容

第1回目　オリエンテーション：世論
第2回目　プロパガンダの歴史
第3回目　選挙キャンペーンと投票行動
第4回目　限定効果論
第5回目　メディアの認知的影響
第6回目　議題設定研究
第7回目　フレーミング研究の展開（メディア授業）
第8回目　沈黙のらせん効果（メディア授業）
第9回目　培養仮説（メディア授業）
第10回目　メディア環境の変容と政治
第11回目　フィルターバブル・エコーチェンバーとサイバーカスケード
第12回目　人工知能（AI）・ビックデータと選挙
第13回目　SNSと政治活動
第14回目　メディアと世論まとめ

履修の注意点

Oh-o! Meiji経由で資料を電子媒体で配布することがある。
第7回目、第8回目、第9回目はオンラインで情報提供と交流をする予定。

準備学習の内容

授業前に、指定資料と文献を予習すること。

教科書

『アジェンダセッティング』M. マコームズ（竹下俊郎訳）（学文社、2018）
『「ネット世論」の社会学: データ分析が解き明かす「偏り」の正体（NHK出版新書 725)』谷原 つかさ（NHK出版、2024）

参考書

参考資料はOh-o! Meiji経由で資料を電子媒体で配布予定

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭で、もしくはOh-o! Meijiを活用して行う。

成績評価の方法

筆記試験 50%
レポート 25%
授業への参加度 25%

その他

科目ナンバー：(PE)SOC261E

メディアと世論	2単位
	3年次

特任教授　杉　田　弘　毅

授業の概要・到達目標

Title: Media and Public Opinion
We will read Walter Lippmann's " Public Opinion" to deepen understanding of the relationship between media and public opinion. We will analize why the media is criticized for raising bad nationalism and hostile attitudes toward foreign nations and countries. By readind Lippman's book writen 100 years ago, we will reach the root causes of problems of media and public opinon. we will discuss about roles media should play for a healthy democratic society.
The course objectives are:
1 To get comprehensive knowledge of the relationship of media and public opinion
2 To examine criticism of media in shaping public opinion
3 To discuss ways to improve media contents

授業内容

Lecture 1 Introduction
Lecture 2 Basic relationship of media and public opinion
Lecture 3 Chapter 1, Public Opinion
Lecture 4 Chapter 2, Public Opinon
Lecture 5 Chapter 3, Public Opinion
Lecture 6 Chapter 4, Public Opinion
Lecture 7 Chapter 5, Public Opinion
Lecture 8 Chapter 6, Public Opinion
Lecture 9 Chapter 7, PUblic Opinion
Lecture 10 Chapter 8, Public Opinion
Lecture 11 Chapter 9, Public Opinion
Lecture 12 Chapter 10, Public Opinion
Lecture 13 Chapter 11, Public opinion
Lecture 14 Final report

履修の注意点

Classes will be conducted in English; reports will be written in English

準備学習の内容

Before class: Check current news for 60 mins. Occasionally we will discuss about major news stories.
After class: Review important information provided and learned in class

教科書

Walter Lippmann "Public Opinion"

参考書

If sutudents read Japanese publication, I will reccomend 『国際報道を問いなおす』（ちくま新書）by Hiroki Sugita

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide individual feedback

成績評価の方法

Class attendance/contribution=30%
Midterm report=30%
Final report=40%

その他

科目ナンバー：(PE)POL311J

国家論	2単位
	3年次

教授　西　川　伸　一

授業の概要・到達目標

（1）概要：とりわけ現代国家をめぐる政治学の諸潮流の議論を概括的に講じていく。その際、できるだけ具体的な事例を踏まえて説明することを心がける。
（2）到達目標：為政者に「操作」されない、国家や権力に対する「醒めた」認識を身につける。

授業内容

第1回　オリエンテーション;「国家」とは何か（1）
第2回　「国家」と何か（2）
第3回　「国家」と何か（3）
第4回　社会主義国家とは何だったのか（1）
第5回　社会主義国家とは何だったのか（2）
第6回　社会主義国家とは何だったのか（3）
第7回　anti-statism としての多元主義（1）
第8回　anti-statism としての多元主義（2）
第9回　anti-statism としての多元主義（3）
第10回　新多元主義の国家論（1）
第11回　新多元主義の国家論（2）
第12回　ニューライトの国家論（1）
第13回　ニューライトの国家論（2）
第14回　まとめ；春学期定期試験についての説明

履修の注意点

パワーポイントのスライドを投影して授業を行います。ただし、重要事項は板書して確認します。
BYOD形態の授業にしますので、プリントは配布しません。各自デバイスを持参して出席してください。

準備学習の内容

次回の授業で投影するパワーポイントのスライドを事前にクラスウェブに掲載しますので、各自のデバイスにダウンロードして授業に臨んでください。

教科書

使用しません。

参考書

西川伸一（2023）『ある軍法務官の生涯』風媒社。
同（2023）『「保守」政治がなぜ続くのかプラス映画評』ロゴス。
同（2018）『政衰記 2011-2018』五月書房新社。
同（2018）『覚せい剤取締法の政治学』ロゴス。
同（2015）『城山三郎『官僚たちの夏』の政治学』ロゴス。
同（2013）『これでわかった！　内閣法制局』五月書房。
同（2010）『オーウェル『動物農場』の政治学』ロゴス。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート課題はクラスウェブで提出することとし、それへのコメントを必ず返します。

成績評価の方法

授業への参画度（40%）、小レポート（10%）、国立ハンセン病資料館見学レポート（10%）、および春学期試験（40%）。くわしくは第1回授業時に説明するので、必ず出席してください。

その他

（1）時間厳守で行います。
（2）私語など授業の妨げになる行為はしないでください。

科目ナンバー：(PE)POL311J	
現代国家分析	2単位
	3年次
教授　西　川　伸　一	

授業の概要・到達目標

（1）概要：裁判は国家に固有の作用である。しかし、現代国家の分析対象として、裁判所はほとんど注目されてこなかった。そこでこの授業では、日本の裁判所に焦点を当てて、裁判所行政とりわけ裁判官の幹部人事に接近することにする。あわせて、最高裁の成り立ちや最高裁裁判官国民審査の意義と現状についても講じていく。
（2）到達目標：国民審査でおざなりの白票を投じない程度の知識を、現代日本の裁判所について身につける。

授業内容

第1回　オリエンテーション;なぜ最高裁裁判官は15人なのか（1）
第2回　なぜ最高裁裁判官は15人なのか（2）
第3回　なぜ最高裁裁判官は15人なのか（3）
第4回　最高裁裁判官にはだれがなるのか（1）
第5回　最高裁裁判官にはだれがなるのか（2）
第6回　最高裁事務総局とは何か（1）
第7回　最高裁事務総局とは何か（2）
第8回　最高裁事務総局とは何か（3）
第9回　高裁長官にはだれがなるのか（1）
第10回　高裁長官にはだれがなるのか（2）
第11回　地家裁所長ポストの「個性」
第12回　最高裁裁判官国民審査はムダなのか（1）
第13回　最高裁裁判官国民審査はムダなのか（2）
第14回　裁判員制度と司法制度改革・秋学期定期試験についての説明

履修の注意点

パワーポイントのスライドを投影して授業を行います。ただし、重要事項は板書して確認します。
BYOD形態の授業にしますので、プリントは配布しません。各自デバイスを持参して出席してください。

準備学習の内容

次回の授業で投影するパワーポイントのスライドを事前にクラスウェブに掲載しますので、各自のデバイスにダウンロードして授業に臨んでください。

教科書

使用しません。

参考書

西川伸一（2025）『最高裁長官 石田和外』岩波書店。
同（2020）『増補改訂版　裁判官幹部人事の研究』五月書房新社。
同（2012）『最高裁裁判官国民審査の実証的研究』五月書房。
同（2005）『日本司法の逆説』五月書房。
デイヴィッド・S・ロー、西川伸一訳（2013）『日本の最高裁を解剖する』現代人文社。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート課題はクラスウェブで提出してください。必ずコメントを返します。

成績評価の方法

授業への参画度（40%）、小レポート（10%）、裁判傍聴レポート（10%）、秋学期試験（40%）。
くわしくは第1回授業時に説明するので、必ず出席してください。

その他

（1）時間厳守で行います。
（2）私語など授業の妨げになる行為はしないでください。

科目ナンバー：(PE)POL331J

国際政治学

4単位

3年次

教授　伊　藤　　剛

授業の概要・到達目標

国際政治学とは、我々の身の回りに起こるグローバルな国際問題を政治学の手法を用いて分析する社会科学の一分野である。そこでは、20世紀初頭（古くは、主権国家システムが成立した17世紀半ば）以降の欧米で徐々に形成されてきた国際政治の理論的英知と、今現在に展開されている国際現象の理解との双方が有機的に関連付けられる必要がある。このような視点に立って本講義では、今日の国際問題に触れながらも、それに止まらない理論的・歴史的全体像を鳥瞰する。

授業内容

秋学期集中授業。国際政治学の基本概念を以下の要領で網羅する。これらを通して時事問題の単なる羅列に止まらない国際政治の立体的な学習を目指す。具体的な時事問題は理論上の法則を通じてこそ批判が可能となり、また逆に、抽象的な理論は現実の国際政治の実証に支えられてこそ空虚であることから逃れられる。

序）ガイダンス、国際政治と国内政治
1）インド太平洋国際政治の特徴
2）ヨーロッパ国際政治の特徴
3）冷戦という特殊な国際秩序
4）安全保障の基本概念
5）戦争と平和の基本概念
6）国際政治経済学－貿易と通貨
7）外交と国際交渉、ゲーム論
8）パワー・勢力均衡・国益
9）国家・主権・人道的介入
10）非国家行為体―国際機関とBGO
11）国際相互依存
12）○○ファーストとGゼロの時代
13）グローバル化と今後の国際政治課題（情報化、環境、資源、人口問題、文明論等）

履修の注意点

理論的な隣接分野としては、比較政治論、国際経済学、国際金融論など。地域研究に関しては、アメリカ文化研究、文化論概論、ロシア・東欧研究など。歴史研究に関しては、外交史、西洋政治史、日本政治史など。

準備学習の内容

履修者の多い授業になるので、講義形式となる。学生の要望に応じて、リアクション・ペーパーを書いてもらう。

教科書

特定の教科書は用いない。文献はリストを配布する。

参考書

参考文献はリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

授業にて、またはOh-o!Meijiにて対応する。

成績評価の方法

基本は試験による。学生の要望によって、レポートと出席を取る。

その他

科目ナンバー：(PE)POL311J

政治過程論

4単位

3年次

専任講師　加　藤　言　人

授業の概要・到達目標

政治過程論とは、政治が行われる様々なプロセスを理解し、論理的に説明しようとする学問である。法律や制度などの記述を超えて、政治がなぜ、どのように動いているのかについて、理論を立てて科学的な検証を行うことが、その目的となる。本講義では、政治過程論について、次の4つのタスクを達成することを目指す。（1）政治過程論が扱う問いの射程を理解する。（2）政治過程論において用いられる方法論のエッセンスを習得する。（3）特に合理的選択理論（ゲーム理論／フォーマルモデル）の文脈において、政治過程論の研究がどう構築・発展しているかを理解する。（4）政治過程をロジカルに捉え、またそのロジックを批判的に検討する力を身に着ける。

授業内容

第1回目　政治過程論とは何か：イントロダクション
第2回目　政治を科学する（1）政治を「科学」するとは何か
第3回目　政治を科学する（2）問いと理論
第4回目　政治を科学する（3）論理と反証可能性
第5回目　政治過程とフォーマルモデル（1）政策過程のモデル化
第6回目　政治過程とフォーマルモデル（2）フォーマルモデルによる過程分析
第7回目　政治過程とフォーマルモデル（3）フォーマルモデルの可能性と限界
第8回目　投票過程と合理的選択理論（1）投票過程と利得最大化
第9回目　投票過程と合理的選択理論（2）選挙制度と棄権のパラドックス
第10回目　選挙における政治家と有権者（1）選挙競争と政策内容・位置
第11回目　選挙における政治家と有権者（2）業績評価投票
第12回目　選挙における政治家と有権者（3）情報の非対称性
第13回目　選挙における政治家と有権者（4）利益団体の介入
第14回目　民主主義 vs. 非民主主義（1）メディア統制／報道の自由
第15回目　民主主義 vs. 非民主主義（2）政治体制と政治的生き残りのメカニズム
第16回目　民主化過程のモデル（1）閾値モデルとボトムアップ型民主化
第17回目　民主化過程のモデル（2）トップダウン型民主化
第18回目　戦争と平和（1）外交交渉と戦争
第19回目　戦争と平和（2）国内政治体制と平和
第20回目　民主的アカウンタビリティ（1）アカウンタビリティとは何か
第21回目　民主的アカウンタビリティ（2）有権者の環境認識と世論形成
第22回目　民主的アカウンタビリティ（3）有権者の情報量と政策形成
第23回目　民主的アカウンタビリティ（4）政策実行過程における政治家と官僚
第24回目　民主的アカウンタビリティ（5）複数政党による連立形成過程
第25回目　人間心理とフォーマルモデル（1）統計的差別と選好による差別
第26回目　人間心理とフォーマルモデル（2）アイデンティティ
第27回目　人間心理とフォーマルモデル（3）動機づけられた推論
第28回目　総括：政治過程を論理的に解読する

履修の注意点

政治過程論の分野は、実証分析およびゲーム理論・フォーマルモデルを用いて研究が行われているが、本講義では特に後者に注目して議論する（前者も必要に応じて扱う）。よって、ゲーム理論・フォーマルモデルを用いた研究手法に関して、関心・学習意欲を持っていること（事前知識があるとなお良いが、要件としては求めない）。また、理論的な前提に対して、論理的かつ批判的な思考ができること。
講義の詳細については、変更する可能性もあるので、第1回講義のイントロダクションに出席すること。成績評価方法の詳細についても同じく第1回講義で説明する。

準備学習の内容

講義内で課されたリーディングを読み、また紹介されている理論モデルについて自分で取り組んでみること。内容をただ記憶するのではなく、疑問点・改善点について自分で思考してみること。リーディングについては予習に使っても良いし、復習に使っても良い。

教科書

浅古泰史（著）、2018、『ゲーム理論で考える政治学―フォーマルモデル入門』、有斐閣
その他、適宜リーディングを配布・共有する。

参考書

伊藤光利・田中愛治・真渕勝（著）、2000、『政治過程論』、有斐閣
久米郁男（著）、2013、『原因を推論する－政治分析方法論のすゝめ』、有斐閣
Clark, William Roberts, Matt Golder, and Sona Nadenichek Golder. 2019. Foundations of Comparative Politics. Thousand Oaks, CA: CQ Press.
Gehlbach, Scott. 2022. Formal Models of Domestic Politics (2nd Edition). New York, NY: Cambridge University Press.
Kellstedt, Paul M. and Guy D. Whitten (2013) The Fundamentals of Political Science Research, New York, NY: Cambridge University Press, 2nd edition,

課題に対するフィードバックの方法

課題・試験のフィードバックについては、ウェブシステムを用いて行う予定である。詳細については第1回講義で説明する。

成績評価の方法

期末試験もしくはレポート（詳細は登録者数に応じて決定）60%、講義内課題 30%、その他授業への参加度（講義中の発言、オフィスアワーの利用など）10%

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)POL311J

政治体制論	2単位
	3年次

教授　外　池　　力

授業の概要・到達目標

私の教育目標は、以下の三つを身につけることです。
1　知的誠実さ
2　健全な批判精神
3　許す勇気
本講義の目的は、1・2年生で学んだ政治学、政治史、政治理論の基本を、「デモクラシー」、「人権」、「文化」という軸を中心に発展させることにある。まず権威主義の台頭とデモクラシーへの不信の増大という現状をまずデータとして紹介し、それを前提としてデモクラシーの理論を紹介しながら、デモクラシーの問題点への批判や反発は歴史上常にあることを紹介し、デモクラシー批判のパターンを理論的に位置づけることにより、安易なデモクラシー批判に絡み取られないようにし、さらなるデモクラシーが可能かであるか、望ましいかどうかを考える。また一方で、人権に対する批判についてもデモクラシーと関連づけながら同じように考察し、それらの概念のもつ有効性を検討する。その中で、デモクラシーと人権の関係についても考察する。
比較政治体制論という視座を取ることにより、世界の政治のマクロレベルでの比較が可能となり、エスノセントリズム(自民族中心主義)やナイーブな文化相対主義に陥らない柔軟で責任ある思考を身につけることができる。デモクラシーや人権は人類が共有できる普遍的な制度なのか、それとも文化的・歴史的に相対的になのか、またそれらを支える価値観はどうかを、様々な国や地域での様々な人権侵害などの実例を挙げながら考え、普遍主義との相対主義の複雑な関係を考察する。そのなかで国際人権と国内の人権の連関と対立についても論じる。
なお本講義では、「人権タイム」として、毎回授業の最初に、アムネスティ・インターナショナルやその他の人権擁護機関の資料などから常に日本や世界各地での進行形の人権弾圧や差別など最新の人権問題の資料や最新の人権に関するトピックを、随時紹介するので、FREEDOM HOUSE、ヒューマン・ライツ・ウォッチ、外務省、法務省、日弁連その他多様な情報を自分で使いこなし、自分の倫理と理論を常に事実から検証していく態度を取れるようにする。数回のレポートで資料を使って自分の意見を論理的にまとめる練習をし、学期末の試験で検証する。

授業内容

講義は次のような順序で行われる予定である。
なお、授業の最初の10～20分は、毎回、「人権タイム」として、世界や日本の人権に関する最新のトピックを紹介することで人権教育を行なう。
(1)　問題意識の設定、資料の収集と研究方法、
　図書館や図書検索の使い方の簡単なおさらいと神保町古本街の巡り方（安く本を手に入れる方法や古本街の歴史や穴場）などを教える。お茶の水・神保町人権マップを配布する
(2)　デモクラシーの基礎知識（1）
　権威主義の台頭とデモクラシーへの不信の増大という現状を前提として、デモクラシー批判の構造を考える。「デモクラシーは理論的に可能か?」
(3)　デモクラシーの基礎知識（2）
　デモクラシー批判の構造の考察（続き）「デモクラシーは望ましくないか?」
(4)　デモクラシーと人権
　デモクラシーと人権の対立と補完性を論じる。
(5)　功利と権利、人権批判
　「みんなのため」をどこまで許すのか?多数は正しいのか?人権批判について
(6)　政治体制の考え方
　政治体制とは何か、また「民主体制、権威主義体制、全体主義体制」という類型学について考える。
(7)　欧米型民主主義への批判
　「歴史の終わり」と「文明の衝突」などについて考える。
(8)　文化という「野蛮」と普遍という「押しつけ」(1)
　アジア型デモクラシーなどを実例に、文化と人権、文化とデモクラシーについて考える。
(9)　文化という「野蛮」と普遍という「押しつけ」(2)
　「文化による」人権侵害の実例を挙げながら、文化と人権、文化とデモクラシーについて考える。
(10)　文化相対主義と普遍主義（1）
　「文化」vs「人権」なのか?　ポリティカル・コレクトネス などを通じて考える。
(11)　文化相対主義と普遍主義（2）
　多文化主義とデモクラシーについて考える。
(12)　文化相対主義と歴史主義
　欧米 VS 非欧米、普遍主義の「相対化」という視座で歴史、社会について考える。そのなかで国際人権と国内の人権の連関と対立についても論じる。
(13)　デモクラシーと相対主義
　相対主義の時代のデモクラシーについて、それらの相関と矛盾を通して考える。
(14)　まとめ、総括
　普遍的なデモクラシーや人権の構築は可能か。人類共通の価値の構築の重要性と問題点を考え、その問題点の克服を模索する。

履修の注意点

自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、ネットの文献検索のみならず図書館と神田本の街を使いこなせるようになること。
そのために、中央図書館の 1F の参考図書コーナーと地下 2F から入る「閉架書庫」などを利用しデモクラシー・人権関連の資料を手に入れてみること。また神保町のどこかの古本屋で地図を手に入れてみること。
＊毎回プリントを授業の進行よりも少し早めに配布するので、予習、復習に利用すること。

準備学習の内容

各授業でプリントを配布するが、次の週の内容まで配布することが多いので、熟読しておくこと。またプリントの量が多いので、すべてを授業中に読めないので、未読の部分についても、熟読しておくこと。

教科書

特になし

参考書

筒井清輝『人権と国家』、フクヤマ『歴史の終わり』三笠書房、サンゲーラ『恥と名誉』解放出版社、トドロフ『歴史のモラル』法大出版会、シュレージンガー『アメリカの分裂』岩波書店、脇浜義明編訳『アメリカの差別問題PC（政治的正義）論争をふまえて』明石書店、ウォラーステイン『社会科学をひらく』藤原書店、神保・宮台『アメリカン・ディストピア』春秋社、グリンデほか『アメリカ建国とイロコイ民主制』みすず書房、ドガン『比較政治社会学の新次元』芦書房、日弁連『ビジネスと人権』、イシェイ『人権の歴史：古代からグローバリゼーションの時代まで』、明石書店、スターンズ人権の世界史』ミネルヴァ書房など
アムネスティインターナショナルやヒューマンライツウォッチ、フリーダムハウスのデータは適時配布する。
http://www.amnesty.org/　（アムネスティインターナショナルHP）
アムネスティ日本支部cl|https://www.amnesty.or.jp/
http://www.freedomhouse.org/　（フリーダムハウスHP）
http://www.hrw.org　（ヒューマンライツウォッチHP）
http://hrn.or.jp/（ヒューマンライツ・ナウHP）
https://www.v-dem.net/Varieties of Democracy研究所（ヨーテボリ大学）
http://www.indexoncensorship.org/　Index on Censorship（報道の自由）
http://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html　（法務省人権擁護局HP）
http://www.unic.or.jp/activities/humanrights/　（国連広報センタHP:一人権）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html　（外務省の人権部分）
「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html
https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library/upr.html「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分（日弁連）
http://www.jinken.or.jp/jinken-info　(HP:人権教育啓発推進センター HP)
https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/archives/法政大学大原社会問題研究所、社会問題・社会運動関連サイト（日本国内）
国会図書館電子図書館
http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html#denshi
国会図書館デジタルコレクション
http://dl.ndl.go.jp/
CiNii大学図書館の本を探すhttp://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja
「本の街」神田神保町オフィシャルサイトhttp://jimbou.info
京都人権マップhttps://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000206129.html

課題に対するフィードバックの方法

優秀なレポートについては、授業中に取り入れて批評する。

成績評価の方法

試験（70%）および3回の（30%）の3回のレポート（必修）によって評価する。

その他

レポート等でコピーペーストは厳禁、自分で考え自分の言葉で書くこと。
レポート提出は3回とも期限を守ること。

科目ナンバー：(PE)POL311J

政治体制変動論	2単位
	3年次

教授　外　池　　力

授業の概要・到達目標

私の教育目標は、以下の三つを身につけることです。
1　知的誠実さ
2　健全な批判精神
3　許す勇気
本講義の目的は、1・2年生で学んだ政治学や政治史の基本を、「民主化」、「和解」、「寛容」、「許し」、「人権」という軸を中心に発展させることにある。ここでは、政治体制の移行もしくは変動という視座を取ることにより、世界の政治の動態をマクロレベルで比較することが可能となる。
民主化について、「移行期の正義」というテーマにおいて独裁体制の犯罪への加担者を民主化後にいかに処遇するかといういわゆる「拷問者問題」などを中心に考える。この問題は「民族紛争」や「戦争犯罪」をどう考えるかということにも通ずる問題でもある。たとえばハンチントンは、民主化において過去の政治的犯罪について「裁くべからず、許すべからず、忘れるべからず」と論じているが、果たしてこのような結論は妥当なものであろうか。
旧社会主義国の民主化（東欧革命）、南アフリカのアパルトヘイト廃止、日本などの戦後処理、死刑問題などの実例を題材にしながら、このような裁きと許しや寛容の問題を歴史的、理論的に検討していく。そのなかで、デモクラシーや人権という概念の重要性や問題点を再検討する。
毎回、「人権タイム」として、アムネスティ・インターナショナルのニュースレター、FREEDOM HOUSE、ヒューマン・ライツ・ウォッチなどから日本と世界各地での進行形の人権弾圧の資料を紹介するので、自分の持つ倫理と理論を常に事実から検証していく態度を取ることが求められる。特に、講義を進めるなかで12月10日の国際人権デーに向かいてノーベル平和賞をはじめとする、多くの人権関連の賞やそれに関するニュースが増えるので、そのようなホットで論争的な題材に対する感受性を養い、自らの論理と倫理を深めることが到達目標である。
なお授業中に、来年度の「人権カレンダー」をプレゼントする。

授業内容

講義は次のような順序で行われる予定である。
なお、授業の最初の10～20分は、毎回、世界や日本の人権に関する最新のトピックを紹介する人権教育を行なう。
(1)　世界の民主化と自由化
　民主化の現状を、FREEDOM HOUSE やアムネスティなどの指標・資料を使って検討する
(2)　民主化の理論と民主主義の条件
　ハンチントンやダールなど議論を基本として民主化の理論を検討し、民主主義の条件を考える
(3)　体制の移行
　民主化を政治体制の移行という観点から考える。
(4)　拷問者問題について
　民主化と革命の関連を考えながら、旧体制の犯罪の扱いについて考えることで、正義と裁きの問題を検討する。
(5)　移行期の正義（1）
　日本などの戦後処理の事例を通じて、戦後の責任の追及のあり方を考え、戦後の思想を再検討する。
(6)　移行期の正義（2）
　南アフリカなどの「真実と和解委員会」のプロセスを検討し、裁きと許しの問題を考える。
(7)　移行期の正義（3）
　円卓会議や協定の問題と非暴力思想を、東欧革命など具体的事例を通じて考える。
(8)　民主化と寛容（1）
　デモクラシーを定着させるために必要な寛容について歴史的な視点で考える。特に寛容の父と言われるカステリオとその時代について学ぶ。
(9)　民主化と寛容（2）
　デモクラシーを定着させるために必要な寛容について政治思想的な視点で考える。
(10)　民主化と寛容（3）
　「他者」をどう位置づけるか、という視点から寛容の問題を考察する。
(11)　民主化と寛容（4）
　死刑制度について考えることで、裁きと許しの問題を進化させる。
(12)　世界の人権賞
　世界や日本の人権賞とノーベル平和賞について、平和と人権という観点から考える。
(13)　民主化とトラウマ
　独裁体制下での犠牲者の心の傷にどう対処するかを考える。集団のトラウマという問題を論じることで、体制と個人の関係を考える。
(14)　まとめ、総括
　政治体制を考えるにあたって人権という視点の重要性を考え、またデモクラシーの価値を再確認する。 また常識的な善悪の基準を差抗する必要性についても論じる

履修の注意点

自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、図書館と神田本の街を使いこなせるようになること。
毎回プリント資料を授業の進行よりも少し早めに配るのでそれらを通じて、予習・復習をすること。

準備学習の内容

各授業でプリントを幾つか配布するが、次の週の内容まで配布することが多いので、熟読しておくこと。またプリントの量が多いので、すべてを授業中に読めないので、未読の部分についても、熟読しておくこと。

教科書

特になし

参考書

ダール『ポリアーキー』三一書房、ハンチントン『第三の波』三嶺書房、ミフニク『民主主義の天使』同文舘、山本浩『真実と和解』NHK 出版、ボイン『国家の仮面が剥がされるとき』第三書館、ローゼンバーク『過去と闘う国々』新曜社、カメン『寛容思想の系譜』平凡社、亀井静香『死刑廃止論』花伝社、ハーマン『心的外傷と回復』みすず書房、ヘイナー『かたりえぬ真実』平凡社、ミノウ『復讐と赦しのあいだ』信山社、ロールズ他『人権について』みすず書房、アムネスティインターナショナルやヒューマンライツウォッチ、フリーダムハウスのデータは適時配布する。
http://www.amnesty.org/　（アムネスティインターナショナルHP）
アムネスティによる最新の死刑統計（2024年5月29日更新）https://www.amnesty.or.jp/human-rights/topic/death_penalty/#:~text
http://www.freedomhouse.org/　（フリーダムハウスHP）
http://www.hrw.org　（ヒューマンライツウォッチHP）
[url=https://www.crimeinfo.jp/data/dplist/]死刑確定者リスト ｜ CrimeInfo　（死刑など日本の犯罪統計に関する信頼できるサイト）
https://www.v-dem.net/Varieties of Democracy研究所（ヨーテボリ大学）
http://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html　（法務省人権擁護局HP）
http://www.unic.or.jp/activities/humanrights/　（国連広報センタHP:一人権）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html　（外務省の人権部分）
「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html
特に、第三回審査（2017年11月）の結果文書（仮訳）は
https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000346504.pdf＊第四回審査（2023年1月の結果文書は仮訳なし・英語のみ）
https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library/upr.html「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分（日弁連）
http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/法政大学大原社会問題研究所、社会問題・社会運動関連サイト（日本国内）
ヒューライツ大阪https://www.hurights.or.jp/japan/
The International Justice Resource Center（IJRC）の文献検索照会ページ
http://www.ijrcenter.org/research-aids/legal-analysis-books-articles-etc/#Book_Article_and_Working_Paper_Databases
国会図書館電子図書館
http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html#denshi
国会図書館デジタルコレクション
http://dl.ndl.go.jp/
CiNii大学図書館の本を探すhttp://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja
「本の街」神田神保町オフィシャルサイト
http://jimbou.info
神保町古書店MAP　https://jimbou.info/map/
日本の古本屋　＊AMAZONよりも安く見つかる場合もあります
https://www.kosho.or.jp/
京都人権マップhttps://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000206129.html

課題に対するフィードバックの方法

優秀なレポートについては、授業中に取り入れて評価する。

成績評価の方法

試験（70%）と3回のレポート（必修）（30%）で評価する

その他

レポート等でコピーペーストは厳禁、3回ともレポートの期限は守ること
授業中に本授業特製「人権カレンダー2023」を配布する

科目ナンバー：(PE)POL311J

比較政治論

4単位

3年次

専任講師　ベナサリオ・ベルルッ

授業の概要・到達目標

比較政治学は、複数の国・地域で生じている政治現象を主要な研究対象とし、それらを比較の視点から考察する学問分野である。本科目では、比較政治学の主要な理論と分析方法を紹介し、現代社会における様々な政治現象への理解を深めることを目的とする。具体的には、「民主主義」「アカウンタビリティ」「主権」など、政治学における重要概念の定義と測定方法について学ぶ。
その上で、「経済発展と民主主義はどのような関係にあるのか」、「権威主義体制は民主主義体制よりも効率的なのか」、「ポピュリズムは民主主義にとって脅威なのか」といった問いを取り上げ、理解を深めていく。
様々な政治現象について、比較政治学者が着目してきた概念、理論、仮説、分析枠組みを批判的に検討し、授業で学んだ内容を受講者自身の関心テーマに応用する力を身につけることが期待されている。本講義は、単なる知識の蓄積にとどまらず、比較政治学の多様なアプローチを理解したうえで、現実の政治現象を主体的かつ論理的に考察する姿勢を重視する。
そのため、授業内ではワークショップやグループ活動の時間を設けている。受講者は、これらの実践的な活動を通じて意見を交換し、異なる視点から様々な政治現象への理解を深めることが期待されている。

授業内容

第1回目　イントロダクション・オリエンテエーション：本講義の構成・進め方
第2回目　比較政治学とはどんな学問か：比較政治学では何を学ぶか、比較政治学の学問的な位置づけ
第3回目　比較政治学の手法：統計分析、数理モデル、事例研究
第4回目　政治分析の実践：議論のタイプ、科学としての政治学、政治分析の要素
第5回目　国家建設　①：なぜ国家が誕生したのか、社会的契約論
第6回目　国家建設　②：国家の誕生をゲーム理論で考える
第7回目　民主主義　①：民主主義の定義、民主化理論
第8回目　民主主義　②：民主主義の測定・質、民主主義の後退
第9回目　民主主義体制の種類：議院内閣制、大統領制、半大統領制
第10回目　民主主義の多様性：「多数決型」・「コンセンサス型」民主主義、拒否権プレイヤー
第11回目　ゲームのルール　①：選挙制度理論
第12回目　ゲームのルール　②：データで選挙制度の影響を読み解く
第13回目　選挙　①：投票行動理論（投票参加、投票の方向性）
第14回目　選挙　②：空間モデル
第15回目　政党と政党システム ①：政党システムの成立と変容、社会的亀裂、政党システムの類型
第16回目　政党と政党システム ②：有効政党数、政治的分極化、選挙ボラティリティ
第17回目　政治的対立の変容：「静かなる革命」、ポスト・マテリアリズム、ポピュリズム
第18回目　新たな対立軸：調査データで価値観を分析する
第19回目　福祉国家
第20回目　連立政権成立の過程
第21回目　権威主義体制　①　類型・特徴、権威主義体制下での選挙
第22回目　権威主義体制　②　ドキュメンタリー: How to Become a Tyrant?
第23回目　社会運動
第24回目　ティッピングポイント論
第25回目　アイデンティティ政治：民族集団、ナショナリズム
第26回目　民族アイデンティティの政治化
第27回目　レポートの発表、ディスカッション
第28回目　まとめ

履修の注意点

履修に当たって予備知識は必要ありません。ただし、本講義では授業への積極的な参加と政治への関心が求められます。

準備学習の内容

授業前に課されたリーディング課題・チャプターを熟読し、その内容を批判的な観点から考察すること。また、現代社会の問題に関心・好奇心をもって受講することが望まれる。

教科書

教科書：久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子. 2016. 『比較政治学の考え方』、 有斐閣.

参考書

必要に応じて授業中に追加のリーディングを提供します。

課題に対するフィードバックの方法

課題、プレゼンテーション、または期末試験に対するフィードバックは、対面またはオンラインミーティングを通じて行います。

成績評価の方法

平常点（20%）、グループ活動（20%）、レポート（20%）期末試験（40%）

その他

科目ナンバー：(PE)POL311E

比較政治論

4単位

3年次

専任講師　ベナサリオ・ベルルッ

授業の概要・到達目標

Comparative politics is a subfield of political science that examines political phenomena across different countries and regions. This course introduces the major theories and analytical frameworks in comparative politics and focuses on the definition and measurement of key concepts such as democracy, accountability, and sovereignty.
Throughout the course, we explore a set of core questions that shape contemporary political debates: "What is the relationship between economic development and democracy?" "Are authoritarian regimes more efficient than democracies?" and "Is populism a threat or a corrective to democracy?" To address these questions, students critically engage with concepts, theories, hypotheses, and analytical frameworks developed by leading scholars in comparative politics.
A central objective of the course is the development of critical thinking. As students acquire foundational knowledge of the major theories in comparative politics, they learn to analyze complex political phenomena in a systematic way and to evaluate competing explanations. The course also equips students with the theoretical and methodological tools necessary to conduct independent research on topics of personal interest and to connect theory with real-world political developments.
By the end of the course, students will have developed the ability to analyze political outcomes in an evidence-based manner and to produce well-reasoned and innovative interpretations. Workshops and group activities form an integral part of the course, as they provide opportunities for discussion, collaboration, and active engagement.

授業内容

Week 1: Introduction
Session 1　Introduction/Orientation：Organization of the course/logistics
Session 2　What is Comparative Politics? Comparative Politics as a subfield of political science
Week 2: Methods
Session 1　Comparative methods： Empirical methods, formal models, and case studies
Session 2（Workshop） Politics and Power: Exit, Voice, Loyalty
Week 3: The State
Session 1　How did states come about? Predatory vs Contractarian views of the state
Session 2（Workshop） Understanding the origin of the state using game theory
Week 4: Democracy
Session 1　Democracy:　Definition(s) of democracy, theories of democratization
Session 2（Workshop） Measurements of democracy and democratic quality, democratic backsliding
Week 5: Forms of Government
Session 1　Varieties of Democracy:　Who is more powerful, a prime minister or a president? Parliamentary vs presidential institutions
Session 2（Workshop） Majoritarian vs Consensus Democracy, veto players
Week 6: Electoral Institutions
Session 1　The rules of the game:　Electoral institutions
Session 2（Workshop） Seat allocation methods, electoral districts, and Gerrymandering
Week 7: Party Competition
Session 1　Elections:　Theories of voting behavior
Session 2（Workshop） Spatial models
Week 8: Party Systems
Session 1 Parties and party systems: Origins of party systems, social cleavages
Session 2（Workshop） Electoral reforms and party system change
Week 9: The Silent Revolution
Session 1　Dimensions of competition:　The Silent Revolution and the rise of post-materialism
Session 2（Workshop） Analyzing value preferences using survey data
Week 10: The Welfare State
Session 1　Welfare regimes, Neoliberal reforms
Session 2（Workshop） Coalition Formation Theory
Week 11: Authoritarian Regimes
Session 1　Classification and key characteristics of autocratic regimes
Session 2　Documentary on authoritarian regimes
Week 12: Social Movements
Session 1　Social Movements, contentious politics, tipping models
Session 2　Documentary on social movements
Week 13: Populism
Session 1　Populism, polarization, and democratic backsliding
Session 2　Discussion session
Week 14: Wrap-up Class
Session 1　Students' presentations
Session 2　Summary

履修の注意点

No prior knowledge is required for this course. However, active participation in class and an interest in politics are expected.

準備学習の内容

Students are required to thoroughly read the assigned readings with a critical eye before each session. Additionally, active engagement in the topics discussed during the course is highly encouraged.

教科書

We do not follow a specific textbook. The course adopts a first-hand (primary source) approach: academic readings shall be made available to students in advance.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments, presentations, or the final exam will be provided either in person or through online meetings.

成績評価の方法

In-class performance, Groupwork, Reports（60%）
Final exam（40%）

その他

科目ナンバー：(PE)POL331J

比較政治論（東アジア）

4単位

3年次

教授　堀　金　由　美

授業の概要・到達目標

「実験」による理論・仮説の検証が簡単ではない政治学の世界において、「比較」という方法は、理論化・モデル化のための極めて重要なツールである。研究・観察の目的が、一般化（理論化・モデル化）ではなく、単にひとつの事象を理解しようとする場合にも、一見不要とも思われる他との「比較」という作業は、実はそのひとつの事象の理解を飛躍的に深めてくれる可能性を持っている。

そこで本講義では、この「比較」というツールを手に、東アジア（東南アジアを含む）の政治を眺めてみたい。日本をも含むこの地域は、かつて世界銀行による「東アジアの奇跡」という表現に象徴されたように、20世紀後半の国際政治経済のなかで、注目に値するめざましい発展をとげ、今や、世界経済を牽引する「エンジン」として、さらなるダイナミックな成長を続けている。この発展の軌跡を、開発（経済発展）と民主化という現代世界の２つのキーワードを中心的切り口として概観し、「比較」することとする。最終的にひとつの「東アジア政治経済モデル」の構築を目指すか、あるいは比較に基づいたより強固な「韓国型」「インドネシア型」政治経済モデルへと向かうのか、それは参加者各自の興味と意思とにまかせることとしたいが、いずれにせよ、この作業を通して得られた知識と経験・視点は、履修者が後に他地域の政治を見る際にも有益なものとなるとともに、東アジア地域および今後ますます重要性を増すグローバルサウスの政治経済を理解するにあたって、有用な知識のベースを提供することとなろう。

なお、上記テーマに加え、いわゆる歴史認識問題や朝鮮半島情勢、あるいはアジア（インド）太平洋の経済統合に向けた動きなど、今日のアジアと日本との関係を考える際に重要ないくつかのトピックについても、適宜考える機会を取り入れることとしたい。

授業内容

［１］総論
第１回：イントロダクション：東アジアの政治を見る目ーー「東アジア」とは？なぜ「東アジア」を学ぶのか？日本とアジアの関係を考える
第２回：東アジアの政治・社会の多様性と『東アジアの奇跡』
第３回：方法論：政治を「比較」するとは？社会科学としての政治学およびその一領域としての比較政治学
第４回：開発過程を理解するためのアプローチ：ポリティカル・エコノミー
第５回：歴史的背景（１）産業革命と植民地支配の歴史
第６回：歴史的背景（２）冷戦
第７回：途上国の経済社会開発に関する既存の理論（１）近代化論、発展段階説
第８回：途上国の経済社会開発に関する既存の理論（２）従属論
第９回：戦後東アジアの政治経済を見る理論：ジョンソンの日本モデルと開発主義国家
第10回：戦後東アジアの政治経済を見る理論：ジョンソンの日本モデルその２
第11回：ジョンソンモデルの東アジアへの応用
第12回：開発主義モデルの発展（１）ハガードのポリティカル・エコノミー
第13回：開発主義モデルの発展（２）エバンスの略奪国家と開発主義国家、コーリのモデル
第14回：戦後社会科学の理論的発展と開発主義国家論の位置づけ、まとめ
第15回：民主主義の理論：ダールの『ポリアーキー』
第16回：20世紀後半の民主化：ハンティントンの『第三の波』
第17回：第一部で学んだ理論の復習―東アジアの開発主義モデル
［２］各論：戦後東アジア諸国の開発と政治、民主化
第18回：朝鮮半島の政治、分断と日本のかかわり
第19回：ケース（１）韓国：開発主義韓国のポリティカル・エコノミー（その１．歴史的背景と制度、環境）
第20回：ケース（１）韓国：開発主義韓国のポリティカル・エコノミー（その２．民主化と先進国化）
第21回：ケース（１）韓国：理論モデルと歴史の再検討）
第22回：ケース（２）台湾：第二のモデル（その１．歴史的背景と中台関係）
第23回：ケース（２）台湾：第二のモデル（その２．韓国との比較）
第24回：ケース（３）東南アジア諸国の開発主義（その１．シンガポール、マレーシア）
第25回：ケース（３）東南アジア諸国の開発主義（その２．インドネシア、タイ、そして「奇跡」から外れたフィリピン）
第26回：まとめ　　東アジアの開発と政治・民主化、「奇跡」以外の国々
第27回：まとめと考察（１）21世紀の世界における開発主義ー21世紀モデルの有用性
第28回：まとめと考察（２）グローバルサウスの台頭と今後の世界

履修の注意点

経済政策は、先進国・途上国の別にかかわらず、いかなる国においても現代政治における最大の争点のひとつである。経済政策の政治的意味を理解するには、まず、その政策の経済的意味がわからねばならない。そこで、本講義のみならず、現代社会をよりよく理解する術として、別途経済学の基礎知識（特にマクロ経済学や貿易・産業政策に関する知識）を身につけるよう、何らかの形で努力してほしい。本講義についても、経済学の基礎知識がある方が、より理解が深まるであろう。

また、同じく「現代」に対する理解を促進するため、歴史、特に近代以降の世界史、東アジア史、日本史を各自が復習しなおすことを期待したい。現代を理解するために歴史は必須である。

なお、前半で学ぶモデルと後半の実証、すなわち現実に照らしたモデルの再検討は、切り離しがたい密接な関係を有する一連の知的作業をなす。モデルへの理解なくして比較の作業は意味をなさないので、万一、講義に出席できない事情がある場合には、Oh-o!Meiji 上にアップする授業資料などを参照の上、必ず自己の責任においてその内容をフォローしてほしい。

準備学習の内容

理解を助けるための開講前の準備としては、参考文献の欄に記載の『アジア政治を見る眼』を読んでおくことが望まれる。その他の参考文献については、本シラバス記載のもの以外も含め、講義の進捗に合わせて随時紹介するので、積極的に参照してほしい。「知りたいこと」について検索して調べることと、本を読んで学習することは同じではない。思考力・議論や文章の組み立て方を学ぶためには、多くの本や論文を読むことを強く推奨しておきたい。
毎回の準備については、毎回、授業で用いるパワーポイントのファイルを事前にOh-o! Meijiにアップしておくので、それをダウンロードして目を通した上で授業に参加すること。また、随時関連参考書を紹介するので、復習およびさらなる視野の拡大のため、ぜひ、参照してほしい。いつくかの重要参考書については、選択制のレポート課題図書として指定するので、積極的に取り組んでもらいたい。

教科書

特に指定なし。

参考書

『アジア政治とは何か―開発・民主化・民主主義再考』岩崎育夫、中央公論社　2009年
『アジア政治を見る眼―開発独裁から市民社会へ』岩崎育夫、中公新書　2001年
『20世紀システム　４．開発主義』、東京大学社会科学研究所編、東京大学出版会　1998年
『アジア経済論　新版』、原洋之介（編）、NTT 出版　2001年
『新興アジア経済論―キャッチアップを超えて』、末廣昭、岩波書店　2014年
『第三の波－20世紀後半の民主化』、S. P. ハンティントン、白水社　2023年
『ポリアーキー』、ロバート・A. ダール、岩波文庫、2014年
『アジアの政治経済・入門　新版』、片山裕・大西裕（編）、有斐閣ブックス　2010年

なお、この他にも、授業において各回の内容に応じた参考文献を紹介するので、各自の興味に応じて積極的に参照の上、興味・視野を広げていただきたい。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業のリアクションペーパーへのコメントも含め、日ごろのフィードバックは授業中に全体に伝えることとする。ただし、Oh-o!Meiji を通じて提出される中間レポートへのフィードバックは、授業中の全体に対するフィードバックに加え、Oh-o!Meiji 上で個別に返すこととする。

成績評価の方法

原則として、平常点（積極的参加と授業への貢献度）40％、および中間レポート30％、期末試験30％を目安とし、総合的に評価する。ただし、選択制の課題レポートに取り組む等、特に積極的な参加については、加点の対象とする。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL391J

計量政治学	2単位
	3年次

教授　井　田　正　道

授業の概要・到達目標

現代社会、現代政治を理解するためには、データの分析は不可欠である。この授業では、現代の政治と社会を理解するために、まず、統計調査の歴史、世論調査の技法、そしてデータの見方について講義する。デモクラシーにおいては国民に主権があり、それゆえ、世論の研究は必要不可欠である。そこで、次に、日本における有権者政治の展開について個々の分析事例を取り上げて考える。受講者は、この授業から、政治の数量アプローチの基礎的理解とその意義について考える力を身につけてほしい。

授業内容

第1回目　a. イントロダクション
第2回目　政治学の科学化と数量化
第3回目　世論・意識調査の技法
第4回目　データの種類
第5回目　基本統計量
第6回目　計量分析の手法（1）
第7回目　計量分析の手法（2）
第8回目　集計データを用いた計量分析（1）
第9回目　集計データを用いた計量分析（2）
第10回目　集計データを用いた計量分析（3）
第11回目　個票データを用いた計量分析（1）
第12回目　個票データを用いた計量分析（2）
第13回目　個票データを用いた計量分析（3）
第14回目　まとめ

履修の注意点

統計に関する説明は板書ないしはMicrosoft Excelを使用して行う（その場合はスクリーンに投影）。

準備学習の内容

しっかりと復習をすること。

教科書

井田正道（2025）『日本の選挙と有権者』北樹出版

参考書

酒井隆（2012）『アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター
井田正道（2013）『世論調査を読む』明治大学出版会

課題に対するフィードバックの方法

WEBにて知識問題の解説を行う。

成績評価の方法

定期試験（100%）

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL391E

計量政治学	2単位
	3年次

専任講師　加　藤　言　人

授業の概要・到達目標

政治学（political science）を「科学（science）」たらしめているものは何か。本講義の目的は、政治「科学」者が政治現象をいかに記述し、説明しているのかを学ぶことである。印象や推測に基づく結論を避けるため、政治学者は、自らの主張や研究成果を客観的かつ説得力のあるものにするためのルールや方法を発展させてきた。本講義では、政治学における計量的手法に特に焦点を当てる。受講生は、計量政治学研究で用いられる主要な概念や手法を学び、統計ソフトウェアRを用いてそれらを実行する方法を習得するとともに、個人またはグループで簡単な研究を自ら行う機会を得ることになる。

授業内容

第1回　イントロダクション――政治を「科学」する
第2回　因果関係の探究
第3回　データと測定
第4回　二変量OLS（最小二乗法）
第5回　仮説検定
第6回　多変量OLS
第7回　中間レビューおよび試験
第8回　ダミー独立変数
第9回　モデルの特定化
第10回　パネルデータ・モデル
第11回　ダミー従属変数
第12回　最終レビューおよび試験
第13回　データおよび分析結果の提示
第14回　研究プロジェクト発表

履修の注意点

政治過程研究の分野における代表的な方法論には、実証分析とゲーム理論／フォーマル・モデルがある。本講義では、これらのうち前者に特に重点を置く。そのため、受講生には、データの統計分析を用いた研究方法に対する一定の関心と学習意欲が求められる。
分析の実行にあたっては、本講義では統計ソフトウェアR（https://www.r-project.org）を使用する。統計学や統計ソフトウェアに関する事前知識は必須ではないが、プログラミングを用いて因果関係を検証する問いに取り組む意欲を持つことが望まれる。
講義の詳細については、変更する可能性もあるので、第1回講義のイントロダクションに出席すること。成績評価方法の詳細についても同じく第1回講義で説明する。

準備学習の内容

講義で導入された手法は、「実際に行う」ことによって復習すること。内容を暗記するだけではなく、習得したスキルを用いて自ら分析を実行してみることが重要である。学期中には、複数回のプログラミング課題が課される。講義で扱う内容と指定文献の内容が必ずしも完全に一致するとは限らないが、指定文献は予習または復習のために活用すること。

教科書

Bailey, Michal A. 2021.*Real Stats: Using Econometrics for Political Science and Public Policy.*2nd ed. Oxford Univ. Pr.

参考書

Imai, Kosuke. 2017.*Quantitative Social Science: An Introduction.*Princeton Univ. Pr.
Kellstedt, Paul M., and Guy D. Whitten. 2013.*The Fundamentals of Political Science Research.* 2nd ed. Cambridge Univ. Pr.

課題に対するフィードバックの方法

課題・試験のフィードバックについては、ウェブシステムを用いて行う予定である。詳細については第1回講義で説明する。

成績評価の方法

プログラミング課題（25%）、授業内試験（25%）、研究プロジェクト（40%）、その他の参加度（授業内ディスカッションへの積極性、オフィスアワーの活用等）（10%）で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL311J	
政治行動論	2単位
	3年次
教授　井　田　正　道	

授業の概要・到達目標

この授業では、主として、日本の選挙と有権者意識に焦点を当て、展開していく。まず、大衆社会論や投票行動研究について紹介する。次の選挙制度論についてその基礎知識から説明する。さらに日本における小選挙区比例代表並立制の導入過程およびその帰結について論じる。さらに、日本人の政治意識に焦点を当て、実証分析の結果を解説する。特に若者の政治意識に焦点を当て、若者の政治意識や投票行動の特徴について過去にさかのぼって解説する。受講者は、この授業から、政治行動の基礎的理解とその意義について考える力を身につけてほしい。

授業内容

第1回目　a. イントロダクション
第2回目　大衆社会論
第3回目　政治行動論の発達
第4回目　政治的態度（1）
第5回目　政治的態度（2）
第6回目　選挙制度
第7回目　日本における並立制の導入とその帰結
第8回目　投票参加の理論と分析
第9回目　若者と政治（1）
第10回目　若者と政治（2）
第11回目　政治意識の分析（1）
第12回目　政治意識の分析（2）
第13回目　地方選挙の計量分析
第14回目　まとめ

履修の注意点

遅刻をしないこと。

準備学習の内容

教科書をよく読んでおくこと。

教科書

井田正道（2025）『日本の選挙と有権者』北樹出版

参考書

加藤秀治郎・永山博之編著（2024）『名著で学ぶ政治学』一藝社

課題に対するフィードバックの方法

授業中に講評を行う。

成績評価の方法

レポート（30%）
定期試験（70%）

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL331J

国際関係史

4単位

3年次

教授　川　嶋　周　一

授業の概要・到達目標

現在の国際社会はいかなるアクターによって成り立ち、いかなるダイナミズムに基づいて行動することで成り立っていくのか。そしてその成り立ちはいかなる構造を作り出していくのか。国際関係史とは、グローバルな視点の下から、「いま」の「世界（＝国際社会）」がどのような過去から成り立っていったのかを検討していく学問である。国際関係の歴史を学問的知見によって切り取ったとき、かつて高校や受験で習った「世界史」とは異なる、暗記に留まらない歴史認識と世界認識を持つことが可能となるだろう。そのような認識を涵養することが、本講義の目的である。

ただし、現在の国際社会が成立する契機となる17世紀のヨーロッパから21世紀のグローバルな国際社会の展開までを講義するには数年分の講義を必要とするので、一年間で講義できる内容はごく一部である。本年度は、2022年２月に発生したロシアによるウクライナ侵攻（ウクライナ戦争）の衝撃に鑑み、本講義のメインは冷戦期とし、その後冷戦後の国際秩序の成立と展開について多くの時間を取る。

また、本講義では数年前より、手探りながらも講義科目におけるグループ・ディスカッションを実施している。講義内容を踏まえ、履修者は論点について考え、事前にリサーチし、そして見知らぬ履修者とディスカッションを行う。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　「国際関係史」とはいかなる学問か？
第３回　「ヨーロッパ的」近代国際体系の成立と拡大：ウエストファリアから19世紀まで
第４回　20世紀国際社会の登場（１）：戦間期国際秩序の成立
第５回　20世紀国際社会の登場（２）：戦間期国際秩序の失敗
第６回　奈落の底へ：第二次世界大戦の勃発
第７回　地の底からの眺め：第二次世界大戦中における戦後ビジョン
第８回　戦後秩序の構築に向けて
第９回　戦後秩序のセトルメント：冷戦世界の登場と確立
第10回　戦後秩序のセトルメント：グローバルな冷戦とそのフィードバック
第11回　冷戦秩序の中の非冷戦的展開
第12回　グループ・ディスカッション（その１）
第13回　冷戦的対立の諸相（１）：核をめぐる国際関係
第14回　冷戦的対立の諸相（２）：音楽・文化・芸術における冷戦的対立
第15回　冷戦構造と戦後秩序の変容（１）：1970年代における構造転換
第16回　冷戦構造と戦後秩序の変容（２）：1980年代と現代世界への脱皮
第17回　「シャボウツキー同志、ベルリンの壁はどうなるのですか？」：冷戦終焉の物語（１）
第18回　「シャボウツキー同志、ベルリンの壁はどうなるのですか？」：冷戦終焉の物語（２）
第19回　ドイツ再統一の国際政治史（１）：ポスト冷戦秩序の起点としてのドイツ統一
第20回　ドイツ再統一の国際政治史（１）：ドイツ統一の四つのモデル
第21回　湾岸戦争からソ連解体へ
第22回　冷戦終焉とポスト冷戦世界秩序の生成：ヨーロッパ安全保障秩序再編をめぐって
第23回　冷戦後1990年代国際政治の展開：旧ユーゴ内戦、国連平和維持活動の活性化、テロ
第24回　冷戦後1990年代国際政治の展開：アメリカの「帝国化」とEU再編
第25回　コソヴォ紛争以降のヨーロッパの対露政策の展開（１）
第26回　コソヴォ紛争以降のヨーロッパの対露政策の展開（２）
第27回　フラットな世界とバックラッシュ：グローバリゼーションとポピュリズムを歴史的に考える
第28回　まとめと総括およびグループ・ディスカッション（その２）

履修の注意点

上記授業内容は変更があり得るので、講義を履修する予定の学生は、必ず第１回のガイダンスに出席されたい。ガイダンスにて、詳しい講義予定、参考文献リスト、成績評価法を説明する。

本講義の内容は、一見すると高校までの「世界史」の内容に似ているが、世界史履修者であるかどうかはあまり関係がない。重要なのは、20世紀の歴史については、ある程度知っておいた方が得である。その点で、映像教材であるが、DVD『映像の世紀』を全巻視聴しておくことを、**強く**薦める。 また、この講義は基本的に政治学の枠内で展開されるので、さまざまな政治学関連科目をよく勉強してほしい。

準備学習の内容

DVD『映像の世紀』を全巻視聴しておくこと。 参考書を入手し、内容について把握しておくこと。

教科書

開講時に指示する。

参考書

詳しい参考書リストを第１回のガイダンスで配布する予定だが、とりあえず以下が主要な参考書である（出版年順）。
石井修『国際政治史としての20世紀』（有信堂高文社、2000年）；佐々木雄太『国際政治史：世界戦争の時代から21世紀へ』（名古屋大学出版会、2011年）；ロバート・マクマン『冷戦史』（勁草書房、2018年）；小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史：主権国家体系の歩み』（有斐閣、2018年）；森聡・福田円（編著）『入門講義　戦後国際政治史』（慶応義塾大学出版会、2022年）

課題に対するフィードバックの方法

課題の〆切の翌週の講義冒頭に、フィードバックを行う。

成績評価の方法

定期試験（50%）およびディスカッションに関するレポート（50%）。ただし、出席へのインセンティブとして、平常点を設ける。平常点については、毎回質問票・感想票を配布し、記入のあったもののみ、点数としてカウントする。詳細はガイダンスで説明する。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL331E

国際関係史

4単位

3年次

特任教授　アベシンヘ　ムディヤ

授業の概要・到達目標

Course Summary
This course provides a comprehensive overview of the historical development of International Relations (IR) as both a practice and an academic discipline. While the formal study of IR emerged in the early twentieth century, the course traces the evolution of international interactions from ancient civilizations to the contemporary global system. Beginning with inter-state relations in Ancient Greece and the Roman Empire, the course examines the expansion of diplomacy, warfare, economic cooperation, and peace-making across different historical periods. It further explores the emergence of the modern nation-state system, the impact of major global events such as the World Wars, the Cold War, decolonization, and the rise of globalization. By analyzing key historical milestones, institutions, and actors, the course aims to enhance students' understanding of how the modern international system has been shaped and how historical processes continue to influence contemporary international relations.
Course Objectives
After the successful completion of this course module, students will be able to:
1. Understand the historical foundations of International Relations and explain how the discipline emerged through the evolution of the international system.
2. Identify major historical events, state behaviors, and non-state actors that contributed to the development of international relations.
3. Analyze the characteristics, structure, and dynamics of the modern international system and their implications for international relations.
4. Develop critical and analytical skills to assess historical developments and their continuing impact on contemporary global politics.

授業内容

Course Content
1st week: **Introduction to International Relations and development of IR as an academic discipline**
-Definition and Scope of IR
-Importance of Studying the Historical Development of IR
-Overview of the Evolution of IR as an Academic Discipline
2nd Week: **Inter-State Relations in Ancient Greece**
-Greek city-states and early diplomacy
-Economic cooperation, warfare, and peace treaties in ancient Greece
3rd Week: **The Rise and Collapse Roman Empire and Expansion of International Relations**
-Expansion of diplomatic practices and foreign relations in Rome
-Economic and military alliances during the Roman Empire
4th Week: **Emergence of Nationalism and Modern Nation-State system**
-Treaty of Westphalia and it's impact to the international system
5th Week: **French Revolution and it's impact on International System**
-Treaty of Uterich and Treaty of Vianna
6th Week: **World War I and the League of Nations**
-Causes and consequences of World War I
-Creation of the League of Nations and its strengths and weaknesses
7th Week: **The Interwar Period and Rise of Totalitarianism**
-Economic and political instability in the interwar period
-Rise of fascism, communism, and nationalism
-Failures of the League of Nations and the lead-up to World War II
8th Week: **World War II and the Formation of the United Nations**
-Causes and global impacts of World War II
-Establishment of the United Nations: goals, structure, and principles
-The UN's role in fostering international cooperation and peace

9th Week: **Consequences of World War II in International System and International Relations**
-Decolonization and the rise of newly independent states
10th Week: **The Cold War and Bipolar International System**
-Ideological rivalry between the U.S. and the Soviet Union
11th Week: **End of the Cold War and a New World Order**
-Factors Leading to the End of the Cold War
-Collapse of the Soviet Union and U.S. Dominance
-The Concept of a "New World Order" and Its Implications for IR
12th Week: **Rise of Third World**
-Non-Aligned Movement
13th Week: **Globalization and International Relations in the 21st Century**
-Defining Globalization and Its Impact on IR
-Challenges of Global Governance and Multilateralism
-Rise of Non-State Actors: NGOs, MNCs, and Terrorist Organizations
14th Week: **Discussions**

履修の注意点

Students who wish to join this module must be enrolled before the course begins. Follow the guidelines provided by the graduate school.

準備学習の内容

Students are expected to engage in preparatory learning by reading the assigned materials uploaded to the learning platform prior to each class session. After each session, students should review lecture content and related readings to reinforce key concepts, reflect on discussions, and prepare for upcoming topics and assessments.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

After screening the submitted assignments, Specific and targeted comments will be provided concerning the various aspects of the assignment, referring to specific criteria or guidelines for a comprehensive evaluation. Constructive criticism, presented in a growth mindset, will guide the student's improvements without judgment. This would help students understand their strengths, weaknesses, and areas for improvement.

成績評価の方法

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-219232" data-gramm="false"〉 Final Exam 60%, Assignment 20%, Attendance 20%

その他

科目ナンバー：(PE)POL331J

アジア政治論	2単位
	3年次

兼任講師　平　川　幸　子

授業の概要・到達目標

「台湾海峡の平和と安定」は、日本の外交安全保障政策はもちろん、米中関係やインド太平洋地域の国際政治を理解する上でのキーワードである。このテーマに対し、毎回の授業で、1）近代からの歴史的背景の知識習得、2）変動する台湾社会への専門的理解、3）中国・米国・日本との関係、及び国際社会における台湾の地位に関する考察、などを行う。到達目標は、歴史的、理論的な学問的理解に加えて、時事的な内容も多く取り入れて最新情勢を分析できる観察眼を養うことである。講義では映像教材なども多用し理解を深めていく。また、履修者の主体的な発表討論、相互フィードバックの機会をできる限り取り入れる。

授業内容

第1回目：イントロダクション（台湾を国際関係学の視点から研究する意義）、
第2回目：オランダ支配から清朝統治まで
第3回目：日清戦争と日本の台湾統治
第4回目：第二次世界大戦時の台湾
第5回目：中国内戦（国民党と共産党）
第6回目：国民党の敗北と台湾への退却
第7回目：冷戦下での「二つの中国」問題
第8回目：1970-1990年代の台湾
第9回目：李登輝時代の台湾
第10回目：陳水扁時代の台湾
第11回目：馬英九時代の台湾
第12回目：蔡英文時代の台湾
第13回目：グローバル社会と台湾
第14回目：総括と討論

履修の注意点

授業は、講義と討論を組み合わせた形で行う。討論は講義の進行状況に合わせながら複数回行う。学生間の意見交換、相互フィードバックなども行うので、主体的参加が強く求められる。

準備学習の内容

毎回の授業で指定された文献を事前に読んだ上で参加すること。討論に際しては準備課題を事前に示すので必ず提出した上で授業に出席すること。毎回の授業の最後にはリアクションペーパーを書いて復習や気づきの点、更なる質問を明確化し、次回授業につなげていく。

教科書

『台湾の歴史』若林正丈（講談社学術文庫）2023年

参考書

『台湾を知るための72章』赤松美和子、若松大祐編著（明石書店）2022年

課題に対するフィードバックの方法

課題は討論準備という形式を取り、授業内でフィードバックを行う。リアクション・ペーパーに書かれた内容も授業内で紹介し、必要により追加的な討論を行う。

成績評価の方法

授業貢献度（討論への参加、準備課題やリアクションペーパー）50%
期末レポート　50%

その他

科目ナンバー：(PE)POL331E

アジア政治論	2単位
	3年次

特任教授　アベシンヘ　ムディヤ

授業の概要・到達目標

Course Summary
This course offers an in-depth examination of Asian politics by analyzing the political systems, processes, and key issues shaping the region. It explores Asia as a diverse and dynamic political space influenced by historical legacies, ideological currents, socio-economic transformations, and global power shifts. The course covers major themes such as state-building, governance, democratization, nationalism, political economy, security, regionalism, identity politics, gender, religion, and human rights. Through comparative and case study-based analysis of East Asia, South Asia, Southeast Asia, and Central Asia, students will develop a nuanced understanding of how domestic, regional, and international factors interact in shaping political outcomes. Emphasis is placed on Asia's growing significance in global politics and its emerging role as a center of political and economic power in the 21st century.
Course Objectives
After the successful completion of this course module, students will be able to:
1. Analyze the significance of Asia as a major political, economic, and strategic region in the global political system.
2. Explain the historical, political, and economic foundations of governance and political processes across different Asian countries and sub-regions.
3. Critically assess the dynamics of ideology, power relations, identity, and social change shaping contemporary Asian politics.
4. Evaluate regional and global power rivalries, security challenges, and emerging trends influencing the balance of power in Asia.

授業内容

Course Content
1st week: Introduction to Asian Politics
-Overview of the course,
-Understanding Asia as a geopolitical geo-economics and cultural region
-Historical and colonial legacies shaping Asian politics
2nd week: Political Systems in Asia
-Comparative analysis of political systems: authoritarianism, constitutional monarchy democracy, military rule and hybrid regimes
-Case studies: China, India, Japan, and Southeast Asian countries
3rd week: State-Building and Nation-Building process in Asia
-Ethnicity, religion, and nationalism
-Role of state institutions in managing diversity
-Case studies: Pakistan, Indonesia, South Korea, and Malaysia
4th week: Democratization and Political Transitions
-Party politics growing trend in alliance politics
-Authoritarian resilience and Challenges to democratization: civil-military relations, rule of law, and civil society
-Case studies: Taiwan, Thailand, Myanmar, and the Philippines
5th week: Identity Politics and Ethnic Conflict
-Ethnicity, religion, and ethno nationalism in Asia
-Identity-based movements and conflicts
-Case studies: Tibet, Xinjiang, Sri Lanka, and Myanmar
6th week: Political Economy of Asia
-Economic development models in Asia
-State capitalism and market-oriented reforms
-Regional economic integration: ASEAN, East Asia, and South Asia
7th week: Social Movements and Civil Society
-Role of social movements in shaping political change
-Civil society organizations and advocacy groups
-Case studies: Hong Kong, Taiwan, India, and Bangladesh
8th week: Security Dynamics in Asia
-Traditional and non-traditional security threats
-Territorial disputes and regional tensions
-Case studies: China's rise, North Korea's nuclear program, and maritime disputes
9th week: Regionalism and growing alliance in Asia
-ASEAN and its role in regional cooperation
-Other regional organizations: SAARC, APEC, and SCO
-Regional integration initiatives and challenges
-Quadrilateral Security Dialogue(QUAD)
10th week: Gender and Politics in Asia
-Gender roles and political representation
-Women's empowerment and policy issues
-Case studies: Japan, South Korea, and India
11th week: Religion and Politics in Asia
-Role of religion in shaping political ideologies
-Interplay between religion and state
-Religious extremism Case studies: Islamic extremism in South and Southeast Asia, Hindu nationalism in India
12th week: Human Rights and Transitional Justice
-Human rights challenges in Asia
-Truth and reconciliation processes
-Case studies: Cambodia, Sri Lanka, and Timor-East
13th week: Security Challenges in Asia
-Traditional and non-traditional security threats
-Power dynamics and great power politics in the region
-Case studies: Sino-US rivalry, North Korea's nuclear program, and territorial disputes
14th Week: Emerging Powers and growing balance of power in Asia
-Rise of China and India as global and regional powers
-Prospects for regional cooperation and conflicts
-Emerging trend and issues in Asian politics

履修の注意点

Students who wish to join this module has to be enrolled prior to the course begins. Follow the guidelines provided by the graduate school.

準備学習の内容

Students are expected to complete the assigned readings and review relevant materials uploaded to the learning platform prior to each class session. After each session, students should revisit lecture content, reflect on discussions, and review supplementary readings to strengthen their understanding of key concepts and prepare for subsequent topics and assessments.

教科書

参考書

Christian, David. (2000). Silk roads or steppe roads? The silk roads in world history. In: Journal of World History 11（1）: 1-26
Croissant, Aurel and Lorenz Philip. (2018). Comparative Politics of Southeast Asia: An Introduction to Government and Politics and Political Regime. Switzerland: Springer
Frank, Andre Gunder. (1998). Reorient: Global Economy in the Asian Age. Berkeley: University of California Press.
Hauner, Milan (1989): Central Asian Geopolitics in the Last Hundred Years: A Critical Survey from Gorchakov to Gorbachev. In: Central Asian Survey 8: 1-19
Hauner, Milan (1992): What is Asia to us? Russia's heartland yesterday and today. London: Routledge.
Funston, John (Ed) (2001). Government and Politics in South East Asia. Singapore: Institute of South East Asian Studies
Wirada, Howard J. and Lena Tan (Ed). (2005). Comparative Politics: Critical concepts in Political science. Vol.3. The politics of Asia. London: Routledge

課題に対するフィードバックの方法

After screening the submitted assignments, Specific and targeted comments will be provided concerning the various aspects of the assignment, referring to specific criteria or guidelines for a comprehensive evaluation. Constructive criticism, presented in a growth mindset, will guide the student's improvements without judgment. This would help students understand their strengths, weaknesses, and areas for improvement.

成績評価の方法

Final Exam 60%, Assignment 20%, Attendance 20%

その他

科目ナンバー：(PE)POL331J

アメリカ政治論	2単位
	3年次

兼任講師　石　川　敬　史

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
2026年は、アメリカが 1776 年 7 月 4 日に「独立宣言」を公表してから 250 年に当たります。アメリカ史におけるこの記念日 を言祝ぐ大統領が トランプ という人物で となったことは歴史学的にも政治学的にもとても興味深いので はないで しょうか。この授業で は、現代の出来事をアメリカ史の構造の中に位置づけて再検討いたします。
【到達目標】
アメリカ合衆国を政治と文化を歴史的文脈から理解で きるようになることを目指します。

授業内容

1. カ イダ ンス
授業全体の概要と方針、成績評価方法についての解説を行います。
2. アメリカ史の原風景ー植民地時代における「アメリカ的個性」の形成
・ヨーロッパ 人のアメリカ大陸への入植
・インク ランド 領北アメリカ植民地の形成史
・「アメリカ人」の原型とは何か
3. 1776 年 7 月 4 日の『独立宣言』ー反乱と革命の間
・アメリカ植民地とイキ リス本国の対立はなせ 起こったのか
・「独立宣言」という文書の構造
・世界史の中の独立宣言
4. 政治思想史の中のアメリカ合衆国憲法ー革命についての解釈をめぐ る対立
・アメリカ合衆国憲法か 制定された理由
・アメリカ合衆国憲法の構造
・アメリカ合衆国憲法はアメリカ革命の終わりなのか始まりなのか
5. 孤立主義の「アメリカ帝国」ーモンロー・ド クトリンの深層
・モンロー・ド クトリンとは何か
・アメリカ帝国の胎動
6. 第 7 代大統領アント リュー・シ ャクソンとは何者かーアメリカの民主主義
・共和政から民主政への転換ーアメリカ合衆国はいつから民政主義国家になったのか
・先住民虐殺者にして奴隷農園フ ランターの民主主義
7. 南北戦争に示されるアメリカの肖像ー「人民」と「革命」(1)
・綿花の帝国
・アンテイ・ヘ ラム期のアメリカ
8. 南北戦争に示されるアメリカの肖像ー「人民」と「革命」(2)
・共和党の誕生
・エイブ ラハム・リンカンの肖像 ・南北戦争ーアメリカ合衆国と戦争
9. 再建期
・南北戦争の目的をめぐ る対立
・憲法修正 13 条ー奴隷制の廃止
・憲法修正 14 条ーアメリカ市民権を再解釈する契機 ・人種差別の歴史の始まり
10. 関税から概観するアメリカ政治史(1)
・「フェテ ラリスツ」と「リハ フ リカンス 」の分裂の一要因としての通称政策
・アント リュー・シ ャクソンの政策的特徴
・「金ぴ か時代」の共和党の関税政策
11. 関税から概観するアメリカ政治史(2)
・革新主義時代の大統領たち
・第 28 代大統領ウッド ロー・ウィルソンと民主党復活の契機
12. 関税から概観するアメリカ政治史(3)
・通商政策としての第一次世界大戦
・「平常への復帰」から観るアメリカ
・恐慌の到来と 1932 年の大統領選挙
13. 「アメリカの世紀」再考
・戦争の違法化
・冷戦期の政策としての自由貿易
・1970 年代の保守派の台頭
14. 授業のまとめ
・授業全体の補足
・「トランプ のアメリカ」から観るアメリカ
・筆記試験についての案内

履修の注意点

特段の予備知識は必要ありませんが 日本語を理解で きることが 望ましいで す。
歴史的に考えることに興味のある学生が 望ましいで す。
授業後に「Oh-o! Meiji」に資料を掲示することが ありますので 自宅あるいはノートパ ソコンで システムを利用で きるようにして下さい。

準備学習の内容

全体として復習に重点をおいた学修を心が けて下さい。目安は下記です。
予習:前回授業の資料とノートの確認。参考文献の該当箇所の確認。(各回約 1 時間)
復習:授業で 配布した資料とノートの整理。参考文献の該当箇所の精読。(各回約 3 時間)

教科書

教科書は指定しません。毎回の授業ご とに資料を配布します。

参考書

1. 久保文明・岡山裕、アメリカ政治史講義、東京大学出版会、2022
2. 古矢旬・三浦俊章[訳]、アメリカ大統領演説集、岩波文庫、2025

課題に対するフィードバックの方法

・いつでも遠慮せずに教員に質問してください。
・教員へのメールでの質問に対応します。
・講義中でも疑問があれば挙手をして質問してください。
・「Oh-o! Meiji」を使用したコミュニケーションを行います。

成績評価の方法

筆記試験(100%)
※配布資料とノートの持ち込みを可とします。
※ノートをパソコンやタブレットなどでとっている学生は、プリントアウトした紙媒体で持参してください。

その他

下記 URL は、この授業の担当者についての案内で す。
担当教員はアメリカ革命史を専門としています。
https://researchmap.jp/read0074086

科目ナンバー：(PE)POL331J

ラテンアメリカ政治論	2単位
	3年次

兼任講師　大　場　樹　精

授業の概要・到達目標

現在のラテンアメリカでは、1980年代以降続いてきた民主主義体制のほころびやそれに対する市民の不満が高まっている。それはなぜか。本授業は、まずラテンアメリカ政治の歴史的な展開と特徴を学ぶ。そのうえでサブリージョンごとに歴史的経緯と現在の政治および社会について、事例を取り上げながら検討する。
なお、ラテンアメリカはカリブ海諸国も含めると33ヵ国あるが、授業では主にスペイン語圏およびポルトガル語圏の国々を取り上げる。
最終的には、①サブリージョンごとの特徴と歴史展開を説明できること、②現在地域で起こっている政治的な現象の共通点と相違点について説明できることを目標とする。

授業内容

第1回目　はじめに：ラテンアメリカ政治の現在
第2回目　現代ラテンアメリカの基底・背景
第3回目　政治体制の変動
第4回目　国家の能力と代表のあり方、市民社会
第5回目　民主主義の課題
第6回目　アメリカ合衆国との関係
第7回目　新しい地域外アクター
第8回目　人の移動
第9回目　メキシコ
第10回目　中米・カリブ地域
第11回目　アンデス諸国
第12回目　ブラジル
第13回目　南米南部
第14回目　日本とラテンアメリカとの関係
※情勢をふまえて取り上げる事例を変更する場合があります。

履修の注意点

原則として教科書に沿って進めるが、扱う内容は教科書の順序とは入れ替えて進める。

準備学習の内容

授業内容の理解を確認するための授業後課題に取り組む（基本的には毎回）。授業後課題は、授業内容をふまえて各自でさらなる情報収集が必要な場合がある。

教科書

村上勇介・出岡直也・山岡加奈子編『現代ラテンアメリカ政治』法律文化社、2025年。

参考書

舛方周一郎・宮地隆廣『世界の中のラテンアメリカ政治』東京外国語大学出版会。
松下洋・乗浩子編著『ラテンアメリカ政治と社会（全面改訂版）』新評論。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の冒頭で、前の回の課題についてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加度（10%）、授業後課題・リアクションペーパー（40%）、期末試験（50%）

その他

科目ナンバー：(PE)POL331J

アフリカ政治論

2単位

3年次

兼任講師　佐　藤　　光

授業の概要・到達目標

日本においてアフリカは遠い地域であるが、近年、外交的のみならず、ビジネスの点からも重要な地域となっている。およそ約12億人が暮らすアフリカは、著しい経済成長によって光り輝いている一方、紛争や貧困など多くの問題も残されている。

本授業では、サハラ以南アフリカ地域における政治現象を理解するため、まず歴史的な背景を概観し、その後民主化や貧困、国際社会との関係などの問題について適宜事例を紹介しながら検討する。最終的には、「アフリカの抱える政治状況や問題がどのような特徴を持つのか」、「問題を解決するために何が必要であるのか」などについて、自ら考察する能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第１回目　a:イントロダクション
　　b:アフリカの歴史（１）：アフリカ分割と植民地支配
第２回目　アフリカの歴史（２）：独立と国家建設
第３回目　アフリカの歴史（３）：権威主義体制
第４回目　アフリカの歴史（４）：経済危機と構造調整
第５回目　アフリカの民主化（１）：民主化の条件・類型・特徴①
第６回目　アフリカの民主化（２）：民主化の条件・類型・特徴②
第７回目　アフリカの民主化（３）：民主主義の後退・権威主義体制の強化
第８回目　アフリカと紛争（１）：民族と国家
第９回目　アフリカと紛争（２）：平和構築
第10回目　アフリカと貧困（１）：貧困の現状・背景
第11回目　アフリカと貧困（２）：貧困対策
第12回目　アフリカと国際社会（１）：難民問題
第13回目　アフリカと国際社会（２）：開発援助①アフリカと中国
第14回目　a:アフリカと国際社会（３）：開発援助②アフリカと日本
　　b:授業全体のまとめ

履修の注意点

授業内容は、履修する学生の政治学や国際関係論、アフリカ政治などに関する知識や理解度を踏まえ調整する。この授業を通じて、アフリカの抱える課題への理解を深めるためにも、積極的に考える姿勢をもって履修してもらいたい。

準備学習の内容

授業前までに資料を配布するので、資料に目を通すこと。また併せて、関連する図書等の該当箇所を読むこと。

教科書

特に定めない。授業ごとに資料を配布する。

参考書

特に定めない。テーマが多岐にわたるため、参考文献については授業ごとに随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容（質問等）については、翌授業の際に説明する。

成績評価の方法

リアクションペーパーの提出・内容（20%）、中間レポート（30%）、定期試験（ただし、履修者数などの状況によっては期末レポートに変更する場合がある）（50%）により総合的に評価する。

その他

授業の配布資料は、事前に Oh-o! Meijiに上げる予定である。必要な場合は、各自が印刷して授業に出席すること。

科目ナンバー：(PE)POL331J

ロシア政治論

2単位

3年次

教授　外　池　　力

授業の概要・到達目標

教育目標は、以下の三つを身につけることです。
1　知的誠実さ
2　健全な批判精神
3　許す勇気
ソ連は既に歴史となり、ロシア史のなかの一つの時代を指し示すにすぎないと言われるようになった。しかし、現在のロシアの政治を考えるだけでなく、現代世界の政治経済、歴史、思想を考えていくうえで、社会主義、革命、計画経済、スターリン主義、収容所、全体主義、そしてそれらに対する反発と超克への努力と挫折などのテーマを考察することは重要である。「誤った倫理は、搾取工場や強制収容所や死の行進へ向かうための、欠かせない一歩なのだ。」（サイモン・ブラックバーン）という言葉が示すように、より良き社会の構築を目指した人々が手にした政治体制が、あまりに「野蛮」なものだったというプロセスについては、まさに思考の糧といえる題材である。また日本において、ソ連をモデルにした革命が挫折した歴史についても、「蟹工船」などプロレタリア文学、転向、党派間の闘争、などのテーマを通して、なぜ、「戦争」と「人権抑圧」を防ぐことができなかったのかについても検討する。また同時に、現代のロシアの政治についても、その制度や政治文化、また人権問題などを通じて、考察を進める。
また中国のスターリン主義ともいえる毛沢東主義についても、その特性を検討し、現代に通じる20世紀の革命の政治史についても考える。
具体的な到達目標としては、冷戦崩壊後、直接的には理解がしにくくなった革命、社会主義、ソ連などへの理想化とその挫折について、20世紀の政治史、思想史を読み解くためだけでなく、現在の政治、社会を考えるためにも有効な視座を得ることにある。また、数回課すレポートと試験などを通じて、自分の独自の意見を表現できるようにする。

授業内容

講義は次のような順序で行われる予定である。
（1）　問題意識の設定、資料の収集と研究方法
　　図書館や図書検索の使い方の簡単なおさらいと神保町古本街の歴史と巡り方（安く本を手に入れる方法）などを教える。
（2）　マルクスの思想やスターリン主義への批判を通して社会主義、そしてソビエト・ロシアを考える
　　ソ連崩壊から約20年経ち、20世紀の歴史、政治、思想を理解する重要なファクターである「社会主義国」の意味や実態について理解するのが困難になっているともいえる。そこで現在的視点から社会主義を多角的に概観する。
（3）　ソ連の崩壊と現代ロシア政治
　　ソ連体制のどこに問題があったかを考え、現在のロシア政治の特徴を考察する。
（4）　ソ連・ロシアの人権問題と政治
　　ソ連時代と現代ロシアの人権問題などを題材に、ロシアの政治について考える。
（5）　ロシア革命とその影響
　　ロシア革命が世界各国の政治、経済、文化に与えた影響は多大なものがあり、これをめぐる論争を紹介し、現代に通じる問題提起をする。
（6）　収容所問題
　　ソ連における強制収容所の歴史とメカニズムを考察する。ソ連における強制収容所についての研究を紹介し、現代への含意を思想的な視点をまじえて論じる。
（7）　芸術と政治（1）
　　ソ連の文学運動と「蟹工船」に代表される日本の戦前のプロレタリア文学運動の連関を事例にしながら、全体主義体制下の芸術やロシア革命・ソ連が日本の思想に与えた影響について考える。特に転向問題を題材とし、この時代の複雑な倫理の問題を考察する。
（8）　芸術と政治（2）
　　ソ連の文学運動と日本の戦前のプロレタリア文学運動の連関を事例にしながら、「転向」や「政治と文学」の問題を視野に入れる。
（9）　ソルジェニーツィンと『収容所群島』
　　ソルジェニーツィンの『収容所群島』が世界に与えたインパクトやその意義を考えることで、体制と人間について考える。サルトル・カミュ論争などを通じて政治とテロル（政治的暴力）についても考える
（10）　スターリン主義の考察
　　スターリンとスターリン主義について、歴史家の議論だけでなく、さまざまな思想家の見解を検討しながら、そのメカニズムを考える。
（11）　全体主義論について
　　全体主義論とその応用、全体主義概念の有効性ついて検証する。また毛沢東主義について考察し、現代史における革命を考察する。
（12）　独裁体制下の民衆
　　これまでの議論を援用しながら、独裁下の民衆の生活や心理を考え、独裁体制のメカニズムを論じる。独裁体制に「普通の人々」はいかに関わったのか、という問題を通して、政治体制と市民の関わり考える。
（13）　「普通の人々」
　　独裁体制を支えていたのは異常な人々ではなく、むしろ「普通の人々」であることを、ナチズムやスターリン主義の研究成果なども援用しながら、考察する。
（14）　まとめ、総括

履修の注意点

自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、図書館と神田本の街を使いこなせるようになること
授業中に、プリントを授業の進行よりも少し早めに配布するので、予習・復習に利用すること。また神保町古書店に行って、古書店 MAP を手に入れワンコインで本をともかく買ってみること。

準備学習の内容

各授業でプリントを幾つか配布するが、次の週の内容まで配布することが多いので、熟読しておくこと。またプリントの量が多いので、すべてを授業中に読めないので、未読の部分についても、熟読しておくこと。

教科書

なし

参考書

ソルジェニーツィン『収容所群島』１～６巻、新潮文庫、
トドロフ『極限に面して』法大出版会、
ボッファ『スターリン主義とはなにか』大月書店、
ギル『スターリニズム』岩波書店、
ゲッテイ『大粛清への道：ソ連極秘資料集』大月書店、
マンデリシターム『流刑の詩人マンデリシターム』新潮社、
松本健一編『詳解現代論争事典』流動出版、
アプルボーム『グラーグ』白水社、
富田武『シベリア抑留：スターリン独裁下、「収容所群島」の実像』中央公論新社
吉本隆明『マチウ書試論・転向論』講談社文芸文庫、
ブラウニング『普通の人々』筑摩書房、
ファイジズ『囁きと密告』白水社、
ネイマーク『スターリンのジェノサイド』みすず書房
トラヴェルソ『全体主義』平凡社
藤崎蒼平、セルゲイ・ペトロフ『ロシア反体制派の人々』Ⅰ、Ⅱ、未知谷
国会図書館電子図書館
http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html
CiNii大学図書館の本を探す
http://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja
「本の街」神田神保町オフィシャルサイト
http://jimbou.info
ソ連時代のテロルの犠牲者のデータベース
http://lists.memo.ru/index.htm
シベリア抑留者犠牲者データベース
http://yokuryu.world.coocan.jp/meibo2.html（村山常雄によるもの）https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/syakai/soren/itiran/index.html（厚生省によるもの「）

課題に対するフィードバックの方法

優秀なレポートについては、授業内に取り入れて紹介する予定である

成績評価の方法

年３回のレポート（必修）（30%）と試験（70%）で評価する

その他

レポート等でコピーペーストは厳禁、レポートの提出期限は３回とも守ること

科目ナンバー：(PE)POL331J

東欧政治論

2単位

3年次

教授　外池　力

授業の概要・到達目標

私の教育目標は、以下の三つを身につけることです。
1　知的誠実さ
2　健全な批判精神
3　許す勇気
東欧地域の政治に関して、これらの地域の各国の特色を踏まえながら、人権やナショナリズムなどを軸にして考える。ウクライナ侵攻にみられるようなロシアの大国主義を、周辺諸国との政治と関連づけながら論じていく。また特に各国のデモクラシーの状況やエネルギー問題など現在ロシアと東欧諸国の関係で重要になっている諸点を考察する。またこの地域の人権問題に絡めて、社会運動についても紹介する。
またソ連崩壊後多発した民族紛争について、これらの地域の民族の多様性を踏まえながら、各国のナショナリズムや民族紛争なども含め幾つかのケースを取り上げながら、様々なナショナリズムに関する理論を検討する。その際に、ナショナリズムの理論や思想についての考察を読み解く作業も行う。そしてユダヤナショナリズムであるシオニズムについてもパレスチナ難民を生み出した「ナクバ」の論理と倫理を通じて検討する。
社会主義とナショナリズムについても、インターナショナリズムと関連性に焦点をあてて考察する。この地域の様々な民族紛争や反ユダヤ主義の問題をポグロムやホロコーストのメカニズムや原因を探ることによって考察する。また現在、この地域で強まっている極右勢力についても考察する。
ナショナリズムは、どの国も自国の特殊性、優位性を主張するが、比較すれば、その本質的構造は同様であり、ナショナリズムの過度の強調は問題があることを気づくことと同時に、他国や過去の民族紛争や民族差別の経験の反省が、現在の自分たちにも生かすことができるということを学び、被害者意識が攻撃性を生むことや「わかりやすい説明」の危険などの普遍的テーマについても考察する。

授業内容

講義は次のような順序で行われる予定である。
（1）　はじめに:本授業の進め方、評価方法、概要など
（2）　東欧の政治:歴史と文化
（3）　東欧の政治:CIS 諸国も含めその政治問題の概観
（4）　ロシア・東欧のナショナリズム、民族問題
（5）　ナショナリズム、民族問題についての理論や思想
（6）「幻想の共同体」、「共同幻想論」などの検討
（7）　日本のナショナリズムについて
（8）　社会主義とナショナリズム:インターナショナリズムについて
（9）　ロシア・東欧の反ユダヤ主義について（ポグロムの歴史と構造）
(10)　ロシア・東欧の反ユダヤ主義について（ホロコーストの考察）
(11)　日本における反ユダヤ主義（陰謀論批判など）
(12)　ソ連における反ユダヤ主義（内戦のポグロムから出国問題まで）
(13)　被害者意識と攻撃性、シオニズムとナクバについて
(14)　まとめ・総括

履修の注意点

自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、図書館と神田本の街を使いこなせるようになること
また課題のレポート等では、自分の考えと文献の引用箇所をはっきり区別すること。

準備学習の内容

プリントが事前に授業の進行より早めに配るので、予習・復習に利用すること。

教科書

なし

参考書

ジマー『ナショナリズム』岩波書店、
アンダーソン『想像の共同体』リブロポート、
吉本隆明『共同幻想論』角川ソフィア文庫、
吉本隆明「日本のナショナリズム」同編『ナショナリズム』筑摩書房、
デーヴィス『ナショナリズムと社会主義』岩波書店、
ポロンスキ『小独裁者たち』法大出版会、
アニコー『ロシア、中・東欧ユダヤ民族史』彩流社
アレイヘム『屋根の上のバイオリン弾き』早川書房、
ヴィーゼル『沈黙のユダヤ人』白水社、
ギテルマン『葛藤の一世紀』サイマル出版会、
グロス『アウシュヴィッツ後の反ユダヤ主義』白水社、
スナイダー『ブラッドランド』（上）（下）筑摩書房
スナイダー『ブラックアース』（上）（下）慶応大学出版会
野村真理『ガリツィアのユダヤ人』人文書院
バシール他『ホロコーストとナクバ：歴史とトラウマについての新たな話法』水声社
国会図書館電子図書館
http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html#denshi
国会図書館デジタルコレクション
http://dl.ndl.go.jp/
「本の街」神田神保町オフィシャルサイト
http://jimbou.info
ホロコーストの犠牲者データベース
https://yvng.yadvashem.org/

課題に対するフィードバックの方法

優秀なレポートについては、授業中に取り上げる。

成績評価の方法

年3回のレポート（必修）（30%）と試験（70%）で評価する。

その他

レポート等でコピーペーストは厳禁、3回のレポートの提出期限を守ること

科目ナンバー：(PE)SOC311J

現代社会学【2021年度以前入学者】	4単位
	3年次

専任講師　税　所　真　也

授業の概要・到達目標

《授業の概要》 社会学は社会科学の一分野であり、産業革命や市民革命を経て成立した近代社会を対象に、社会の構造や変化、人と人との関係性について考察する学問です。なかでも家族や親密な人間関係の問題は、個人的で身近なことのように思われがちですが、それらは時代や社会のあり方によって形を大きく変えるものです。この授業では、女性の社会進出、雇用の不安定化、ライフコースの変化、未婚化や離婚・再婚者の増加、セクシュアルマイノリティの存在の可視化、家族の多様性など現代社会における家族の様相を、社会構造の変動と関連させて社会学的に理解していきます。

《授業の到達目標》 ①社会学の基本的な視点・考え方・基礎知識を習得する。②日本の近代化と社会変動を社会学的想像力を通じて現代社会を総合的に把握する力を身につける。③現代社会における家族とジェンダーを理解するのに必要な概念や理論を習得する。

授業内容

第1回目　社会学の成立と現代社会
第2回目　ウェーバー：方法論的個人主義
第3回目　デュルケーム：方法論的集合主義
第4回目　ジンメル：方法論的関係主義
第5回目　家族社会学の視点
第6回目　女性のライフコースの変容と家族
第7回目　社会的承認としての婚姻・家族
第8回目　同性婚とクイア家族
第9回目　少子化と生殖の権利・義務
第10回目　家族の個人化と墓の継承
第11回目　ジェンダーと性別役割分業
第12回目　育メンとワーク・ライフ・バランス
第13回目　共働き夫婦と子育て
第14回目　親密性と共同生活
第15回目　ジェンダーと家族社会学の視点
第16回目　家庭の中のジェンダー
第17回目「女らしさ」という課題
第18回目「男らしさ」のゆくえ
第19回目　教育とジェンダー
第20回目　文化の中のジェンダー
第21回目　歴史の中のジェンダー
第22回目　性差別とジェンダー
第23回目　労働とジェンダー
第24回目　ジェンダー政策のゆくえ
第25回目　国際社会とジェンダー
第26回目　スポーツとジェンダー
第27回目　セクシャリティとジェンダー
第28回目　性暴力とジェンダー
＊授業内容は進度に応じて調整・変更することがあります。

履修の注意点

講義ではペアワークやグループワークなど相互学習をはじめアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて展開します。

準備学習の内容

授業内で紹介される課題文献を読み、毎回400字程度のコメントカードを提出してください。

教科書

毎回、授業時に資料を配付します。

参考書

伊藤公雄・牟田和恵・丸山里美編、2025、『ジェンダーで学ぶ社会学〔第4版〕』世界思想社.

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にコメントカード（各回400字程）を指定された方法で提出してください。

成績評価の方法

「授業後のコメントカード」(40%)、「記述試験」(60%) により評価します。

その他

遅刻しないように注意してください。20分以上の遅刻はコメントカードの提出を認めないことがあります（受講は認めます)。

科目ナンバー：(PE)SOC311J	
現代社会学Ａ【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次
専任講師　税　所　真　也	

授業の概要・到達目標

社会学は社会科学の一分野であり、産業革命や市民革命を経て成立した近代社会を対象に、社会の構造や変化、人と人との関係性について考察する学問です。なかでも家族や親密な人間関係の問題は、個人的で身近なことのように思われがちですが、それらは時代や社会のあり方によって形を大きく変えるものです。この授業では、女性の社会進出、雇用の不安定化、ライフコースの変化、未婚化や離婚・再婚者の増加、セクシュアルマイノリティの存在の可視化、家族の多様性など現代社会における家族の様相を、社会構造の変動と関連させて社会学的に理解していきます。

《授業の到達目標》

①社会学の基本的な視点・考え方・基礎知識を習得する

２日本の近代化と社会変動を、社会学的想像力を通じて現代社会を総合的に把握する力を身につける

③現代社会における家族とジェンダーを理解するのに必要な概念や理論を習得する。

授業内容

第１回目　社会学の成立と現代社会
第２回目　ウェーバー：方法論的個人主義
第３回目　デュルケーム：方法論的集合主義
第４回目　ジンメル：方法論的関係主義
第５回目　家族社会学の視点
第６回目　女性のライフコースの変容と家族
第７回目　社会的承認としての婚姻・家族
第８回目　同性婚とクイア家族
第９回目　少子化と生殖の権利・義務
第10回目　家族の個人化と墓の継承
第11回目　ジェンダーと性別役割分業
第12回目　育メンとワーク・ライフ・バランス
第13回目　共働き夫婦と子育て
第14回目　親密性と共同生活
＊授業内容は進度に応じて調整・変更することがあります。

履修の注意点

講義ではペアワークやグループワークなど相互学習をはじめアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて展開します。

準備学習の内容

授業内で紹介される課題文献を読み、毎回400字程度のコメントカードを提出してください。

教科書

毎回、授業時に資料を配付します。

参考書

伊藤公雄・牟田和恵・丸山里美編、2025、『ジェンダーで学ぶ社会学〔第４版〕』世界思想社.

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にコメントカード（各回400字程）を指定された方法で提出してください。次の授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

「授業後のコメントカード」(40%)、「記述試験」(60%) により評価します。初回授業時に説明します。

その他

遅刻しないように注意してください。20分以上の遅刻はコメントカードの提出を認めないことがあります（受講は認めます)。

科目ナンバー：(PE)SOC311J	
現代社会学Ｂ【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次
専任講師　税　所　真　也	

授業の概要・到達目標

社会学は社会科学の一分野であり、産業革命や市民革命を経て成立した近代社会を対象に、社会の構造や変化、人と人との関係性について考察する学問です。なかでも家族や親密な人間関係の問題は、個人的で身近なことのように思われがちですが、それらは時代や社会のあり方によって形を大きく変えるものです。この授業では、女性の社会進出、雇用の不安定化、ライフコースの変化、未婚化や離婚・再婚者の増加、セクシュアルマイノリティの存在の可視化、家族の多様性など現代社会における家族の様相を、社会構造の変動と関連させて社会学的に理解していきます。

《授業の到達目標》

①社会学の基本的な視点・考え方・基礎知識を習得する

②日本の近代化と社会変動を、社会学的想像力を通じて現代社会を総合的に把握する力を身につける

③現代社会における家族とジェンダーを理解するのに必要な概念や理論を習得する。

授業内容

第１回目　ジェンダーと家族社会学の視点
第２回目　家庭の中のジェンダー
第３回目　「女らしさ」という課題
第４回目　「男らしさ」のゆくえ
第５回目　教育とジェンダー
第６回目　文化の中のジェンダー
第７回目　歴史の中のジェンダー
第８回目　性差別とジェンダー
第９回目　労働とジェンダー
第10回目　ジェンダー政策のゆくえ
第11回目　国際社会とジェンダー
第12回目　スポーツとジェンダー
第13回目　セクシャリティとジェンダー
第14回目　性暴力とジェンダー
＊授業内容は進度に応じて調整・変更することがあります。

履修の注意点

講義ではペアワークやグループワークなど相互学習をはじめアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて展開します。

準備学習の内容

授業内で紹介される課題文献を読み、毎回400字程度のコメントカードを提出してください。

教科書

毎回、授業時に資料を配付します。

参考書

伊藤公雄、2008、『ジェンダーの社会学〔新訂〕』放送大学教育振興会.

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にコメントカード（各400字前後）を指定された方法で提出してください。次の授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

「授業後のコメントカード」(40%)、「記述試験」(60%) により評価します。初回授業時に説明します。

その他

遅刻しないように注意してください。20分以上の遅刻はコメントカードの提出を認めないことがあります（受講は認めます)。

科目ナンバー：(PE)SOC391J

現代社会心理学【2021年度以前入学者】

4単位

3年次

准教授　樋　口　　収

授業の概要・到達目標

社会心理学は人の社会性を支える心の働きについて明らかにする学問である。本講義ではとくにその基礎的なメカニズムや、他者の存在によって個人の思考や感情がどのように影響されるかについて概説する。

本講義の到達目標は（1）社会心理学の専門用語を理解すること、（2）社会心理学の研究データを理解できるようになること、（3）その用語を用いて人の社会性について説明できるようになることである。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　長期記憶
第3回　短期記憶
第4回　注意
第5回　感情
第6回　感情予測
第7回　態度
第8回　自尊心
第9回　自己制御①
第10回　自己制御②
第11回　社会心理学実験の体験
第12回　自己中心性
第13回　身体性認知
第14回　まとめ
第15回　テスト解説
第16回　選択におけるバイアス①
第17回　選択におけるバイアス②
第18回　社会的影響①
第19回　社会的影響②
第20回　社会的影響③
第21回　偏見①
第22回　偏見②
第23回　社会心理学実験の体験
第24回　心の進化
第25回　感情②
第26回　偏見③
第27回　偏見④
第28回　総括

履修の注意点

講義中の私語は厳禁である。また初回のイントロダクションでは課外学習などについても説明をするので「必ず」参加すること。どうしても出席できない場合には「事前」に樋口まで「理由を含めて」連絡をすること（email:ohgc29[at]meiji.ac.jp:[at]は@にする）。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて変更することもある。

準備学習の内容

各回の最後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読すること。

教科書

使用しない。

参考書

『社会心理学』池田謙一他（著）（有斐閣）2010年
『進化と感情から解き明かす社会心理学』北村英哉・大坪庸介（著）（有斐閣）2012年

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiシステムを通じておこなう。

成績評価の方法

授業への参加度（20%）、期末試験（80%）

その他

この講義の資料はOh-o! Meijiシステム上にあげるので、各自がそこから利用すること
（なお、掲載期間は限定するので、注意すること。詳細は、初回に説明をする）。

また、この講義では講義内あるいは講義外で社会心理学の実験を実施する予定である。参加は任意であるが、必ず良い経験になるので、興味をもって参加して欲しい。

科目ナンバー：(PE)SOC391J	
現代社会心理学Ａ【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次
准教授　樋　口　　収	

授業の概要・到達目標

社会心理学は人の社会性を支える心の働きについて明らかにする学問である。本講義ではとくに基礎的なメカニズムに焦点をあて概説する。

本講義の到達目標は（1）社会心理学の専門用語を理解すること、（2）社会心理学の研究データを理解できるようになること、（3）その用語を用いて人の社会性について説明できるようになること、である。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　長期記憶
第3回　短期記憶
第4回　注意
第5回　感情
第6回　感情予測
第7回　態度
第8回　自尊心
第9回　自己制御①
第10回　自己制御②
第11回　社会心理学実験の体験
第12回　自己中心性
第13回　身体性認知
第14回　まとめ

履修の注意点

講義中の私語は厳禁である。また初回の講義に課外学習などについても説明をするので**「必ず」参加する**こと。どうしても出席できない場合には**「事前」に樋口まで「理由を含めて」連絡をする**こと（email: ohgc29[at]meiji.ac.jp: [at]は@にする）。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて変更することもある。

準備学習の内容

各回の最後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読すること。

教科書

使用しない。

参考書

『社会心理学』池田謙一他（著）（有斐閣）2010年
『進化と感情から解き明かす社会心理学』北村英哉・大坪庸介（著）（有斐閣）2012年

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji システムを通じておこなう。

成績評価の方法

授業への参加度（20%）、期末試験（80%）

その他

この講義の資料はWeb上にあげるので、各自が印刷して講義に参加すること（具体的な場所については、初回のガイダンスで説明する）。

また、この講義では講義内あるいは講義外で社会心理学の実験を実施する予定である。参加は任意であるが、必ず良い経験になるので、興味をもって参加して欲しい。

科目ナンバー：(PE)SOC391J	
現代社会心理学Ｂ【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次
准教授　樋　口　　収	

授業の概要・到達目標

社会心理学は人の社会性を支える心理的基盤について明らかにする学問である。本講義では他者の存在によって、個人の思考や感情がどのように影響されるかについて概説する。

本講義の到達目標は（1）社会心理学の専門用語を理解すること、（2）社会心理学の研究データを理解できるようになること、（3）その用語を用いて人の社会性について説明できるようになること、である。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　選択におけるバイアス①
第3回　選択におけるバイアス②
第4回　社会的影響①
第5回　社会的影響②
第6回　社会的影響③
第7回　偏見①
第8回　偏見②
第9回　社会心理学実験の体験
第10回　心の進化
第11回　感情②
第12回　偏見③
第13回　偏見④
第14回　まとめ

履修の注意点

講義中の私語は厳禁である。また初回の講義に課外学習などについても説明をするので**「必ず」参加する**こと。どうしても出席できない場合には**「事前」に樋口まで「理由を含めて」連絡をする**こと（email: ohgc29[at]meiji.ac.jp: [at]は@にする）。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて変更することもある。

準備学習の内容

各回の最後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読すること。

教科書

使用しない。

参考書

『社会心理学』池田謙一他（著）（有斐閣）2010年
『進化と感情から解き明かす社会心理学』北村英哉・大坪庸介（著）（有斐閣）2012年

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji システムを通じておこなう。

成績評価の方法

授業への参加度（20%）、期末試験（80%）

その他

この講義の資料はWeb上にあげるので、各自が印刷して講義に参加すること（具体的な場所については、初回のガイダンスで説明する）。

また、この講義では講義内あるいは講義外で社会心理学の実験を実施する予定である。参加は任意であるが、必ず良い経験になるので、興味をもって参加して欲しい。

科目ナンバー：(PE)SOC391J

産業心理学	2単位
	3年次

兼任講師　羽　岡　邦　男

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
本講義では、産業社会における人間の行動を、「働く者(労働者)としての行動」ならびに「“個人行動”と“集団・組織全体としての行動”」という観点から掘り下げます。具体的には、人事(動機づけ、能力開発、キャリア)、組織行動(集団・組織での課題遂行やリーダーシップ)、作業(ヒューマンエラー)に、ワーク・ライフ・バランスや職業性ストレスとメンタルヘルスといった項目を織り交ぜながら、労働の場における人間行動の特徴・問題点・課題について考えます。
＜到達目標＞
下記の授業内容を通じて、労働・業務組織(職場)における人間行動の特徴を理解すると共に、労働・業務組織が抱える種々の問題や課題に関して、現実的な改善策・解決策を考察することを第一の到達目標とします。さらに本講義の内容を通じて、受講生の皆さん一人ひとりが職業人としての方向性や将来像をより明確にすることを第二の到達目標とします。

授業内容

第1回　aのみ イントロダクション：産業心理学とは（何を対象としているのか）
第2回　仕事への動機づけ（1）：動機づけとは、代表的な内容理論、内発的動機づけと外発的動機づけ
第3回　仕事への動機づけ（2）：職務満足感、動機づけ－衛生理論、代表的な過程理論
第4回　キャリアとキャリア設計：キャリアの概念、キャリア設計の必要性
第5回　職業能力の捉え方：採用時に求められる職業能力、職業能力の捉え方、コンピテンシーとは
第6回　人事アセスメント：人事管理と人的資源管理、人事アセスメントとは、職業適性検査
第7回　集団と組織：集団の概念、組織の概念、個人と組織の関係、心理的契約
第8回　組織活動の課題：効率的なコミュニケーションとは、集団での課題遂行・問題解決、フリーライダーとは
第9回　リーダーシップ（1）：リーダーシップの定義、リーダーシップ研究の系譜と主な理論（特性論・行動論）
第10回　リーダーシップ（2）：主なリーダーシップ理論（状況論・認知論・変革論）
第11回　ヒューマンエラー：種類、発生の機序、対策
第12回　職業性ストレス（1）：ストレスの定義、職場におけるストレス要因、主なストレスモデル
第13回　職業性ストレス（2）：今日の労働環境とストレス、職場におけるサポート、職場うつ病対策
第14回　ワーク・ライフ・バランス： 働き方への課題
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

まず、履修する／しないの判断は自分自身で行ってください。すなわち、当シラバスを熟読して、「なぜこの講義を履修するのか」「この講義は自分にとってどのような意味を持つのか」などの点をしっかりと考えた上で、履修に対する判断をしてください。
また、受講に際しては、常に「問題意識」を持ってください。それぞれのテーマに対して、主体的に考える姿勢を持ち、「自分なら、どう判断するか？」「自分なら、どのように行動するか？」を常に心がけながら受講してください。

準備学習の内容

毎回、講義終了時に当該講義の内容に基づいた課題の提出を求めます。この課題、ならびにレジュメを用いての復習を通じて、理解を確実なものにしてください。
あわせて、次回講義に関する「要点（キーワード）」も提示しますので、参考図書・文献・関連する報道（ニュース）等に目を通すなどの準備学習を行ってください。

教科書

教科書は特に定めません。毎回、講義内容を要約したレジュメを配布します。但し、レジュメは当該講義回以外でも用いる場合がありますので、配布済みの分も毎回必ず持参するようにしてください。

参考書

『産業・組織心理学エッセンシャルズ　第4版』外島裕監修・田中堅一郎編（ナカニシヤ出版）2019年
『産業・組織心理学を学ぶ（産業・組織心理学講座 第1巻）』金井篤子編（北大路出版）2019年
『人を活かす心理学（産業・組織心理学講座 第2巻）』小野公一編（北大路出版）2019年
『組織行動の心理学（産業・組織心理学講座 第3巻）』角山剛編（北大路出版）2019年
『よりよい仕事のための心理学（産業・組織心理学講座 第4巻）』芳賀繁編（北大路出版）2019年

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題については、必ず次回講義にて要点を解説します。また、必要に応じてクラスウェブ上でも閲覧できるように対応します。

成績評価の方法

授業への参加度（課題の提出状況および内容を含む）30%、期末試験70%で評価します。

その他

連絡事項、補足説明、質問への回答などでクラスウェブを使用します。こまめに確認して、漏れの無いようにしてください。
講義の進行具合によっては、簡単な個人実習を行う予定です。
また、わからない箇所については放置せず、遠慮なく質問してください。

科目ナンバー：(PE)SOC391J

消費心理学	2単位
	3年次

兼任講師　小　森　めぐみ

授業の概要・到達目標

購買をはじめとする消費者行動は、生命維持に必須ではないものの、現代社会を生きるためには欠かせない。そのため、消費者行動を学術的に検討することは、現代社会に生きる人々を理解するための大きなヒントとなる。本講義では以下の3点を到達目標とする。(1)企業のマーケティング活動を消費者がどのように受け取り、評価し、行動するかを体系的に把握する。(2)現代社会における広告や消費者行動をめぐる諸問題を理解する。(3)授業で学んだ内容をもとに、人々と現代の消費社会の関わりについて、個人的な経験をふまえて洞察を加えることができるようになる。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　消費者の感覚と知覚
第3回目　価格と支払いの心理
第4回目　広告の心理的効果
第5回目　衝動買いと買い物依存
第6回目　前半の復習
第7回目　マーケティング調査の方法論
第8回目　消費者のブランドロイヤルティ
第9回目　消費者の感情
第10回目　消費者の潜在的情報処理
第11回目　欺瞞的説得と苦情行動
第12回目　消費者と社会的アイデンティティ
第13回目　後半の復習
第14回目　bのみ：まとめと質問対応

履修の注意点

講義中の私語は厳禁である。また初回の講義で授業外学習や欠席の対応などについても説明をするので必ず参加すること。やむをえず欠席する場合は、Oh-o!Meiji上に9月以降に掲示されるフォームで届け出ること。就職活動・試合を含む欠席の場合であっても、出席に換えるには課題の提出が必要である。

準備学習の内容

本講義は反転学習の形式をとるため、事前に次回授業の該当章を読み、複数の記述課題から成る宿題を提出した上で授業に臨む必要がある。

教科書

『消費者心理学』山田一成・池内裕美（勁草書房）2018年　宿題はテキストの内容に基づき出題されるため、購入を強く推奨する。毎回使用する。

参考書

授業時に適宜提示する。

課題に対するフィードバックの方法

復習回に各回分をまとめて実施する。

成績評価の方法

授業参加度13%、宿題58.5%、期末定期試験28.5%。ただし期末試験は受験が必須である。

その他

宿題などの課題実施において生成AIの使用は校正も含め一切禁止する。その他、不正行為があった場合、厳正に対処する。

科目ナンバー：(PE)SOC351J

社会調査法	2単位
	3年次

兼任講師　吉　村　　竜

授業の概要・到達目標

本授業では、社会調査のうち、人類学や社会学の調査で行う**質的調査**を主に扱う。**質的**であるとは、調査結果を数量データに落とし込むのではなく、文章で表現できる意味内容として理解することである。本授業では、質的調査の中でも特に、現場で調査対象と関係を取り結びながらデータを集めるアプローチとして、**フィールドワークの技法**を学ぶ。フィールドワークという調査手法には、計画から実際の調査、レポートや論文などの形でアウトプットするまでの「型」がある。本授業では、社会調査を行う際に困らないように、ある程度の技法を学んでほしい。
〈到達目標〉
実際に調査計画を立てて調査を行い、レポートとして整理するまでの社会調査の手法と、フィールドワークの技法を身につける。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　社会調査の基礎知識／調査の問いを立てる（問題設定）
第3回　環境や空間を把握する／調査地の状況や歴史を整理する（概要）
第4回　行動を観察する／調査においてなにを見るかを検討する（調査内容の検討①）
第5回　相手の価値観や考え方を観察する／調査においてなにを聞くかを検討する（調査内容の検討②）
第6回　調査対象を網羅的に観察する
第7回　社会を知るための調査倫理／調査に必要な資料を渉猟する（文献調査）
第8回　調査計画を立てる、修正する
第9回　フィールドワーク実習
第10回　調査報告／トランスクリプトの作成①
第11回　調査報告／トランスクリプトの作成②
第12回　調査記録を整理する／コード化・カテゴリ化、KJ法
第13回　調査記録を伝える／ピア・レビュー
第14回　社会調査の発表会と総括
＊授業計画は予定ですので、変更することもあります。

履修の注意点

・本授業を履修するにあたって、1・2年次に「社会学」や「文化人類学」などの科目を履修していることが望ましい。
・本授業は基本的に社会調査の**実習形式の授業**であり、実際にフィールドワークを行いデータを収集したり授業内で調査報告をするなどのアクティブ・ラーニングをベースとしている。
・本授業では**毎回「小レポート」の提出を求める**ため、そのつもりで履修すること。
・本授業の後半では、**グループワークを行う**回がある。

準備学習の内容

・**毎回「小レポート」を作成し提出**すること（毎回**30分程度**）。
・次回の授業のための課題文献が出た場合は、事前に資料を読んでおくこと。
・文献調査に際して、各自図書館やウェブサイトで文献を調べたり、収集しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

菅原和孝（編著）（2006）『フィールドワークへの挑戦：”実践”人類学入門』世界思想社
日本文化人類学会（監修）（2011）『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社
原知章（2025）『ミニエスノグラフィーの教科書：現場の文脈的理解をめざすフィールドワークへの誘い』ナカニシヤ出版
三井さよ（他著）（2023）『はじめての社会調査』世界思想社
村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司（編）（2022）『フィールドワークの学び方：国際学生との協働からオンライン調査まで』ナカニシヤ出版
そのほか授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiを使用して小レポートにコメントを付してフィードバックを行う。授業内では、提出した小レポートを踏まえたディスカッションを行う。

成績評価の方法

小レポート（40%）、期末レポート（40%）、授業への参加度（20%）

その他

科目ナンバー：(PE)SOC351J

フィールドワーク論	2単位
	3年次

兼任講師　吉　村　　竜

授業の概要・到達目標

本講義は、フィールドワークの理論と技法を学ぶことを目的としている。フィールドワークは社会調査の方法の一つであり、調査の相手（対象者）の立場からその社会の実態を明らかにする方法である。本講義では、まずフィールドワークの理論的背景を学び、そのうえで具体的な技法――参与観察・行動観察やインタビュー、成果となるエスノグラフィーについて、事例を踏まえながら学ぶ。それによって、フィールドワークを通じてどのような社会の実態が見えるのかを考察する。
〈到達目標〉
・フィールドワークの理論と技法を理解し説明できる。
・エスノグラフィーからフィールドの状況や対象者の実像をイメージする想像力を身に着けることができる。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　フィールドワークの理論①：方法論の確立
第3回　フィールドワークの理論②：批判とその後
第4回　フィールドワークの準備①：言語とラポール
第5回　フィールドワークの準備②：コンテクスト
第6回　フィールドワークの準備③：鳥の目と虫の目
第7回　フィールドワークの技法①：ライフヒストリー
第8回　フィールドワークの技法②：インタビュー
第9回　フィールドワークの技法③：参与観察
第10回　フィールドワークの技法④：文献調査
第11回　フィールドワークの技法⑤：量的調査
第12回　フィールドワークの技法⑥：行動観察
第13回　フィールドワークとリスク
第14回　まとめと総括

履修の注意点

・この講義を履修するにあたって、1・2年次に「文化人類学」などの科目を履修していることが望ましい。

準備学習の内容

・事前に講義資料を読んでおくこと。講義資料はOh-o! Meijiで配布する。
・授業内では参考書および推薦文献としてエスノグラフィーを紹介する。このほか、各自の関心にもとづき文献を探して読み進めること。

教科書

特に指定しない。

参考書

佐藤郁哉（2006）『[増訂版] フィールドワーク：書を持って街へ出よう』新曜社
清水展・飯嶋秀治編（2020）『自前の思想：時代と社会に応答するフィールドワーク』京都大学学術出版会
菅原和孝編著（2006）『フィールドワークへの挑戦：”実践”人類学入門』世界思想社
生態人類学会編（2025）『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』京都大学学術出版会
藤田結子・北村文編（2013）『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社
吉村竜（2024）『果樹とはぐくむモラル：ブラジル日系果樹園からの農の人類学』春風社
そのほか授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でリアクションペーパーへの応答を行い、別途、Oh-o! Meijiでコメントを共有する。

成績評価の方法

平常点（40%）、期末課題（60%）
平常点は毎授業後のリアクションペーパーをもとに評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)SOC391J

比較社会学

4単位

3年次

教授　加　藤　彰　彦

授業の概要・到達目標

《汝自身の社会を知れ――比較社会学的観点から日本社会論を展開する》
政治学・経済学が法、行政、議会、市場、産業、財政などの明文化された制度を主な研究対象とするのに対して、社会学はそれらを土台として支えている様々な社会集団（population, sub-populations）の特性を、家族と共同体、世代とジェンダー、社会階層とエスニシティ、宗教と価値観・世界観など、慣習・文化に基づく社会構造に注目しながら、観察・記述・分析する。
比較社会学は、各時代・各地域の様々な社会構造――社会集団の構成原理および次世代再生産の原理――を、歴史的比較（時代と世代）と地理的比較（地域と異文化）により、明らかにする学問である。
本講義では、以上のような意味での日本の社会・文化の特徴と個性を、国内の歴史的比較と地域間比較（→第Ⅰ部・第Ⅳ部）、グローバルな諸世界との異文化間比較と国際比較（→第Ⅱ部・第Ⅲ部）を通じて明らかにしながら、等身大の日本像・世界像を提示していく。
幕末から1世紀半続いた人口増加の時代は終わりを遂げ、本格的な人口減少時代がはじまった。現代日本社会が抱える問題のほとんどは、成長の時代から縮小の時代への転換にともなって生じているといっても過言ではない（→第Ⅴ部）。21世紀日本の諸課題について、幻想に囚われることなく考え抜くための知的基盤と、はっきりとした時代の見晴らしを獲得することが目標である。

授業内容

【第Ⅰ部　日本社会の成り立ちと基層構造】
第1回　「比較社会学」とはどんな学問か
第2回　日本人と日本文化の起源
第3回　日本人口史概観
第4回　徳川日本の家族・人口・社会・国家
第5回　社会と文化の基層構造（1）社会統合の4つの原理
第6回　社会と文化の基層構造（2）家族と共同体の地域性
第7回　社会と文化の基層構造（3）生態地域とマクロ統合
第8回　宗教・死生観・世界観
【第Ⅱ部　諸文明社会の成り立ちと基層構造】
第9回　中華世界
第10回　インド世界
第11回　イスラーム世界（1）生態地域・歴史・人口
第12回　イスラーム世界（2）社会統合の原理
第13回　近代以前のヨーロッパ世界（1）生態地域・歴史・人口
第14回　近代以前のヨーロッパ世界（2）社会統合の原理
【第Ⅲ部　世界の近代化とその帰結】
第15回　近代世界システムの成り立ち
第16回　近代世界システムの展開
第17回　近代化の加熱：長期の20世紀
第18回　近代化の帰結：植民地主義・市場主義・環境破壊
第19回　グローバル化の限界・近代世界システムの終焉
【第Ⅳ部　日本の近代化とその帰結】
第20回　明治維新・国民国家建設と戦前体制
第21回　敗戦・経済成長と戦後体制の成立・展開・解体
第22回　家族の変化・連続性・地域性
第23回　未婚化・無子化・人口減少のメカニズム
第24回　若者人口の急減と次世代再生産の危機
【第Ⅴ部　総括と展望】
第25回　縮小する日本社会の限界と臨界
第26回　持続可能な日本社会を取り戻す
第27回　まとめと議論
第28回　まとめと議論

履修の注意点

講義は、図版、歴史地図、統計地図、ドキュメンタリー映像などの視覚資料を活用しながら、パワーポイントを使って進める。細かい知識を得るというよりも、大きな構図を理解するように心がけてほしい。

準備学習の内容

講義内容は多岐にわたるが、明確なストーリーのもとに構成されているので、講義を聴きながら、配付資料（プリントアウトすることを推奨）にメモを取り、後にこれを見ながら頭の整理を行うと効果的である。また、疑問点や興味を惹いた論点を文献やWebで調べ、解釈を加えて、ストーリーの展開を試みると、自力で考える力を養うことができる。

教科書

教科書は使用せず、毎回パワーポイントのハンドアウトを配布する。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著　『家と共同性』（比較家族史学会監修・家族研究の最前線①）　日本経済評論社　2016年
平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編　『出会いと結婚』（比較家族史学会監修・家族研究の最前線②）　日本経済評論社　2017年
Akihiko Kato, The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century, Springer, 2021.
その他多数におよぶので、授業を進めるなかで、各章ごとに文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

受講者からリアクションペーパーにより質問・意見を聴取して返答・コメントするとともに、補足説明を行う。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度により評価する。授業の進め方および成績評価の詳細は、初回に説明する。

その他

科目ナンバー：(PE)SOC391J

社会人類学Ａ【2022年度以降入学者】 民族学【2021年度以前入学者】	2単位
	3年次

兼任講師　ベル　裕紀

授業の概要・到達目標

マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。
学習を通じて、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて論じることができるようになることがこの授業の目標である。

授業内容

第１回目　社会人類学の考え方
第２回目　機能主義と文化相対主義
第３回目　親族研究
第４回目　贈与と交換
第５回目　構造主義
第６回目　言語と記号
第７回目　野生の思考
第８回目　呪術と儀礼
第９回目　法と規範
第10回目　権力と統治
第11回目　人種と民族
第12回目　ジェンダーとセクシャリティ
第13回目　ポストコロニアリズム
第14回目　異文化の理解

履修の注意点

人類学に関する他の科目を履修している必要はないが、集中して受講すること。

準備学習の内容

毎回の課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね２時間程度の時間をかけるものとする。他の受講生との議論や授業内で紹介する参考文献を読みこむことで、理解と思考を深めること。

教科書

特に定めない。

参考書

インゴルド、ティム2020『人類学とは何か』奥野 克巳、宮崎 幸子訳、亜紀書房。
梅屋潔・シンジルト共編2017『新版文化人類学のレッスン―フィールドからの出発』学陽書房。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業の中で言及する。

成績評価の方法

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度８％で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)SOC391J

社会人類学Ｂ【2022年度以降入学者】 社会人類学【2021年度以前入学者】	2単位
	3年次

兼任講師　ベル　裕紀

授業の概要・到達目標

我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治の技法としての人口の管理といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。
学習を通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目標とする。

授業内容

第１回目　人類学の射程
第２回目　贈与と交換の政治経済
第３回目　暴力の人類学
第４回目　ことばと政治
第５回目　技術と産業の人類学
第６回目　機械の人類学
第７回目　都市人類学
第８回目　国民国家とナショナリズム
第９回目　グローバル化の人類学
第10回目　社会運動論と人類学
第11回目　人権と人類学
第12回目　難民の人類学
第13回目　移住民のコミュニティと国境管理
第14回目　まとめ

履修の注意点

社会人類学Aを履修していることが望ましい。

準備学習の内容

毎回の課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね２時間程度の時間をかけるものとする。他の受講生との議論や授業内で紹介する参考文献を読みこむことで、理解と思考を深めること。

教科書

特に定めない。

参考書

インゴルド、ティム2020『人類学とは何か』奥野 克巳、宮崎 幸子訳、亜紀書房。
梅屋潔・シンジルト共編2017『新版文化人類学のレッスン―フィールドからの出発』学陽書房。
オング、アイファ2013『＜アジア＞、例外としての新自由主義―経済成長はいかに統治と人々に突然変異をもたらすのか？』加藤敦典・新ケ江章友・高原幸子訳、作品社。
内藤直樹・山北輝裕編2014『社会的包摂／排除の人類学―開発・難民・福祉』昭和堂。
松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業の中で言及する。

成績評価の方法

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度８％で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW331J

国際法【2021年度以前入学者】

4単位

3年次

兼任講師　立　松　美也子

授業の概要・到達目標

国際法は、主として国家間の関係を規律するルールであるが、国際社会の分権性という特徴のため、必ずしも法の執行や遵守は国内法ほど行われないことがある。ウクライナへのロシアの侵攻やパレスチナ情勢をみれば、国際法を学ぶことに意味が見いだせないかもしれない。しかし、長らく、国際社会、特に国家間関係では共通言語としての国際法が意識して利用されてきた。このことを考えれば、国際法の知見は紛争解決の一端を担うことを間違いない。本講義では、通年科目として、国際法の総論および各論を取り扱う。

国際法を体系的に学習し、国際社会において果たす機能を理解することを目的とする。

最終的に学習した国際法理論を用いて、国際的な事象を自らの言葉で解説し、議論できることが到達目標である。

授業内容

第1回　イントロダクション　条約集の使い方
第2回　国際社会と国際法
第3回　国家の成立要件と国家変動（国家承継）
第4回　国家の国際法上の権利義務
第5回　国家の管轄権
第6回　国家免除
第7回　外交関係の国際法
第8回　領事関係の国際法
第9回　国家元首・首相・外務大臣の特権免除
第10回　国際組織法
第11回　国際法の存在形態
第12回　法源　条約、慣習国際法
第13回　法の一般原則と補助手段
第14回　その他の法源
第15回　条約法　その1　締結手続、条約の効力、留保
第16回　条約法　その2　条約の解釈・条約の終了および運用停止
第17回　国際責任　その1　要件
第18回　国際責任　その2　違法性阻却事由・責任解除
第19回　陸の国際法　その1　領域権原・領域紛争
第20回　陸の国際法　その2　国際化地域
第21回　海洋法　その1　基線・内水、領海、接続水域、群島水域
第22回　海洋法　その2　排他的経済水域、公海、深海底　紛争解決
第23回　空と宇宙の国際法
第24回　人と国際法　その1　国籍、外国人の権利
第25回　人と国際法　その2　国際人権保障
第26回　国際刑事法　その1　諸国の共通利益侵害の犯罪・戦争犯罪
第27回　国際刑事法　その2　戦争犯罪
第28回　国際環境法

履修の注意点

植木俊哉・中谷和弘編 『国際条約集　2026年版』（有斐閣）を　講義の際に使用する。
他の出版年のものや他の出版社の条約集でも問題はないが、自分で使える様にしてほしい。講師は有斐閣の条約集で条文について指示する。

準備学習の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容についてのイメージを持つ。また、日頃から新聞の国際面に興味を持ってほしい。（新聞に限らず、ニュースでも良い。）

教科書

中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良著 『アルマ国際法　第5版』（有斐閣）
植木俊哉・中谷和弘編 『国際条約集　2026年版』（有斐閣）

参考書

体系書
岩澤雄司　著 『国際法　第2版』 東大出版会　2023年
浅田正彦　編 『国際法』 東信堂　第6版　2024年
柳原正治　他 『プラクティス国際法講義』信山社　4版　2022年
判例集
森川・兼原他編 『国際法判例百選（第3版）』有斐閣　2021年
杉原高嶺・酒井啓亘　編 『国際法基本判例50』三省堂、2版　2014年
松井芳郎　編 『判例国際法』東信堂　2版　2006年
辞典
国際法学会編 『国際関係法辞典』三省堂　2版　2005年
国際法関連サイト
国際法学会　https://jsil.jp/
国際連合　https://www.un.org/en(英語　他、国連公用語もあり)
国際司法裁判所　https://www.icj-cij.org/en(英語　他、国連公用語もあり

課題に対するフィードバックの方法

小テストについては、実施した翌週に解説を講義の冒頭で実施する。
質問などについては、小テストに記載する方法、リアクションペーパーへの記載を求め、翌週に対応する。

成績評価の方法

履修人数によるが、出席クイズ（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。（対面講義の場合）
オンデマンド型または試験をオンラインで実施する場合には別途検討する。

その他

その他　講義を単に聴く、見るだけではなく、自らノートをとり、条約集を確認するなど能動的な参加をお願いします。

科目ナンバー：(PE)LAW331J

国際法Ａ【2022年度以降入学者】

2単位

3年次

兼任講師　立　松　美也子

授業の概要・到達目標

国際法は、主として国家間の関係を規律するルールであるが、国際社会の分権性という特徴のため、必ずしも法の執行や遵守は国内法ほど行われないことがある。ウクライナへのロシアの侵攻やパレスチナ情勢をみれば、国際法を学ぶことに意味が見いだせず、力の支配が中心であろうと考えるかもしれない。しかし、長らく、国際社会、特に国家間関係では共通言語としての国際法が意識して利用されてきた。このことを考えれば、国際法の知見は紛争解決の一端を担うことは間違いない。
本講義では、国際法の総論部分を取り扱う。
国際法主体としての国家、国際組織、国際法の存在形態などが中心分野となる。
国際法を体系的に学習し、国際社会において果たす機能を理解することを目的とする。
最終的に学習した国際法理論を用いて、国際的な事象を自らの言葉で解説し、議論できることが到達目標である。

授業内容

第１回目　イントロダクション　条約集の使い方
第２回目　国際社会と国際法
第３回目　国家の成立要件と国家変動（国家承継）
第４回目　国家の国際法上の権利義務
第５回目　国家の管轄権
第６回目　国家免除
第７回目　外交関係の国際法
第８回目　領事関係の国際法
第９回目　国家元首・首相、外務大臣の特権・免除
第10回目　国際組織法
第11回目　国際法の存在形態
第12回目　法源　条約、慣習国際法
第13回目　法の一般原則と補助手段
第14回目　その他の法源

履修の注意点

植木俊哉・中谷和弘編　『国際条約集　2026年版』（有斐閣）を講義の際に使用する。
他の出版年のものや他の出版社の条約集でも問題はないが、自分で使える様にしてほしい。講師は有斐閣の条約集で条文について指示する。

準備学習の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容についてのイメージを持つ。また、日頃から新聞の国際面に興味を持ってほしい。（新聞に限らず、ニュースでも良い。）

教科書

中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良著　『アルマ国際法　第５版』（有斐閣）
植木俊哉・中谷和弘編　『国際条約集　2026年版』（有斐閣）

参考書

体系書
岩澤雄司　著　『国際法　第２版』　東大出版会　2023年
浅田正彦　編　『国際法』　東信堂　第６版　2019年
柳原正治　他　『プラクティス国際法講義』信山社　４版　2022年
加藤信行他　『概説国際法』有斐閣　2024年
判例集
森川・兼原　他編　国際法判例百選（第３版）』有斐閣　2021年
杉原高嶺・酒井啓亘　編　『国際法基本判例50』三省堂、２版　2014年
松井芳郎　編　『判例国際法』東信堂　２版　2006年
辞典
国際法学会編　『国際関係法辞典』三省堂　２版　2005年
国際法関連サイト
国際法学会　https://jsil.jp/
国際連合　https://www.un.org/en(英語　他、国連公用語もあり)
国際司法裁判所　https://www.icj-cij.org/en(英語　他、国連公用語もあり

課題に対するフィードバックの方法

小テストについては、実施した翌週に解説を講義の冒頭で実施する。
質問などについては、小テストに記載する方法、リアクションペーパーへの記載を求め、翌週に対応する。

成績評価の方法

履修人数によるが、出席クイズ（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。(対面講義の場合)
オンデマンド型または試験をオンラインで実施する場合には別途検討する。

その他

その他　講義を単に聴く、見るだけではなく、自らノートをとり、条約集を確認するなど能動的な参加をお願いします。

科目ナンバー：(PE)LAW331J

国際法Ｂ【2022年度以降入学者】

2単位

3年次

兼任講師　立　松　美也子

授業の概要・到達目標

国際法は、主として国家間の関係を規律するルールであるが、国際社会の分権性という特徴のため、必ずしも法の執行や遵守は国内法ほど行われないことがある。
本講義は、国際法の各論部分を取り扱う。すなわち、国際法(条約など）に違反した国家はどのような責任を負うのか、陸地の帰属をどのように決定するのか、極地の扱いや宇宙はどのように国家関係では捉えられているのか、海洋法とはどのような分野なのか、などを学修する。
なお、必ずしも国際法Aの履修を必要としない。
国際法を体系的に学習し、国際社会において果たす機能を理解することを目的とする。
最終的に学習した国際法理論を用いて、国際的な事象を自らの言葉で解説し、議論できることが到達目標である。

授業内容

第１回目　イントロダクション　条約集の使い方
第２回目　条約法　その１　締結手続き、留保・効力
第３回目　条約法　その２　条約の解釈・条約の終了および運用停止
第４回目　国際責任
第５回目　陸の国際法　その１　領域権原
第６回目　陸の国際法　その２　国際化地域
第６回目　海洋法　その１
第７回目　海洋法　その２
第８回目　空と宇宙の国際法
第９回目　人と国際法
第10回目　国際刑事法　その１
第11回目　同　その２
第12回目　国際経済法
第13回目　国際環境法　その１
第14回目　国際環境法　その２

履修の注意点

植木俊哉・中谷和弘編　『国際条約集　2026年版』（有斐閣）を講義の際に使用する。
他の出版年のものや他の出版社の条約集でも問題はないが、自分で使える様にしてほしい。講師は有斐閣の条約集で条文について指示する。

準備学習の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容についてのイメージを持つ。また、日頃から新聞の国際面に興味を持ってほしい。（新聞に限らず、ニュースでも良い。）

教科書

中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良著　『アルマ国際法　第５版』（有斐閣）
植木俊哉・中谷和弘編　『国際条約集　2026年版』（有斐閣）

参考書

体系書
岩澤雄司　著　『国際法　第２版』　東大出版会　2023年
浅田正彦　編　『国際法』　東信堂　第６版　2024年
柳原正治　他　『プラクティス国際法講義』信山社　４版　2022年
加藤他　『概説国際法』有斐閣　2024年
判例集
森川・兼原他　編　『国際法判例百選３版』有斐閣　2021年
杉原高嶺・酒井啓亘　編　『国際法基本判例50』三省堂、２版　2014年
松井芳郎　編　『判例国際法』東信堂　２版　2006年
辞典
国際法学会編　『国際関係法辞典』三省堂　２版　2005年
国際法関連サイト
国際法学会　https://jsil.jp/
国際連合　https://www.un.org/en(英語　他、国連公用語もあり)
国際司法裁判所　https://www.icj-cij.org/en(英語　他、国連公用語もあり

課題に対するフィードバックの方法

小テストについては、実施した翌週に解説を講義の冒頭で実施する。
質問などについては、小テストに記載する方法、リアクションペーパーへの記載を求め、翌週に対応する。

成績評価の方法

履修人数によるが、出席クイズ（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。(対面講義の場合)
オンデマンド型または試験をオンラインで実施する場合には別途検討する。

その他

その他　講義を単に聴く、見るだけではなく、自らノートをとり、条約集を確認するなど能動的な参加をお願いします。

科目ナンバー：(PE)LAW391J

行政法

4単位

3年次

教授　松　井　直　之

授業の概要・到達目標

・本科目では、行政法の基礎的な知識、考え方について講義します。行政法は、自動車の運転免許証の交付など、実は身近なところでつながっています。こうした行政法の様々な論点や争点を具体的な判例を紹介しながら解説していくことを通じて、行政法に関する基礎的な知識、考え方を身につけていきます。
・行政法の基礎的な知識や考え方を身につけ、自分の意見を組み立てることができるようになることを到達目標とします。

授業内容

第１回目　行政法を学ぶ意義：行政活動の法的コントロール
第２回目　行政法の３分野：組織法、作用法、救済法
第３回目　行政法の基本原理（１）：法律による行政
第４回目　行政法の基本原理（２）：適正手続
第５回目　行政組織：行政主体、行政機関、国の行政組織、地方公共団体、公務員
第６回目　行政活動：秩序行政、整序行政、給付行政
第７回目　行政活動の前提（１）：行政調査、情報の収集
第８回目　行政活動の前提（２）：情報の管理、情報の公開
第９回目　行政機関による立法：法規命令、行政規則
第10回目　行政活動と手続：行政手続、行政手続法
第11回目　権力的行為（１）：行政処分（行政行為）の種類、効力
第12回目　権力的行為（２）：行政処分（行政行為）の瑕疵、取消
第13回目　権力的行為（３）：行政処分（行政行為）と裁量
第14回目　非権力的行為（１）：行政契約
第15回目　非権力的行為（２）：行政指導
第16回目　非権力的行為（３）：行政計画
第17回目　行政上の強制措置：行政代執行、即時強制
第18回目　行政上の義務違反に対する制裁：行政罰
第19回目　行政上の不服申立て（１）：行政不服審査法、審査請求の要件
第20回目　行政上の不服申立て（２）：審査請求の審理、裁決
第21回目　行政訴訟：行政事件訴訟法、抗告訴訟
第22回目　取消訴訟（１）：取消訴訟の訴訟要件、審理
第23回目　取消訴訟（２）：取消訴訟の判決
第24回目　取消訴訟以外の抗告訴訟（１）：無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
第25回目　取消訴訟以外の抗告訴訟（２）：義務付け訴訟、差止訴訟
第26回目　当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟
第27回目　国家賠償
第28回目　損失補償

履修の注意点

・指定された教科書・講義資料（「Oh-o! Meiji」に掲載します）の一読を前提に、重要な点を軸に通常の講義形式により行います。
・講義の際に質問に答えてもらうことがありますので、行政活動や国内・国際政治などに関心を持って積極的に参加してください。

準備学習の内容

・復習を中心に行うようにしてください。
・１回目から通常の講義をするので、講義資料（「Oh-o! Meiji」に掲載します）を事前に読み、分からないところを明らかにしておいてください。
・受講後、講義資料を読み直し、参考書などを参照して、事前に分からなかった点が理解できるようになったかを確認してください。

教科書

・特に指定しません。
・『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）、『コンパクト六法』（岩波書店）などの六法を持参してきてください。

参考書

・橋本博之『現代行政法』（岩波書店、2017年）
・稲葉馨＝人見剛＝村上裕章＝前田雅子『行政法』〔第５版〕（有斐閣、2023年）

課題に対するフィードバックの方法

・課題を実施する場合、後日、解説の時間を設けます。

成績評価の方法

・定期試験100%で成績評価を行います。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN221J

経済学史【2021年度以前入学者】

4単位

3年次

助教　加　藤　真　琴

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
本授業では、近代以降の経済学がどのように形成され、社会の変化や問題に応答しながら発展してきたのかを体系的に学ぶ。授業は重商主義から始まり、国家の経済介入や保護主義の思想を確認したうえで、重農主義が提示した自然秩序や自由貿易の理念へと進む。その後、アダム・スミスを中心とする古典派経済学の成立を、『道徳感情論』と『国富論』の両面から丁寧にたどり、分業、市場、自由貿易といった経済学の基礎概念を理解する。マルサスの人口論、リカードウの穀物法論争、ミルの社会科学方法論を通じて古典派の発展と多様化を学んだ後、リストやセー、シスモンディなど大陸ヨーロッパの経済思想にも触れ、イギリス中心の古典派とは異なる視点を確認する。
中間試験を経て、産業革命期の社会問題を背景に登場したマルクス経済学を取り上げ、『資本論』の構想やマルクス主義の展開を学び、古典派への批判と継承の構造を理解する。続く限界革命では、ジェヴォンズ、メンガー、ワルラスの三者を中心に、価値論が労働価値説から限界効用へと転換する過程を追い、新古典派経済学の基礎がどのように築かれたかを学ぶ。さらに、マーシャルの部分均衡分析やピグーの厚生経済学を通じてケンブリッジ学派の伝統を理解し、外部性や社会的厚生といった現代政策にもつながる概念を確認する。
終盤では、ケインズの生涯と世界恐慌、『一般理論』のエッセンスを学び、古典派からケインズ経済学への大きな転換を理解する。最後に、ドイツ歴史学派やアメリカ制度学派を取り上げ、制度や歴史を重視する経済学の流れを確認し、経済学が単なる抽象理論ではなく社会の現実と深く結びついた学問であることを総括する。全体を通じて、学生は経済学の多様性と歴史的ダイナミズムを理解し、現代の経済問題を批判的に考察する力を身につける。
【到達目標】
①授業で扱う経済学者の主張にかんするキーワードを自分の言葉で説明できるようになる。
②過去の経済学者が克服しようとした課題と現代社会が抱える問題との接点を考えることができる。

授業内容

第1回目　授業の進め方と成績評価（aのみ）「経済学史」とは何か（bのみ）
第2回目　重商主義：経済への国家の介入、現代アメリカにみる重商主義の復活
第3回目　重農主義：ケネーの『経済表』、自由貿易政策
第4回目　古典派経済学の成立：アダム・スミス①　「古典派」とはなにか、スミスの生涯とイギリス
第5回目　古典派経済学の成立：アダム・スミス②　『道徳感情論』
第6回目　古典派経済学の成立：アダム・スミス③　『国富論』
第7回目　古典派経済学の成立：アダム・スミス④　アダム・スミス小括
第8回目　古典派経済学の発展：T. R. マルサス　人口論
第9回目　古典派経済学の発展：デイビッド・リカードウ　穀物法論争と自由貿易
第10回目　古典派経済学の再編：J. S. ミル　社会科学方法論と『経済学原理』
第11回目　ドイツとフランスの経済学：フリードリヒ・リスト（独）、セーとシスモンディ（仏）
第12回目　a：中間試験①（古典派経済学）、b：解説
第13回目　古典派経済学への批判：カール・マルクス①　産業革命と社会問題
第14回目　古典派経済学への批判：カール・マルクス②　『資本論』の執筆背景と概要
第15回目　古典派経済学への批判：カール・マルクス③　マルクスとマルクス主義
第16回目　限界革命の成立：「限界革命」とは何か、労働価値説から限界効用へ
第17回目　限界革命の成立：ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ
第18回目　限界革命の成立：カール・メンガー
第19回目　限界革命の成立：レオン・ワルラス
第20回目　ケンブリッジ学派の伝統：アルフレッド・マーシャル①　経済学の確立
第21回目　ケンブリッジ学派の伝統：アルフレッド・マーシャル②　あたらしい分析用具の導入
第22回目　ケンブリッジ学派の伝統：A. C. ピグー　厚生経済学の誕生
第23回目　ケインズ革命：J. M. ケインズ①　ケインズの生涯と世界恐慌
第24回目　ケインズ革命：J. M. ケインズ②　『雇用・利子および貨幣の一般理論』
第25回目　a：中間試験②（マルクス～ケインズ）、b：解説
第26回目　社会政策と経済学：ドイツ歴史学派
第27回目　社会政策と経済学：アメリカ制度学派
第28回目　総まとめ、期末試験のためのアナウンス

履修の注意点

準備学習の内容

予習：学生同士のディスカッション（30分間）、ニュースの視聴（30分間）
復習：キーワードを自分の言葉でまとめる（60分間）

教科書

とくに定めない

参考書

『経済学史―経済学の生誕から現代まで』早坂忠編著（ミネルヴァ書房）1989年
『アメリカの経済思想―建国期から現代まで』田中敏弘（名古屋大学出版会）2002年
『経済学史入門―経済学方法論からのアプローチ』久保真・中澤信彦編（昭和堂）2023年

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中に中間試験を行い、解答のポイントを解説する。

成績評価の方法

期末試験（100%）：短答問題と論述問題の組み合わせ
中間試験を2回実施するが、いずれも成績評価には含まれない

その他

科目ナンバー：(PE)ECN151J

経済学史【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次

教授　高　橋　信　勝

授業の概要・到達目標

経済学は体系的な社会科学の代表格であるといわれる。私たちが経済学科で学ぶ経済学とは、経済の「理論」、経済および経済学の「歴史」、経済の「政策」という３つの部門に大きく分かれている。この経済学史の授業では、その名のとおり、経済学の歴史を学ぶ。しかし、上記のような経済学内部での学問の「分業」は学び手自身による「統合」への努力を伴わなければ、経済学の体系的な習得は、おぼつかないものとなる。経済学史の授業内容と他の２年次選択必修科目との関連をつねに意識して、授業に臨むことが望ましい。

本講座が経済学科の２年次選択必修であることに鑑みて、重商主義を起点とする経済学の通史を講じる。授業では３・４年次の専門課程での講義を見据えて、経済学の生成と展開過程を辿るが、今年度はとくにミクロ経済学生成史を念頭に置いた授業展開を図る。

授業内容

第１回：授業の進め方と成績評価の仕方（a.のみ）
第２回：経済学史への誘い（１）―自己保存、経済問題、経済システム
第３回：経済学史への誘い（２）―市場経済社会の光と陰
第４回：重商主義の貿易差額論
第５回：ケネーの経済表
第６回：スミスの普遍的富裕の増進論
第７回：リカードウの比較優位論
第８回：中間試験
第９回：ミルの停止状態論
第10回：限界革命による経済学の革新
第11回：マーシャルの弾力性論、余剰分析、部分均衡論
第12回：パレートの選択の理論
第13回：パレート最適とエッジワースのボックスダイヤグラム
第14回：ケインズ革命と政府の活動領域の拡大

履修の注意点

授業の進度に応じて授業内容を変更することがある。

準備学習の内容

予習：　とくに必要はない。
復習：　授業内容の詳細な板書は行わないので、授業のメモを含めてノートを整理し直すこと。また講義の「道筋」に当たる内容については、別途自分で要約を作成すること。

教科書

高橋信勝『経済学原論I』八千代出版

参考書

経済学史学会編『経済思想史辞典』丸善株式会社
岡田純一『経済思想史』東洋経済新報社
馬場啓之介『近代経済学史』東洋経済新報社
その他の推奨文献は、必要に応じて授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、後の授業回に行う予定である。詳細は初回授業時に説明する。

成績評価の方法

中間試験（40パーセント）、定期試験（60パーセント）で評価する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

その他

なし。

科目ナンバー：(PE)ECN151J

経済学史【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次

助教　加　藤　真　琴

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
本授業では、18～19世紀にイギリスで成立した古典派経済学を中心に、その主要な代表者（アダム・スミス、デヴィッド・リカード、トマス・マルサスなど）と、彼らに対して批判的な立場をとった思想家たちの議論を取り上げる。古典派経済学は、世界で最初に本格的な資本主義社会が成立したイギリスにおいて、労働・市場・分配・成長といった経済現象を体系的に説明しようとした学問体系であり、現代経済学の基礎を形づくった。
授業では、各理論が生まれた歴史的・社会的背景（産業革命、人口問題、国際貿易の拡大、階級構造の変化など）を踏まえながら、古典派経済学がどのように資本主義の仕組みを理解しようとしたのかを検討する。また、古典派の議論に対して同時代・後世の批判者がどのような問題点を指摘し、新たな理論的展開につなげていったのかにも注目する。
これらを通じて、学生は経済学説史の基礎的な枠組みを理解するとともに、経済理論が社会の変化とどのように結びつきながら発展してきたのかを学ぶ。さらに、現代の経済問題を考える際にも応用可能な「理論を歴史的文脈の中で読み解く視点」を身につけることを目指す。

【到達目標】
①授業で扱う経済学者の主張にかんするキーワードを自分の言葉で説明できるようになる。
②過去の経済学者が克服しようとした課題と現代社会が抱える問題との接点を考えることができる。

授業内容

第１回目　授業の進め方と成績評価（aのみ）「経済学史」とは何か（bのみ）
第２回目　重商主義：経済への国家の介入、現代アメリカにみる重商主義の復活
第３回目　重農主義：ケネーの『経済表』、自由貿易政策
第４回目　古典派経済学の成立：アダム・スミス①　「古典派」とはなにか、スミスの生涯とイギリス
第５回目　古典派経済学の成立：アダム・スミス②　『道徳感情論』
第６回目　古典派経済学の成立：アダム・スミス③　『国富論』
第７回目　古典派経済学の発展：T. R. マルサス　人口論
第８回目　古典派経済学の発展：デイビッド・リカードウ　穀物法論争と自由貿易
第９回目　古典派経済学の再編：J. S. ミル①　社会科学方法論と『経済学原理』
第10回目　a：中間試験（古典派経済学）、b：解説
第11回目　ドイツとフランスの経済学：フリードリヒ・リスト（独）、セーとシスモンディ（仏）
第12回目　古典派経済学への批判：カール・マルクス①　産業革命と社会問題
第13回目　古典派経済学への批判：カール・マルクス②　『資本論』の執筆背景と概要
第14回目　古典派経済学への批判：カール・マルクス③　マルクスとマルクス主義

履修の注意点

準備学習の内容

予習：学生同士のディスカッション（30分間）、ニュースの視聴（30分間）
復習：キーワードを自分の言葉でまとめる（60分間）

教科書

とくに定めない

参考書

『経済学史―経済学の生誕から現代まで』早坂忠編著（ミネルヴァ書房）1989年
『アメリカの経済思想―建国期から現代まで』田中敏弘（名古屋大学出版会）2002年
『経済学史入門―経済学方法論からのアプローチ』久保真・中澤信彦編（昭和堂）2023年

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中に中間試験を行い、解答のポイントを解説する。

成績評価の方法

期末試験（100％）：短答問題と論述問題の組み合わせ

その他

科目ナンバー：(PE)ECN221J

社会経済史【2022年度以降入学者】

2単位

3年次

専任講師　中　島　満　大

授業の概要・到達目標

本講義では、心性史・社会史、歴史人口学、あるいは歴史社会学の知見にもとづいて、日本における人口転換と家族のあり方の連関について検討していく。人口学的な事象、たとえば少子化の進展や平均寿命の延伸は、私たちの考える「家族」のあり方に大きく作用している。そしてその時代における家族は、同時代の人口学的な事象をつくりだしている。そこに生じる連関を長期的に導出し、人口と家族のあり方を素描することを本講義では目指していく。

この講義では、人口転換と家族のあり方との連関を検討するために、アナール学派の手法や視点を導入する。歴史学者のリュシアン・フェーヴルとマルク・ブロックによって刊行された『社会経済史年報 Annales d'histoire économique et sociale』を端緒とし、そこから生まれた歴史学者のグループの通称がアナール学派である。

アナール学派の特徴は時代や世代によっても異なるが、本講義では、二つの視点に焦点をあてる。ひとつは、フェルナン・ブローデルが採用した時空間の区分である。ブローデルは（1）「構造」または「長期持続」、（2）「変動」、（3）「事件」という三層に区分し、長期的な持続性とその変動を析出している。もうひとつは、数量史と心性史・社会史の統合である。アナール学派は、数量史の積極的な導入を進める一方で、心性史や社会史といった数量では示しにくい対象にも焦点をあててきた。いわゆる「量」と「質」との架橋こそがアナール学派の特徴であると言えよう。これらのふたつの視点を採用し、本講義は、日本における人口と家族のあり方を議論していく。それに加えて本講義では、日本の家族を論じていくにあたり、近代家族論と「創られた伝統」論を補助線として参照する。

授業内容

（1）イントロダクション
（2）創られた伝統（1） 演歌と日本の心
（3）創られた伝統（2） 初詣の社会史
（4）アナール学派の歴史学（1）「長期持続」への着目
（5）アナール学派の歴史学（2） 数量史と心性史・社会史の統合
（6）二つの人口転換論
（7）歴史人口学からみた出生と死亡
（8）歴史人口学からみた結婚と離婚
（9）＜家族＞の実現性の変動
(10) 家族の自明性と近代家族論
(11) 子ども中心主義の浸透 『＜子ども＞の誕生』
(12) 母性愛の構築 『母性という神話』
(13) 性別役割分業のはじまりと拡散
(14) 近代（家族）の伝統化

履修の注意点

歴史的視点から社会（現象）をみることに関心がある人は、ぜひ履修してください。

準備学習の内容

事前に歴史人口学、社会史や心性史、歴史社会学などの研究にふれておいてくれるとうれしい。

教科書

適宜、レジュメを配布する。

参考書

レジュメに記載されている参考文献を中心に読み進めてほしい。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたコメントカードに書かれている質問や感想には、授業の冒頭やコメントカードへの返信というかたちでフィードバックを行う。

成績評価の方法

毎回の講義でのコメントカードの提出（30%）、期末レポート（70%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN221J

近代経済学史

4単位

3年次

准教授　奥　山　　誠

授業の概要・到達目標

近代社会の形成と発展にともない、その時代が抱える歴史的課題、克服すべき経済問題もたえず変化する。経済学はその生誕以来、それぞれの時代の課題に対して有効な処方箋を与えるべくつねに格闘を続けてきた。その過程で培われた経済理論のなかには、今日なお顧みるに値する卓抜な知見が数多く含まれている。本講義では、そうした経済学の遺産として特に19世紀末葉以降ヨーロッパを中心にして発展した「近代経済学」と呼ばれる潮流に注目し、その主要な経済理論について検討を行う。

近代経済学の理論的系譜について一通りの知識を得ること，またそれが現代のミクロ・マクロ両経済学の理論的基礎としていかに重要な貢献を果たしているのかを理解することを本講義の到達目標とする。

授業内容

第1回　：イントロダクション
第2回　：限界革命1　限界効用理論について
第3回　：限界革命2　限界革命の3大学派について
第4回　：W.S. ジェボンズ1　経済学方法論争への参戦
第5回　：W.S. ジェボンズ2　富の学から交換の学へ
第6回　：W.S. ジェボンズ3　『経済学の理論』と日本でのその受容
第7回　：C. メンガー1　ジャーナリズムから経済学の世界へ
第8回　：C. メンガー2　ジュモラーとの方法論争
第9回　：C. メンガー3　主観的価値論について
第10回　：L. ワルラス1　静学体系としての一般均衡理論
第11回　：L. ワルラス2　ワルラスの社会ヴィジョン
第12回　：L. ワルラス3　ワルラス経済学の継承とパレート
第13回　：新古典派経済学1「新古典派」とはなにか？
第14回　：新古典派経済学2　ケンブリッジ学派の系譜について
第15回　：A. マーシャル1　19世紀末大不況と経済学への開眼
第16回　：A. マーシャル2　動態的市場経済の把握
第17回　：A. マーシャル3　自由貿易論
第18回　：A. マーシャル4「所有と経営の分離」と経済騎士道論
第19回　：A.C. ピグー1　マーシャル経済学の継承
第20回　：A.C. ピグー2　厚生の3命題
第21回　：A.C. ピグー3　失業理論と雇用政策
第22回　：A.C. ピグー4　ケインズとの対立
第23回　：ケインズ革命1「新しい経済学」の誕生
第24回　：ケインズ革命2『一般理論』の世界的波及
第25回　：J.M. ケインズ1　自由放任の終焉
第26回　：J.M. ケインズ2　有効需要の理論
第27回　：J.M. ケインズ3　流動性選好説
第28回　：J.M. ケインズ4　階級観

履修の注意点

経済学史、現代経済史、国際経済史、 経済思想、マクロ経済学、ミクロ経済学を履修済みであるか、もしくは併せて受講することが望ましい。

準備学習の内容

授業で扱ったテーマについて参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『経済思想』 長峰章編著 （学文社） 2015年
『テキストブック　近代経済学史 〔改訂版〕』 田中敏弘編著 （有斐閣ブックス） 1994年
『近代経済学の形成と展開』 橋本昭一編著 （昭和堂） 1989年

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

平常点（30%）、 期末試験（70%）

その他

初回の授業には必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE)ECN281J

国際経済史	2単位
	3年次

准教授　赤　津　正　彦

授業の概要・到達目標

産業革命を経て巨大な工業生産力を手にしたイギリスは、19世紀中葉には「世界の工場」となる。さらに、工業製品の世界への輸出および世界からの原料や食料の輸入に関わる貿易においても圧倒的地位を獲得したイギリスは、「世界の商社・海運業者」となり、またそこで得られた富は、同国を世界中に資金を供給する「世界の銀行」とした。イギリスは世界経済における覇権国となる。このイギリスの産業・貿易・金融上の優位、また同国が世界に供給する基軸通貨ポンド、そして同国が唱道する「自由貿易」によって世界経済が比較的安定していたとされる19世紀中葉から20世紀初頭は、後に「パクス・ブリタニカ」（イギリスによる平和）の時代と呼ばれることになる。

本講義では、世界経済におけるイギリスの覇権がいかにして打ち立てられたか、またイギリスの覇権が世界経済にいかなる影響を及ぼしたか、そして19世紀末から始まる覇権国イギリスの経済的衰退が、世界経済とまた世界の安定にいかなる影響を及ぼしたかを検討することを通じて、複雑化しまた混迷する現代の国際経済を見るための視座の獲得を目指す。

授業内容

第一回　イントロダクション
第二回　イギリス産業革命(前半)
第三回　イギリス産業革命（後半）
第四回　「世界の工場」イギリス―輸出貿易産業国家イギリス―（前半）
第五回　「世界の工場」イギリス―輸出貿易産業国家イギリス―（後半）
第六回　「世界の銀行」イギリス―金本位制・ポンド決済体制・資本輸出―（前半）
第七回　「世界の銀行」イギリス―金本位制・ポンド決済体制・資本輸出―（後半）
第八回　イギリスと中心工業国・周辺工業国・周辺従属国（前半）
第九回　イギリスと中心工業国・周辺工業国・周辺従属国（後半）
第十回　19世紀末大不況と世界経済の再編成
第十一回　保護主義・帝国主義の台頭と第一次世界大戦（前半）
第十二回　保護主義・帝国主義の台頭と第一次世界大戦（後半）
第十三回　「パクス・ブリタニカ」の黄昏（前半）
第十四回　「パクス・ブリタニカ」の黄昏（後半）

履修の注意点

上記の授業内容はおおよその計画であり、実際の進捗状況などにより変更もありうる。
授業計画の詳細および授業の進め方などについては初回授業時に説明する。

準備学習の内容

下記の「参考書」に挙げられている予習・復習用参考書を入手し、授業の前後に読むことが望まれる。

教科書

特になし。

参考書

予習のための参考書
『西洋経済史』神武庸四郎・萩原伸次郎（有斐閣）
復習のための参考書
各回授業時に配布されるプリントに参考文献として示す。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で口頭で行う。

成績評価の方法

定期試験（60%）、レポート（10%）、授業への参加度（30%）、などにより総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN281J

国際経済史	2単位
	3年次

兼任講師　齋　藤　翔太朗

授業の概要・到達目標

21世紀現在の経済社会の仕組みや世界経済のあり方は、歴史的に成立したものです．したがって、現在の私たちが直面する経済問題や社会問題には、歴史的な背景が存在します．本講義では、近現代、特に20世紀のヨーロッパ経済やアメリカ経済の歴史を題材にして、(1)資本主義経済の展開、(2)経済成長の進展、(3)グローバル化の進行、(4)国家と経済の関係について議論します．

本講義では、国際経済史の基礎知識を習得することで、現在の国際経済について歴史的かつ国際的な視点から多角的に考察するとともに、歴史的思考に基づいて諸問題の解決策を論理的に導出できるようになることを目標とします．

授業内容

第1回　ガイダンス
第2回　近現代の欧米経済史における論点と視点
第3回　19世紀経済発展の概観
第4回　20世紀経済発展の概観
第5回　20世紀資本主義の特徴1：企業と社会
第6回　映画で描かれた経済社会
第7回　20世紀資本主義の特徴2：世界経済
第8回　中間のまとめ
第9回　帝国主義と戦争1：第一次世界大戦の開戦原因
第10回　帝国主義と戦争2：総力戦体制
第11回　戦間期経済と世界大不況
第12回　記録映像から読み取る世界経済
第13回　世界大不況と第二次世界大戦
第14回　最後のまとめ
※授業の進捗状況等に応じてスケジュールは変更になる可能性があります．

履修の注意点

世界史の基礎知識があることが望ましいですが、必須ではありません．

準備学習の内容

事前に、その回で扱う内容について教科書や参考文献を読み、図書館に所蔵されている図書やインターネットを使って不明点を調べておくことが必要になります．また、事後には、その回に配布した授業資料を使って内容を振り返るとともに、授業のなかで指定された参考文献を読むことが必要になります．

教科書

藤瀬浩司『欧米経済史』放送大学教育振興会、2004年．
水島司／島田竜登『グローバル経済史』放送大学教育振興会、2018年．
谷口明丈／須藤功『現代アメリカ経済史：「問題大国」の出現』有斐閣、2017年．
※毎回授業資料を配布し、それに基づいて説明します．

参考書

授業中に適宜案内します．

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内もしくは授業終了後に対応します．

成績評価の方法

成績評価の方法は、中間試験（50%）と期末試験（50%）に基づいて行ないます．

その他

本講義の履修を希望する場合は、必ず第1回のガイダンスに出席してください．授業形式や成績評価方法について確認します．

科目ナンバー：(PE)ECN281J

現代経済史	2単位
	3年次

教授　石　山　幸　彦

授業の概要・到達目標

現代の世界経済を理解する上で重要となる20世紀の経済発展の歴史について、その発展をリードしてきたアメリカや西ヨーロッパ諸国に焦点を当てて学習する。内容としては下記のように、第二次世界大戦から20世紀末までの経済発展を対象として、新自由主義やグローバリゼーションに象徴される現代経済がいかにして出現し、定着したのかについて理解することを目標とする。したがって、現代の政治経済を理解するうえでも有益な情報を認識し、理解することが到達目標である。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　世界恐慌と第二次世界大戦
第3回目　IMF－GATT体制の創設
第4回目　東西冷戦と資本主義の経済再建
第5回目　アメリカのケインズ主義
第6回目　イギリス・フランスの混合経済
第7回目　西ドイツの社会的市場経済
第8回目　ヨーロッパ統合の開始
第9回目　アメリカ経済成長の行き詰まり
第10回目　ドルショックとオイルショック
第11回目　ヨーロッパ統合の進展
第12回目　アメリカの新自由主義への政策転換
第13回目　西欧諸国の新自由主義への政策転換
第14回目　ヨーロッパ統合の深化

履修の注意点

国際経済史、社会思想史、日本経済史、経済思想史など関連する歴史科目も履修することが望ましい。

準備学習の内容

授業内容のレジュメを配布するので、それを熟読し復習する。

教科書

特になし。

参考書

藤瀬浩司『欧米経済史』（放送大学出版）河村哲二『現代アメリカ経済』（有斐閣アルマ）など

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内に口頭で行う。

成績評価の方法

定期試験を中心に評価するが(70%)、平常の授業への取り組みも成績評価に反映する(30%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN281J

現代経済史	2単位
	3年次

准教授　日　向　祥　子

授業の概要・到達目標

［授業の概要］戦後日本の経済・社会について、その変容過程を学ぶ。
［到達目標］日本経済・社会の在り様が変容してきた過程について、基本的な知識を習得するとともに、ごく基本的な経済学の理解に基づいて史的因果関係を吟味する力を身につける。

授業内容

01. 現代資本主義経済への視点
02. 戦争の爪痕
03. 敗戦
04. ドッジ・ライン
05. 【理解度の確認】①
06. 保守合同と55年体制
07. 新日本製鐵の成立
08. 【理解度の確認】②
09. ドル・ショックと石油危機
10. 財政再建と民営化
11. 【理解度の確認】③
12. プラザ合意とバブル経済
13. 不良債権と金融危機
14. 【理解度の確認】④

履修の注意点

・講義資料は Oh-o! Meiji システムを通じて配信するので、各自ダウンロード・印刷のうえ講義に臨むこと。
・学期中に中間試験を実施する（4回を予定）。
・期末試験は持ち込み不可。また、出題形式などの事前情報提供は行わない。

準備学習の内容

講義資料には、各回末尾に「理解の確認」として論述形式の問いをつけるので、その問いに解答できるよう復習を行うとよい。
なお、受講前に「理解の確認」に目を通しておくと、講義を通して理解すべきポイントが予め把握でき、効率的と思われる。

教科書

『（新版）日本経済の事件簿』武田晴人（日本経済評論社）2009年

参考書

とくになし

課題に対するフィードバックの方法

中間試験および「理解の確認」については、講義中に解説を行う。

成績評価の方法

中間試験（50%）、期末試験（50%）

その他

科目ナンバー：(PE)ECN221J

社会経済思想史【2022年度以降入学者】
日本経済思想史【2021年度以前入学者】

4単位

3年次

教授　高　橋　信　勝

授業の概要・到達目標

本講座は、旧カリキュラムでは「日本経済思想史」という名称であり、数年間未開講であった。2022年度以降の入学者を対象とする新カリキュラムでは「社会経済思想史」と名称を改めて再出発する。旧カリキュラム履修者は、下記の「授業概要」を熟読したうえで受講するか否かを決めること。

私たちは、スミスとならんで経済学の創設者として語られるケネーが「経済表」によって、一国全体を視野に入れた「財と貨幣の取引の連鎖」と「経済活動の相互依存関係」を描きだしたことを知っている。レオンチェフが彼の'input output table'の想源として「経済表」を挙げていたように、現代経済学へのケネーの知的遺産の大きさは計り知れないものがある。しかし、経済学の歴史的理解をめざす者は、ケネーの経済学が自然法思想によって基礎づけられていたことを見過ごしてはならない。ケネーにとって、自然法（法則）はフランス経済の宿痾、すなわち、悪しき実定法の問題点を剔出し、フランス経済再建のための経済政策論を展開するための指針であった。

また、「富とは権力である」というリカードウ派社会主義者の１人が残した言説は、ありきたりのものとして片付けることはできない。富の偏在を鋭く指摘した労働全収権論のように、今日の経済学の議論に照らすと違和感を覚えるテーマであっても、市場経済社会の問題性を鋭く捉えた議論には顧みるべきものがある。

本講座では、経済理論史の射程を広げ、経済学の歴史的理解に関心をもつ学生を対象に、経済学者たちの社会経済思想を講じる。経済学の歴史的理解を深めて、現代の市場経済社会の認識に役立つ視点を汲み取るためには'socio-economic ideas'に向き合うことを面倒がってはならない。生産活動のみならず、私たちの経済学の学びにおいても'roundabout production'の意義は大きいであろう。

授業内容

第１回：　授業の進め方と成績評価の仕方（a.のみ）
第２回：　国富の流通論的考察、コルベール主義、官房学
第３回：　ロックの労働所有権論と資本蓄積の可能性
第４回：　ペティの政治算術と財政思想
第５回：　カンティロンの価格分析と経済循環論
第６回：　ヒュームの貨幣論と貿易論
第７回：　ケネーの自然法思想と経済政策論
第８回：　ルソーの分業社会論と不平等へのまなざし
第９回：　スミスの自然価格論と独占批判
第10回：　スミスの資本の自然的投下論と歴史分析
第11回：　リカードウの投下労働価値説とリカードウ派社会主義
第12回：　ミルの土地所有論とアソシエーション論
第13回：　マルクスの歴史観
第14回：　マルクスの労働価値説と搾取の問題
第15回：　マルクスの相対的過剰人口論
第16回：　マルクスの再生産表式論
第17回：　マーシャルとケンブリッジ学派の社会改良主義
第18回：　マーシャルの価格論
第19回：　ピグーの社会的限界純生産物概念
第20回：　ケインズの古典派雇用理論批判
第21回：　ケインズの有効需要の原理
第22回：　ケインズの乗数理論と経済政策論の含意
第23回：　ワルラスの一般均衡理論と経済社会像
第24回：　シュンペーターの企業者論と資本主義没落論
第25回：　ヴェーバーの資本主義論と官僚化社会へのまなざし
第26回：　ハイエクの市場観
第27回：　ガルブレイスの現代経済分析
第28回：　総括

履修の注意点

新カリキュラム対象者用の「社会経済思想史」（秋学期／月曜日２限・金曜日５限）と同一授業である。

準備学習の内容

予習：　とくに必要はない。
復習：　授業内容の詳細な板書は行わないので、授業のメモを含めてノートを整理し直すこと。また講義の「道筋」に当たる内容については、別途自分で要約を作成すること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は後の授業回で行う予定である。詳細は初回授業時に説明する。

成績評価の方法

小テスト（30パーセント）と定期試験（70パーセント）によって評価する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN211J

近代経済学

4単位

3年次

教授　八　木　尚　志

授業の概要・到達目標

本講では、近代経済学の主要な理論を取り上げ、その理論体系を説明します。ミクロ経済学は市場経済のメカニズムを価格の働きに着目して説明していく分野です。マクロ経済学は、経済の全体のメカニズムを集計量を用いて明らかにしようとする分野です。本講の目的は、現代の理論経済学の代表的な理論構造に関する理解を深めることです。

講義内容を２つに区分して講義を行う予定です。第１に、ミクロ経済学の主要な理論体系を部分均衡分析と一般均衡分析の２つの面、第２に、マクロ経済学の基礎的構造を古典派経済モデルとケインジアン的経済モデルの２つの体系、失業とインフレーションの理論、動学的総需要－動学的総供給モデル、消費関数、投資関数、景気循環理論、経済成長理論など時間を通じた経済分析・マクロ動学の基礎、の内容を講義する予定です。

授業内容

第１回　経済理論について、近代経済学の系譜
第２回　生産理論（生産可能性曲線）
第３回　生産理論
第４回　生産者行動理論
第５回　消費者行動理論の基礎（限界効用、無差別曲線、加重限界効用均等の法則、消費者均衡の条件）
第６回　消費の一般均衡分析
第７回　一般均衡分析と部分均衡
第８回　経済的厚生
第９回　経済的厚生
第10回　消費者行動理論のより進んだ内容（スルツキーとヒックスの所得効果と代替効果、通常の需要曲線と補償需要曲線）
第11回　消費者行動理論のより進んだ内容（マーシャルの消費者余剰、補償変分・等価変分・消費者余剰）、顕示選好理論
第12回　市場均衡理論
第13回　生産関数の理論
第14回　生産関数の理論
第15回　不確実性と情報の経済分析
第16回　中間テスト（１回目）
第17回　古典派経済学
第18回　貨幣数量説
第19回　単純なケインズモデルと古典派経済学の対比
第20回　流動性選好理論、貨幣理論の発展
第21回　ケインジアンのIS-LMモデル、マンデル＝フレミング・モデル
第22回　労働市場の分析・総需要・総供給分析
第23回　失業とインフレーションの理論
第24回　消費関数の理論、投資関数の理論
第25回　経済成長の理論
第26回　経済成長の理論
第27回　マクロ分配理論
第28回　購買力平価、金利平価、マンデル＝フレミング・モデル

履修の注意点

・出席をするようにしてください（４年生は特に注意してください）。

準備学習の内容

教科書の次回の授業内容を指示します。指示に従って授業の準備をして下さい。
ミクロ分野のテキストは西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、
マクロ分野のテキストは西村・八木『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版
事前学習はテキストの対応する部分を読んでください。
事後学習は中間テスト２回と期末テストに合わせて復習をしてください。

教科書

西村和雄著『ミクロ経済学入門』岩波書店
西村和雄・八木尚志著『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版

参考書

伊達邦春編著『近代経済学』『ミクロ経済学』『マクロ経済学』八千代出版
西村・友田著『経済学ゼミナール：上級編』実務教育出版
その他のリーディングリストは講義時に説明します。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o Meijiと出席カードでのアンケートを見て授業中に対応する。

成績評価の方法

平常点（授業において確認をする場合があります、20％程度）、及び中間テスト（目安として50％程度）、期末試験（目安として30％程度）。
期末試験終了後に平常点、中間テスト、期末試験の全体の成績状況をみて最終的なウェイトを決めます。
出席は重視しているので注意してください）なお出席票の不正提出を含む不正行為は、成績評価に影響します。

その他

グラフや数値例を用いて近代経済学の基礎理論の体系とその発展についてわかりやすく講義をするように心がけます。理論経済学は市場経済のメカニズムに対する経済学の見方を体系的に説明したもので、さまざまな政策の基礎となっていたり、他の学問分野にも影響を与えたりしています。ぜひ積極的に授業に取り組んでください。

科目ナンバー：(PE)ECN231J

経済統計学

4単位

3年次

准教授　関　根　篤　史

授業の概要・到達目標

【講義概要】経済統計の作成方法と取得方法、そして経済データを使った統計分析の手法について講義を行う。具体的には、さまざまな経済統計、統計学の基礎、単回帰分析、重回帰分析、自己相関、不均一分散、ルービンの因果モデル、操作変数法、パネルデータ分析である。この講義では、これらの理論を基礎として、ExcelとRを用いた経済データの統計分析の手法について解説する。
【到達目標】統計分析の基礎理論と経済データの統計分析の手法について理解を深めることを目標とする。この講義では、経済統計の作成方法と取得方法、そして統計分析の基礎理論を学ぶだけでなく、ExcelとRを使ってどのように経済データ分析を行うのか、また出力された結果に対してどのように解釈するのかについて理解を深めることが期待される。

授業内容

第1回目　イントロダクション（経済統計学とは）
第2回目　ExcelとRの基礎
第3回目　『経済統計への招待』景気統計・SNA統計
第4回目　『経済統計への招待』物価統計
第5回目　『経済統計への招待』労働統計・世帯統計
第6回目　『経済統計への招待』企業活動統計・財政統計
第7回目　『Rによる計量経済学』第3章 単回帰分析
第8回目　『Rによる計量経済学』第4章 仮説検定
第9回目　『Rによる計量経済学』第5章 自己相関
第10回目　『Rによる計量経済学』第5章 自己相関
第11回目　『Rによる計量経済学』第6章 不均一分散
第12回目　『Rによる計量経済学』第6章 不均一分散
第13回目　『Rによる計量経済学』第7章 重回帰分析
第14回目　『Rによる計量経済学』第7章 重回帰分析
第15回目　『Rによる計量経済学』第9章 構造変化
第16回目　『Rによる計量経済学』第9章 構造変化
第17回目　『Rによる計量経済学』第10章 同時方程式体系
第18回目　『Rによる計量経済学』第10章 同時方程式体系
第19回目　『Rによる実証分析』第6章 相関関係と因果関係
第20回目　『Rによる実証分析』第6章 相関関係と因果関係
第21回目　『Rによる実証分析』第7章 外生変数と内生変数
第22回目　『Rによる実証分析』第7章 外生変数と内生変数
第23回目　『Rによる実証分析』第11章 操作変数法
第24回目　『Rによる実証分析』第11章 操作変数法
第25回目　『Rによる実証分析』第12章 パネルデータ分析
第26回目　『Rによる実証分析』第12章 パネルデータ分析
第27回目　『Rによる実証分析』第12章 パネルデータ分析
第28回目　第27回までの総復習

履修の注意点

統計学の単位を取得していること、または統計学の基礎レベルの知識を有していること。ExcelとRの実習を行うので、出来る限りノートPCを持参することが望ましい。参考書については、購入の必要はない。第1回目の授業で参考書について説明を行う。

準備学習の内容

事前に該当の章を読んで来ることが望ましい。また授業後には、実習で学習した内容をもう一度自分で復習すること。

教科書

特に定めない。

参考書

肥後雅博（2025）『経済統計への招待』新世社。
秋山裕（2018）『Rによる計量経済学』オーム社。
星野匡郎・田中久稔・北川梨津（2023）『Rによる実証分析-回帰分析から因果分析へ-』オーム社。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で問題演習を行い、受講者にはOh-o! Meijiのアンケート機能を使って解答を提出してもらう予定である。そしてその問題演習の解説を次の授業で行う。

成績評価の方法

期末試験(80%)、授業への参加度(20%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN231J

計量経済学	4単位
	3年次

教授　小　林　和　司

授業の概要・到達目標

計量経済学は経済予測を扱う学問である。統計学の分析手法が利用されるが、その理解には数学の知識が必要になる。さらに、実際に経済予測を行うに当たっては経済学の知識も必要である。
経済予測に必要となる、統計学と数学と経済学の知識を学び、理解することが目標となる。

授業内容

第1回　オリエンテーション
第2－7回　計量経済分析の統計学的基礎
第8－15回　計量経済分析の数学的基礎
第16－20回　計量経済分析の実際
第20－27回　経済時系列分析
第28回　まとめ

履修の注意点

予備知識は特に要求しない。授業中に10回
小テストを実施する。また期末試験における持ち込みは
B4サイズ以下の紙1枚のみ認める。

準備学習の内容

授業中にノートを取ることができるよう、配布教材を事前に印刷するなり、メモが取れる機器を用意するなどが
準備にあたるであろう。

教科書

Oh-oMeijiシステムを通じて配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

小テストに対するコメントは、次回の授業で行う。

成績評価の方法

期末テストの特点70%、小テストの得点30パーセントとする。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN241J

数理経済学

4単位

3年次

専任講師　井　上　朋　紀

授業の概要・到達目標

位相数学、凸解析と多変数函数の微分の知識を補いつつ、ミクロ経済学で学習した消費者理論をより厳密に扱う。具体的に扱うトピックは、(a) 需要ベクトルの存在と一意性、(b) 需要函数の連続性、(c) 競争均衡の存在、(d) 需要ベクトルの計算などである。
経済学でよく使われる数学を正確に使えるようにし、証明の書き方を覚えることで、中級から上級のミクロ経済学のテキストを独力で読めるようになるのが目標である。

授業内容

第１回：完全競争市場での消費者行動、不等式制約付き最大化問題と需要ベクトル
第２回：ユークリッド空間の位相１：内積、ノルム
第３回：ユークリッド空間の位相２：ノルムの性質、函数・写像の定義、線形写像
第４回：ユークリッド空間の位相３：線形写像の行列表現、開集合の定義
第５回：ユークリッド空間の位相４：開集合の性質、閉集合の定義と性質
第６回：ユークリッド空間の位相５：閉包の定義、点列
第７回：ユークリッド空間の位相６：触点・閉集合の点列による特徴づけ
第８回：ユークリッド空間の位相７：実数の連続性１
第９回：ユークリッド空間の位相８：実数の連続性２
第10回：ユークリッド空間の位相９：コンパクト集合の定義、コンパクト集合の点列による特徴づけ
第11回：ユークリッド空間の位相10：連続函数の定義
第12回：ユークリッド空間の位相11：連続函数の点列による特徴づけ
第13回：ユークリッド空間の位相12：連続函数の逆像による特徴づけ
第14回：ユークリッド空間の位相13：連続函数によるコンパクト集合の像
第15回：ユークリッド空間の位相14：函数の連続性とグラフ
第16回：消費者理論１：効用最大化問題の最適解（需要ベクトル）の存在
第17回：凸解析：凸集合の定義、凹函数・準凹函数の定義と性質
第18回：消費者理論２：需要ベクトルの一意性、需要函数の連続性
第19回：完全競争的な交換経済におけるワルラス均衡の存在定理
第20回：Brouwerの不動点定理とワルラス均衡の存在
第21回：微分１：微分の定義、微分の一意性、ヤコビ行列
第22回：微分２：合成函数の微分
第23回：微分３：和・積・商の微分、偏微分の定義、１変数函数の微分についての諸定理（ロルの定理、平均値の定理）
第24回：微分４：高階の偏微分、偏微分の順序
第25回：微分５：合成函数のヤコビ行列、連続可微分な函数
第26回：微分６：等式・不等式制約付きの最大化問題の解とKKT条件
第27回：微分７：等式・不等式制約付きの最大化問題を解く
第28回：消費者理論３：需要ベクトルを求める

履修の注意点

定義は正確に覚え、微分の計算を正しく行えるようにするだけでなく、できる限り定理の証明も覚えること。
特に、位相数学については、定義や使い方に慣れるまでに時間がかかるが、根気よく勉強を続けること。
授業中に定義を覚えているか、計算ができるか、簡単な証明が書けるかを確認するために、小テストを実施する。小テストでは、ノートや数学書などの持込を認めない。

準備学習の内容

1変数函数の微分については、計算がきることを前提として授業を進める。
内容が積み重ねであり、週２コマあるので、分からないことを溜めないこと。「解いてほしい問題」を解いて、理解を深めること。

教科書

（１）『経済数学講義』 丸山徹（慶應通信）1984年。
(1')『経済数学』 丸山徹（知泉書館）2002年。
（２）『多変数解析学：古典理論への現代的アプローチ』 スピヴァック（著）、齋藤正彦（訳）（東京図書）1972年。
（３）『Convexity and Optimization in R^n』 Berkovitz, Leonard D. （John Wiley & Sons）2002年。
(1')は(１)の内容を含んでいる。
ユークリッド空間の位相については(１)（または(1')）と(２)を、多変数函数の微分については(２)を、等式・不等式制約付き最大化問題については(３)を用いる。どの教科書も１冊の内容を全て使うわけでない。また、板書の内容で意味が通るようにする。教科書を購入する場合は、これらのことをよく考慮すること。

参考書

『集合と位相への入門：ユークリッド空間の位相』 鈴木晋一（サイエンス社）2003年。
前半の授業のユークリッド空間の位相について、教科書のスタイルが合わない場合に利用してください。論理記号や実数の連続性についても書いてある。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点後に返却する。

成績評価の方法

小テスト（10～20%）、定期試験（80～90%）によって評価する。

その他

履修者の様子を見て、授業のペースを遅くし、講義内容を変更する可能性がある。
授業前後にオフィスアワーを実施する予定である。
2026年度は日本語での講義のみ、2027年度は英語での講義のみ、2028年度は日本語での講義のみというぐあいに、2026年度からは日本語での講義と英語での講義を交互に開講していく予定である。（当初は、2026年度は英語での講義のみ、2027年度は日本語での講義のみの予定であったが、事情により変更された。）

科目ナンバー：(PE)ECN241J	
経済政策原理【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次
専任講師　齋　藤　雅　己	

授業の概要・到達目標

(授業の概要) 我々は、現在、グローバル化した世界経済の中で、国境を超えた様々な問題に直面し、解決を迫られている。これらの問題に答えていくためには、**現実経済**の動きを認識・把握し、克服すべき**政策課題**を明らかにして**経済政策の形成と実践**を図っていかなければならない。本講義では、日々起こりくる経済問題をとりあげながら、この課題に取り組み、経済理論を現実の経済問題へと実践的に応用して、経済運動のメカニズムが円滑に、効率的に、拡大的に機能するように維持・管理していく**「経済政策形成の原理」**を習得する。
(到達目標) 本講義においては、受講生が、学習した知識や経済理論（モデル）を十分に理解したうえで、それらを現実の経済問題の分析へ適用し、政策的に応用できるようになることを目標としている。

授業内容

本講義は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定である。
第１回：イントロダクション ～経済政策の原理～
第２回：経済政策の形成とその基本概念
第３回：経済政策形成の指導原理 ～経済原理と政治原理～
第４回：政策指導原理の転換メカニズム（１）～経済原理に内在する矛盾～
第５回：政策指導原理の転換メカニズム（２）～政治原理に内在する矛盾～
第６回：経済政策の目標と政策体系およびその理論構造 ～経済分析理論と政策理論～
第７回：経済成長理論Ⅰ～ドーマー・モデル～
第８回：経済成長理論Ⅱ～ハロッド・モデル～
第９回：ハロッド・モデルの政策論的応用 ～経済崩壊の分析と政策対応～
第10回：経済成長理論 III ～新古典派成長モデル（ソロー・モデル）～
第11回：技術進歩と経済成長の分析 ～持続的長期成長政策の基礎～
第12回：経済成長理論の展開 ～内生的成長理論とその政策論的意味内容～
第13回：経済成長の内部構造の分析～G-Formula～
第14回：講義のまとめ＆復習
※第１回の授業において、より詳細なシラバスを配布し、講義の進め方や受講時の基本的ルール、出席・試験・成績評価などの**重要事項**について説明いたします。この科目の単位取得を考えている学生は、必ず出席するようにして下さい。

履修の注意点

(基本科目) マクロ経済学、数量経済分析
(関連科目) 財政学、財政政策、金融論、金融政策、労働経済学、社会保障論、経済変動論、現代日本経済論、経済統計学、現代経済政策、国際経済学、国際経済政策、開発経済学、国際金融論
※毎回必ず授業に**出席**するとともに**出席コメント・課題**を提出し、**授業の予習・復習**をきちんと行えば、本科目の単位取得自体は難しくない。

準備学習の内容

Oh-o! Meijiクラスウェブで提示される次回授業範囲について、事前にレジュメ・補足資料・参考書等を読んで内容を把握するように努めてください。また、授業で十分に理解できなかった箇所については、レジュメとノート、および参考書・Webサイト等を用いて調べなおしてください。なお、欠席して授業を受けられなかった場合や授業内容を復習したい場合などの補完的措置として、過去の講義動画のアーカイブを公開予定です。
本講義は、現実の世界経済において生じている様々な問題と関連させながら進めていくため、日常的に関心を持って経済情報の収集・整理を行ってください。少なくとも、毎日、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」に目を通し、重要な出来事や政策課題について批判的に検討し、自らの考えをまとめておくことを強くお勧めします。

教科書

とくに指定しない。

参考書

『アセモグル／レイブソン／リスト　マクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】、(東洋経済新報社、2019年)
※その他、必要とする参考文献等は、講義においてその都度提示します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の冒頭に、受講生が提出した現実経済問題についてコメントし、前回授業の出席コメントで出された重要な質問に回答するほか、受講生の希望に応じてオンライン（Zoom）でのオフィスアワーを設けて学生からの質問に対応いたします。

成績評価の方法

期末試験（100%）の点数に授業への参加度（特別加点による上乗せ、最大15%）を加えて100点満点で評価する。なお、授業への参加度は、[1] 授業開始前の「現実経済の問題（WN?）」の提出、[2] 授業終了後の教室での「出席確認票」の提出＋出席コメント（講義の質問／感想）の送信、という２項目を特別加点として評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN311J

国際経済学

4単位

3年次

専任講師　宮崎　イキサン

授業の概要・到達目標

今日の世界経済は国境や国の概念から離れ、これまでに無い程に各国の経済が相互に関連し合い成り立っている。国境を越えた財、サービス、人の移動は当たり前になってきており、その潮流を表す「グローバル化」という単語を耳にしない日は無い。しかし、国境そのものの存在は決して無くなったわけではなく、またグローバル化についても、人々や国家間の利害対立が鮮明化している。このような国家間の経済的な繋がりやその影響をどう理解するか、経済のグローバル化をどのように捉えるべきか。国際経済学はこのような疑問に対して方法論を提供するものである。

【講義の目的】

本講義は**国際経済学の入門講義**であり、その目的は以下の3点を通じて国際金融（国際マクロ経済）と国際貿易に関する基礎を学ぶことである。1点目は国際金融（国際マクロ経済）と国際貿易を理解する上での基礎的な知識を身に付け、国際経済学における共通言語を学ぶこと。2点目は国際金融（国際マクロ経済）と国際貿易に関する初歩的な理論やモデルを理解し、そこから得られる示唆を学び取ること。3点目は理論からの示唆が現実のデータと整合的であるかどうかを踏まえつつ、それらがどのような政策につながるかを理解することである。

【講義の到達目標】

本講義は講義中に触れた知識や学術的知見を基に、学生が日頃目にする国際経済に関連する問題について、**自ら（国際）経済学的な視点から分析できるようになる**ことを目標としている。講義内容と実世界の問題に結び付きを見出し、講義中に学んだ学術的知見やデータに基づいた議論や分析を通じて、現実社会の問題に対する本質的な理解を促すことが理想である。

授業内容

第1回目　イントロダクション（講義ガイダンス）
第2回目　そもそもグローバルはどう捉えるべきなのか？－国際経済学におけるグローバル化の概念
第3回目　一国の経済状況を把握するにはどうすれば良いのか？－国民経済計算から見る一国経済
第4回目　一国の対外取引を把握するにはどうすれば良いのか？－国際収支表から見る対外経済
第5回目　為替レートは一つだけじゃない？－外国為替の基礎
第6回目　為替レートはどのように決まるのか？（1）－購買力平価と金利平価
第7回目　為替レートはどのように決まるのか？（2）－マネタリー・モデル
第8回目　為替レートはどのように決まるのか？（3）－ポートフォリオ・バランス・モデル
第9回目　一国の経済政策は、為替レートにどのような影響を与えるのか？－マンデル・フレミングモデル
第10回目　経済政策の効果は、為替制度によって変わるのか？－マクロ経済政策の効果
第11回目　通貨危機は何故発生するのか？－通貨危機の発生メカニズム
第12回目　これまでに発生した主な通貨危機は、どのように発生・波及したのか？－通貨危機の波及メカニズム
第13回目　前半のまとめと中間テストについて
第14回目　aモジュール：中間試験
第15回目　そもそも何故国家間で貿易が行われるのか？－比較優位の基礎と国際貿易
第16回目　何故ある国は車を輸出し、ある国は服飾品を輸出するのか？－貿易の利益と比較優位の決定
第17回目　何故同じ車であるトヨタを輸出し、メルセデスを輸入するのか？－産業内貿易と製品差別化
第18回目　再び（？）関税が注目されているが、そもそも関税の何が悪いのか？－関税、輸入割当と保護貿易
第19回目　関税や割当など経済厚生を改善する場合はないのか？－貿易政策の発展
第20回目　自由貿易が良いのなら、何故貿易自由化を推進する政策が施行されるとは限らないのか？－政治活動と貿易政策
第21回目　WTOは役に立っているのか？－GATT、WTOの歴史と制度
第22回目　港で積み下ろしされるコンテナだけが貿易ではない？－サービス貿易とICT
第23回目　CPTPP、RECP等々、何故貿易協定が増えてきているのか？－地域間貿易協定
第24回目　海外直接投資は、ただ海外の株や債券を買うのと何が違うのか？－海外直接投資とM&A
第25回目　外国人労働者は、何故自国以外に労働の機会を求めるのか？－労働力の国際移動
第26回目　貿易理論は現実をどこまで捉えられるようになってきたのか？－貿易理論の新たな展開
第27回目　何故国家同士は経済的な繋がりから利益を得るにも関わらず、依然として紛争が起きるのか？－貿易、紛争と経済成長
第28回目　後半のまとめおよび期末テストについて

履修の注意点

授業はスライド資料を中心に進め、必要に応じて板書をすることもある。授業に用いられるスライドおよび関連資料は事前にOh-o! Meijiクラスウェブにアップロードする予定である。

準備学習の内容

授業内容をより良く理解するため、授業前に資料や参考書などに目を通し、授業後には復習を行うことが望ましい。

必須科目：ミクロ経済学、マクロ経済学（ここでの「必須」は講義内でミクロ経済学・マクロ経済学で学習するような概念について改めて詳細に説明しないという意味であり、ミクロ経済学・マクロ経済学が未履修であっても問題は無い）

関連科目：国際経済政策、国際金融論、開発経済学、経済政策原論、産業組織論、金融論、金融政策、現代経済政策

教科書

教科書は特に指定しない、適宜参考書を読むことを勧める。

参考書

伊東恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』（新世社）
伊藤萬里・田中鮎夢 『現実からまなぶ国際経済学』（有斐閣）
石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か 企業の異質性と21世紀の国際経済』（ミネルヴァ書房）
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』（有斐閣）
古沢泰治『国際経済学入門』（新世社）
Krugman, P., M. Obsfeld and M. Melitz,*International Economics: Theory and Policy*, 10th edition, Pearson Education Limited（和訳あり）
Caves, R., J. Frankel and R. Jones,*World Trade and Payments: An Introduction*, 10th edition, Pearson Education Limited（最新版未訳）

課題に対するフィードバックの方法

講義において課題が出された場合、課題の提出・評価・フィードバックはOh-o! meijiシステム上で行う。

具体的には課題をOh-o! meijiクラスウェブの「レポート」欄に公開し、提出もこちらで受け付ける。さらに、Oh-o! meijiクラスウェブの「レポート」欄にはコメントやフィードバック機能が付いているので、課題に対するコメントやフィードバックもその機能を利用して行う。

さらなる理解や研究のために必要であれば、オフィスアワーでの対面でのコメントやフィードバックを実施することもある。

成績評価の方法

中間テスト（50%）および期末テスト（50%）の結果を基に、明治大学の評価・評点基準に沿って成績評価を行う。

その他

1. 学生には学ぶ権利があり、教員には教える権利がある。これを邪魔する権利は誰にも無い。
2. 授業中はマナーを守り、私語など、その他授業中に不要あるいは授業の妨げになると思われる行為は慎むこと。場合によっては減点あるいは退室・その後受講を認めないなどの措置を取ることがある。
3. 出席なくして授業内容、国際経済学に関する理解と単位認定は不可能に近い。
4. 授業中にノートパソコンあるいはタブレット端末を利用した授業ノートの作成を認めるが、ノート作成以外の用途には使用しないこと。スマートフォンは授業に必要になるものではないため、緊急時以外は使用を控えること。
5. 講義内容（講義資料、課題および試験など）をSNSを含むインターネット上に投稿・アップロード・シェアすること禁ずる。

科目ナンバー：(PE)ECN341J

現代日本経済論【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次

教授　飯　田　泰　之

授業の概要・到達目標

本講義では、基礎的な経済理論を用いて日本経済を巡る諸論点についてデータによる解説を行う。テーマが多岐にわたるため、適宜参考文献等を参照し、積極的に講義に参加することを期待している。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　経済データの読み方
第３回　国民経済計算の基礎ーGDPとは何か
第４回　金融政策の基礎理論
第５回　現代の金融政策
第６回　財政政策の基礎
第７回　日本財政の現状分析
第８回　社会保障制度Ⅰ：年金
第９回　社会保障制度II：医療・介護・生活保障
第10回　国際経済論の基礎
第11回　国際金融と日本経済
第12回　その他発展的論点I
第13回　その他発展的論点II
第14回　まとめ

履修の注意点

ミクロ経済学・マクロ経済学を履修していない場合には、講義開始前に『経済学講義』（飯田泰之・ちくま新書）を読んでおいてほしい。

準備学習の内容

講義中に言及した参考文献には積極的に目を通して欲しい。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

レポート提出と評価・コメント。

成績評価の方法

レポート・期末テストによる。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN361J

金融論	2単位
	3年次

教授　小早川　周　司

授業の概要・到達目標

(目的・狙い)
前半では、金融（ファイナンス）の基礎的な内容を解説するとともに、金融機関や金融市場の役割、さらには金融と情報技術の融合（フィンテック）といった最近の金融システム・制度を取り巻く新たな動きについて講義します。後半では、金融経済教育推進機構（J-FLEC）と連携し、金融に関する知識を深めるための外部講師を招いての授業を実施する予定です。受講者は、社会人生活に欠かせない金融サービスや金融機関の役割、さらにはフィンテックに欠かせないブロックチェーン技術について理解を深めるとともに、長い目で見た金融に関する知識を身につけることを狙いとします。
(授業概要)
家計の貯蓄と資産運用、企業の投資と資産調達、金融の基本的仕組み、金融機関と金融市場の役割、金融システムとプルーデンス政策、さらにはブロックチェーンとその要素技術等について解説します。その上で、大学生のための人生とお金の知恵に関する授業を実施します。

授業内容

第１回目　イントロダクション：金融と金融取引
第２回目　資金循環統計からみた金融
第３回目　金融機関の役割：銀行の機能を中心に
第４回目　金融システムの安定性とプルーデンス政策
第５回目　金融と情報技術の融合（フィンテック）：概論
第６回目　ブロックチェーン（分散型台帳）技術とは何か
第７回目　貨幣の将来像：暗号資産、ステーブルコイン、中央銀行デジタル通貨
第８回目　人生のデザインと金融
第９回目　お金に関する知恵：収入と支出
第10回目　お金を増やす①
第11回目　お金を増やす②
第12回目　お金を借りる
第13回目　不確実性への備え
第14回目　トラブルに強くなる

履修の注意点

上記の授業計画は、半期間に取り扱う内容をおおまかに配分したものです。実際には、各回の進捗度合いに応じて改訂されます。なお、講義の内容はできるだけ平易な内容とし、ミクロ・マクロ経済学が未修得でも理解できるようにします。

準備学習の内容

各回の講義で使うレジュメをみながら予習・復習してください。講義では、日本経済新聞等の記事を参照することがありますので、新聞には目を通すようにしてください。期末試験に際しては、これらの参考文献をしっかりと読んでおいてください。

教科書

特に定めません。

参考書

参考文献は、各回の授業において紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題等へのフィードバックについては、総合的な評価をクラスウェブを通じて全体に対して行うほか、必要に応じて個別のレポートに対するコメントを１対1で行います。

成績評価の方法

期末試験（80%）、授業貢献度（20%、授業中の課題への貢献度等を含む）を総合的に勘案し、評価します。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE)ECN361J	
金融政策	2単位
	3年次
教授　小早川　周　司	

授業の概要・到達目標

(目的・狙い)
日本銀行の金融政策をテーマとして、その目標と政策手段を具体的に解説するとともに、金融政策の効果がさまざまな金融機関・市場を通じて、企業の投資や家計の消費など実体経済面にどのように波及していくかについて解説します。また、米欧の金融政策の枠組みについても解説します。
(授業概要)
日本銀行の目的と機能、金融政策の独立性と説明責任、金融政策の目標と手段等について、順次解説します。また、バブル発生以降の日本銀行の金融政策運営を振り返ります。さらに、民間金融機関の立場から見た金利のある世界における経営戦略や今後の課題について、外部識者を招いての講義も行う予定です。

授業内容

第１回目　イントロダクション：中央銀行とは？
第２回目　金融政策の目的：物価の安定とは？
第３回目　金融政策の独立性・説明責任
第４回目　金融政策の手段
第５回目　金融政策の運営
第６回目　金融政策決定会合の実務
第７回目　金融政策の波及経路
第８回目　日本銀行の金融政策：資産価格の上昇と金融政策
第９回目　日本銀行の金融政策：金融システム危機の発生と金融政策
第10回目　日本銀行の金融政策：量的金融緩和から包括金融緩和政策
第11回目　日本銀行の金融政策：量的・質的金融緩和政策
第12回目　日本銀行の金融政策：賃金上昇を伴った物価安定目標の達成に向けて
第13回目　金利のある世界における民間金融機関の経営戦略
第14回目　ラップアップ：金融政策と中央銀行

履修の注意点

上記の授業計画は、半期間に取り扱う内容をおおまかに配分したものです。実際には、各回の進捗度合いに応じて改訂されます。なお、講義の内容はできるだけ平易な内容としますが、ミクロ・マクロ経済学の基礎的な内容を修得済みであることを前提として、講義を進めます。

準備学習の内容

各回の講義で使うレジュメをみながら予習・復習してください。講義では、日本経済新聞等の記事を参照することがありますので、新聞には目を通すようにしてください。また、非伝統的な金融政策に関する論文や、海外中央銀行の金融政策についての英語の文献を紹介することもあります。期末試験に際しては、これらの文献をしっかりと読んでおいてください。

教科書

特に定めません。

参考書

参考文献は、各回の授業において紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題等へのフィードバックについては、総合的な評価をクラスウェブを通じて全体に対して行うほか、必要に応じて個別のレポートに対するコメントを１対1で行います。

成績評価の方法

期末試験（80%）、授業貢献度（20%、授業中の課題への貢献度等を含む）を総合的に勘案し、評価します。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE)ECN361J

国際金融論

4単位

3年次

准教授　田　中　茉莉子

授業の概要・到達目標

金融論およびマクロ経済学の理論的枠組みに基づき、我が国や世界が抱える金融をめぐるグローバルな問題について、理論・歴史・現実のデータの観点から理解を深める。講義前半では、国際収支とマクロ経済および金融との関係性、為替レートの決定理論やマンデル＝フレミング・モデルといった理論的枠組み、国際通貨制度の歴史について講義を行う。講義後半では、前半で学修した内容を前提として、EUにおける通貨統合、BIS規制、アジア通貨危機、為替相場制度の選択、世界金融危機、欧州ソブリン危機等より時事的なトピックスについて分析する。

学生が国際金融に関する問題について課題を設定し、分析・考察できるレベルを到達目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション　国際金融論とは何か
第2回目　国際収支とマクロ経済　GDPと経常収支、経常収支と貯蓄・投資
第3回目　国際収支と金融　経常収支と対外純資産、経常収支の5つの側面
第4回目　国際収支表の作成方法
第5回目　近年のグローバルな資金フローと国際収支
第6回目　外国為替市場の仕組み
第7回目　リスクヘッジのための外国為替取引　スポットレート、フォワードレート
第8回目　外国為替介入と金融政策
第9回目　為替レートの決定理論（1）　購買力平価（PPP）
第10回目　為替レートの決定理論（2）　アセットアプローチ
第11回目　外国為替レートと経常収支　弾力性アプローチ、マネタリー・アプローチ
第12回目　オープン・マクロ理論（1）　マンデル＝フレミング・モデル
第13回目　オープン・マクロ理論（2）　国際金融のトリレンマ
第14回目　国際通貨制度の歴史（1）　国際金本位制
第15回目　国際通貨制度の歴史（2）　円の通貨史
第16回目　国際通貨制度の歴史（3）　ブレトンウッズ体制と変動相場制
第17回目　ユーロと欧州の金融・財政政策（1）　EUの歴史
第18回目　ユーロと欧州の金融・財政政策（2）　通貨統合の進展
第19回目　ユーロと欧州の金融・財政政策（3）　ユーロシステムの金融政策
第20回目　金融のグローバル化と国際金融システム（1）　金融のグローバル化と資本取引規制
第21回目　金融のグローバル化（2）　ユーロ市場、各国の金融制度
第22回目　プルーデンス政策と規制の国際標準化（1）　プルーデンス政策の必要性と類型
第23回目　プルーデンス政策と規制の国際標準化（2）　BIS規制
第24回目　通貨危機のメカニズム（1）　アジア通貨危機
第25回目　通貨危機のメカニズム（2）　通貨危機の理論
第26回目　エマージング諸国とさまざまな通貨制度
第27回目　世界金融危機と国際金融システム改革（1）　サブプライム・ローン危機、リーマン・ショック
第28回目　世界金融危機と国際金融システム改革（2）　金融規制強化、国際金融システムの安定化、期末試験

履修の注意点

金融経済論、国際経済学、日本経済論、国際経済政策を履修することが望ましい。

準備学習の内容

各回の講義資料に目を通してください。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書

勝悦子（2011）『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』（有斐閣）
藤井英次（2024）『コア・テキスト　国際金融論』第3版　（新世社）

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiシステムで行う。

成績評価の方法

レポート40%、期末試験60%

その他

科目ナンバー：(PE)ECN391J

経済地理学

4単位

3年次

教授　廣　松　　悟

授業の概要・到達目標

経済地理学の体系的理解を目指したこの講義では、その理論・実証の両面に通底する広範な分野の紹介を行うことになる。まずは、我々の日々の生活諸条件を物質的に構成している都市空間に対する様々なアプローチの方から若干詳しく検討し始めることとし、通常考えられているよりも遥かに多く状況依存的な産物である我々の日常的都市生活活動とその物的および社会経済的基盤に対する客観的分析の能力と、空間を明示的に分析枠組みの中に取り込んだ経済ダイナミクスの理解の双方にに努める。

授業内容

1．イントロダクション
2．経済地理学の課題・方法・視角（1）
　経済学的方法と地理学的視角
3．経済地理学の課題・方法・視角（2）
　地域・ローカリティ研究の射程とその意義
4．都市システムと経済の空間的連関（1）
　方法としての都市
5．都市システムと経済の空間的連関（2）
　中心地論（クリスターラーモデル、等）とその射程
6．都市システムと経済の空間的連関（3）
　中枢機能とその立地変動
7．都市システムと経済の空間的連関（4）
　世界都市システム論と世界都市の空間構造
8．都市システムと経済の空間的連関（5）
　世界都市システム論と世界都市の歴史的動態
9．都市農村関係（1）
　都市からみた農業と農村
10．都市農村関係（2）
　チューネンモデルとその現代的意味
11．都市農村関係（3）
　アーバンフリンジについて
12．農業空間とその固有の論理（1）
　グローバル農業の展開とその限界
13．農業空間とその固有の論理（2）
　モンスーンアジア・水田稲作農業とその特殊性
14．レポート課題の提示とその説明
15．製造業の構成とその空間的ダイナミズム（1）
　工業空間のグローバル変動とその要因
16．製造業の構成とその空間的ダイナミズム（2）
　ウェーバーモデルと集積の論理
17．製造業の構成とその空間的ダイナミズム（3）
　現代企業の立地決定論
18．製造業の構成とその空間的ダイナミズム（4）
　プロダクト・サイクルと工業集積空間の形成
19．製造業の構成とその空間的ダイナミズム（5）
　グローバリズムとローカリゼーション
20．製造業の構成とその空間的ダイナミズム（6）
　US 自動車製造業の歴史とその立地変動
21．経済のサービス化とその空間的含意（1）
　国際的労働力移動とその地域的諸背景
22．経済のサービス化とその空間的含意（2）
　「世界都市」再論
23．経済のサービス化とその空間的含意（3）
　商業集積の論理と現代都市商業空間の変容
24．経済地理学と地域政策（1）
　地域格差諸論＜1＞
25．経済地理学と地域政策（2）
　地域格差諸論＜2＞
26．経済地理学と地域政策（3）
　経済成長と地域格差形成・まとめ
27．経済地理学と地域政策（4）
　戦後日本の経済成長と地域格差形成
28．経済成長と地域の自立的発展
　「移出主導型」地域経済モデルとその含意ほか

履修の注意点

学科・コースを問わず、生活の場としての「地域」や「都市」に関する様々なトピックについて、できるだけ具体的な関心を抱いていることを最大の条件としたい。

準備学習の内容

講義内容の正確な理解と運用を図るため、講義終了時に関連する問題を提示し次週開始時に解答およびその補足を適宜行う、ので、そのための積極的な対応が求められる。

教科書

教科書については特に定めず、適宜参考文献表やプリント類を配布する。

参考書

参考資料及び文献は、講義開始時を含めその都度指示し、数回にわたって詳細リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜数回にわたり、このオーメイジ上で進行箇所までの質疑応答を実施する。

成績評価の方法

中間及び学期末筆記試験を行い、それらの総合評価とする。なお、各課題の「重み付け」については、初回ガイダンスで詳しく言及するので、単位取得希望者は必ず出席のこと。この回の説明は後には繰り返さない。

その他

関連科目である「地域開発論」及び「地域振興論」（通年開講各2単位）とのセット履修が望ましい。

科目ナンバー：(PE)ECN391J	
地域振興論	2単位
	3年次
兼任講師　梶　田　　真	

授業の概要・到達目標

近年の地域振興の議論では、ボトムアップによる地域主導の取り組みの重要性が強調されるようになっています。しかし、地域振興の戦略は、過去の失敗の経験を踏まえ、少しづつ修正されながら現在に至っています。かつて「成功」と評価された事例が、持続可能性を持っておらず、中長期的に破綻してしまったケースも少なくありません。

本講義では、主としてミクロな視点から地域振興について考えていきたいと思います。具体的には戦後、日本で行われてきた様々な地域振興の政策・取り組みを中長期的な視点から検証していく作業を積み重ねて行くことで、地域の文脈を踏まえた地域振興を図っていく上で重要な視角と柔軟な発想の獲得を目標としています。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　地域的不均等発展について:戦後日本における地域間格差
第3回目　全国総合開発計画と拠点開発
第4回目　新産業都市・大分の40年（1）
第5回目　新産業都市・大分の40年（2）
第6回目　戦後における農林業政策の展開
第7回目　NPC 運動・一村一品運動・悠木の里づくり（1）
第8回目　NPC 運動・一村一品運動・悠木の里づくり（2）
第9回目　序列化・系列化されていく地方都市
第10回目　地方都市における中心商店街の苦悩とその取り組み（1）
第11回目　地方都市における中心商店街の苦悩とその取り組み（2）
第12回目　「むらおこし」事業と自治体主導型開発
第13回目　自治体主導型開発の「優等生」から財政再建団体へ:夕張市の歩みを振り返る
第14回目　外来型開発と公害問題:水俣市が「もやい直し」に至るまでの歩み
（一部、内容を入れ替える可能性があります）

履修の注意点

特別な事前準備は不要ですが、できるだけ多くの統計や地図、写真などの資料を提示しながら話を進めて行きますので、現場を想像しながら、当事者になったつもりで地域振興・地域開発の問題を考えてみて下さい。

準備学習の内容

特に予習の必要はありません。授業後、取り上げたトピックスに関係する文献や資料を読み進めていくことで理解が深まると思います。

教科書

特に指定しません。できるだけパワーポイントのハンドアウトを配布するようにしたいと思います。

参考書

必要があれば授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業の冒頭の時間帯を使って行う。

成績評価の方法

原則として期末レポートで評価します。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN351J

地方財政論

4単位

3年次

教授　星　野　　泉

授業の概要・到達目標

地方財政を論じる場合の「地方」とは、農村部、あるいはいわゆる田舎のことを意味するわけではない。駿河台のある東京中心部の千代田区を含む東京特別区や東京都、あるいはその他の都市部自治体をも含んだ概念であり（現在はその部分が圧倒的に大きい）、公共部門たる地方自治体を意味し、地方財政とはその財政活動のこととなる。

地方自治体は、予算、税制、財政調整、補助金、公債などで国との財政関係を強くもつ一方、公共サービスの供給及び地方税の課税主体として住民との財政関係をもつ。また、総体としての地方財政状況が、日本全国にある個別自治体の財政状況と同じでもない。市といっても、人口400万人近い横浜市から人口2,000人台の歌志内市まで様々。財政問題は全く異なる。本講義では、こうした二面性をおもに制度、歴史、国際比較の観点からみていく。

また、財政の国際化が進み、国際公共財や、財政や税制の国際調整が課題となるにつれ、地方財政の分野は大きく広がりつつある。EU の観点から見れば、EU に属するヨーロッパの一国は一地方であり、各地域にEUからの交付金もある。世界あるいは国連中心主義から見れば、日本財政も地方財政の一部となる。したがって、国の財政も地方財政の範疇といえる。これまでおもに国との関係で地方財政や地方分権論を語ってきたものがより複雑化してきたのである。分権論は、国からばかりでなく、国を超えた主体からの分権も議論しなくてはならない。

本年度は、国税を含めた税制を中心に日本の地方分権の現状、感染症や災害等の危機対応、そしてイギリスやスウェーデンとの国際比較に時間を割く予定である。また、少子高齢化との関わりなど、その時々の課題についても盛り込んでいく予定であり、授業予定は前後することもある。起きている事象に対して、問題意識をもちたい、その方法を知りたい、という学生の受講を希望する。

授業内容

第１回　bのみ　講義の概要
第２回　地方財政今そこにある危機、地方自治と地方財政
第３回　経済、財政、地方財政の国際比較
第４回　公共部門と民間部門
第５回　スウェーデンの地方財政
第６回　イギリスの地方財政
第７回　国民経済と地方財政
第８回　日本の地方財政概要
第９回　日本の地方財源
第10回　所得税と個人住民税
第11回　法人税と地方法人２税（事業税・法人住民税）
第12回　消費税と地方消費税
第13回　固定資産税
第14回　自主課税権、法定外税、環境税
第15回　地方交付税と地域格差
第16回　公共事業、教育、福祉と国庫支出金
第17回　地方債
第18回　経費の分類
第19回　少子高齢化と地方財政１
第20回　少子高齢化と地方財政２
第21回　地方分権改革の動向
第22回　住んでいる自治体の財政分析をしてみよう
第23回　都道府県財政
第24回　大都市財政（政令指定都市と東京特別区）
第25回　都市財政
第26回　小規模町村財政
第27回　地方財政の今日的課題
第28回　aのみ　講義の整理

履修の注意点

関連科目として財政学、財政政策。

準備学習の内容

テキスト、参考文献を読んで参加すること。
最低限、新聞を読んでくること。

教科書

兼村・星野・稲田『自治体財政を読み解く』（イマジン出版）2022年発行

参考書

拙著『財政のかたちは国のかたち』（朝陽会）
拙著『スウェーデン高い税金と豊かな生活』（イマジン出版）

課題に対するフィードバックの方法

対面、コメントカードなどで行う。

成績評価の方法

授業への参加度30％、小試験30％、レポートおよび定期試験の成績40％による。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ECN391J

中小企業論

4単位

3年次

教授　森　下　　正

授業の概要・到達目標

ベンチャー・中小企業による産業の苗床機能の発揮が、先進諸国のみならず、発展途上国でも期待されている。なぜなら、今日のトヨタやパナソニックも、創業当初は小さな町工場からスタートし、絶え間ない技術革新と製品開発によって、国際的な企業を築いたからである。また、経済の国際化、サービス化、高度情報化と人口の高齢化など、企業を取り巻く経済環境は変化し続けている。そこで、企業活動を軸とした現実世界を十分に観察し、経済の本質と企業経営の実態を解明する。

(授業の目的)

本講義では、ベンチャー・中小企業の理論と実態の論述を行う。まず、現実のベンチャー・中小企業の実態と問題を解明するために必要な理論的分析視点とベンチャー・中小企業を取り巻く経営課題を解決するための手法を学ぶ。また、経済発展、経済環境変化、産業構造転換と中小企業経営との関係を産業別に理論と実証の側面から詳述する。さらに、ベンチャー・中小企業集積地の実態や企業経営を行うために必要なマネジメントの手法（カイゼン活動、マーケティング、ロジスティクスなど）、企業経営者に必要な能力と資質および技術的な方法などについて、講義を進める。特に、産業集積地の産業風土、中小企業等協同組合を中心とした連携・組織化活動、産学官の連携活動及び中小企業金融の実態を解明する。また、ベンチャー・中小企業の経営者像、創業・新事業創造に至るプロセスなどを学ぶことによって、中小企業経営を遂行する上で必要な視点を学ぶ。

(到達目標)

地域産業、中小企業の経営革新等に資する政策立案能力、実際に企業経営を行うにあたっての基本的なマネジメントの考え方と手法を身につける。具体的には、以下の５つの点についての習得を目指す。

1）現実のベンチャー・中小企業の実態と問題を解明するために必要な理論的視点
2）現実のベンチャー・中小企業が抱える問題を解決するための手法
3）ベンチャー・中小企業の産業集積地の実態
4）企業経営を行うために必要なマネジメントの手法
5）企業経営者に必要な能力と資質および技術的な方法

授業内容

第１回から第14回までは、ベンチャー企業を含む中小企業の理論的分析視点とベンチャー・中小企業の経営実態と課題を明らかにし、かつその解決策について学習し、第15回以降、実際の企業経営に役立つベンチャー・中小企業の経営戦略について学んでいく。

第１回：イントロダクション（中小企業論の視座）
第２回：革新的な中小企業の経営特質と課題
第３回：中小企業問題と中小企業政策
第４回：中小企業組合等連携組織の理論と新実践
第５回：中小企業の連携・組織化政策の新展開
第６回：グローバル時代における中小企業経営
第７回：中小製造業の経営特質と史的展開
第８回：中小製造業と産業クラスター
第９回：中小製造業のものづくり力向上への挑戦
第10回：中小物流業の経営特質と史的展開
第11回：中小物流業のロジスティクス新展開
第12回：中小流通業の経営特質と史的展開
第13回：中小流通業と大手流通チェーンの行方
第14回：中小サービス業の生産性向上と高付加価値化
第15回：規制改革と中小企業の生き残り戦略
第16回：中小企業による環境経営
第17回：中小企業金融の実態と財務戦略
第18回：AI/IoT・DX化に伴う中小企業経営
第19回：人口減少社会における中小企業の人材育成
第20回：地方創生と中小企業経営
第21回：企業家精神と産業風土
第22回：ベンチャー・中小企業の新規創業
第23回：ベンチャー・中小企業による新事業創造
第24回：ベンチャー・中小企業のマーケティング戦略
第25回：ベンチャー・中小企業のブランド戦略
第26回：ベンチャー・中小企業のロジスティックス戦略
第27回：ベンチャー・中小企業のSDGs
第28回：老舗に学ぶ中小企業の永続経営

履修の注意点

産業、地域経済、経済政策、財政政策などに関する科目、「産業組織論」「地域産業論」「地方財政論」「財政学」「地域政策論」「労働経済学」「経済政策」「人口学」「産業心理学」を履修することで、講義の理解を深めることの手助けとなる。

準備学習の内容

予習として、事前にOh-o! Meiji Systemを通じて配布される講義用資料をダウンロードし、プリントアウトをして授業時に持参するようにしておくこと。また、授業内容に合わせて、講義用資料や教科書を事前に熟読して授業に臨むこと。また、復習として、配布されたレジュメおよび授業中にメモしたノートを利用して、当該授業を振り返り、当該授業後に行う確認テストで回答できるようにしておくこと。

教科書

授業の予習、復習用として、次の２冊を教科書として使用する。

『持続可能社会を築く中小企業経営：環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一、2025年
『多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論』安藤信雄著、2021年

参考書

授業の理解を深めるため、次の４冊を参考書として使用する。

『新協同組織革命』百瀬恵夫著、東洋経済新報社、2003年
『15マネジメント基本全集　ベンチャービジネス（ベンチャリング）；ベンチャービジネスとマネジメント』今村哲・森下正編著、学文社、2006年
『空洞化する都市型製造業集積の未来～革新的中小企業経営に学ぶ～』森下　正著、同友館、2008年
『中小企業白書　2025年版』中小企業庁編、2025年

課題に対するフィードバックの方法

アンケート機能の（総合）コメントを通じて、課題に対するポイントを解説する。

成績評価の方法

成績は、授業終了後に実施する課題アンケート（35点）、期中レポート（20点）、期末レポート（20点）、期末試験（25点）の合計（100点）によって、総合的に評価する。
なお、課題アンケートの一部は、授業時間内に実施する場合がある。課題アンケートはすべてOh-o! Meijiのアンケート機能を通じて、提出する方法をとる（指定提出期間外での提出は不可）。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN391J

人口学

4単位

3年次

准教授　鎌　田　健　司

授業の概要・到達目標

人口学は、その名の通り「人口」を研究対象とする学際科学である。人口学の研究分野は、人口の規模・構造・変化や人口変動要因である死亡・出生・人口移動を研究対象とする「形式人口学」と経済・社会・政治との関係や生物学的側面や歴史的側面などを研究する「実体人口学」（応用人口学・人口研究）に分けられる。

本講義では、「形式人口学」における人口統計や人口学の基礎概念・分析手法の習得を基本とし、少子高齢化・人口減少が進行する日本の人口動向を中心に、国際比較や社会経済的環境との関係、個人のライフコース選択など「実体人口学」についても取り上げ、人口を学術的に理解することを目指す。

授業内容

第１回目　イントロダクション：少子高齢化・人口減少社会
第２回目　人口学の基礎概念と分析法（１）人口統計の種類、人口の種類、人口ピラミッド
第３回目　人口学の基礎概念と分析法（２）人口学的方程式、人口増加率、人口学的率の考え方
第４回目　人口学の基礎概念と分析法（３）年齢別率、期間・コーホート観察、レキシス図
第５回目　人口学の基礎概念と分析法（４）粗率（普通率）・人口増加率の要因分解
第６回目　世界の人口からみた日本：人口指標の国際比較・人口開発問題
第７回目　人口転換理論（１）古典的人口転換理論・第二の人口転換
第８回目　人口転換理論（２）日本の人口転換
第９回目　死亡分析（１）生命表・平均寿命・健康寿命
第10回目　死亡分析（２）標準化指標・生命表分析・イベントヒストリー分析
第11回目　出生分析（１）生物・行動学的近接要因・自然出生力
第12回目　出生分析（２）出生力指標・出生率の要因分解・少子化
第13回目　出生分析（３）結婚構造の変化・未婚化・晩婚化・非婚化
第14回目　出生分析（４）結婚・家族に関する意識の変化
第15回目　出生分析（５）就業行動と女性のライフコース
第16回目　人口移動分析（１）国内人口移動・東京一極集中と地方創生
第17回目　人口移動分析（２）地域人口分布の変化・地域人口増加率の要因分解
第18回目　人口移動分析（３）国際人口移動・外国人労働者と社会統合政策
第19回目　人口モデルとその応用（１）安定人口モデル
第20回目　人口モデルとその応用（２）人口モメンタム・多地域人口モデル
第21回目　将来人口推計・将来世帯数の推計（１）社人研の将来人口推計
第22回目　将来人口推計・将来世帯数の推計（２）国連の将来人口推計・推計の評価と精度
第23回目　将来人口推計・将来世帯数の推計（３）世帯数の将来推計
第24回目　経済社会への影響と政策対応（１）社会保障制度・マクロ経済への影響
第25回目　経済社会への影響と政策対応（２）少子化対策・高齢対策
第26回目　空間人口学（１）小地域人口統計・GISの利活用
第27回目　空間人口学（２）空間統計学を用いた人口分析事例
第28回目　(a) 内容の確認・(b) 講義のまとめ

履修の注意点

講義では、毎回の内容に関する「問い」への回答、ならびに授業内で実施される実習課題の提出を以て授業への参加度を評価し、最終的にレポート提出を以て情報を整理する力・自分で考える力を評価する。
講義資料は紙芝居のように基本的に図表のみで構成されていることから、毎回講義に出席し、内容についてメモを取り、わからないところは質問するなど積極性が求められる。

準備学習の内容

講義資料は前週にはクラス・ウェブに掲載するため、内容の確認と予習を行うことが望ましい。

教科書

とくに指定しない。適宜紹介する書籍や学術論文を補助教材とする。

参考書

『人口学への招待』河野稠果（中公新書）2007年
『現代人口学』阿藤誠（日本評論社）2000年
『人口減少と少子化対策』高橋重郷・大淵寛編著（原書房）2015年
『地域社会の将来人口　地域人口推計の基礎から応用まで』西岡八郎・江崎雄治・小池司朗・山内昌和（東京大学出版会）2021年
など

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で人口学的な分析手法に関する実習を行う。
(a)データを入手し、エクセル等で作成するもの
(b)意見を収集するもの
(a)については習得することが望ましいため、内容を確認した上で、クラス・ウェブを通じたフィードバックを行う。

成績評価の方法

(a)授業への参加度（70%）、(b)期末レポート（30%）
(a)毎回の授業における問い(RQ)に対する回答、ならびに授業内で行う実習結果の登録状況を評価する。
(b)地方自治体が策定する「地方人口ビジョン」について内容を整理し、自分なりの総合戦略を考察した結果を評価する。

その他

PCを持参しての資料の確認ならびにメモの作成、課題への取組を推奨する。

科目ナンバー：(PE)ECN391J

労働経済学

4単位

3年次

教授　原　ひろみ

授業の概要・到達目標

この授業では、日本の労働市場の現状とその背後にあるメカニズムを理解することを目指す。

少子高齢化、DXや仕事における生成AIの活用の進展など、私たちが働く環境が大きく変化するなかで、日本の労働市場は様々な課題に直面している。講義では、このような労働市場の現状や課題を、官庁統計データやアンケート調査の集計・分析結果、ヒアリング調査による具体的な事例を紹介しながら解説するとともに、労働市場の仕組みや事象が発生するメカニズムを経済学の理論的フレームワークを用いて説明する。また、日本の労働政策、労働に関わる法制度についても取り上げる。

授業の到達目標は以下2点である。

1. 日本の労働市場の現状を理解する。
2. 労働市場の仕組みや今起こっていることを経済理論を使って説明できる。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　労働経済学を学ぶための基礎概念
第3回　労働供給：基礎
第4回　労働供給：発展
第5回　労働需要：基礎
第6回　労働需要：発展
第7回　雇用と賃金の決まり方
第8回　データでみる日本の労働市場
第9回　雇用調整
第10回　雇用調整と労働法
第11回　中間総括
第12回　若者の雇用
第13回　高齢者の雇用：基礎
第14回　高齢者の雇用：発展
第15回　賃金格差：基礎
第16回　賃金格差：発展
第17回　日本的雇用システムとその変化
第18回　年功賃金システム：基礎
第19回　年功賃金システム：発展
第20回　成果主義：基礎
第21回　成果主義：発展
第22回　昇進システム
第23回　長期雇用システムとその変化
第24回　失業：基礎
第25回　失業：発展
第26回　労働市場における男女差：基礎
第27回　労働市場における男女差：発展
第28回　総括

履修の注意点

労働経済学はミクロ経済学の応用分野であるため、ミクロ経済学の基礎的な知識があることが望ましい。

準備学習の内容

毎回の授業後に、授業ノートや配布資料の復習を行うこと。

教科書

『労働経済学入門（新版）』、太田聰一・橘木俊詔（有斐閣）。

参考書

『日本の人事を科学する』、大湾秀雄（日本経済新聞社）。
『労働経済学：理論と実証をつなぐ』、川口大司（有斐閣）。

課題に対するフィードバックの方法

中間総括および総括の際に、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。

成績評価の方法

中間試験40%、期末試験60%。授業への参加度も評価に入れる。

その他

配布資料がある場合はOh-o! Meijiにアップするので、持参すること。教科書は授業中に参照することはないが、予習・復習に活用してほしい。

科目ナンバー：(PE)ECN351J

社会保障論

4単位

3年次

教授　加　藤　久　和

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　社会保障制度の役割や内容にとどまらず、広く社会保障を支える枠組みとしての財政や租税制度、年金・医療・介護などの社会保険に関する経済学的な分析、所得分配と公平性、少子化問題の分析、さらには社会保障制度改革のあり方などについても学ぶ。
〈授業の到達目標・テーマ〉
　社会保障制度は、病気やケガ、高齢、失業、貧困などさまざまなリスクに直面した際に必要となる社会的な仕組みであり、我々の生活に欠かせないものである。最近では、公的年金制度や医療・介護保険制度の見直しなどが政策課題となっているが、これらは社会保障制度の柱である。また、格差や所得再分配などに関しても、社会保障制度の枠組みの中で考えていくべき政策課題である。
　社会保障制度を考える際には、幅広い視点が必要になる。授業では経済学的視点からのアプローチが中心となるが、財政との関連性、雇用や労働市場などとの関係、少子高齢化など人口問題からの見方、国際比較の視点などが欠かせない。以上の多様な視点から、社会保障の仕組み・現状・課題を総合的に理解することが授業の到達目標となる。

授業内容

1．社会保障論イントロダクション-講義計画と講義の目的
2．社会保障制度とその理念・歴史・現状（1）
3．社会保障制度とその理念・歴史・現状（2）
4．近年の人口動向：少子高齢化と人口減少
＜社会保障制度の概要＞
5．わが国の社会保障制度（1）：医療保険
6．わが国の社会保障制度（2）：年金保険
7．わが国の社会保障制度（3）：介護保険
8．わが国の社会保障制度（4）：労働保険
9．わが国の社会保障制度（5）：生活保護
＜公共政策とその課題＞
10. 財政の現状と財政構造改革の必要性
11. 少子化問題とその対策／少子化の経済分析
12. 医療提供体制とその課題
13. 財政構造改革と社会保障
14. 地方創生と東京一極集中
15. 外国人労働者とその受入れについて
＜諸外国の社会保障制度＞
16. 諸外国の社会保障制度（1）
17. 諸外国の社会保障制度（2）
18. 統計から見た社会保障の国際比較
＜社会保障制度の経済分析＞
19. 厚生経済学と保険の考え方
20. 情報の非対称性と社会保障
21. 分配と再分配の経済分析
22. 医療と医療保険の経済分析：医療経済学入門
23. 年金の経済学：公的年金の必要性
24. 年金の経済学：年金財政の分析
＜貧困と格差の経済分析＞
25. 日本と世界の貧困問題
26. わが国の格差問題
27. 貧困と格差の経済分析
＜講義のまとめ＞
28. 講義のまとめ

履修の注意点

この講義では履修人数に関わらず、可能な限り講義内でディスカッションを行う。また、経済学全般の基礎的知識や財政等に関する社会的動きへの関心は、この講義では必須となる。新聞等に日常的に接していることは重要である。

準備学習の内容

授業ではディスカッション等も行うので、事前に講義のレジュメ等を読むことや講義に際して推奨する参考文献を読んでおくこと。

教科書

テキストは特に定めない。講義に即したレジュメや必読文献等を Oh-o! Meiji System クラスウェッブに掲載する。

参考書

以下は参考書であり、適宜参照してほしい。
　椋野美智子、田中耕太郎（2024）『はじめての社会保障（第21版）』有斐閣。
　（社会保障制度の入門書であり、2025年版が刊行される予定）
　小塩隆士（2013）『社会保障の経済学　第4版』日本評論社。
　（社会保障を経済学の視点から学ぶためには最適の書）
　駒村康平、山田篤裕他(2015)『社会政策　福祉と労働の経済学』有斐閣。
　（社会保障制度を含め、社会政策全般（労働市場など）に関するすぐれたテキスト。やや高度な内容も多い。）
　酒井正（2020)「日本のセーフティネット格差」慶應義塾大学出版会
　（社会保障制度のみならず労働市場にも目を配った良書。難しい部分もある。）
　加藤久和（2011）『世代間格差』（ちくま新書）筑摩書房。
　加藤久和（2014）『社会政策を問う－国際比較からのアプローチ』明治大学出版会
　（この講義のために購入する必要はありません。図書館などで参照してください。）

課題に対するフィードバックの方法

課題等を課した場合、その解答等について講義などを通じて示す。

成績評価の方法

定期試験（70%）、中間レポート等（30%）によって成績を決定する。

その他

授業では、できるかぎり教壇からの一方通行にならないようにしたい。そのためにも受講する学生諸君の積極的な議論への参加を期待している。

科目ナンバー：(PE)ECN391J

協同組合学

4単位

3年次

教授　大　高　研　道

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。19世紀前半に英国において誕生した協同組合の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。近年では、国連による国際協同組合年宣言（2012年）、ユネスコ無形文化遺産登録（2016年）、そして2025年には２度目の国連国際協同組合年が宣言されるなど、その存在意義と果たす役割への期待は高まっている。また、2020年には42年ぶりの協同組合関連法である「労働者協同組合法」が成立し、2022年10月に施行された。本講義では、社会的な事業体としての協同組合の歴史・現状・課題の考察を通して、新たな社会経済システム構築に果たす協同組合の役割と可能性について共に考えたい。
《到達目標》
　商業的世界が日常生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合は、商品・サービスを媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活当事者」としての視点に立った事業・運動に取り組んできた。本講義では、地域社会を基盤とした協同組合の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「閉じられた関係性」のなかに生きる現代人の生活や労働のあり方を含めた自らの生き方そのものについて、一定程度のビジョンを提示できるようになることをも目指している。

授業内容

　本講義は「協同組合とは何か（基礎編）」（第１回～10回）、「協同組合実践論」（第11回～18回）、「現代社会経済システムと非営利･協同論」（第19～28回）の三部構成からなる。
第１回目　協同組合とは何か
第２回目　現代協同組合論の射程
第３回目　協同組合の歴史と思想（１）
第４回目　協同組合の歴史と思想（２）
第５回目　協同組合の国際的展開（１）
第６回目　協同組合の国際的展開（２）
第７回目　世界の協同組合の新潮流（１）
第８回目　世界の協同組合の新潮流（２）
第９回目　わが国の協同組合の歴史（１）
第10回目　わが国の協同組合の歴史（２）
第11回目　生産者協同組合の実践（１）
第12回目　生産者協同組合の実践（２）
第13回目　利用者協同組合の実践（１）
第14回目　利用者協同組合の実践（２）
第15回目　労働者協同組合の実践（１）
第16回目　労働者協同組合の実践（２）
第17回目　協同労働と協同組合（１）
第18回目　協同労働と協同組合（２）
第19回目　経済のグローバル化と非営利･協同経済
第20回目　福祉国家再編下における非営利･協同組織
第21回目　NPOの歴史と制度
第22回目　NPOから社会的企業へ
第23回目　社会的排除問題と社会的企業（１）
第24回目　社会的排除問題と社会的企業（２）
第25回目　変容するコミュニティと社会的企業（１）
第26回目　変容するコミュニティと社会的企業（２）
第27回目　社会的経済･連帯経済論と協同組合
第28回目　まとめ

履修の注意点

・本講義ではグループ討論･報告を実施する。討論への参加姿勢も成績評価に含まれる。
・講義資料は事前にクラスウェッブにアップしておくので、各自印刷してくること。

準備学習の内容

《予習》
・毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。
《復習》
・毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと・さらに学びたいこと」の２点を整理しておくこと。これらについては、３部構成の各部の終わりに質疑応答・意見交換の時間を設ける。

教科書

特になし。

参考書

・中川雄一郎(2018)『協同組合のコモン・センス』日本経済評論社
・中川雄一郎・杉本貴志編著/全労済協会監修（2012）『協同組合を学ぶ』日本経済評論社
・藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著（2013）『闘う社会的企業』勁草書房

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義冒頭に、前週講義に対する質問・疑問点等について解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

試験80％、平常点20％（毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって加点されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる）。

その他

対話型の講義を重視する。グループ討議や質問・発言などを通して積極的に参加してほしい。

科目ナンバー：(PE)ECN341J

現代経済政策

4単位

3年次

専任講師　柴　田　有　祐

授業の概要・到達目標

本講義では、市場メカニズムと政府の役割について考える。市場メカニズムは価格の変化を通じて需給を調整し、経済を望ましい状態へと導く働きをするが、常に望ましい状態を実現するわけではない。市場メカニズムがうまく機能しない場合、政府にはそれを補完する役割が求められる。政府はどのような場合に、どのような形で経済に介入すべきなのだろうか。この講義では、政府の役割として一般に考えられている景気の安定化、資源配分の調整、所得の再分配のうち、資源配分の調整と所得の再分配について解説する。それぞれについて、関連する基本的な理論モデルと日本や欧米諸国の政策の事例を取り上げる。

経済理論を学ぶことを通じて、論理的で経済学的な思考力を身に付ける。それと同時に、現実の事例に触れることで、理論が複雑な現実を必ずしも十分に説明できないことを知る。このように、理論と現実の両面から考えることを通じて、経済問題に対する高い洞察力を身に付けることを目指す。

具体的な到達目標は以下の通りである。(1) なぜ特定のケースでは市場メカニズムが有効に機能しないのかについて説明できるようになる。(2) その場合、どのような政策が有効であるか判断できるようになる。(3) 特定の政策について、適切に経済学的な評価ができるようになる。

授業内容

第1回　イントロダクション――市場メカニズムと政府の役割
第2回　経済学的に望ましい状態とは
第3回　GDP
第4回　経済成長は必要か
第5回　経済成長の源泉（1）――東アジアの奇跡とその要因
第6回　経済成長の源泉（2）――マクロ生産関数と成長会計
第7回　物的資本と経済成長（1）――資本ストックと所得水準
第8回　物的資本と経済成長（2）――投資をいかに増やすか
第9回　労働の質を高める――教育
第10回　教育と外部性
第11回　労働の量を増やす――労働参加率の向上、移民政策
第12回　小まとめ――いかにして生産要素を増やすか
第13回　イノベーションの促進（1）――技術革新が起こりやすい環境
第14回　イノベーションの促進（2）――技術革新における政府の役割
第15回　資源配分の効率化（1）――自然独占の弊害
第16回　資源配分の効率化（2）――経済の自由化と規制緩和
第17回　自由貿易の利益（1）――比較優位の原理
第18回　自由貿易の利益（2）――貿易政策の効果
第19回　自由貿易の利益（3）――FTAの経済分析
第20回　GATT／WTOの理念と原則
第21回　産業政策は有効か（1）――長期の比較優位
第22回　産業政策は有効か（2）――幼稚産業保護論
第23回　天然資源と経済成長
第24回　小まとめ――いかにして生産性を高めるか
第25回　なぜ所得の再分配を行うか
第26回　再分配の手段
第27回　社会保険制度
第28回　講義のまとめ

履修の注意点

関連科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済政策原理、国際経済など。特に、マクロ経済学とミクロ経済学はこの講義の基礎となるため復習しておくことが望ましい。

準備学習の内容

各回の内容に関連の深いミクロ経済学やマクロ経済学の領域を事前に示すので、下記の参考書等で予習すること。また、講義で分からないことがあれば、講義中ないし講義後に質問するなどして、できるだけ早く疑問を解消すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

岩田規久男/飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、2006年。
柳川隆／永合位行／藤岡秀英編『セオリー＆プラクティス 経済政策』有斐閣、2017年。
D. N. ワイル『経済成長』(第2版) ピアソン桐原、2010年。
八田達夫『ミクロ経済学：市場の失敗と政府の失敗への対策』東洋経済新報社、2008年。
八田達夫『ミクロ経済学：効率化と格差是正』東洋経済新報社、2009年。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説およびリアクションペーパーへのフィードバックを授業中に行う。

成績評価の方法

期末試験（70%）および小テスト（30%）。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN391J	
開発経済学	2単位
	3年次
教授　末　永　啓一郎	

授業の概要・到達目標

世界経済における貧富の格差は極めて大きい。いち早く経済発展を遂げた国もあれば、そうした国を模倣してキャッチアップに成功した国もある。その一方で、発展に取り残された国も数多く存在する。本講義では、経済発展やキャッチアップに成功した国々・失敗した国々を取り上げつつ、後発国が経済発展を遂げるための方策・戦略について議論する。到達目標は、世界における経済発展の歴史と現状、理論、計量を学ぶとともに、後発国が採るべき戦略について、自ら考察出来るようになることである。

授業内容

第1回目　イントロダクション：開発経済学とは
第2回目　世界経済の歴史と現状：700万年間の経済成長
第3回目　技術進歩の起源：狩猟・採集・農業技術の進歩
第4回目　イギリスの産業革命
第5回目　日本の産業革命とキャッチアップ：製糸業
第6回目　日本の産業革命とキャッチアップ：綿産業
第7回目　開発とレント：レントとは何か？
第8回目　開発とレント：レントの政治経済学
第9回目　保護貿易の経済効果：静学効果と動学効果
第10回目　輸入代替政策と輸出志向政策
第11回目　IT革命とキャッチアップ：iPhoneにみるGlobal Value Chain
第12回目　IT革命とキャッチアップ：コンピュータ産業の発展とキャッチアップ
第13回目　IT革命とキャッチアップ：アメリカの半導体産業の発展と日本のキャッチアップ
第14回目　IT革命とキャッチアップ：東アジア半導体産業のキャッチアップ
第15回目　経済成長理論：新古典派成長理論、内生的成長理論、シュンペーター理論
第16回目　キャッチアップ理論：資本蓄積型、技術模倣型、雁行形態論、分業とキャッチアップ
第17回目　RCA：顕示比較優位と後発国の発展
第18回目　IIT：産業内貿易とRVC
第19回目　成長会計：東アジアの奇跡は幻か？資本蓄積型と技術模倣型の計量分析
第20回目　開発経済の計量経済学：計量経済学の基礎
第21回目　経済成長の計量経済学：絶対的収束仮説と条件付き収束仮説
第22回目　中国：二重経済論とルイスの転換点
第23回目　タイ：FDI、集積効果、中所得国の罠、ハリス＝トダロ・モデル
第24回目　フィリピン：人口ボーナスとスカベンジャー
第25回目　ガーナとシエラレオネ：貧困の罠とビッグ・プッシュ・モデル
第26回目　タンザニア：農村の現状とNGO
第27回目　ルワンダ：豊かさの呪いと内戦
第28回目　まとめ：世界の経済発展と開発戦略
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

遅刻、居眠り、私語禁止

準備学習の内容

予習・復習を心がけてください。

教科書

デミルバス『レント・シーキングの政治経済学』八千代出版、2019年
中村文隆編『レントと政治経済学』八千代出版、2013年

参考書

多数に上るため、講義の際に、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業態度、講義レポート、期末試験による。

その他

ミクロ経済学、マクロ経済学を未修得の場合は、講義前に指示するので、必要な項目を予習すること。Excelを用いたデータ分析・計量分析も行うため、Excelの操作をある程度、修得しておく方が望ましい（vlookup関数やピボットテーブル、回帰分析等）。データ処理を行う回（17～21回あたり）では、ノートパソコンの持参が必要（iPadは回帰分析が出来ない可能性がある）。

科目ナンバー：(PE)ECN341J

国際経済政策

4単位

3年次

教授　藤　永　修　一

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　国際経済政策は経済政策の範疇の一つとして位置付けることができるが、今や一国の経済政策は他の諸国や世界経済に対して少なからず影響を及ぼす。また、グローバリゼーションは、世界経済や各国経済に対してプラス・マイナスの影響をもたらしている。そのため、近年、国内経済の諸問題を国際経済と関連付け、他国や国際機関へ責任を転嫁するという傾向が強くなっている。国際経済では自国の国益（時にはエゴ）が現れやすく、結局、国内経済と対外経済とのバランスを如何にとるかが今日の課題となる。この課題に対する処方箋を検討していくことが、本講義の目指すところである。
《到達目標》
　この授業では理論的な分析だけでなく、歴史的動向を踏まえながら進めていく。現実の経済の動向に対して、多角的視点から物事を捉え、世間に流布している俗説に惑わされることのないような素養を身につけることを、この授業の目標とする。

授業内容

第1回　a：イントロダクション　b：国際経済政策とは何か
第2回　世界経済の現状
第3回　世界経済における日本の役割
第4回　世界経済の問題点と国際経済体制
第5回　GATT
第6回　WTO
第7回　金本位制
第8回　IMF（1）～1973年
第9回　IMF（2）1973年～
第10回　国際収支
第11回　経常収支不均衡問題
第12回　金融危機:アジア通貨危機とリーマン・ショック
第13回　開放経済における財政政策と金融政策
第14回　貿易理論と貿易政策
第15回　比較優位の原理
第16回　関税の経済効果
第17回　輸入数量制限・生産補助金の経済効果
第18回　新しい貿易理論
第19回　戦略的貿易政策
第20回　自由貿易と保護貿易：まとめ
第21回　日米貿易摩擦（1）総論
第22回　日米貿易摩擦（2）1980年代
第23回　日米貿易摩擦（3）1990年代～
第24回　アジア経済と日本
第25回　グローバリゼーションとは何か
第26回　グローバリゼーション:貿易と資本移動
第27回　グローバリゼーションの是非
第28回　まとめ

履修の注意点

　基礎科目：マクロ経済学、ミクロ経済学
　関連科目：国際経済学、国際金融論、開発経済学、現代経済政策、産業組織論、経済政策原理

準備学習の内容

　授業時にプリントの配布で準備学習について説明する。

教科書

　特に指定しない。

参考書

『経済財政白書』内閣府
『通商白書』経済産業省
『世界経済の謎』竹森俊平、東洋経済新報社
その他は講義のなかで適宜指示し、また参考資料をプリントで配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての説明は、課題提出後の授業で説明を行う。同時に全体講評も行う。

成績評価の方法

　試験（70%）、授業への参加度（30%）で評価する。

その他

　特になし

科目ナンバー：(PE)ECN351J

財政政策

4単位

3年次

兼任講師　早　﨑　成　都

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
　財政とは政府による資金の調達とその処分を意味する概念であり、政策とは政府が何らかの目標の達成のために実行しようとする取り組みを指す。したがってこの二つの語が合わさってできる財政政策という言葉は、財政を通じた政府による何らかの目標達成のための取り組みを意味している。
　この授業では、①財政政策が社会に与える影響と②逆に社会が財政政策をどのように形作るのかの双方を学ぶことを目的としている。また、この目的を達成するために、経済学のみならず政治学、法学、歴史学、社会学といった他の社会科学分野についてもバランスよく学ぶことも意識している。加えて、財政政策と密接な関係にある金融政策についても一定程度の時間を割く。
　かつて財政学者のゲルハルト・コルムは、財政学を「境界線上の学問」と表現した。彼がそのように表現したのは、財政という現象は、ただ一つの学問のみによって取り扱われるのではなく、経済学、政治学、社会学、会計学、行政学といった諸学問によって取り扱うことが可能であるという事実を強調するためであった。またケインズも「優れた経済学者は、ある程度まで数学者であり、歴史家であり、政治家であり、哲学者でなければならない」と述べていたことは有名である。そうした意識を持つ学生の受講を歓迎する。
［到達目標］
①ある財政政策にどのような根拠があり、どのような効果があるのか、筋道を立てて説明することができる。②ある財政政策がどのような要因によって生み出されるのか歴史的事実を踏まえつつ説明することができる。

授業内容

第1回目　「財政」へのアプローチ
第2回目　所得税
第3回目　法人税及び消費税
第4回目　市場メカニズムと課税
第5回目　財政政策のミクロ経済学的根拠①：外部性
第6回目　財政政策のミクロ経済学的根拠②：公共財
第7回目　財政政策のミクロ経済学的根拠③：再分配
第8回目　財政政策のマクロ経済学的根拠①：乗数効果
第9回目　財政政策のマクロ経済学的根拠②：ヘテロモデル及び財政赤字の問題
第10回目　財政政策と金融政策①：IS-LMモデル
第11回目　財政政策と金融政策②：マンデル＝フレミングモデル
第12回目　財政政策と金融政策③：AD-ASモデル
第13回目　財政政策と金融政策④：金融政策の仕組み
第14回目　社会保障①：社会保険
第15回目　社会保障②：生活保護制度
第16回目　社会保障③：普遍主義と選別主義
第17回目　社会保障④：消費税と社会保障
第18回目　政策形成の分析方法、政策の政治的・社会的効果
第19回目　日本財政史①：高橋財政、財政赤字をめぐる政治経済学
第20回目　日本財政史②：日本の政治制度と大蔵省統制
第21回目　日本財政史③：社会保障と公共事業
第22回目　日本財政史④：バブル経済の崩壊と日本経済の転換
第23回目　アメリカ財政史①：所得税導入とニューディール政策
第24回目　アメリカ財政史②：アメリカの社会保障制度
第25回目　アメリカ財政史③：インフレと財政金融政策
第26回目　アメリカ財政史④：ポピュリズム時代の財政政策
第27回目　授業内演習及び解説
第28回目　まとめ

履修の注意点

関連科目には「地方財政論」、「租税論」、「自治体経営論」があり、併せて履修することが望ましい。2年次の「財政学」を履修していることが望ましいが、未履修でも理解できる講義を目指す。

準備学習の内容

授業資料並びに講義の内容を主張と根拠、原因と結果の関係から整理して考察することに重点をおいて学習を進めてください。各回の講義の内容を白紙の上に簡単に整理したり、他人に説明できるようになっているような状態を目指してください。

教科書

指定しない。講義資料はすべてOh-o! Meijiのクラスウェブに掲載する。

参考書

小川光・西森晃（2022）『ベーシック＋（プラス）／公共経済学〈第2版〉』、中央経済社。
塩澤修平（2011）『基礎コース　経済学　第2版』、新世社。
藤木裕（2022）『入門テキスト 金融の基礎(第2版)』、東洋経済新報社。
髙端正幸・佐藤滋（2020）『財政学の扉をひらく』、有斐閣。
神野直彦（2021）『財政学（第3版）』、有斐閣。
井手英策（2012）『財政赤字の淵源』、有斐閣。
W. Elliot Brownlee (2016) *Federal Taxation in America: A History,* Cambridge University Press.

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては次週の授業冒頭時にコメントの一部をピックアップし、フィードバックをする場合がある。

成績評価の方法

リアクションペーパー・平常点（30%）、定期試験（70%）の成績による。

その他

この授業ではグラフや数式を使う説明、制度についての理解、歴史的な分析をすべて取り扱う。グラフや数式についてはできるだけわかりやすく、簡便な説明を心がけるつもりであり、試験でも数式そのものではなく式の意味や解釈を重視する。

科目ナンバー：(PE)ECN391J

環境経済学

4単位

3年次

教授　大　森　正　之

授業の概要・到達目標

Ⅰ　経済学は自然および環境をどのように理解してきたのか？経済活動は公害や環境破壊といった事象にどのように関与してきたのか？そして現在、地域社会から地球規模に至る環境問題にたいして経済学、そして消費者・企業・政府さらに国際機関はどのような処方箋を準備しているのか？授業では環境経済学の形成史をたどりつつ、以上の諸論点を解明する。そして環境政策の様々な手法（法的な直接規制、経済財政的規制、情報的教育的誘導）がどのように構想され、その導入がどのように模索されたかを跡付ける。
Ⅱ　1960年代の先進諸国における環境政策の模索とその後の導入を契機に、経済活動での環境利用における環境資源の節約、すなわち環境経済（Environmental Economy）の過程が始動する。80年代以降の廃棄物問題や地球規模の環境問題への関心を契機に、企業の自主的な環境管理活動から環境志向的な技術革新が生じ、台頭する環境志向の消費者群との連携からエコグッズが開発される。授業ではこうした環境ビジネスの展開に着目する。
　授業の到達目標を企業および政府の現行の環境政策について、代案を準備できる能力の形成におきます。
授業内容

授業内容

第1回目　環境経済学の定義・方法・範囲
第2回目　古典派経済学における環境問題の不在
第3回目　環境経済学の源流Ⅰ：J.S ミルの自然理解と天恵物
第4回目　環境経済学の源流Ⅱ：J.S ミルにおける定常状態論と開発抑制志向
第5回目　環境経済学の源流Ⅲ：J.S ミルのコモンズ保存活動とナショナルトラスト
第6回目　環境経済学の源流Ⅳ：シジウィックとフォーセットによるミルの継承
第7回目　環境経済学の源流Ⅴ：ジェヴォンズによる「負の財」の発見
第8回目　環境経済学の端緒的形成Ⅰ：マーシャルの自由財と外部性論
第9回目　環境経済学の端緒的形成Ⅱ：マーシャルの都市住環境保全論と空気浄化税
第10回目　環境経済学の端緒的形成Ⅲ：マーシャルのゾーニング案と都市建築規制
第11回目　環境経済学の形成Ⅰ：ピグーの「負のサービス」と公私の限界生産物乖離論
第12回目　環境経済学の形成Ⅱ：ピグーの環境政策論（自主交渉、規制、税・補助金）
第13回目　制度学派の環境経済学：カップの社会的費用論と直接規制
第14回目　新制度学派の環境経済学Ⅰ：コースの社会的費用問題（コースの定理と排出権取引：規制か自主交渉か）
第15回目　市場経済の形成と環境問題（前近代～第二次世界大戦）
第16回目　市場の失敗と環境政策の模索・導入（戦後～1970年代）
第17回目　環境経済学の対応（厚生経済学の限界とマルクス学説の適用）
第18回目　環境経済学の課題（マルクス学説の限界とシュンペーターのリスク論）
第19回目　環境政策論Ⅰ：環境立法と直接規制
第20回目　環境政策論Ⅱ：直接規制と環境補助金および環境課徴金
第21回目　環境政策論Ⅲ：直接規制と PPP および環境産業の形成
第22回目　環境政策論Ⅳ：緑の消費者と緑の企業の連携（エコラベリング制度）
第23回目　環境ビジネス論Ⅰ：「公害防止は儲かる」仮説とエコノベーション
第24回目　環境ビジネス論Ⅱ：環境ソフトビジネスの普及
第25回目　環境マネジメント論Ⅰ：環境管理と環境監査（EMAS と ISO14000）
第26回目　環境マネジメント論Ⅱ：環境管理・監査システム・環境報告書・環境会計
第27回目　企業の環境経済Ⅰ：環境経済学から環境節約学へ
第28回目　企業の環境経済Ⅱ：エコテクノストラクチャーの形成と環境戦略

履修の注意点

履修の前提科目はないが、初級の経済学を学んでおいてほしい。
　授業の資料はOh-o Meijiにパワーポイントを掲載（適宜、授業時間中に配布）するが、配布物は原則として欠席者に後日配布しない。
　準備学習は、事前に配布する資料を授業前に読み、論点を明確に理解しておくことに尽きます。

準備学習の内容

各回の講義内容はワーポイント(配布)資料で復習してほしい

教科書

　大森正之(2020)『持続可能な経済の探究』丸善出版

参考書

大森　正之『ケンブリッジ環境経済思想の形成と展開』人間の科学新社〔金子　光男・尾崎　和彦編著『環境の思想と倫理』所収〕
ハーマン・デイリー著（新田　功、藏本　忍、大森　正之訳)『持続可能な発展の経済学』みすず書房
ペーテル・セーデルバウム著（大森正之、小祝慶紀、野田浩二訳)『持続可能性の経済学を学ぶ』人間の科学新社
K.W.カップ著（大森正之訳)『制度派経済学の基礎』人間の科学新社
環境経済政策学会編(2018)『環境経・済政策学事典』丸善出版

課題に対するフィードバックの方法

可能な限りリアクションペーパについて、翌週、翌々週にフィードバックする。

成績評価の方法

　学期末試験のみで評価

その他

なし

科目ナンバー：(PE)ECN351J	
租税論【2022年度以降入学者】	2単位
	3年次
教授　小野島　真	

授業の概要・到達目標

本講義の目標は、われわれにとって身近な税制を学ぶことで、望ましい負担のあり方についての理解を深めることである。これまでの税制改革に関する議論について、国内外の事例を取り上げ、税制についての理解を深めてもらう。その上で、納税者でもある受講生の税に対する意識を向上してもらいたいと考えている。

授業内容

誰しもが望んで税を負担したいとは考えていないが、税がなければさまざまな政府活動が立ち行かなくなることは明らかである。そして、税は政府の強制力を持って徴収されるものであり、我々の行動をも大きく変化させることになる。本講義では、税について、経済学、財政学、法学等の基礎知識を用いて考えてゆく。少子高齢化が深刻化する中、そして、経済のグローバル化が進展するなか、望ましい税制とは如何なるものなのか。これまで税制改革としてどのようなことが議論されてきたのか。海外の事例等も含めて今後の税制改革についての理解を深める。

授業計画
第1回目　イントロダクション～租税とは～
第2回目　租税原則の歴史的変遷
第3回目　消費課税―消費課税の制度―
第4回目　消費課税―消費課税の理論と消費税改革をめぐる議論―
第5回目　所得課税―所得税の制度―
第6回目　所得課税―所得税の理論と所得税改革をめぐる議論―
第7回目　法人課税―法人税の制度―
第8回目　法人課税―法人税の理論と法人税改革をめぐる議論―
第9回目　資産課税
第10回目　国際課税の諸問題
第11回目　税制の国際的調和化をめぐる議論
第12回目　地方税
第13回目　抜本的税制改革に向けて
第14回目　まとめ

履修の注意点

授業はスライドを中心に進める。なお、授業計画については、理解度等を考慮して順番を変更することがありうる。

準備学習の内容

日頃から税制に関するニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある。

教科書

指定しない。随時、資料を配布する。

参考書

『税大講本』国税庁(国税庁HPよりダウンロード可)、『グローカル財政論』兼村高文他著（税務経理協会）2012年、『財政学（改訂版)』神野直彦（有斐閣）2007年など。そのほか、授業中に参考書を指示する場合がある。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーやその他の課題については、次回授業時に説明を加える。

成績評価の方法

リアクションペーパー等（40%)、定期試験（60%）を予定している。受講者数により変更する場合があるが、その際には改めて指示する。

その他

科目ナンバー：(PE)POL321J

地域行政学

4単位

3年次

兼任講師　山　岸　絵美理

授業の概要・到達目標

2000年4月より施行された「地方分権一括法」により、日本の地方自治は大きな転換期を迎え、自治体は拡大した自己決定権に基づき、自ら「まちづくり」を行うことが求められるようになった。しかし、地方分権改革から20年以上経過した今、人口減少に始まり、高齢化や頻発する災害をはじめ、自治体行政をめぐる状況は極めて厳しいともいえる。よって、そうした課題に対するこれからの地域のあり方は、都道府県や市町村といった地域行政のみならず、地域に住む住民自らもまた、自分たちの生活する地域を現在・未来の視点でどのように考えていくのかが、今後の地域のあり方を左右するといえよう。

本講義では、地方分権改革以降の自治体や「地域」の役割の高まりを意識し、こうした改革がもたらされた歴史的背景、制度の変化について学ぶ。そして、民主主義のもとでの地方自治の意義を再確認し、日々変化する地域行政の今後のあり方について考えることで、地域の一員として地域の行政への関心を高めてもらうことをめざす。また、少子高齢化への対策、頻発する災害、ジェンダー政策など昨今の自治体行政をめぐる具体的課題についても考えていきたい。その意味で、本講義は、公務員志望者のみを対象とするものではなく、地域に住む一人の住民として関心がある学生など、幅広い学生の参加を望む。

授業内容

第1回目　イントロダクション（地域とは何か）
第2回目　地域と行政　−区域と自治の視点−
第3回目　地方政府の種類と機能　〈1〉
第3回目　地方政府の種類と機能　〈2〉
第4回目　自治体議会の仕組みと課題　〈1〉
第5回目　自治体議会の仕組みと課題　〈2〉
第6回目　自治体の行政機構の仕組みと課題　〈1〉
第7回目　自治体の行政機構の仕組みと課題　〈2〉
第8回目　日本の地方自治の歴史　〈1〉
第9回目　日本の地方自治の歴史　〈2〉
第10回目　地方分権改革の流れとその意義　〈1〉
第11回目　地方分権改革の流れとその意義　〈2〉
第12回目「平成の大合併」と市町村　〈1〉
第13回目「平成の大合併」と市町村　〈2〉
第14回目　広域行政の仕組みと課題　〈1〉
第15回目　広域行政の仕組みと課題　〈2〉
第16回目　大都市行政の現況と課題　〈1〉
第17回目　大都市行政の現況と課題　〈2〉
第18回目　自治体の政策と政策過程　〈1〉
第19回目　自治体の政策と政策過程　〈2〉
第20回目　政策法務と条例
第21回目　自治体におけるジェンダー政策の意義と役割　〈1〉
第22回目　自治体におけるジェンダー政策の意義と役割　〈2〉
第23回目　防災政策と自治体　〈1〉
第24回目　防災政策と自治体　〈2〉
第25回目　自治体経営と協働　〈1〉
第26回目　自治体経営と協働　〈2〉
第27回目　現代の地域の課題と行政
第28回目　まとめ

履修の注意点

地方自治についての理解が必要不可欠となるので、行政学、政治学への知識があることが望ましい。
毎日の新聞やニュースで取り上げられる自治体、自分が住む地域への関心を持ってほしい。

準備学習の内容

復習については、講義で得た知識を使って、毎日の新聞やニュースで取り上げられる自治体や自分が住む地域を捉え直す事で、知識を身につけてほしい。

教科書

なし。

参考書

適宜、参考になる文献・資料を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義の補足及び講義内で行ったリアクションペーパーの解説等は、次回以降Oh-Meijiにて行う。

成績評価の方法

学期末試験もしくはレポートで評価。
授業内で行うリアクションペーパ、授業への参加度によって、評価点を加算。

その他

授業の妨げ、他の学生の迷惑になるような行為（講義に無関係なパソコン作業なども）厳禁です。

科目ナンバー：(PE)POL391J

都市政策【2018年度以降入学者】 都市空間政策【2017年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　野　澤　千　絵

授業の概要・到達目標

「授業の概要」
都市政策は、成長期の都市化社会から都市成熟型社会に移行し、既存の都市の再生・再編成が都市政策の中心課題となっている。特に、世界の人口10万人以上の都市の4分の1が人口減少都市（Shrinking Cities）と言われる中で、前例のないスピードで人口減少が深刻化する日本は世界的に注目されている。本講義では、世界・日本の都市政策の歴史や理論・手法、法制度と共に、新たな思潮や国・自治体等による取り組み事例を学ぶ。
「到達目標」
1）都市政策に関する考え方・仕組み・手法に関する幅広い視野と専門知識を獲得する。
2）都市政策について国内外の大きな方向性を読み取り、暮らしや経済・ビジネス等のあり方と関連づけながら問題構造を論じることができる。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　世界と日本の都市政策史
第3回目　都市政策とマスタープラン
第4回目　土地利用コントロールの枠組み
第5回目　土地利用規制のツール（開発許可・建基法・まちづくり条例等）
第6回目　演習
第7回目　都市開発事業の仕組み
第8回目　我が国の都市再生戦略
第9回目　現代都市政策の潮流
第10回目　地方都市のアーバンリニューアル
第11回目　コンパクトシティ論の台頭
第12回目　コンパクトシティ政策の実際
第13回目　世界の人口減少都市の都市政策
第14回目　振り返り・補足

履修の注意点

様々な都市に興味を持ち、ホームページ等による情報収集だけでなく、実際に街歩きを行うことが望ましい。

準備学習の内容

講義資料や講義中に指摘した重要箇所について復習を行うこと。

教科書

特に定めない。講義資料が教科書となる。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

出席コメントやレポート課題について、授業内で優秀なコメント等の紹介・総括や、クラスウェブを通じて総括を行う

成績評価の方法

2回目以降の授業の出欠登録の際に求めるコメント（70%）とレポート課題（30%）で評価する。
なお、出欠登録の際に求めるコメント（70%）は、コメントの内容が授業内での論点に基づいた指摘や自らの考えを論理的に提示したものに対して評価が高い。レポート課題の評価については、授業内で詳細に説明する。

その他

将来、公務員、不動産・建設・金融業界、ジャーナリストに興味のある学生には履修を勧める。

科目ナンバー：(PE)POL391J

都市行政【2018年度以降入学者】 都市行政政策【2017年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　野　澤　千　絵

授業の概要・到達目標

「授業の概要」
都市行政は、経済社会状況の変化や人々の新たなニーズに的確、かつ迅速に対応するだけではなく、様々な分野が輻輳した現代的な行政課題に対し、総合的・長期的に見て持続可能な都市経営を推進するという重要な役割も担っている。本講義では、都市行政に関わる様々な分野の現代的課題を中心に、その実態や法制度、新たな取り組みなど横断的に都市行政が抱える問題の構造を学ぶ。
「到達目標」
1）都市行政に関する考え方・仕組み・手法に関する幅広い視野と専門知識を獲得する。
2）都市行政について時代の大きな方向性を読み取り、暮らしや経済・ビジネス等のあり方と関連づけながら問題構造を論じることができる。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　フレーミングと空き家問題
第3回　都市行政の基礎的枠組み
第4回　広域連携・広域調整と圏域マネジメント
第5回　条例によるまちづくり
第6回　公共施設の再編・再生に向けた公民連携手法
第7回　PRE・公共空間の利活用
第8回　エリアマネジメントの実践
第9回　担い手不足の中の地方創生
第10回　人口減少時代の交通政策
第11回　都市行政と医療・福祉
第12回　住宅政策とアフォーダビリティ
第13回　自治体による災害対策
第14回　振り返り・補足

履修の注意点

地方自治、行政学、公共政策などの関連分野について併せて学ぶことが望ましい。

準備学習の内容

次回予定テーマについてインターネット等で検索し、予習しておくこと。また、講義資料や講義中に指摘した重要箇所について復習を行うこと。

教科書

特に定めない。講義用の資料が教科書となる。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

出席コメントやレポート課題について、授業内で優秀なコメント等の紹介・総括や、クラスウェブを通じて総括を行う

成績評価の方法

2回目以降の授業の出欠登録の際に求めるコメント（70%）とレポート課題（30%）で評価する。
なお、出欠登録の際に求めるコメント（60%）は、コメントの内容が授業内での論点に基づいた指摘や自らの考えを論理的に提示したものに対して評価が高い。レポート課題の評価については、授業内で詳細に説明する。

その他

特に、将来、公務員、不動産・建設・金融業界、ジャーナリストに興味のある学生には履修を勧める。

科目ナンバー：(PE)POL321J

自治体経営論

4単位

3年次

教授　牛　山　久仁彦

授業の概要・到達目標

地方分権が日本における重要な政治課題として登場して以来、そのあり方や方向性についての議論が重ねられてきたが、2000年4月のいらゆる「分権一括法」はそうした改革を具体的にスタートさせる意味をもつ。戦後、日本国憲法のもとで構想された地方自治制度であるが、55年目にして大きな改革が行われ、地域における政治・行政は大きく変わろうとしている。この講義では、こうした改革がもたらされた歴史的背景や、制度の変化について概観し、自治体経営の観点からの改革がなぜ、どのように求められているか、また、その意義について検討する。

授業内容

前半は、地方自治についての基本的な視点や制度の状況について講義を行い、後半に入って個別の行政課題および地方自治の政治システムについての検討を進める。また、市民・住民による政治参加の問題がクローズアップされ、地方分権で重要性が増している地域政治システムについて検討を進め、首長・議会の問題や、情報公開・住民投票など関連する項目について講義を行う。

1　「自治」ということ
2　地方自治の歴史と展開＜1＞
3　地方自治の歴史と展開＜2＞
4　地方政府論と政府関係＜1＞
5　地方政府論と政府関係＜2＞
6　地方政府の種類と機能＜1＞
7　地方政府の種類と機能＜2＞
8　機関委任事務体制と集権体制
9　地方財政の仕組みと地方体制＜1＞
10　地方財政の仕組みと地方体制＜2＞
11　地方分権改革の潮流とその意義＜1＞
12　地方分権改革の潮流とその意義＜2＞
13　「分権一括法」の到達点と課題＜1＞
14　「分権一括法」の到達点と課題＜2＞
15　自治体経営の視点と地域住民＜1＞
16　自治体経営の視点と地域住民＜2＞
17　地方自治と地域福祉＜1＞
18　地方自治と地域福祉＜2＞
19　地方自治とまちづくり＜1＞
20　地方自治とまちづくり＜2＞
21　地域政治研究の意義と視点＜1＞
22　地域政治研究の意義と視点＜2＞
23　首長の役割と機能
24　地方議会の役割と課題
25　自治体選挙の現状と問題点
26　広域行政と市町村合併＜1＞
27　広域行政と市町村合併＜2＞
28　住民投票制度の課題と展望

履修の注意点

地方自治をめぐる諸問題については、行政学、政治学をはじめ、社会学や財政学など広範な分野についての理解が不可欠である。本講座では、行政学的な議論を中心にしながら、行政法学など法律学的な思考も重視し、自治体行政の重要課題である財政問題を理解することも必要となる。

準備学習の内容

地方自治をめぐる諸問題については、行政学、政治学をはじめ、社会学や財政学など広範な分野についての理解が不可欠である。本講座では、行政学的な議論を中心にしながら、行政法学など法律学的な思考も重視し、自治体行政の重要課題である財政問題を理解することも必要となる。

教科書

開講時に指示する。

参考書

牛山久仁彦他著『現代地方自治の課題』学陽書房
阿部　斉・新藤宗幸著『概説日本の地方自治』東京大学出版会

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

基本的には、試験による評価とするが、平常点・レポートなど日常的な学生諸君の努力にこたえることができるような工夫をしたい。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL391J	
行政情報論	2単位
	3年次
兼任講師　岩　井　義　和	

授業の概要・到達目標

今日、行政には行政環境、特に市民社会とのリレーション・シップづくりの重要性が増してきている。それは、行政を取り囲む環境が急激に変化し、多様化したからである。そこで本講義において、学修者は行政と様々な環境主体とのリレーション・シップをつくるコミュニケーション活動としての行政と情報の関係を理解し、社会の課題解決に役立てるための行政情報を学修する。

学修者には、行政活動における、情報をキーワードに市民とのコミュニケーション実践（広聴・広報）を養成することを目的とし、情報マネジメントに基づく政策立案できる能力がつくことを目標とする。

授業内容

第1回目：社会システムにおける行政と情報環境
第2回目：情報行動とコミュニケーション
第3回目：現代情報の性質
第4回目：行政情報に関する政策
第5回目：行政組織内における情報の役割（広聴・広報を中心に）
第6回目：行政組織外における情報の役割（広聴・広報を中心に）
第7回目：行政情報と地域活性化（広聴・広報を中心に）
第8回目：地域経営と情報（広聴・広報を中心に）
第9回目：広報・広聴マネジメント
第10回目：住民との合意形成
第11回目：市民の社会参加と行政情報
第12回目：広報戦略の組織的展開
第13回目：行政におけるコミュニケーション・マネジメント
第14回目：中枢管理機能としての行政情報・まとめ

履修の注意点

特別な準備は必要ないが、行政学の基礎は復習しておくようにしてください。講義は、講義ノート・資料に沿って講義を行います。また、受講状況等を見ながら小テストや課題レポートを行うこともあるため、受講に当たっては必ずノートを持参するようにしてください。

準備学習の内容

事前学習としては、自分が住んでいる自治体などのホームページや広報紙を見て理解し、事後学習としては、自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて理解を深めてください。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業時に解説する。

成績評価の方法

期末試験80％、小テスト等10％、授業への参加度10％

その他

連絡先：iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

科目ナンバー：(PE)ECN351J

公共政策学

4単位

3年次

教授　木　村　俊　介

授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》
　公共政策とは何だろうか。公共政策とは、「社会の問題を解決するための方向性と具体的手段」と考えられている。このような公共政策は、社会経済の変化に応じて刻々と変化してゆく。特に近年では、新型コロナのように未曽有の課題が発生し、国民生活自体とともに、公共政策における立案や実施プロセスが大きく変動してきている。
　受講者諸君が将来社会に出て様々な職業に就く上で、公共部門（国、自治体、公的機関）の内部で働く機会や、公共部門をカウンターパートとして働く機会に遭遇することは少なくない。このため、このような公共政策の立案・実施のプロセスを理解しておくことは、様々な洞察を行う上で意義があることと考えられる。
　講師は、元国家公務員（総務省）であり、国では総務省、内閣官房（安全・危機管理担当）等のほか、地方公共団体では広島県、岐阜県及び松山市（中核市）での勤務経験を有する実務家教員である。本講義では、行政学を踏まえ、公共政策について行政実務を反映した応用的な知識を身につけることを第一目標とする。その際、行政の実務の多くは、行政機関と国会、住民等の外部環境とのインターフェイスにおいて培われてきた多くのルールやノウハウが存在する。講師はそれらを踏まえた講義を行い、その上で、政策課題を解決する立案能力や、政策を巡る政府・自治体・民間のあり方について考える力をつけることを最終的な目標とする。
　講師（私）がモットーとしているのは、「論議を呼んでいる政策こそが、実社会で機能している政策である。」という点である。履修者の皆さんと「論議の渦中にある公共政策」を取り上げ、意見交換も図りたいと考えている。
《授業の概容》
　前半は、公共政策の意義や政策の企画立案、実施過程に関する基本的事項を扱い、後半は、公共政策の現代的展開を全体テーマとして、財政、環境、政策評価、犯罪対策、大都市問題、デジタル政策、社会保障、パンデミック対策と危機管理等の個別テーマの講義を行う（個別のテーマは変更する可能性もある。）。

授業内容

第１回：イントロダクション、視座（公共政策と現代社会）
第２回　政策１（公共政策学とは何か、政策の定義）
第３回　政策２（３つの理念型、公共政策学の学問的構成）
第４回　歴史　（公共政策の今日的位相）
第５回　市民１（市民と政府と政策の関係、三層化する政府と市民）
第６回　市民２（政府政策の過程と市民、市民の意思は政府政策を制御するか）
第７回　自治１（社会の共有基盤としての公共政策、自治の政策主体としての市民）
第８回　自治２（市民自治の政策基盤、自治・共和・公共）
第９回　形成　（アジェンダ設定、政策立案、政策と政治の交錯）
第10回　決定１（決定アジェンダと政策の意モデル、決定とは何か）
第11回　決定２（合理的な決定とインクリメンタリズム、アリソン・モデル、政策決定と政治家）
第12回　実施１（政策実施の視点、実施研究の拡張）
第13回　実施２（行政改革と政策実施、トップダウンかボトムアップか）
第14回　評価１（政策評価の概念、日本の政策評価）
第15回　評価２（政策過程と政策評価）
第16回　問題　（政策デザインとは何か、問題の性質、問題状況の調査、問題構造と定式化）
第17回　手段　（さまざまな手段、人々の行動を変えるサービスの提供、社会的解決の支援等）
第18回　文脈　（コンテクストとは何か、政策手段にとってのコンテクスト等）
第19回　価値（価値デザインにおける価値の重要性、公共的な価値、諸価値の衝突と調整等）
第20回　公共政策の現代的展開１（政治家からみた立法府の役割）（※調整により以下のテーマは変更される場合もある。）
第21回　公共政策の現代的展開２（デジタル政策）
第22回　公共政策の現代的展開３（気候変動対策）
第23回　公共政策の現代的展開４（地方活性化）
第24回　公共政策の現代的展開５（犯罪対策）
第25回　公共政策の現代的展開６（都市問題）
第26回　公共政策の現代的展開７（教育行政）
第27回　公共政策の現代的展開８（危機管理）
第28講　まとめ

履修の注意点

　講義内容は公共政策学全般に及ぶほか、特定の政策分野については外部講師を招き、掘り下げた内容の講義実施を予定しており、内容は豊富である。
　半期集中科目であり、受講生は意欲的に学ぶ姿勢が必要である。

準備学習の内容

　日常の生活の中のあらゆる場所と場面に「公共政策」は介在している。社会問題があるところに、必ず公共政策はある。日頃から、新聞、ニュース等において、行政活動に係る出来事に関心を持っておくこと。

教科書

『公共政策学』　石橋章一朗ほか、ミネルヴァ書房、2018年。
上記教科書に加え、講師が作成する副教材を使用する。副教材はウェブクラスにアップロードするので各自でダウンロードすること。

参考書

秋吉貴雄　『入門公共政策学』　岩波新書　2017年。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉　『公共政策学の基礎』　有斐閣ブックス　2015年。
木村俊介（単著）『パンデミックと行政法』　信山社、2023年。
　『グローバル化時代の広域連携』（単著）　第一法規、2017年。
　『広域連携の仕組み（改訂版）』（単著）　第一法規、2019年。
木村俊介（共著）（クリックして閲覧可能）
　『ﾌｧｼﾘﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの展望』　都市センター、2014年。
　　http://hdl.handle.net/10291/22564〈C /URL〉
　「ネーミングライツ」『自治研究』　第一法規、2014年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/handle/10291/21137
　『人口減少時代における地域公共交通のあり方』　都市センター、2015年。
　　https://www.toshi.or.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2015/05/report149.pdf
　「まちづくりと地域公共交通（上）（下）」『都市とガバナンス』　都市センター、2016年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21504/1/toshitogovernance_25_66.pdf
　「ID地域自治論」『地方自治』　地方自治制度研究会、2017年、2-49頁。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21135/1/chihougyousei2_kimura.pdf
　「広域連携時代における公共施設の運営」『地方議会人』中央文化社、2018年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21141/1/facility2_kimura.pdf
　「半代表制的性質を伴う地方議会」『ガバナンス研究科紀要No16』　2020年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21010/1/gabanansu_16_1.pdf
　「新型インフルエンザ等特措法と行政法への道しるべ」　明治大学、2020年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21331/1/harenohi_kimura_1.pdf
　「新型インフルエンザ等対策特別措置法と行政法への道しるべ（２）」　明治大学、2021年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21656/1/shingatacorona_kimura_1.pdf
　「水道広域化の展望ー上水道企業団の成果と課題」『公営企業』　2020年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21138/1/chihouzaisei2_kimura.pdf
　「指標からみる自治体の資産管理について」『JFMA JOURNAL』　2021年。
　　https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/22085/1/jfma_2021_autumn_50.pdf
　遠隔型広域連携の展望　http://hdl.handle.net/10291/0002000826
　　一部事務組合議会と広域連合議会の現状と今後への期待
　　http://hdl.handle.net/10291/0002000825

課題に対するフィードバックの方法

Oh MeijiのClass webにて全体講評をする

成績評価の方法

1　講義の出席・参加30%、ミニレポート30%、期末レポート40%
2　17回（６割に相当）以上の出席回数を最低限の単位取得の条件とする。

その他

　将来、行政関係の仕事に就きたい人、行政と連携して仕事をする可能性も考えている人、社会人としての素養として行政の仕組みを勉強したい人等にとって、その一助となれるよう講義内容を企画したいと考えている。そのような意味で、公共政策の面白さを是非知ってもらいたいと考えているところである。
　講師の活動　（下記のURLにアクセスし、PDFを閲覧可能。）
　　明治大学学術成果リポジトリ
https://meiji.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search_type=1&q=%E6%9C%A8%E6%9D%91%E3%80%80%E4%BF%8A%E4%BB%8

科目ナンバー：(PE)ECN391J

公会計学

4単位

3年次

兼任講師　稲　田　圭　祐

授業の概要・到達目標

公会計とは公的分野における会計のことを意味する。本講義では、政府や非営利組織の会計について取りあげる。具体的には、中央政府、地方自治体、公営企業、独立行政法人、社会福祉法人、学校法人などの会計について解説する。公会計における最近のトピックスを一言でいうと「企業会計化」である。従来、公的分野の会計は現金主義（単式簿記）を基本としてきた。しかし1990年代以降、公的分野においても営利企業と同様の会計手法が取り入れられ、発生主義（複式簿記）の導入が進められている。
本講義は、公会計制度の変遷や現状を概観しつつ、会計の役割や政府・非営利組織の特性を理解し、公会計に関する理解を深めることを目的とする。会計や公共部門に興味がある学生の他、公務員や公営企業等の非営利組織に興味がある者の受講を勧める。

授業内容

第１回目　公会計を学ぶにあたって
第２回目　公的分野と公会計の特徴
第３回目　会計の役割（１）
第４回目　会計の役割（２）
第５回目　会計の役割（３）
第６回目　会計の役割（４）
第７回目　公会計の範囲・機能（１）
第８回目　公会計の範囲・機能（２）
第９回目　政府の予算制度（１）
第10回目　政府の予算制度（２）
第11回目　政府の決算情報（１）
第12回目　政府の決算情報（２）
第13回目　中央政府の会計（１）
第14回目　中央政府の会計（２）
第15回目　地方政府の会計（１）
第16回目　地方政府の会計（２）
第17回目　公営企業の会計（１）
第18回目　公営企業の会計（２）
第19回目　独立行政法人の会計（１）
第20回目　独立行政法人の会計（２）
第21回目　公益法人の会計（１）
第22回目　公益法人の会計（２）
第23回目　社会福祉法人の会計（１）
第24回目　社会福祉法人の会計（２）
第25回目　学校法人の会計（１）
第26回目　学校法人の会計（２）
第27回目　公会計改革の国際的動向
第28回目　a：公会計改革の課題と展望
　　b：試験

履修の注意点

簿記や会計の基礎知識がなくても学習できるように授業を進める。２回の授業（連続時限）を１セットとして実施する。前半は講義形式で行うが、後半は会計情報の分析などを通じてグループワークやディスカッションを行う予定なので、必ず前半の講義から出席すること。

準備学習の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。また、財政学、地方財政論、地方自治論、行政学などの公共部門に関係する授業を履修していることが望ましい。

教科書

黒木淳編『公会計テキスト 第2版』中央経済社、2026年4月

参考書

『地方財政を読み解く』兼村・星野・稲田編著（イマジン出版）2022年

課題に対するフィードバックの方法

授業時に課題を解説する時間を設ける。最終講義日に期末試験を実施し、全体講評をOh-o! Meiji で公開する。

成績評価の方法

授業への貢献度（20%）、課題の達成度（40%）、期末試験（40%）

その他

授業では、適宜、公務員試験に関する情報も提供します。

科目ナンバー：(PE)SOC341J

社会福祉政策論	2単位
	3年次

教授　鍾　　家　新

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
現代人の生活に密接している貧困・疾病問題、老後の所得問題・介護問題、格差・不平等の問題などの社会問題を解決する主な対策の一つは社会福祉政策である。この授業の主なテーマはつぎのとおりである。(1)社会福祉の意味・関連概念・基本的な考え・機能、(2)公的扶助における貧困観・貧困者の救済にかんする日中比較、(3)社会福祉の政策主体・厚生省の成立と戦後の福祉機構改革／戦後の福祉行政の主な課題、(4)医療保険の創設／戦後の医療保険の改革、(5)年金保険の創設／戦後の年金保険の改革、(6)介護保険の制定・運営／外国人介護労働者の現状。この授業は日本の社会福祉政策を中心に講義するが、比較対象として、中国の貧困観・社会福祉政策・福祉格差なども取り上げる。日中の社会福祉政策にかんする比較によって、不確実性の時代における福祉国家の危機や東アジア型の福祉モデルの可能性にかんする理解を深めることに役立つ。
《授業の到達目標》
この授業ではつぎの諸問題を明らかにすることが到達目標である。(1)社会福祉政策の主な内容・制定された背景、直面している課題は何か。(2)産業化、社会主義、とくに戦争が社会福祉政策の形成・社会福祉行政の運営にどう影響してきたか。(2)核家族化・少子高齢化・グローバル化のなかで、社会福祉政策がどう改革されたか。この授業の受講によって、社会福祉政策にかんする体系的な知識と多元的な視座を身につけるここができるし、社会福利政策のなかでの人間像や現代国家の本質を把握することもできる。社会福祉政策にたいする理解の増進は今後の人生設計や生き方の選択にとって有益である。

授業内容

第1回：社会福祉の定義／関連概念
第2回：社会福祉の基本的な考え方／現代社会における社会福祉の機能
第3回：公的扶助の日中比較――近代日本の貧困問題／「恤救規則」「救護法」
第4回：公的扶助の日中比較――生活保護(1)：生活保護の目的・原理・原則／朝日訴訟／生活保護基準
第5回：公的扶助の日中比較――生活保護(2)：実態・課題／漏救の問題／福祉川柳事件
第6回：公的扶助の日中比較――社会主義社会の貧困観／中国の「五保戸制度」の貧困者の認定など制度運営の実態／都市部と農村部の福祉格差
第7回：社会福祉の政策主体の形成――厚生省の創設と戦前の福祉行政の主題
第8回：社会福祉の政策主体の改革――戦後の厚生省の機構改革と福祉行政の課題
第9回：医療保険の創設への戦争の影響――国民健康保険の創設・普及を中心に
第10回：戦後の医療保険の改革――医療保険の基本的な仕組み／制度間の不平等／医療保険体系の維持の難しさ
第11回：年金保険の創設への戦争の影響――労働者年金保険・厚生年金保険の創設・実施を中心に
第12回：戦後の年金保険の改革――年金保険の基本的な仕組み／給付の充実と制度間の不平等／皆年金体制の揺れ
第13回：介護保険の制定・運営――介護保険の保険者・被保険者・サービス利用／家族介護の限界／介護労働のジレンマ／外国人介護労働者の現状
第14回：不確実性の時代と福祉国家の危機・東アジア型の福祉モデルの可能性
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

なし

準備学習の内容

配布した資料を授業の当日までには読むこと。授業後、復習すること。

教科書

なし

参考書

『日本型福祉国家の形成と「十五年戦争」』鍾家新（ミネルヴァ書房）1998年。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内で口頭で行う。

成績評価の方法

①平常点と②期末の筆記試験によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)SOC341J

コミュニティ福祉論	2単位
	3年次

兼任講師　手　塚　崇　子

授業の概要・到達目標

現代社会におけるコミュニティの変化、地域における高齢者・介護者、障害者、子どもに対する支援に関する制度を概観し、地域福祉についての理解を深めることである。また、国や地方自治体、専門職の役割や社会福祉事業を担う事業者やボランティア等による多様なコミュニティを理解し、多様な福祉の実態を理解することである。
到達目標は、(1)地域住民の生活を支えるための国や地方自治体の仕組みや地域の課題を理解し、(2)地域住民、コミュニティ、社会福祉の対象者を理解した上でまちづくりについて考察することである。

授業内容

第1回　コミュニティとは―地域福祉をめぐる課題
第2回　地域福祉とその変容
第3回　地域福祉の理念
第4回　イギリスの地域福祉の歴史と社会福祉協議会
第5回　日本の地域福祉の変遷
第6回　高齢者に関する支援①―認知症を中心に―
第7回　高齢者に関する支援②―介護保険と地域包括支援センター―
第8回　高齢者に関する支援③―福祉用具貸与・購入、住宅改修―
第9回　社会的養護とは―社会的養護の子どもの背景や環境を考える―
第10回　里親制度と内密出産
第11回　外国等にルーツのある子どもや家族と地域のつながり
第12回　障害児の支援について
第13回　障害者の就労と地域支援
第14回　授業まとめ―地域福祉とコミュニティ
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

地域福祉をめぐる諸制度を理解し、地域の課題を理解することを重視している。授業の資料を復習し、自分が住んでいる地域の現状と課題について考えてほしい。

準備学習の内容

毎回、次回の授業のテーマを伝えるので、事前に該当するテキストをお読み、厚生労働省やこども家庭庁が発表している報告書等を読んでおくこと。

教科書

・立花直樹他監修(2025)『社会福祉（第2版)』ミネルヴァ書房
・毎回資料を配布する。

参考書

・加山弾・熊田博喜・中島修・山本美香(2020)『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣
・川上富雄(2017)『地域アセスメント―地域ニーズ把握の技法と実際』学文社
・社会福祉養成講座編集委員会編(2015)『地域福祉の理論と方法（第3版)』中法法規出版
・東京大学高齢社会総合研究機構編(2020)『地域包括ケアのまちづくり』東京大学出版

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の回答については、終了後10日をめどに（再試等がない場合)、Ohmeiji内で公表する。

成績評価の方法

授業への参加度・平常点(30%)、期末試験(70%)で成績を評価する。毎回授業内で行うリアクションペーパーの提出により、評価点を加点する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ECN391J

地域産業論	2単位
	3年次

教授　奥　山　雅　之

授業の概要・到達目標

産業あるいは個々の企業は、地勢や地域の資源、人材、他の企業や大学などの存在、自治体の政策などによって大きな影響を受ける。一方、地域産業は雇用や税収、地域住民に必要な製品やサービスの提供など、地域の持続的発展に大きな役割を担っている。さらには、グローバル化の進展のなかで、世界的な地域間競争が活発化し、地域産業の果たす役割はむしろ高まっているといえよう。

この講義では、地域の持続的発展の担い手である地域産業を実証的に捉えるとともに、グローバル化の中でも個性的な製品・サービスの創造や地域課題の解決を図ろうとする地域産業のあり方や、地域産業と地域づくりの関係について考察する。

この講義は、「基礎編」と「実践編」に分かれており、両者を交互に講義していく。「基礎編」では、地域産業に関わる基礎的な理論を学習する。「実践編」では、地域産業の実態を様々な統計を紹介しながら概観するとともに、地域の事例、政策の事例を多く取り上げながら、「地域産業における課題は何か」「その解決策は？」などについて考えていく。くわえて、この講義は、自治体等において約20年間の担当教員自身の実務経験に基づき、担当教員がこれまで対応した実際に社会（企業）で起こっている事象や課題を多数取り上げ、実践的な地域産業政策を学んでいく。

到達目標は、地域と産業についての関係性を理解し、地域における産業の役割を深く認識するとともに、各地の産業の実態や課題を把握し、解決に向けた構想力を身につけることである。

授業内容

第１回（基礎編）：なぜ地域産業論を学ぶのか―地域産業論はセミ・マクロのリアルな経済学―
第２回（実践編）：集団間・地域間競争と繊維・アパレル産業
第３回（基礎編）：農業立地と土地利用―輸送費と地代が土地利用を決める―
第４回（実践編）：アパレル業の競争力低下とOEM・ODM事業
第５回（基礎編）：工業立地と輸送費―工場の立地はどのように決まるのか（１）―
第６回（実践編）：アパレル業の販売チャネルの変遷
第７回（基礎編）：工業立地と労働費―工場の立地はどのように決まるのか（２）―
第８回（実践編）：新たな競争局面としてのSDGsへの対応
第９回（基礎編）：工業立地と集積―工場の立地はどのように決まるのか（３）―
第10回（実践編）：衣料品生産における地域間競争の構図―国内外をめぐる縫製業の量と質に基づく分業と競争―
第11回（基礎編）：柔軟な専門化と取引費用―複数の企業が集まることの強み―
第12回（実践編）：日系縫製業者にみる海外生産の変化と集団間・地域間競争―中国生産の変化とASEANへの進出―
第13回（基礎編）：産業クラスターと地域の競争優位―地域内の企業間競争は促進すべきか―
第14回（実践編）：生産の海外化にともなう集団間競争と自社工場のジレンマ―海外の縫製・加工工程をめぐる集団間競争と地域間競争―
第15回（基礎編）：イノベーションと地域産業―イノベーションを生み出す地域とは―
第16回（実践編）：海外分工場の革新の困難性とその克服―地域間分業を行う縫製・加工業に内在する地域間競争―
第17回（基礎編）：複合型集積と都市―都市の原理と課題―
第18回（実践編）：中小テキスタイル業の海外市場開拓にみる地域間競争―企業家活動、マーケティング、生産・開発の変化―
第19回（基礎編）：近接性とイノベーション―「近い」にはさまざまな意味がある―
第20回（実践編）：遠州別珍・コーデュロイ産地の競争力再生―下請産地から企画提案型産地への転換―
第21回（基礎編）：オフィスの立地―オフィスはどこに立地するのか―
第22回（実践編）：山形横編ニット産地の競争力再生―企画・デザイン、製品流通機能の包摂―
第23回（基礎編）：商業集積の理論―消費者の買物構造と地域商業の課題―
第24回（実践編）：郡内織物産地の競争力の再生―資源、制度・組織、企業家活動による高付加価値化―
第25回（基礎編）：クリエイティブ産業集積の理論―クリエイティブ・クラスはどこに住むのか―
第26回（実践編）：第三の地域産業問題：郊外問題,多摩地域
第27回（基礎編）：地域産業政策の変遷と地域産業―国土の均衡ある発展を超えて―
第28回（実践編）：大都市圏型産業集積の課題,東京都大田区

履修の注意点

産業に対する問題意識や提言力を身につけるため、日頃より新聞の経済・産業関連記事に接することが望まれる。

関連科目には「中小企業論」「地域政策論」「経済地理学」などがある。あわせて履修することが望ましい。

準備学習の内容

事前に、本シラバスの授業内容の欄に示した用語を辞典等で調べておくこと。復習として、教科書または配布するレジュメに示す「課題」を実施すること。

教科書

『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』奥山雅之ほか編著（文眞堂）2022年
『Basis地域産業論―産業の立地と集積―』奥山雅之（清明書院）2021年

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題のうち解説が必要なものについては、課題が提出された次の回の講義で解説する。

成績評価の方法

講義内レポート（30%）、期末試験（70%）

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ARS391J

異文化ビジネス論概論	2単位
	3年次

教授　海　野　素　央

授業の概要・到達目標

今日、グローバリゼーション下において、海外進出やＭ＆Ａ（企業の合併・買収）が頻繁に行われる中で、それに伴う異文化的な諸問題が発生している。例えば、中国進出日本企業の中には、中国人従業員の品質、作業標準書、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）等に対する思考様式が、日本人管理職のそれと相違するために生じる様々な問題に直面している企業が多い。日本人管理職と中国人管理職とのチームワークの醸成や信頼関係の構築に悩んでいる日本企業もある。同様の現象は、インド進出日本企業においても観察することができ、現地インド人従業員のモチベーションにマイナスの影響を与えている。

そこで、本講義では、海外進出がもたらす異文化ビジネス環境において、従業員のモチベーションを高め、コラボレーションを実現させる知識やスキルを学生諸君に習得させることを目標に、実践的な講義を行う。

授業内容

異文化ビジネスの基礎理論と実践を交えた構成とする。

理論面では、R・ハウス、J・チョホカー、G・ウィーバー、K・トーマス等の理論を取り上げる。実践面では、事例研究を取り入れながら、異文化コラボレーション力を向上させていきたいと考えている。

本講義では、以下の内容を考えている。

第１回　イントロダクション
第２回　インド進出日系企業における異文化マネジメントと人材育成
第３回　インド進出日系企業におけるインド人管理職の意識とモチベーションの高め方
第４回　事例研究（インド）
第５回　中国進出日系企業における異文化マネジメントと人材育成
第６回　中国進出日系企業における中国人従業員のモチベーション向上と維持の仕方
第７回　事例研究（中国）
第８回　タイ進出日系企業における異文化マネジメントと人材育成
第９回　事例研究（タイ）
第10回　事例研究（アメリカ）
第11回　異文化交渉I
第12回　異文化交渉II
第13回　異文化交渉III
第14回　講義全体のふりかえり

講師による一方的な講義を避け、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。

履修の注意点

「異文化理解とコミュニケーション」並びに「異文化摩擦とコミュニケーション」を履修していることが望ましい。

準備学習の内容

次回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。授業で扱った理論並びに概念を復習しておくこと。

教科書

特に定めない

参考書

海野素央（2008）『アジア地域と日系企業－インド・中国進出を考える企業への提言』（同友館）
海野素央（2005）『合併企業のモチベーション管理－組織文化の繭をどう打破するか』（中央経済社）
海野素央（(2002)『異文化ビジネスハンドブック－事例と対処法』（学文社）

課題に対するフィードバックの方法

事例の発表に関して、講師が口頭でフィードバックを行う。

成績評価の方法

「期末試験」「授業への貢献度」

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ARS391J

実践異文化ビジネス論	2単位
	3年次

教授　海　野　素　央

授業の概要・到達目標

今日、日本企業は、地球規模の競争にさらされ、それに生き残り、発展していかなければならないという共通の課題を抱えている。しかし、企業の多くは、異文化ビジネス環境でリーダーシップを発揮し、効果的に業務を遂行できる人材の不足に悩んでいる。

本講義では、異文化ビジネス環境において、成功を収めることができるような異文化ビジネス人材の育成を目的としている。それは、異文化的なものの見方並びに考え方を備えた人材であり、文化的背景の異なる相手の価値観と自分乃至自社の価値観を調整できるKSAA（Knowledge、Skill、Ability、Attitude:知識・スキル・能力・態度）を備えた人材でもある。その意味で極めて実践的な内容となる。

また、本講義では、グローバリゼーション下における望ましいリーダー像である異文化協働型リーダーの育成にも関心が注がれている。

異文化のみならず、同文化においても、ものの見方、考え方、価値観の異なる人と協働し、リーダーシップを発揮する際に、本講義で得られたKSAAは必ずその力を発揮されるであろう。

授業内容

実践の前に、基礎理論を講義する。理論面では、I・ベンズ、R・シュワルツ、R・ハーグローブ、G・レンウィック等の理論を基礎に、海野が展開してきた異文化ファシリテーター、異文化コーチ、異文化メンターに関する論を講義する。一方、実践面では、事例、シュミレーション（疑似体験）、DVD等を取り入れながら、異文化ビジネス人材の育成にコミットしていきたい。

尚、本講義では、異文化ファシリテーター、異文化コーチ、異文化メンターとしての信念や価値観も考究する。

本講義では、以下のような内容を講ずる予定である。

第1回　イントロダクション
第2回　ファシリテーションとは
第3回　異文化ファシリテーターの役割
第4回　異文化ファシリテーション（シミュレーションI）
第5回　異文化ファシリテーション（シミュレーションII）
第6回　異文化ファシリテーション（シミュレーションIII）
第7回　異文化ファシリテーション（シミュレーションIV）
第8回　コーチングとは
第9回　異文化コーチングと異文化メンタリング
第10回　事例研究Ⅰ＆Ⅱ
第11回　事例研究Ⅲ
第12回　企業価値の浸透と促進　異文化チームとコンフリクト
第13回　合併企業における異文化コラボレーターの仕事
第14回　授業全体のふりかえり

また、講師による一方的な講義を避け、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。

履修の注意点

「異文化理解とコミュニケーション」並びに「異文化摩擦とコミュニケーション」を履修していることが望ましい。

準備学習の内容

次回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。授業で扱った理論並びに概念を復習しておくこと。

教科書

特に定めない

参考書

海野素央（2004）『異文化コラボレーターの仕事－合併はなぜうまくいかないのか』（中央経済社）
海野素央（2005）『合併企業のモチベーション管理－組織文化の繭をどう打破するか』（中央経済社）

課題に対するフィードバックの方法

ファシリテーションに関して、講師が口頭でフィードバックを行う。

成績評価の方法

「期末試験」「授業への貢献度」

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論A【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位
	3年次

兼任講師　田　中　夏　子

授業の概要・到達目標

近年、社会の諸課題の解決手法として社会的にも着目が集まり、また就職先としても学生の関心が高まる「社会的企業」、および、その広がりを受けて市場においても一定の影響力を持つ「社会的経済」について、考え方、歴史、現代社会における意義と課題を理解する。講義前半では、社会的企業一般について把握した上で、講義後半、地域課題への対応や環境領域で事業展開するケースに着目していく。社会的企業とは、社会的目的をもって事業活動を展開する事業体である。株主のための利益の最大化を目的とはせず、コミュニティにとって必要な材・サービスを提供すること、またその事業を通じて、労働をはじめ、人々の社会参画を保障していくことを目的とする。こうした事業体は、歴史的にはヨーロッパで1800年代から、また日本では1970年代から存在するが、社会的な位置づけは曖昧なものだった。近年、「第3の道」論やヨーロッパ型の「社会的排除との闘い」政策との関係で、日本でも関心が深まっている。

授業内容

第1回　イントロダクション　社会的企業の担い手たち
第2回　社会的企業・社会的経済の歴史的経過①
第3回　社会的企業・社会的経済の歴史的経過②
第4回　ケーススタディ①（ワーカーズ・コープ）
第5回　ケーススタディ②（ワーカーズ・コレクティブ）
第6回　ケーススタディ③（共同連）
第7回　ディーセントワークとコミュニティワーク
第8回　地域課題に取り組む社会的企業(事例①)
第9回　地域課題に取り組む社会的企業(事例②)
第10回　環境問題に取り組む社会的企業(事例①)
第11回　環境問題に取り組む社会的企業(事例②)
第12回　ヨーロッパにおける社会的企業の現在(社会的協同組合)
第13回　ヨーロッパにおける社会的企業の現在(コミュニティ協同組合)
第14回　社会的企業の困難と課題

履修の注意点

社会的企業が、身近に存在しないか、常にアンテナをはるようにしてください。

準備学習の内容

授業資料は、事前にOh-o meijiを通じて配信するので、目を通し、疑問点を明らかにして授業に臨んでください。

教科書

特定のテキストは使用せず、教員が適宜、関連論文・記事・データ等を用意します。

参考書

藤井・原田・大高編著『闘う社会的企業』勁草書房、2013年
寺西・石田・山下編著『農家が消える 自然資源経済論からの提言』2018年、その他多数にわたるので、講義時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で、全体で共有し、講評・コメントをします。

成績評価の方法

・中間でのミニ課題　30%　　・授業内での筆記試験　70%　（試験は最終授業にて実施します）

その他

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｂ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　手　塚　崇　子

授業の概要・到達目標

授業の概要は、「地域と子ども」に関する制度・施策の概要を学び、子ども家庭をめぐる現状と課題を理解し、国や地方自治体の役割を知ることである。

到達目標は、(1)現代社会の子育てをめぐる支援政策についての基本的な制度政策の仕組みを理解し、(2)子ども家庭を巡る様々な課題について、事例や映像を通して理解し、(3)自治体の役割や機能、 子どもと保護者を支援する専門職との連携について課題を考察できるようになることである。

授業内容

第1回　市町村と他機関の役割―子ども家庭を支援するとは―
第2回　妊娠、母子手帳、母子保健
第3回　子育て支援と保護者支援
第4回　こども基本法における子どもの権利
第5回　就学前教育・保育（1）幼保一元化の施行時期・幼保一体化の特区時期
第6回　就学前教育・保育（2）過疎地域における幼保一体化
第7回　社会的養護とは（1）乳児院と児童養護施設についてー
第8回　社会的養護とは（2）援助の方法と展開
第8回　こうのとりのゆりかご、内密出産を考える
第9回　子どもを支える里親を支える里親制度
第10回　外国にルーツのある子どもと家族への支援
第12回　児童虐待・子どもの貧困・ヤングケアラーについて
第13回　障害児（発達障害）についてー障害児の療育についてー
第14回　子どもに関わる支援のまとめ
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

この授業では、子ども家庭に関わる施策を概観しながら、子どもと保護者をめぐる現状と課題を理解することを重視している。授業の資料を復習し、子ども家庭をめぐる地域の現状と課題について考えてほしい。

準備学習の内容

毎回、次回の授業のテーマを伝えるので、事前に指定したテキストの部分や厚生労働省やこども家庭庁が発表している報告書等を読んでおくこと。

教科書

・立花直樹監修（2025）『こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援論（第2版）」』晃洋書房
・毎回資料を配布する。

参考書

・柏女霊峰(2015)『子ども・子育て支援制度を読み解く』新読書社
・手塚崇子(2014)『幼保一体化施設の運営と行財財政―就学前教育・ 保育の一元化をめぐってー』専修大学出版局
・山野良一・湯澤直美編(2019)『子どもの貧困⑤支える・つながるー地域・自治体・国の役割と社会保障』明石書店

課題に対するフィードバックの方法

期末試験については、試験終了後（再試等がない場合)、10日を目途にOh！meiji内で公表する。

成績評価の方法

授業への参加度・平常点(30%)、期末試験(70%)で成績を評価する。毎回、授業内で行うリアクションペーパーの提出により、評価点を加点する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｃ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　安　倍　　宰

授業の概要・到達目標

本講義では、「地域文化」と「政治」の関わりに関し、文化人類学の方向から考察を進めてゆく。一般に政治学では国家組織、行政体系の存在を前提とした「統治学」が展開している。しかし、文化人類学では、1940年代以降、政治人類学が展開してきており、60年代～70年代はそのピークとも言える時期を迎えた。ここでは必ずしも、国家行政を前提としない論争がなされており、そうした視点で形成された“政治”認識で政策を捉え直してみたい。

授業内容

第1回　「地域」と「政策」
第2回　政治人類学とは
第3回　政策と文化
第4回　政策と民族アイデンティティ
第5回　マレーシア政治と”メイサーティーン”
第6回　マレーシア政治と”メイサーティーン”（2）
第7回　マレーシア政治と”メイサーティーン”（3）
第8回　政策と文化の共生・すり合わせ
第9回　政策と文化の共生・すり合わせ（2）
第10回　政策と文化の共生・すり合わせ（3）
第11回　政策による表象表現の変化
第12回　政策による表象表現の変化（2）
第13回　政策による表象表現の変化（3）
第14回　まとめと復習

履修の注意点

「政治」認識を、積極的に読み替えようという目的で授業を組みたてるつもりなので、皆さんもそのつもりで参加してください。

準備学習の内容

「政治」認識を、積極的に読み替えようという目的で授業を組みたてるつもりなので、皆さんもそのつもりで参加してください。

教科書

教科書に相当するものは無い。「政治学」「地方自治」「文化人類学」の入門書を読んでおくことが望ましい。

参考書

『アフリカの伝統的政治体系』、フォーテス他編、大森他訳、みすず書房
『政治人類学』、バランディエ、中川訳、合同出版その他は授業中に示す

課題に対するフィードバックの方法

課題その他に質問、疑問があれば学部事務室の窓口経由で本務のアドレスに相談ください。

成績評価の方法

原則として期末試験で評価する。受講人数により、レポートでの代替もありうる。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｄ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　廣　瀬　和　彦

授業の概要・到達目標

住民代表機関として最も身近であるはずの地方議会が学生にとって最も遠い存在ではないだろうか。
地方議会と日常生活で関わりを持たなくても特に問題とならないと考えがちであるが、自分たちの生活に非常に密接に関連性がある地方議会がどんな権限を持ちどんな役割を期待されているかを理解し、関心をもってもらいたい。
さらに公務員にとって必須の地方自治体をわかりやすく理論と実務の両面から理解することができる。

授業内容

第１回目　イントロダクション・地方議会とは
第２回目　地方自治制度における議会の地位（憲法93条等）
第３回目　議員定数の現状と算定手法
第４回目　議員報酬の現状と算定手法
第５回目　政務活動費の現状と問題点
第６回目　本会議・委員会・協議等の場
第７回目　議会の議決権限 ①（条例・予算・決算）
第８回目　議会の議決権限 ②（その他）
第９回目　議員の発言権と法的責任
第10回目　議会の会議の種類と招集
第11回目　議会における審議手法
第12回目　請願・陳情
第13回目　長と議会の関係
第14回目　議会改革

履修の注意点

地方議会におけるニュースや自宅に配布される議会だより等の情報をできるだけ把握するようにすること。

準備学習の内容

地方自治論・行政法を中心とした講義となるので基本書を読んで受講するとより理解が深まる。

教科書

Q＆A地方議会議員ハンドブック（ぎょうせい）

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

oh-meijiを通じた方法

成績評価の方法

授業への貢献度、授業への参加度、期末試験

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｅ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅴ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

特任教授　小　西　淳　文

授業の概要・到達目標

副題を「SDGsと地域社会」とし、SDGsが提示する各課題を確認し、
①　JICAが開発途上国で実施した関連プロジェクトを題材にその手法（各地域の現状把握と分析、計画策定、事業実施、評価）を学ぶ。
②　SDGsは開発途上国のみならず、先進国においても解決すべき課題となっています。
　　SDGsで提起されている日本国内の問題の現状を確認し、適切な政策提案ができることが目標。

授業内容

第１回　「この講義の概要と目的」を確認した上で、SDGsが策定された経緯とSDGsの17目標、167ターゲットについて学ぶ。また、ESG投資の意義を確認する。さらに、[url=https://sdgtransformationcenter.org/reports/sustainable-development-report-2024]「持続可能な開発報告書2024」にて日本について「深刻な課題がある」とされた５項目その他を確認する。
第２回　SDGs５：「ジェンダー平等」について、①「国際社会の取り組み」を概観した後に、「ジェンダー平等」の各ターゲットが提起された背景を再確認するために、ジェンダー格差が極めて大きい②「南スーダンの現状」を学び、③「OECDが発表しているSIGI」の評価手法とその結果について考察する。次に、ジェンダー平等と開発との関係を整理した④「世界開発報告2012（ジェンダー平等と開発）」を学ぶ。
第３回　SDGs５：「ジェンダー平等」について、①「JICA課題別指針（ジェンダーと開発）」を学び、第２回の授業で取り上げた「世界開発報告2012（ジェンダー平等と開発）」との構成の差異について考察する。また、その実践例として②「カンボジア政府の取り組み」とJICA・国際社会の協力の概要を参考に、③南スーダン政府のジェンダー平等政策支援策を考察する。
第４回　SDGs５：「ジェンダー平等」について、①「日本社会のジェンダーギャップ」の現状について、世界経済フォーラムが発表している「ジェンダーギャップ指数」、OECDが公表している「SIGI」を概観するとともに、②「男女共同参画白書 令和４年版」からその現状に関する日本政府機関の認識を確認する。また、③社会学者である上野千鶴子東京大学名誉教授のコラム（2024年12月19日President online）他について考察する。
第５回　SDGs５：「ジェンダー平等」について、「男女間賃金格差について（内閣府男女共同参画局）令和４年３月」をもとに、日本の男女賃金格差の現状とその背景を考察し、その是正に必要な政策を考察する。
第６回　SDGs１：「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」について、①「絶対的貧困」の現状を南スーダン共和国のデータに基づき確認したのちに、このような状況にある国々に対して、どのような支援を行うことが望まれるのか、②JICA「課題別指針（貧困対策）、（平和構築）」を参考に考察する。次に、③「男女共同参画白書 令和４年版」、「令和６年版 厚生労働白書」、「令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書」から「日本の相対的貧困の現状」を確認する。また、この課題は、「SDGs４：質の高い教育をみんなに」にも関連することを確認する。
第７回　SDGs１：「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」について、①「G7で２番目に高い日本の相対的貧困率。そこで何が起きている？」（松本 健太郎 日経ビジネス 2019年11月19日）から「日本の相対的貧困の現状」を再確認する。次に、②「経済指標の国際比較 第２回社会保障審議会年金部会（令和５年）」、③「賃金・人的資本に関するデータ集 （内閣官房 新しい資本主義実現本部事務局 令和３年）」をもとに、日本の賃金の国際比較を踏まえ、日本の「相対的貧困削減」に資する政策を考察する。
第８回　SDGs12：つくる責任、つかう責任について「廃棄物管理」について国際社会のこれまでの取り組みや関連条約を学び、今日の世界が直面する課題、特に「海洋プラスチックごみ問題」の条約交渉の経緯を確認し、対応策を考察する。
第９回　DGs 13：「気候変動対策」について、「気候変動枠組み条約」が締結された経緯とその後の「締約国会議での交渉状況」を確認し、難航する交渉状況をブレイクスルーする方策について考察する。
第10回　DGs 13：「気候変動対策」について、「IPCCの第６次評価レポート」と、その自然現象の一つである氷河の後退や海水の酸性化の影響などを確認した後に、地球温暖化による海水面の上昇により沈むと懸念されているツバルの現状とJICAの支援策について学ぶ。
第11回　SDGs 14：「海の豊かさを守ろう」及びSDGs 15：「陸の豊かさも守ろう」について、①「ラムサール条約」、「ワシントン条約」、「生物多様性条約」が締結されることにおなった経緯と、その後の「締約国会議での交渉状況」を確認し、難航する交渉状況をブレイクスルーする方策について検討する。また、②「ガボン、生態系保全とエコツーリズム」JICAプロジェクトを題材に、野生生物との望ましい共存について考察する。
第12回　SDGs 14：「海の豊かさを守ろう」について、①「世界の水産業の現状」を確認した後に、②持続可能な水産業の確立を目指す[セネガル政府の対策とJICAの支援状況及びベナン共和国で内水面養殖事業」を学ぶ。さらに、③「水産白書」や「内閣府資料」から日本の水産業の課題を確認し、望ましい対策について考察する。
第13回　SDGs7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」について、再生可能エネルギー、特に①「地熱発電」の概要を学び、②「ベルー 地熱発電開発マスタープラン調査（2012年）」を材料に、ベルー国の地熱発電総合開発計画（マスタープラン）の構成について考察する。また、③「2040年のエネルギーミックスの進捗と課題 （エネルギー白書）」をもとに日本国内のエネルギーミックスについて考察する。
第14回　SDGs 11：「持続可能な都市及び人間居住の実現」について、従来技術を駆使した「セネガル国ダカール首都圏開発マスタープラン策定調査（2016年）」手法 と低炭素社会の実現をターゲットにた「アジア低炭素社会シナリオの開発（2016年）」手法を学ぶ。また、[url=https://www.spt.metro.tokyo.lg.jp/seisakukikaku/versionup2024/]「未来の東京」戦略 version up 2024 について、考察を加える。

履修の注意点

各回とも授業の概要を示す事前配布資料をクラスウエブに掲載するので、あらかじめ一読し、質問事項について考えておいてください。
授業は、事前配布資料を一読していることを前提に進めます。
授業では事前配布資料の内容を詳しく説明します。
なお、本講義資料のクラスウエブへの掲載のタイミングは、皆さんの取り組み姿勢を勘案して決めることにします。レポート作成や復習に利用してください。

準備学習の内容

各回とも授業の概要を示す事前配布資料をクラスウエブに掲載するので、あらかじめ一読し、質問事項について考えておいてください。
授業は、事前配布資料を一読していることを前提に進めます。
授業では事前配布資料の内容を詳しく説明します。
なお、本講義資料のクラスウエブへの掲載のタイミングは、皆さんの取り組み姿勢を勘案して決めることにします。レポート作成や復習に利用してください。

教科書

特にありません。各回の「講義資料」はクラスウエブに掲載しますので、理解を深めてください。

参考書

JICA図書館ポータルサイトにアクセスして関連情報を入手し、理解を深めてください。

課題に対するフィードバックの方法

各回とも受講後に「質問事項の回答と、レポート（A4 2～3枚程度：指定様式あり）」の提出をお願いします。
レポートテーマは各回の授業の最後に提示します。
この「質問事項の回答と、レポート」は評価対象となるので必ず提出するようにしてください。
提出された「質問事項の回答と、レポート」に対しては、フィードバックコメントを返します。
提出された「最終レポート」に対しても、フィードバックコメントを返します。

成績評価の方法

1　学習内容の理解と考察（各回５％満点 14回 計70％満点）
　各回とも授業中にレポートテーマをお知らせしますので、「質問事項の回答と、レポート（A4 2～3枚程度：指定様式あり）」を各授業日の２日後の午後23時30分までに、クラスウエブのレポート提出欄に提出してください。
2　期末レポート（30％満点）
　最終授業後にレポートテーマをお知らせしますので、「A4、3～4頁程度（指定様式あり）」で考えをまとめてください。
　レポートの提出期間は、最終授業終了時から１週間後の午後23時30分までです。
　提出先はクラスウエブの最終レポート提出欄です。締め切り厳守。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｅ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅴ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　大　熊　省　三

授業の概要・到達目標

地域政策論が用いる学術用語に慣れ、学問的体系と内容が説明できるようになる。
経済専門誌等から、地域政策論上のテーマを選び出し、時事的に論じられるようにする。
学生が近い将来、社会人としてビジネスの現場の最前線で活躍できるように、「地域政策論」の本質と将来動向を、明確に説明できるような社会人になってもらうことを目標とする。

授業内容

第１回目　オリエンテーション(評価方法、等説明)
第２回目　地域政策・まちづくりとは
第３回目　まちづくり三法とは
第４回目　TMOからコンパクトシティ
第５回目　コンパクトシティ事例発表①
第６回目　コンパクトシティ事例発表②
第７回目　商業集積のメカニズム
第８回目　産学官連携地域活性化事業例
第９回目　相模原市の地域活性化事業例
第10回目　長野市栄村の地域活性化事業例
第11回目　ジーンズストリート新商品開発
第12回目　おおい町まちづくり政策コンテスト
第13回目　まちづくり･地域活性化タクソノミー
第14回目　今後の地位政策・授業内試験

履修の注意点

授業は講義形式だけでなく、双方向の発表やディスカッション等を優先する。

準備学習の内容

授業は毎回PPTを使い講義をするが、学生も発表のための事前学習・PPTの制作をする。

教科書

毎回PPTで説明する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

発表や課題のフィードバックは、授業中にディスカッションを行う。

成績評価の方法

授業参加意欲・平常点50%、授業内試験50%

その他

ディスカッションに積極的に参加すること。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｆ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅵ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　山　岸　絵美理

授業の概要・到達目標

本講座では、政治学や地方自治論についての基本的な知識を土台として、市民として、また住民としての自治体への参加の意義と役割を中心に理解を深めていきます。そのために、まずは基本的な民主主義の理念やその意義を確認から始めます。そして、日本の地方自治の文脈から地域レベルでの人々の参加のあゆみやそれぞれの意義を踏まえ、現代の自治体レベルの住民参加の仕組みやその課題そについて考えていきます。また、自治体の住民として、現代の日本社会や地域における状みをより深く考察し、住民参加の仕組みについて、具体的な自治体の取り組み事例を交え、実践的に理解を深めていきます。また、COVID-19感染拡大時における自治体と住民参加制度の影響なども考え、デジタルと参加や参加におけるジェンダーギャップについても視野を広げ、住民の広範な参加のあり方についても考えていきます。本講座の履修を通じて、地域の一員として市民・住民として、地域社会の現状と課題を理解し、活動できる力を身につけてください。

授業内容

第１回　イントロダクション、住民参加とは何か
　・住民参加の前提についての概念整理
第２回　政府の役割と住民参加
　・政府の機能と住民の参加の意義
第３回　民主主義とは何か
　・民主主義の歴史と理論
第４回　民主主義と参加（１）
　・民主的な参加の諸制度（選挙と議会）
第５回　民主主義と参加（２）
　・直接参加の諸制度（住民投票等）
第６回　住民参加の実践（１）
　・日本における高度成長期の住民参加
第７回　政治参加の実践（２）
　・自治体行政の統制と政策提案
第８回　コミュニティ形成と住民参加（１）
　・自治会、町内会の役割と課題
第９回　コミュニティ形成と住民参加（２）
　・コミュニティ政策の展開と自治体
第10回　市民・住民参加の事例（１）
第11回　市民・住民参加の事例（２）
第12回　住民参加の新しい展開と課題
　・住民参加型の政策形成（市民ワークショップ、市民討議会等）
第13回　住民参加の課題と展望
　・住民参加が抱える問題点と合意形成の課題
第14回　全体のまとめと論点整理

履修の注意点

政治や地方自治についての理解が必要不可欠となるので、行政学、政治学、地方自治論等への知識、何よりも地域への関心があることが望ましい。

準備学習の内容

講義に関連する情報や資料を、新聞やインターネットなどのツールを利用して、収集する。

教科書

なし。

参考書

講義時に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義の補足及び講義内で行ったリアクションペーパーの解説等は、次回以降Oh-Meijiにて行う。

成績評価の方法

学期末試験もしくはレポートで評価。
授業内で行うリアクションペーパー、授業への参加度によって、評価点を加算。

その他

他の受講生への迷惑行為（講義とは無関係なパソコン作業等も含む）は厳禁です。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｇ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅶ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　北　嶋　　守

授業の概要・到達目標

本授業では、国内外の産業振興策について、産業集積論、産業クラスター論の視点から検討します。「クラスター」という言葉は、先般の新型コロナ感染症の世界的な拡大（パンデミック）に伴い知られるようになった言葉ですが、本来は「集団感染」という意味ではなく、異なるアクター間の協働と競争関係の状態を意味しています。
新型コロナの場合は、「ウイルス」が「クラスター」によって感染拡大する現象が発生しましたが、本来、産業クラスター概念での「クラスター」では、「新しい情報や知識の伝播」という意味になります。
そこで、本授業では、この産業クラスター概念を中心に、国内外の産業クラスターの事例紹介を通じて、地域産業政策の方法や課題を提示します。
学生諸君には、将来、自分がどこで、どんな職業に就くか、その時、地域産業と自分の関わりはどのようなものになるのかといった未来像を想像しながら授業に臨んで貰えればと思います。そして、自分の未来像を描出するヒントを掴んで貰うことが本授業の目標となります。

授業内容

第１回　イントロダクション：社会科学の方法論、概念の重要性について
第２回　産業集積論から産業クラスター論に至る系譜について
第３回　国内編（１）半導体産業クラスター
第４回　国内編（２）航空宇宙産業クラスター
第５回　国内編（３）医療機器産業クラスター
第６回　国内編（４）ワイン産業クラスター
第７回　国内編（５）陶磁器産業クラスター
第８回　海外編（１）ヴァイオリン産業クラスター（イタリア・クレモナ）
第９回　海外編（２）シリコンクラスター（米国・シリコンバレー）
第10回　海外編（３）ハイテククラスター（フィンランド・オウル）
第11回　海外編（４）航空宇宙産業クラスター（カナダ・モントリオール）
第12回　海外編（５）世界のワイン産業クラスター
第13回　特別編（１）洋上風力産業クラスター
第14回　最終回：授業のまとめ

履修の注意点

出席の確認を毎回は行います。
積極的に授業に参加して下さい。

準備学習の内容

毎回、大学専用サイトに講義資料、参考資料を掲示しますので、予習・復習に役立てて下さい。、

教科書

特に指定しません。

参考書

笹野　尚著『産業クラスターと活動体』（エネルギーフォーラム、2014）
大木裕子著『産業クラスターのダイナミズム』（文真堂、2017）
北嶋　守著『ヘルスケア産業クラスター形成の日本的特質』（同友館、2020）
北嶋　守・髙橋美樹編著『脱炭素社会の地域イノベーション』（同友館、2024）
他、参考文献は、毎回、オンライン資料で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内容に関する質問は、毎回、講義の最後に質問の時間を設けます。

成績評価の方法

出席を重視し平常点の参考にします。
期末レポート（80％）と上記の平常点（20％）の合計点で評価します。

その他

私は30年以上にわたり政府系シンクタンクに勤務しています。現在は研究所のマネジメントも担当している産業研究者です。
これまで国内外で多くの調査研究をしてきました。その経験に基づく情報や知識を皆さんに伝えたいと思います。また、私の役割は、この授業を通じて学生諸君に「思考の変化」を与えることです。皆さんに少しでも良い刺激や変化を与えられたら幸いです。
健康管理を徹底し、一緒に頑張りましょう。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｈ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅷ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　北　嶋　　守

授業の概要・到達目標

この授業では、国内各地の産業振興策について、当該地域の産業の変遷と近年の具体的な取り組みの事例に基づいて紹介します。また、地域産業のイノベーションの仕組みについて、産業集積や地域振興策の観点からも検討する予定です。現在、日本国内の地方地域は、産業構造の変化や経済・産業のグローバル化、少子高齢化といった複数の問題に直面しています。さらに、今後は、脱炭素社会やデジタル社会への対応も重要になります。そこで、この授業では、特に高齢者が増加している地方地域が如何にして若者にとって魅力ある地域づくりを行うことができのかといった問題に焦点を当てながら、地域産業振興について考える機会を提供したいと思います。
受講する学生諸君には、自分の地元の現状と照らし合わせながら、人口減少の中で活力ある地域づくりは如何にして可能か、そのためにはどのような地域産業振興策が必要とされるのかといった問いについて、自分自身の将来の問題として捉え、自分自身で考えて貰うことを期待しています。

授業内容

第１回　イントロダクション：地域振興政策の経緯と最近の傾向
第２回　産業集積の類型と代表的産業集積地の概要
第３回　新潟県燕三条地域
第４回　福井県鯖江地域
第５回　長野県諏訪岡谷地域
第６回　岩手県北上川流域
第７回　東京都大田区ほか
第８回　福岡県久留米市
第９回　福島県郡山市
第10回　北海道札幌市ほか
第11回　脱炭素社会と地域振興①（バイオマス）
第12回　脱炭素社会と地域振興②（地熱）
第13回　脱炭素社会と地域振興③（小水力）
第14回　最終回　授業のまとめ

履修の注意点

毎回、出席をとります。
積極的に授業に参加して下さい。

準備学習の内容

毎回、大学専用サイトに講義資料・参考文献を掲示しますので、予習・復習に活用して下さい。
また、各地域のHPなどから最新の産業振興策の情報を収集して下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

山崎朗編著『地域産業のイノベーションシステム』（学芸出版社、2020）
北嶋　守・髙橋美樹編著『脱炭素社会の地域イノベーション』（同友館、2024）
ほか参考文献は講義資料の中で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

講義内容については、毎回、講義の最後に質疑応答の時間を設けます。

成績評価の方法

出席状況を重視し平常点の参考にします。
期末レポート（80％）、授業参加度（20％）の合計で評価します。

その他

私は30年以上にわたり政府系シンクタンクに勤務し、現在は研究所のマネジメントも担当する産業研究者です。これまで国内外で多くの調査研究をしてきました。授業では、その経験に基づく情報や知識を伝えたいと思います。また、私の役割は、この授業を通じて学生諸君に「思考の変化」を与えることです。皆さんに少しでも良い刺激や変化を与えられるよう努めます。
健康管理を徹底し、一緒に頑張りましょう。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ⅰ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅸ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　熊　田　順　一

授業の概要・到達目標

(授業の概要)　この演習は、経済（経済学）入門として位置づけられ、今日の経済社会において、私達が責任ある市民として生活し、それぞれの分野で自分の役割を果たしていくために必要な経済の知識を身につけるとともに、現実にどのような問題が起こっているのか理解していくことを目的としています。この演習においては、日常的に関心を持って経済ニュースを集め、毎週、現実経済の中から自分が特に重要だと考える経済時事問題を取り挙げて発表してもらい、少人数のグループに分かれて討論していきます。また、春学期と秋学期の後半には、より深く掘り下げてみたいテーマを選んでディベートや共同研究を行い、その成果を発表します。(※ゼミ生の希望に応じて内容変更の可能性あり。過去には、「経済実験」、経済系ボードゲーム」等を実施。)
(到達目標)　最終的には、受講生全員が、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」を読みこなし、それらの情報を批判的に検討し、自らの考えを展開できるようになることを目標としています。また、経済（経済学）の楽しさ、面白さを実感しながら、大学で学ぶために必要な基本的スキルを磨くことも目標の一つとして考えています。

授業内容

本演習は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定である。
第１回　イントロダクション（コース概要・目的）
第２回　発表とディスカッション１
第３回　発表とディスカッション２
第４回　発表とディスカッション３
第５回　発表とディスカッション４
第６回　発表とディスカッション５
第７回　発表とディスカッション６
第８回　発表（ビブリオバトル）１
第９回　ディベート１
第10回　ディベート１・フィードバック
第11回　ディベート２
第12回　ディベート２・フィードバック
第13回　ディベート３
第14回　ディベート３・フィードバック
第15回　発表とディスカッション７
第16回　発表（ビブリオバトル）２
第17回　発表とディスカッション８
第18回　発表とディスカッション９
第19回　発表とディスカッション10
第20回　発表とディスカッション11
第21回　発表とディスカッション12
第22回　経済ボードゲーム（ファイナンシャル・リテラシー）
第23回　共同研究（準備）１
第24回　共同研究（準備）２
第25回　共同研究（準備）３
第26回　共同研究（準備）４
第27回　共同研究報告
第28回　共同研究フィードバック
※初回授業時に演習の進め方や基本的ルール、成績評価などについて説明するとともに、身上書の提出による書類選考を行います。

履修の注意点

「経済」と聞くと難しいイメージを持つかもしれませんが、「経済」というのは、決して本の中だけの議論ではなく、私達が日常行っている活動の集まりであり、「現実の生活」そのものです。ですから、私達が「経済」について知るということは、人々がどう考え、行動し、世界全体としてどのように機能しているのかを知ることだと言えます。それによって、私達は、経済・社会が将来どのような方向に向かって進んでいくのかということを見通す力（洞察力）を養うことができるのです。そのため、演習では、様々な問題に関心を持って何事にも積極的に取り組む姿勢が求められます。このゼミで何を得られるかは、皆さんの努力にかかっているといえます。

準備学習の内容

受講生には、毎日、「日本経済新聞」を読んで経済情報を集め、現実経済の動きを追いかけてもらいます。また、毎週、その中から自分がとくに重要だと考える経済時事問題を取り挙げて、その問題についての自分の意見（自分はどのように考えたのか）を準備する必要があります。

教科書

(教科書)『ネットニュースではわからない本当の日本経済入門』伊藤元重【著】、東洋経済新報社（2021年）
(使用教材)　日本経済新聞

参考書

『アセモグル／レイブソン／リスト マクロ経済学』ダロン・アセモグル / デヴィッド・レイブソン / ジョン・リスト【著】、東洋経済新報社（2019年）
『アセモグル／レイブソン／リスト ミクロ経済学』ダロン・アセモグル / デヴィッド・レイブソン / ジョン・リスト【著】、東洋経済新報社（2020年）
『日本の経済政策―「失われた30年」をいかに克服するか』小林慶一郎【著】、中央公論新社（2024年）
『日本経済の死角―収奪的システムを解き明かす』河野龍太郎【著】、筑摩書房（2025年）
※その他、必要とする参考文献等はその都度提示します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業終了後、Oh-o! Meijiクラスウェブを通じて授業内容に関する感想・質問等のコメントを提出してもらい、重要な質問に対しては翌週の授業で回答・解説する。

成績評価の方法

演習への貢献度50%、演習課題（授業時発表を含む）30%、目標到達度評価20%

その他

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域政策論Ｊ【2022年度以降入学者】 地域政策論Ⅹ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　松　井　直　之

授業の概要・到達目標

・地方分権改革が進展していくなかで、地方公共団体（地方自治体）には、それぞれの地域の課題を解決するために、条例を制定して、政策を実行するなど実践的な活動を行うことが求められています。この講義では、地方公共団体が政策を実現するために制定する条例に焦点を当て、条例に関する制度（仕組み）だけでなく、具体的な事例を取り上げて条例の制定、運用状況について目を向けることで、
「地方公共団体における政策の実行と条例」に関する基礎的な知識、考え方を身につけていきます。
・「地方公共団体における政策の実行と条例」に関する基礎的な知識や考え方を身につけ、自分の意見を組み立てることができるようになることを目標とします。

授業内容

第１回　地方公共団体における政策
第２回　政策と条例
第３回　法律実施条例
第４回　条例の法令適合性（１）：財産権の制限、課税、刑罰
第５回　条例の法令適合性（２）：徳島市公安条例事件最高裁判決
第６回　地方分権改革の条例への効果：「ユニーク条例」
第７回　都道府県条例と市町村条例の関係
第８回　条例と司法審査（１）：概論
第９回　条例と司法審査（２）：自己決定権
第10回　条例と司法審査（３）：自己情報コントロール権
第11回　条例と司法審査（４）：法の下の平等
第12回　条例と司法審査（５）：結社の自由
第13回　条例と司法審査（６）：職業遂行の自由
第14回　条例と司法審査（７）：財産権

履修の注意点

・指定された講義資料（「Oh-o! Meiji」に掲載します）の一読を前提に、重要な点を軸に通常の講義形式により行います。
・講義の際に質問に答えてもらうことがありますので、国内政治などに関心を持って積極的に参加してください。

準備学習の内容

・復習を中心に行うようにしてください。
・１回目から通常の講義をするので、指定された講義資料（「Oh-o! Meiji」に掲載します）を事前に読み、分からないところを明らかにしておいてください。
・受講後、指定された講義資料を読み直し、参考書を参照して、事前に分からなかった点が理解できるようになったかを確認してください。

教科書

・教科書は使用しません。
・『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）、『コンパクト六法』（岩波書店）などの六法を持参してきてください。

参考書

・『大学生のための憲法』〔第２版〕　君塚正臣、大江一平、松井直之編著（法律文化社）2024年
・『高校から大学への憲法』〔第２版補訂版〕君塚正臣編著　（法律文化社）2025年
※参考書は、講義内容の理解を深めるために、補助的に使用してください。

課題に対するフィードバックの方法

・課題を実施する場合、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

・定期試験60%と授業への参加度（質疑応答など）40%を合わせて成績評価を行います。
なお、受講生との相談により成績評価の方法を変更することがある。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN391J

地域情報論	2単位
	3年次

兼任講師　浅　岡　隆　裕

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
・授業テーマは、“ソーシャルネットワーク時代における地域情報の生成・流通・消費”
・「地域情報化」と呼ばれる社会変動の深化によって、地域に流通し、当該地域の住民が受発信する情報の量と質が大きく変容してきている。
・本講義では、地域情報の産出と流通、消費をめぐる、これまでの経緯と現状について詳しく説明していく。とりわけ≪地域メディア≫≪インターネットによる地域情報の受発信≫≪地域の魅力の情報発信≫といったトピックの説明に多く時間をかける。
【到達目標】
・自分たちが生活をしているローカルな場に生起している地域情報について興味を持ち、その産出・流通メカニズムについて主体的に考察できるだけの知識習得を目指す。

授業内容

第1回：講義のイントロダクション：地域情報とは何か。それを学ぶ意義
第2回：「地域情報」を学ぶための基礎知識
第3回：都市・地域の中のメディア　①新聞（地方紙）
第4回：都市・地域の中のメディア　②新聞（コミュニティ紙）
第5回：都市・地域の中のメディア　③ローカル放送
第6回：都市・地域の中のメディア　④ケーブルテレビ
第7回：都市・地域の中のメディア　⑤コミュニティFMラジオ方法
第8回：地域やコミュニティの情報化
第9回：地域情報を伝えるインターネット
第10回：地方自治体からの情報発信：行政広報の役割
第11回：地域の魅力を情報発信するシティプロモーション
第12回：シティプロモーションの展開
第13回：情報大爆発時代の地域情報
第14回：これまでの講義内容の補足説明

履修の注意点

出席は重視する。
毎回リアクションコメントとして提出頂き、平常点として評価する。

準備学習の内容

授業内で関連する参考書や関連書籍・資料を紹介するので、事前に目を通して、講義内容の理解を深めて頂きたい。復習として授業で見聞した概念、事例について、レジュメや配布物などを読み返し、身近で当てはまる事例がないのかなどを考え、実際に調べてみることを推奨する。

教科書

特に指定しない。

参考書

『インターネット普及期以降の地域情報化とコミュニケーション変容』 浅岡隆裕（KADOKAWA）2016年
その他、適宜、関連文献を紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

毎回リアクションコメントやレポート課題については、次回の授業内やクラスウェブなどで適宜、言及する。

成績評価の方法

複数回の小レポート30%、期末の最終レポート50%、平常点（授業での積極参加・提出課題）20%とする。

その他

受講者が居住ないしは出身の地域社会やそこに存在する地域メディアに興味を持ってもらいたい。
授業担当者は広告会社のマーケティング部門で携わった業務経験をもち、さらに現在、複数地域での魅力発信とシティプロモーションの政策立案にも関わっている。
メディアや生活者の情報行動、そして地域からの情報発信について、これまで実務上で得た経験や知識を活かしつつ授業設計している。

科目ナンバー：(PE)LAW361J

民法（債権）	2単位
	3年次

兼任講師　績　　孝　史

授業の概要・到達目標

民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法（親族法・相続法）によって構成されているが、本授業では債権法を学習する。民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。
本授業では、公務員試験（国家・地方上級）、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。

授業内容

第1回目　債権の意義、債権法の体系、不法行為①
第2回目　不法行為②
第3回目　売買契約①－意義、債務不履行、契約の解除
第4回目　売買契約②－危険負担、受領遅滞、特定物債権と種類債権
第5回目　売買契約③－契約不適合責任、賃貸借契約〓
第6回目　賃貸借契約②
第7回目　贈与・交換・消費貸借・使用貸借・請負の各契約
第8回目　委任・寄託・組合・和解の各契約
第9回目　債権の消滅①
第10回目　債権の消滅②
第11回目　責任財産保全制度
第12回目　債権譲渡、債務引受、多数当事者の債権関係①
第13回目　多数当事者の債権関係②
第14回目　事務管理、不当利得

履修の注意点

指定教科書と民法の条文に基づいて授業を行う。六法等を持参し、民法の条文が見れる状態で受講すること。

準備学習の内容

指定教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。

教科書

潮見佳男『民法（全）第3版補訂版』（有斐閣）

参考書

1)『六法』：どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣　判例六法』（有斐閣）のほうが良い。
（2）『民法判例百選Ⅱ　債権[第9版]』（有斐閣）

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説する。

成績評価の方法

期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果（100%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW361J	
民法（家族法）	2単位
	3年次
兼任講師　**續　　孝　史**	

授業の概要・到達目標

民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法（親族法・相続法）によって構成されているが、本授業では家族法を学習する。民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。
本授業では、公務員試験（国家・地方上級）、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。

授業内容

第1回目　親族法総則、婚姻①
第2回目　婚姻②
第3回目　離婚、内縁
第4回目　親子①（実子）
第5回目　親子②（認知制度）
第6回目　親子③（養子）
第7回目　親権、後見、保佐、補助、扶養
第8回目　相続人と相続分
第9回目　相続の対象、相続の承認と放棄、相続権の剥奪
第10回目　遺産共有と遺産分割
第11回目　遺言
第12回目　遺留分
第13回目　近時の改正による新制度、相続回復請求権
第14回目　相続・遺言による不動産の取得

履修の注意点

指定教科書と民法の条文に基づいて授業を行う。六法等を持参し、民法の条文が見れる状態で受講すること。

準備学習の内容

指定教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。

教科書

潮見佳男『民法（全）第3版補訂版（有斐閣）』

参考書

（1）『六法』：どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣　判例六法』（有斐閣）のほうが良い。
（2）『民法判例百選Ⅲ　親族・相続[第3版]』（有斐閣）

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説する。

成績評価の方法

期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果（100％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)LAW391J

経済法

4単位

3年次

兼任講師　山　田　　弘

授業の概要・到達目標

必ずしも法学になじみのない履修者がいることを前提としつつ、経済法に分類される法律分野の根幹をなす独占禁止法に焦点を当てて、長年にわたり独占禁止法の執行当局である公正取引委員会に勤務した講師が、独占禁止法の歴史及び主要な規制、公正取引委員会の体制や執行手続等につき、その経験を踏まえて主に実務的側面から講義を進めていきます。
必要に応じて、海外における規制の概要や国際協力の状況についても触れる予定です。
独占禁止法及び独占禁止政策がビジネス及び日本の経済社会に果たしている役割について理解することが、この授業の目的となります。

授業内容

第１回　イントロダクション「独占禁止法を学ぶことの意義」
第２回　１－１「独占禁止法総論（独占禁止法の歴史）」
第３回　１－２「独占禁止法総論（独占禁止法の理念と目的）」
第４回　１－３「独占禁止法総論（独占禁止法の用語）」
第５回　１－４「独占禁止法総論（独占禁止法の規制対象）」
第６回　１－５「独占禁止法総論（公正取引委員会の組織と権限）」
第７回　２－１「独占禁止法の実体規定（不当な取引制限の解説）」
第８回　２－２「独占禁止法の実体規定（不当な取引制限・事例研究その１）」
第９回　２－３「独占禁止法の実体規定（不当な取引制限・事例研究その２）」
第10回　３－１「独占禁止法の実体規定（私的独占の解説）」
第11回　３－２「独占禁止法の実体規定（私的独占・事例研究その１）」
第12回　３－３「独占禁止法の実体規定（私的独占・事例研究その２）」
第13回　４－１「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法の解説その１）」
第14回　４－２「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法の解説その２）」
第15回　４－３「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法の解説その３）」
第16回　４－４「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法・事例研究その１）」
第17回　４－５「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法・事例研究その２）」
第18回　４－６「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法・事例研究その３）」
第19回　５－１「独占禁止法の実体規定（企業結合規制の解説）」
第20回　５－２「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・分析手法その１）」
第21回　５－３「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・分析手法その２）」
第22回　５－４「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・事例研究その１）」
第23回　５－５「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・事例研究その２）」
第24回　６－１「独占禁止法の手続規定（執行・手続その１）」
第25回　６－２「独占禁止法の手続規定（執行・手続その２）」
第26回　６－３「独占禁止法の手続規定（執行・手続その３）」
第27回　７－１「独占禁止法特論（政府規制と適用除外）」
第28回　７－２「独占禁止法特論（国際的側面）」

履修の注意点

必ずしも法学に関する知識は必要ありません。条文や判例の読み方の基本についても、講義の中で触れる予定です。

準備学習の内容

予習：授業に当たっては、授業に先立ってOh-o！Meijiにアップロードされる講義資料を事前に読んでおいてください。特に、事例研究の回のときは、授業の効率的な進行のためにも、必ず前もって講義資料に目を通しておいてください。
復習：授業後は、講義資料とともに教科書の該当箇所を読み、授業で学んだ内容を復習するようにしてください。

教科書

『経済法（有斐閣ストゥディア）』　河谷 清文ほか編著　（有斐閣・2023年）

参考書

『条文の読み方 第２版』　法制執務・法令用語研究会　（有斐閣・2021年）
『経済法判例・審決百選 第３版（別冊ジュリスト268号）』　川濱昇ほか編著　（有斐閣・2024年）

課題に対するフィードバックの方法

今のところ課題の提出を求めることは予定していません。仮に課題を課すことがあったとしても、個別にフィードバックするようなことはせず、授業内で総括的な講評を行う予定です。
ただし、講義内容等について質問があれば、いつでも受け付けるつもりです。

成績評価の方法

定期試験（80％）、授業への貢献度（20％）

その他

授業は、基本的に、講師が事前に用意する講義資料に沿って進められますが、事例研究のときは、手元に教科書があると役に立ちます。

科目ナンバー：(PE)POL391J

地域創造総合講座

4単位

3年次

教授　牛　山　久仁彦

授業の概要・到達目標

「地域」は今日、多様で深刻な問題を抱えている。そうした中で、地域の健全化・活性化をはかるには、住民、企業、自治体の3つセクターが、地域社会、産業、行政の分野を基礎として、互いに協働することが不可欠である。また3つセクターが統合される場である「地域」同士が手をとりあい、グローバルな視点から行動することも不可欠である。本講座では、政治経済学部に設置されている各科目を学んだ後、地域の発展という視点から、それらを総合化・体系化することを目的としている。それは各人が将来において、直接・間接に、地域社会（企業も含む）で実践活動に従事することをめざしており、そのための応用的なスキルを獲得することを到達目標とする。その実践活動は、公務員、議員などだけでなく、企業家、NPO 職員をはじめとして、さらには一市民としてである。

講師は、地域あるいはそれに関連する現場でご活躍されている方々で、その経験をもとにご講義願うとともに、ワークショップ形式も取り入れ、学生参加型の講座となる。具体的な実務経験およびその経験を活かした教育内容については、授業内容に記載する。

授業内容

回数	日程	時限	テーマ	講師所属・役職	講師氏名	講師紹介教員
第1回	9月22日	4限 5限	イントロダクション	地域行政学科長		-
第2回	9月29日	4限 5限	人生100年時代の地方自治	マイクロベース株式会社 事業企画マネージャー	大熊 紀子	星野 泉
第3回	10月6日	4限 5限	都市の論理の破綻 -環境共生都市への転換-	工学院大学 名誉教授	東 正則	大森 正之
第4回	10月13日	4限 5限	地方地域社会の活性化 ーグリーン・ツーリズムと関係人口ー	秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科教授	重岡 徹	大森 正之
第5回	10月20日	4限 5限	金融機関が果たす地域の 中小企業振興について	一般財団法人商工総合研究所 エグゼクティブフェロー/株式会社商工組合中央金庫 産業戦略部　フェロー	青木 剛	森下 正
第6回	10月27日	4限 5限	巨大地方政府・都庁を内側から見る(仮)	東京都庁 局長級OB	澤　章	奥山 雅之
第7回	11月10日	4限 5限	天草市牛深における水産業×DXの取り組 みによる地方創生	日本デーコムサービス株式会社 天草支店 支店長	今井 勉	西村 弥
第8回	11月17日	4限 5限	地域資産をブランドにする	博報堂ケトル クリエイティブディレクター/PRディレ クター	永渕 雄也	星野 泉
第9回	11月24日	4限 5限	地方創生ソーシャルビジネス発案講座	NEWRON株式会社代表取締役	西井 香織	奥山 雅之
第10回	12月1日	4限 5限	調整中			-
第11回	12月8日	4限 5限	調整中			-
第12回	12月15日	4限 5限	「スポーツボランティア」自己成長への招待	株式会社アイディアイ 代表取締役	川村　徹夫	後藤 光将
第13回	1月12日	4限 5限	調整中			-
第14回	1月19日	4限 5限	まとめ	地域行政学科長		-

履修の注意点

全学科の学生が履修可能であるが、まち・地域・コミュニティの活性化に関心があり、現状の問題点を正しく把握し、それらを克服する手段を実践的、総合的に学ぶ意欲を強く持つことが望まれる。

準備学習の内容

次回の講義担当者のプロフィール、著書、業績などを確認しておくことが望ましい。また、復習を兼ねて毎回小レポートの提出を求める。

教科書

特に指定しない。ただし、各講師より各講義時において紹介される場合がある。

参考書

特に指定しない。ただし、各講師より各講義時において紹介される場合がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

毎回の授業参加による貢献度と毎回の小レポートの内容によって総合的に評価する。定期試験は実施しない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)INS315J

地域研究インターンシップ	2単位
	3年次

教授　牛　山　久仁彦

授業の概要・到達目標

自治体あるいは外郭団体、議員事務所などでの職場体験を通じて、地域行政あるいは政策立案・実施、住民協働を体験し、それまで蓄積した知識を活きた知識とすることを目的とする。公務員、議員など、将来の職業選択に向け、自治体等での実習を通して実務経験を得ることを目的とし、授業、実習を通じ、公共部門、民間部門を問わず、地域社会で働くとはどういうことかについて学ぶ。
本プログラムは、自治体あるいは外郭団体、議員事務所などでの職場体験（インターンシップ）を核としながら、事前の説明、マナー講座など、事後のグループワーク、発表会などで構成され、これらのプロセスを全て経ることで、実効性のある実務経験となるよう工夫されている。
このプログラムは、自治体等において約20年間の担当教員自身の実務経験に基づき、担当教員がこれまで対応した実際に社会（企業）で起こっている事象や課題も参考にしながら、インターンシップ活動に取り組んでいく。
到達目標は、国内外の各地域における現状と課題を分析し、その課題の解決や地域の発展・創生・活性化を担い支える能力を獲得することとする。

授業内容

第１回　第２回　イントロダクション、インターンシップの重要性について
第３回　マナー講座（１）
第４回　マナー講座（２）
第５回　マナー講座（３）
第７回　マナー講座（４）
第８回～第12回　インターンシップ（１）～（５）
第13回　第14回　インターンシップ報告会、振り返り、まとめ

履修の注意点

履修登録後、教員との面談（５月末を予定）を行い、各履修者の志望や実習先の受入状況を確認する。
・春学期期間中にマナー講座等、所定の事前研修を受講する。
・夏休み期間を中心に１～２週間程度（５日間以上必要）、政治経済学部（地域行政学科）と提携した役所、議員事務所、企業等において受入団体の用意した研修、あるいは当該団体における実務を経験する。実習先によっては春学期期間中に事前の講習や課題の提出等を求められる場合もある。
・研修実施後、事後レポートを作成し、秋学期には報告会を行う。

準備学習の内容

日頃より地方行政、政策に関するニュースに間を通すとともに、インターンシップ先が決定した際には、必ず当該自治体等の情報を頻繁に取得し、理解しておくこと。また日誌を通じて、インターンシップ中の振り返るを毎回実施し、インターンシップ活動の改善につなげること。

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

事前学習だけでなく、インターンシップ中の日誌および最終報告の際に個別にフィードバックを実施する。

成績評価の方法

事前学習、事後学習への貢献度、日誌（レポート）、最終報告書などを総合的に勘案して評価する。

その他

２年次に「地域研究総合講座」の単位を取得していることが、このプログラムを履修する条件となる。

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア文化論Ａ【2022年度以降入学者】 日本・アジア文化論Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位
	3年次

教授　嶋　田　直　哉

授業の概要・到達目標

文化と文学について理論的に〈読む〉方法を学ぶ。
文化と文学を感覚的に理解するのではなく、方法論を学び、理論的に考えられるようになることを到達目標とする。
特に文学理論を学ぶことで、物語の内容（ストーリー）はもちろんのこと、物語の構造に注目することができるようになる。
以下の文学作品を読む予定である。
志賀直哉「小僧の神様」
国木田独歩「鎌倉夫人」
芥川龍之介「藪の中」
※授業で取り上げる作品は必要に応じて変更することがあります。

授業内容

第１回　ガイダンス～読書ガイド
第２回　日本近代文学研究とは
第３回　昔話の形態学～あるある物語の構造（１）
第４回　昔話の形態学～プロップの「31の機能」（２）
第５回　記号論の基礎～ソシュールの言語学（１）
第６回　記号論の基礎～ソシュールの言語学（２）
第７回　記号論の実践と展開～ロラン・バルト（１）
第８回　記号論の実践と展開～ロラン・バルト（２）
第９回　記号論の実践と展開～プロレスを考える（３）
第10回　作者～作家の肖像写真を考える（１）
第11回　作者～ヤーコブソンの６機能（２）
第12回　読者～受容理論
第13回　視点～物語の語り方
第14回　総まとめ
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

いかなる理由があろうとも私語は絶対にしてはならない。
私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。
教員に失礼な態度をとる学生に対しては、こちらも相応の態度で臨む。
★学習意欲が全くない者は履修してはならない。

準備学習の内容

文化について興味関心を持つこと。
事前に指定された作品（短編小説の予定）をしっかり読んでおくこと。

教科書

使用しない。
授業で使用する資料については、事前にOh-o!Meijiにアップロードする。各自のデバイスで閲覧できるようにすること。

参考書

授業時に適宜指示する

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業中に行う。

成績評価の方法

授業への参加度（50%）
期末レポート（50%）
なお各評価項目の基準を満たしていない場合は単位を修得することができない。

その他

第１回において授業内容、成績評価について説明する。
第１～３回は「日本文学」（嶋田担当、和泉開講科目）と授業内容が一部重複する。
履修変更期間中の欠席は一切配慮しない。
就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。
体育会活動による欠席は大学の「公式な派遣」による大会出場のみ配慮する。その他の大会や練習は一切配慮しない。
「公欠」の基準については初回授業で説明する。
★出席確認時に不正を行った者は厳しく対処する。

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア文化論Ｂ【2022年度以降入学者】 日本・アジア文化論Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　本　間　次　彦

授業の概要・到達目標

近世の中国社会を主に分析の対象としながら、いわゆる「中国的」なものとは何であるかについて、多角的に考察していきたい。（1）他の地域に対して自らを「中国」と位置づける意識はどのように形成されてきたか、また、「中国人」とはどのような人たちのことか。（2）日本や朝鮮と比較した場合に、中国の近世社会とそのエリート像にはどのような特徴があったか。（3）日本と比較した場合に、中国の伝統社会が生み出した歴史観とその近代的変容にはどのような特徴があったか。これらの点について順次とりあげていく。

同時代の日本や朝鮮、さらには、現代の中国との対比を通じて、近世の中国社会がどのような意味で現代に連続し、また、断絶しているか明確化することが、この授業の目標となる。

授業内容

第１回：イントロダクション―中国とは何か
第２回：中華とナショナリズム
第３回：中国社会の特質
第４回：中国の「家」
第５回：中国・日本・朝鮮の近世社会
第６回：読書人（中国）と両班（朝鮮）
第７回：儒者と武士
第８回：朱子学と武士道
第９回：日本の朱子学
第10回：中国の伝統的歴史観
第11回：日本近世の歴史観
第12回：「文明開化」と「中華」
第13回：中国近代と社会進化論
第14回：東アジアの近世と近代

履修の注意点

現在の東アジア社会の成り立ちに強い関心をもつ皆さんに受講してもらえれば幸いです。

準備学習の内容

授業で配布された資料を読みかえすなどして、前回までの授業内容を十分理解した上で、毎回の授業に出席すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

特定の参考書は用いない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業で講評を行う。

成績評価の方法

複数回のレポート提出により総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア文化論Ｃ【2022年度以降入学者】 日本・アジア文化論Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　羽　根　次　郎

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この講義では矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』を手引きに、日本の植民地支配下にあった台湾と日本資本主義との関係につき論じていくことで、植民地台湾にとっての「近代化」を考えたい。

日本資本主義の発展を対外要因に求めた場合、戦争賠償金と対外借款のほかに、植民地獲得は検討すべき重要課題となる。台湾もまた、労働力や土地への資本の投下とその回収そして蓄積の場として、日本資本主義の発展に存分に利用された。矢内原忠雄（1893-1961）もまた、その典型を台湾糖業資本の発展に見ているが、戦後東大総長（1951-57）にもなる矢内原が東京帝国大学法学部で担当した講座は植民政策であり、東京帝国大学の「役割」と、植民政策という講座の持つ性格を踏まえれば、植民地支配への批判的思考とその表現が矢内原にとり十分可能な環境にあったかといえば評価は簡単ではない。しかし、キリスト者であり、リベラリズムの系譜にも立つ矢内原はこの著作において、レーニンやホブスンらの帝国主義論にも接近しつつ、日本資本主義にとっての植民地台湾の「価値」を、独自の良心的立場から精緻に分析しており、今なお参考にすべき点は実に多い。本講義では、矢内原が抱えた問題系とその限界、さらにその同時代的意味について歴史研究の視座から考察することを主眼に置いている。「日本は台湾に良いことをしてあげた」の類の俗流の台湾言説が、日本のみならず台湾でもいわば安直無批判に流通しがちであることの意味／意図を考察しうる視点をぜひ本講義から吸収されたい。

【到達目標】
日本の台湾への植民地支配が持った歴史的意義について理解を深め、日本資本主義そして植民地台湾の「近代」についてあらためて考える。

授業内容

第１回目：イントロダクション／第一篇 第一章
第２回目：第一篇　第二章　第一・二節
第３回目：第一篇　第二章　第三節
第４回目：第一篇　第二章　第四・五節
第５回目：第一篇　第二章　第六節
第６回目：予備（進度調整）
第７回目：第一篇　第三章　第四章
第８回目：第一篇　第五章
第９回目：予備（進度調整）
第10回目：第二篇　第一章　第二章
第11回目：第二篇　第三章
第12回目：第二篇　第四章
第13回目：まとめ
*講義の内容と進度は必要に応じて変更することがある。

履修の注意点

準備学習の内容

・毎回の講義内容は、履修者が教科書の予習範囲をすべて読んで咀嚼済みであることを前提とするため、教科書の内容を分かりやすく解説するような入門的な講義にはない。教科書への理解が進んでいなければ、毎回出席していても単位を落とすことになる。
・毎回講義終了時に次回講義用のオリジナルのリアクションペーパーを２部配布する。次回講義の際、１部を講義開始時に提出し、残る１部を講義修了後に加筆のうえ提出する。オリジナルのリアクションペーパーを持たぬ学生には、別種のリアクションペーパーを配布するが（ただし、講義開始後15分で配布を終了する）、他の学生とは当然評価に差が生まれる。
・「独占資本主義」「資本の本源的蓄積」のような、教科書で用いられている専門用語についてもまた、本講義では解説することを意図していない。難解と感じる用語については、図書館等を利用し自分なりに理解してから講義に臨むこと。理解せぬまま講義に出席して「つまらない」と思われても、それは必然であり憐憫の情を覚えるものとはならない。

教科書

・矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』、岩波書店、1988年６月。
本書は1929年初版だが、講義では上記1988年版を用いる。なお、国立国会図書館デジタルコレクションにログインすれば、無料で全文ダウンロード可能である。ログインのための新規登録が分からない学生は、以下アドレスより進まれたい。
https://ndlsearch.ndl.go.jp/login

参考書

適宜講義中に紹介する。なお、書中の専門用語に親しむために、秋学期に先立ち読んでおくと役立つ書籍（含古典的著作）として以下を紹介する。
・ホブスン『帝国主義論　上・下』（岩波文庫 白 133-1）、岩波書店、1951年８月。
・レーニン『帝国主義論』（岩波文庫、講談社学術文庫、古文新訳文庫など様々な翻訳が出版されている。）
・デヴィッド・ハーヴェイ『〈資本論〉入門』、作品社、2011年９月。
また、台湾の歴史に関する不明点は以下書籍が参考となる。
・春山明哲ら『台湾の歴史 大全』、藤原書店、2025年２月。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへの講評は講義の中で随時行う。

成績評価の方法

平常点100%
・原則として「平常点100%」で成績評価を行うが、履修者の学修効果が懸念される場合や履修者数多数により物理的に成績評価方法を再考する場合は、期末試験を行う。その場合、「平常点30%、期末試験70%」で成績を評価する。
・平常点については、毎回のリアクションペーパーの内容を加点根拠とする。
・スマートフォン、ノートパソコン、タブレット端末などの電子機器の使用は、調べものやノートテイキング、時計としての目的を含め、原則として一切禁ずる。講義中に使用が発覚した場合、平常点を大きく減点する。
・講義中に開く教科書は、電子版を禁じ、紙版のみとする。
・コロナパニック以後、講義中に無断で途中退室する学生があまりに目立ち、講義の妨げになっている。今学期はかかる学生については平常点を減点する。トイレ目的も含め、退室時には必ず申し出ること。
・理由の有無を問わず、講義中に入退室をあまりに頻繁に繰り返す学生や、退室したまま長時間戻ってこない学生については平常点を減点する。
・私語については、教員が注意してそれを聞かぬ場合は平常点を減点する。

その他

・本書は決して平易な書籍ではない。単位取得目的のみの軽率な履修は、体育会学生も含めて、自身に後悔をもたらすことになる。

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア文化論D【2022年度以降入学者】 日本・アジア文化論Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　山　岸　智　子

授業の概要・到達目標

西アジアは、「イスラム国」によるおぞましい動画、2023年からのガザ攻撃など、凄惨なイメージを拡散するニュースによって認識されることが多い。日本で暮らしていると、そうした映像を見たところで、暴力の吹き荒れる「他所」の出来事だと思うばかりで、そこで人々が生きているのだという実感をもつことは難しい。また関心を持ったとしても、さまざまな事象について、国家や政治的アクターの動きを追いかけるだけで精いっぱいで、そこにある日常生活や気持ちのありようにまで思いをはせる機会は少ない。この授業では、西アジアの人々の文化や生活、日々の想い、そして過酷な社会の現実を描いた渾身のドキュメンタリーや映像作品などを観ることで、一般市民の住む場所としての西アジアをイメージする力を養うことを目標とする。また、西アジア出身の移民に関する映像作品もとりあげて、グローバル化のなかに西アジアを位置づけるための一助としたい。
各回の授業では、映画の背景についての説明を付し、履修生からのコメントや質問・感想も紹介して、さらなる気づきを促す

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　『荒野に希望の灯をともす　～医師・中村哲　現地活動による35年の軌跡』
第3回　カーレド・ホッセイニ原作『君のためなら千回でも』～　アフガニスタン生まれの青年の半生
第4回　モーガン・スパーロック監督作品『ビン・ラディンを探せ』前半～アメリカ人TVプロデューサーが中東に突撃取材
第5回　サトラピー原作＆制作『ペルセポリス』～イラン生まれの少女の留学と本国での経験をユーモアたっぷりに描く
第6回　B.Z.ゴールドバーグほか製作『プロミス』～イスラエルとパレスチナの子供たちの出会いの場を作る
第7回　ジャッキー・リーム・サローム監督作品『自由と壁とヒップホップ』～ラップの仲間で集まりたいパレスチナの若者たち
第8回　イマード・ブルナート＆ガイ・ダビディ監督作品『壊された5つのカメラ　パレスチナ・ビリンの叫び』～パレスチナの村人のカメラを通してみる入植活動の実態
第9回　チアラ・アヴェザニ、マッテオ・デルボ監督『医学生 ガザへ行く」～実習のためにパレスティナに入ったイタリア人医学生の体験
第10回　ガリー・キーン＆アンドリュー・マコーネル監督『ガザ　素顔の日常』～封鎖されたガザ地区の内情を描く
第11回　タル・バルダ監督『私は憎まない』～娘たちの死を乗り越えてイスラエルとの共存を志向する医師の記録
第12回　リベル・ドスキー監督作品『ラジオ・コバニ』～ISから解放されたコバニでラジオ局を創設し町の復興をレポートする女子大生
第13回　ワアド・アルカディ監督『娘は戦場で生まれた』～女子大生がシリア内戦のなかで結婚・出産しつつ現場を報告する
第14回　全体のまとめ

履修の注意点

世界史の基礎知識があることがのぞましい
春学期の「日本・アジア地域論Ⅳ」とセットにして履修するとより深い理解がえられる

準備学習の内容

毎回リアクションペーパーを提出してもらい、さらに映像・動画の背景について復習を促し、時には予習の題材とする

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのコメントや応答を授業で行う

成績評価の方法

毎回のリアクションペーパーの内容50%、期末レポート50%

その他

西アジアの情勢の変化や履修生の希望に応じて、内容を変更する場合がある

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア地域論A	2単位 3年次

教授　嶋　田　直　哉

授業の概要・到達目標

日本の伝統芸能、ミュージカル、ストレートプレイなど様々なジャンルの舞台映像を視聴する。
演劇についての知識を深めることを到達目標とする。

授業内容

第1回　イントロダクション―演劇的とはどういうことか
第2回　日本の伝統芸能（1）―能の世界
第3回　日本の伝統芸能（2）―歌舞伎の世界
第4回　ミュージカル入門
第5回　「ジーザス・クライスト＝スーパースター」の世界
第6回　「エビータ」と「キャッツ」の世界
第7回　「オペラ座の怪人」の世界
第8回　「レ・ミゼラブル」の世界
第9回　宝塚歌劇団入門
第10回　「ベルサイユのばら」の世界
第11回　「エリザベート」の世界
第12回　劇団四季入門
第13回　井上ひさしの劇世界
第14回　総まとめ
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修の注意点

3回の観劇レポート提出を課題とする。それゆえ、単位修得のためには学期中に実際に劇場で3作品の演劇を鑑賞することが必須となる。なお、観劇料が無料及び安価な公演は授業及びOh-o! Meijiで随時紹介する。
映像を使った授業になるので各自積極的な姿勢で臨むこと。
いかなる理由があろうとも私語は絶対にしてはならない。
私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。
教員に対して失礼な態度をとる学生に対しては、こちらも相応の態度で臨む。
★学習意欲が全くない者は履修してはならない。

準備学習の内容

積極的に劇場へ足を運び、舞台作品を鑑賞すること。

教科書

使用しない。
授業で使用する資料については、事前にOh-o!Meijiにアップロードする。各自のデバイスで閲覧できるようにすること。

参考書

授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業中に行う。

成績評価の方法

授業への参加度（50%）
3回の観劇レポート（50%）
なお各評価項目の基準を満たない場合は単位を修得することができない。

その他

最初の授業に出席すること。履修変更期間中の欠席は一切配慮しない。
第1回の授業時に授業内容、レポートの執筆要領、成績評価について説明する。
就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。
体育会活動による欠席は大学の「公式は派遣」による大会出場のみ配慮する。その他の大会や練習は一切配慮しない。
「公欠」の基準については初回授業で説明する。
★出席確認時に不正を行った者は厳しく対処する。

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア地域論B	2単位
	3年次

教授　本　間　次　彦

授業の概要・到達目標

明治時代以降の日本人は、中国をどのように見てきたのか。そもそも、日本人の中国を見るまなざしは、この150年ほどの間にどのように変化してきたのか。また、そのような変化の中で、日本との関係において、中国にはどのような新たな位置づけが与えられていったのか。これらの問題を、この授業では考察していく。その際に、同時代の中国における日本観も随時参照することで、当時の日中関係の状況を多面的に検討することも目ざす。

福沢諭吉から近年に至るまでの代表的な論者の中国観について順次とりあげていくが、日本人の中国観が時代とともにどのように推移して現在に至っているのか、この点を明確化することがこの授業の目標となる。

授業内容

第１回：イントロダクション―福沢諭吉「脱亜論」とアジア主義
第２回：中江兆民・樽井藤吉
第３回：内村鑑三・陸奥宗光
第４回：岡倉天心
第５回：宮崎滔天・北一輝
第６回：吉野作造
第７回：内藤湖南
第８回：「北京学生の日本国民に告ぐるの書」
第９回：石橋湛山
第10回：三木清
第11回：尾崎秀美
第12回：竹内好
第13回：溝口雄三１―方法としての中国
第14回：溝口雄三２―中国の衝撃

履修の注意点

現在の日中関係の歴史的背景に強い知的関心をもっている皆さんに受講してもらえれば幸いです。

準備学習の内容

授業で配布された資料を読みかえすなどして、前回までの授業内容を十分理解した上で、毎回の授業に出席すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

特定の参考書は用いない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業で講評を行う。

成績評価の方法

複数回のレポート提出により総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア地域論C	2単位
	3年次

教授　羽　根　次　郎

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この講義では、沖縄及び尖閣諸島の近現代史について論じる。
尖閣問題はその実、長きにわたる歴史的背景を有する歴史問題であり、だからこそその対応もまた一刀両断に行いうるものではない。領土問題を「どちらの国の領土か」という一点のみに収斂させてしまう思考回路は、歴史的事実の複雑性を隠蔽してしまいがちである。本講義は、そうした狭隘な視野を相対化するために、尖閣を、沖縄や台湾はいうまでもなく、日本や中国本土をも巻き込むような形で、ナショナルヒストリーの枠組みのみに縛られることなく尖閣問題を論じていく。
【到達目標】
対外関係とは国際法だけで規定しうるものではなく、複雑な歴史的文脈が大きな影響力を有することを理解する。

授業内容

第１回目：イントロダクション
第２回目：前近代の琉球の国際的位置――中華王朝にとっての琉球の存在意義
第３回目：琉球処分――「固有の領土」論批判
第４回目：内地資本の「南進」――無人島の経済史
第５回目：日清戦争と尖閣諸島――沖縄・尖閣問題の消失
第６回目：古賀商会――尖閣はなぜ私有されたのか
第７回目：まとめ
第８回目：戦中及び戦後直後の中国の対沖縄言論――中華民国の琉球回収構想
第９回目：50年代・60年代の沖縄議論――祖国復帰運動への「中国人民」の支持
第10回目：沖縄「返還」と尖閣問題の表面化――ポスト冷戦時代の始まりの始まり
第11回目：「保釣」議論と「愛国」――「愛国」デモのもう一つの意味
第12回目：日中国交正常化と沖縄――「人民領土論」の沈黙化
第13回目：歴史問題としての尖閣問題
第14回目：まとめ
*講義の内容と進度は必要に応じて変更することがある。

履修の注意点

・リアクションペーパーは講義開始後15分で配布を終了する。
・15分以上の遅刻入室者に対しては、特段の事情がある場合を除きリアクションペーパーを配布しない。
・体育会活動や就職活動、ゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動等を理由とした欠席や遅刻、早退は、大学が公認した場合を除き、「特段の事情」とは認めない。

準備学習の内容

適宜指示する。

教科書

・配布するレジュメが教科書となる。後日の再配布は理由を問わず行わない。

参考書

・適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへの講評は講義の中で随時行う。

成績評価の方法

平常点20%、試験80%
・リアクションペーパーにおいて内容が充実したものについては、平常点に加点する。
・スマートフォン、ノートパソコン、タブレット端末などの電子機器の使用は、調べものやノートテイキング、時計としての目的を含め、一切禁ずる。講義中に使用が発覚した場合、平常点を大きく減点する。
・コロナパニック以後、講義中に無断で途中退室する学生があまりに目立ち、講義の妨げになっている。今学期はかかる学生については平常点を減点する。トイレ目的も含め、退室時には必ず申し出ること。
・無断か否かを問わず、講義中に入退室を繰り返す学生や、退室後に長時間戻ってこない学生については平常点を減点する。
・私語については、教員の注意を聞かぬ場合は平常点を減点する。

その他

科目ナンバー：(PE)ARS311J

日本・アジア地域論D	2単位
	3年次

教授　山　岸　智　子

授業の概要・到達目標

この授業は、西アジアの近代をふりかえることで、現況がどのようにもたらされたのかを理解するための一助としたい。毎回、一つの国か地域をとりあげて、その近代史をひもときながら、現在当面している問題の由来や来歴を明らかにする、という手法をとる。なお、「西アジア」の範囲は、日本国外務省が「中東」としている地域とする。
西アジア情勢は、世界情勢の縮図となっていることが多いので、この授業は、単にアジアの西のはずれについての知識の断片を示すだけのものではなく、グローバルに働きかけるさまざまな力がどのように組み合わさり、作用し、紛争や不安定な政治状況などをもたらしているのかについて考察する機会を提供する。
履修者には、「テロ？　戦争？こわ〜い」といった漠然として恐ろし気な印象論をこえて、具体的に人々が躍動する場としての西アジアのイメージを自分なりに構築することのできる能力を身に着けることが期待される。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　人種論と西アジア
第3回　宗教とエスニシティ
第4回　歴史的シリアとエルサレム
第5回　パレスティナとイスラエル(1)問題の淵源
第6回　パレスティナとイスラエル(2)オスロ合意後の諸問題
第7回　ガザ、レバノン、シリアにおける戦闘と(不)安定
第8回　イラク　サッダーム・フセインの独裁とアメリカによる戦争後とIS
第9回　クルド人問題
第10回　イラン・イスラーム共和国をめぐる問題群
第11回　ワッハーブ主義とサウジアラビア
第12回　湾岸産油国の興隆
第13回　アフガニスタンの混乱
第14回　全体のまとめ

履修の注意点

世界史の基礎知識があることがのぞましい

準備学習の内容

補助シートをOh-o! Meijiにアップロードされている場合には、それをもって授業に臨むことをすすめる
また、授業で使ったスライドや配布物なども事後アップロードして、各自で復習できるようにする
各回のリアクションペーパーにも、復習や次回の予習のヒントをいれている

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容を、授業でとりあげて、コメントや解説を加える

成績評価の方法

予習や授業への積極的な参加50%、期末試験（ないしは期末レポート）50%
授業への参加については、アンケートやリアクションペーパーを参考に評価する

その他

西アジア情勢の変化や履修生の希望に応じて内容を変えることがある

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ文化論A【2022年度以降入学者】 ヨーロッパ文化論Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位
	3年次

教授　虎　岩　直　子

授業の概要・到達目標

19世紀末から21世紀のアイルランド島の文化的状況を表象文化を通して概観する。19世紀末のヨーロッパは、第二次産業革命、帝国主義の進展、社会・政治構造の変化、そして新しい文化・芸術の潮流が複合的に絡み合う、大きな変革の時代だった。長期に渡って英国に支配されていたアイルランドは独立運動を繰り広げ、それが新しい芸術運動とパラレルに、また影響を与え合いながら進行していく。その後アイルランド島の5分の4ほどはアイルランド共和国として独立するが5分の1は北アイルランドとして政治的には英国の統治下となり、その複雑な関係が20世紀後半に、北アイルランド「紛争」として顕在化する。

この授業ではアイルランド島の文化状況を詳しく検証しながら、政治と文化の密接な関係を考察していく。

到達目標は、アイルランドの状況を一つの例として、日本を始めさまざまな土地の政治と文化の密接な関係を見て取る力をつけることである。

授業内容

第1回：a. オリエンテーション b. 表象文化とはなにか
第2回：アイルランド史外観
第3回：19世紀末から20世紀初頭のアイルランド社会と文化
第4回：20世紀前半のアイルランド社会と文化1
第5回：20世紀前半のアイルランド社会と文化2
第6回：２つのアイルランド
第7回：20世紀後半のアイルランド共和国1
第8回：20世紀後半のアイルランド共和国2
第9回：北アイルランド紛争
第10回：北アイルランド紛争と文化1
第11回：北アイルランド紛争と文化2
第12回：北アイルランド紛争と文化3
第13回：21世紀のアイルランド島
第14回：総括と表象文化とはなにか

履修の注意点

文学テキストは原文で読むので充分な英語読解能力を必要とする。

準備学習の内容

高校で学習する世界史の知識を確認しておくことが望ましい。

教科書

特に教科書は指定しない。パワーポイントで随時資料は提示する。

参考書

Norman Vance, Irish Literature: A Social History: Tradition, Identity and Difference（Oxford: Basil Blackwell, 1990）

課題に対するフィードバックの方法

課題については基本的に翌週クラス内でチェックする。

成績評価の方法

成績評価は出席と学期末の試験による。

その他

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ文化論B【2022年度以降入学者】 ヨーロッパ文化論Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

専任講師　永　川　　聡

授業の概要・到達目標

本講義では、「健康と病気」、「公衆衛生と人権」、「医学と薬害」といった現代を生きる我々の誰もが関心を持たざるを得ない問題群を鮮やかに逆照射してくれる過去の事象を取り上げる。題材は近現代のドイツと日本の歴史から採用する。

コロナ時代に我々現代人は、「病気」が「不安」を呼び、「不安」が「差別」を生み、「差別」がまた「病気」のレッテル貼りを加速させてしまうという負のスパイラルに陥ってしまった。この悪循環を断ち切るためには、日独の「公衆衛生」に関わる負の歴史を再び見つめ直すことがその一助となるかも知れない。

ドキュメンタリーなどの映像資料も用いて授業を進める。過去の歴史が単なる昔の話ではなく、現在の世相はおろか、現代を生きる我々自身の振舞いにも繋がっていることを認識してもらうことが目標である。

授業内容

第一回　イントロダクション
第二回　現代ドイツの「健康」事情（1）
第三回　現代ドイツの「健康」事情（2）
第四回　現代日本の「健康」事情（1）
第五回　現代日本の「健康」事情（2）
第六回　戦前～戦中のドイツ（1）
第七回　戦前～戦中のドイツ（2）
第八回　戦前～戦中の日本（1）
第九回　戦前～戦中の日本（2）
第十回　戦後のドイツ（1）
第十一回　戦後のドイツ（2）
第十二回　戦後の日本（1）
第十三回　戦後の日本（2）
第十四回　まとめ
＊上記の授業計画はおおよその流れを示したものである。各回の進捗状況や必要に応じて、 話す内容が変更になったり順序が入れ替わることもある。タイムリーな時事テーマがあれば適宜取り入れて紹介する。

履修の注意点

授業回数の3分の2以上の出席が単位取得の条件である。なお、初回の授業には必ず出席すること（出欠席回数の1回分として数えます）。グロテスクな映像を観たくない人には受講をお勧めしない。

準備学習の内容

現代への強い関心。授業中にノートを取るよう心がけること。

教科書

特に指定しない。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの講評を次週の授業回冒頭で行う。

成績評価の方法

期末試験あるいは期末レポートの成績80%、平常点（リアクションペーパー）20%

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ文化論C【2022年度以降入学者】 ヨーロッパ文化論Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　前　田　更　子

授業の概要・到達目標

【授業のテーマ】
近現代フランスの教育・国家・社会
【授業の概要】
学校教育は、近代の産物である。いまの日本では誰もが学校にいくことが「当たり前」とされるが、こうした社会は普遍的なものではない。学校とは何なのか。どのような思想・イデオロギーを背景に、どのような時代状況の中で作り出されてきたのか。
本講義では、啓蒙の時代の18世紀から、21世紀までのフランスを対象に、学校教育をめぐる権力闘争、学校を通じて生み出され再生産される社会規範や価値観、国民としての意識の有りようなどを考察する。
【授業の到達目標】
フランス近現代史に関する知識を獲得し、フランスという国民国家の特殊性を理解しつつ、近現代の世界の見る一つの知的な軸を養ってもらいたい。また「教育とは何か」を問う中で、受講生がこれまでに経験してきた自分の教育についても批判的に考えてもらいたい。

授業内容

第1回　公教育とはなにか―ディスカッション
第2回　現代フランスの学校教育をめぐる諸問題―機会平等と格差
第3回　現代フランスの学校教育をめぐる諸問題―ライシテの共和国
第4回　アンシアン・レジームの社会と学校
第5回　フランス革命と公教育―人間の再生をめざして
第6回　フランス革命と公教育―エリートによる社会改革をめざして
第7回　ナポレオンと公教育の近代化
第8回　19世紀のエリート教育―エリートとは何か？
第9回　多様な私立学校と19世紀フランス社会
第10回　博愛主義者による相互教育の展開―子どもが子どもに教える？
第11回　国民国家の形成と小学校の役割―「フランス人」になるために
第12回　女子教育からみるフランス社会―ジェンダー規範と学校
第13回　男女共学教育への道―共学は男女平等を保障するのか
第14回　総括、ディスカッション

履修の注意点

近現代ヨーロッパの歴史について基本的な知識を有していることが望ましい。

準備学習の内容

テーマごとに関連文献を提示するので、復習をかねて各自でそれらの文献を読み、講義の内容に関する理解を深めるように努めること。
教育問題に関する新聞・雑誌記事などをチェックし、視野を広げること。

教科書

とくに指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書

参考文献については授業中に随時提示するが、基本文献は以下のとおりである。
・天野知恵子『子どもと学校の世紀―18世紀フランスの社会文化史』（岩波書店、2007年）
・谷川稔『十字架と三色旗―近代フランスにおける政教分離』（岩波現代文庫、2015年）
・谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史―国民国家形成の彼方に』（ミネルヴァ書房、2006年）
・橋本伸也ほか『エリート教育』（ミネルヴァ書房、2001年）
・前田更子『私立学校からみるフランス近代―19世紀リヨンのエリート教育』（昭和堂、2009年）

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対する応答を授業内でおこなう。
質問等には、授業後に随時、対応する。

成績評価の方法

期末レポート［60%］および各授業のリアクションペーパー［40%］より総合的に評価する。
期末レポートについては、参考文献を収集し読解し、講義の内容に関する理解をより深め、歴史的事象や自らの問題意識を論理的に表現できているかを問う。リアクションペーパーについては、講義の内容を正確に理解し、自らの疑問や問題意識に結び付けて考察できているかを評価の基準とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ文化論D【2022年度以降入学者】 ヨーロッパ文化論Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

准教授　仮　屋　浩　子

授業の概要・到達目標

美術館を訪れて絵画鑑賞をするとき、西洋画家の作品の多くにはギリシャ神話やキリスト教にまつわるモチーフが描かれています。しかし、モチーフが何なのかを知らなければ表面的な美しさしか感じることはできませんし、日本文化との比較をすることもできません。これは絵画のみならず、ほかの芸術作品全般にもいえることです。とりわけ古典神話が現代でも再創造されているのは、普遍的なアーキタイプとして成り立っているからです。多くの場合、父権的な眼差しから創造されてきたそれらの作品を観察することで、いかに女性や弱者が客体として存在してきたのか、いかに私たちはそれを「美」として当たり前のように認識していたのかを知るとともに、脱構築できるような眼力を身につけることができるでしょう。さらには、歴史に登場する画家のほとんどが男性である背景を知ることで、当たり前だと考えられてきた知識がいかに歪められて部分的でしかないことに気付かされるでしょう。

この授業では、前半はヨーロッパの芸術・知の源泉であるギリシア神話とそれをモチーフにして創られた様々な芸術作品（絵画・彫刻・文学・演劇・映画など）との関連性を、後半ではキリスト教の様々なエピソードと芸術作品（絵画・彫刻・文学・演劇・映画など）や祝祭との関連性を探求します。共に、様々なモチーフと取り合わせる対象となるのはスペイン人によって創出された芸術作品ですが、必要な場合はスペイン以外のヨーロッパ人の作品も扱っていく予定です。

授業はグループワークで進めていきます。代表的な芸術作品が想を得た神話や原典を分析することができ、知見を深めていくと同時に創造力を培い、国内や海外の芸術作品に触れるのに相応しい眼をもつ人間に共に成長することをめざします。

授業内容

第1回：ヨーロッパの基層文化について
第2回：ギリシャ神話と芸術作品1：スペインとヘラクレス伝説、神話とは何か？
第3回：ギリシャ神話と芸術作品2：全能神ゼウスの父権性
第4回：ギリシャ神話と芸術作品3：恋する神たち
第5回：ギリシャ神話と芸術作品4：愛と死
第6回：ギリシャ神話と芸術作品5：権力に挑む者たち
第7回：ギリシャ神話と芸術作品6：知と傲慢
第8回：ホメロスの叙事詩と芸術作品：神々と英雄たち
第9回：ホメロスの叙事詩と芸術作品：『オデュッセイア』：神々と英雄たち
第10回：ヴェルギリウスの叙事詩と芸術作品：神々と英雄たち
第11回：ギリシャ悲劇と芸術作品1：オイディプス伝説
第12回：ギリシャ悲劇と芸術作品2：オレステイア
第13回：新約聖書と芸術作品
第14回：キリスト教とスペインにおける暦と祝祭（1）

履修の注意点

毎回新しいグループを組んだ上、共同作業を行います。グループ内で作業したことを全体でシェアする時もあります。

準備学習の内容

授業で扱った題材がどのような文化事象でどのように援用されているのかを積極的に探求すること。

教科書

特に定めない

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o！Meijiから行う。

成績評価の方法

平常点・授業への貢献度（40%）、期末試験（60%）

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ地域論A	2単位 3年次

准教授　小　林　広　直

授業の概要・到達目標

本講義ではアイルランドの文化と歴史について、10個のキーワード（下記の各回の授業内容を参照）に関連する12作の映画の一部を授業内で視聴することを通じて（「ネタバレ」が嫌な人は事前にできる限り観ておきましょうね）学びます。異文化（の過去と現在）を学ぶことはその差〈異〉を通じて、今の私たちとどの部分が異なり、どの部分が同じなのかを教えてくれます。ヨーロッパの西端から、ユーラシア大陸の東の端へ、物理的距離だけでなく、歴史という時間的距離もびゅんと飛び越え、過去と今と私たちが繋がる瞬間をぜひみなさんと一緒に体験できたら、と思います。

授業内容

第1回目　講義概要――アイルランドはどんな国？
第2回目　街――ダブリンの街を歩く　『ONCE ダブリンの街角で』（2007年）
第3回目　神話――ケルトとは何か？　『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』（2014年）
第4回目　自然――島の暮らし　『アラン』（1934年）
第5回目　飢饉――19世紀アイルランド史　『リベンジャー・スクワッド 宿命の荒野』（2018年）
第6回目　戦争1――イースター蜂起から独立戦争へ　『マイケル・コリンズ』（1996年）
第7回目　戦争2――独立戦争から内戦へ　『麦の穂をゆらす風』（2006年）
第8回目　移民――アイルランドからアメリカへ　『ブルックリン』（2015年）
第9回目　カトリック教会――宗教がもたらす麻痺と救い　『マグダレンの祈り』（2002年）
第10回目　北アイルランド紛争1――ある日、隣人が〈敵〉になること　『ベルファスト』（2021年）
第11回目　北アイルランド紛争2――暴力と性　『クライング・ゲーム』（1992年）
第12回目　平和――いかにして共生は可能か　『ぼくたちの哲学教室』（2021年）
第13回目　音楽――ダブリンのストリート・カルチャーを巡って　『シング・ストリート 未来へのうた』（2016年）
第14回目　期末試験
※ただし、上記の内容は受講者の関心や希望によって変更の可能性あり

履修の注意点

講義内で紹介する映画には一部、暴力や性描写が過激な場面がある。講義内で視聴する際にも注意を促すが、その点はご了承いただきたい。

準備学習の内容

講義科目なので予習・復習共に特に必要としないが、可能な限り事前に講義で扱う映画を観ておくことが望ましい。

教科書

特に定めない。

参考書

適宜、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にて行う。個別の質問もメールで受け付ける。

成績評価の方法

①授業への参加度　30%　②期末試験（プリント、およびノートの持ち込み可）　70%

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ地域論Ｂ	2単位
	3年次

准教授　飯　嶋　曜　子

授業の概要・到達目標

本講義は、ドイツ語圏の地域の特性をヨーロッパという空間のなかに位置づけ把握するとともに、ドイツ語圏内部のさまざまな地域の実情やその変容を明らかにすることを目的とする。ドイツ、スイス、オーストリアの３カ国から都市と農村を取り上げ、それらが抱える問題やその変容を、都市計画・まちづくり、農村開発、環境政策の３つのテーマに絞り具体的に論じていく。

分析の際には、特定の地域的な現象をEU、国家、州、県、市町村などの多様な空間スケールとの重層的な連関の中で把握することの重要性に着目する。

受講者は以上の一連の講義を通じて、ドイツ語圏の諸地域のさまざまな実態を把握するとともに、ドイツ語圏の地域とは何かという問題に対し、多角的な視点から捉えていくことが可能となる。

授業内容

1．a イントロダクション
2．ドイツ①　ベルリン：都市の歴史と変容
3．ドイツ②　ボン：ドイツの都市システム
4．ドイツ③　ケルン：景観論争
5．ドイツ④　フライブルク（1）：環境に配慮したまちづくり
6．ドイツ⑤　フライブルク（2）：問題地区のコミュニティ再生
7．ドイツ⑥　黒い森の文化・民俗
8．スイス①　アルプスの土地利用
9．スイス②　アルプスの環境保護と交通政策
10．スイス③　バーゼル：国境を越える都市圏
11．オーストリア①　チロル：農村開発とツーリズム１
12．オーストリア②　チロル：農村開発とツーリズム２
13．オーストリア③　南チロル問題
14．a まとめ
　　b 試験

履修の注意点

中学・高校時代に使用したもので構わないので、地図帳を持参すること。常に地図を参照し、地理的関係を考慮して事例地域を位置づける姿勢を身につけてほしい。

準備学習の内容

次回の授業対象地域について事前に地図で位置関係を把握し、基礎的情報を調べておくこと

教科書

とくに定めない。

参考書

とくに定めない。

課題に対するフィードバックの方法

中間レポートの解説については、授業内で行う。

成績評価の方法

中間レポート（25%）、期末試験（75%）

その他

とくになし。

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ地域論Ｃ	2単位
	3年次

教授　前　田　更　子

授業の概要・到達目標

【授業のテーマ】
人の移動からみる近現代フランス史
【授業の概要】
18世紀末から20世紀のフランスを対象に、国民国家の構築と変容の過程、および現実の社会の多様性や差別構造について「人の移動」というテーマを軸に考えていきたい。
【授業の到達目標】
「自由・平等・博愛の共和国」「一にして不可分の共和国」。フランス革命期に登場し、現在でも政治家や知識人たちが繰り返し強調するこれらの共和国の原理は、フランス型国民国家のあり方を理解する上で不可欠な要素である。しかし、そうしたフランスも、国民の４人に１人は外国からの移民にルーツがあるとされ、人の移動によって形作られ、変容してきた歴史をもつ。授業を通して、受講生はフランス史に関する基礎知識を習得すると同時に、近代国家の形成過程の具体例を学びながら、多様な文化や宗教、言語をもつ人々の共生の問題を考察する歴史的視座を獲得するだろう。

授業内容

第１回　イントロダクション：国民国家とグローバル・ヒストリー
第２回　フランス革命とナポレオンの時代（１）フランス人とは誰のことか？
第３回　フランス革命とナポレオンの時代（２）パスポートと国境管理
第４回　フランス革命とナポレオンの時代（３）植民地と奴隷制
第５回　19世紀のフランス（１）産業革命期の労働者の移動
第６回　19世紀のフランス（２）奴隷制廃止と植民地帝国
第７回　国民国家の構築と変容（１）国民統合と言語、教育
第８回　国民国家の構築と変容（２）辺境の地から
第９回　国民国家の構築と変容（３）移民と外国人
第10回　戦争と人の移動（１）
第11回　戦争と人の移動（２）映画「デイズ・オブ・グローリー」より
第12回　「普遍的共和国」の可能性と限界（１）マグレブ移民、映画「移民の記憶」より
第13回　「普遍的共和国」の可能性と限界（２）難民・移民の子どもの包摂と学校教育
第14回　総括

履修の注意点

近現代ヨーロッパの歴史について基本的な知識を有していることが望ましい。

準備学習の内容

毎回紹介する関係文献を参考にして授業内容を復習し、学習を深めること。

教科書

特になし

参考書

授業ごとに各回に関連する主要参考文献一覧を提示するが、フランス史の通史を学ぶ基本書としては以下のようなものがある。
・平野千果子編『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房、2019年。
・柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編『世界歴史大系　フランス史　第１～３巻』山川出版社、1996年。
・谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史―国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房、2006年。
また、近現代ヨーロッパ史を人の移動から考察した次の文献も学習内容を深める際に参考になる。
・北村暁夫・中嶋毅編『近現代ヨーロッパの歴史－人の移動から見る』放送大学教育振興会、2022年。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対する応答を授業内でおこなう。
質問等には授業後に随時対応する。

成績評価の方法

授業のリアクションペーパー［40%］および学期末のレポート［60%］から総合的に評価する。
リアクションペーパーについては講義の内容を正確に理解し、自らの疑問や問題意識に結び付けて考察できているかを評価の基準とする。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ARS321J

ヨーロッパ地域論D	2単位
	3年次

教授　佐　原　徹　哉

授業の概要・到達目標

本講義では「イスラム過激派」の思想を説明する。伝統的なイスラムは多様なものであるが、19世紀後半の反植民地運動を契機に「イスラム復興」思想が登場した。その中からサラフ主義が登場し、正しいイスラムの信仰はイスラム国家でしか実践できないと主張した。これに基づいてイスラム国家樹立を目指す運動が現代の「イスラム過激派」の母体である。講義ではイスラムの基本概念、イスラム教団の成立から近代までの歴史、サラフ主義の出現とムスリム同胞団とクトブ主義までの思想的系譜を説明する。

授業内容

1回　オリエンテーション
2回　イスラムの基本概念：コーランとスンナ
3回　預言者ムハンマドと初期イスラムの歴史
4回　スンナ派とシーア派
5回　ハディースの編纂とスンナ派四大法学派
6回　イスラム神秘主義（スーフィズム）
7回　イスラム諸国の植民地化とイスラム復興：ジャマルディン・アフガーニーの思想
8回　ムハンマド・アブドゥとラシード・リダーの思想
9回　ナクシュバンディ教団と反植民地主義運動
10回　ムスリム同胞団とハサン・バンナーの思想
11回　イスラムと社会主義
12回　サイイド・クトブの思想
13回　クトブ主義と現代
14回　総括

履修の注意点

特になし

準備学習の内容

授業で指示する

教科書

なし

参考書

授業で指示する

課題に対するフィードバックの方法

授業中に質問に答える

成績評価の方法

定期試験の結果で判断する

その他

科目ナンバー：(PE)ARS331J

アメリカ文化論A【2022年度以降入学者】 アメリカ文化論Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位
	3年次

准教授　兼　子　　歩

授業の概要・到達目標

この授業では、集合的記憶（個人の記憶というよりも、人々のあいだで共有される過去についての記憶）をテーマに歴史の問題を考えます。今回は、アメリカ南北戦争（the Civil War, 1861–65）のあとで、その後のアメリカ人たちのあいだでこの戦争がどのようなものとして記憶されていったのか、その記憶はどのように、いかなる文脈で変化していったのか、そうした集合的な記憶はアメリカ社会に何をもたらしたのかを検討します。具体的には、南北戦争後の半世紀（19世紀後半～20世紀初頭）における過去の記憶のされたかを中心に議論しますが、現代の問題にも言及する予定です。
アメリカでは、南北戦争とその意味をどう理解すべきかということは激しい論争や対立の争点となっており、21世紀になっても政治的争点のひとつとなっています。日本でも、80年前の戦争の過去が「過去のもの」ではないことは、「慰安婦」「徴用工」をめぐる政治問題などで皆さんもよく知っていることでしょう。皆さんの中にアジア太平洋戦争の直接的「当事者」はいないはずですが、しかし当事者が生きていた世界を継承する国家の国民である以上、皆さんにとっても「他人事」ではありません。しかし、「他人事ではない」からこそ、冷静に議論できない部分もあるかもしれません。他方、アメリカ南北戦争はおそらく、皆さんにとって縁遠い歴史的事象です。しかしその歴史的過去の記憶がどう争われてきたのか、何が問題になったのかをめぐる近年の専門家たちの研究成果を学んで考えてみることは、日本と東アジアの歴史をめぐる諸問題への理解に何らかの「少し違う」視点、「新しい」見方を与えてくれるかもしれません。
私たちは過去の歴史に関する記憶を「正しい」「間違っている」という観点で議論しがちです。いうまでもなく過去の事実の捏造や歪曲は許されないことですが、私たちは歴史理解の「正確さ」だけではなく、「なぜわたしたち／かれらは過去のこの事象をこのように解釈するのか」という文脈をも考える必要があります。つまり、歴史的過去に関する記憶の「意味」「目的」「動機」「効果」を考えていくことが重要です。なぜなら、ここにこそ歴史認識をめぐる論争が錯綜し、混乱し、妥協なき対立へと至る理由があるからです。
歴史学者たちが明らかにしてきた「過去の記憶の仕方」の歴史に学ぶことで、歴史と現代社会を考えるアプローチ法、歴史的思考力を深化させること、それがこの授業の主たる目標です。また、アメリカの歴史を高校世界史レベルより深く学ぶことで、アメリカの社会と文化に関するより精緻な理解の一助とすることも、この授業では目的としています。

授業内容

講義形式で、毎回レジュメとスライドを使用しながら講義を行います。各回の内容は以下を予定しています（細部や順番その他は変更になることがあります）。
1）イントロダクション
2）南北戦争への道①　奴隷貿易・奴隷制と綿花王国
3）南北戦争への道②　連邦体制の危機
4）南北戦争はいかに戦われたのか
5）中間試験（第2週～4週の理解の確認をします）
6）再建期と「血染めのシャツ」
7）死者追悼のポリティクス
8）偉大な将軍ロバート・E・リー？
9）戦争の悲劇と英雄の物語
10）退役軍人たちの戦後
11）帝国の時代の南北和解
12）和解から排除される人々
13）奴隷解放の大義のバトン
14）アメリカ現代史の中の南北戦争

履修の注意点

この授業では、授業に関係しないものは〈全て〉カバンの中にしまってください。スマホ、PC、タブレット端末等は授業中に使用できません。
この授業では何度か、授業内容に関連した課題を、授業後にオンライン上で提出する必要があります。
公欠に関しては、以下の場合のみ公欠に準じた扱いを認めます。就活（内定式や研修を含む）、インターンなどは配慮しません。
　1）インフルエンザ、新型コロナウィルスなどの法定感染症で登校停止となった場合
　2）教育実習、博物館実習などの大学が提供する資格課程に伴う実習
　3）体育会の部員の場合、大学の「公式な派遣による」大会出場（その他の大会や練習は認められない）
その他の特殊な事情がある場合は、個別に判断しますので、担当教員に相談してください。

準備学習の内容

毎回授業後の課題に回答することが復習となります。また、授業内容は各回のあいだに繋がりがあるので、授業を受ける際には前回の内容を確認するようにしてください。

教科書

購入する必要はありません。レジュメを配布します。

参考書

個別には授業中に適宜紹介しますが、以下は全体を理解するために有益です。
　① ニナ・シルバー『南北戦争のなかの女と男：愛国心と記憶のジェンダー史』（兼子歩訳）岩波書店、2016年
　② 貴堂嘉之『シリーズアメリカ合衆国史② 南北戦争の時代：19世紀』岩波新書、2019年

課題に対するフィードバックの方法

課題提出の際のコメント・質問等のうち、主なものはピックアップして次回までに返答します（返答のまとめをOh-o! Meijiで配信する予定です）。

成績評価の方法

時折提出を求める小課題　30%
中間試験　30%（第5週で行う予定）
期末テスト　40%

その他

科目ナンバー：(PE)ARS331J

アメリカ文化論Ｄ【2022年度以降入学者】 アメリカ文化論Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　石　山　徳　子

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　アメリカ合衆国連邦捜査局(FBI)のデータによると、2021年に同国で報告された憎悪犯罪（ヘイトクライム）は、7262件にも上る。そのうちの64.8%を占めるのが、人種・民族・出自に関する偏見と憎悪に基づく犯罪である。その背景と実態を探るためには、構造的な人種差別、広がり続ける格差というような社会問題を見つめる必要がある。2024年の大統領選挙で再び勝利したドナルド・トランプ氏は、異なる人種や文化の間に広がる亀裂と憎悪を増殖させるような言動を繰り返してきた。これは彼の政治戦略であると同時に、アメリカに根深く存在するさまざまな矛盾、あるいは葛藤を象徴する事象でもある。
　この授業では、憎悪をキーワードにアメリカ合衆国の社会と文化について学ぶ。同国は、先住民族にたいする侵略と虐殺、アフリカから強制的に連行され、奴隷化された黒人による労働力の搾取を基盤に発展してきた。したがって、国家の成立の根本に、制度的、構造的な暴力が内在し、そこには人種差別のイデオロギーが深く浸透していた。これは、階級、ジェンダー、セクシュアリティによる差別思想とも相関関係にあり、アメリカの文化と風景の素地を形成している。また、コロナ禍において、アジア系住民に対するハラスメントも急増している。さらには2022年の夏、最高裁が憲法上の権利として人工妊娠中絶を認めた判例を覆し、大きな話題を呼んだ。こうした事象は、リベラル派と保守派、民主党と共和党、といった二項対立の構図の中で捉えられがちだが、アメリカ社会とはもっと複雑で、わかりにくい。
　「対立」、さらには「分断」という言葉が飛び交う、アメリカ社会の政治・文化・社会地理について、「憎悪」をキーワードにさまざまな事象を参照しながら考えてみたい。
〈到達目標〉
　「憎悪」をキーワードにアメリカ合衆国の社会を観察する作業を通して、多様な民族や文化の共生の困難と可能性について考える。

授業内容

1）アメリカ社会における憎悪犯罪
2）アメリカ例外主義の言説とアメリカン・ドリーム
3）セトラー・コロニアリズムの歴史と先住民族にたいする憎悪（1）
4）セトラー・コロニアリズムの歴史と先住民族にたいする憎悪（2）
5）奴隷制度の歴史と黒人にたいする憎悪
6）白人至上主義、ホワイト・ナショナリズム
7）ブラック・ライブズ・マター運動とは何を意味するのか
8）移民に対する憎悪
9）コロナ禍と憎悪
10）ジェンダー・セクシュアリティに関する憎悪（1）
11）ジェンダー・セクシュアリティに関する憎悪（2）
12）憎悪と戦争（1）
13）憎悪と戦争（2）
14）まとめ

履修の注意点

遅刻は他の学生の迷惑になるので、時間厳守で集まり講義に集中すること。授業準備に必要な課題文献等については、適宜指示する。

準備学習の内容

　教科書は指定しないが、参考書を適宜読みながら予習、復習をしてほしい。

教科書

特になし

参考書

石山徳子著『「犠牲区域」のアメリカ　核開発と先住民族』岩波書店（2020）
大治朋子著『勝てないアメリカ――「対テロ戦争」の日常』岩波新書　(2012)
荻野美穂著『女のからだ　―　フェミニズム以後』　(2014)
兼子歩・貴堂嘉之編著『「ヘイト」の時代のアメリカ史:人種・民族・国籍を考える』彩流社（2017）
兼子歩・貴堂嘉之編著『「ヘイト」に抗するアメリカ史:マジョリティを問い直す』彩流社（2022）
鎌田遵著　『ネイティブ・アメリカン』岩波新書　(2009)
アーロン グランツ、 反戦イラク帰還兵の会 著、 TUP 訳 『冬の兵士―イラク・アフガン帰還米兵が語る戦場の真実 』岩波書店　(2011)
白井洋子著『ベトナム戦争のアメリカ　ー　もう一つのアメリカ史』刀水書房　(2006)
ジョン・ダワー著『容赦なき戦争』平凡社ライブラリー（2001）
アンジェラ・デイヴィス著、 上杉 忍訳『監獄ビジネス―グローバリズムと産獄複合体』岩波書店　(2008)
廣部泉著『黄禍論 百年の系譜』講談社選書メチエ（2020）
油井大三郎著『好戦の共和国アメリカ―戦争の記憶をたどる 』岩波新書　(2008)
渡辺靖著『白人ナショナリズム　アメリカを揺るがす「文化的反動」』中公新書（2020）

課題に対するフィードバックの方法

時折書いてもらうリアクションペーパーについて、授業時にコメントをおこなう。

成績評価の方法

期末試験　100%

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ARS331J

アメリカ地域論Ａ	2単位 3年次

准教授　兼　子　　歩

授業の概要・到達目標

今日、公式には奴隷制を合法とする国家は１つも存在しません。しかし現実には世界で2000万人以上の人びとが何らかの不自由労働に従事させられていると言われます。私たちは自由人である、ということになっていますが、それはいかなる意味において自由なのでしょうか。就活はする自由もしない自由もある、私たちには就職先を決める自由がある、仕事に不服であればやめる自由がある、と言われれば、どんな気分になるでしょうか。
働くことと「自由」の意味を、改めて考えてみることは意味のないことではないでしょう。この問題には、哲学や社会思想、政治学や社会学などさまざまなアプローチがありえますが、この授業ではアメリカの歴史を通じて考えてみます。そこで、17世紀のイギリス植民地の時代から南北戦争終結の1865年までアメリカに存在していた奴隷制の歴史を振り返ることを通じて、働くことと「自由」の意味を多角的に理解する視点を獲得することを目指します。
この授業で扱う直接の対象は17世紀から19世紀の後半までですが、常に現代のアメリカ、日本、そして世界を考えるためのヒントになることを意識した授業にするつもりです。

授業内容

以下のような内容を扱う予定です（細部や順番等は変更する場合もあります）。
１）イントロダクション
２）奴隷を所有する人々の世界はどのようなものだったのか？
３）奴隷にされていた人びとはどのように奴隷にされたのか？
４）奴隷たちは、どのような労働に従事していた？
５）奴隷たちの日常生活はどのようなものだったのか？
６）奴隷たちはどのように奴隷制と奴隷主に抵抗したのか？
７）奴隷でも、奴隷所有者でもない人びとはどのような生活をしていた？
８）奴隷制はアメリカ経済と世界経済のなかでどのような位置づけをされていた？
９）なぜ、どのように奴隷制をめぐって合衆国の南北は対立していった？
10）南北戦争はどのように奴隷制を終わらせたのか？
11）奴隷制が廃止された後、元奴隷、元奴隷主、その他の人々はどう行動した？
12）奴隷制なき後にできた新しい社会・経済・政治とは？
13）現代における奴隷制の意味
14）まとめ

履修の注意点

毎回、授業の後でOh-o! Meiji上に小テストがアップロードされるので、授業の内容に基づいて期日までに回答してください。また、この小テストには授業内容に関する質問・コメントを書き込める欄があるので、質問やコメントのある人は自由に記入してください。
この授業では、授業に関係しないものは〈全て〉カバンの中にしまってください。スマホ、PC、タブレット端末等は授業中に使用できません。
公欠に関しては、以下の場合のみ公欠に準じた扱いを認めます。就活（内定式や研修を含む）、インターンなどは配慮しません。
１）インフルエンザ、新型コロナウィルスなどの法定感染症で登校停止となった場合
２）教育実習、博物館実習などの大学が提供する資格課程に伴う実習
３）体育会の部員の場合、大学の「公式な派遣による」大会出場（その他の大会や練習は認められない）
その他の特殊な事情がある場合は、個別に判断しますので、担当教員に相談してください。

準備学習の内容

主な復習は、授業後のOh-o! Meijiでの小テスト入力です。また、質問やコメントをまとめたものを配布するので、読んでおいてください。

教科書

この授業では、必要な資料は配布されるか、Oh-o! Meijiでアップロードされるので、購入する必要はありません。

参考書

授業中に適宜紹介しますが、全体に関する入門書としては、以下のものを推奨します。
・上杉忍『アメリカ黒人の歴史：奴隷貿易からオバマ大統領まで』中公新書、2013年
・布留川正博『奴隷船の世界史』岩波新書、2019年
・植村邦彦『隠された奴隷制』集英社新書、2019年

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答と、質問・コメントへの返答をまとめたものを、次の回の授業で配布します。

成績評価の方法

小テストの回答によって採点します（100%）。

その他

科目ナンバー：(PE) ARS331J

アメリカ地域論C	2単位
	3年次

専任講師　佐々木　菜　緒

授業の概要・到達目標

現代ケベック文学における「アメリカ性」の重要性を理解するとともに、「ケベック文学」と呼ばれるものがどのように構築されてきたのか、その文学言説によって新たなずれがどのように生じているのかを学ぶ。そのずれの様態を理解するために、現代ケベックを代表する3人の作家の文学作品を取り上げて、「アメリカ性」をキーワードに読解する。

ケベック文学とその言説に関する知識を習得し、現代社会において必要な批判的思考力を養う。現代ケベックを代表する作家とケベックの関係をテキスト内外の視点から多角的に考察することをとおして、人間社会の営みについての洞察力を養う。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　フランス系カナダ文学と「生き残りの哲学」
第3回目　ケベック文学と「アメリカ性」
第4回目　アンヌ・エベールとケベック
第5回目　アンヌ・エベールと「アメリカ性」
第6回目　アンヌ・エベールにおける童話形式の援用（1）
第7回目　アンヌ・エベールにおける童話形式の援用（2）
第8回目　ガブリエル・ロワとケベック
第9回目　ガブリエル・ロワと「アメリカ性」
第10回目　ガブリエル・ロワと短編形式
第11回目　イヴ・テリオーとケベック
第12回目　イヴ・テリオーと「アメリカ性」
第13回目　イヴ・テリオーと「ものがたり」
第14回目　まとめ・総論

履修の注意点

文学作品のテキストを読む作業がある。文学に関心をもっていることが望ましい。

準備学習の内容

配布資料とノートを振り返りつつ、授業で紹介した問題や現象について、文献等で調べ、理解を深めること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業で共有する。

成績評価の方法

リアクションペーパー（100%）

その他

科目ナンバー：(PE) ARS331J

アメリカ地域論D	2単位
	3年次

教授　石　山　徳　子

授業の概要・到達目標

〈授業概要〉
本授業では、アメリカ合衆国の広大で多彩な地理空間を観る作業を通じて、同国の社会に内在する差別、格差、暴力、そして共生に向けた動きについて考える。政治経済・社会的な営みと地理空間の変化は、深い相関関係にある。たとえば、地理的な分離は、アメリカ社会に根強い人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティによる差別や格差を構造的に再生産してきた。そのいっぽうで、政治経済的な不平等の是正を目指し、異文化の共生が可能な空間を模索する動きも活発である。
本授業ではいくつかのテーマをもとに、深南部の森林、西部の砂漠地帯、あるいはグローバル経済の中心地である現代都市といった多彩な地理空間を読む。論文や書籍、授業担当者が各地を歩き撮影した写真資料や映画など、さまざまなメディアを使いながら、アメリカという複雑、かつダイナミックな大国の諸相を紹介したい。
具体的には、人種隔離政策のもとにさまざまな権利を剥奪され続けた黒人、真珠湾攻撃を機に強制収容所に送られた12万人近くの日系人、世界初の国立公園の設置により土地を奪われた先住民族、核実験や核廃棄物処分の最前線に置かれた先住民族など、特に社会的に弱い立場に置かれた人びとによる地理的な経験に焦点を当てる。
〈到達目標〉
アメリカ社会にたいする理解を深め、また、地理空間を知的好奇心と批判精神を持って観察する視点を学ぶ。

授業内容

1）イントロダクション地理空間を読む
西部開拓とマニフェスト・ディスティニー
〈人種隔離の地理空間〉
2）アメリカ深南部における人種隔離政策の歴史
3）人種統合を目指す闘い
〈日系人強制収容所の地理空間〉
4）第二次世界大戦と日系人強制収容所
5）日系人強制収容所の地理空間
6）日系人強制収容所史跡
〈国立公園の地理空間〉
7）国立公園の歴史
8）国立公園と先住民族
〈核開発の地理空間〉
9）冷戦と核開発　ネバダ実験場
10）原子力発電
11）放射性廃棄物処分をめぐる問題
〈現代都市の地理空間〉
12）要塞化する都市
13）災害と都市
14）まとめ

履修の注意点

遅刻は他の学生の迷惑になるので、時間厳守で集まり講義に集中すること。授業準備に必要な課題文献等については、適宜指示する。

準備学習の内容

教科書は指定しないが、参考書を適宜読みながら予習、復習をしてほしい。

教科書

特になし

参考書

淺野敏久、 中島弘二編著『自然の社会地理』海青社（2013）
石山徳子著『「犠牲区域」のアメリカ　核開発と先住民族』岩波書店（2020）
上杉忍著『アメリカ黒人の歴史　奴隷貿易からオバマ大統領まで』中公新書　（2013）
兼子歩・貴堂嘉之編著『「ヘイト」の時代のアメリカ史:人種・民族・国籍を考える』彩流社（2017）
鎌田遵著『ドキュメント　アメリカ先住民』大月書店（2011）
川島正樹著『アメリカ市民権運動の歴史　　連鎖する地域闘争と合衆国社会』名古屋大学出版会　（2008）
杉浦芳夫編著『地域環境の地理学』朝倉書店　（2012）
田中研之輔著『ルポ　不法移民　アメリカ国境を超えた男たち』岩波新書（2017）
レベッカ・ソルニット著 高月園子訳『災害ユートピア　ー　なぜそのとき特別な共同体が立ち上がるのか』亜紀書房　（2010）
マイク・デイヴィス著　村山敏勝・日比野啓訳『要塞都市 LA』増補新版 青土社（2008）
ニール・スミス著　原口剛訳『ジェントリフィケーションと報復都市　新たなる都市のフロンティア』ミネルヴァ書房（2014）
矢作弘『都市危機のアメリカ　凋落と再生の現場を歩く』岩波書店, 2020年
矢ケ崎典隆・森島済・横山智編著　『サステイナビリティ　地球と人類の課題』朝倉書店（2018）

課題に対するフィードバックの方法

時折書いてもらうリアクションペーパーについて、授業時にコメントをおこなう。

成績評価の方法

期末試験　100パーセント

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)ARS361J

連環地域文化論Ａ【2022年度以降入学者】 連環地域文化論Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　柴　崎　文　一

授業の概要・到達目標

「映像で追う世界の環境問題～環境政策のこれからを探る～」
ドイツは1970年代から環境先進国として、低炭素社会の実現に向け突き進んでいます。しかしドイツは、原子力発電から撤退したことに起因する発電量の低下を補うために、石炭火力発電の割り合いを増やしたところから、石炭（泥炭）採掘量を増やす必要に迫られ、貴重な森林を伐採して、炭田開発を推し進めています。またアメリカは、オバマ政権で「グリーンニューディール」政策を掲げたかと思えば、第1次トランプ政権では一転して、従来の大量エネルギー消費の国家戦略へと舵を取り直してしまいました。そして第2次トランプ政権でも、温室効果ガスの国際的な削減の取り組みであるパリ協定からの離脱が表明されました。日本でも、東日本大震災の直後には、福島第1原子力発電所の事故による教訓から、原子力発電から撤退する機運が盛り上がりましたが、それから時が経つごとに、経済性と二酸化炭素排出削減の観点から、原子力利用への動向が高まっています。この授業では、こうした各国の環境政策の動向を、多くの映像資料を通して検証しながら、日本と世界のこれからあるべき環境政策の方向性を探って行きたいと考えています。

授業内容

第1回　今、地球で何が起きているのか ～アフリカの砂漠化～
第2回　北極海の資源開発
第3回　南極の氷が融ける
第4回　シェール革命の衝撃
第5回　消えたグリーンニューディールとグリーンリカバリー
第6回　スマートグリッド ～再生可能エネルギーの現在と近未来～
第7回　エネルギーの自立 ～ドイツとオーストリア～
第8回　ドイツ再生可能エネルギー法の革新性
第9回　ドイツ環境政策の光と影
第10回「化石賞」～日本のエネルギー政策～
第11回　核廃棄物　～技術が解決すると言い続けて60年～
第12回　誰が保障するのか? ～10万年の安全性～
第13回　原子力バックエンド ～原子力は安くない～
第14回　環境先進都市ポートランドの魅力と限界
（講義内容は授業の進行状況等により変更することがあります。）

履修の注意点

この授業は第1回から実質的な講義を始めますので、初回から欠席しないように心がけてください。

準備学習の内容

授業はパワーポイントを使用して行われます。パワーポイントの内容は、適宜、クラスウェッブの資料コーナーに置かれますので、各自がプリントアウトし、授業に持参するようにしてください。授業では、各自がプリントアウトしたスライドに解説内容を書き込みし、授業後には復習として、各回で提示された諸問題に関し、各自でよく考察するようにしてください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。

教科書

指定はありません。

参考書

授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート又は試験の評価内容については、Oh-o! Meijiを通じて配信するので、確認すること。

成績評価の方法

毎回授業中に、クラスウェッブ上でリアクションフォームの提出が課されます。リアクションフォームの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポート又は試験が60%の評価となって、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションフォームによる出席確認及び期末レポートの提出に1度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。

その他

【欠席届について】
「病気、怪我、忌引き、教育実習、裁判員の選任」による欠席があった場合は、「欠席届」を学期末の指定期間内に一括して受け付けます。詳細は初回のガイダンスで説明します。

科目ナンバー：(PE)ARS361J

連環地域文化論Ｂ【2022年度以降入学者】 連環地域文化論Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　佐　原　徹　哉

授業の概要・到達目標

本講義では新ジハード主義の思想的特質と、その影響を受けた世界各地の運動を概観する。新ジハード主義とは近代の「イスラム復興」を背景に登場したサラフ主義を母体とし、イスラム国家樹立のための暴力の行使を最も重要な信仰上の義務と考える思想と運動である。代表的な組織にはアルカイダ、「イスラム国」、アルシャバブ、ボコハラムなどであるが、東南アジアや中央アジアの組織も含めて、その世界的展開を説明する。

授業内容

1回　オリエンテーション
2回　クトブ主義の出現
3回　新ジハード主義の登場：ファラグとアッザームの思想
4回　アフガン戦争とタリバーン
5回　ボスニア内戦とバルカン・ネットワーク
6回　チェチェン紛争と旧ソ連のジハード主義組織
7回　911事件とアルカイダのイスラム国家構想
8回　第二次アフガン戦争とタリバーンの復活
9回　第二次イラク侵略とイラクのアルカイダ
10回　タクフィール主義
11回　シリア内戦と「イスラム国」
12回　ISの海外属州：東南アジアのジハード主義組織
13回　ボコハラムと西アフリカのジハード主義組織
14回　総括

履修の注意点

春学期のヨーロッパ地域論Ⅳをあらかじめ履修していることが望ましい。

準備学習の内容

特になし

教科書

なし

参考書

授業で指示する

課題に対するフィードバックの方法

授業中に質問に答える

成績評価の方法

定期試験の成績で判断する

その他

科目ナンバー：(PE)ARS361J

連環地域文化論Ｃ【2022年度以降入学者】 連環地域文化論Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

准教授　武　田　和　久

授業の概要・到達目標

今日、私たちが生きる世界では欧米発祥の制度、枠組み、価値観、生活様式、嗜好等が「グローバルスタンダード」として定着、常識化している。これらは基本、「近代」の産物であり、コロンブスによるアメリカの「発見」(1492) を契機にヨーロッパでゆっくりと形作られていったものである。ヨーロッパ人はこの「近代」を普遍かつ絶対と見なして理想化し、人類のすべてがこれを獲得、あるいはこの段階に到達することを目標に掲げ、地球全域に「近代」を普及すべく精力的に活動した。そしてその担い手となったのが商人、移民、宣教師などである。こうして世界の大部分はヨーロッパ化の荒波に巻き込まれ、その帰結が現在地球上で生きる私たち一人一人なのである。

言うまでもなく、ヨーロッパ化の荒波が到達した世界の様々な地域では太古の昔から人間が暮らし、彼らは先祖伝来の文化や慣習を継承しながら生きてきた。こうした地域に「近代」がもたらされたとき、地域の人々はいかなる反応を示したのだろうか。あるいは、「近代」は彼らにどのような影響を及ぼしたのだろうか。こうした問題を具体的に把握、理解することは、今日「当たり前」となっている「グローバルスタンダード」を批判的に検証し、人間にとって本当に大切なことに気づく重要な契機となる。

本授業では、アメリカの「発見」(1492) 以降、300年にわたりスペイン、ポルトガルの植民地となった中南米（ラテンアメリカ）と、19世紀以降のオセアニア（とりわけニュージーランド）の歴史を具体例として取り上げ、土着の民たちの生き様を追っていく。前者では一般に「先住民」と総称される人々が、後者ではマオリに焦点が当てられ、ヨーロッパ人との接触が彼らに何をもたらしたのか、接触以後の彼らが何を考え、どのように生きることを模索してきたのか、こうした事柄を具体的に検討する。

この検討はひいては、今日「グローバルスタンダード」を前提として生きている私たち一人一人が、自分自身を客体化して見つめ直すことにもつながる。

授業内容

第１回　本授業の趣旨説明
第２回　ヨーロッパ人到来以前のアメリカ大陸
第３回　アメリカ大陸へのヨーロッパ人の到来
第４回　剣と十字架
第５回　集住政策（レドゥクシオン）
第６回　ユートピア思想と「文明化」
第７回　先住民による「文化的アプロプリエーション」
第８回　マオリの起源
第９回　キャプテン・クック
第10回　マスケット銃と福音
第11回　ワイタンギ条約
第12回　土地をめぐる争い
第13回　マオリ王擁立運動（キンギタンガ）
第14回　まとめ

履修の注意点

準備学習の内容

毎回の授業で、次回の授業で扱う概要を述べるので、その事柄について各自で情報収集・調査を行う。授業後は、授業内容を振り返り、関連事項を各自で追跡調査する。

教科書

特に定めない。

参考書

中南米の先住民関連：
・網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』講談社、2008年。
・網野徹哉『インディオ社会史－アンデス植民地時代を生きた人々－』みすず書房、2017年。
・伊藤滋子『幻の帝国－南米イエズス会士の夢と挫折』同成社、2001年。
・エリオット『旧世界と新世界－1492-1650－』越智武臣・川北稔［訳］岩波書店、1975年。
・岡田裕成・齋藤晃『南米キリスト教美術とコロニアリズム』名古屋大学出版会、2007年。
・岡田裕成『ラテンアメリカ－越境する美術－』筑摩書房、2014年。
・落合一泰『トランス・アトランティック物語－旅するアステカ工芸品－』山川出版社、2014年。
・清水透『ラテンアメリカ五〇〇年－歴史のトルソー－』岩波書店、 2017年。
・立花隆文、佐々木芳郎写真『インディオの聖像』文藝春秋、2022年。
・ハンケ『スペインの新大陸征服』染田秀藤［訳］平凡社、1979年。
・増田義郎『新世界のユートピア』研究社出版、1971年。
・松森奈津子『野蛮から秩序へ―インディアス問題とサラマンカ学派―』名古屋大学出版会、2009年。
・レオン=ポルティーヤ［編］『インディオの挽歌－アステカから見たメキシコ征服史－』山崎眞次［訳］成文堂、1994年。
・ワシュテル『敗者の想像力－インディオのみた新世界征服－』小池佑二［訳］岩波書店、2007年。
マオリ関連：
・アルフレッド・W・クロスビー『ヨーロッパの帝国主義－生態学的視点から歴史を見る－』佐々木昭夫訳筑摩書房、2017年（特に第10章のニュージーランド）。
・伊藤泰信『先住民の知識人類学－ニュージーランド=マオリの知と社会に関するエスノグラフィ』世界思想社、2007年。
・キース・シンクレア『ニュージーランド史－南海の英国から太平洋国家へ』青木公、百々佑利子訳、評論社、1982年。
・グレアム・ウィレム『ニュージーランドのマオリ族』河津千代訳、リブリオ出版 1989年。
・ロバート・コンセダイン、ジョアナ・コンセダイン『私たちの歴史を癒すということ－ワイタンギ条約の課題－』中村聡子訳、影書房, 2022年。
・ロバート・マクドナルド『マオリ族』柏木里美訳、リブリオ出版、1995年。
・原田敏治『先住民族社会の形成と存続－ニュージーランド南島ナイ・タフ族の伝統と社会』日本経済評論社、2016年。
・平松紘、申惠丰、ジェラルド・P・マクリン『ニュージーランド先住民マオリの人権と文化』明石書店、2000年。
・深山直子『現代マオリと「先住民の運動」－土地・海・都市そして環境』風響社、2012年。

課題に対するフィードバックの方法

模範・参考に値するアカデミック・エッセイについては授業時に解説する。

成績評価の方法

80%：中南米（ラテンアメリカ）の先住民とオセアニアの先住民（特にニュージーランドのマオリ）に関わる２回のアカデミック・エッセイの内容を総合的に評価。とりわけ、体裁と内容、パラグラフ・ライティングができているかどうか、授業やディスカッション（実施した場合）の内容に加えて、専門的な観点から議論が展開されている文献（学術書や学術論文）も参照したうえでエッセイが書かれているかどうか。
20%：授業への出席やディスカッション（実施した場合）への参加の度合い。

その他

・授業に関する連絡等は基本的にOh-o! Meijiを通じて行うので、適宜確認すること。
・担当教員の研究歴については次を参照。https://researchmap.jp/read0203916
・受講者の数や授業内容次第では、ディスカッションを実施することがある。

科目ナンバー：(PE)ARS361J

連環地域文化論Ｄ【2022年度以降入学者】 連環地域文化論Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

准教授　佐久間　寛

授業の概要・到達目標

【授業概要】
本講義では、アフリカをはじめとした世界各地の「文化」に着目して、人間にとり「経済」とは何かを考える。わたしたちが知る、あらゆる財とサービスが「市場」で売買される経済は、西欧近代に成立した特殊な制度にすぎない。世界の大小様々な社会の過去と現在に目をこらすと、人類には驚くほど多様な経済があり、たとえば市場ばかりでなく「贈与」を中心とした経済が重要であった事実が浮かび上がってくる。
【到達目標】
わたしが調査した西アフリカを含む各地の事例の考察を通じて、多元的な経済のあり方への理解を深めつつ、市場一辺倒の経済観を問い直す視座の獲得を目指す。

授業内容

第１回目　文化から学ぶ経済
第２回目　「生」を「生」む
第３回目　「農」という「業」（１）
第４回目　「農」という「業」（２）
第５回目　「漁」という「業」（１）
第６回目　「漁」という「業」（２）
第７回目　「呪」という「術」
第８回目　「貿」は「易」いか（１）
第９回目　「貿」は「易」いか（２）
第10回目　「贈」り「与」える（１）
第11回目　「贈」り「与」える（２）
第12回目　「統」べて「治」める
第13回目　「開」き「発」する（１）
第14回目　「開」き「発」する（２）

履修の注意点

毎回の授業ごとに、800～2000字程度のリアクションペーパーを提出することが必須の課題となる。また単なる感想ではなく、授業の内容をふまえて独自の思考を記すことが求められる。履修の可否の判断にあたってはくれぐれも注意すること。

準備学習の内容

授業ごとに文献や映像作品を紹介するので可能な範囲で目を通すこと。

教科書

特に定めない。講義ごとに資料を配付する。また映像作品を積極的に用いる。

参考書

特に定めない。適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の冒頭にリアクションペーパーに対するリプライを行う。

成績評価の方法

授業への参加度および授業ごとのリアクションペーパー(70%)、学期末レポート(30%)

その他

受講者の疑問や要望を極力尊重し、必要な場合には授業内容を柔軟に見直す。

科目ナンバー：(PE)HES391J

身体文化論

2単位

3年次

教授　高　峰　　修

授業の概要・到達目標

この講義では和泉キャンパス開講の「ジェンダー論Ⅰ/教養基礎講座」では取り上げられなかった"身体"とジェンダー、セクシュアリティとの関係について焦点を当てます。

ジェンダーはひとまず「文化的・社会的・心理的な性の有り様」と説明されますが、みなさん自身の身体の在り方にも関わっています。身体は生物学的・本質的な存在としてありますが、ジェンダーやセクシュアリティとの関わりから文化社会的・構築的な存在でもあります。この講義では、現代の私たちの身体が単に生物的・物質的な存在であるだけではなく、文化や社会の中でどのように構築されているのかについてジェンダーやセクシュアリティとの関わりから検討し、さらには特に女性の身体に着目しながらそれに関わる政治性・経済性について理解することを目標とします。

授業内容

第1講　ジェンダーと科学
第2講　「成長する」～ヒトの成長と性別
第3講　「まなざす」～身体的性差観
第4講　「思考/志向する」～脳の性差論
第5講　「鍛える」～体力論
第6講　「痩せる」～ダイエットと摂食障害
第7講　「越境する」～スポーツにおける身体
第8講　「孕ませる」～射精責任論
第9講　「産む/産まない権利」～リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
第10講　「産む」～代理母出産
第11講　「産まない」～着床前診断
第12講　「管理する」～国家と女性の身体
第13講　科学と産業
第14講　まとめ
※受講者数によって内容やスケジュールが変わることがあります

履修の注意点

a）スライドとレジュメ
講義は原則として、スライドによるプレゼンテーションによって進めます。講義前にスライドのファイルをOh-o! Meijiのクラスウェブにアップしますので、必要に応じて各自で使用して下さい。
b）リアクションペーパー
原則として毎回、受講内容に対するコメントを書いてもらいます。この内容をもって出席とします。ときどき、遅刻のチェックします。

準備学習の内容

次回の授業に向けて参考文献を紹介しますので、事前に読んでくること。

教科書

使用しません。

参考書

マーゴ･デメッロ著（田中洋美監訳）「ボディ･スタディーズ」晃洋書房、2017.

課題に対するフィードバックの方法

次回講義の冒頭にて行います。

成績評価の方法

原則として毎回出欠をとり授業へのコメントを書いてもらいます。授業実施回数の3分の2以上の出席を期末レポート提出の条件とします。
成績評価については、次の点から総合的に評価します。
1）授業内容の理解度（リアクションペーパーの評価）　60%
2）期末レポート課題　40%

その他

「授業の概要」で述べたとおり、この講義では私たちの身体と私たちが生活する文化や社会との関わりに目を向けます。したがって、どうやったら筋肉をつけたりダイエットすることができるかといった内容については触れませんので注意してください。また講義内容はやや抽象的になりますが、そうした話題にもあきらめずに、積極的に考えていくよう期待します。

科目ナンバー：(PE)ART391J

表象文化論

2単位

3年次

准教授　内　田　兆　史

授業の概要・到達目標

表象文化とは何なのかを考え、何を表象しているのか、どう表象されているのかに焦点を当ててすすめていく。表象文化は必ずしも映像化されたものを指すわけではないことを認識し、その上でことばとその映像化について実例とともに関係を見出そう。たとえば生成AIがどのような映像でも作れるようになったことによって、では表象「されている」もの、いわば思想や哲学、あるいは文化そのものの重要性はどんな位置にあるのか考えてみたい。また、何気なく使っていることばに潜むさまざまな意識を捉えてもいくつもりである。

文字によるフィクションと映像の関係について一定の知識と理解と、そのうえでの「批評」について考えられるようになること、そして自ら「表現」するようになることがこの授業の目標である。

授業内容

小説を読む、絵画を見る、音楽を聴く、詩を味わう、映画を見る、そういった営為と、生成AIの映像との違いは何なのか。あるいは文字によるフィクションが絵画に、音楽に、映画になったときに加わるものは、削られるものは何なのか、さらにはさまざまな言説がどのような意図を隠しもっているのかまで考えていく。
1．イントロダクション
2．表象とは何か
3．小説の事例
4．絵画の事例
5．音楽の事例
6．詩の事例
7．映画の事例
8．小説はいかに映画となるか　その1
9．小説はいかに映画となるか　その2
10．小説はいかに映画となるか　その3
11．現実はいかに表象されているのか　その1
12．現実はいかに表象されているのか その2
13．現実はいかに表象されているのか その3
14．表象は世界を救えるのか

履修の注意点

授業の感想、作品に対するコメントなど、一定量の文章を書くことを前提に履修すること。

準備学習の内容

授業に先立って作品を鑑賞してその感想を書く予習をする。
授業後ごとに表象文化について振り返り、それを文章にする復習をする。

教科書

特に指定しない

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーおよび小レポートは授業内で紹介し、その質

成績評価の方法

授業に先立つ感想の提出30%、授業についてのコメント30%、最終課題40%を原則として勘案する。

その他

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅲ	2単位
	3年次

兼任講師　佐々木　研一朗

授業の概要・到達目標

科目名にある「原典」とは、引用や翻訳などのよりどころとなる、もとの文献のことを意味し、それを講読することが、この授業の内容である。概して、外国語で書かれた文献を翻訳することが多いのが特徴である。

この科目の源流や意義を確認すると、次のようになる。すなわち、明治期に大学制度が導入された際、西欧の学問を「輸入」することが強く求められた。そのような時代にあって、「原典」とは外国語で書かれた学術研究書であり、それを日本語に翻訳して紹介することが学問であった。日本において大学という組織が定着してから150年余りが経過した21世紀の現在にあって、外国語で書かれたものを崇め奉るような傾向が依然としてないではない。西欧思想史研究のように、こうした方法が有効かつ必要な分野もある。

だが、こと政治学についていえば、1980年代以降の方法論の発展と洗練化により、単に外国語で書かれた文献を読むのではなく、そうした方法を利用して政治現象を分析し、あまつさえ外国語で発信することが当たり前になりつつある。他方で、日本における政治学研究も、明治期に輸入されてから150年余りが経過し、それ自体が歴史研究の対象、すなわち「原典」となりつつある。

このような事情を背景として、この授業では、外国語・日本語を問わず、政治学に関する多様な「原典」を講読し、その理解を深める。併せて、政治学的分析を外国語で発信できるようになるための訓練も行いたい。

この授業の到達目標は、学部１・２年次での政治学の学修の成果を踏まえつつ、より専門的な政治学研究について学修し、学士（政治学）を授与されるに値する知識・能力を修得することである。とりわけ講義担当者の専門が日本政治であることから、現代政治の基本原理に関する知識、現実の政治現象や社会現象を多角的に捉え理解する能力、政治現象や社会現象に対する実証的分析手法、問題発見・解決に資する能力が中心となる。

授業内容

第１回　オリエンテーション
第２回　英字新聞の発表とテキストの講読
第３回　英字新聞の発表とテキストの講読
第４回　英字新聞の発表とテキストの講読
第５回　英字新聞の発表とテキストの講読
第６回　英字新聞の発表とテキストの講読
第７回　英字新聞の発表とテキストの講読
第８回　英字新聞の発表とテキストの講読
第９回　英字新聞の発表とテキストの講読
第10回　英字新聞の発表とテキストの講読
第11回　英字新聞の発表とテキストの講読
第12回　英字新聞の発表とテキストの講読
第13回　エッセイの発表と討論
第14回　エッセイの発表と討論
※受講生の人数や授業の進行状況により、内容に変更が生じる場合がある。

履修の注意点

この授業の詳細及び評価方法に関する詳細は初回授業時に説明する。履修を検討している人は必ず出席すること。

準備学習の内容

（１）英字新聞を読み、関心のある記事を選択し、その内容を報告すること。
（２）テキスト（日本語）を読み、その内容をレジュメにして報告すること。

教科書

境家史郎（2023）『戦後日本政治史　占領期から「ネオ55年体制」まで」中公新書
酒井大輔（2024）『日本政治学史　丸山眞男からジェンダー論、実験政治学まで』中公新書

参考書

授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でのコメント及びOh-o! Meijiで対応する。

成績評価の方法

授業への貢献度　50%
エッセイ（6,000字以上）の執筆　50%

その他

学生による発表と議論が中心となる。したがって、単位の修得にあたっては授業への貢献が強く求められる。体育会の学生の参加も歓迎するが、その点には留意すること。専門演習非履修者の必修科目であるが、履修者の受講も歓迎する。専門演習非履修者については、秋学期開講のものと併せて履修すること。それ以外についても、通年での履修を勧めたい。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅳ	2単位
	3年次

兼任講師　佐々木　研一朗

授業の概要・到達目標

科目名にある「原典」とは、引用や翻訳などのよりどころとなる、もとの文献のことを意味し、それを講読することが、この授業の内容である。概して、外国語で書かれた文献を翻訳することが多いのが特徴である。

この科目の源流や意義を確認すると、次のようになる。すなわち、明治期に大学制度が導入された際、西欧の学問を「輸入」することが強く求められた。そのような時代にあって、「原典」とは外国語で書かれた学術研究書であり、それを日本語に翻訳して紹介することが学問であった。日本において大学という組織が定着してから150年余りが経過した21世紀の現在にあって、外国語で書かれたものを崇め奉るような傾向が依然としてないではない。西欧思想史研究のように、こうした方法が有効かつ必要な分野もある。

だが、こと政治学についていえば、1980年代以降の方法論の発展と洗練化により、単に外国語で書かれた文献を読むのではなく、そうした方法を利用して政治現象を分析し、あまつさえ外国語で発信することが当たり前になりつつある。他方で、日本における政治学研究も、明治期に輸入されてから150年余りが経過し、それ自体が歴史研究の対象、すなわち「原典」となりつつある。

このような事情を背景として、この授業では、外国語・日本語を問わず、政治学に関する多様な「原典」を講読し、その理解を深める。併せて、政治学的分析を外国語で発信できるようになるための訓練も行いたい。

この授業の到達目標は、学部１・２年次での政治学の学修の成果を踏まえつつ、より専門的な政治学研究について学修し、学士（政治学）を授与されるに値する知識・能力を修得することである。とりわけ講義担当者の専門が日本政治であることから、現代政治の基本原理に関する知識、現実の政治現象や社会現象を多角的に捉え理解する能力、政治現象や社会現象に対する実証的分析手法、問題発見・解決に資する能力が中心となる。

授業内容

第１回　オリエンテーション
第２回　テキストの講読
第３回　テキストの講読
第４回　テキストの講読
第５回　テキストの講読
第６回　テキストの講読
第７回　テキストの講読
第８回　テキストの講読
第９回　テキストの講読
第10回　テキストの講読
第11回　テキストの講読
第12回　テキストの講読
第13回　レポートの発表と討論
第14回　レポートの発表と討論
※受講生の人数や授業の進行状況により、内容に変更が生じる場合がある。

履修の注意点

この授業の詳細及び評価方法に関する詳細は初回授業時に説明する。履修を検討している人は必ず出席すること。

準備学習の内容

（１）テキスト（外国語）を翻訳し、その内容について議論すること。
（２）テキスト（日本語）を読み、その内容をレジュメにして報告すること。

教科書

Byron K. Marchall,（1992）" *Academic Freedom and the Japanese Imperial University, 1868-1939*", UCP
佐藤誠三郎／松崎哲久著、河野有理解説（2025）『新版　自民党政権』中公選書

参考書

授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でのコメント及びOh-o! Meijiで対応する。

成績評価の方法

授業への貢献度 50%
レポート（10,000字以上）の執筆 50%

その他

学生による発表と議論が中心となる。したがって、単位の修得にあたっては授業への貢献が強く求められる。体育会の学生の参加も歓迎するが、その点には留意すること。専門演習非履修者の必修科目であるが、履修者の受講も歓迎する。専門演習非履修者については、春学期開講のものと併せて履修すること。それ以外についても、通年での履修を勧めたい。

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅲ	2単位
	3年次
兼任講師　三　森　ちかし	

授業の概要・到達目標

この授業では、Europe Union（以下 EU）について書かれた英語文献の講読によって英文読解力の向上を目指すとともに、EU についての基本的知識を高めることを目的とします。

授業内容

主として、輪読形式で講義を進めていきます。毎回担当者を決め、指定した範囲の翻訳を発表してもらいます。文献の内容を正確に理解し、きちんとした日本語に訳することを重視しますので、量よりも質の高い翻訳を求めます。

第1回：イントロダクション
第2回：lesson 1
第3回：lesson 2
第4回：lesson 3
第5回：lesson 4
第6回：lesson 5
第7回：lesson 6
第8回：lesson 7
第9回：lesson 8
第10回：lesson 9
第11回：lesson 10
第12回：lesson 11
第13回：lesson 12
第14回：lesson 13

履修の注意点

EU およびヨーロッパに関するニュースを常に注意を払うようにしてください。

準備学習の内容

割り当てられた担当箇所を翻訳してきてください。口頭で述べるのではなく、事前に日本語として理解しやすい文にしてきて下さい。

教科書

Out: How Brexit Got Done and the Tories Were Undone, Tim Shipman, William Collins を使う予定です。購入は不要です。

参考書

『「ブレグジット」という激震：混迷するイギリス政治』スティーブン・デイ, 力久昌幸（ ミネルヴァ書房,）
『新EU論』植田隆子ほか（信山社）
『ヨーロッパ統合の政治史』金丸輝男ほか（有斐閣）
『EU の政治』田中俊郎（岩波書店）
『EU―欧州統合の現在―　第4版』鷲江義勝ほか（創元社）
『EUの知識』（藤井良弘、日経文庫）

課題に対するフィードバックの方法

授業内でのコメント及びOh-o!Meijiで対応する。

成績評価の方法

平常点および発表内容で評価します。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅳ	2単位
	3年次
兼任講師　三　森　ちかし	

授業の概要・到達目標

この授業では、Europe Union（以下 EU）について書かれた英語文献の講読によって英文読解力の向上を目指すとともに、EU についての基本的知識を高めることを目的とします。

授業内容

主として、輪読形式で講義を進めていきます。毎回担当者を決め、指定した範囲の翻訳を発表してもらいます。文献の内容を正確に理解し、きちんとした日本語に訳することを重視しますので、量よりも質の高い翻訳を求めます。

第1回：イントロダクション
第2回：lesson 1
第3回：lesson 2
第4回：lesson 3
第5回：lesson 4
第6回：lesson 5
第7回：lesson 6
第8回：lesson 7
第9回：lesson 8
第10回：lesson 9
第11回：lesson 10
第12回：lesson 11
第13回：lesson 12
第14回：lesson 13

履修の注意点

EU およびヨーロッパに関するニュースを常に注意を払うようにしてください。

準備学習の内容

割り当てられた担当箇所を翻訳してきてください。口頭で述べるのではなく、事前に日本語として理解しやすい文にしてきて下さい。

教科書

Out: How Brexit Got Done and the Tories Were Undone, Tim Shipman, William Collins を使う予定です。購入は不要です。

参考書

『「ブレグジット」という激震：混迷するイギリス政治』スティーブン・デイ, 力久昌幸（ ミネルヴァ書房,）
『新EU論』植田隆子ほか（信山社）
『ヨーロッパ統合の政治史』金丸輝男ほか（有斐閣）
『EU の政治』田中俊郎（岩波書店）
『EU―欧州統合の現在―　第4版』鷲江義勝ほか（創元社）
『EUの知識』（藤井良弘、日経文庫）

課題に対するフィードバックの方法

授業内でのコメント及びOh-o!Meijiで対応する。

成績評価の方法

平常点および発表内容で評価します。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE)IND311J	
原典講読Ⅲ	2単位
	3年次
助教　小　川　　天	

授業の概要・到達目標

本科目は、現代政治の理解に役立つ英語文献の講読を通じて、英文の読解力と現代政治の基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、「権威主義(Authoritarianism)」に関する文献を扱う。関連する英文ニュース等も併せて見ていきたい。

授業内容

第1回目　はじめに(テキストの紹介)
第2回目　テキストの講読
第3回目　テキストの講読
第4回目　テキストの講読
第5回目　テキストの講読
第6回目　テキストの講読
第7回目　テキストの講読
第8回目　テキストの講読
第9回目　テキストの講読
第10回目　テキストの講読
第11回目　テキストの講読
第12回目　テキストの講読
第13回目　テキストの講読
第14回目　テキストの講読

履修の注意点

辞書を用意しておくこと。

準備学習の内容

各回で事前に指示した範囲の英文を和訳してくること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

英文の和訳について、講義内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加(30%)、英文の和訳(70%)。

その他

秋学期の「原典講読II」と、内容が連続する。併せて受講することが望ましい。

科目ナンバー：(PE)IND311J	
原典講読Ⅳ	2単位
	3年次
助教　小　川　　天	

授業の概要・到達目標

本科目は、現代政治の理解に役立つ英語文献の講読を通じて、英文の読解力と現代政治の基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、「権威主義(Authoritarianism)」に関する文献を扱う。関連する英文ニュース等も併せて見ていきたい。

授業内容

第1回目　テキストの講読
第2回目　テキストの講読
第3回目　テキストの講読
第4回目　テキストの講読
第5回目　テキストの講読
第6回目　テキストの講読
第7回目　テキストの講読
第8回目　テキストの講読
第9回目　テキストの講読
第10回目　テキストの講読
第11回目　テキストの講読
第12回目　テキストの講読
第13回目　テキストの講読
第14回目　テキストの講読

履修の注意点

辞書を用意しておくこと。

準備学習の内容

各回で事前に指示した範囲の英文を和訳してくること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

英文の和訳について、講義内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加(30%)、英文の和訳(70%)。

その他

春学期の「政治学特殊講義C」と、内容が連続する。併せて受講することが望ましい。

科目ナンバー：(PE)IND311J	
原典講読Ⅲ	2単位
	3年次
准教授　田　中　茉莉子	

授業の概要・到達目標

The Wall Street Journalの国際金融、金融、マクロ経済に関する記事に基づき、グループワークや報告を通じて時事問題に対する理解を深める。英語で書かれた時事問題に関する記事の内容を理解し、考察できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　グループワーク(1)
第3回目　報告(1)
第4回目　グループワーク(2)
第5回目　報告(2)
第6回目　グループワーク(3)
第7回目　報告(3)
第8回目　グループワーク(4)
第9回目　報告(4)
第10回目　グループワーク(5)
第11回目　報告(5)
第12回目　グループワーク(6)
第13回目　報告(6)
第14回目　振り返り

履修の注意点

必要に応じて辞書（電子辞書）をご用意ください。

準備学習の内容

記事に目を通し、報告の準備をすること

教科書

特に指定しない。

参考書

記事に目を通すこと

課題に対するフィードバックの方法

適宜コメントする。

成績評価の方法

グループワークへの参加度50%、報告内容50%

その他

科目ナンバー：(PE)IND311J	
原典講読Ⅳ	2単位
	3年次
准教授　田　中　茉莉子	

授業の概要・到達目標

The Wall Street Journalの国際金融、金融、マクロ経済に関する記事に基づき、グループワークや報告を通じて時事問題に対する理解を深める。英語で書かれた時事問題に関する記事の内容を理解し、考察できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　グループワーク(1)
第3回目　報告(1)
第4回目　グループワーク(2)
第5回目　報告(2)
第6回目　グループワーク(3)
第7回目　報告(3)
第8回目　グループワーク(4)
第9回目　報告(4)
第10回目　グループワーク(5)
第11回目　報告(5)
第12回目　グループワーク(6)
第13回目　報告(6)
第14回目　振り返り

履修の注意点

必要に応じて辞書（電子辞書）をご用意ください。

準備学習の内容

記事に目を通し、報告の準備をすること

教科書

特に指定しない。

参考書

記事に目を通すこと

課題に対するフィードバックの方法

適宜コメントする。

成績評価の方法

グループワークへの参加度50%、報告内容50%

その他

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅲ	2単位
	3年次

准教授　鎌　田　健　司

授業の概要・到達目標

地域別将来人口推計に関するガイドブックである Smith, Tayman and Swanson,*A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections*,Springer, 2013を講読する。文献の講読を通じて英文の読解力を向上させるとともに、日本の地域人口の現状や将来について議論し、理解を深めることを目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　基本的な用語
第3回目　人口分析の基礎（1）
第4回目　人口分析の基礎（2）
第5回目　死亡（1）
第6回目　死亡（2）
第7回目　出生（1）
第8回目　出生（2）
第9回目　人口移動（1）
第10回目　人口移動（2）
第11回目　人口移動（3）
第12回目　コーホート要因法（1）
第13回目　コーホート要因法（2）
第14回目　a：まとめ、b：内容の確認
※履修人数により、授業の進度は異なるため、上記の内容は目安である。

履修の注意点

初回授業に担当決めを行うので欠席しないこと。
授業は担当する範囲の英文を訳し、その内容や日本の人口統計を用いた現状の把握やそれに対するプレゼンテーションを行う形式で実施する。

準備学習の内容

毎週決められた範囲の英文の予習と関連する人口統計の確認を行うこと。

教科書

Smith, Tayman and Swanson,*A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections*,Springer, 2013
適宜必要な箇所のコピーを配布するので購入は不要。

参考書

『現代人口辞典』人口学研究会編（原書房）, 2010年
『地域人口分析の基礎』濱英彦・山口喜一編著（古今書院）, 1997年
『地域社会の将来人口　地域人口推計の基礎から応用まで』西岡八郎・江崎雄治・小池司朗・山内昌和（東京大学出版会）, 2020年
など

課題に対するフィードバックの方法

担当となった範囲に関する英文の内容については、授業内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度（30%）、英文の翻訳（40%）、内容の確認（30%）

その他

PCを持参しての資料の確認等を推奨する。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅳ	2単位
	3年次

准教授　鎌　田　健　司

授業の概要・到達目標

地域別将来人口推計に関するガイドブックである Smith, Tayman and Swanson,*A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections*,Springer, 2013を講読する。文献の講読を通じて英文の読解力を向上させるとともに、日本の地域人口の現状や将来について議論し、理解を深めることを目標とする。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　様々な推計法（1）
第3回目　様々な推計法（2）
第4回目　様々な推計法（3）
第5回目　様々な推計法（4）
第6回目　人口以外の推計（1）
第7回目　人口以外の推計（2）
第8回目　推計の評価（1）
第9回目　推計の評価（2）
第10回目　推計の正確性とバイアス（1）
第11回目　推計の正確性とバイアス（2）
第12回目　推計の正確性とバイアス（3）
第13回目　小地域推計
第14回目　a：まとめ、b：内容の確認
※履修人数により授業の進度は異なるため、以上の内容は目安である。

履修の注意点

初回授業に担当決めを行うので欠席しないこと。
授業は担当する範囲の英文を訳し、その内容や日本の人口統計を用いた現状の把握やそれに対するプレゼンテーションと関連する議論により実施する。

準備学習の内容

毎週決められた範囲の英文の予習と関連する人口統計の確認を行うこと。

教科書

Smith, Tayman and Swanson, A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections, Springer, 2013
適宜必要な箇所のコピーを配布するので購入は不要。
授業の進度により、上記のテキストが終了した場合は、
Lutz, Advanced Introduction to Demography, Edward Elgar Pub, 2021
を取り上げる。

参考書

『現代人口辞典』人口学研究会編, 2010年
『地域人口分析の基礎』濱英彦・山口喜一編著, 1997年　など

課題に対するフィードバックの方法

担当となった範囲に関する英文の内容については、授業内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度（30%）、英文の翻訳（40%）、内容の確認（30%）

その他

PCを持参しての資料の確認等を推奨する。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅲ	2単位
	3年次

兼任講師　アディネガラ，　イヴ

授業の概要・到達目標

この授業では環境経済学・エコロジー経済学の観点に基づいて行い、環境経済学・エコロジー経済学の概念や理論に関連する英語テキスト（著書・論文の一部、雑誌、新聞記事など）を講読する。その際、本講義では人為的排出物による環境への負荷の減少から環境保護までの環境政策を英語で学ぶ。本講義では授業全体を通して、受講者の関心と能力に適切なテキストを選択する。そして、講読やテキスト内容に関する議論を通じて英語読解力を向上することだけでなく、環境経済学がもつ有用性を理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回目　講読と解説　イントロダクション（授業の形態・授業内容・講読テキストについて）
第2回目　講読と解説　A brief history of the environment in economics
第3回目　講読と解説　The environmental as capital
第4回目　講読と解説　An inquiry into nature and causes of the wealth of nations
第5回目　講読と解説　The essay on the principal of population
第6回目　講読と解説　The stationary state（John Stuart Mill）
第7回目　講読と解説　The economics of resources or the resources of economics
第8回目　講読と解説　Elements of environmental economics（Herman. E. Daly）
第9回目　講読と解説　Markets and the environment
第10回目　講読と解説　The cost of economic growth
第11回目　講読と解説　Economic growth and quality of the environment: EKC hypothesis
第12回目　講読と解説　Environmental kuznets curve－real progress or passing the bucks?－
第13回目　講読と解説　Coevolution development potential
第14回目　a：授業全体のまとめ
　　b：レポート提出

履修の注意点

1. 必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。
2. 初回授業に授業の進め方を伝えるので欠席しないこと。
3. 授業は担当する範囲の内容を英語で要約（箇条書きなど）して発表し、発表内容を議論する。

準備学習の内容

事前にテキストを必ず読み、内容に関連する専門用語は辞書などで調べ、内容を理解した上で授業に出席すること。また、テキストの内容について不明な点があれば授業で質問すること。

教科書

各回の授業に次回分のテキストのコピーを配布、あるいはOh-o!Meijiで事前に公開する。

参考書

Jose Julio Ferraz de Campos Jr（2023）Introduction to Environmental Economics, Ecological Economics and Economic Valuation, San Paulo.

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中およびOh-o!Meijiシステム等を利用して実施する。

成績評価の方法

授業での発表ならびに授業への参加度（60%）、レポート（40%）で評価する。

その他

初回に授業の進め方を説明するので、履修を考えている人は必ず出席すること。授業の進展によっては、授業の予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅳ	2単位
	3年次

兼任講師　アディネガラ，　イヴ

授業の概要・到達目標

この授業では環境経済学・エコロジー経済学の観点に基づいて行い、環境経済学・エコロジー経済学の概念や理論に関連する英語テキスト（著書・論文の一部、雑誌、新聞記事など）を講読する。その際、本講義では人為的排出物による環境への負荷の減少から環境保護までの環境政策を英語で学ぶ。本講義では授業全体を通して、受講者の関心と能力に適切なテキストを選択する。そして、講読やテキスト内容に関する議論を通じて英語読解力を向上することだけでなく、前期の環境経済学を理解した上で、さらにエコロジー経済学がもつ有用性を理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回目 イントロダクション（授業の形態・授業内容・講読テキストについて）
第2回目　講読と解説　What is ecological economics
第3回目　講読と解説　The early history of modern ecological economics
第4回目　講読と解説　The meaning of ecology and economy
第5回目　講読と解説　Trends in the development of ecological economics from late 1980s to early 2000s
第6回目　講読と解説　Historical roots and motivations: the economics of the coming space ship earth
第7回目　講読と解説　Material and energy flow in ecological and economic system: the entropy law and the economic problem
第8回目　講読と解説　Historical roots and motivations: energy, environment and society
第9回目　講読と解説　The steady state economy
第10回目　講読と解説　Economic pathways to ecological sustainability
第11回目　講読と解説　Ecology and valuation
第12回目　講読と解説　Moral pluralism and the course of environmental ethics
第13回目　講読と解説　Conceptual framework and language for sustainability politics（Peter Söderbaum）
第14回目　a:授業全体のまとめ
　　b.レポート提出

履修の注意点

1. 必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。
2.初回授業に授業の進め方を伝えるので欠席しないこと。
3. 授業は担当する範囲の内容を英語で要約（箇条書きなど）して発表し、発表内容を議論する。

準備学習の内容

事前にテキストを必ず読み、内容に関連する専門用語は辞書などで調べ、内容を理解した上で授業に出席すること。また、テキストの内容について不明な点があれば授業で質問すること。

教科書

各回の授業に次回分のテキストのコピーを配布、あるいはOh-o!Meijiで事前に公開する。

参考書

1. Mick Common and Sigrid Stagl（2005）Ecological Economics, Cambridge University Press.
2.Peter So¨derbaum（2018）Economics, Ideological Orientation and Democracy for Sustainable Development, World Economiccs Association, Bristol, UK.

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中およびOh-o!Meijiシステム等を利用して実施する

成績評価の方法

授業での発表ならびに授業への参加度（60%）、レポート（40%）で評価する。

その他

初回に授業の進め方を説明するので、履修を考えている人は必ず出席すること。授業の進展によっては、授業の予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅲ	2単位
	3年次

教授　植　田　　麦

授業の概要・到達目標

この授業では、中古（平安時代）から近世（江戸時代）にかけて書かれた原典資料を読解する。演習形式で授業を進める。

到達目標として以下を設定する。

・いわゆる「くずし字」を読むことができる。
・古典文法についての知識を身につけ、古典文を適切に読解できる。
・くずし字の画像認識ができる。
・形態素解析を行い、コーパスを作成できる。

なお、**毎回の授業においてノートパソコンの持参を必須**とする。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　テキストに基づく演習
第3回　テキストに基づく演習
第4回　テキストに基づく演習
第5回　テキストに基づく演習
第6回　テキストに基づく演習
第7回　テキストに基づく演習
第8回　テキストに基づく演習
第9回　テキストに基づく演習
第10回　テキストに基づく演習
第11回　テキストに基づく演習
第12回　テキストに基づく演習
第13回　テキストに基づく演習
第14回　試験と解説

履修の注意点

・就職活動に関しての欠席を公欠として扱うことはない。
・演習形式で行うので、事前・事後学習は欠かさないこと。自習を行わないものに対する配慮は一切行わない。
・大半の学生が初めて学ぶ内容であるが、日本古典文法および日本古典文学世界の常識について理解しているものとして授業を進める。
・生半可な態度で授業を受けると、毎回出席していても不合格になる場合がある。
・以上を熟慮の上、履修登録を行うこと。

準備学習の内容

・予習：毎回の授業終了時に指示する。
・復習：課題を出す場合がある。課題を提出しない場合は、単位の認定にかかわる大きなペナルティを科す。

教科書

・『仮名手引』、神戸平安文学会編、(和泉書院)
・演習テキストは授業内で配布する。

参考書

・『くずし字解読辞典（普及版)』、児玉幸多、(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

演習の内容については、適宜解説を行う。

成績評価の方法

・期末試験100%
・任意でない課題を課すことがある。当該課題を未提出の場合、大きなペナルティを科す。
・なお、「出席点」なるものは存しないが、遅刻・欠席により減点を行う。よって、一定回数以上の遅刻・欠席をした場合は、単位認定の対象とならない。

その他

・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。
・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅳ	2単位
	3年次

教授　植　田　　麦

授業の概要・到達目標

この授業では、近代初期までの写本・版本を主たる対象として、「くずし字」の資料を読解する。演習形式で授業を進める。なお、春学期「原典講読Ⅰ」の履修を前提としているため、初回からくずし字資料は読解可能であるものして授業を進める。

到達目標として以下を設定する。

・画像認識でくずし字資料を読み込ませることができる。
・形態素解析を行ってコーパスを作成することができる。

なお、**毎回の授業においてノートパソコンの持参を必須**とする。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　テキストに基づく演習
第3回　テキストに基づく演習
第4回　テキストに基づく演習
第5回　テキストに基づく演習
第6回　テキストに基づく演習
第7回　テキストに基づく演習
第8回　テキストに基づく演習
第9回　テキストに基づく演習
第10回　テキストに基づく演習
第11回　テキストに基づく演習
第12回　テキストに基づく演習
第13回　テキストに基づく演習
第14回　試験と解説

履修の注意点

・就職活動に関する欠席を公欠として扱うことはない。
・演習形式で行うので、事前・事後学習は欠かさないこと。自習を行わないものに対する配慮は一切行わない。
・日本古典文法および日本古典文学世界の常識について理解しているものとして授業を進める。
・本授業は、春学期開講の「原典講読Ⅰ」の授業内容を前提として進める。そのため、第1回からくずし字のテキストの読解を行う。履修する場合は、必ず以下に示す教科書を持参すること。
・生半可な態度で授業を受けると、毎回出席していても不合格になる場合がある。
・以上を熟慮の上、履修登録を行うこと。

準備学習の内容

・予習：毎回の授業終了時に指示する。
・復習：課題を出す場合がある。課題を提出しない場合は、単位の認定にかかわる大きなペナルティを科す。

教科書

・『仮名手引』（神戸平安文学会編　和泉書院）
・演習テキストは授業内で配布する。

参考書

・『くずし字解読辞典（普及版)』（児玉幸多　東京堂出版）

課題に対するフィードバックの方法

演習の内容については、適宜解説を行う。

成績評価の方法

・期末試験100%
・任意でない課題を課すことがある。当該課題を未提出の場合、大きなペナルティを科す。
・なお、「出席点」なるものは存しないが、遅刻・欠席により減点を行う。よって、一定回数以上の遅刻・欠席をした場合は、単位認定の対象とならない。

その他

・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。
・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：(PE) IND311J

原典講読Ⅲ	2単位
	3年次

准教授　奥　山　　誠

授業の概要・到達目標

経済学わけても経済思想および経済学説に関連するドイツ語文献を精読する。その際、本講義では、近年再評価の著しいドイツ歴史学派の経済思想に焦点を合わせ、制度・慣習に着目する現代経済学の刷新にとってその経済思想がいかに重要な役割を果たしているのかを解説していく。

基本的な経済学のドイツ語文献を精読することを通じてドイツ語読解力を向上すること、ドイツ語圏の経済思想・経済学説にかんする知識を高め、その経済思想がもつ有用性を理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回目：イントロダクション
第2回目：「歴史学派」の定義
第3回目：「歴史学派」生成の時代背景1　ドイツ資本主義形成期
第4回目：「歴史学派」生成の時代背景2　ドイツ資本主義確立期
第5回目：開拓者としてのF. リストの経済思想1　古典派への懐疑
第6回目：開拓者としてのF. リストの経済思想2　「国民経済学」の経済思想
第7回目：「歴史学派」の生成 ― 「旧歴史学派」の経済思想
第8回目：W. ロッシャーの歴史的方法
第9回目：B. ヒルデブラントの経済発展段階論
第10回目：K. クニースの歴史的科学としての政治経済学
第11回目：「歴史学派」の確立 ― 「新歴史学派」の経済思想
第12回目：G. シュモラーの歴史研究と配分的正義の観念
第13回目：G. シュモラーの重商主義論と方法論争
第14回目a：試験
　　b：正答解説

履修の注意点

必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。

準備学習の内容

文献は必ず読んだうえで授業に出席すること。また文法, 構文, 内容について不明な点があれば授業で質問すること。

教科書

初回授業時に文献のコピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

授業への貢献度60%, レポートの成績40%で評価する。

その他

初回の授業には必ず出席すること。特段の事情がない限り、秋学期の原典講読も履修すること。

科目ナンバー：(PE) IND311J

原典講読Ⅳ	2単位
	3年次

准教授　奥　山　　誠

授業の概要・到達目標

経済学わけても経済思想および経済学説に関連するドイツ語文献を精読する。その際、本講義では、近年再評価の著しいドイツ歴史学派の経済思想に焦点を合わせ、制度・慣習に着目する現代経済学の刷新にとってその経済思想がいかに重要な役割を果たしているのかを解説していく。

基本的な経済学のドイツ語文献を精読することを通じてドイツ語読解力を向上すること、ドイツ語圏の経済思想・経済学説にかんする知識を高め、その経済思想がもつ有用性を理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回目：イントロダクション
第2回目：「歴史学派」の発展 ― 「最新歴史学派」の経済思想
第3回目：W. ゾンバルトにおける「資本主義」概念の提起
第4回目：W. ゾンバルトの企業家観と信用理論
第5回目：W. ゾンバルトの資本主義起源論
第6回目：M. ヴェーバーの「理念型」とシュモラー批判
第7回目：M. ヴェーバーにおける「資本主義の精神」
第8回目：J. A. シュンペーターの資本主義発展の理論
第9回目：A. シュピートホフの景気循環論
第10回目：「最新歴史学派」の資本主義終焉論1　ゾンバルトの場合
第11回目：「最新歴史学派」の資本主義終焉論2　シュンペーターの場合
第12回目：歴史学派の波及1　アメリカの場合
第13回目：歴史学派の波及2　イギリスの場合
第14回目a：試験
　　b：正答解説

履修の注意点

必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。

準備学習の内容

文献は必ず読んだうえで授業に出席すること。また文法, 構文, 内容について不明な点があれば授業で質問すること。

教科書

初回授業時に文献のコピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

授業への貢献度60%, レポートの成績40%で評価する。

その他

初回の授業には必ず出席すること。特段の事情がない限り、秋学期の原典講読も履修すること。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅲ	2単位
	3年次

専任講師　杉　本　隆　司

授業の概要・到達目標

この授業では、フランスのリセの修了試験（バカロレア）用の教科書を使って、スミス、マルサス、リカード、マルクス、デュルケーム、ケインズ、シュンペーターといった巨匠たちの古典テキストの抜粋をフランス語で読みながら、人口問題、貧困、経済成長、分業、階級、貿易、雇用、貯蓄・投資、合理化、民主主義、不平等、恐慌などをテーマに西欧社会科学の基本的な考え方を学ぶ。

授業内容

1．ガイダンス
2．（1） Démographie, pauvreté et développement selon Malthus et Marx（p.14–）
3．*La suite*
4．（2） La division du travail, ses fonctions, ses formes：Smith, Marx et Durkheim（p.22–）
5．*La suite*
6．（3） Salaire et emploi chez les（néo）classiques et chez Keynes（p.32–）
7．*La suite*
8．（4） Epargne et investissement chez les（néo）classiqueset chez Keynes（p.39–）
9．*La suite*
10.（5） La dynamique économique selon Schumpeter（p.45–）
11. *La suite*
12.（6） Le rôle des échanges internationaux chez Ricardo（p.53–）
13. *La suite*
14. a）試験、b）解説

履修の注意点

1．初回のガイダンスに出席すること。
2．辞書（電子辞書可）・文法書を持参すること。
3．初級文法の知識があることが望ましいが、フランス語を一から学びたいという意欲があれば歓迎。無断欠席お断り。

準備学習の内容

毎回持ち回りで指定の個所を訳してくること。

教科書

Sciences Economiques et Sociales Term ES, NATHAN, 1995

参考書

野原・沖・高見（共著）『経済学史』日本評論社、2019
竹沢尚一郎『社会とは何か』中公新書、2010

課題に対するフィードバックの方法

少人数の場合、授業で直接行うか、Oh-o!Meijiの教員コメント欄を利用する。

成績評価の方法

授業への貢献度70%、試験30%で総合的に評価する。

その他

この授業は秋学期の仏語原典講読と連動しているので合わせて受講するのが望ましい。

科目ナンバー：(PE)IND311J

原典講読Ⅳ	2単位
	3年次

専任講師　杉　本　隆　司

授業の概要・到達目標

春学期に続き、フランスのリセの修了試験（バカロレア）用の教科書を使って、J・Bセー、マルクス、トクヴィル、ウェーバー、デュルケーム、シュンペーター、ブルデューなど巨匠たちのテキストの抜粋をフランス語で読みながら、人口問題、貧困、経済成長、分業、階級、貿易、雇用、貯蓄・投資、合理化、民主主義、不平等、恐慌などをテーマに西欧社会科学の基本的な考え方を学ぶ。

授業内容

1．ガイダンス
2．（7） Les démarches sociologiques de Durkheim et Weber（p.60–）
3．*La suite*
4．（8） L'analyse des classes sociales chez Marx（p.68–）
5．*La suite*
6．（9） Le processus de rationalisation des activités sociales chez Weber（p.76–）
7．*La suite*
8．（10） Le développement de la démocratie selon Tocqueville（p.84–）
9．*La suite*
10.（11） Les approches théoriques contemporaines de l'inégalité des chances（p.91–）
11. *La suite*
12.（12） Aux origines des crises（p.99–）
13. *La suite*
14. a）試験、b）解説

履修の注意点

1．初回のガイダンスに出席すること。
2．辞書（電子辞書可）・文法書を持参すること。
3．初級文法の知識があることが望ましいが、フランス語を一から学びたいという意欲があれば歓迎。無断欠席お断り。

準備学習の内容

毎回持ち回りで指定の個所を訳してくること。

教科書

参考書

Sciences Economiques et Sociales Term ES, NATHAN, 1995

課題に対するフィードバックの方法

少人数の場合、授業で直接行うか、Oh-o!Meijiの教員コメント欄を利用する。

成績評価の方法

授業への貢献度70%、試験30%で総合的に評価する。

その他

この授業は、各回読み切りなので春学期・仏語原典講読の受講を必須としないが、春学期と連動しているので合わせて受講するのが望ましい。

科目ナンバー：(PE)IND311J	
原典講読Ⅲ	2単位
	3年次
兼任講師　三　原　武　司	

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業では、社会学の基礎的な理論から現代社会のさまざまなテーマを広くあつかう英語文献を講読します。
【到達目標】
（1）英語文献の読解力を養う。
（2）社会学の基礎的な理論を理解する。
（3）現代社会のさまざまなテーマを社会学理論の視点から理解する。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　社会学とはどのような学問か
第3回目　社会学的想像力
第4回目　オーギュスト・コント
第5回目　エミール・デュルケム
第6回目　カール・マルクス
第7回目　マックス・ウェーバー
第8回目　マーティノー、デュボイス
第9回目　シンボリック相互作用論
第10回目　機能主義
第11回目　コンフリクト理論
第12回目　ポストモダン理論
第13回目　ミクロ社会学とマクロ社会学
第14回目　まとめ

履修の注意点

毎回の授業は、受講生による報告と教員による解説を中心とします。第1回目に授業の運営方法についての詳細を説明します。

準備学習の内容

予習として各回の該当箇所を事前に読んできてください。復習では関連文献などを読み知識を広げてみてください。個人差がありますが、学習には、レポート課題とあわせて全14回で30時間前後が必要であると考えられます。

教科書

Giddens, Anthony, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum, and Deborah Carr, 2024, *Essentials of Sociology*, 9th edition, New York: W. W. Norton & Company. 購入は不要です。

参考書

授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題のフィードバックについては、提出の翌週以降の授業中に行います。

成績評価の方法

毎回の報告：70%
学期末レポートの提出：30%

その他

科目ナンバー：(PE)IND311J	
原典講読Ⅳ	2単位
	3年次
兼任講師　三　原　武　司	

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業では、「原典講読Ⅰ」に引きつづき、現代の社会学理論や現代社会のさまざまなテーマを広くあつかう英語文献を講読します。
【到達目標】
（1）英語文献の読解力を養う。
（2）社会学の基礎的な理論を理解する。
（3）現代社会のさまざまなテーマを社会学理論の視点から理解する。

授業内容

第1回目　イントロダクション
第2回目　グローバリゼーション1：環境
第3回目　グローバリゼーション2：政治
第4回目　グローバリゼーション3：文化
第5回目　グローバリゼーション4：経済
第6回目　グローバリゼーション5：技術
第7回目　グローバリゼーションと社会運動
第8回目　グローバリゼーションの促進要因
第9回目　グローバリゼーションと個人の生活1：個人主義と労働の変化
第10回目　グローバリゼーションと個人の生活2：ポピュラーカルチャー
第11回目　グローバリゼーションとリスク
第12回目　グローバリゼーションと格差
第13回目　グローバリゼーションの概念化
第14回目　まとめ

履修の注意点

毎回の授業は、受講生による報告と教員による解説を中心とします。第1回目に授業の運営方法についての詳細を説明します。

準備学習の内容

予習として各回の該当箇所を事前に読んできてください。復習では関連文献などを読み知識を広げてみてください。個人差がありますが、学習には、レポート課題とあわせて全14回で30時間前後が必要であると考えられます。

教科書

Giddens, Anthony, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum, and Deborah Carr, 2024, *Essentials of Sociology*, 9th edition, New York: W. W. Norton & Company. 購入は不要です。

参考書

授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題のフィードバックについては、提出の翌週以降の授業中に行います。

成績評価の方法

毎回の報告：70%
学期末レポートの提出：30%

その他

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ	2単位
	3年次
助教　土　肥　有　理	

授業の概要・到達目標
Fascism a very short Introductionを基礎文献とし、ファシズムについて学びます。また、非民主的な体制とは何かも学びます。

授業内容
第1回目：オリエンテーション／訳読
第2回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第3回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第4回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第5回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第6回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第7回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第8回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第9回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第10回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第11回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第12回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第13回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第14回目：テキスト訳読と内容に関する議論／まとめ

履修の注意点
予習範囲は事前に指示します。電子辞書を含む辞書があると望ましいです。

準備学習の内容
わからない単語は事前に調べるなどしておいてください。

教科書
Kevin Passmore, Fascism a very short Introduction, Oxford, 2016
※コピーして事前配布します。

参考書
特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法
訳文を検討し、補足事項などを紹介します。

成績評価の方法
授業への取り組みの積極性（訳文の検討を含む）50%、授業への参画度50%

その他
私語や授業中のスマートフォンの使用は控えること。

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ	2単位
	3年次
助教　土　肥　有　理	

授業の概要・到達目標
Fascism a very short Introductionを基礎文献とし、ファシズムについて学びます。また、非民主的な体制とは何かも学びます。

授業内容
第1回目：オリエンテーション／訳読
第2回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第3回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第4回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第5回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第6回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第7回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第8回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第9回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第10回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第11回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第12回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第13回目：テキスト訳読と内容に関する議論
第14回目：テキスト訳読と内容に関する議論／まとめ

履修の注意点
予習範囲は事前に指示します。通年に関わるため、前期と合わせて履修することが望ましいです。

準備学習の内容
わからない単語は事前に調べるなどしておいてください。

教科書
Kevin Passmore, Fascism a very short Introduction, Oxford, 2016
※コピーして事前配布します。

参考書
特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法
訳文を検討し、補足情報などを紹介します。

成績評価の方法
授業への取り組みの積極性（訳文の検討を含む）50%、授業への参画度50%
就活等で欠席が多くなりそうな場合はご相談ください。

その他
私語や授業中のスマートフォンの使用は控えること。

科目ナンバー：(PE)IND311J

応用総合講座A【2022年度以降入学者】 応用総合講座Ⅰ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

教授　水戸部　由　枝

授業の概要・到達目標

本授業は、ジェンダー／セクシュアリティの視点から、現代社会の問題や事象を理解することを目的とする。
ジェンダー／セクシュアリティというと、女性やセクシュアル・マイノリティだけの問題だと捉えられがちだが、決してそうではない。性・性差と無関係に生きている人などいない。男らしくあること、女らしくあること、誰を好きになり、誰と性的関係を結ぶかなどは、私たちの思考や行為を形作っている。そして、私たちの多くは、こうしたジェンダー規範、性別二元論、異性愛主義などとしてあらわれる性や性差を、ほとんど疑うことなく、当たり前で「自然」なことだと思い込んでいる。しかし近年、これまで当たり前だと思われてきた性・性差についての考え方は、フェミニズムやトランスジェンダーをめぐる運動実践、またアカデミアの研究などによって、新しい展開を迎えている。
本授業は、学内外の研究者によるオムニバス形式の講義を通じて、ジェンダー表象、男性性、ゲイ・トランスジェンダー、遊女・遊郭、女子割礼、ラブドール、科学技術、政治哲学など、多岐にわたるテーマについて最新の議論を学べるよう計画している。受講生は、講義を聞き、ディスカッション授業による対話を通して自ら考えることで、自分たちの性・性差についての知識や認識を相対化し、新たな視点と知恵を身につけて欲しい。
（コーディネーター：碇陽子・重田園江・前田更子・水戸部由枝）
到達目標：ジェンダー／セクシュアリティに関して多角的に考える力をつけること。

授業内容

授業内容（全14回）
９月25日　水戸部由枝・高峰修（共に明治大学政治経済学部）
「イントロダクション：本講義の説明」
10月２日　宮本雅也（明治大学政治経済学部：政治哲学・規範的政治理論）
「社会における権力関係から考える「弱者男性」問題」
10月９日　平野邦輔（慶應義塾大学経済学部：文化人類学）
「性的指向とエイジングのインターセクショナリティ
：中高年ゲイ男性を対象とした互助組織の事例から」
10月16日　兼子歩（明治大学政治経済学部：アメリカ社会史・ジェンダー研究）
「「有害な男性性」から考えるマスキュリニティ」
10月23日　石山徳子（明治大学政治経済学部：地理学）
「アメリカ先住民族とジェンダー／セクシュアリティ」
11月６日　宮田りりぃ（関西大学人権問題研究室：教育社会学）
「トランスジェンダーと社会問題」
11月13日　重田園江（明治大学政治経済学部）
「ディスカッション」
〈中間レポート提出〉
11月20日　横山百合子（国立歴史民族博物館名誉教授：日本近世史・ジェンダー史）
「近世新吉原遊郭の実像と現代」
11月27日　水溜真由美（北海道大学大学院文学研究院：社会思想史・日本文学）
「「遊女」を描く女性作家たち」
12月４日　阿古智子（東京大学大学院総合文化研究科：現代中国研究）
「現代中国における草の根フェミニズム」
12月11日　林愛美（明治大学研究推進員（学振特別研究員-CPD）：文化人類学）
「現代の「女子割礼」／女性器切除：東アフリカの事例から」
12月18日　濱野ちひろ（ノンフィクションライター：文化人類学）
「ラブドールやセックスロボットから身近な他者とは何かを考える」
１月８日　藤垣裕子（東京大学大学院総合文化研究科：科学技術社会論）
「科学技術とジェンダー：何故D&Iがイノベーションの推進に役立つのか」
１月15日　前田更子（明治大学政治経済学部）
「ディスカッション」
〈学期末レポート提出〉

履修の注意点

・レジュメ等の資料がある場合は、Oh-o! Meiji の「授業内容・資料」にて公開します。
・いくつかの講義は、zoomによるリアルタイム配信になります。その場合は教室から講義を聞きます。

準備学習の内容

新聞雑誌記事や文献等を読んで、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題に関心を持つようにしてください。

教科書

教科書は特に指定しません。

参考書

授業で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容紹介や質疑応答やディスカッションを通じて、課題内容への理解を深める。

成績評価の方法

中間レポート（40%）と学期末レポート（40%）、授業貢献度（20%）で成績評価をします。

その他

・各回の講義テーマは、場合により変更になることがあります。
・授業に関する質問・意見・相談等はymitobe@meiji.ac.jp宛にお願いします。その際、必ず「氏名・組・番号」をメールに記入してください。

科目ナンバー：(PE)IND311E

応用総合講座B【2022年度以降入学者】 応用総合講座Ⅱ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

教授　伊　藤　　剛

授業の概要・到達目標

This omnibus course is provided by several professors who belong to the Political Science department, School of Political Science and Economics. Topics of individual lectures depend on the instructors' expertise, and this course will thus cover a variety of issues on politics and international relations.
The course is designed for international students, students planning to study abroad, and students interested in learning politics and international relations in English. Students will be expected to write a final paper towards the end of the course, and thus students need a certain command of English to fulfill the course requirement. The class aims to deepen students' understanding of the multifaceted issues on the field. Those unaffiliated with the School of Political Science and Economics are also welcome and encouraged to take the course.

授業内容

The purpose of this class is for students to deepen their knowledge of current issues on politics and international relations and to communicate about them in English.
【Schedule, Lecturer】
September　22, Orientation, by ITO, Go
September 29, Election and Referendum, by IDA, Masamichi
October 6, Anarchism as a Political Alternative, by OMODA, Sonoe
October 13, Egalitarian Justice, by MIYAMOTO, Masaya
October 20, Population, by KATO, Akihiko
October 27, States and Development, by HORIKANE, Yumi
November 10, National and International Security, by KAMAE, Ippei
November 17, Nuclear Weapons and Deterrence, by KAMAE, Ippei
November 24, International Relations in the Middle East, by YAMAGUCHI, Matahiro
December 1, Japan and the Middle East, by YAMAGUCHI, Matahiro
December 8, China and Europe, by LI, Yongshu
December 15, China and Japan, by LI, Yongshu
January 12, Summary, by ITO, Go
January 19m Essay Exam, monitored by ITO, Go

履修の注意点

This course is based on face-to-face instruction. However, please note that a limited number of classes could be delivered via on-demand video. In such cases, advance notice will be given through the Oh-o! Meiji System.

準備学習の内容

The purpose of this class is for students to deepen their knowledge of current issues on politics and international relations and to communicate about them in English. A certain level of English proficiency will be needed.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

To be addressed during class or via Oh-o!Meiji.

成績評価の方法

On the final day of the course, an essay exam will be assigned. It will be conducted in class.

その他

科目ナンバー：(PE)IND311J

応用総合講座Ｃ【2022年度以降入学者】 応用総合講座Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

教授　平　口　良　司

授業の概要・到達目標

本講座では、業界の専門家を招き、企業人として役に立つ金融市場に関する基本的な知識を身につけると共に、ビジネスにおける様々な価格変動によるリスク（市場リスク）の分析把握と、リスク管理の基本的な知識の習得を通じて、金融リテラシーの強化とその知識を実践的に活用する力（金融ケイパビリティ）の向上を目指すことを目的としています。

授業内容

政治経済学部では３・４年次に共通応用科目として「応用総合講座」を設け、その年度の基本テーマをもとに特色ある講義を行っています。本年度は、「ビジネスと市場リスク」をテーマとして、金融庁所管法人の自主規制団体である金融先物取引業協会から専門家をお呼びして、市場リスク管理の基本的な講義を実際のビジネスの観点から行います。
本講義は、学生の就職先であるメーカー、商社、運輸、金融などのビジネスの世界において重要な業務である商品、資源、金利、株、通貨等の価格変動に対する企業のリスク管理に関しての基礎的な知識から、基本的な実践的対応までを学びます。また、日本経済新聞社グループの情報配信ベンダーであるQUICK社の協力のもと、ビジネス界で実際に広く利用されている情報端末に直接アクセスして、リアルなビジネス世界の情報に接していただきます。また、各自が企業の財務部門の一担当者となったことを想定し、外国為替の価格変動に対するリスク管理（損失の回避・低減の実例取引）を、シミュレーションゲームを通じて実践し、各自のリスク管理が有効であったかの検証を行います。

1．ガイダンス
　なぜ、ビジネスで成功するために、市場リスクを管理する必要があるのか
　平口良司（コーディネーター）、山﨑哲夫、北村剛志
2．金融機関を取り巻くリスクの全体像／債券価格とイールドカーブ<後者On Demand>
　小早川周司、関根篤史
3．市場リスクの定義
　北村剛志（山﨑哲夫）
4．価格変動のメカニズム（なぜ価格は変動するのか？～価格発見機能など）
　山﨑哲夫（北村剛志）
5．企業ビジネスにおける市場価格変動の影響
　山﨑哲夫（北村剛志）
6．個人における市場価格変動の影響
　北村剛志（山﨑哲夫）
7．金融機関業務における市場業務の変遷と価格変動の影響
　山﨑哲夫（北村剛志）
8．ヘッジとスペキュレーション
　北村剛志（山﨑哲夫）
9．金融商品取引・コモディティ商品取引と市場
　北村剛志（山﨑哲夫）
10．市場リスクマネジメントとは
　北村剛志（山﨑哲夫）
11．市場リスクマネジメント（1）シミュレーションゲームの準備
　通貨オプション・為替先物予約の概要
　山﨑哲夫（北村剛志）
12．市場リスクマネジメント（2）シミュレーションゲーム、結果レビュー
　山﨑哲夫（北村剛志）
13．市場リスクマネジメント（3）シミュレーションゲーム、結果レビュー
　北村剛志（山﨑哲夫）
14．投資教育と金融リテラシーに関しての考察・定着度確認テスト
　平口良司(コーディネーター)、北村剛志

履修の注意点

履修教室は、メディア教室となります。一人一台PCが利用できます。

準備学習の内容

随時授業内で示します。

教科書

随時紹介します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題の後で解説を行います。

成績評価の方法

出席および、期末の定着度テストで評価します。

その他

科目ナンバー：(PE)IND311E

応用総合講座Ｄ〔M〕【2022年度以降入学者】 応用総合講座Ⅳ〔M〕【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

教授　武　田　　巧

授業の概要・到達目標

This course uses online video lectures to explore contemporary business, economic, political, and social issues in Thailand and Vietnam. Due to its popularity—it attracted approximately 800 students university-wide in both the 2024 and 2025 academic years—the course will resume in the 2026 academic year with the same faculty. In 2026, however, it will be offered as an Applied Comprehensive Course within the School of Political Science and Economics. Lectures will be delivered by four experts invited from partner universities in Thailand and Vietnam. Since the lectures are in English, students with sufficient English proficiency are encouraged to enroll. Four quizzes will be administered at the end of each lecturer's three sessions.
The course aims to provide students with a foundational understanding of the current economic, political, and social conditions and challenges facing both countries while fostering an understanding of the region's growing economic and geopolitical importance to Japan.
Professor TAKEDA Takumi and Professor KOBAYAKAWA, Shuji are the coordinators for this course.

授業内容

〈September 21〉 Introduction (Explanation of course outline, grading policy, etc.)
Professor TAKEDA, Takumi, School of Political Science and Economics
Senior Assistant Professor SAITO, Masami, School of Political Science and Economics
The first lecture will introduce the four lecturers of the course, provide an overview of the course, explain the expected assignments, how your questions will be answered, and how you will be graded.
〈September 28, October 5 and 12〉 Business and Economy in Thailand (1)(2) & (3)
Dr. TANAMEE, Danai
Lecturer, Faculty of Economics, Srinakharinwirot University, Thailand
What do you think of Thailand's economy: the origin of the 1997 Asian financial crisis, a major recipient of FDI from Japan, a flood of Japanese cars, many high-rise buildings in Bangkok, a tourism powerhouse, a middle-income trap, a widening income gap, a rapidly declining birthrate, etc.? The three classes will examine the country's current situation from different perspectives. Dr. TANAMEE's second lecture will delve deeper into the broad themes outlined above, and his third one will elaborate and finalize his explanation on the topics. A quiz will be given after the third lecture. Answers are due in one week.
〈October 19, 26 and November 9〉 Thai Politics and Society (1)(2) & (3)
Dr. NGARMKHAM, Nathiya
Lecturer, Faculty of Social Sciences, Srinakharinwirot University, Thailand
The political situation in Thailand is anything but stable. Since 1932, when Thailand became a constitutional monarchy, there have been 19 coup attempts. What is at the root of all this, and where is the country headed under the strong influence of China? The three classes will first introduce the history of Thailand and then examine the country's current political situation, diplomacy and social issues from different perspectives. Her second lecture will delve deeper into the broad themes outlined above, and her third one will elaborate her explanation of the above topics. A quiz will be given after her third one. Answers are due in one week.
〈November 16, 23 and 30〉 Business and Economy in Vietnam (1)(2) & (3)
Dr. TRAN, Khang Nguyen
Lecturer, Faculty of International Relations, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University
Vietnam has continued to develop rapidly with the introduction of Doi Moi in 1986, and the introduction of foreign capital, resulting in a booming manufacturing industry. The average age of the population is 33.3 years as of 2023, and Japanese companies continue to make inroads into the country. His three classes will discuss the current state of the Vietnamese economy and its prospects. And his third lecture will elaborate and finalize his explanation of the above topics. A quiz will be given after his third lecture. Answers are due in one week.
〈December 7, 14 and 21〉 Politics and Society in Vietnam (1)(2) & (3)
Dr. SON,
Vietnam is a socialist country with one-party rule by the Communist Party. While the economy is growing, it is necessary to focus on the disparities between urban and rural areas, poverty among ethnic minorities, problems in the informal sector, underdeveloped urban infrastructure, transportation problems and so on. His three classes will identify these issues and explore how to solve them. And his third lecture will elaborate and finalize his explanation of the above topics. A quiz will be given after his third lecture. Answers are due in one week.
〈January 18, 2027〉 Summary
Professor TAKEDA, Takumi, School of Political Science and Economics
Professor KOBAYAKAWA, Shuji, School of Political Science and Economics
The final lecture will summarize the whole course.

履修の注意点

This course is delivered via online video lectures in English. Therefore, students with a sufficient level of English are encouraged to take this course. In addition, students should ensure that you are able to take the course online. On-demand videos will be made available to students by 9:00 a.m. each Monday according to the schedule above.

準備学習の内容

It is strongly recommended that each student conduct his/her own research on the topics presented in the syllabus.

教科書

Not specified.

参考書

Not specified.

課題に対するフィードバックの方法

There will be four sets of quizzes for you to take at the end of each lecturer's three classes, after the 4th, 7th, 10th, and 13th classes. Each of your score will be posted on Oh-o! Meiji system without your name. You can give any questions on Oh-o! Meiji system. The four experts will answer your questions and comment on Oh-o! Meiji system whenever necessary.

成績評価の方法

The total score of the four quizzes will be your grade (100%). Each quiz is worth 10 points, so simply multiply your total score by 2.5. That will be your final grade. Please note that the quizzes are due in one week and responses submitted after the deadline will not be accepted under any circumstances. Please note that deadlines will not be extended due to university festival and year-end holidays.

その他

科目ナンバー：(PE)IND411E

応用総合講座F【2022年度以降入学者】 応用総合講座Ⅶ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

教授　武　田　　巧

授業の概要・到達目標

This omnibus course, "Anatomy of the Japanese Economy," features seven faculty members from the Departments of Economics and Policy Studies in the School of Political Science and Economics. The professors will approach the Japanese economy from their respective areas of expertise and provide lectures in English. Through multifaceted approaches to population issues, the labor market, post-bubble economic policies, money and financial issues, trade issues, and statistical analysis of macroeconomic data, the course aims to deepen students' knowledge of the current Japanese economy. This course is designed for international students, students planning to study abroad, and students interested in learning about the Japanese economy in English. Students will be expected to submit six short reports in English; therefore, students with a sufficient command of English are encouraged to enroll.

授業内容

The classes will proceed as follows:
〈1st Class: September 24〉
TAKEDA, Takumi on Orientation
〈2nd & 3rd Classes: October 1 & 8〉
KATO, Hisakazu on Population Issues in Japan（1）&（2）
〈4th & 5th Classes: October 15 & 22〉
HARA, Hiromi on Labor Market in Japan（1）&（2）
〈6th &7th Classes: November 5 & 12〉
SAITO, Masami on Post-Bubble Economic Policies in Japan（1）&（2）
〈8th & 9th Classes: November 19 & 26〉
KOBAYAKAWA, Shuji on Money and Financial system in Japan（1）&（2）
〈10th & 11th Classes: December 3 & 10〉
MIYAZAKI, Eksan on Trade Issues in Japan（1）&（2）
〈12th &13th Classes: December 17 & January 14〉
SEKINE, Atsushi on Statistical Analysis of Japanese Macroeconomic Data（1）&（2）
〈14th Class: January 21〉
TAKEDA, Takumi on Summary

履修の注意点

This course is taught in English. Therefore, students with a sufficient command of English are encouraged to take this course. And this course is based on face-to-face instruction, but please note that a limited number of classes may be delivered via on-demand video. In such cases, advance notice will be given through the Oh-o! Meiji system.

準備学習の内容

Follow the instructions of each instructor.

教科書

Not specified.

参考書

Not specified.

課題に対するフィードバックの方法

The assignment is to write a short report (up to 2 pages, A4 size) in English on the content of each professor's two lectures after the 3rd, 5th, 7th, 9th, 11th, and 13th lectures. Each professor will evaluate and, if necessary, comment on the submitted reports using the Oh-o! Meiji system. Questions are accepted through Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

Grades are assigned based on the evaluation of six short reports (100%).

その他

科目ナンバー：(PE)IND411J

応用総合講座G【2022年度以降入学者】 応用総合講座Ⅶ【2021年度以前入学者】	2単位 1年次

教授　牛　山　久仁彦

授業の概要・到達目標

地方分権の時代にあって、自治体の自己決定システムとしての首長や議会の役割が重要になっている。本講座では、こうした現状をふまえ、地域における政治・経済のキーパーソンとして活躍している自治体のトップを招き、現実の自治体行政の動きと地域の自己決定システムである地域政治の実態を学ぶ。

授業内容

ゲスト講師が分担し、行財政改革や条例制定など各自治体の特徴的な取り組みや地域政治の現状について講義を行う。
毎回、自治体首長にゲスト講師としてお越しいただきます。
授業内容、 担当講師は決定次第、Oh-o!Meijiクラスウェブで公開します。
(2025年度参考：ゲスト講師)
吉川市長、戸田市長、東村山市長、国分寺市長、香取市長、前大和市長、文京区長、元大和市長、大田区長、境町長

履修の注意点

地方自治、地域政治の基本的な知識を習得しておくことが望ましい。

準備学習の内容

地方自治、地域政治の基本的な知識を習得しておくことが望ましい。

教科書

教科書は用いない。

参考書

参考文献については、各担当者が適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の冒頭で、前の回の課題についてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加・小レポートなど、平常点と最終回に行う時間内レポートにより評価する。

その他

科目ナンバー：(PE)POL391E

政治学特殊講義C【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　李　永シュ

授業の概要・到達目標

This class focuses on the history from the first point of contact between Europe and Asia to the present, and deepens understanding of international relations and politics by looking at various political events. However, the content of the lessons is not limited to historical events, but covers a wide range of theory, humanity, food, and art. The content and difficulty level of the class is at the beginner level of international relations theory, and no basic knowledge is required. It is also possible to adjust the content based on student feedback during each class survey.
"Attainment target"
Understanding the basic contents of European and Asian history and international relations theory, and being able to analyze them.

授業内容

Lesson 1 Introduction
Lesson 2 Is political science a science?
Lesson 3 International Relations Theory
Lesson 4 Land Silk Road
Lesson 5 Maritime Silk Road
Lesson 6 World War I
Lesson 7 World War II
Lesson 8 Cold War until the 1970s
Lesson 9 Cold War up to the 1980s
Lesson 10 The End of the Cold War
Lesson 11 Asia and Europe in the 1990s
Lesson 12 Asia and Europe in the 2000s
Lesson 13 Asia and Europe in the 2010s
Lesson 14 Summary

履修の注意点

準備学習の内容

N/A

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

feedback on assignments (including answers to questions and corrections) will be provided during the following week's class.

成績評価の方法

Students will be evaluated based on their contribution to class (70%) and report (30%). A score of 60% or higher will allow you to earn credits. Details will be explained in the first class.

その他

If you have any concerns or questions about classes, please feel free to contact us.

科目ナンバー：(PE)POL391J

政治学特殊講義C【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

助教　小　川　　天

授業の概要・到達目標

本科目は、独裁に関する歴史的な文献などを参照し、それらの整理と検討を進めていくものである。現代日本において、独裁という言葉は時として曖昧な意味で使用されてしまう。本科目では、古代から近代における独裁にかかわる事項について、その歴史の検討を通じて理解を深めることを目的とする。

授業内容

第1回目　はじめに(歴史における独裁)
第2回目　古典古代と独裁(1)
第3回目　古典古代と独裁(2)
第4回目　古典古代と独裁(3)
第5回目　絶対主義と主権論(1)
第6回目　絶対主義と主権論(2)
第7回目　革命と独裁(1)
第8回目　革命と独裁(2)
第9回目　革命と独裁(3)
第10回目　革命と独裁(4)
第11回目　ファシズム
第12回目　超国家主義(1)
第13回目　超国家主義(2)
第14回目　各回のまとめ

履修の注意点

なし

準備学習の内容

各回で取り扱う事項（時代や地域など）を事前に提示するので、予習として基礎的な知識を得ておくことが望ましい。また、講義中で紹介した資料を復習として再読することが望ましい。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

講義の終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の講義で質問等に回答する。

成績評価の方法

リアクションペーパーを含む授業への参加(30%)、期末レポート(70%)。対面形式での試験は行わない。

その他

秋学期の「政治学特殊講義D」と内容の関連がある。併せて受講することが望ましい。

科目ナンバー：(PE)POL391J

政治学特殊講義Ｄ【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

助教　小　川　　天

授業の概要・到達目標

本科目は、独裁に関する理論的な文献などを参照し、それらの整理と検討を進めていくものである。現代日本において、独裁という言葉は時として曖昧な意味で使用されてしまう。本科目では、現代における独裁にかかわる事項について、その理論の整理を通じて理解を深めることを目的とする。

授業内容

第１回目　はじめに(現代政治における独裁)
第２回目　独裁概念の歴史的変遷
第３回目　多数の暴政(１)
第４回目　多数の暴政(２)
第５回目　社会的専制(１)
第６回目　社会的専制(２)
第７回目　権威主義(１)
第８回目　権威主義(２)
第９回目　君主制(１)
第10回目　君主制(２)
第11回目　緊急権
第12回目　全体主義(１)――政治体制
第13回目　全体主義(２)――思考と行動
第14回目　各回のまとめ

履修の注意点

なし

準備学習の内容

各回で取り扱う事項（理論や概念など）を事前に提示するので、予習として基礎的な知識を得ておくことが望ましい。また、講義中で紹介した資料を復習として再読することが望ましい。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

講義の終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の講義で質問等に回答する。

成績評価の方法

リアクションペーパーを含む授業への参加(30%)、期末レポート(70%)。対面形式での試験は行わない。

その他

春学期の「政治学特殊講義C」と内容の関連がある。併せて受講することが望ましい。

科目ナンバー：(PE)POL491E

政治学特殊講義Ｅ【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅴ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

特任教授　アベシンヘ　ムディヤ

授業の概要・到達目標

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-764601" data-gramm="false"〉**Course Summary**
This course provides an in-depth analysis of South Asian politics with a focus on political systems, governance structures, political processes, and major political issues in the region. It examines the historical evolution of South Asian politics from pre-colonial and colonial periods to post-independence political developments, highlighting the impact of colonial policies on state formation, constitutional development, and political modernization. The course further explores key themes such as nation-building, democratization, ethnic conflict, religious extremism, terrorism, regionalism, security dynamics, political economy, and social change. Special attention is given to regional power dynamics, great power rivalry, and the involvement of extra-regional actors in South Asia. Through comparative analysis and case studies, students will develop a nuanced understanding of the complexities and contemporary challenges of South Asian politics.
Course Objectives
After the successful completion of this course module, students will be able to:
1. Identify and explain the common characteristics and patterns of political systems and processes in South Asia.
2. Interpret the historical, colonial, and post-colonial factors that shaped political and governmental transformations in the region.
3. Analyze challenges related to nation-building, democratic governance, ethnic conflict, and security in South Asian states.
4. Apply comparative and functional analytical approaches to evaluate political, economic, and regional cooperation prospects in South Asia.

授業内容

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-184609" data-gramm="false"〉**Course Content**
1st week: Introduction to South Asian Politics
-Understanding south Asia as a geopolitical geo-economics and cultural region
2nd week: Historical and colonial legacies shaping south Asian politics
-Pre-colonial political setting (pre and medieval political history)
-Political and constitutional reforms introduced by British colonial rules and its impact: India and Sri Lanka
3rd week: Nation-Building process and national movements in South Asia
-Indian national movement and its impact on Nation building process in the region
-Constitutional reform movement in Sri Lanka and Muslim league in India
4th week: Rise of Ethno nationalism and Partition in South Asia
-Indo-Pakistan, Punjab partition issue and two country solution
-Independence of Bangladesh
5th week: Democratization and party politics in South Asia
-Political party system in India, Pakistan and Bangladesh and Sri Lanka
6th week: Border issues in South Asia
-Indo Pakistan (Kashmir issue)
-India Bangladesh
-India Sri Lanka
7th week: Ethnic conflicts and terrorism in South Asia
-Hindu Muslim conflict in India
-Sinhala -Tamil conflict in Sri Lanka
-Bangla- Chittagong hill tracts
8th week: Religious extremism in South Asia
-Islamic Extremism in Pakistan
-Hindu extremism in India
-Sinhala- Buddhist extremism and Islamic extremism in Sri Lanka
09th week: Regionalism corporation in South Asia
-South Asian Associations for Regional Corporation(SAARC)
10th week: Gender and Politics in South Asia
-Gender roles and political representation
-Women's empowerment and policy issues
11th week: Decentralized Governance in South Asia
-Decentralized governance in India, Bangladesh and Sri Lanka
12th week: Power dynamics and great power politics in the region
-Indo-China rivalry
-Indo Pakistan rivalry
13th Week: Extra regional Powers' involvement in South Asia
-China's BRI Initiatives in the region
-Indo-pacific strategy and US involvement
-QUAD in the region
14th week: Issues and challenges democratic governance in South Asia
-Democratization and rise of authoritarianism

履修の注意点

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-470837" data-gramm="false"〉Students who wish to join this module has to be enrolled prior to the course begins. Follow the guidelines provided by the graduate school.

準備学習の内容

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-996576" data-gramm="false"〉Students are expected to complete the assigned readings and review relevant materials uploaded to the learning platform prior to each class session. After each session, students should revisit lecture content, reflect on discussions, and review supplementary readings to strengthen their understanding of key concepts and prepare for subsequent topics and assessments.

教科書

参考書

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-99449" data-gramm="false"〉Paul R. Brass, ed. (*2010). Routledge Handbook of South Asian Politics: India, Pakistan, Bangladesh, Sri Lanka and Nepal.* London: Routledge
Corbridge. S and John Harriss. (2000). *Reinventing India: Liberalisation, Hindu Nationalism and Popular Democracy.* Cambridge: Polity Press.
Devotta Neil. ed (2015). An introduction to South Asia Politics. London and New York: Routledge
Mohan V. (2021), Changing Political Dynamics in South Asia: The Belt and Road Initiative and Its Effects on Indian Regional Hegemony, Journal of Indo-Pacific Affairs, Air University Press
Christian, David. (2000). Silk roads or steppe roads? The silk roads in world history. In: Journal of World History 11 (1): 1-26
Croissant, Aurel and Lorenz Philip. (2018). Comparative Politics of Southeast Asia: An Introduction to Government and Politics and Political Regime. Switzerland: Springer
Frank, Andre Gunder. (1998). Reorient: Global Economy in the Asian Age. Berkeley: University of California Press.
Wirada, Howard J. and Lena Tan (Ed). (2005). Comparative Politics: Critical concepts in Political science. Vol.3. The politics of Asia. London: Routledge
Paranjpe, S. (1985). India and the South Asia since 1971. Radiant.
Fatima, Q., &Jamshed, A. (2015). The Political and Economic Significance of Indian Ocean: An Analysis. South Asian Studies,30(02), 73-89. Retrieved from https://pdfs.semanticscholar.org/9ba6/c8b2ad5a78bb30bd7741b87ea59823ef3a96.pdf.

課題に対するフィードバックの方法

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-286852" data-gramm="false"〉After screening the submitted assignments, Specific and targeted comments will be provided concerning the various aspects of the assignment, referring to specific criteria or guidelines for a comprehensive evaluation. Constructive criticism, presented in a growth mindset, will guide the student's improvements without judgment. This would help students understand their strengths, weaknesses, and areas for improvement.

成績評価の方法

〈div class="ql-editor" contenteditable="true" data-qb-tmp-id="lt-654809" data-gramm="false"〉Final Exam 60%, Assignment 20%, Attendance 20%

その他

科目ナンバー：(PE)POL491E

政治学特殊講義Ｅ【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅴ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

特任講師　ブルチャー　ミヒャエ

授業の概要・到達目標

Translation and Conceptual Change in the Early Meiji Period
This course will take a closer look at how key terms of modern Japanese political thought, such as the Japanese words for "rights" and "society," were formed and took root in early Meiji Japan. It will ask whether these Japanese neologisms are properly understood as "translation words" for "Western concepts."
The course will pursue these questions by taking a closer look at English texts that served as catalysts for conceptual change in the early Meiji era. It will demonstrate that the problems faced by Japanese translators were not so much caused by a conceptual " deficiency" of Japanese, but mirror difficulties of conceptualization English writers were facing at the same time. What bears notice is how quickly some of these issues could be resolved with the conceptual resources provided by Sino-Japanese characters.
The course will thus pursue two objectives at once. On the one hand, students will gain a better understanding of how key concepts in the political lexicon of modern Japanese were formed. Why would the English term "society" have been translated by a Sino-Japanese character compound (shakai 社会) composed of the characters for a "local deity" or "shrine" (sha 社) and a "meeting" or "assembly" (kai 会), for example, and be an inversion of the character compound kaisha 会社 used to render "company" or " corporation" at the same time?
On the other hand, by thinking through the problems faced by translators schooled in Confucian thought in such cases, students will also gain a better understanding of how key terms such as "society" and "rights" function in modern English.

授業内容

Topics covered will include the following:
1. Tokugawa Inellectual and Linguistic Practice
2. The Notion of Japanese "Translation Words"
3. "Civilization" and "Enlightenment"
4. Why Kenri 権利 is "Right"
5. The Power of "Society"
6. Shakai 社会 and Kaisha 会社
7. "Character" and "Spirit"
8. Translating Mill
9. Translating Hobbes
10. Translating Rousseau

(This is not a weekly schedule, as these topics overlap and include recurrent themes.)

履修の注意点

This course will be conducted in English. While it will centrally involve discussion of Sino-Japanese character compounds, it does not presuppose proficiency in Japanese.

準備学習の内容

Weekly readings of 20-30 pages in English prior to each class. The weekly lectures will summarize, explain, and offer interpretations of these texts, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.

教科書

None. Weekly readings will be distributed in class or accessible online.

参考書

Some standard works on the topics of this course are:
Douglas R. Howland, Translating the West: Language and Political Reason in Nineteenth-Century Japan, University of Hawai'i Press 2001.
Indra Levy, ed. Translation in Modern Japan, Routledge 2011.
Joshua A. Fogel, ed. tr. The Emergence of the Modern Sino-Japanese Lexicon, Brill 2015.
Lydia H. Liu, ed. Tokens of Exchange: The Problem of Translation in Global Circulations, Duke University Press 2000.
The approach of this lecture, however, will frequently yield points at variance with positions taken in this literature.

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc).

成績評価の方法

Depending on class size, the grade will be determined by quizzes in addition to participation and an essay.
Attendance and Participation: 14/100 points max.
Quizzes: 75/100 points max. in total
Essay: Optional, to improve grade from score reached through the above
If the class size is small enough for all students to actively engage in discussion and Q&A sessions:
Active Participation: 50%
Response Papers or Essay: 50%

その他

科目ナンバー：(PE)POL491E

政治学特殊講義Ｆ【2022年度以降入学者】 政治学特殊講義Ⅵ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

特任講師　ブルチャー　ミヒャエ

授業の概要・到達目標

Encounters between Europe and East Asia in the History of Political Thought
This course will consider the role of mutual imaginations and encounters between Europe and East Asia in the history of political thought. In 1697, the philosopher Gottfried Wilhelm Leibniz could remark: "I consider it a singular plan of the fates that human cultivation and refinement should today be concentrated, as it were, in the two extremes of our continent, in Europa and China (as they call it), which adorns the Orient as Europe does the opposite edge of the earth." Prior to the nineteenth century and the age of Imperialism, when China began to be portrayed in mostly negative terms, such ideas were widespread.
The course will emphasize the constitutive role of cultural and intellectual exchange between Europe and East Asia in the early modern and modern histories of both regions. The impact that knowledge of China had on the rise of " Rationalism" on the European Continent is frequently overlooked. Likewise, the processes of lexical translation and conceptual change occasioned by cross-cultural encounters are easily confused. In studying a variety of historical encounters between Europe and East Asia, students will consider different ways in which knowledge of and ideas about East Asia and Europe have been transmitted, assimilated, utilized, and produced.

授業内容

Topics covered will include the following:
1. The Iwakura Mission on "The Political Culture of Europe"
2. The Principle of "Nationality" and the "Spirit of Laws"
3. "Liberty" vs. "Despotism": "China" in the Writings of John Stuart Mill
4. "Liberty" vs. "Despotism": "China" in the Writings of Montesquieu
5. "China" in the French Enlightenment
6. The Jesuits and China
7. Leibniz and Confucianism
8. Kaempfer's History of Japan
9. "Dutch Studies" in Tokugawa Japan
10. Perceptions of "the West" in Late Tokugawa Japan

(This is not a weekly schedule, but an overview of topics addressed. Other topics may be added.)

履修の注意点

This course will be conducted in English.

準備学習の内容

Weekly readings of 20-30 pages in English prior to each class. The weekly lectures will summarize, explain, and offer interpretations of these texts, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.

教科書

None. Weekly readings will be distributed in class or accessible online.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc.).

成績評価の方法

Depending on class size, the grade will be determined by quizzes in addition to participation and an essay.
Attendance and Participation: 14/100 points max.
Quizzes: 75/100 points max. in total
Essay: Optional, to improve grade from score reached through the above.
If the class size is small enough for all students to actively engage in discussion and Q&A sessions:
Active Participation: 50%
Response Papers or Essay: 50%

その他

科目ナンバー：(PE)SOC391E	
社会学特殊講義C【2022年度以降入学者】 社会学特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次
特任教授　杉　田　弘　毅	

授業の概要・到達目標

Title: International Politics and the Media
The course will examine the merits and demerits of geopolitics, which has become prominent in international politics in the 21st century, from political, military, and economic perspectives. It will historically analyze the impact of the media on international politics; and consider the desirable role of the media.
The course objectives are:
To understand the geopolitical and geoeconomic trends in the U.S., China, Russia, and Europe that influence international affairs and learn the basics of international politics and economics.
To understand the struggles of the media, which has upheld universal norms such as human rights and freedom in response to geopolitical power.
To consider the role the media should play.

授業内容

Lecture 1 Introduction
Lecture 2 Understanding the Relationship between International Politics and the Media
Lecture 3 Understanding the relationship between the international economy and the media
Lecture 4 What is geopolitics – a media perspective
Lecture 5 What is geoeconomics–a media Perspective
Lecture 6 Media in the U.S.
Lecture 7 Media in Japan
Lecture 8 Media in authoritarian countries
Lecture 9 Media in the Middle East
Lecture 10 Fake news and media
Lecture 11Freedom of the press
Lecture 12 International politics and emerging media
Lecture 13 International cooperation of media
Lecture 14 Final report
Contents are subject to change due to the development of international news.

履修の注意点

The lectures and discussions are conducted in English. Students will write reports in English.

準備学習の内容

Check current news and have opinions about the news

教科書

None

参考書

If students read Japanese publications, I would recommend 国際報道を問いなおす(ちくま新書) by Hiroki Sugita

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide individual feedback for assignments.

成績評価の方法

Class contribution=30%
Reports=70%

その他

None

科目ナンバー：(PE)SOC391E	
社会学特殊講義D【2022年度以降入学者】 社会学特殊講義Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次
特任教授　杉　田　弘　毅	

授業の概要・到達目標

Title: Understanding Japanese Media
The course will give the participants an overview of Japanese media organizations and challenges in the Internet-AI age. Students will learn history of Japan's newspapers and TV broadcasters, and their influence in shaping public opinion. The participants will also be briefed on the Japan's out-going news service for the purpose of having foreign nations understand Japan objectively. Finally, we will discuss about Japanese media reporting on wars in Ukraine and Gaza strip.
The course objectives are:
1 To get a comprehensive understanding of Japan's mass media
2 To acquire the knowledge of media reporting of wars in Ukraine and Gaza strip
3 To learn about role of major media organizations in Internet-AI age

授業内容

Lecture 1 Introduction
Lecture 2 Overall views of Japan's media organizations
Lecture 3 History of Japan's media, newspapers and TV broadcasters
Lecture 4 Ukraine War and Japanese media（1）
Lecture 5 Ukraine War and Japanese media（2）
Lecture 6 Ukraine War and Japanese media（3）
Lecture 7 Ukraine War and Japanese media（4）
Lecture 8 Gaza War and Japanese media（1）
Lecture 9 Gaza War and Japanese media（2）
Lecture 10 Gaza War and Japanese media（3）
Lecture 11 The roles and challenges of the mass media in the Internet age
Lecture 12 Traditional media and Artificial Intelligence
Lecture 13 Discussion about the future of media
Lecture 14 Final report

履修の注意点

Classes will be conducted in English; reports will be written in English

準備学習の内容

Before class: Check current news for 60 mins. Occasionally we will discuss about major news stories.
After class: Review important information provided and learned in class

教科書

None

参考書

Professor may recommend on-line materials at classes.If students read Japanese publication, I will reccomend reading 国際報道を問いなおす、by Hiroki Sugita, professor of this class.

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will provide individual feedback

成績評価の方法

Class contribution=30%
Midterm report=30%
Final report=40%

その他

科目ナンバー：(PE)ECN391J	
経済学特殊講義C【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　アディネガラ，　イヴ

授業の概要・到達目標

この授業では人間社会と自然環境あるいは人間の活動から生じた環境危機に関連する問題（気候変動、資源問題、環境汚染、物質フロー）との接点を理解するために、学際的な分野であるエコロジー経済学の概念や理論を適用する。
本講義では、エコロジーと経済学の双方の知識を統合する全体論的な視点（Holistic Perspective）を採用しながら、経済システムやそのシステムによって環境にどのような影響を与えるのかについて学び、さらにエコロジー経済学の原則とその応用を通して自然環境に対する内在的価値（Intrinsic Value）についての理解を深めることができる。従って、エコロジー経済学から得た適切なツールを特定することだけでなく、環境問題や実行可能かつ持続可能な経済の達成に対処できる。

授業内容

第１回目　イントロダクション（授業の形態・授業内容・講読テキストについて）
第２回目　エコロジーと経済の哲学的基礎
第３回目　生態系成立の原理（生態系の形成、自律的循環作用、持続的ポテンシャルズ）
第４回目　「成長」vs「発展」（カール・G・ミュルダール）
第５回目　社会理論における価値（カール・G・ミュルダール）
第６回目　経済における環境思考の発展（クライブ・L・スパッシュ）
第７回目　エコロジー経済学のアプローチ（ジョン・M・ガウディ）
第８回目　エコロジー経済学における知識の進歩のための哲学的基礎クライブ・L・スパッシュ）
第９回目　宇宙船地球号（ケネス・E・ボールディング）
第10回目　熱力学、エントロピーと経済（N・ジョルジェスク＝ローゲン）
第11回目　定常状態と生態系の救済（N・ジョルジェスク＝ローゲン）
第12回目　持続可能な発展の経済学（ハーマン・E・デイリー）
第13回目　エコロジー経済学：自然を考慮する（J・マルチネス=アリエ）
第14回目　持続可能性の経済学を学ぶ（P・セーデルバウム）

履修の注意点

授業に集中し、内容を理解すること。

準備学習の内容

各回の授業内容を振り返り、関心を持ったテーマに関しては参考文献などにあたること。また、次回の授業内容について簡単に調べておくこと。

教科書

教科書は指定しない。各回の授業に次回分のテキストのコピーを配布、あるいはOh-o!Meijiで事前に公開する。

参考書

ハーマン・E・ディリー（2005）新田功、蔵本忍、大森正之訳『持続可能な発展の経済学』みすず書房。
ネラ・H・メドウズ、デニス・L・メドウズ、ヨルゲン・ランダース（2005）枝廣淳子訳『成長の限界人類の選択』ダイヤモンド社。
セーデルバウム ペーテル（2010）大森正之、小祝慶紀、野田浩二訳『持続可能性の経済学を学ぶ：経済学に多元主義を求めて』株式会社出版研。
福岡克也（1998）『エコロジー経済学－生態系の管理と再生戦略－』有斐閣
Herman E.Daly and Joshua Farley（2011）Ecological Economics: Principle and Applications, Island Press
Clive L.Spash（2009）Ecological Economics: Critical Concept in the Environment,Routledge,New York.

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中およびOh-o!Meijiシステム等を利用して実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度（出席確認を兼ねた授業毎の感想文の提出）

その他

初回に授業の進め方を説明するので、履修を考えている人は必ず出席すること。授業の進展によっては、授業の予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：(PE)ECN391J	
経済学特殊講義D【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

教授　大　森　正　之

授業の概要・到達目標

・授業のタイトル
　制度派経済学と反主流派の経済学
・授業の概要
　アメリカで19世紀末前後からヴェブレンやコモンズらにより形成された制度派経済学は、戦後、K.W.カップらにより独自の環境経済学とその基礎の独自の制度派経済学へと発展した。それは現代ではスウェーデンのP.セーデルバウム、アメリカのD.プロムリーにより継承され、発展した。我が国では都留重人および彼の研究グループに継承された。この講義ではこの流れを促進した反主流派の経済学の流れ、J.M.ケインズ、バーリとミーンズ、J.K.ガルブレイス、J.ロビンソンらの独創的な経済学の伏流をもたどる。そして、現代における制度派経済学の到達点とその環境経済学バージョンの特徴を考察する。

授業内容

1．授業の概要と成績評価についての概説
2．前制度学派の経済学（ミル、マーシャル、ピグー）
3．制度派経済学の形成（ヴェブレンの消費と企業の理論）
4．制度派環境経済論（ヴェブレンのとミュルダールのCCC理論）
5．制度派の伏流１（反主流派J.M.ケインズの所有と経営の分離論）
6．制度派の伏流２（反主流派バーリ＆ミーンズの所有と経営の分離論）
7．制度派の伏流３（反主流派J.ロビンソンの経済学の第２の危機論）
8．現代の制度派経済学１（J.K.ガルブレイスの拮抗力）
9．現代の制度派経済学２（J.K.ガルブレイスの計画課体制とテクノストラクチャー）
10．現代の制度派経済学（（J.ホジソンの仕事）
11．制度派環境経済学１（P.セーデルバウムの政治経済人と政治経済組織）
12．制度派環境経済学１（P.セーデルバウムのポジション分析：費用便益分析批判）
13．我が国の制度派環境経済学（宮本憲一と宇沢弘文）
14．授業のまとめ現代制度学派の到達点（J.ホジソンの仕事）

履修の注意点

履修上の注意
　春学期に環境経済学を履修しておくと理解が促進されますが、必ずしも前提科目ではありません。
・準備学習の内容
　授業で取り上げる経済学者のプロファイルや主要業績をウェブサイトやブログで調べておくと授業が分かりやすくなります。

準備学習の内容

授業で取り上げる経済学者のプロファイルや主要業績をウェブサイトやブログで調べておくと授業が分かりやすくなります。

教科書

なし

参考書

K.W.カップ（2014）『制度派経済学の基礎』人間の科学新社
ペーテル セーデルバウム著（2010）『持続可能性の経済学を学ぶ：経済学に多元主義を求めて』人間の科学新社
大森正之(2020)『持続可能な経済の探究』丸善出版

課題に対するフィードバックの方法

数回のリアクションペーパーについて行います。

成績評価の方法

期末レポートにより評価します。

その他

科目ナンバー：(PE)ECN391J

経済学特殊講義D【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

助教　加　藤　真　琴

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業では、『入門アメリカ経済Q＆A』坂出健・秋元英一・加藤一誠（中央経済社）2019年を参考にして、2009年以降のアメリカ経済にかんする重大トピックについて議論する。いずれも日本経済の動向を考えるうえで重要なトピックである。
【到達目標】
①授業で扱うテーマについて自分の考えをまとめ、述べることができる。
②2025年問題に直面するいま、日本経済の苦境を乗り越えるためのスキルとして授業で得た知識を活用する。

授業内容

第1回目　授業の進め方と成績評価
第2回目　サブプライム問題／リーマン・ショック
第3回目　世界金融危機
第4回目　銃乱射事件
第5回目　トランプ・ウォール／ラストベルト
第6回目　シリコンバレー／イノベーション
第7回目　IT産業／バイオ医薬品産業
第8回目　自動運転・EVへの対応
第9回目　インフレ目標政策／量的緩和
第10回目　長期停滞／政策金利水準ルール
第11回目　出口問題
第12回目　オバマケア改革／年金
第13回目　自由貿易協定／米中貿易摩擦
第14回目　全体のまとめ

履修の注意点

なし

準備学習の内容

予習：学生同士のディスカッション（30分間）、ニュースの視聴（30分間）
復習：授業で扱ったテーマについて自分の考えを整理する（60分間）

教科書

とくに定めない

参考書

『入門アメリカ経済Q＆A』坂出健・秋元英一・加藤一誠（中央経済社）2019年
『植民地から建国へ―19世紀初頭まで』和田光弘（岩波新書）2019年
『南北戦争の時代―19世紀』貴堂嘉之（岩波新書）2019年
『20世紀アメリカの夢―世紀転換期から1970年代』中野耕太郎（岩波新書）2019年
『グローバル時代のアメリカ―冷戦時代から21世紀』古矢旬（岩波新書）2020年

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う

成績評価の方法

平常点（30%）、期末レポート（70%）

その他

なし

科目ナンバー：(PE)ECN391J

経済学特殊講義D【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

兼任講師　アディネガラ，　イヴ

授業の概要・到達目標

この授業では人間社会と自然環境あるいは人間の活動から生じた環境危機に関連する問題（気候変動、資源問題、環境汚染、物質フロー）との接点を理解するために、学際的な分野であるエコロジー経済学の概念や理論を適用する。
本講義では、エコロジーと経済学の双方の知識を統合する全体論的な視点（Holistic Perspective）を採用しながら、経済システムやそのシステムによって環境にどのような影響を与えるのかについて学び、さらにエコロジー経済学の原則とその応用を通して自然環境に対する内在的価値（Intrinsic Value）についての理解を深めることができる。従って、エコロジー経済学から得た適切なツールを特定することだけでなく、環境問題や実行可能かつ持続可能な経済の達成に対処できる。

授業内容

第1回目　イントロダクション（授業の形態・授業内容・講読テキストについて）
第2回目　複雑系：“自然”、“社会”、“人間”
第3回目　人間活動を原因とする生態系の危機
第4回目　人間の行動と経済学
第5回目　環境政策の手段
第6回目　「グロバール化」vs「国際化」
第7回目　環境思想論の基本的構造
第8回目　環境論理学の定義
第9回目　倫理学説と環境
第10回目　人間中心主義の倫理学から非人間中心主義の倫理学へ
第11回目　生命中心主義の倫理学と生命の本来価値
第12回目　ディープ・エコロジー
第13回目　社会的エコロジーとエコフェミニズム
第14回目　自然の権利

履修の注意点

授業に集中し、内容を理解すること。

準備学習の内容

各回の授業内容を振り返り、関心を持ったテーマに関しては参考文献などにあたること。また、次回の授業内容について簡単に調べておくこと。

教科書

教科書は指定しない。各回の授業に次回分のテキストのコピーを配布、あるいはOh-o!Meijiで事前に公開する。

参考書

ハーマン・E・ディリー（2005）新田功、蔵本忍、大森正之訳『持続可能な発展の経済学』みすず書房。
ネラ・H・メドウズ、デニス・L・メドウズ、ヨルゲン・ランダース（2005）枝廣淳子訳『成長の限界人類の選択』ダイヤモンド社。
セーデルバウム ペーテル（2010）大森正之、小祝慶紀、野田浩二訳『持続可能性の経済学を学ぶ：経済学に多元主義を求めて』株式会社出版研。
福岡克也（1998）『エコロジー経済学－生態系の管理と再生戦略－』有斐閣
Herman E.Daly and Joshua Farley（2011）Ecological Economics: Principle and Applications, Island Press
Clive L.Spash（2009）Ecological Economics: Critical Concept in the environment,Routledge,New York.

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中およびOh-o!Meijiシステム等を利用して実施する

成績評価の方法

授業への貢献度（出席確認を兼ねた授業毎の感想文の提出）

その他

初回に授業の進め方を説明するので、履修を考えている人は必ず出席すること。授業の進展によっては、授業の予定の一部を変更する場合がある。

科目ナンバー：0

経済政策特殊講義Ｃ【2022年度以降入学者】 経済政策特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

特任教授　小　西　淳　文

授業の概要・到達目標

With the subtitle 'Trends in Development Economics and the Evolution of Aid Strategies', the course examines theories that dominated each era alongside successful and failed aid projects based on them, assessing the scope and limitations of each theory.
The goal is to enable students, having understood these historical developments and facts, to consider what kind of development and aid should be pursued in a globalized world that may become increasingly fragmented.

授業内容

Session 1: "Course Overview
"Establishment of the International Economic System (1945–) and U.S. Initiative in the Early Postwar Period"
"Japan's Early Postwar Diplomatic Strategy (Promotion of Economic Cooperation)"
Session 2: "International Trade and Economic Conditions (Around 1960)"
"GATT,"
"Movements of Asian and African Countries (1955–1963)"
"UN Activities (1957–1962) Leading to the Decision to Hold the UN Trade Conference"
"First UN Decade for Development (1961–70)"
"The Prebisch Report (1963) and Export Pessimism"
Session 3: "The First and Second UNCTAD Conferences (1964, 1968)"
"The GATT Kennedy Round"
"The Pearson Report (1969)"
"The Tinbergen Report (1969)"
Session 4: "Second United Nations Development Decade (1971–80)"
"3rd, 4th, and 5th UNCTAD Conferences (1972, 1976, 1979)"
"New International Economic Order (1977)"
"Conference on International Economic Cooperation (CIEC)" (1975–77)
"United Nations Global Negotiations (GN: 1980–)" etc.
Session 5: "Third United Nations Development Decade (1981–90)"
"Brand Commission Report (1980)"
"North-South Summit (1981)"
Session 6: "Learning from History (Summary)"
"Structuralism (late 1940s to early 1960s)"
"Trickle-down hypothesis,"
"Nulksy's theory of the vicious cycle of poverty,"
"Rostow's stages of development"
"Dependency theory (neo-Marxism)"
"World capital accumulation theory"
Session 7: "United Nations Conference on the Human Environment (1972)"
to "United Nations Conference on Environment and Development (1992)"
Session 8: "Follow-up to the United Nations Conference on Environment and Development
(environment-related treaties)"
"MDGs (2000)"
"SDGs (2015)"
Session 9: "Structural Adjustment Programs"
"Reformism"
"Human Development Report"
"Human Security"
"JICA Thematic Guidelines" & "JICA Global Agenda"
Session 10: "World Development Report 2012: Gender Equality and Development"
"JICA Thematic Guidelines" (Gender and Development)

Session 11: "World Development Report 2011: Conflict, Security, and Development"
"JICA Thematic Guidelines" (Peacebuilding)
Session 12: "World Development Report 1997: The Role of the State in Development"
Session 13: "World Development Report 2017: Governance and Law"
"World Development Report 2023: Migration, Refugees, and Society"
Session 14: "World Development Report 2020: Development in an Era of Global Value Chains"
"Summary"

履修の注意点

**For each session, I will post advance materials outlining the class content on the class website.Please read these materials beforehand and prepare any questions you may have.
Classes will proceed assuming you have read the advance materials.
During class, I will explain the content of these advance materials in detail.
Note：the timing for posting these lecture materials on the class website will be determined based on your level of engagement. Please use them for report writing and review.**

準備学習の内容

**For each session, I will post advance materials outlining the class content on the class website.Please read these materials beforehand and prepare any questions you may have.
Classes will proceed assuming you have read the advance materials.
During class, I will explain the content of these advance materials in detail.
Note：the timing for posting these lecture materials on the class website will be determined based on your level of engagement. Please use them for report writing and review.**

教科書

Nothing in particular.

参考書

In addition to the materials posted on ClassWeb, please deepen your understanding by referring to the "World Development Report" by the World Bank, "Human Development Report" by UNDP, relevant materials accessible from the JICA website, and the "Brand Committee Report."

課題に対するフィードバックの方法

**After each session, please submit your "answers to the questions and a report (approximately 2-3 A4 pages: specific format provided)."
The report theme will be announced at the end of each session.
This "answers to the questions and report" is part of your assessment, so be sure to submit it.
Feedback comments will be provided on the submitted "answers to the questions and report."
Feedback comments will also be provided on the submitted "final report."**

成績評価の方法

**1. Understanding and Analysis of Course Content (5% per session, 14 sessions total, 70% maximum)
The report topic will be announced during each session. Submit your "answers to the questions and the report (approximately 2-3 A4 pages: specific format required)" to the report submission section on the class website by 11:30 PM two days after each class date.
2. Final Report (30% of total score)
The report topic will be announced after the final class. Please organize your thoughts in a report of approximately 3-4 A4 pages (specific format required).
The submission period for the report is until 11:30 PM one week after the final class ends.
Submit to the final report submission section on the class website.
Strictly adhere to the deadline.**

その他

Nothing in particular.

科目ナンバー：0

経済政策特殊講義Ｄ【2022年度以降入学者】 経済政策特殊講義Ⅳ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

特任教授　小　西　淳　文

授業の概要・到達目標

**Understand Japan's and the international community's approaches to environmental issues and explore ways to promote growth while addressing environmental challenges.
Topics will include introducing the outcomes of projects implemented by JICA and the science, technology, and innovation technologies employed in them.**

授業内容

**Session 1: Sustainable Development – Balancing Growth and the Environment – Lecture Overview
"Tuvalu" (Building on Spring Semester Content),'Maldives'
Session 2: History of Japan's Environmental Issues and Bilateral Cooperation
"Indonesia Haze"
Session 3: United Nations Conference on the Human Environment (1972)
"Thailand Acid Rain Countermeasures"
"China Acid Rain and Yellow Sand Monitoring Network Development Plan"
Session 4: Establishing International Cooperation Systems and Japan's Support for Developing Countries
"Thailand Environmental Training and Research Center"
"China Japan-China Friendship Environmental Protection Center"
"Mexico Environmental Research and Training Center"
Session 5: United Nations Conference on Environment and Development (1992) and International Treaties
"Bhutan Himalayan Glacial Lake Outburst Floods"
Session 6: Atmosphere-Related
"Latin America and the Caribbean: Ozone Layer Protection"
Session 7: Ocean-Related, Waste Management
"Bhutan: Waste Management"
Session 8: Forest Conservation
"Brazil: Carbon Stock Assessment of the Amazon Forest Region, etc."
Session 9: Convention on Biological Diversity
"Gabon: Forest Ecosystem Conservation and Scientific Ecotourism"
Session 10: UNFCCC
"Thailand: Major Flooding of the Chao Phraya River"
Session 11: MDGs (2000), Infectious Disease Control
"Neglected Tropical Diseases"
Session 12: Johannesburg Summit (2002)
"Weather Forecasting in Eastern and Southern Africa"
"Southern Africa: Climate Change and Dipole Mode Phenomenon"
Session 13: UN Conference on Sustainable Development (Rio+20), Disaster Prevention
"Philippines: Volcano"
"Chile: Earthquake and Tsunami"
Session 14: SDGs (2016), Urban and Regional Development
"Senegal: Dakar Metropolitan Area Development"
"Asia: Development of Low-Carbon Society Scenarios"**

履修の注意点

**For each session, I will post advance materials outlining the class content on the class website.
Please read these materials beforehand and prepare any questions you may have.
Classes will proceed assuming you have read the advance materials.
During class, I will explain the content of these advance materials in detail.
Note:
the timing for posting these lecture materials on the class website will be determined based on your level of engagement. Please use them for report writing and review.**

準備学習の内容

**For each session, I will post advance materials outlining the class content on the class website.
Please read these materials beforehand and prepare any questions you may have.
Classes will proceed assuming you have read the advance materials.
During class, I will explain the content of these advance materials in detail.
Note:
the timing for posting these lecture materials on the class website will be determined based on your level of engagement. Please use them for report writing and review.**

教科書

Nothing in particular.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

**After each session, please submit your "answers to the questions and a report (approximately 2-3 A4 pages: specific format provided)."
The report theme will be announced at the end of each session.
This "answers to the questions and report" is part of your assessment, so be sure to submit it.
Feedback comments will be provided on the submitted "answers to the questions and report."
Feedback comments will also be provided on the submitted "final report."**

成績評価の方法

**1. Understanding and Analysis of Course Content (5% per session, 14 sessions total, 70% maximum)
The report topic will be announced during each session. Submit your "answers to the questions and the report (approximately 2-3 A4 pages: specific format required)" to the report submission section on the class website by 11:30 PM two days after each class date.
2. Final Report (30% of total score)
The report topic will be announced after the final class. Please organize your thoughts in a report of approximately 3-4 A4 pages (specific format required).
The submission period for the report is until 11:30 PM one week after the final class ends.
Submit to the final report submission section on the class website. Strictly adhere to the deadline.**

その他

Nothing in particular.

科目ナンバー：(PE)ARS491J

国際文化特殊講義Ｅ【2022年度以降入学者】 国際文化特殊講義Ⅴ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

准教授　ネルソン，リンジー

授業の概要・到達目標

Haunted Japan: Scary Stories in Contemporary Japanese Media
What role do scary stories play in contemporary Japan, and in Japanese media in particular? How are real-world and media spaces "haunted" by different kinds of ghosts and historical trauma? How has "horror media" evolved since the J-horror "boom" period of the late 1990s and early 2000s?
This course examines short fiction, films, TV programs, YouTube videos, and theory on the concept of "haunting" in Japan. Topics covered include Japanese Gothic short stories, Japanese horror YouTube channels, the film Dark Water, and the idea of "home" in ghost stories and Japanese horror films.
Class activities will include discussions of films and readings, viewings of short videos, lectures, group presentations, and small group discussions. Instead of a final exam, each student will choose a final project based on certain guidelines. Students will also need to read a small amount of material and respond to it online before each class.
This class is taught entirely in English.

授業内容

Schedule（may change based on class size and university calendar details）
1 Introduction to course
2 "The Holy Man of Mount Koya"（short story）
3 The Tale of Oiwa's Ghost（film）
4 Dark Water（film）
5 Fake Documentary "Q"（YouTube
6 Uketsu（YouTube + short story）
7 Quiz, Zozozo（YouTube）
8 Haunted houses and the idea of "home"（reading）
9 The Inerasable（film）
10 Movie: 残穢：住んではいけない部屋（The Inerasable）
11 Japanese urban legends 1
12 Japanese urban legends 2
13 Movie: バイロケーション（Bilocation）, semester review
14 FINAL EXAM

履修の注意点

Please note that the class is taught entirely in English. All of the movies and videos we watch will be in Japanese with English subtitles. I will occasionally show short videos in class in English without Japanese subtitles. Readings will be in English（some will also be available in Japanese）. Students should be comfortable listening to lectures and having conversations about academic subjects in English, although "perfect" fluency is not required. Historically English levels in this class have varied a lot: some people are native English speakers, some are very fluent, and some are taking an all-English class for the first time.

準備学習の内容

Students must attend the first class.
Note: attendance is important! Four or more absences will result in a failing grade. Please come to class on time.
However, please DON'T come to class if you are sick! Your health and the health of your classmates are more important than grades. If you need to be absent many times because of illness, please contact me. We can decide on a solution together.

教科書

特に使用しない。Oh-o! Meijiからダウンロードする。
No textbook. Reading materials will be distributed in class or downloaded via the Oh-o! Meiji system.

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

I will mark your quizzes, final exam, and presentations. I will also give written feedback on your quizzes, final exam, weekly responses, and on occasional in-class writing responses.

成績評価の方法

Participation in class activities and discussions: 30%
Quiz: 10%
Presentation: 10%
Weekly responses: 20%
Final exam: 30%

その他

If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com.

科目ナンバー：(PE)ARS491J

国際文化特殊講義Ｆ【2022年度以降入学者】 国際文化特殊講義Ⅵ【2021年度以前入学者】	2単位 3年次

准教授　ヨーク　ジェームズ

授業の概要・到達目標

Course Objective:
This course delves into the captivating world of video games, exploring their evolution from primitive beginnings to their dominant position in modern culture. Through play, analysis, and discussion, we'll build game literacy, refine academic English skills, and critically analyze the social, cultural, and economic impact of games.
* To improve students' game literacy. To be able to play, understand, and discuss various aspects of different game genres.
* Improve academic English skills through close reading and discussion of critical texts related to the history of gaming
* To understand the social, cultural, and economic impact of games in modern society.

授業内容

Week 1：Pixels Take Flight: From Pong to Pathfinders（Introduction to Videogame History）
Week 2：Arcade Adrenaline: Golden Age of Pixelated Heroes
Week 3：Homeward Bound: Consoles and PCs Ignite the Home Front
Week 4：Crash Course: Navigating the Video Game Revolution
Week 5：Midterm Presentation: Your Story in the Sandbox
Week 6：Dimensional Doors: Embracing the 3D Revolution
Week 7：Global Connections: Online Gaming and MMOs
Week 8：Pocket Powerhouses: Mobile Games Redefine Play
Week 9：Exploring the Grey Areas: Ethical Dilemmas and Societal Impacts
Week 10：Midterm Presentation 2: The current state of games
Week 11：Competitive Arenas: The Business and Culture of eSports
Week 12：Gamification Unchained: How Game Mechanics Shape the Real World
Week 13：Learning Through Play: Unleashing the Educational Power of Games
Week 14：Grand Finale: It's your turn. What do games mean to you?

履修の注意点

The class will be conducted in English.

準備学習の内容

None. However, it may be helpful to review a few of the articles or videos from the references list.

教科書

None. Materials will be provided via Oh-o! Meiji.

参考書

Texts
* Ludic Century Manifesto（Zimmerman）https://kotaku.com/manifesto-the-21st-century-will-be-defined-by-games-1275355204
* Video Game Historyhttps://www.history.com/topics/inventions/history-of-video-games
* Another "video games history" pagehttps:// www.gamedesigning.org/gaming/history/

Videos:
* Indie Game: The Movie（2012）- IMDbhttps:// www.imdb.com/ title/tt1942884/
* The King of Kong: A Fistful of Quarters（2007）- IMDbhttps:// www.imdb.com/title/tt0923752/
* High Score（Netflix）https://www.netflix.com/jp/title/81019087
* Penny Arcade Extra Credits: https:// youtube.com/ playlist?list=PLgN0L7R93M85hbf8Nh6jROV0Exejy5xtf&si=yrwhpLOnnWRM-k47

課題に対するフィードバックの方法

In class discussions

成績評価の方法

* Presentation quality
* Attendance and participation

その他

科目ナンバー：(PE)INS315J	
社会実習	2単位
	1年次
教授　大　森　正　之	

授業の概要・到達目標
学部が認定する機関で、ボランティア制度を利用し、在学中にボランティア体験を行う。公共部門、民間部門、NPO など、ボランティア活動に参加することによって、視野を広めてもらいたい。

授業内容
公共部門、民間部門、NPO など、ボランティア活動に一定期間参加すること。

履修の注意点
ガイダンスに出席し、「社会実習（ボランティア活動）単位認定制度の概要」について説明を受ける事。

準備学習の内容
社会実習先の団体・企業のウェブサイトなどを熟読し、準備すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法
ボランティア受入機関からの認定書類及び活動報告書に基づくフィードバックを行う。

成績評価の方法
所定の手続きにより単位を認定する。成績は、合格・不合格のどちらかである。
【認定条件】
活動時間合計80 時間以上で認定する。
①ボランティア受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること。
②ボランティア活動報告書を提出すること。
その他

その他
社会実習の２は、履修登録時に「卒業に必要な単位数」に含めることはできない。したがって、履修制限単位数には含めずに「卒業単位外」として履修することができる。
なお、１～３年次に修得した単位を「卒業に必要な単位数」に含めることを希望する場合は、単位を修得した次年度の履修登録期間に所定の届出用紙にて申請すれば、「その他の応用科目」として単位認定される。（この場合、新規履修単位として扱わない。）

科目ナンバー：(PE)INS315J	
社会実習	2単位
	1年次
教授　大　森　正　之	

授業の概要・到達目標
学部が認定する機関で、ボランティア制度を利用し、在学中にボランティア体験を行う。公共部門、民間部門、NPO など、ボランティア活動に参加することによって、視野を広めてもらいたい。

授業内容
公共部門、民間部門、NPO など、ボランティア活動に一定期間参加すること。

履修の注意点
ガイダンスに出席し、「社会実習（ボランティア活動）単位認定制度の概要」について説明を受ける事。

準備学習の内容
社会実習先の団体・企業のウェブサイトなどを熟読し、準備すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法
ボランティア受入機関からの認定書類及び活動報告書に基づくフィードバックを行う。

成績評価の方法
所定の手続きにより単位を認定する。成績は、合格・不合格のどちらかである。
【認定条件】
活動時間合計80 時間以上で認定する。
①ボランティア受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること。
②ボランティア活動報告書を提出すること。
その他

その他
社会実習の２は、履修登録時に「卒業に必要な単位数」に含めることはできない。したがって、履修制限単位数には含めずに「卒業単位外」として履修することができる。
なお、１～３年次に修得した単位を「卒業に必要な単位数」に含めることを希望する場合は、単位を修得した次年度の履修登録期間に所定の届出用紙にて申請すれば、「その他の応用科目」として単位認定される。（この場合、新規履修単位として扱わない。）

トップスクールセミナー

科目ナンバー：(PE)ARS291E

Top School Seminar（International Cultures）A【和泉・春前期】

2単位

客員准教授　ARMSTRONG−HOUGH, MARI JEAN

授業の概要・到達目標

What is global public health, and why should rich countries invest in it? In this course, we will survey the history of global public health and its key concepts. Course content will focus on understanding the major causes of early mortality in the world, and how these causes have changed over the past 100 years. Course lectures will focus on understanding why achieving global health goals has largely depended on political and economic developments rather than merely technological innovation.

授業内容

Lecture 1：The parable of public health
Lecture 2：Introduction to the history of global public health in the 20th century
Lecture 3：The eradication of smallpox
Lecture 4：Efforts to eradicate malaria
Lecture 5：Introduction to the history of HIV
Lecture 6：Introduction to the history of tuberculosis
Lecture 7：Child and maternal health
Lecture 8：Environmental health
Lecture 9：Poverty and non-communicable diseases
Lecture 10：Emerging infections from Ebola to COVID
Lecture 11：Implementation science
Lecture 12：Implementation science
Lecture 13：What next?（Workshop）
Lecture 14：What next?（Student presentations）

履修の注意点

This course consists of both lecture and discussion. Please come prepared to comment on readings.

準備学習の内容

There are no prerequisites for this course.

教科書

Every lecture has one reading or video viewing assignment. Reading assignments will include selected chapters from the textbook *Global Health 101 4th edition*（digital ebook）, articles from global health publications, and chapters from books by Paul Farmer.

参考書

Most readings will be provided as PDFs through course website. Readings from *Global Health 101* are available in a digital edition. The professor will assist students to access all readings on the first day of class.

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive refresher quiz results immediately. Feedback on the Implementation Memo will be provided via comments and suggestions on Google Docs. Feedback on the Final Group Presentation will be provided by instructor via a grading rubric and by classmates via a survey tool.

成績評価の方法

35% – Participation（7 meetings, 5 points each）
15% – Refresher Quizzes（Meetings 2, 3, 4, 5, and 6; 3 points each）
20% – Implementation Memo（20 points）
30% – Final Group Presentation（30 points）

その他

科目ナンバー：(PE)ARS291E

Top School Seminar（International Cultures）B【和泉・春前期】

2単位

客員准教授　ARMSTRONG−HOUGH, MARI JEAN

授業の概要・到達目標

What is global public health, and why should rich countries invest in it? In this course, we will survey the history of global public health and its key concepts. Course content will focus on understanding the major causes of early mortality in the world, and how these causes have changed over the past 100 years. Course lectures will focus on understanding why achieving global health goals has largely depended on political and economic developments rather than merely technological innovation.

授業内容

Lecture 1：The parable of public health
Lecture 2：Introduction to the history of global public health in the 20th century
Lecture 3：The eradication of smallpox
Lecture 4：Efforts to eradicate malaria
Lecture 5：Introduction to the history of HIV
Lecture 6：Introduction to the history of tuberculosis
Lecture 7：Child and maternal health
Lecture 8：Environmental health
Lecture 9：Poverty and non-communicable diseases
Lecture 10：Emerging infections from Ebola to COVID
Lecture 11：Implementation science
Lecture 12：Implementation science
Lecture 13：What next?（Workshop）
Lecture 14：What next?（Student presentations）

履修の注意点

This course consists of both lecture and discussion. Please come prepared to comment on readings.

準備学習の内容

There are no prerequisites for this course.

教科書

Every lecture has one reading or video viewing assignment. Reading assignments will include selected chapters from the textbook *Global Health 101 4th edition*（digital ebook）, articles from global health publications, and chapters from books by Paul Farmer.

参考書

Most readings will be provided as PDFs through course website. Readings from *Global Health 101* are available in a digital edition. The professor will assist students to access all readings on the first day of class.

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive refresher quiz results immediately. Feedback on the Implementation Memo will be provided via comments and suggestions on Google Docs. Feedback on the Final Group Presentation will be provided by instructor via a grading rubric and by classmates via a survey tool.

成績評価の方法

35% – Participation（7 meetings, 5 points each）
15% – Refresher Quizzes（Meetings 2, 3, 4, 5, and 6; 3 points each）
20% – Implementation Memo（20 points）
30% – Final Group Presentation（30 points）

その他

科目ナンバー：(PE)ECN491E

Top School Seminar（Economics）D【駿河台・秋前期】

2単位

客員教授　STURN RICHARD

授業の概要・到達目標

Title: Schumpeterian Economics

Contents: This course will offer an introduction into major topics, problems, specificities and backgrounds of Schumpeterian economics, i.e., economic development, change, and innovation While the presentation will be in general non-technical, it will include some key ingredients in terms of elementary methods and modeling strategies. Moreover, the way in which Schumpeter combines elements from different currents of economics become transparent. On the basis of the material presented in this course, students will be able to discuss and analyze current and past problems of capitalist development in a co-evolutionary Schumpeterian perspective.

授業内容

Lecture 1：Basic tenets, specificities, and backgrounds of Austrian/Schumpeterian Economics
Lecture 2：Equilibrium economics and evolutionary economics
Lecture 3：The entrepreneur vs. the economic system
Lecture 4：Railroadization. Schumpeter's standard example
Lecture 5：Towards a general Theory of Social Evolution
Lecture 6：Schumpeterian Models
Lecture 7：The Basic Functioning of the Capitalist Engine
Lecture 8：The Complex Functioning of the Capitalist Engine
Lecture 9：Economic History of Capitalist Evolution
Lecture 10：Transformation of the Capitalist Mechanism of Change
Lecture 11：Long term social evolution
Lecture 12：The co-evolution and co-development of societal sectors revisited
Lecture 13：Co-evolutionary developments in the wake of the "Neo-mercantilist" Kondratieff
Lecture 14：Current problems of geoeconomics: a Schumpeterian perspective

履修の注意点

While the presentation will be mainly non-technical, a basic understanding of neoclassical economics and the purpose of models in economics is useful.

準備学習の内容

Reading chapters 1-3 of the assigned textbook is useful.

教科書

Joseph A. Schumpeter: A Theory of Social and Economic Evolution（Great Thinkers in Economics）. Palgrave Macmillan 2011.

参考書

n/a

課題に対するフィードバックの方法

The professor will share the feedback in the next class.

成績評価の方法

The written examination accounts for 100% of the evaluation.
（One written exam will be in the 6th session, the other one in the 12th session.）

その他

科目ナンバー：(PE)POL491E

Top School Seminar（Politics）D【駿河台・秋後期】

2単位

客員教授　WALTON DAVID JOSEPH

授業の概要・到達目標

Title: Australia and Japan – 'A special relationship?'

Contents: The term 'special relationship' is often used in polite diplomatic speak when describing relations between two countries. This course will critically examine the post-war relationship between Australia and Japan. Is it a special relationship? We will explore the role of key individuals (agency) and examine the impact of economic and security ties at the bilateral and regional level. There will also be an opportunity to consider the historical and cultural elements of the relationship and to critically examine the concept of a 'special relationship'. The course will involve lectures and fascinating case study material in our workshops.

The course objectives are to:

1. Provide an overview of the Australia-Japan relationship
2. Identify factors (both domestic and international) that have shaped Australia's post-war and contemporary relationship with Japan.
3. Examine the Australia-Japan relationship in a bilateral and regional context

授業内容

Lecture 1：The contemporary relationship: an overview
Lecture 2：Case study material
Lecture 3：Key individuals: making a difference
Lecture 4：Case study material
Lecture 5：Historical issues: 'the facts don't lie'
Lecture 6：Case study material
Lecture 7：The economic agenda: the 'driver' of close ties
Lecture 8：Case study material and Mid term exam
Lecture 9：Security ties: new horizons
Lecture 10：Case study material
Lecture 11：Regional diplomacy: 'It is not all about China'
Lecture 12：Case study material
Lecture 13：Re-imagining the relationship: What's next?
Lecture 14：Case study material and Final exam

履修の注意点

Students of all levels of English are welcome. Classes will be conducted in English; both exams will be in English.

準備学習の内容

Please complete assigned readings before each class

教科書

No textbook required. There is a course reader.

参考書

Please bring the course reader and an English dictionary to each class

課題に対するフィードバックの方法

Written feedback will be provided on exam papers.

成績評価の方法

Class attendance/participation = 20%
Mid semester exam = 30%
End of semester exam = 50%

その他

科目ナンバー：(PE)POL491E

Top School Seminar（Politics）C【駿河台・春後期】

2単位

客員准教授　BELLIGOI Geoffrey Vito

授業の概要・到達目標

Title: Geo-Politics

Geopolitics seems to be fluid, a mixture of friends, enemies, and alliances.　Although it may seem intangible, it does have significant impacts on our economics and politics.

In this course, we will seek to deepen our understanding of Geopolitics and its effects on our lives. We will take an imaginative approach: we analyse the different alliances there are in the world. We will also seek to understand these historical alliances as they impact on Japan today.

The course objectives are:

1. a heightened awareness of the meaning and interpretations of Geopolitics.
2. a better understanding of the impact of geopolitical changes in the world order, both before and after Trump, and Japan's position in this geopolitical world.

Contents: In this course, we will seek to deepen our understanding of world economic and political history. We will take an imaginative approach: we will analyse and critique geopolitical groups to see why they exist and what makes the members identify with these blocs. We will also seek to understand these geopolitical issues as they impact on Japan today.

授業内容

Lecture 1：Block 1 / Introduction Lecture on theory
Lecture 2：Seminar: examples of Geo-political Blocs
Lecture 3：Workshop/case study: practical analysis of Geo-political Blocs
Lecture 4：Block 2 / Lecture. UN session Summer 2025 – Changes to the World Order
Lecture 5：Seminar: Consequence of the Change to the World Order.
Lecture 6：Case Study: Who is who's friend, and why?
Lecture 7：Exam on theory and practice introduced in the first two blocks of classes and feedback session
Lecture 8：Block 3 / Lecture. Asia Pacific, Us and Chins
Lecture 9：Seminar: Consequences of Donal Trump and China.
Lecture 10：Workshop: Alliances in the Pacific Rim
Lecture 11：Block 4 / Japan, China Taiwan and Koreas
Lecture 12：Seminar: What will be the outcome of China and Taiwan. What is Japan's role?
Lecture 13：Case Study: What are Japan's options and role in the area?
Lecture 14：Exam on material from the four blocks and feedback session

履修の注意点

The course will be a mixture of lectures, group work and discussions. We will work at the level of the students' language skills and knowledge

準備学習の内容

Read on events in the Pacific Rim and be aware of different alliances in the world.
I will email certain readings to be read before the class

教科書

To be explained in the first lecture

参考書

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will participate in class discussions, as well as mark and provide written feedback on student reflection journals, reaction papers, and presentations.

成績評価の方法

There will be two written exams to analyse the content of the different blocks in the course. The important thing is to show that you have been listening and have thought about the content.

i. Class attendance/participation = 20%
ii. Midsemester Exam = 30%
iii. Final exam = 50%

その他

科目ナンバー：(PE)POL491E

Top School Seminar（Politics）D【駿河台・秋後期】

2単位

客員講師　TRAPANI JAMES JOSEPH

授業の概要・到達目標

Title: The International Relations of the Middle East

Contents: This subject offers a historical study of the international relations of the Middle East from 1945 to the present. It examines the relations of Middle Eastern states to global structures of power; the pattern of relations between regional states; the causes of regional wars and international co-operation; the impact of domestic factors on the foreign policy of states; the importance of oil to international politics and the global economy; and the role of ideologies and non-state forces in international relations and between states in the Middle East.

授業内容

Lecture 1：The Middle East in the Western Imagination
Lecture 2：The impact of European Colonialism
Lecture 3：The creation of the States of the Middle East
Lecture 4：The formation of the State of Israel
Lecture 5：Arab Nationalism, Socialism and Ba'athism
Lecture 6：Oil in the Middle East Economy
Lecture 7：Political "Terror"
Lecture 8：The United States in the Middle East
Lecture 9：The USSR / Russia in the Middle East
Lecture 10：The foreign relations of Iran
Lecture 11：The foreign relations of Saudi Arabia
Lecture 12：The foreign relations of Turkey
Lecture 13：The Middle East since October 7, 2023
Lecture 14：Presentations and Unit Conclusions

履修の注意点

Students of all levels of English are welcome. Classes will be conducted in English; all evaluations will be in English.

準備学習の内容

Please complete assigned readings before each class.

教科書

There is a course reader.

参考書

Please bring the course reader and an English dictionary to each class.

課題に対するフィードバックの方法

The instructor will participate in class discussions, as well as mark and provide written feedback on student portfolios of work and presentations.

成績評価の方法

i. Class contribution = 20%
ii. Presentation = 30%
iii. Portfolio of work = 50%

その他

科目ナンバー：(PE)POL211E

Top School Seminar（Politics）B【和泉・秋後期】

2単位

客員教授　MAUCH PETER

授業の概要・到達目標

Title:　Political Leadership in Modern Japan

Contents:　In this course, we will examine how political authority has been exercised, contested, and transformed from the Meiji Restoration to the present. The course explores key political leaders — prime ministers, oligarchs, party bosses, military figures, and bureaucratic elites — to understand how individuals shaped Japanese political institutions and how institutions, in turn, shaped political behaviour. Students will analyze leadership styles, decision-making cultures, factional dynamics, political communication, civil–military relations, and the constraints posed by constitutional structures. Using case studies from Ito Hirobumi and Hara Kei to Nakasone Yasuhiro, Koizumi Jun'ichirō, and Abe Shinzō, the course highlights broader theoretical questions: What makes leaders effective? How do leaders emerge in systems dominated by parties, bureaucracies, or militaries? And how does Japan's experience illuminate patterns in parliamentary democracies more broadly?

授業内容

Lecture 1：What is political leadership?
Lecture 2：The Meiji oligarchs
Lecture 3：The emergence of party politics
Lecture 4：Taishō Democracy and the limits of liberal leadership
Lecture 5：Militarist Leadership
Lecture 6：Hirohito and Imperial Leadership
Lecture 7：Yoshida Shigeru sets Japan's postwar course
Lecture 8：Bureaucratic leadership and the 1955 system
Lecture 9：Nakasone Yasuhiro: the strong leader
Lecture 10：Koizumi Junichiro and political change
Lecture 11：Abe Shinzo and the consolidation of leadership
Lecture 12：Takaichi Sanae: female leadership in Japan
Lecture 13：Leadership: future directions
Lecture 14：Final exam and review session

履修の注意点

準備学習の内容

No prior knowledge of Japanese history or politics is necessary

教科書

No textbook

参考書

Assigned readings will be posted to Oh! O Meiji

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive written feedback on their submissions.

成績評価の方法

Assessment items:
1. Class attendance/participation 15%
2. Oral presentation 35%
3. Final exam 50%

その他